

西張平遺跡

－夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告－

(遺構編)

2006年3月

青森県教育委員会



平成16年度 調査区空中写真 東から



調査区全景（平成16年度・17年度合成）

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴い、三戸郡五戸町(旧倉石村)に所在する西張平遺跡の発掘調査を平成15年度から17年度にかけての3カ年にわたって実施しました。

調査では、縄文時代前期から中期にかけての竪穴住居跡や土坑などの遺構が数多く検出され、遺物包含層(捨て場)からは多量の土器や石器が出土しました。

また、人骨が出土した3基の土坑墓は、それぞれの時期に違いがみられますが、縄文時代前期から中期にかけての葬制を研究する上で、貴重な資料となるものと思われます。

本報告書は、検出遺構を中心にまとめたもので、出土遺物については平成18年度に刊行する予定です。

この成果が今後の青森県の文化財の保護と研究等に広く活用され、地域社会の歴史教育等に利用されることを期待します。

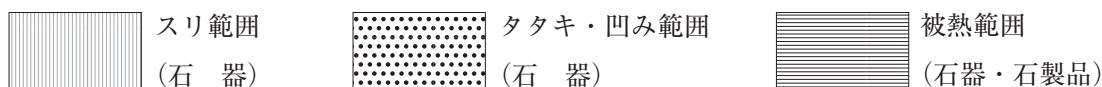
最後に、発掘調査の実施及び報告書の作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました多くの方々に対しまして深く感謝の意を表します。

平成18年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所 長 白 鳥 隆 昭

例 言

- 1 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴い、平成15年度に遺跡範囲確認のための試掘調査、平成16年度と平成17年度に発掘調査を実施した五戸町（旧倉石村）西張平遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 西張平遺跡の所在地は、三戸郡五戸町大字倉石又重字西張平地内、青森県遺跡番号は66002である。
- 3 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。なお、執筆者名は依頼原稿については文頭に、その他は必要に応じて文末に付した。
- 4 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、遺物写真の縮尺は統一していない。
- 5 土層等の色調観察には農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖（小山正忠・竹原秀雄編 2003年版）』を使用した。
- 6 出土遺物の鑑定及び同定、分析については、次の方々に依頼した（順不同・敬称略）
石質の鑑定 青森県立八戸中央高等学校教諭 佐々木 辰雄
放射性炭素年代測定（AMS法） （株）地球科学研究所
（株）パレオ・ラボ
- 7 図中で用いたスクリーントーンは、以下のとおりである。



- 8 遺物の写真撮影は、シルバーフォト（青森市）に委託した。
- 9 調査区の空中写真は、ラジヘリを用いたもので株式会社シン技術コンサル（盛岡市）に委託した。
- 10 調査区内の基準点測量は、株式会社第一測量設計（八戸市）に委託した。
- 11 本書に掲載した地図は、国土地理院刊行の5万分の1の地形図（十和田・田子・八戸・三戸）を複写して使用した。
- 12 引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。
- 13 調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 14 発掘調査及び本報告書作成にあたり、次の機関並びに諸氏から御教示、御指導を受けた。
（アイウエオ順、敬称略）

五戸町（旧倉石村）教育委員会、青森県立郷土館、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、北上市立埋蔵文化財センター

稲野 裕介、泉 拓良、一町田 工、井上 雅孝、小野 貴之、小保内 一典、小笠原 諭、葛西 勲、佐藤 智雄、佐野 忠史、城田 安幸、杉村 しをり、高橋 潤、田中 寿明、長尾 正義、成田 和世、成田 誠治、福田 友之、古屋敷 則雄、星 雅之、宮坂 朋、村本 恵一郎、柳沢 一範

目次

序	
例言	
目次	
第1章 調査の概要	
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査要項	2
第3節 調査方法と整理方法	3
第4節 調査経過	6
第2章 遺跡の位置と周辺の地形・地質	
第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡	9
第2節 遺跡周辺の地形と地質	12
第3章 検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構	16
1 竪穴住居跡	16
2 土坑	130
3 土器埋設遺構	196
4 ピット群	236
5 集石遺構	252
6 礫群	252
7 島跡	252
第2節 出土遺物	260
第4章 まとめ	
まとめ	262
引用・参考文献	264
写真図版(遺構)	265
報告書抄録	338

第1章 調査の概要

第1節 調査に至るまでの経過

青森県教育庁文化財保護課では、埋蔵文化財包蔵地に係る事業計画の照会を毎年度実施しているが、平成13年度の照会に対する青森県農林水産部農村整備課からの回答の中に、同課が倉石村(現五戸町)に計画している夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業が載せられた。このため、平成13年6月と10月に、農村整備課、倉石村教育委員会、文化財保護課の3者が、当該事業予定地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、埋蔵文化財の調査については、基本的に倉石村教育委員会が対応することになった。しかし、平成14年度に倉石村教育委員会が事業予定地内の分布調査等を行った結果、縄文時代前・中期の西張平遺跡については、調査対象面積も広く、遺構・遺物が相当量出土することが想定されたため、西張平遺跡の調査は青森県教育委員会が対応することとし、平成15年度に青森県埋蔵文化財調査センターが担当して発掘調査を実施することになった。

そこで、平成14年9月に、農村整備課、三戸地方農林水産事務所、倉石村教育委員会、倉石村産業課、文化財保護課、埋蔵文化財調査センターが現地で打合せを行い、夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業の進捗状況や用地買収等の見通し、平成15年度西張平遺跡発掘調査の調査時期、調査方法等について協議・確認した。また、同年12月には、文化財保護課と埋蔵文化財調査センターが、用地買収の進捗状況に基づいて発掘調査の具体的な打合せを行った。なお、西張平遺跡に係る土木工事等のための発掘に関する届出は、平成15年7月に三戸地方農林水産事務所長名で提出され、同年8月に文化財保護課から当該発掘前における埋蔵文化財の記録作成を目的とする発掘調査の実施が指示された。

(工藤 大)



第2節 調査要項

1 調査目的

夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業の実施に先立ち、当該地区に所在する西張平遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

2 発掘調査期間

(平成15年度) 平成15年9月2日から同年10月23日まで

(平成16年度) 平成16年4月20日から同年10月29日まで

(平成17年度) 平成17年4月19日から同年8月12日まで

3 遺跡名及び所在地

西張平遺跡(青森県遺跡番号66002)

三戸郡五戸町大字倉石又重字西張平91 外

4 調査面積

(平成15年度) 約570平方メートル

(平成16年度) 約750平方メートル

(平成17年度) 約800平方メートル

5 調査委託者

青森県農林水産部農村整備課

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査体制

調査指導員	藤 沼 邦 彦	国立大学法人 弘前大学人文学部教授(考古学) (平成15～17年度)
〃	村 上 隆	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 藤原宮調査部主任研究官(分析科学) (平成17年度)
〃	島 口 天	青森県立郷土館学芸主査(地質学) (平成15～17年度)

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

(平成15年度)

所 長	佐 藤 良 治 (現 青森県立図書館長)
次 長	福 田 友 之 (現 青森県立郷土館副館長)
総務課長	工 藤 和 夫 (現 青森県商工労働部資源エネルギー課副参事)
調査第三課長	工 藤 大

文化財保護主幹	中 嶋 友 文
文化財保護主事	岡 本 洋
調 査 補 助 員	天 内 敬 子・工 藤 百 恵・若 山 誠 治・斎 藤 俊 一 郎

(平成16年度)

所 長	佐 藤 良 治 (現 青 森 県 立 図 書 館 長)
次 長	福 田 友 之 (現 青 森 県 立 郷 土 館 副 館 長)
総務G L	工 藤 和 夫 (現 青 森 県 商 工 労 働 部 資 源 エ ネ ル ギ ー 課 副 参 事)
総括主幹	工 藤 大
文化財保護主幹	中 嶋 友 文
文化財保護主事	岩 田 安 之
調 査 補 助 員	工 藤 豪・中 野 透・田 中 綾・小 幡 育 恵

(平成17年度)

所 長	白 鳥 隆 昭
次 長	三 浦 圭 介
総務G L (総括副参事)	櫻 庭 孝 雄
調査第二G L	工 藤 大
文化財保護主幹	中 嶋 友 文
文化財保護主事	岩 田 安 之
調 査 補 助 員	工 藤 豪・中 野 透・小 幡 育 恵・西 本 結 美 (中嶋 友文)

第3節 調査方法と整理方法

調査方法

(平成15年度)

平成15年度は、発掘調査を効率的に進めるために調査対象区域の堆積層の厚さ及び遺構・遺物の広がりなどの確認作業を主体としたため、グリッド設定は行わず、周辺の農作業に影響しない部分について、適時トレンチを設定した。標準原点は付近に設置されているKBM.1(H=140.020m)を与点として調査区内に移動し、ベンチマークとして数カ所設置した。

調査は工事用地籍図に基づきアルファベット順(A区～)に区分し、その区域内でのトレンチに番号(01～)を付けた。調査は人力を主体とし、遺構等の確認が終了しだい順次埋め戻しを行った。

遺構番号は、その種類に応じて仮の表記と番号を付した。竪穴住居跡(含竪穴遺構)=S I、土坑=S K、焼土遺構=S N等であるが、精査していないため遺構かどうか判断できない風倒木痕などの落ち込みも番号を付けた。

遺物の取り上げは、トレンチごとに層単位で行った。土層の注記は、『標準土色帖』を基準とした。

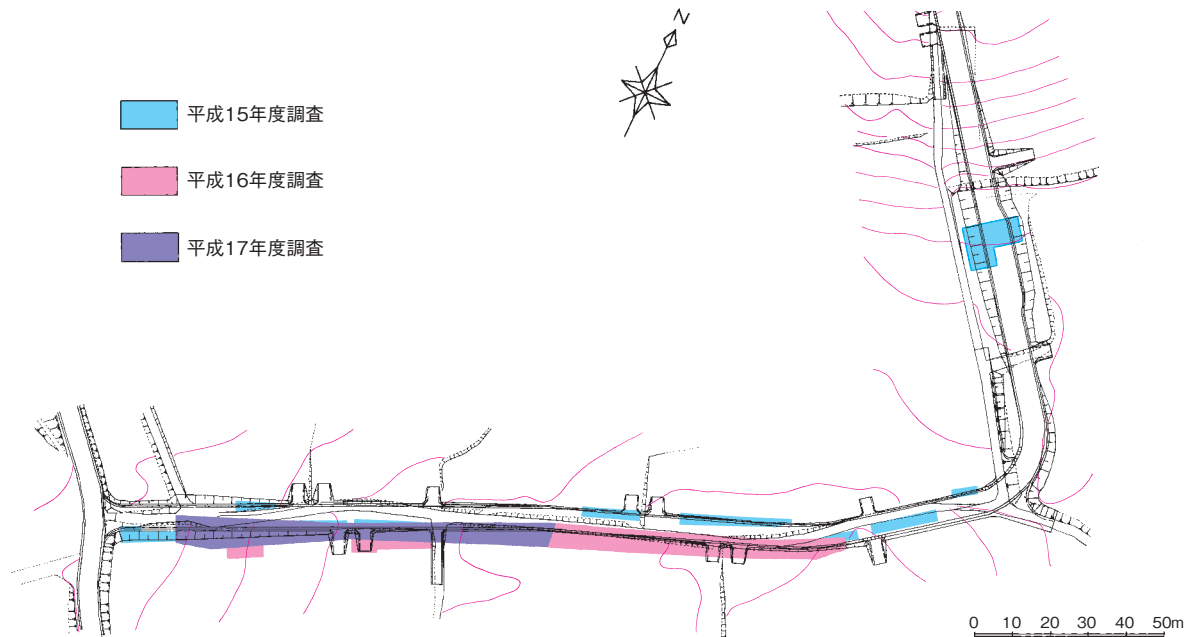


図1 調査対象区域図

写真の撮影にあたっては、35mmのモノクローム、カラーリバーサルの各フィルムを使用し、カラーネガフィルムやインスタントカメラも必要に応じて併用した。

(平成16年度・平成17年度)

平成16年度は、平成15年度の調査結果を基礎資料として発掘調査を行った。グリッド設定は、測量業者に委託して、倉石地区中山間地域総合整備事業で設置した2級基準点(No.24)から、公共座標軸に合わせて基準杭を27点打設した。標準原点は昨年度と同様にKBM.1(H=140.020m)を与点として調査区内に数カ所設置した。

調査は基準杭を基点としたグリッド法を用い4m四方のグリッドを設定した。グリッドは東西方向にアルファベット、南北方向に数字を付し、その呼称は南西隅の杭番号を使用している。調査は人力を主体としたが、表土の除去や遺構・遺物に支障のない部分の掘り下げには重機を使用した。また、現道(農道)通行禁止等はできないため、付近の畑地等を借上げ仮設道路を設けながら調査した。

遺構番号は、昨年度付した仮の表記と番号を基本とし、新たな遺構は順次続き番号を付けた。精査の結果、遺構と判断できない風倒木痕などの落ち込みは、精査から除外し欠番とした。

遺構の精査は、原則として住居跡は四分法で、その他は二分法で行うこととしたが、遺構によっては、必要に応じて適宜セクションベルトを設けた。

実測は、簡易遣り方測量とトータルステーションを併用し、縮尺は20分の1を原則としたが、必要に応じて10分の1で作図した。土層の注記は、『標準土色帖』を基準とした。

写真の撮影にあたっては、35mmのモノクローム、カラーリバーサルの各フィルムを使用し、カラーネガフィルムやデジタルカメラも必要に応じて併用した。

平成17年度は、平成16年度で終了できなかった南西部分を仮設道路を設けながら発掘調査した。調査方法等は前年度と同様であるが、一部掘込みが深く現道(農道)直下に遺構が存在するSI-11の掘り下げには、埋土が崩落する危険があるため、業者委託して約5mの鋼矢板の打ち込み後調査を行なった。

整理方法

(平成15年度)

平成15年度は、調査終了後、当センターにて出土した土器と石器を水洗い→乾燥→注記作業後、仮置き場にて一時保管した。

(平成16年度)

平成16年度、包含層(捨て場)から多量の遺物が出土し、段ボール100箱単位でセンターに3回搬出し、その都度、水洗い→乾燥→注記作業を行い、復元個体の接合に努めた。発掘調査終了後、残りの土器を水洗い→乾燥→注記し、昨年度一時保管した土器を含めて接合作業を行った。その結果、復元個体が500個体を超えるため、担当者間で検討した結果、土器の実測委託をすることとし、包含層(捨て場)及び遺構内出土土器を中心に復元実測が可能な個体の接合に努めた。石器は水洗い→乾燥→注記(剥片を除く)作業終了後、使用痕の有無により選択した。

また、調査が次年度に及ぶことが確定した時点で、報告書を2カ年に分けて刊行し、平成18年3月に平成17年度に調査した遺構も含めた『遺構編』、平成19年3月に『遺物編』とすることになったため、遺物の選別等は遺構内優先とした。平成16年12月に200点の土器を業者に実測委託した。

(平成17年度)

引き続き包含層(捨て場)及び遺構内出土土器の接合を実施した。調査区の盛り土部分からも包含層ほどではないが遺物が出土し、調査中に120箱をセンターに搬出し、水洗い→乾燥→注記後復元個体の接合を行った。復元個体の増加に伴い平成17年8月に120点、12月に100点、1月に30点の合計250点の土器を実測委託するとともに、平成17年9月に210点、12月に181点、1月に62点の合計453点の石器を実測委託した。併行して遺構内出土の遺物を選別し、実測、拓本、写真等の作業を行った。

(平成18年度)

平成19年3月刊行予定の『遺物編』に掲載する遺物の実測等を行う予定である。(中嶋 友文)



第4節 調査経過

(平成15年度)

- 9月2日 現場開始、調査区内に設置されてある幅杭等を確認するため、全員で草刈りを行った。
午後に、発掘調査器材を収納し、事務所と休憩所等の整備を行った。また、トレンチの設定、ベンチ・マークの確認も併行して行った。
- 9月4日 H区トレンチの粗掘を開始する。
- 9月5日 B区トレンチの粗掘を開始する。
- 9月9日 D区・P区トレンチの粗掘を開始する。
- 9月16日 F区・R区トレンチの粗掘を開始する。
- 9月17日 S区トレンチの粗掘を開始する。
- 9月18日 E区・T区トレンチの粗掘を開始する。
- 9月24日 B区・D区・P区トレンチの埋戻しをする。
- 9月25日 E区・F区・T区トレンチの埋戻しをする。
- 10月7日 A区・C区トレンチの粗掘を開始する。
- 10月8日 R区トレンチより遺物包含層が確認される。
- 10月9日 村越、藤沼、市川調査指導員が発掘調査の現地指導に来られる。
- 10月15日 H区トレンチの埋め戻しを重機を使用して行う。
- 10月17日 A区・C区・S区トレンチの埋戻しをする。
- 10月21日 R区トレンチの遺物を保護し、埋戻しをする。
- 10月22日 発掘調査器材を越冬プレハブに収納し、出土遺物と調査器材の一部をセンターに搬出して調査を終了する。

(平成16年度)

- 4月7日 現場周辺で排土置き場や仮設道路として借用する土地の賃貸借契約を締結する。
- 4月19日 農道部分の下部の発掘調査に先立ち、農道に沿って付替道路工事が開始される。調査行程の理由から東西を分割して調査することとし、まず、排土場所の関係から東側を優先して行うこととした。
- 4月20日 調査開始日、越冬プレハブから発掘調査器材を運びだし、事務所と休憩所等の整備とグリッド設定のための草刈りをする。あわせて、ベンチ・マーク等の確認を行う。
- 4月21日 付替道路が完成したため、農道部分の表土を重機で掘り下げる。
- 4月26日 雨模様の天候が続く中、作業員による掘り下げと遺構確認を開始する。
- 5月6日 昨年度に確認された遺物層(捨て場)の範囲を周囲に広げながら掘り下げる。
- 5月14日 調査区周辺の長芋畑で土壌改良剤(クロピクリン系の農薬)の散布が行われ、一時作業を中断する。センター関係者と協議し、とりあえずマスク等で対応し、風向きなど危険を感じた場合は作業を中止することとした。
- 5月25日 週末の降雨で土地借用地の法面の壁が崩落したため、関係者と協議した結果、修復工事を行うことで合意した。

- 6月9日 包含層からの遺物が予想以上に出土し、遺物を詰めた段ボール箱の置くスペースがプレハブ内に無くなったため、センターに遺物を100箱搬出する。
- 6月22日 島口調査員が調査区の地質について現地指導に来られた。
- 6月23日 包含層の遺物を写真実測し、図面に対応して取り上げることにしたため、委託業者がケーブル写真撮影を行った。図面の完成まで包含層の掘り下げを一時中断する。
- 6月24日 藤沼調査指導員が発掘調査の現地指導に来られた。
- 7月1日 包含層の遺物の取り上げを開始する。倉石村が五戸町と合併し五戸町となる。
- 7月8日 遺構・遺物ともに当初の予想を超えたため、県農林水産部農村整備課、文化財保護課、県埋文センターの三者で、今後の調査について現地協議を行い、当初終了予定の8月31日から10月29日まで延長して発掘調査をする事で合意した。
- 7月16日 竪穴住居跡(SI-16)の覆土から縄文時代中期初頭の土偶が出土する。
- 8月10日 隣接する土地所有者から包含層部分の北側を境界ラインまで掘り下げることが了解してもらい、拡張して掘り下げる。
- 8月20日 台風15号が青森県に接近するため現場作業を休業日とする。
- 8月31日 台風16号が青森県に接近するため現場作業を休業日とする。
- 9月1日 遺物を詰めた段ボールが200箱近くなったため、175箱をセンターに搬出する。
- 9月7日 現場にて、県農林水産部農村整備課、五戸町農林課、文化財保護課、県埋文センターの関係者により、調査の進捗状況と今後の予定について協議した結果、次年度も調査すること合意した。
- 9月30日 台風21号が青森県に接近するため現場作業を休業日としたが、一部遺構が大雨のため水没したため補助員と土嚢を積み上げる。
- 10月1日 三内丸山応援隊の第1陣として37名がボランティアガイドの研修で現場見学に来られた。



- 10月7日 三内丸山応援隊の第2陣13名がボランティアガイドの研修で現場見学に来られた。
- 10月8日 土坑(SK-38)の底面から人骨の頭部が出土し、分析等の対応について話し合う。
- 10月14日 竪穴住居跡(SI-31)の床面からほぼ一体分の人骨が出土する。
- 10月21日 島口調査員が調査区の地質と周辺の地形についての現地調査に来られた。仙台医療技術専門学校の奈良専任講師が出土人骨の取り上げに来られた。
- 10月25日 土坑(SK-55)の底面から人骨の一部が出土する。
- 10月26日 ラジコンヘリによる調査区全景および遺構の空中写真撮影を行った。
- 10月27日 公用車で、取り上げた人骨をセンターに搬出する。
- 10月29日 発掘調査器材を越冬プレハブに収納し、出土遺物と調査器材の一部をセンターに搬出して調査を終了する。

(平成17年度)

- 4月7日 県農林水産部担当者と現地協議後、現場周辺で借用する土地の賃貸借契約を締結する。
- 4月12日 昨年度未調査の西側部分を農道に沿って鉄板敷設し、仮設道路工事を行う。
- 4月18日 調査に先立ち、農道部分の掘り下げを重機を用いて行う。
- 4月19日 調査開始日、越冬プレハブから発掘調査器材を運びだし、事務所と休憩所等の整備を行った。午後からは、遺構確認とグリッド設定、ベンチ・マークの確認をする。
- 4月26日 雨模様の天気が続くが、人力による掘り下げを開始する。
- 5月6日 農道の十和田b火山灰層より下の第Ⅲ層から遺物が多量に出土する。調査の結果、盛り土と判明する。
- 5月13日 昨年度に調査した竪穴住居跡(SI-11)の北側部分の精査を進める上で、埋土部分の崩落防止対策として鋼矢板を業者に委託し打設した。
- 6月7日 農地への進入路変更を行い未調査部分の発掘調査を行う。
- 6月10日 島口調査員が、調査区の地質と周辺の地形について現地指導に来られた。
- 6月24日 村越、市川、藤沼調査指導員が発掘調査の現地指導に来られた。
- 6月30日 遺物を詰めた段ボールが150箱を超えたため、124箱をセンターに搬出する。
- 7月12日 一部仮設道路を切り替え、竪穴住居跡(SI-48)を拡張して調査を行う。
- 7月14日 五戸町立(旧倉石村立)又重小学校の校長先生、5年生担任と生徒11名が社会科の授業として発掘調査を見学に来られ対応する。
- 8月2日 藤沼調査指導員が弘前大学の学生2名を連れて現地指導に来られた。
- 8月3日 ラジコンヘリによる調査区全景および遺構の空中写真撮影を行った。
- 8月10日 鋼矢板を引き抜き、埋め戻しの準備を行う。
- 8月12日 発掘調査器材および出土遺物をセンターに搬出して調査を終了する。
- 8月17日 調査区内の埋め戻しを行い県農林水産部農村整備課に引き渡す。

(中嶋 友文)

第2章 遺跡の位置と周辺の地形・地質

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡の位置

西張平遺跡の所在する五戸町(旧倉石村)は、青森県南東部の内陸に位置する。海岸線からの距離は直線距離で20kmほどである。本地域は、十和田湖付近に源を発し、太平洋へと注ぐ河川群が並行して流れ、これに沿って段丘地形が発達している。遺跡周辺は標高200～250m前後の丘陵地と五戸川沿いの段丘地形とに区分できる。本遺跡は十和田湖の西方、新郷村にほど近い五戸川右岸の河岸段丘上の緩斜面に位置する。遺跡の大部分は畑地で、大型トラクターなどによる大規模な耕作が行なわれている。

周辺の遺跡

五戸町には、現在97カ所(旧五戸町62、旧倉石村35)の遺跡が確認されている。青森県遺跡分布図では五戸川と浅水川の河岸段丘上に多くの遺跡が立地しており、各時代で区分すると、縄文時代75、古墳時代1、弥生時代1、奈良・平安時代14、中世12、近世6(重複を含む)と縄文時代の遺跡が多いことが分かる。本遺跡も縄文時代前期から後期の遺跡として周知されている。周辺で発掘調査が行なわれた縄文時代の遺跡は、昭和52年に調査が行なわれ縄文時代後期の土器棺墓から人骨が出土した薬師前遺跡(倉石村教育委員会：1997)、平成8年に調査した八釜久保(2)・(3)遺跡(青森県教育委員会：1997)、平成9年に調査された配石に伴う縄文時代後期の土器棺墓が出土した舘町遺跡(倉石村教育委員会：1998)、平成13年に調査された獅子神遺跡(青森県教育委員会：2003)のほかに、本遺跡から北方向に約6km離れた十和田市の明戸遺跡の調査が昭和58年に行なわれ、縄文時代晩期の土坑墓を24基検出している。また、昭和47年に長芋のトレンチャーから出土した縄文時代後期の土器棺に人骨が埋納されていた上エ平(旧下平)遺跡(倉石教育委員会:1997)などがあげられる。ちなみに、舘町遺跡の配石遺構(下の写真)はビニールハウスで覆われ、現在でも見学できるようになっている。

(中嶋 友文)



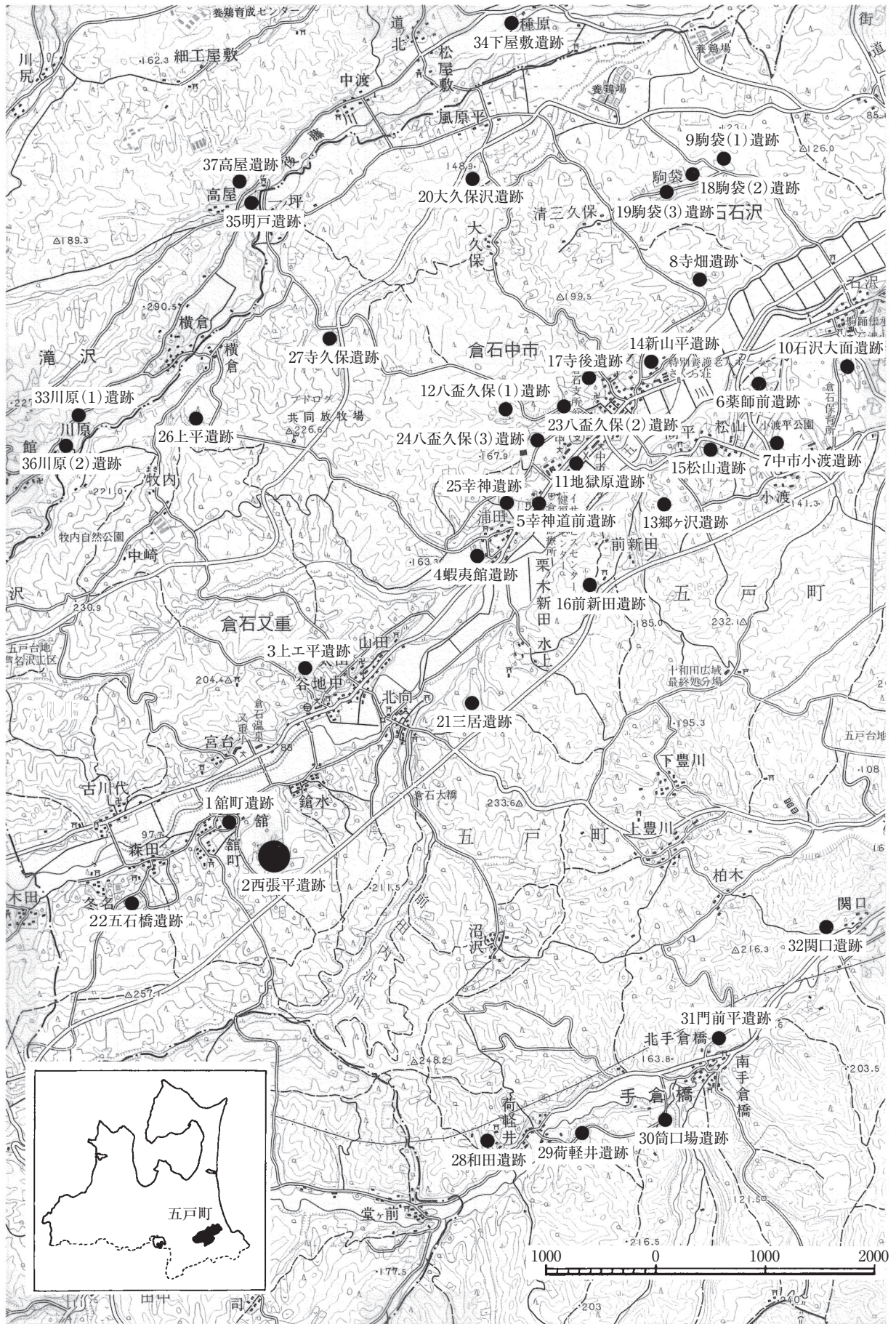


図2 遺跡の位置と周辺の遺跡

表1 周辺の遺跡

遺跡番号	遺跡名	時代	種別	備考・参考文献
1	五戸町(旧倉石村)館町遺跡	縄文(後)、中世	散布地 城館跡	五石橋・館町遺跡
2	五戸町(旧倉石村)西張平遺跡	縄文(前・中・後)	散布地	
3	五戸町(旧倉石村)上エ平遺跡	縄文(中・後)	散布地	(旧 下平遺跡)
4	五戸町(旧倉石村)蝦夷館遺跡	縄文(後)	散布地	
5	五戸町(旧倉石村)幸神道前遺跡	縄文(前)	散布地	
6	五戸町(旧倉石村)薬師前遺跡	縄文(中・後)	散布地 墓地	薬師前遺跡
7	五戸町(旧倉石村)中市小渡遺跡	縄文(前・後・晩)	集落跡	(旧 小渡遺跡)
8	五戸町(旧倉石村)寺畑遺跡	縄文(中)	散布地	
9	五戸町(旧倉石村)駒袋(1)遺跡	縄文(前)	散布地	
10	五戸町(旧倉石村)石沢大面遺跡	縄文、平安	散布地	(旧 地藏沢遺跡)
11	五戸町(旧倉石村)地獄原遺跡	縄文(前)	散布地	(旧 浦田遺跡)
12	五戸町(旧倉石村)八盃久保(1)遺跡	縄文(後)	散布地	(旧 八盃久保遺跡)
13	五戸町(旧倉石村)郷ヶ沢遺跡	縄文(中・後)	散布地	
14	五戸町(旧倉石村)新山平遺跡	縄文(前)	散布地	
15	五戸町(旧倉石村)松山遺跡	縄文(後)	散布地	
16	五戸町(旧倉石村)前新田遺跡	縄文(後)	散布地	
17	五戸町(旧倉石村)寺後遺跡	縄文(中・後)	散布地	
18	五戸町(旧倉石村)駒袋(2)遺跡	縄文(前・後)	散布地	
19	五戸町(旧倉石村)駒袋(3)遺跡	縄文	散布地	
20	五戸町(旧倉石村)大久保沢遺跡	縄文	散布地	
21	五戸町(旧倉石村)三居遺跡	縄文	散布地	
22	五戸町(旧倉石村)五石橋遺跡	縄文	散布地	五石橋・館町遺跡
23	五戸町(旧倉石村)八盃久保(2)遺跡	縄文	散布地	八盃久保(2)遺跡
24	五戸町(旧倉石村)八盃久保(3)遺跡	縄文(中・後)	散布地	
25	五戸町(旧倉石村)幸神遺跡	縄文	散布地	
26	五戸町(旧倉石村)上平遺跡	縄文	散布地	(旧 上ミ平遺跡)
27	五戸町(旧倉石村)寺久保遺跡	縄文	散布地	中崎遺跡
28	五戸町和田遺跡	縄文(前・中)	散布地	
29	五戸町荷軽井遺跡	縄文(前)	散布地	
30	五戸町筒口場遺跡	縄文(中・後)	散布地	
31	五戸町門前平遺跡	縄文(前・後)	散布地	
32	五戸町関口遺跡	縄文(後)	散布地	
33	十和田市川原(1)遺跡	縄文(早・中)	散布地	
34	十和田市下屋敷遺跡	縄文(後)	散布地	
35	十和田市明戸遺跡	縄文(前・晩)	散布地	明戸遺跡発掘調査概報 明戸遺跡発掘調査報告書
36	十和田市川原(2)遺跡	縄文	散布地	
37	十和田市高屋遺跡	縄文	散布地	

第2節 遺跡周辺の地形と地質

青森県立郷土館 島 口 天

1 遺跡周辺の地形

本遺跡が位置する周辺地域は奥羽山脈と馬淵川流域の間に位置し、南側に標高615.4mの名久井岳がそびえるほかは標高200m前後の緩やかな丘陵が広く発達する。丘陵は馬淵川およびその支流によって侵食され、その流域には河岸段丘および軽石流堆積物が構成する台地が分布する。丘陵東側には火山灰下に砂礫層の段丘構成層を持つ砂礫台地が広がる。

本遺跡が位置する場所は、新郷丘陵を取り巻く軽石流台地の高位面上にあたる。新郷丘陵は標高200～400m、起伏量100～200m/km²の低地性の丘陵地で、軽石を主とした十和田火山起源の第四紀火山砕屑物で構成される。北側を五戸川、南側を浅水川がほぼ西から東へ流れる。丘陵を取り巻くように分布する軽石流台地は、高位面と低位面に区分される。

2 遺跡周辺の地質

本地域は十和田火山の東方に位置するため、同火山を噴出源とする降下テフラに広く覆われ、主要河川に沿って同火山起源の軽石流堆積物が狭長に分布する。谷は軽石流堆積物に埋積され、丘陵は同火山起源の降下テフラに広く覆われるため、中部更新統およびそれ以下の地層の露出がほとんどなく、層序および地質構造の詳細は明らかにされていない。断片的な露出からは、西部に中新統の四ツ沢層、和田川層および舌崎層が小規模に分布し、それらを覆って久保層および市ノ渡層が本地域全体に広く伏在していると推定される。さらに上位には斗内層および田代平凝灰岩が重なる。本地域を広く覆う十和田火山起源の主な降下テフラは、下位より八戸降下軽石、二ノ倉降下テフラ、南部降下軽石、中振降下軽石、十和田b降下軽石および十和田a降下軽石と呼ばれている。これらはいずれも十和田湖周辺からほぼ東へ伸びる長軸をもつ楕円形に分布を示している。

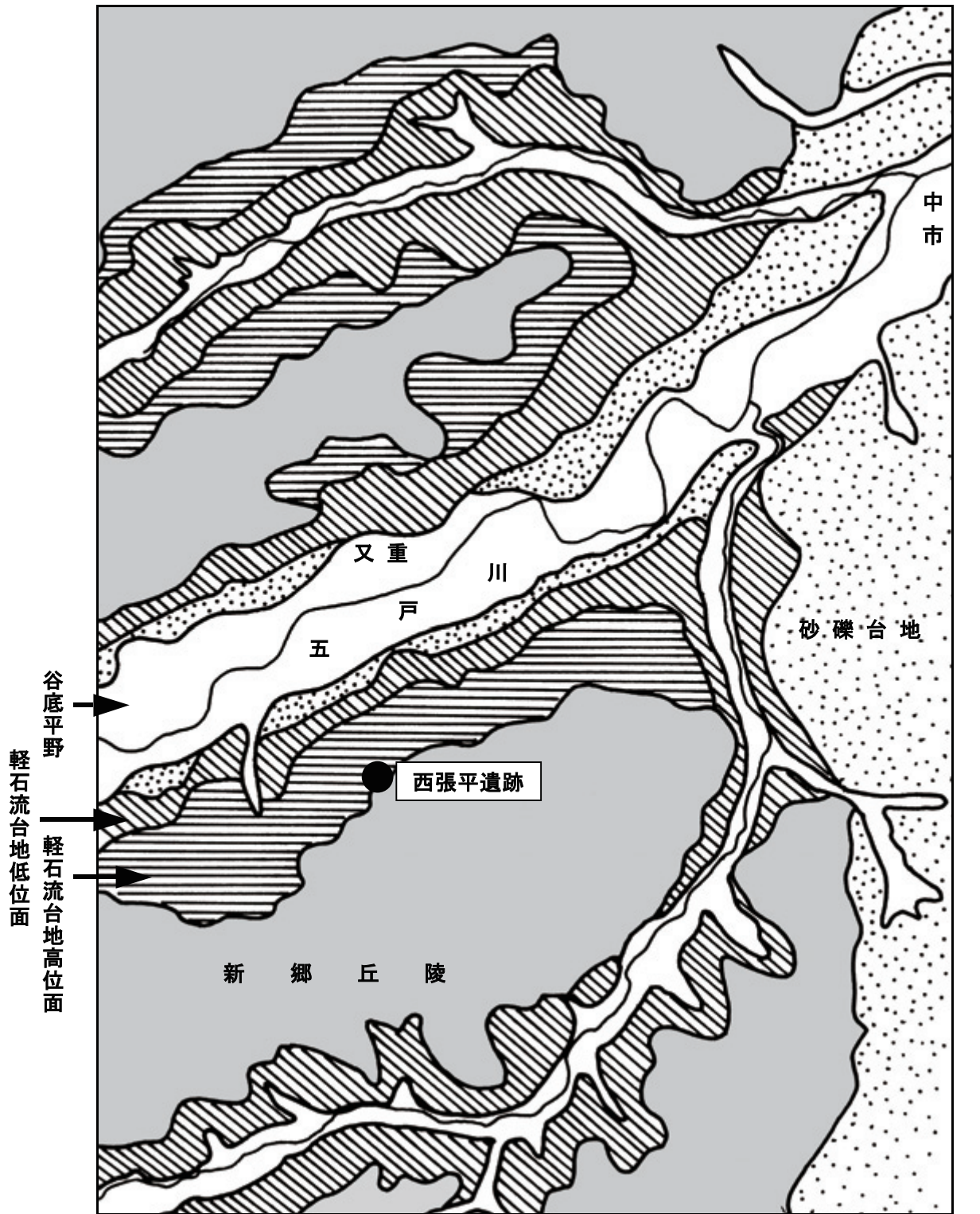
四ツ沢層は泥岩、成層した凝灰岩からなる。泥岩は熊原川の上流域に、凝灰岩は五戸川上流南岸域にそれぞれわずかに分布する。凝灰岩は灰白～淡緑色を呈する成層した凝灰岩によって代表され、凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩、軽石凝灰岩、砂質凝灰岩等によって構成される。

和田川層は泥岩、流紋岩質凝灰岩および砂質凝灰岩、凝灰質砂岩からなる。泥岩は戸来岳周辺に散在的に分布し、流紋岩質凝灰岩は戸来岳南麓にわずかに分布する。砂質凝灰岩と凝灰質砂岩は互層をなし、五戸川支流の雨池川上流域に局所的に分布する。砂質凝灰岩は安山岩質で灰～暗緑色を呈し、細～粗粒である。

舌崎層は泥岩および砂岩からなり、猿辺川中流域の袖大久保に小規模な露出が認められる。

久保層は砂岩からなり、本地域東縁に南北に分布するほか、高堂山周辺にも分布する。

市ノ渡層は砂岩・シルト岩の互層からなり、後藤川の北岸に広く分布するほか、戸来岳の東麓に散在的に分布する。下部には安山岩の円礫を主体とする礫岩層が2～3層発達し、その上位に本層の主体をなす砂質凝灰岩、暗灰～黄褐色を呈する凝灰質粗粒砂岩および灰白～淡黄白色を呈する軽石凝灰岩が発達する。



地形区分図〔水野・堀田（1999）を元に作成〕

0 500 (m)

斗内層は給源不明のデイサイト質凝灰岩からなり、亜炭および礫層を伴う。三戸町袴田および斗内付近に比較的広く分布するほか、田子町遠瀬付近に小規模な露出が見られる。

田代平凝灰岩は八甲田火山群の田代平カルデラの噴出物で、暗灰色を呈し、黒色のガラスが層理状に扁平に伸びている典型的な溶結凝灰岩からなる。

八戸降下軽石は灰白色を呈する細粒火山灰層と同色の軽石層との互層で、一般に6層が認識される。その上位には黄色の軽石を含む黄褐色の粘土質火山灰がのる。地形的凹所ではこの上位に軽石流堆積物である八戸軽石流が発達する。八戸降下軽石の全層厚は、本地域では2mを超す。

二ノ倉降下テフラの下半部は火山礫、スコリア、黒色の火山灰等からなる互層よりなる。上半部はスコリア質で赤～褐色の風化した粘土質火山灰からなり、下半部よりやや広く分布する。

南部降下軽石は、下部は橙～黄褐色を呈する比較的硬い軽石が密集し、火山岩片等が混じる。軽石粒間に空隙があり、崩れやすい。軽石の粒径は1～7cmである。上部は黒色土となる。

中振降下軽石は南部降下軽石より細粒の淡黄褐色の軽石からなり、岩片を含む。

十和田b降下軽石の層厚は本地域では30cm以上である。粒径数mm～2cmの軽石層からなる。

十和田a降下火山灰の層厚は、本地域では小凹地等を除き10cm以下である。主に灰白～淡褐色の粘土化した細粒火山灰層からなる。

遺跡が位置する軽石流台地の高位面を構成する堆積物は、下位から順に大不動軽石流、八戸軽石流であり、それを二ノ倉降下テフラより上位の降下テフラが覆う。



3 遺跡内の基本層序

本遺跡は五戸川の右岸、標高約140mの緩やかな起伏のある地形面上に位置する。東側、西側とも北側の五戸川に向かって小谷がのびているため、三方に向かって緩い下り斜面となっている。南側は平坦～緩い上り斜面が広がり、その後方にやや急傾斜の丘陵地が続く。

本遺跡内および周辺露頭で見られる土層を色相や締り具合、含有物等によってⅠ～Ⅷ層に細分し、それを基本層序として詳細について述べる。

Ⅰ層：層厚10～20cm。耕作土。締まりがない。淡褐色の粘土化した細粒火山灰である十和田a降下火山灰がはさまれるが、連続性はよくない。

Ⅱ層：層厚2cm以下。十和田b降下軽石。淡灰色の径5～20mmの軽石からなり、遺跡内ではよく見られる。

Ⅲ層：層厚20～70cm。やや茶色がかった黒色土で、下部は中振軽石をまばらに含む。場所によって、淡茶灰色を呈する径3～4cmの球状に細粒軽石が密集したものが散在する。

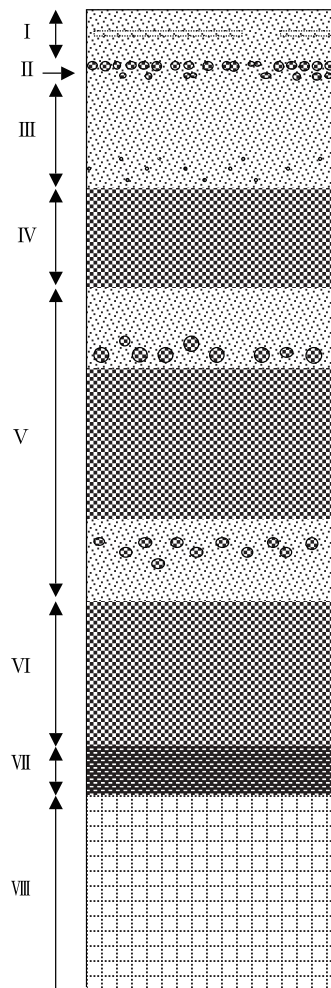
Ⅳ層：層厚20cm。中振降下軽石。径3mm以下の淡黄褐色の軽石からなる。

Ⅴ層：層厚50cm。南部降下軽石。上部10cmは軽石の含有量少ない暗色土。中部30cmは径3cm以下の黄褐色の軽石が密集する。下部10cmは軽石が細かく含有量も少ない。

Ⅵ層：層厚30cm。全体的に黄灰色を呈し、上部に黄橙色の軽石が密集する。軽石は角があり径2cm以下。遺跡西側の小谷では上面が波打ち、上方に凸の部分に軽石が密集する。新郷降下軽石あるいは夏坂降下軽石と考えられる。

Ⅶ層：層厚10cm。二ノ倉降下テフラ。暗赤褐色を呈し、赤褐色スコリアが黒色スコリアにサンドされる。遺跡西側の小谷では細かく波打ちながら上下し、下部に軽石がみられる。

Ⅷ層：層厚2m以上。八戸軽石流堆積物。灰白色を呈し、無層理で軽石・火山礫を多量に含む。



《引用文献》

水野 裕・堀田報誠 (1997) 5万分の1地形分類図「田子・浄法寺」. 土地分類基本調査、青森県農林部農村計画課、p.11-17.

鎌田耕太郎・根本直樹 (1997) 5万分の1表層地質図「田子・浄法寺」. 土地分類基本調査、青森県農林部農村計画課、p.18-33.

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

調査区は農道の拡幅のため長さ約200m、平均幅約6～7mと東西に細長く、標高約140～160mの低位段丘の緩斜面に位置する。検出した遺構は、竪穴住居跡39(23)軒、土坑87基、土器埋設遺構26基、ピット群4カ所、集石遺構1基、礫群1カ所、畠跡1カ所である。

1 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡→第40号竪穴住居跡と同一のため欠番

第2号竪穴住居跡（図3）

〔位置〕 調査区東側のNJ・NK-97・98グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅵ層上面で落ち込みを確認した。南側で第19号竪穴住居跡の壁柱穴と重複し、本住居跡が古い。

〔形態・規模〕 北西側は調査区域外のため規模および平面形は不明である。

〔壁・床面〕 残存している南壁の高さは約65cm、床面から傾斜角71度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約13.2㎡である。

〔ピット〕 ピットは床面から9基検出した。いずれも柱痕等が確認されず、用途等については不明である。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層され、第1層と第2層に炭化物、各層に浮石が含まれている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～25)、石器(S1～26)、ピット9から石器(S1)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に廃棄されたと考えられる。

第3号 a 竪穴住居跡（図4・5）

〔位置〕 調査区西側のMC-82、MD-81・82グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。北西側で第40号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古いと思われる。

〔形態・規模〕 南側は調査区域外であるが、残存部分から直径約4m50cmのほぼ円形と推定される。

〔壁・床面〕 壁の高さは約30cm、床面から傾斜角71度で立ち上がる。床面はやや起伏がみられるが、概ね平坦で、堅く締まっている。北側の壁際に長さ約60cm、幅約8cm、深さ約4cm、西側の壁際に長さ約1m40cm、幅10～15cm、深さ5～10cmの壁溝が確認された。残存する床面積は約13.1㎡、軸方向はN-64°-Eである。

〔ピット〕 ピットは床面や壁溝から多数検出した。ピット1(深さ72cm)・ピット2(深さ18cm)・ピット3(深さ70cm)・ピット4(深さ40cm)が支柱穴で、壁際の壁溝内ピットは壁柱穴と考えられ、北側から西側に

かけての一部にみられる。

[炉] 住居跡のほぼ中央部に地床炉と考えられる焼土を検出した。焼土範囲は直径約55cmの円形で強い焼成を受けている。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、第1層～第3層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～16)と石器(S1～5)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第3号b 竪穴住居跡 (図4・6)

[位置] 調査区西側のMD-81・82グリッドに位置している。

[検出状況] 第3号a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて、壁溝とピットを確認した。第3号a 竪穴住居跡の拡張前のものと思われる。

[形態・規模] 北側の壁溝とピットのみ確認のため平面形及び規模は不明である。

[壁・床面] 壁は確認できないが、床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。北側に長さ約1m80cm、幅5～25cm、深さ4～9cmの壁溝が確認された。残存する床面積は約8.8㎡、軸方向はN-64°-Eである。

[ピット] ピットは床面から数基検出した。ピット5(深さ57cm)・ピット6(深さ52cm)が支柱穴と思われる。壁柱穴はおよそ25～90cmの間隔で深さ10～25cmで、北側を中心として確認できた。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 炭化物を含んだ暗褐色土の層が壁溝で確認された。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期中葉以前に構築されたと考えられる。

第4号a 竪穴住居跡 (図7・8)

[位置] 調査区東側のNH・NI-96・97グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に床面と思われる硬化面を確認した。遺構の直下に第4号b・第4号c 竪穴住居跡、南側で第14号土坑、東側で第35号竪穴住居跡と重複し、本住居跡がいずれの遺構よりも新しい。

[形態・規模] 北西側は調査区域外のため平面形及び規模ともに不明である。

[壁・床面] 土層断面から、壁の高さは約20cmで傾斜角65度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約6.1㎡である。

[ピット] ピットは床面から1基検出した。ピット1(深さ38cm)は柱穴の可能性が高いと思われる。

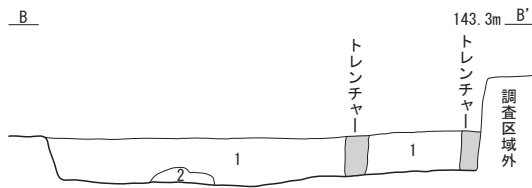
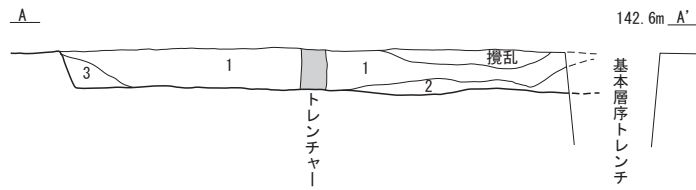
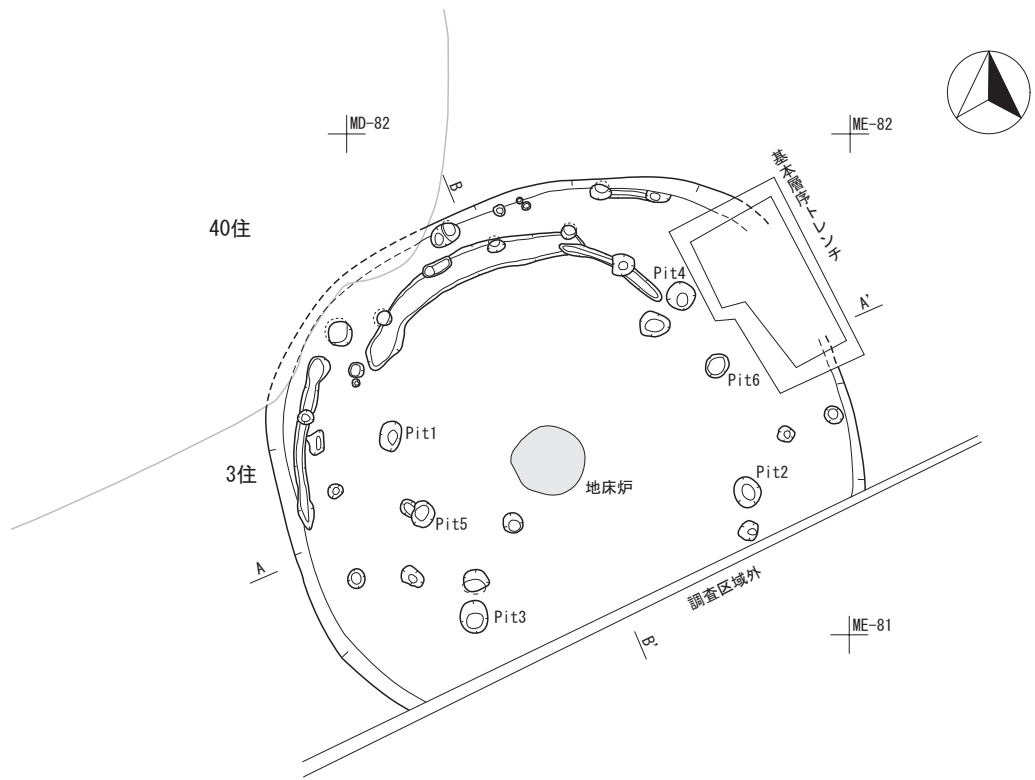
[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は褐色土の2層に分層され、いずれも炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1・2)と石器(S1～3)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後葉に廃棄されたと考えられる。



第3号竪穴住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中振: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量、炭化物微量(シルト質土)
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 中振浮石少量、炭化物微量

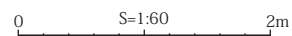


図4 第3号a・b竪穴住居跡(1)

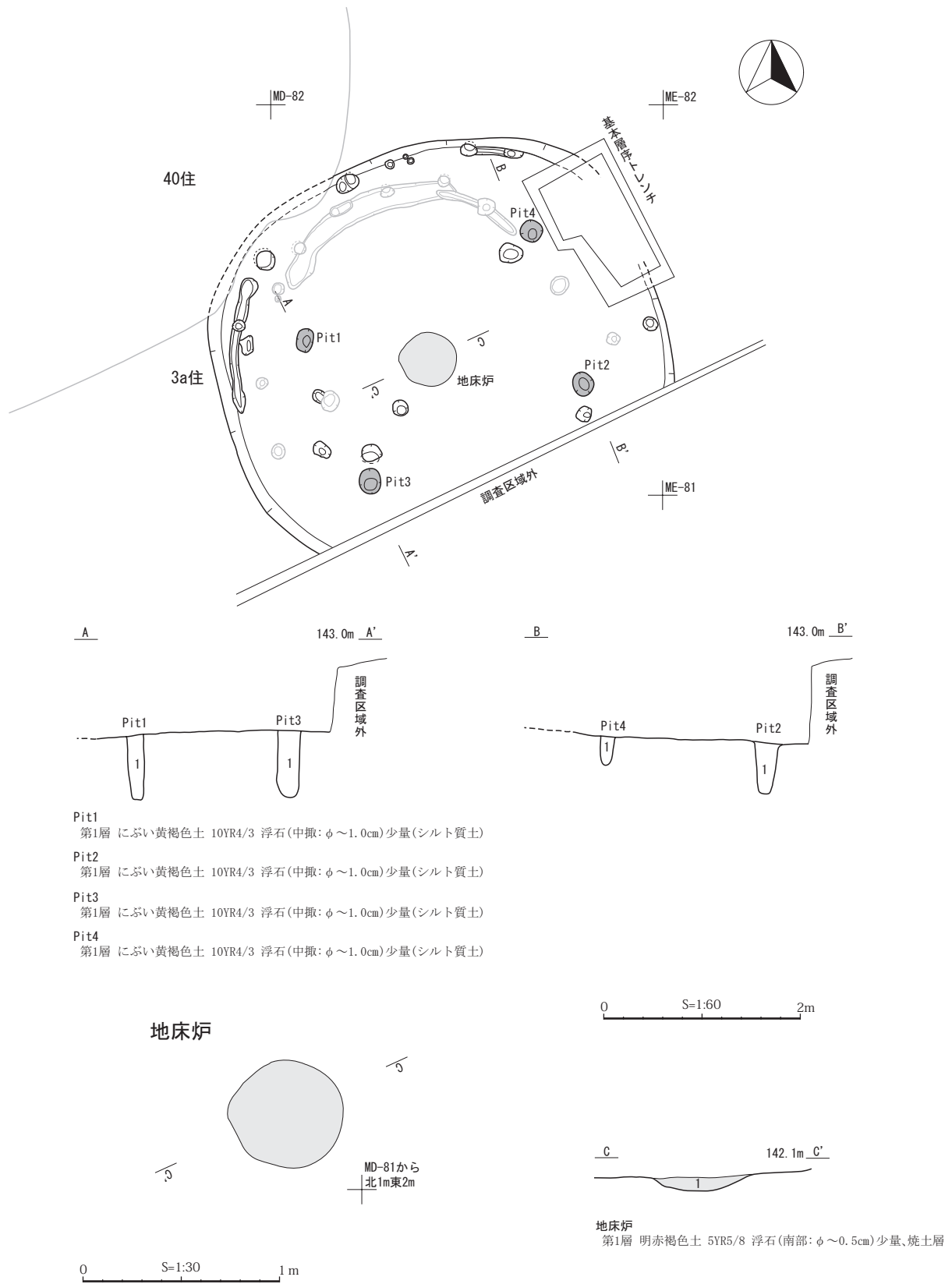


図5 第3号a竪穴住居跡(2)

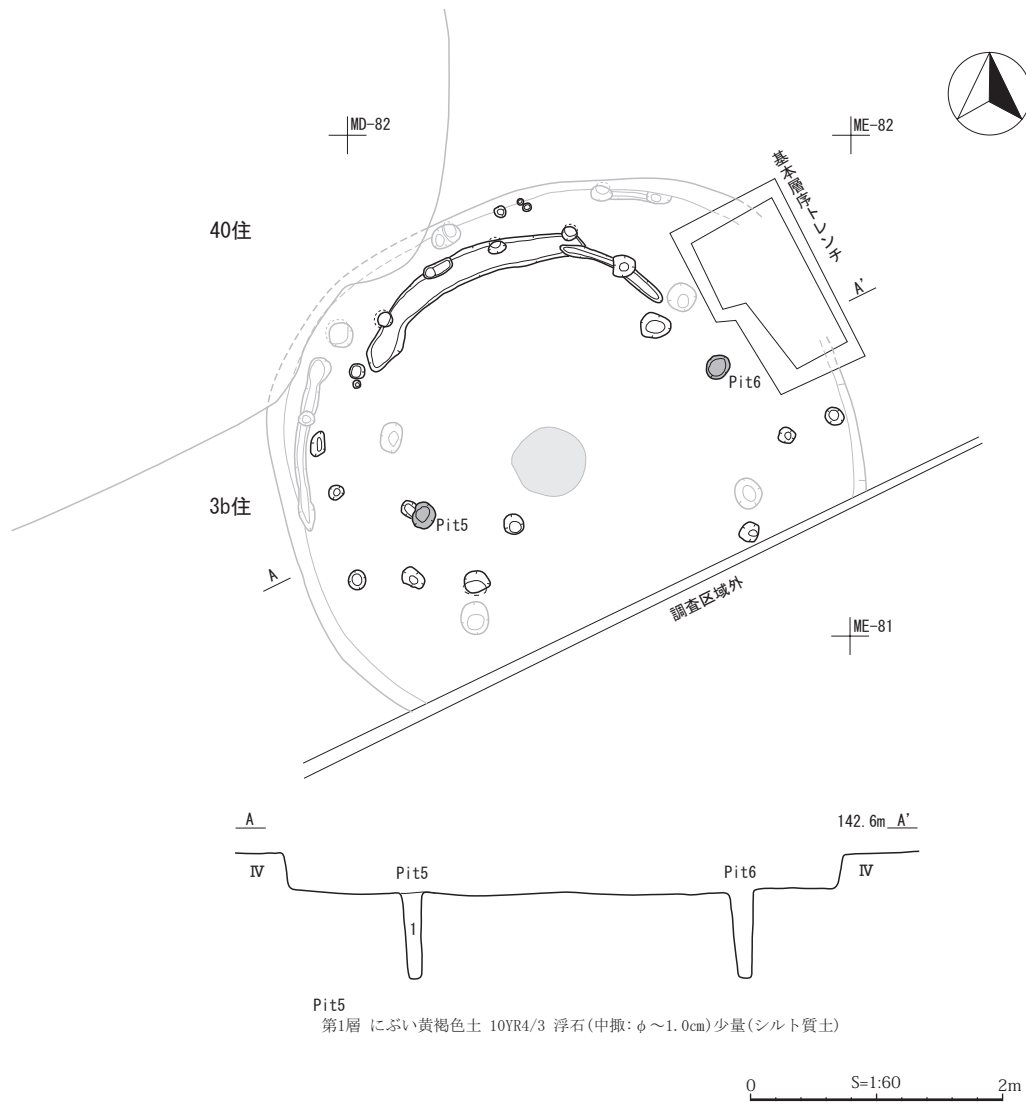


図6 第3号b竖穴住居跡(3)

第4号b 竪穴住居跡 (図7・9)

[位置] 調査区東側の NG～NI-96・97グリッドに位置している。

[検出状況] 第4号a 竪穴住居跡の床面および周辺を掘り下げ中に壁溝等を確認した。遺構の直上で第4号a 竪穴住居跡と第14号土坑、ほぼ同じレベルで第4号c 竪穴住居跡、南西側で第14号竪穴住居跡、東側で第35号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が第4号a・第35号住居跡と第14号土坑よりも古く、第4号c・第14号住居跡よりも新しい。

[形態・規模] 平面形は残存部分から隅丸方形か隅丸長方形と思われる。規模は北西側が調査区域外であるため不明である。

[壁・床面] 壁は確認できなかったが、土層断面から約20cmと思われる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっており、壁際には幅10～15cm、深さ5～10cmの壁溝と壁柱穴が確認された。残存する床面積は約19.2㎡である。

[ピット] ピットを床面から多数検出したが、本住居跡に伴うと考えられるピットは壁溝中の柱穴で、およそ5～80cmの間隔で壁柱穴(深さ8～30cm)が廻ると思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P3～20)と石器(S4～8)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第4号c 竪穴住居跡 (図7・9)

[位置] 調査区東側の NH～NI-96・97グリッドに位置している。

[検出状況] 第4号b 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁溝等を確認した。遺構の直上で第4号a 竪穴住居跡と第14号土坑、同じレベルで第4号b 竪穴住居跡、南西側で第14号竪穴住居跡、東側で第35号竪穴住居跡と重複し、本住居跡がすべての遺構よりも古い。

[形態・規模] 平面形は残存部分から楕円形と推定される。規模は北西側が調査区域外であるため不明である。

[壁・床面] 壁は確認できなかった。床面は第4号b 竪穴住居跡とほぼ同じレベルで、堅く締まっている。南壁際には幅10～15cm、深さ5～10cmの壁溝が確認され、壁溝中におよそ35～80cmの間隔で壁柱穴(深さ12～30cm)が廻ると思われる。残存する床面積は約16.0㎡である。

[ピット] ピットを床面から多数検出した。壁柱穴と思われるピットのほか、柱穴と思われるピットも確認されたが、いずれも本遺構に伴う可能性は低いと考えられる。

[炉] 床面から炉と思われる焼土の痕跡は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は確認できなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期中葉以前に構築されたと考えられる。

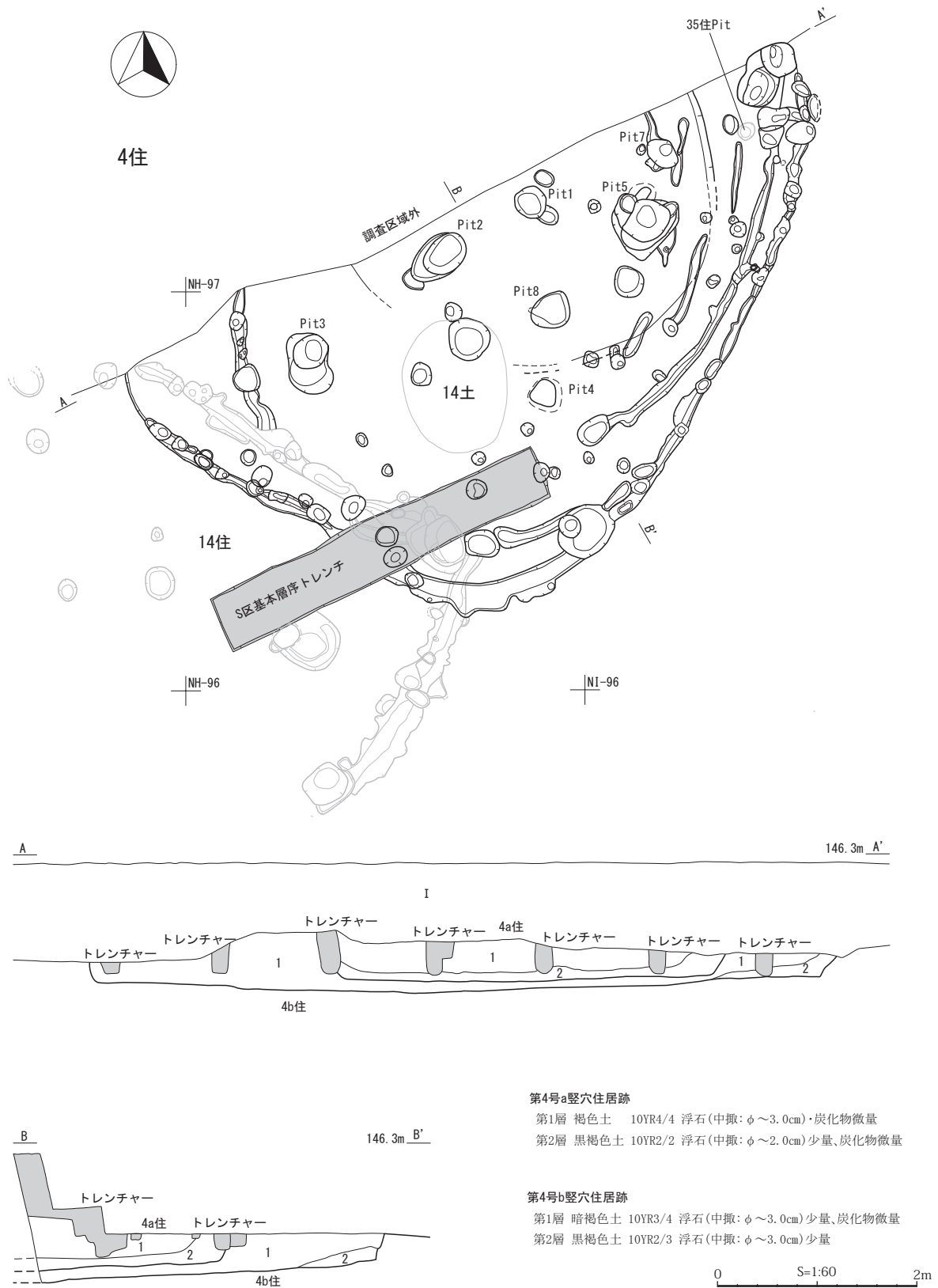


図7 第4号a・b・c竪穴住居跡(1)

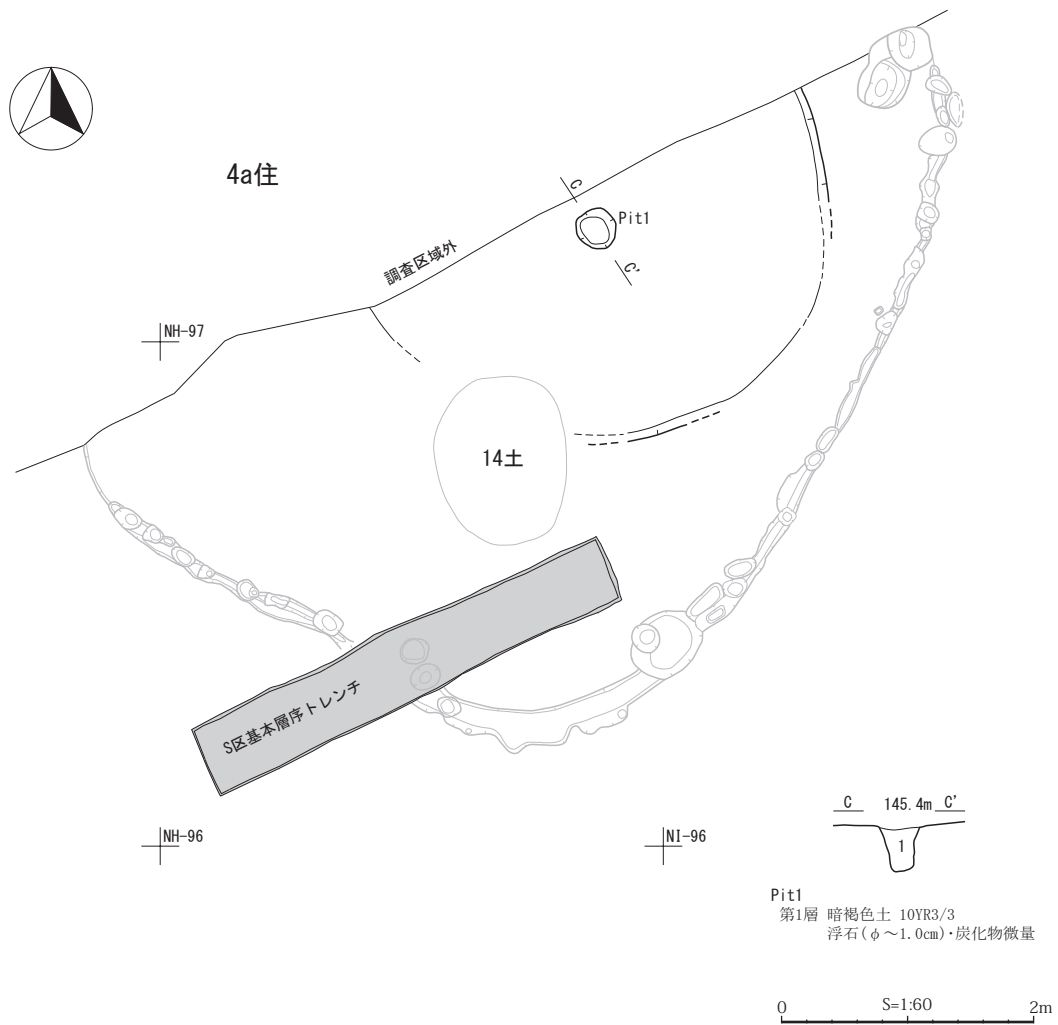


図8 第4号a竪穴住居跡(2)

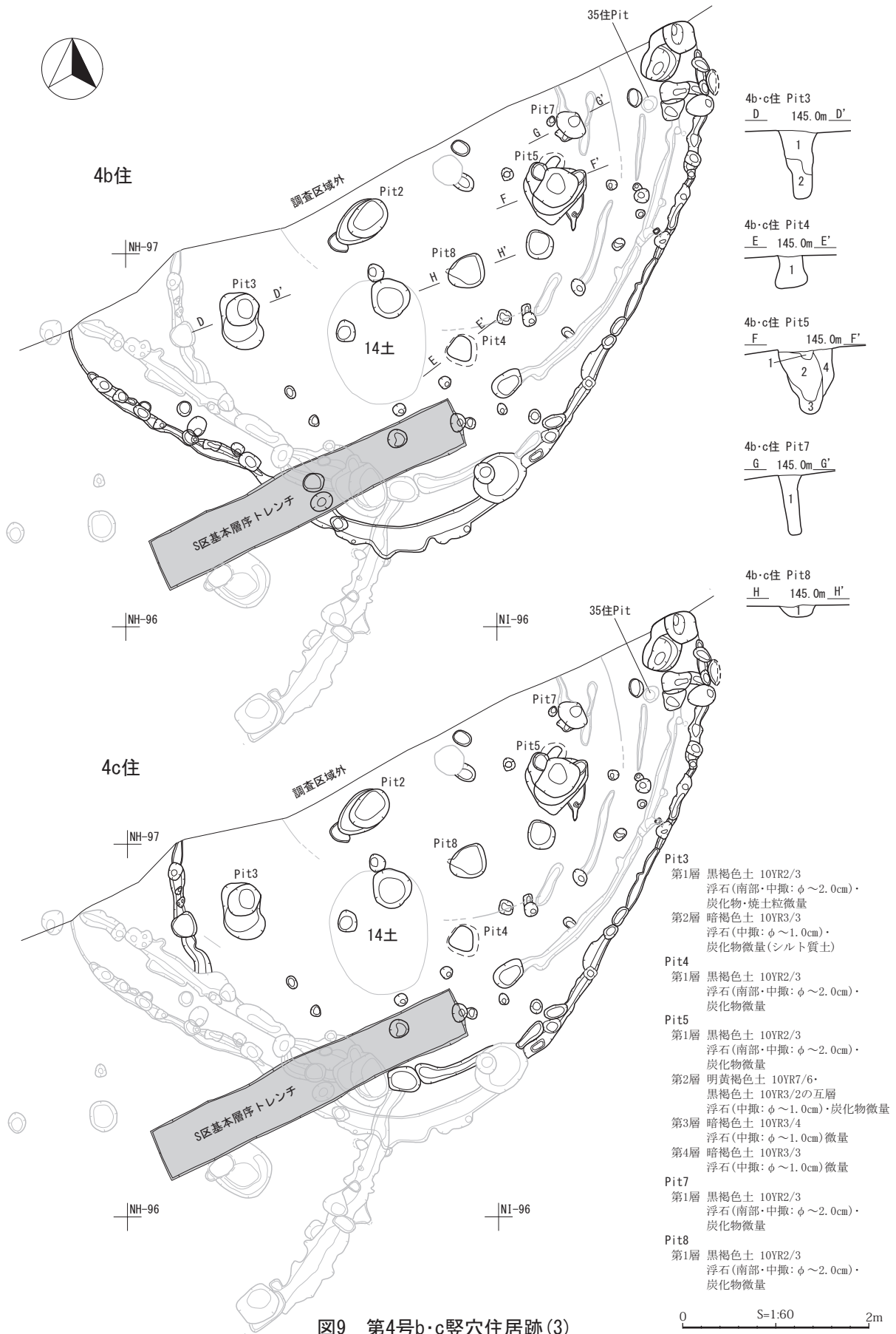


図9 第4号b・c竖穴住居跡(3)

第5号竪穴住居跡→第40号竪穴住居跡と同一のため欠番

第6号竪穴住居跡～第10号竪穴住居跡→欠番

第11号a竪穴住居跡 (図10～14)

〔位置〕 調査区中央部のMK～MM-86・87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 現道(農道)を通行禁止などの措置をとれないため、平成16年度は南側を平成17年度は北側を調査した。竪穴住居跡の南側(平成16年度調査部分)は、長芋畑のトレンチャーによって上部がかなり攪乱されているが、北側の調査部分(平成17年度調査部分)は現道直下のため、耕作等の影響を受けず第IV層上面で確認できた。第11号b竪穴住居跡を掘り込んで本住居跡が構築されており、ほぼ中央部で第22号土坑、北西側で第106号土坑と重複し、本住居跡が第22号土坑よりも古く、第106号土坑よりも新しい。

〔形態・規模〕 南側が調査区域外であるが、確認できた壁柱穴から平面形は長径約5m50cmの楕円形と思われる。

〔壁・床面〕 第11号b竪穴住居跡を掘り込んで構築しているため西壁のみ確認できた。壁の高さは約90cm、床面から傾斜角68度で立ち上がる。床面はやや起伏が認められるが、堅く締まっている。また、部分的にはあるが、にぶい黄橙色土の粘土範囲が広がっている。残存する床面積は約20.0㎡、軸方向はN-63°-Eである。

〔ピット〕 ピットは床面と壁際から多数検出した。支柱穴は、ピット14a(深さ54cm)、ピット16a(深さ81cm)と考えられる。壁際で検出された壁柱穴(深さ15～30cm)は、25cm～1m20cmの間隔で壁際に廻ると思われるが、本住居跡に伴わないピットは同一レベルで重複する住居跡のものと考えられる。

〔炉〕 住居跡の中央部東よりに土器埋設石囲炉を検出した。直径約50cmの円形の掘り方に口縁部と底部の欠損した深鉢土器を正位に埋設し、埋設した土器を囲む様に9個の角礫が配置されている。土器内の充填土は5層に分けられ、第3層の上部に焼土層と炭化物層が堆積している。掘り方は明褐色土で埋め戻されている。

〔堆積土〕 堆積土は8層に分層され、第5層が灰白色の粘土質土である以外はすべての層に炭化物が含まれる。特に第2層からは多量の炭化物とともに遺物が出土し、埋まりきらない住居跡の窪地にそれらが廃棄された様子が伺える。

〔付属施設〕 底面の中央から北西よりに、にぶい黄橙色土の粘土範囲と、その中央におよそ1m範囲で黒褐色土の落ち込みを確認した。堆積している黒褐色土を取り除くとにぶい黄橙色土の粘土が床面から続く状態で検出された。半截して掘りあげると頸部径が約60cm、坑底部が直径約2m20cmのフラスコ状土坑が検出された。平面形は円形であり、底面は平坦で、深さは床面から約1m70cmである。堆積土にみられるにぶい黄橙色土の粘土層は、人為的に埋め戻したものと考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(4・15・19・25・27・31・33・77・79・91・100・133・135・136・138・151・153・155・193)と石器(S1・6・10・18・20・39・45・58・60・62・70・75・76・80・81・83・85・86・91・96・101・103・128・132・134・138・140・142)、軽石(K1～4)、土製品(C1～3)、種子(T1～3・クルミ1)、炭(MS1～3)、ピット12から土器片(P1～52)と石器(S1・2)、軽石(K1・2)が、ピット15から土器片(P1～16)と石器(S1)が、炉跡から土器の破片(P1・2)と石器(S1～13)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

第11号b 竪穴住居跡 (図10～13)

[位置] 調査区中央部のMK～MM-86・87グリッドに位置している。

[検出状況] 竪穴住居跡の南側は、長芋畑のトレンチャーによって上部が攪乱されているが、第IV層上面で確認できた。西側のプランを同じにする第11号a 竪穴住居跡の構築以前の竪穴住居跡で、ほぼ中央部で第22号土坑、北東側で第76号・第115号土坑、北西側で第106号土坑と重複し、本住居跡が第22号土坑よりも古く、その他の土坑よりも新しい。

[形態・規模] 南側が調査区域外であるが、調査部分から平面形は長径約8m30cmの楕円形と思われる。

[壁・床面] 壁の高さは約1m10cmで、床面から傾斜角64度で立ち上がる。床面はやや起伏が認められるが、堅く締まっている。残存する床面積は約30.3㎡、軸方向はN-63°-Eである。

[ピット] ピットは床面と壁際から多数検出した。支柱穴は、ピット14b(深さ54cm)、ピット16b(深さ41cm)と考えられる。壁際で検出された壁柱穴(深さ15～40cm)は、50cm～1m60cmの間隔で壁際に廻ると思われるが、本住居跡に伴わないピットは同一レベルで重複する住居跡のものと考えられる。

[炉] 住居跡の中央部から西よりに土器埋設炉を検出した。直径約45cmの円形の掘り方に口縁部と底部の欠損した深鉢土器を正位に埋設しており、周囲に焼土の範囲がみられる。土器内の充填土は4層に分けられ、第3層の上部に褐色土と暗褐色土の層が堆積し、いずれにも炭化物と焼土粒が含まれている。掘り方は明褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、第1層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1・2・3・16～18・26・32・78・134・137・152・154)と石器(S7～9・59・71～74・77～79・82・84・87～90・92～95・102・129～131・135～137・141・143)が、炉跡から土器の破片(P1～9)が出土している。



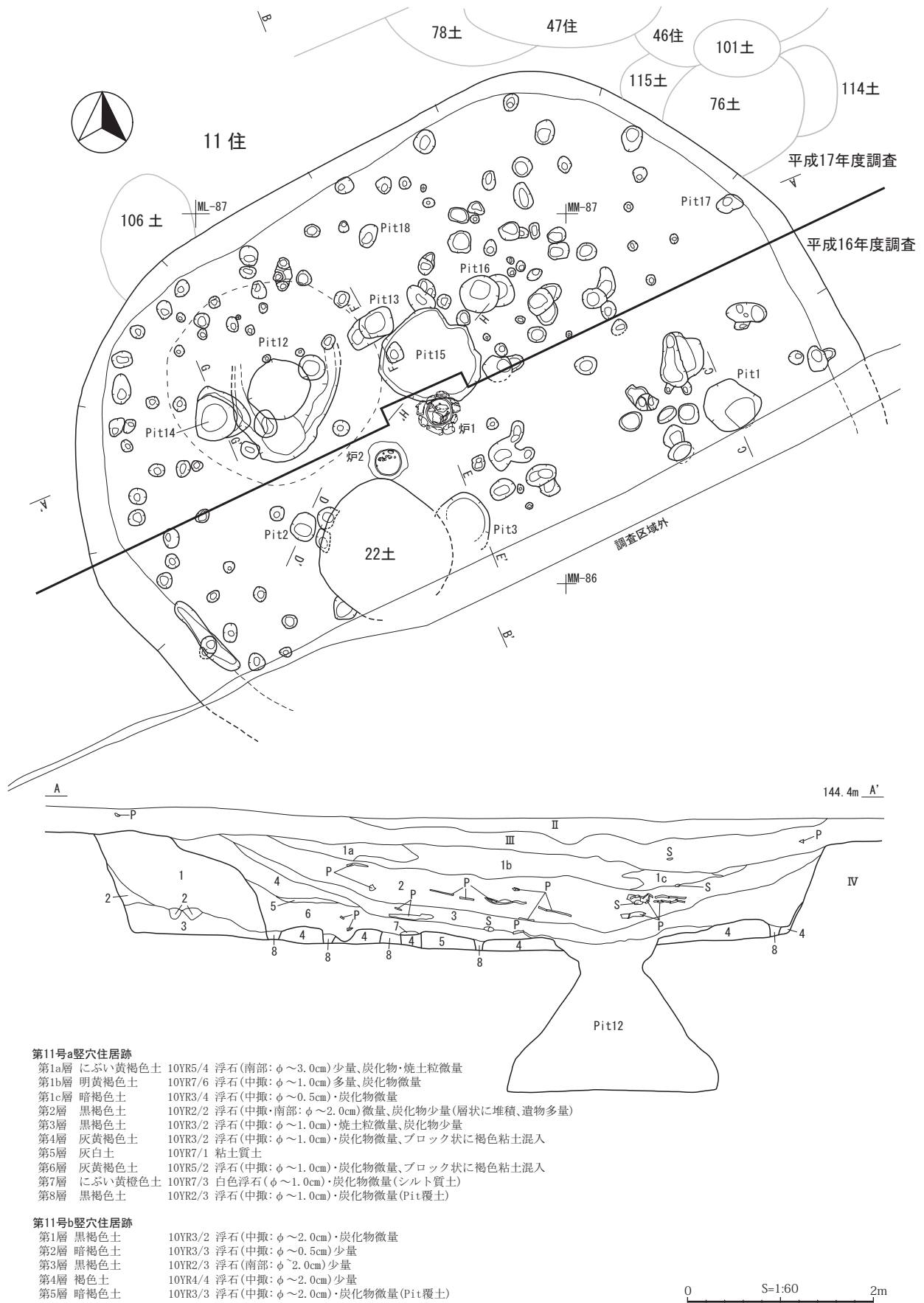
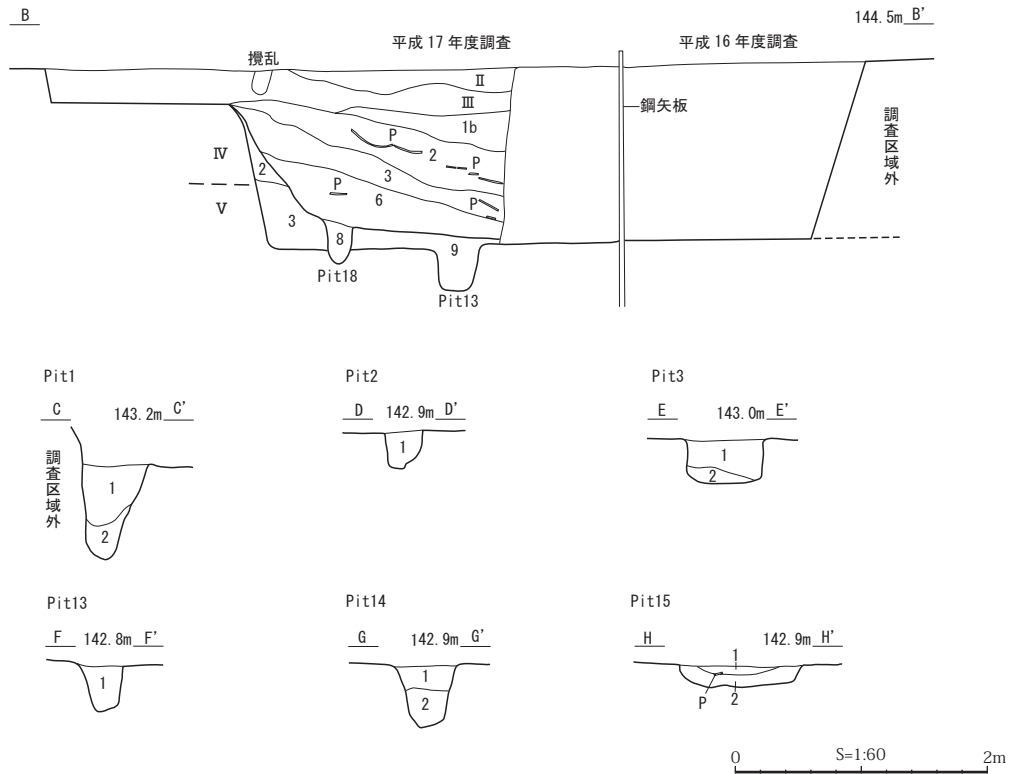


図10 第11号a・b竪穴住居跡(1)



- | | | | | | |
|---|---|---|--|---|--|
| <p>Pit1
第1層 暗褐色土 10YR3/3 南部浮石(φ~2.0cm)・炭化物微量
第2層 褐色土 10YR4/6 シル質、浮石(φ~0.5cm)微量</p> | <p>Pit2
第1層 黒褐色土 10YR2/2 南部浮石(φ~2.0cm)微量</p> | <p>Pit3
第1層 褐灰色土 10YR6/1 浮石(中振:φ~0.5cm)微量(粘土質土)
第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 浮石(中振:φ~0.5cm)少量(粘土質土)</p> | <p>Pit13
第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中振・南部:φ~2.0cm)少量、炭化物微量</p> | <p>Pit14
第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中振・南部:φ~2.0cm)・炭化物微量
第2層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中振・南部:φ~2.0cm)・炭化物微量、にぶい黄褐色土(Pit11の3層)混入</p> | <p>Pit15
第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中振・南部:φ~2.0cm)・炭化物微量、灰黄褐色粘土混入
第2層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中振・南部:φ~2.0cm)・炭化物微量</p> |
|---|---|---|--|---|--|



図11 第11号a・b竪穴住居跡(2)

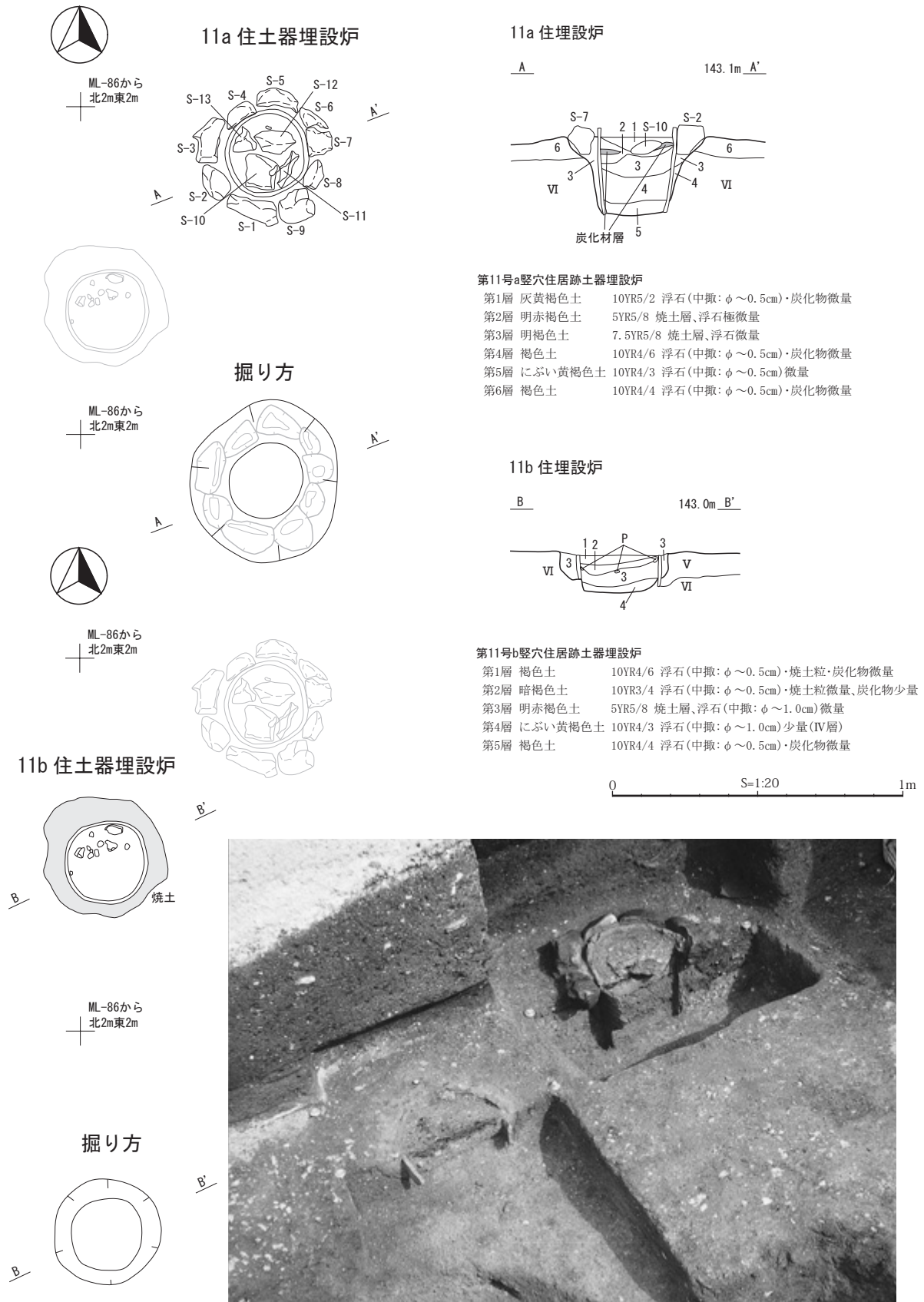


図12 第11号a・b竪穴住居跡(3)

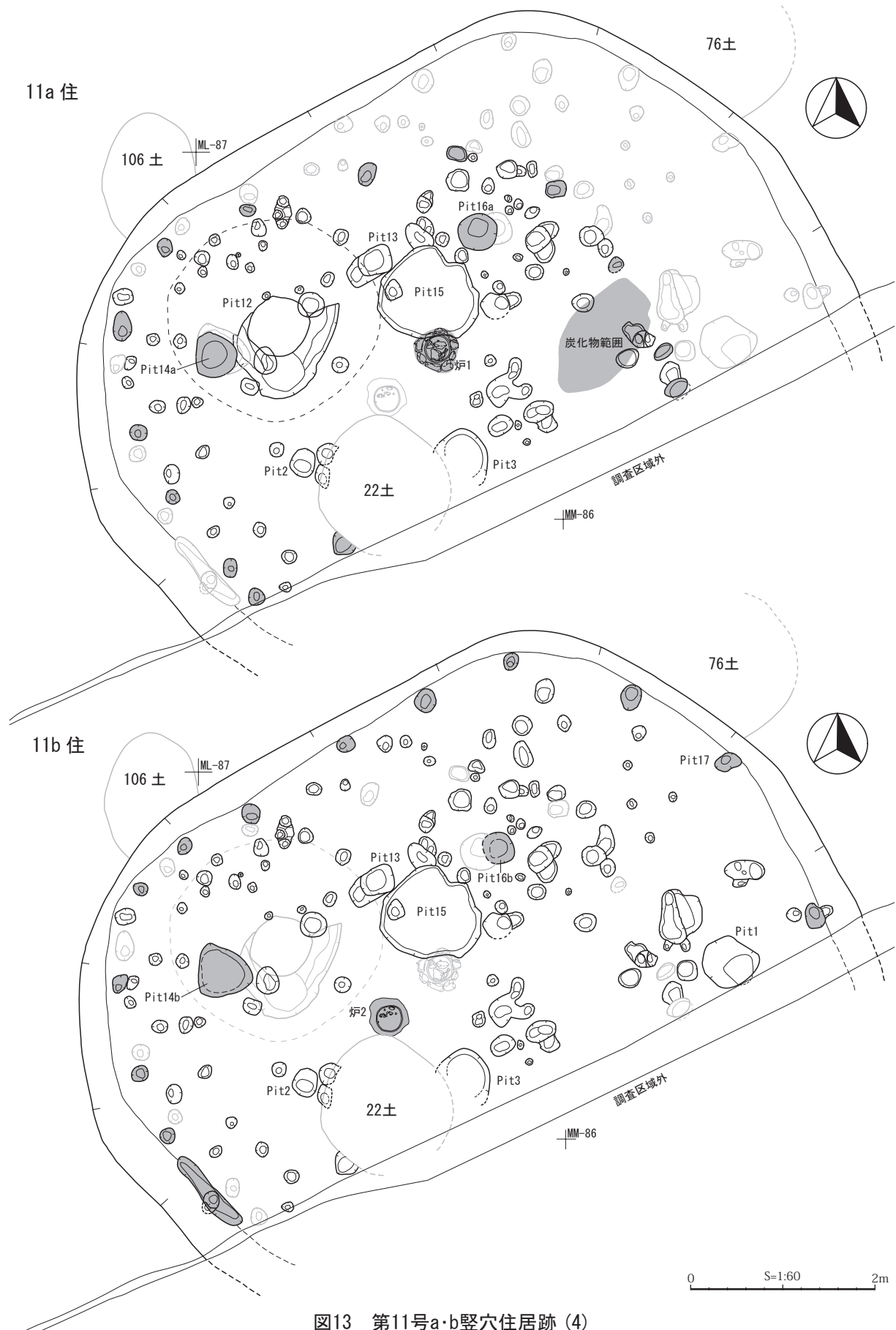
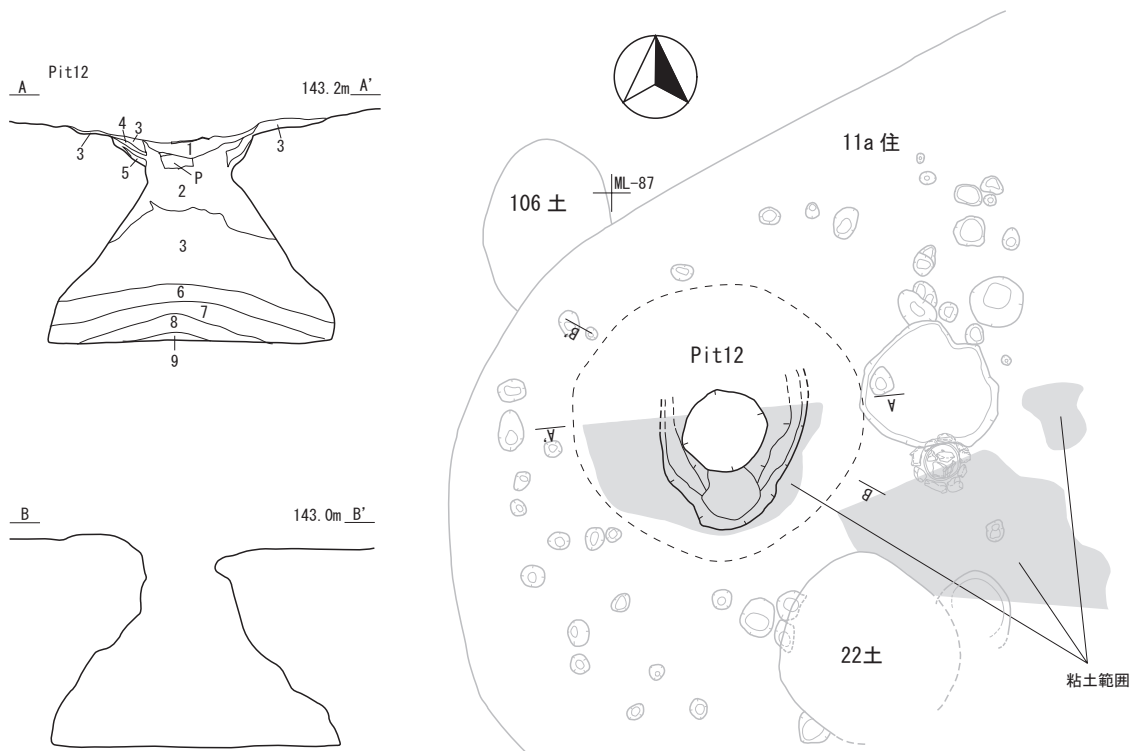


図13 第11号a・b竪穴住居跡 (4)



Pit12

- 第1層 黒褐色土 10VR2/3 浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量、炭化物少量、焼土粒極微量
- 第2層 にぶい黄褐色土 10VR4/3 浮石?(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量、炭化物微量
- 第3層 にぶい黄褐色土 10VR6/3 浮石(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量、炭化物微量(住居跡堆積土の7層と同じ)
- 第4層 明黄褐色土 10VR6/8 粘土質土
- 第5層 灰黄褐色土 10VR4/2 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量
- 第6層 黄褐色土 10VR5/6 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量(粘土質土)
- 第7層 暗褐色土 10VR3/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量(シルト質土)
- 第8層 褐色土 10VR4/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量
- 第9層 黒褐色土 10VR2/2 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

0 S=1:60 2m



図14 第11号a竪穴住居跡 Pit12(5)

〔小結〕本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

第12号 a 竪穴住居跡 (図15～16)

〔位置〕調査区東側の NE・NF-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕南西側のみ第IV層上面で確認された。東側で第49号住居跡、北側で第19号土坑と重複し、本住居跡がいずれの遺構よりも古い。また、床面とほぼ同一のレベルで壁溝を検出し、本遺構の拡張以前の第12号 b 竪穴住居跡のものとみられる。

〔形態・規模〕東側が第49号住居跡により削平され、南側の一部が調査区域外のため詳細については不明であるが、残存部分から推定して長径が4m前後の楕円形と考えられる。

〔壁・床面〕西側から北側にかけての壁は検出されたが、東側は確認に努めたが検出できなかった。壁の高さは約40cmで、床面から傾斜角58度で立ち上がる。床面は概ね平坦で堅く締まっており、ほぼ中央に炭化物の範囲(2m×1m40cm)が認められる。壁際には幅5～8cm、深さ5～10cmの壁溝が東側から南東部を除いて検出している。残存する床面積は約8.7㎡、軸方向はN-58°-Eである。

〔ピット〕床面からピットを7基検出し、ピット1(深さ68cm)とピット2(深さ40cm)が主柱穴と思われる。

〔炉〕床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕堆積土は5層に分層され、第2層に炭化物が含まれ、第3層は褐灰色の粘土質土の層が確認されている。

〔付属施設〕検出されなかった。

〔出土遺物〕覆土から土器の破片(P1～118)と石器(S1～27)、炭(MS1)が出土している。

〔小結〕本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期前葉に廃棄されたと考えられる。

第12号 b 竪穴住居跡 (図15・16)

〔位置〕調査区東側の NE・NF-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕第12号 a 竪穴住居跡の床面を精査中に壁溝の内側から円形に廻る新たな壁溝を検出した。本住居跡は、第12号 a 竪穴住居跡の拡張前の竪穴住居跡と思われる。

〔形態・規模〕一部確認できない部分があるが、検出した壁溝から推定して直径が約2m70cmの円形と考えられる。

〔壁・床面〕壁溝のみ検出されたため壁は確認できなかった。床面は重複する第12号 a 住居跡とほぼ同じレベルで、平坦で堅く締まっており、第12号 a 住居跡の壁溝の内側に幅5～8cm、深さ3～6cmの壁溝が南東側を除いて確認されている。残存する床面積は約4.9㎡である。

〔ピット〕床面からピットを2基検出したが、本住居跡に伴うかどうかは不明である。

〔炉〕床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕堆積土は壁溝に堆積している暗褐色土の層が確認されている。

〔付属施設〕検出されなかった。

〔出土遺物〕本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

〔小結〕本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期前葉に構築されたと考えられる。

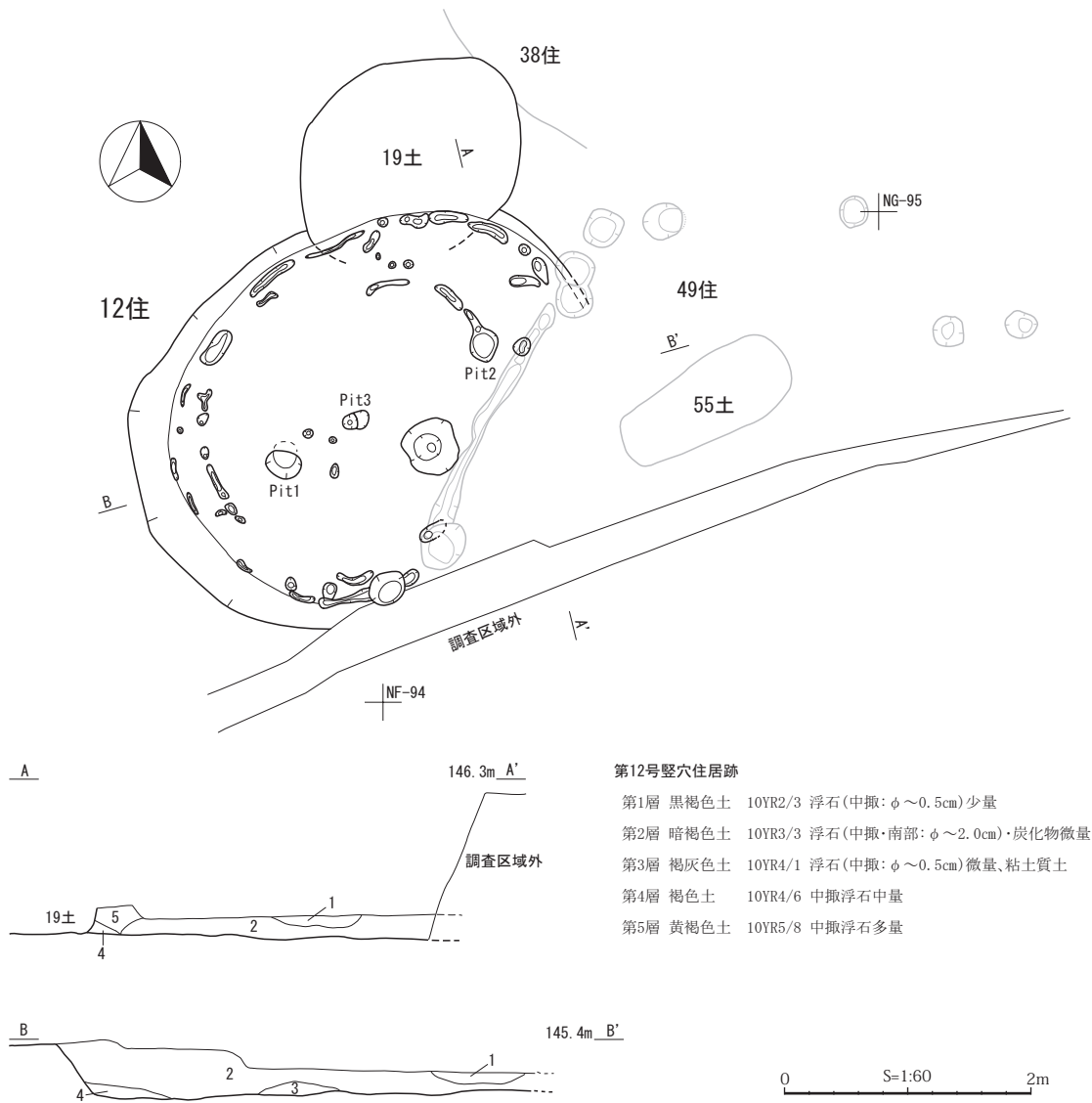


图15 第12号a·b竖穴住居跡(1)

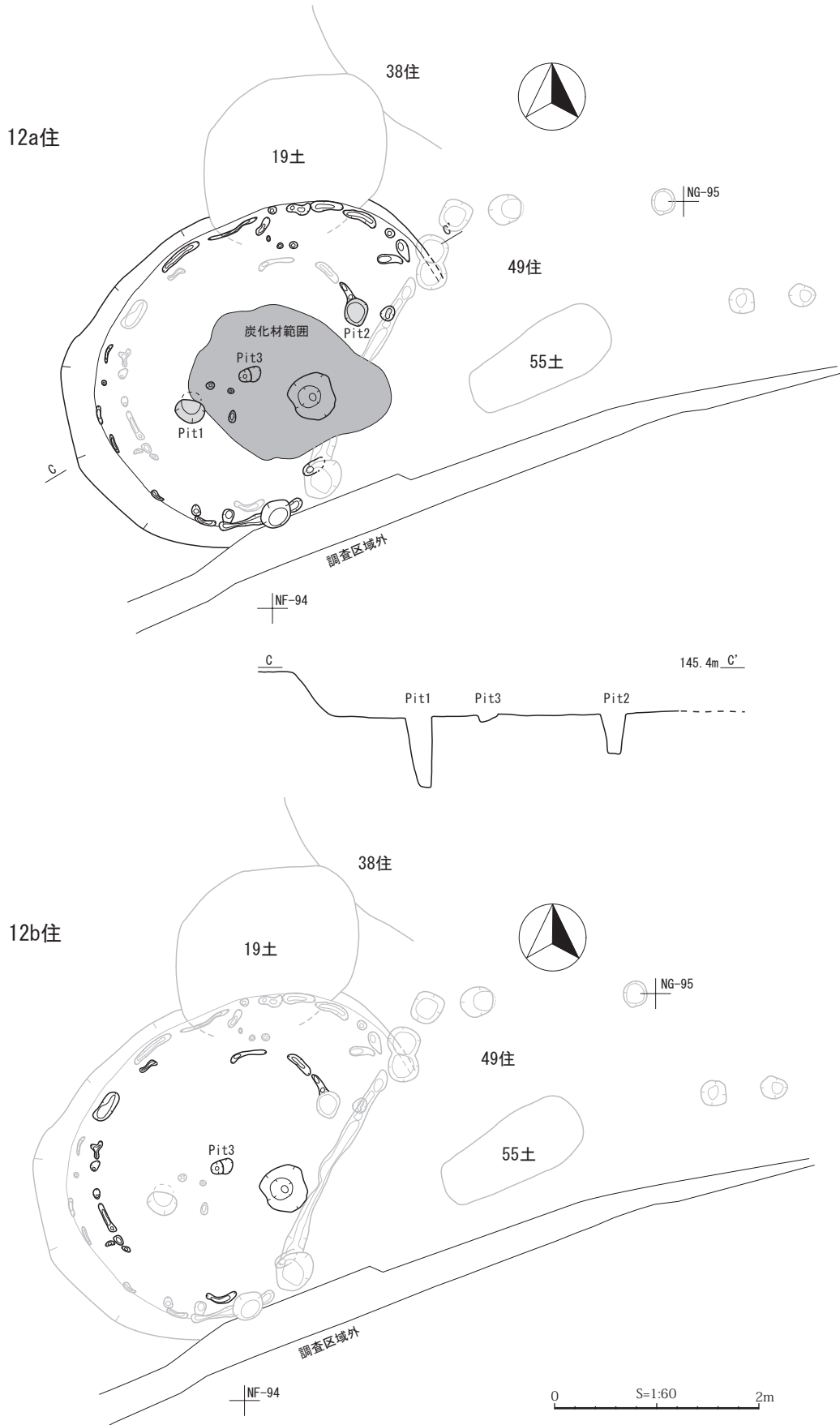


図16 第12号a・b竪穴住居跡(2)

第13号 a 竪穴住居跡 (図17～19)

〔位置〕 調査区東側の NI～NK-96・97グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に壁柱穴列を確認した。北東側で第2号・第19号竪穴住居跡、北西側で第35号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が第2号・第19号住居跡よりも新しく、第35号住居跡より古いと思われる。

〔形態・規模〕 南側は調査区域外のため規模等は不明であるが、検出した壁柱穴列から楕円形の大型住居跡と推定される。

〔壁・床面〕 土層断面図で確認できる壁の高さは約50cm、床面から傾斜角70度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約40.7㎡、軸方向は N-28°-E である。

〔ピット〕 多数のピットを床面から検出した。ピットは壁柱穴と考えられるものがほとんどであり、30～60cmの間隔で住居跡の壁際に廻ると思われが、一部プランを同じにする壁柱穴と重複していると考えられるピットもみられる。また、本住居跡の支柱穴は、ピット125(49土)(深さ118cm)とピット18(深さ95cm)で、いずれも大型の柱穴である。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、第2層は暗褐色土の貼り床の層が確認されている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～126・129～132・134～155・157・159～197・200・202・204～232・236～487)、石器(S1～24・26～96)、軽石(K1～9)、種子(MTS1～3)とピット125から土器片(P1～19)と軽石(K1)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に廃棄されたと考えられる。

第13号 b 竪穴住居跡 (図17～19)

〔位置〕 調査区東側の NJ・NK-96グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第13号 a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁柱穴列を確認した。

〔形態・規模〕 南側は調査区域外のため規模および平面形は不明である。

〔壁・床面〕 第13号 a 竪穴住居跡と貼り床下から検出したため壁は確認できなかった。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約8.3㎡である。

〔ピット〕 床面から壁柱穴と思われる柱穴列を検出した。直径15cm前後、深さ約10～35cmの柱穴が30～80cmの間隔で住居跡の壁際に廻ると思われる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 住居跡としての堆積土は確認できなかったが、柱穴列の埋土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期後半以前に構築されたと考えられる。

第13号c 竪穴住居跡 (図17～19)

〔位置〕 調査区東側のNI～NK-96・97グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第13号a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁柱列を確認した。北西側で第35号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古いと思われる。

〔形態・規模〕 南側は調査区域外のため規模等は不明であるが、検出した壁柱穴列から円形あるいは楕円形と推定される。

〔壁・床面〕 第13号a 竪穴住居跡の貼り床下から検出したため壁は確認できなかった。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約31.6㎡である。

〔ピット〕 多数のピットを床面から検出した。ピットは壁柱穴と考えられるものがほとんどであり、50～130cmの間隔で住居跡の壁際に廻ると思われるが、一部プランを同じにする壁柱穴と重複していると考えられるピットもみられる。また、ピット126(56土)(深さ78cm)が支柱穴と考えられる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 住居跡としての堆積土は確認できなかったが、柱穴列の埋土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 本住居跡に伴うと思われる遺物はピット126から土器の破片(P1・2)と石器(S1・2)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半以前に構築されたと考えられる。

第13号d 竪穴住居跡 (図17～19)

〔位置〕 調査区東側のNI・NJ-95・96グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第13号a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁柱穴列を確認した。西側で第45号土坑と重複し、本住居跡が新しいと思われる。

〔形態・規模〕 南側は調査区域外のため規模等は不明であるが、検出した壁柱穴列から楕円形と推定される。

〔壁・床面〕 土層断面図で確認できる壁の高さは約50cm、床面から傾斜角55度で立ち上がる。検出した床面はほぼ平坦である。残存する床面積は約6.4㎡である。

〔ピット〕 床面から壁柱穴と思われる柱穴列を検出した。直径20～30cm、深さ10～30cmの柱穴が25～50cmの間隔で住居跡の壁際に作られ、一部プランを同じにする壁柱穴と重複しているピットもみられる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

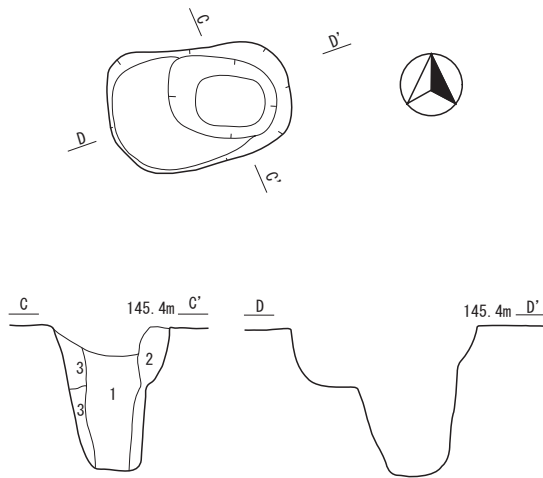
〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、第1層には炭化物が含まれているのが確認されている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期後半以前に構築されたと考えられる。

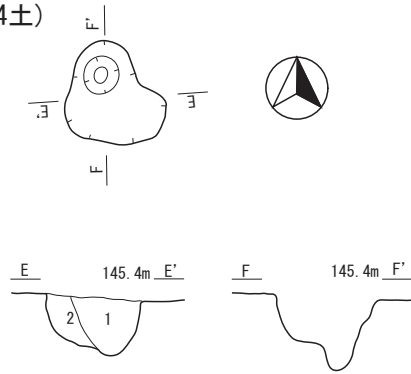
Pit125 (49土)



Pit125 (第49号土坑)

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中撮・南部: $\phi \sim 3.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(南部: $\phi \sim 3.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第3層 褐色土 10YR4/6 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量(シルト質土)

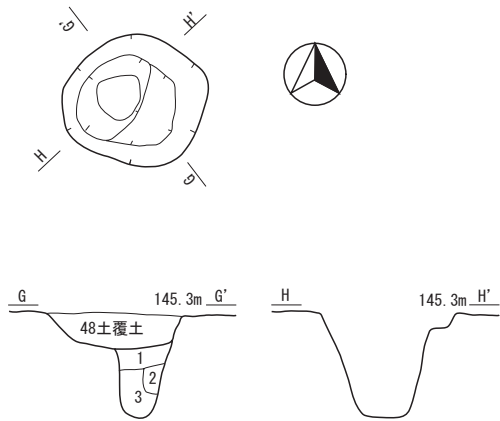
Pit127 (54土)



Pit127 (第54号土坑)

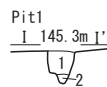
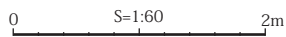
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量、炭化物極微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量(粘土質土)

Pit126 (56土)



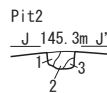
Pit126 (第56号土坑)

- 第1層 褐色土 10YR4/6 浮石(南部: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量(シルト質土)
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 浮石(南部: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量(粘土質土)
- 第3層 褐色土 10YR4/4 浮石(中撮: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量



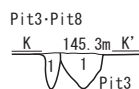
Pit1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2
浮石(南部: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)極少量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2
浮石極少量



Pit2

- 第1層 中撮浮石多量
黒色土10YR2/1微量
- 第2層 黒色土 10YR2/1
浮石(中撮: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)極少量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中撮・南部 $\phi \sim 1.0\text{cm}$)極少量

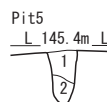


Pit3

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中撮・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)極少量

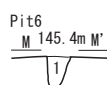
Pit8

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中撮・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)極少量



Pit5

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中撮・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)極微量
- 第2層 黒色土 10YR2/1
浮石(中撮: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)極微量



Pit6

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2
浮石(中撮・南部: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)極微量

図18 第13号竪穴住居跡 (2)

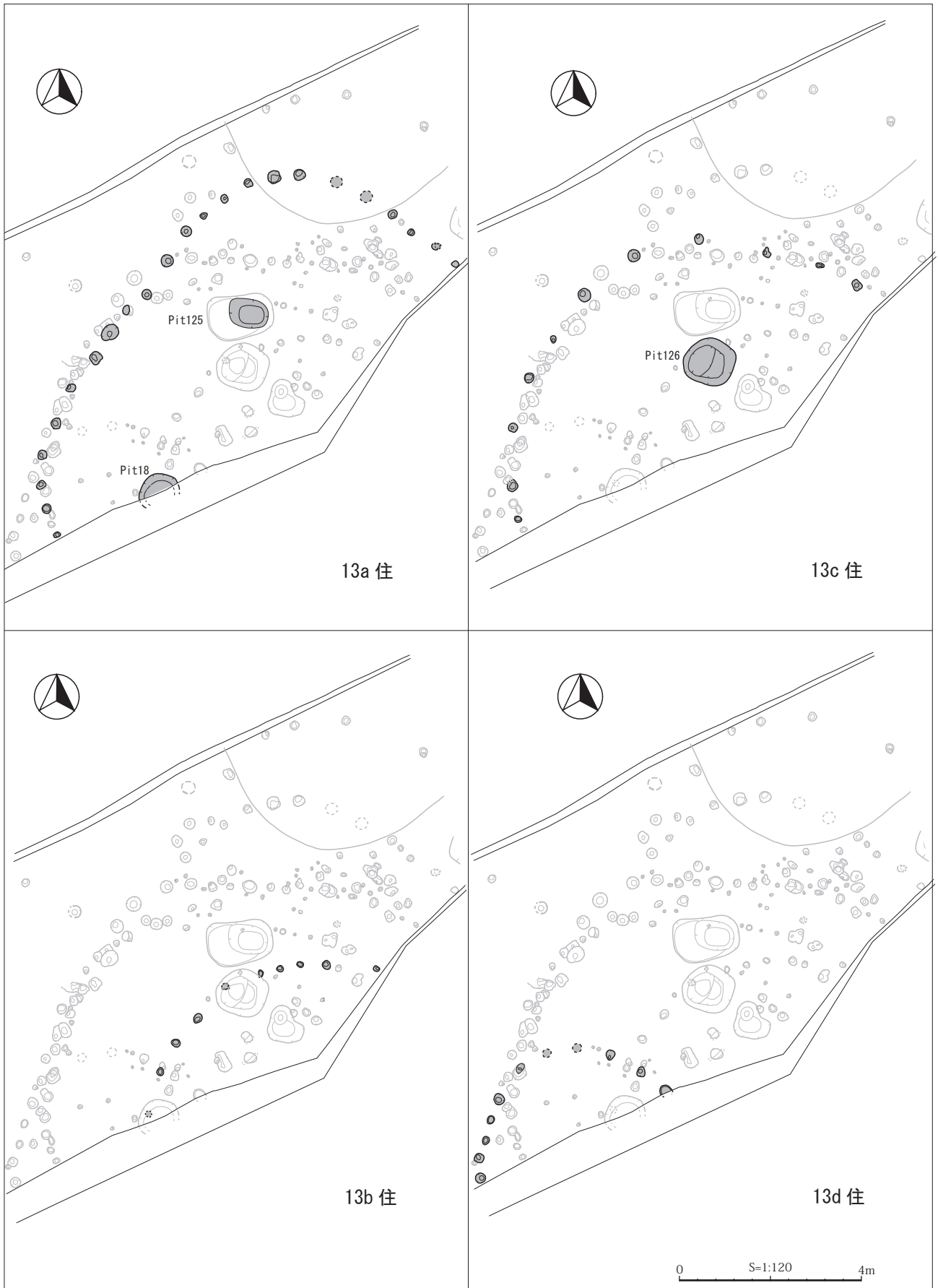


図19 第13号竪穴住居跡 (3)

第14号竪穴住居跡 (図20)

[位置] 調査区東側のNF-95、NG-94～96、NH-95・96グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集区域を掘り下げ中に壁溝と柱穴列を確認した。北東側で第4号b・c竪穴住居跡、直下で第33号竪穴住居跡、西側で第38号竪穴住居跡、直上で第50号～第53号土坑と重複し、第4号b住居跡よりも古く、第4号c・第33号・第38号住居跡、第50号～第53号土坑よりは新しい。

[形態・規模] 確認できた壁溝と柱穴から、規模は長径約7m50cm、短径約5mの長方形と推定される。

[壁・床面] 壁は確認できなかった。床面はほぼ平坦で、堅く締まり、北側から南側の一部にかけて幅10～25cm、深さ5～30cmの壁溝が検出されている。床面積は約31.8㎡、軸方向はN-32°-Eである。

[ピット] ピットは壁際を中心として検出し、ピット2(深さ38cm)、ピット3(深さ47cm)、ピット11(深さ83cm)、ピット4(深さ68cm)、ピット6(深さ65cm)、ピット5(深さ41cm)、ピット9(深さ32cm)、ピット7(深さ35cm)、ピット8(深さ35cm)、ピット12(深さ38cm)、ピット10(深さ47cm)、ピット13(深さ30cm)、ピット14(深さ38cm)の13基が、60cm～2mの間隔で壁際に廻ると思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 本住居跡としての堆積土は確認できなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～90)と石器(S1～22)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半以前に構築されたと考えられる。

第15号竪穴住居跡 (図21)

[位置] 調査区東側のNE-95グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。竪穴住居跡の北西側は調査区域外である。

[形態・規模] 北西側は調査区域外であるが、調査部分から平面形は直径約2m80cmのほぼ円形と推定される。

[壁・床面] 残存している南壁の高さは約50cm、床面から傾斜角67度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっており、中央部に炭化材の範囲が認められる。残存する床面積は約3.7㎡である。

[ピット] ピットは壁際に沿った壁溝から検出した。いずれも深さが約8～15cmで壁柱穴と思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第2層が貼床の堆積土と考えられる。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～45)と石器(S1・2)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

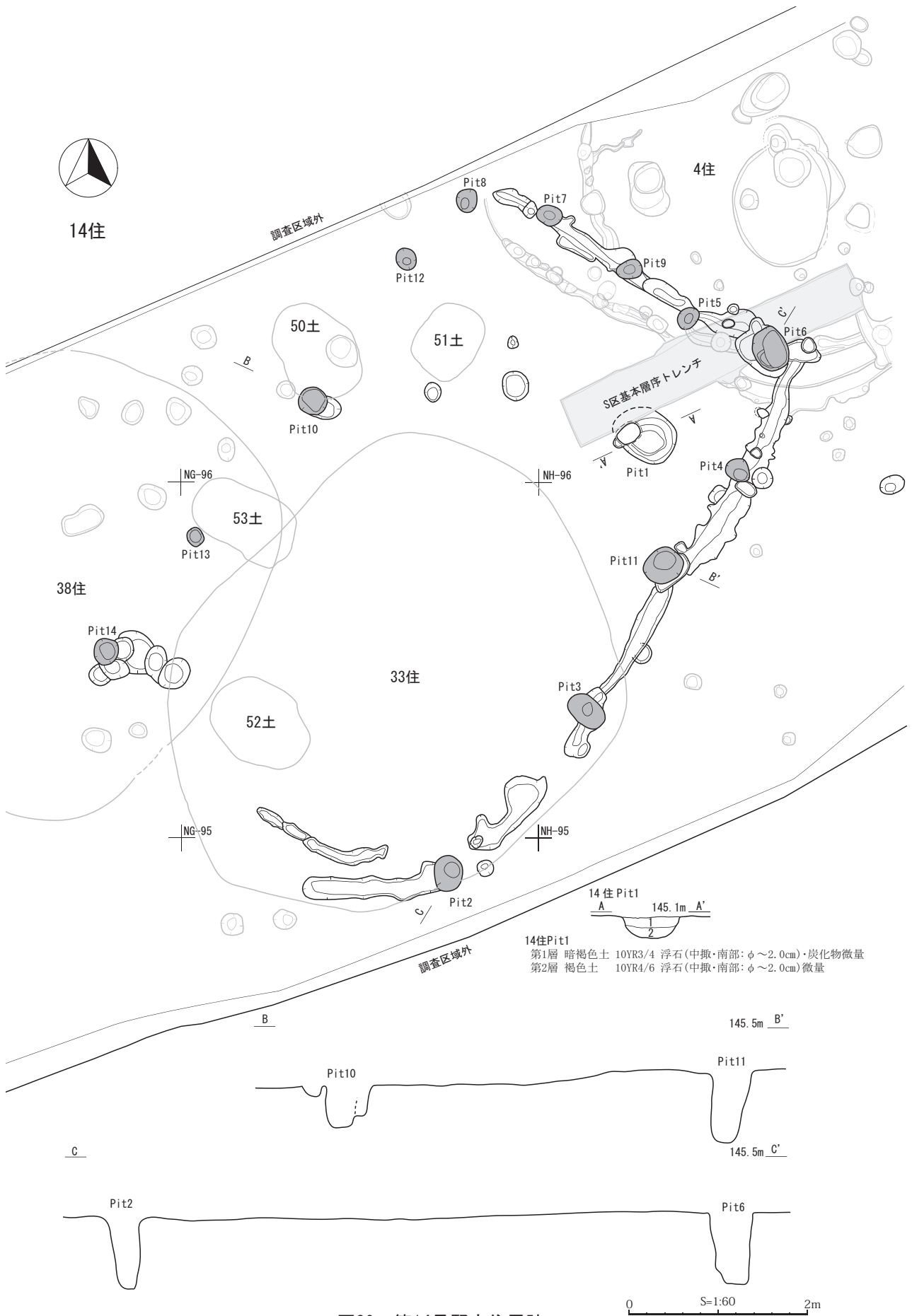
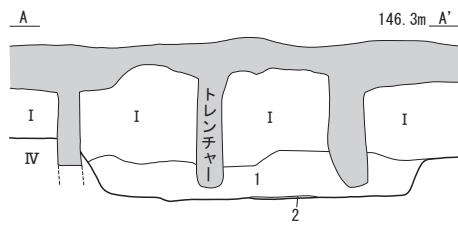
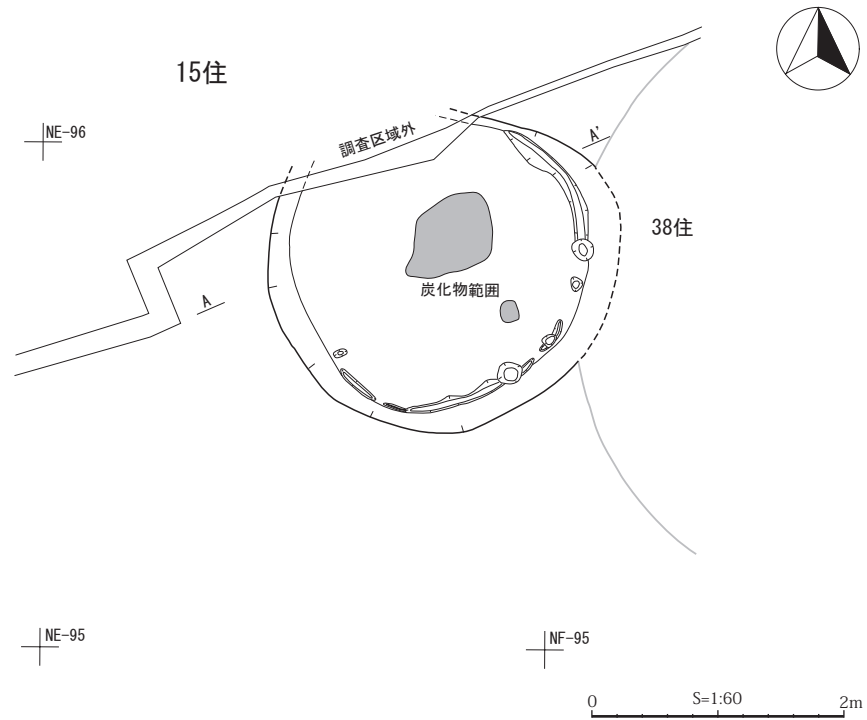


図20 第14号竪穴住居跡



第15号竪穴住居跡

第1層 黒褐色土 10YR2/3

浮石(中礫: $\phi \sim 3.0\text{cm}$)少量、炭化物微量

第2層 黒色土 10YR2/1 炭化物層



図21 第15号竪穴住居跡

第16号 a 竪穴住居跡 (図22～24)

[位置] 調査区中央部の MV～MX-90～91グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第24号・第29号土坑、東側で第37号・第38号土坑と重複し、本住居跡は第24号土坑よりも古い、ほかの土坑よりは新しい。

[形態・規模] 南東側は調査区域外であるが、調査部分から推定して長径約7mの楕円形と思われる。

[壁・床面] 確認された壁の高さは約70cm、床面から傾斜角63度で立ち上がる。床面はやや起伏がみられるが、堅く締まっている。壁際には幅10～15cm、深さ15～35cmの壁溝が確認されている。残存する床面積は約19.7㎡、軸方向はN-62°-Eである。

[ピット] ピットは壁際を中心として検出したが、中央部のピット2(深さ32cm)、ピット8(深さ28cm)、ピット10(深さ31cm)、ピット13(深さ446cm)、ピット7(深さ67cm)、ピット12(深さ51cm)の6基が支柱穴と考えられる。壁際で検出した壁柱穴(深さ30～50cm)は、およそ20cm～50mの間隔で壁際に廻ると思われるが、本住居跡に伴わないと思われる壁際のピットも多くみられ、それらは同一プランの重複する住居跡のものと想定される。

[炉] 住居跡の中央部に土器埋設炉を検出した。直径約45cmの円形の掘り方に口縁部と底部の欠損した深鉢土器を正位に埋設している。東側に赤褐色土の焼土範囲がみられ、かなり強い被熱を受けており、本住居跡の構築以前の第16号 b 住居跡の炉と思われる。土器内の充填土は上層に黒褐色土、下層に明赤褐色土で、いずれにも炭化物と焼土粒が含まれている。掘り方はシルト質の暗褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 堆積土は7層に分層され、第1層～第3層・第6層・第7層に炭化物が含まれている。第4層は中振浮石層の崩落土と思われる。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～66、Pit7:P1)と石器(S1～53)、軽石(K1・2)、土偶(C-1・2)、が、炉跡から土器の破片(P1～33)と石器(S1～3)、炭化物(MS1～4)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

第16号 b 竪穴住居跡 (図22・25)

[位置] 調査区中央部の MV～MX-90～91グリッドに位置している。

[検出状況] 第16号 a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁溝と壁柱穴を確認した。

[形態・規模] 南東側は調査区域外であるが、確認できた壁溝から長径約5m60cmの楕円形と思われる。

[壁・床面] 壁は南西側から西側にかけては残存しないが、北側から東側にかけて第16号 a 住居跡の壁と同一のプランとなるため、壁の高さは約70cmほどと考えられる。床面は第16号 a 住居跡とほぼ同じレベルで、堅く締まっている。壁際の西側から東側にかけて幅10～15cm、深さ8～20cmの壁溝が確認されているが、北側から東側にかけては第16号 a 住居跡の壁溝と重複しているものとみられる。残存する床面積は約17.2㎡、軸方向はN-65°-Eである。

[ピット] 支柱穴は第16号 a 住居跡の北よりに確認され、ピット14(深さ29cm)、ピット15(深さ80cm)、ピット10(深さ31cm)、ピット1(深さ44cm)、ピット6(深さ68cm)、ピット11(深さ25cm)の6基と思われる。第16号 a 住居跡と同様に、北側から東側の壁溝内のピットは、本住居跡に伴うものと同一プランの重

複する住居跡のものと考えられる。

[炉] 住居跡の中央部から西よりに土器埋設炉と思われる焼土範囲と埋設土器の破片を検出した。西側の大部分を重複する第16号 a 住居跡の土器埋設炉によって削平されているため、掘り方は不明だが、深鉢土器の胴部破片を埋設している。東側の焼土範囲はかなり強い被熱を受けたと思われる。

[堆積土] 第16号 a 住居跡とほぼ同じレベルで検出されているため、本住居跡の堆積土を確認することはできなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 炉跡から土器の破片(P1～16)と種子(T1)、壁溝から土器の破片(P1・2)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

第16号 c 竪穴住居跡 (図22・26)

[位置] 調査区中央部の NV～NX-90～91グリッドに位置している。

[検出状況] 第16号 b 竪穴住居跡の床面を精査中に土器埋設炉と壁柱穴列を確認した。

[形態・規模] 確認できた壁溝から長径約4m60cmの楕円形と思われる。

[壁・床面] 北側は重複する第16号 a・b 住居跡の壁と同一のプランと考えられ、壁の高さは約70cmほどあると思われる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。床面積は約12.7㎡である。

[ピット] ピットは壁柱穴列が確認できた。深さは6～24cmで、西側の一部を除いてほぼ一巡するものと思われる。

[炉] 住居跡のほぼ中央部に土器埋設炉を検出した。直径約45cmの円形の掘り方に深鉢土器の胴部を埋設している。土器内の充填土は上層に黒褐色土と暗褐色土、下層に明赤褐色土の焼土層で、いずれにも炭化物や焼土粒が含まれている。掘り方は南部浮石が含まれる黒褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 本住居跡の堆積土を確認することはできなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 壁溝から土器の破片(P1～11)と石器(S1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

第17号竪穴住居跡 (図27)

[位置] 調査区中央部の MU・MV-90グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北側で第28号土坑と重複し、本住居跡が古い。

[形態・規模] 南東側は調査区域外のため平面形および規模は不明である。

[壁・床面] 残存している壁の高さは10cmほどである。床面はほぼ平坦で、第IV層に暗褐色の粘土質土を貼り床とし、堅く締まっている。壁際には幅20～30cm、深さ8～16cmの壁溝が確認されている。残存する床面積は約6.3㎡、軸方向はN-56°-Eである。

[ピット] ピットは床面と壁溝内から8基検出し、ピット5(深さ35cm)とピット7(深さ32cm)が支柱穴、壁溝内の壁柱穴は1m10cm～1m20cmの間隔で廻ると思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、第1層と第2層に炭化物が含まれている。

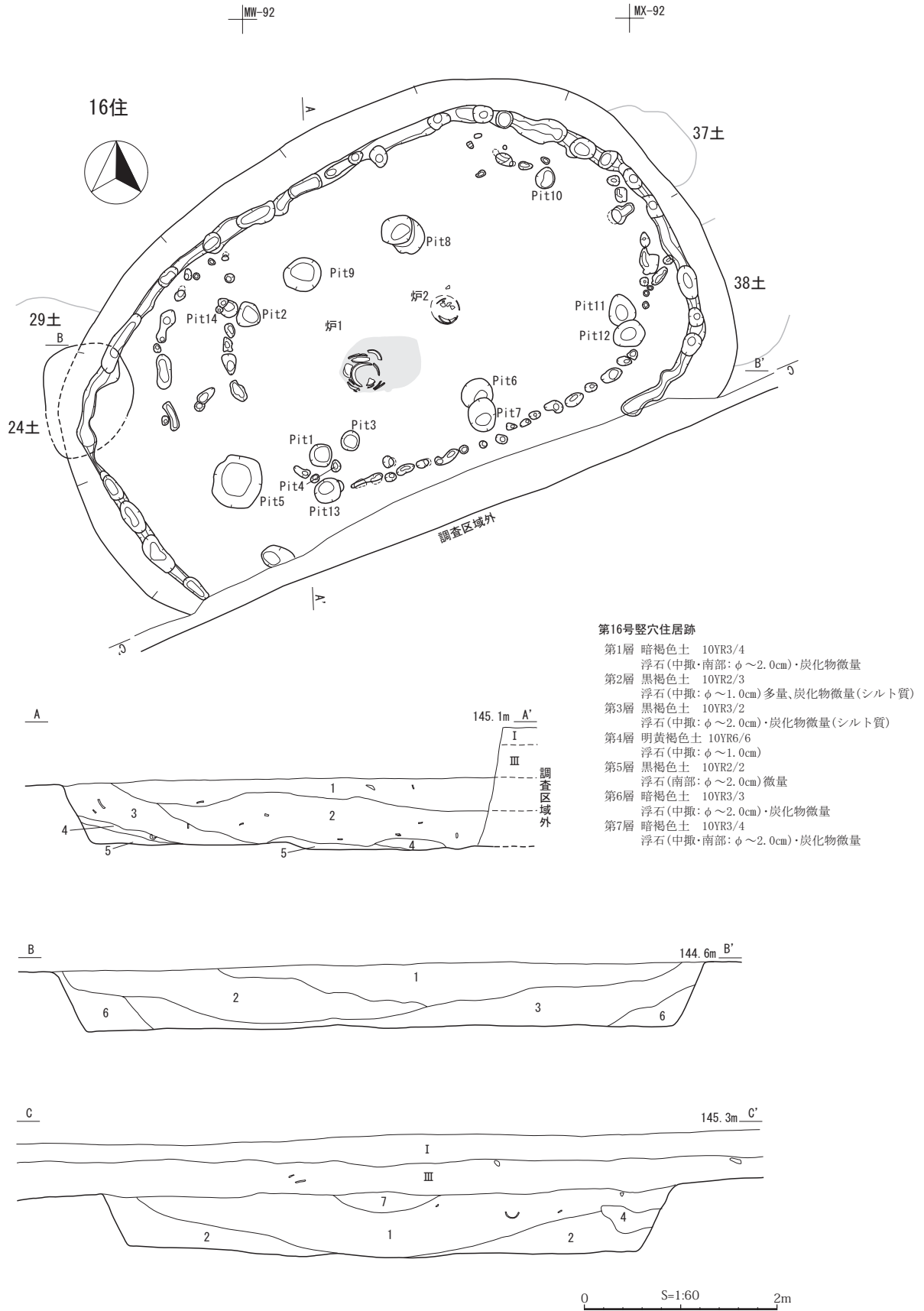


図22 第16号a・b・c竪穴住居跡(1)

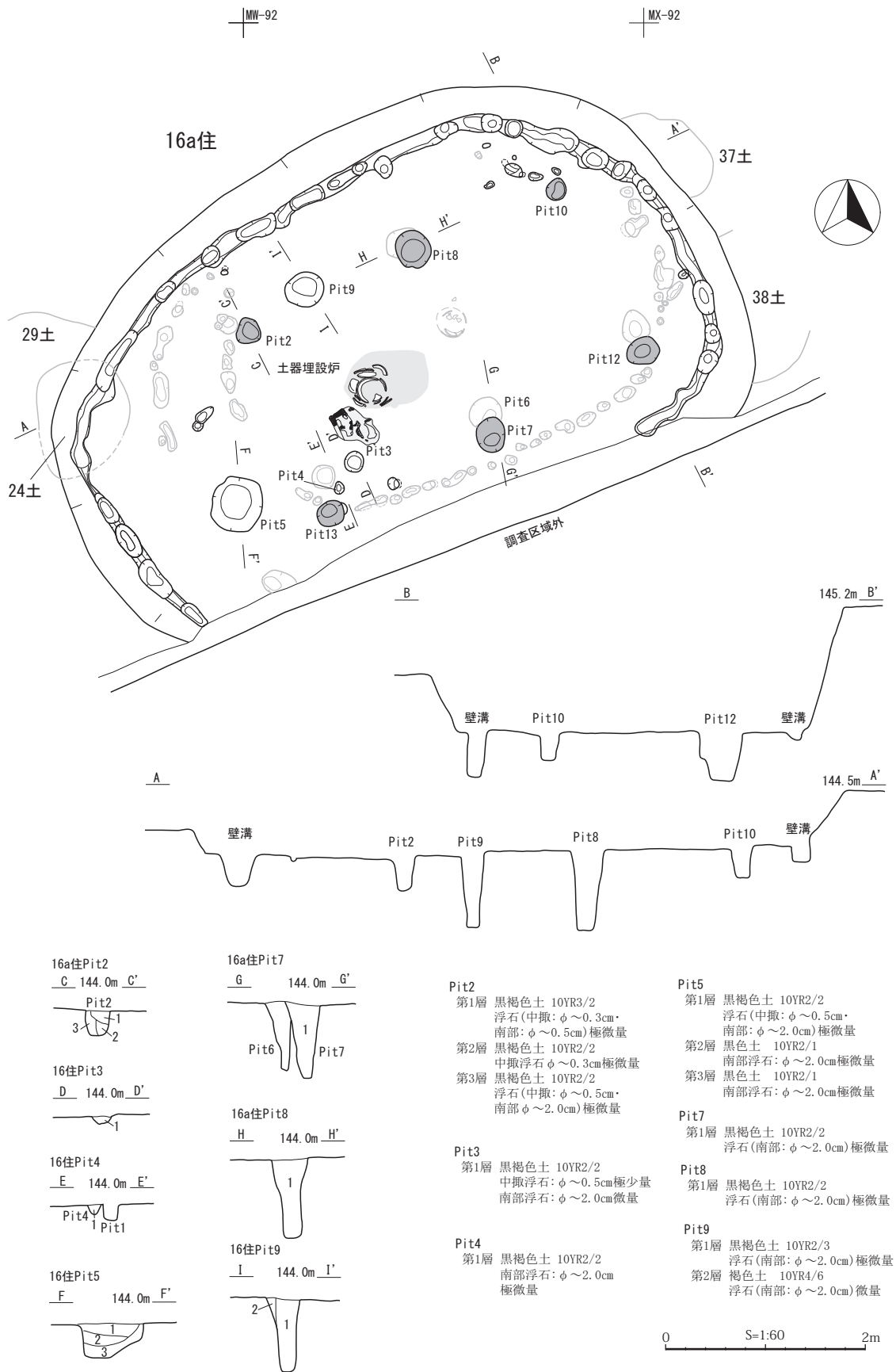
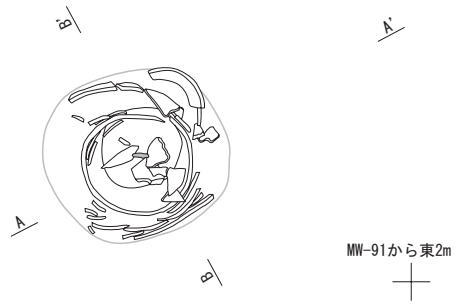
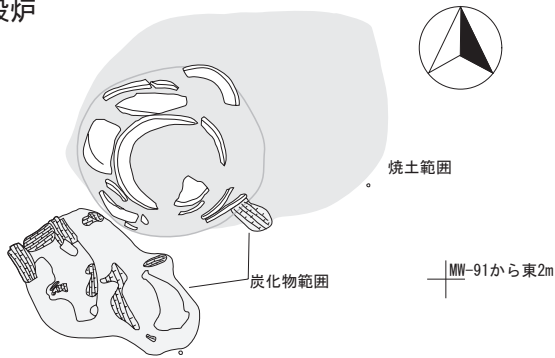
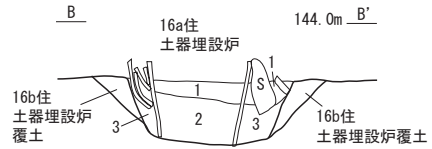
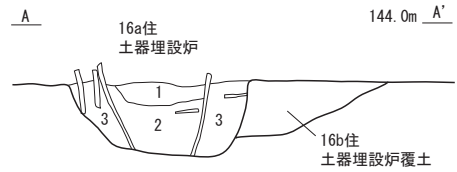
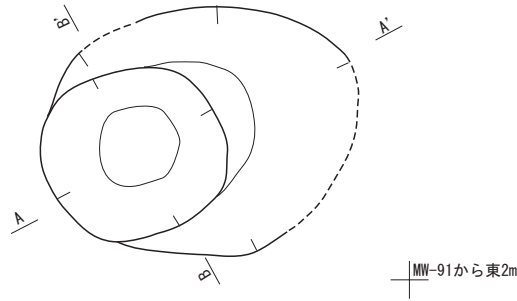


図23 第16号a竖穴住居跡(2)

16a住
土器埋設炉
確認



掘り方



土器埋設炉

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中取: φ~1.0cm)・炭化物微量
- 第2層 明赤褐色土 5YR5/8 浮石(中取: φ~2.0cm)微量(焼土層)
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中取: φ~0.5cm)・炭化物微量

0 S=1:20 1m



図24 第16号a竪穴住居跡 土器埋設炉(3)

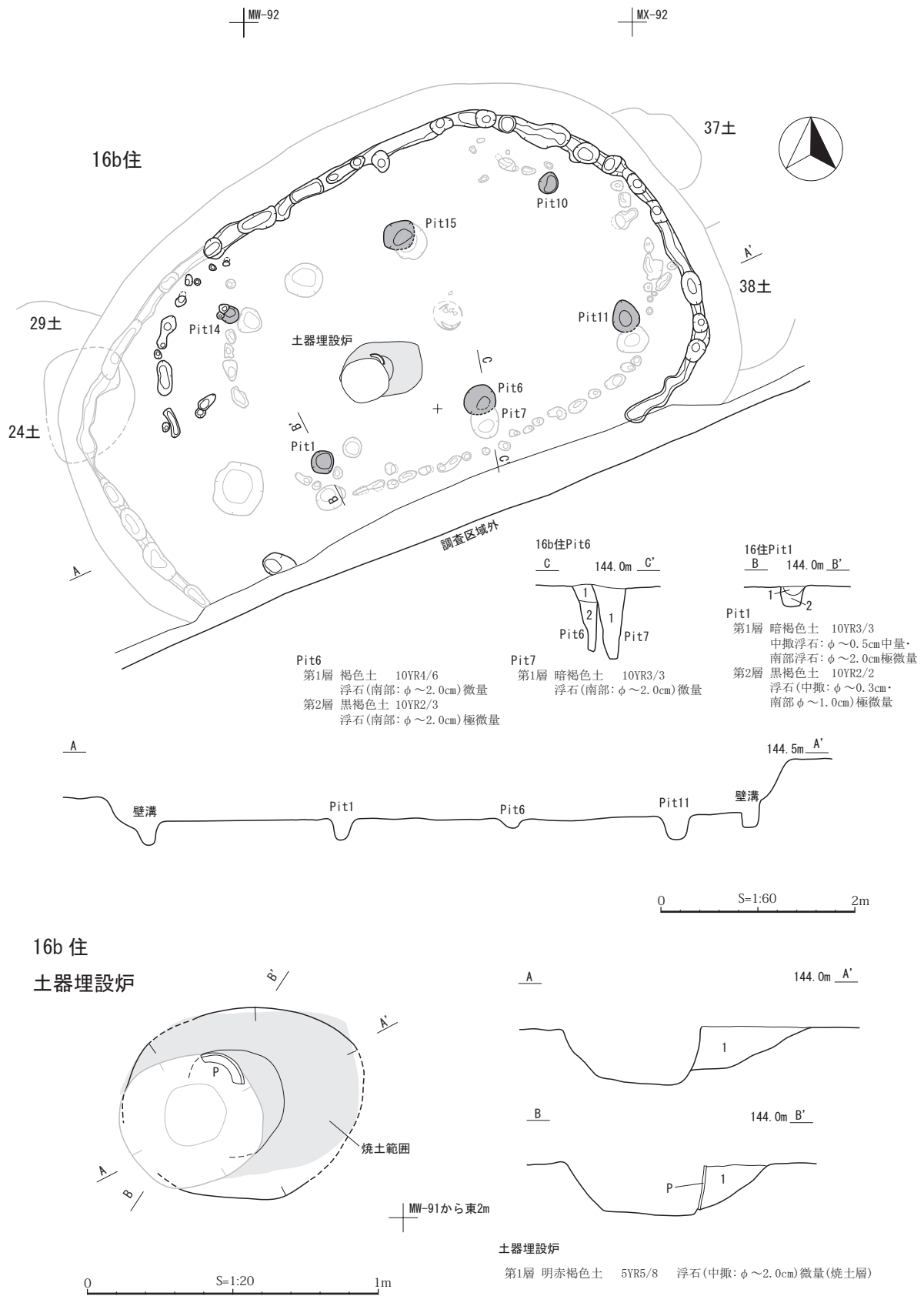
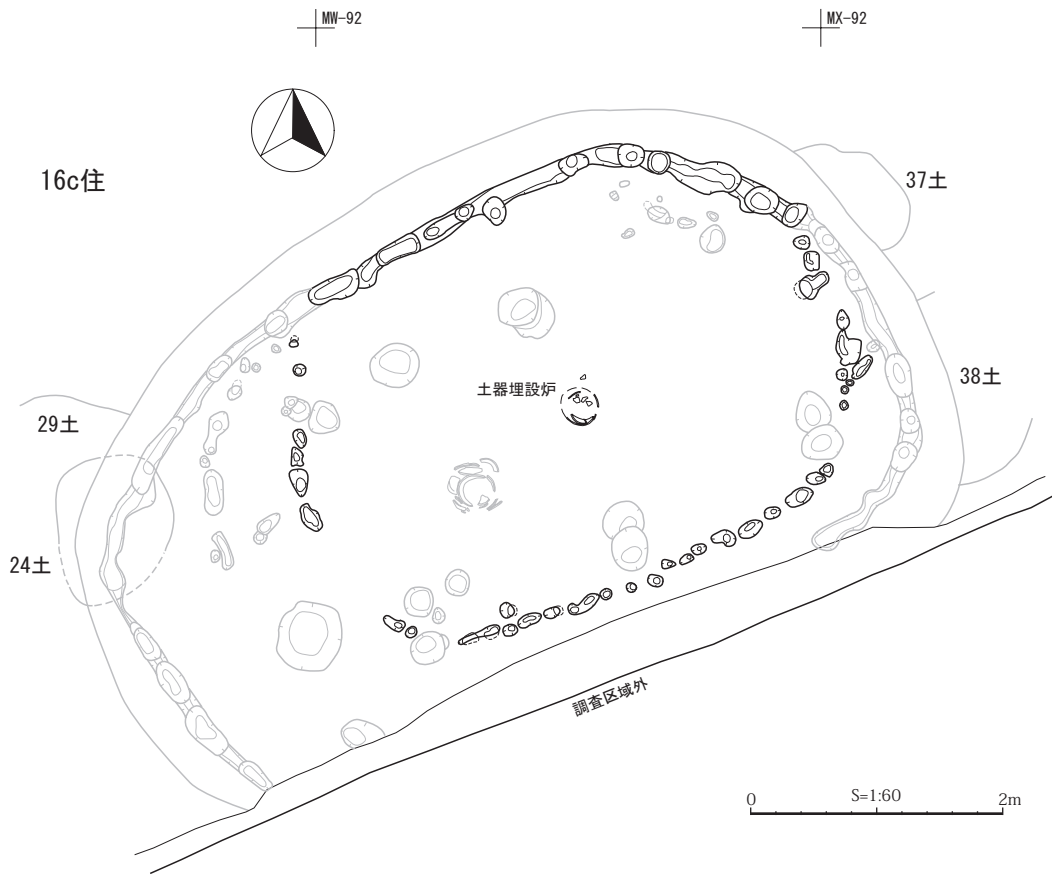
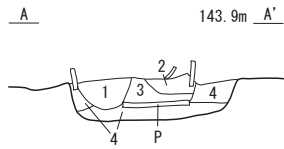
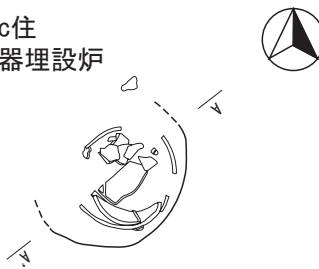


図25 第16号b竪穴住居跡(4)

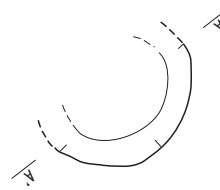


16c住
土器埋設炉



掘り方

MX-91から
西1m北1m



MX-91から
西1m北1m

土器埋設炉

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中撒: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物・焼土粒微量
- 第3層 明赤褐色土 10YR5/8 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)極微量(焼土層)
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量(掘り方)

0 S=1:20 1m

図26 第16号c竪穴住居跡(5)

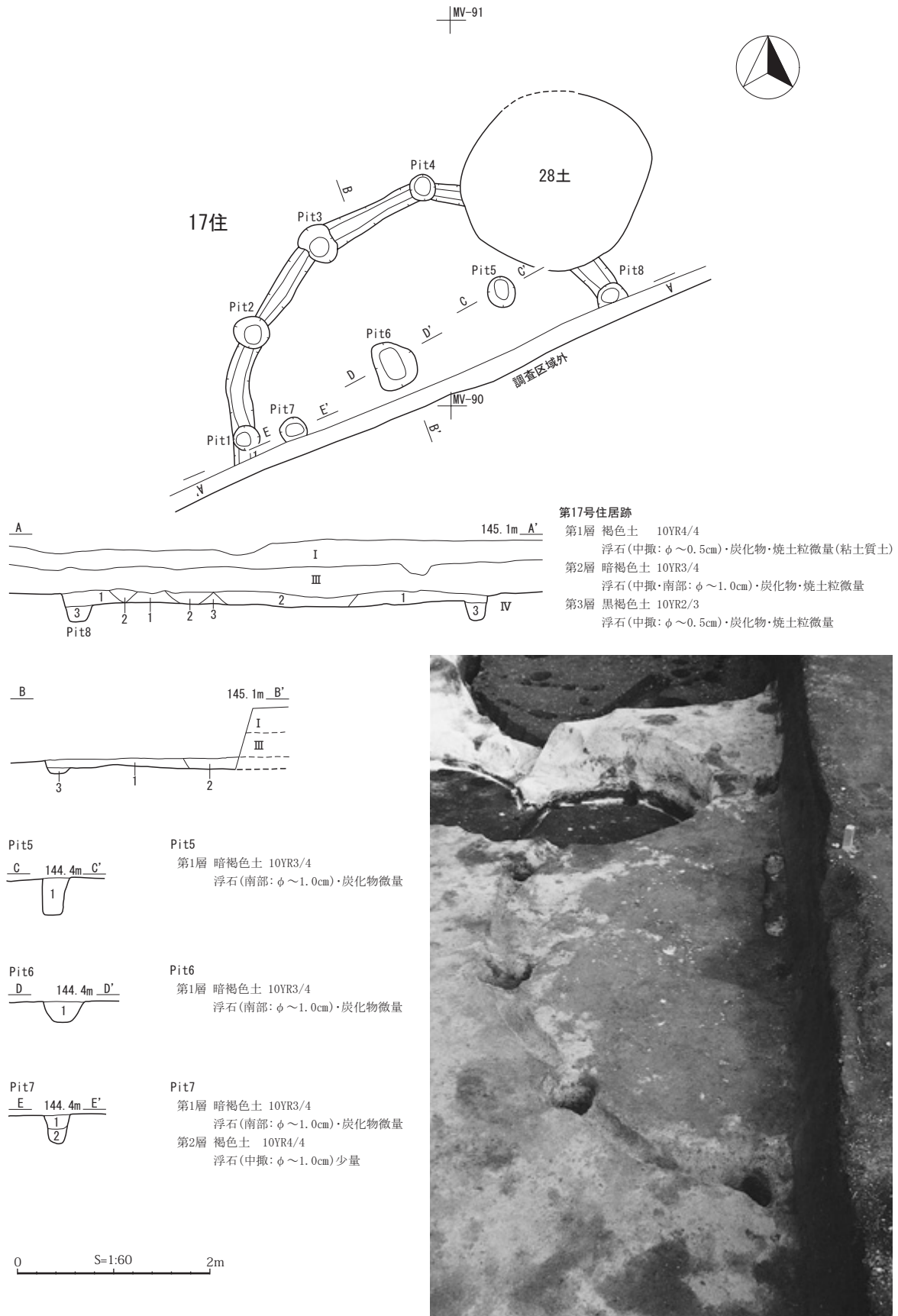


図27 第17号竪穴住居跡

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～4)と石器(S1・2)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第18号 a 竪穴住居跡 (図28～30)

[位置] 調査区中央部のMS・MT-90グリッドに位置している。

[検出状況] 第18号竪穴住居跡の落ち込みを掘り下げて床面と思われる硬化面と土器埋設炉および壁溝を確認した。本住居跡は第18号 b 竪穴住居跡を掘り込んで構築されているため、第18号 b・第18号 c 住居跡よりも新しい。また、遺構上部は第37号竪穴住居跡によって掘り込まれている。

[形態・規模] 規模は検出した壁溝から長径約3m60cm、短径約3m10cm、形態は楕円形と推定される。

[壁・床面] 壁の立ち上がりは確認できなかった。床面は平坦で、堅く締まっており、壁溝は幅10～15cm、深さ5～12cmで西側の一部を除いてほぼ全周する。床面積は約8.7㎡である。

[ピット] ピットは床面と壁溝内から検出した。ピット1は土器埋設炉の西側に検出され、長径約1m25cm、短径約80cm、深さ約20cmである。壁柱穴(深さ15～30cm)は、約70cm～1m20cmの間隔で壁際に沿って廻ると思われる。

[炉] 住居跡のほぼ中央部に土器埋設炉を検出した。径38×34cmの楕円形の掘り方に底部の欠損した深鉢土器を正位に埋設しており、周辺に炭化物の範囲がみられる。土器内の充填土は上層ににぶい黄褐色土、下層は黒褐色土の層で、いずれも微量だが炭化物と焼土粒が含まれている。また、土器内には、扁平の礫(S1)とともに土器片(P1～9)が出土している。掘り方は黒褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 堆積土は6層に分層され、第1層～第3層・第5層・第6層に炭化物が含まれており、第4層は中振浮石の崩落土と思われる。ただ、土層図から本住居跡の堆積層を見出すことができず非常に遺憾な結果となった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P7・41・47・101・121～125・127～136・138～143・149・151)、石器(S17・23・39・44・47～55・60・61・64・67)、軽石(K2)、種子(T2・3)、ピット1から土器片(P1～7)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

第18号 b 竪穴住居跡 (図31・32)

[位置] 調査区中央部のMS～MU-89～91グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で確認し、南西側で第36号竪穴住居跡と第102号土坑、北東側で第13号土坑と重複し、本住居跡が重複するいずれの遺構よりも新しいが、本住居跡を掘り込んで構築されている第18号 a 竪穴住居跡よりは古く、床面から段差と柱穴を検出した第18号 c 竪穴住居跡よりも新しい。

[形態・規模] 北西側の一部が調査区域外であるが、残存部分から長径約6m10cm、短径約5m20cmで、楕円形と推定できる。

[壁・床面] 確認できる壁の高さは約75cm、床面から傾斜角75度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっている。床面積は約22.4㎡、軸方向はN-71°-Eである。

[ピット] ピットは壁際を中心として検出した。主柱穴は、ピット42a(深さ67cm)、ピット46a(深さ64cm)、

ピット48a(深さ37cm)、ピット47a(深さ50cm)と考えられる。壁際で検出された壁柱穴(深さ12～50cm)は、10cm～1mの間隔で壁際に廻ると思われるが、本住居跡に伴わないと思える壁際のピットは同一プランの重複する住居跡の可能性も考えられる。

[炉] 住居跡の中央から東よりに土器埋設炉を検出した。直径約50cmの円形の掘り方に口縁部の欠損した深鉢土器を正位に埋設し、その周辺に3個の礫が配置されている。土器内の充填土は上層に暗褐色土、その下層には赤褐色土の焼土層、最下層は掘り方と同じ暗褐色土で、いずれも微量だが炭化物が含まれている。また、土器内には、礫(S1・2)が出土している。

[堆積土] 堆積土は6層に分層され、第1層～第3層・第5層・第6層に炭化物が含まれており、第4層は中礫浮石の崩落土と思われる。第18号a住居跡同様に土層図からは重複する住居跡を分層できなかつた。

[付属施設] 検出されなかつた。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1・2・8・12～33・42・48～51・55・56・58・59・66～68・70～75・89～95・100・102～113・116～120・122～124・126・137・144～148・150)、石器(S1～5・8～10・14～16・18～21・27～31・33・34・36・37・40・41・43・45・46・53・54・56～59・62・63・65・66)、剥片(HS2～5・9～12)、軽石(K1・3・4)、種子(T1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

第18号c 竪穴住居跡(図33)

[位置] 調査区中央部のMS～MU-89～91グリッドに位置している。

[検出状況] 第18号b竪穴住居跡の床面を掘り下げて床面と南側に広がるテラス状の段差を確認した。本住居跡は第18号a・第18号b竪穴住居跡よりも古い。

[形態・規模] 検出された壁溝から長径約5m10cm、短径4m70cmの楕円形と思われる。

[壁・床面] 東側の壁を除いて第18号b住居跡の壁と同一のプランとなるため、壁の高さは約75cmほどと考えられる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。床面積は約19.2㎡、軸方向はN-71°-Eである。

[ピット] ピットは壁際を中心として検出した。主柱穴は、ピット42b(深さ56cm)、ピット46b(深さ33cm)、ピット48b(深さ37cm)、ピット47b(深さ50cm)と考えられる。壁際で検出された壁柱穴(深さ5～40cm)は、20cm～1mの間隔で壁際に廻ると思われるが、本住居跡に伴わないと思える壁際のピットは同一プランの重複する住居跡の可能性も考えられる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかつた。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認された。

[付属施設] 住居跡の南側に床面より5～7cmほど高く、幅70～80cmのテラス状の部分を検出した。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかつた。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

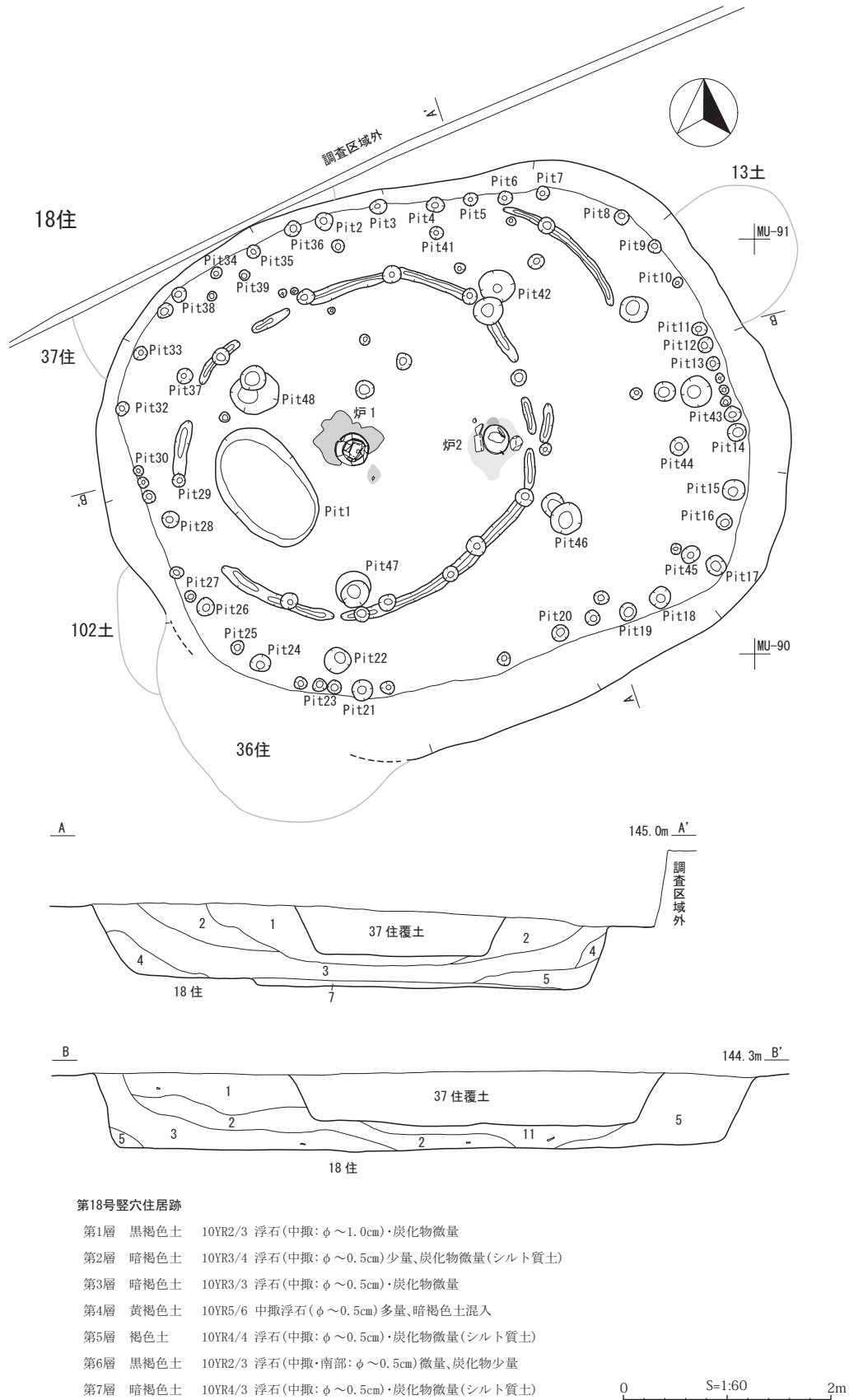
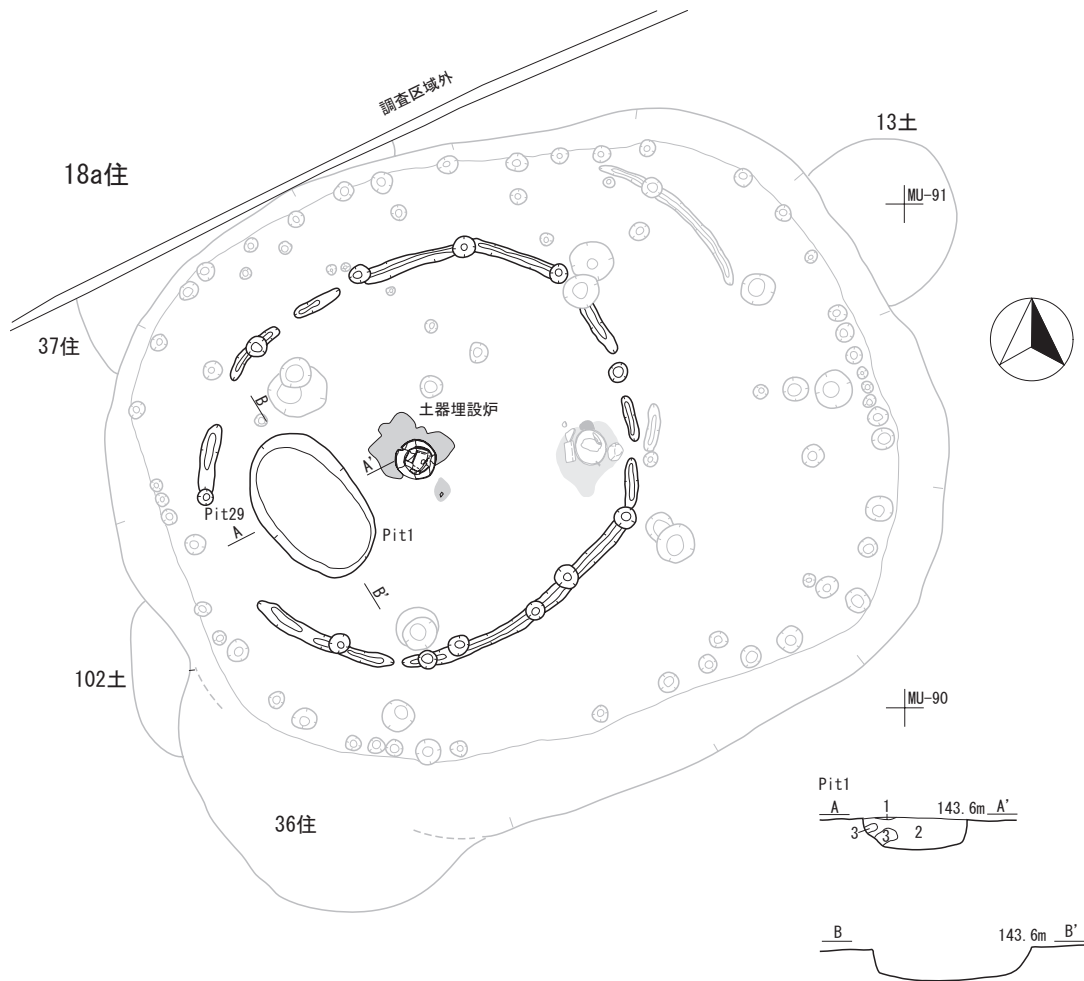


図28 第18号竖穴住居跡(1)



0 S=1:60 2m

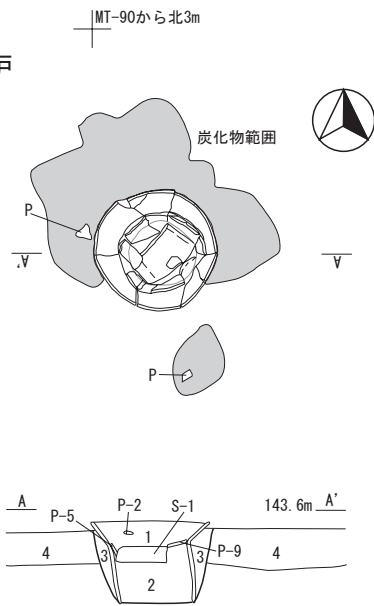
Pit1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 第18号a住居貼床 しまりあり
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 多量、炭化物微量(シルト質土)
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$) 微量

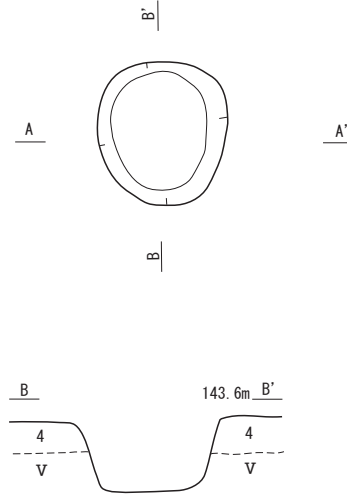


図29 第18号a竖穴住居跡(2)

18a 住
土器埋設炉



掘り方
MT-90から北3m



土器埋設炉

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR5/8 浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量

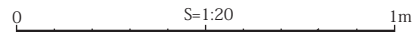


図30 第18号a竪穴住居跡(3)

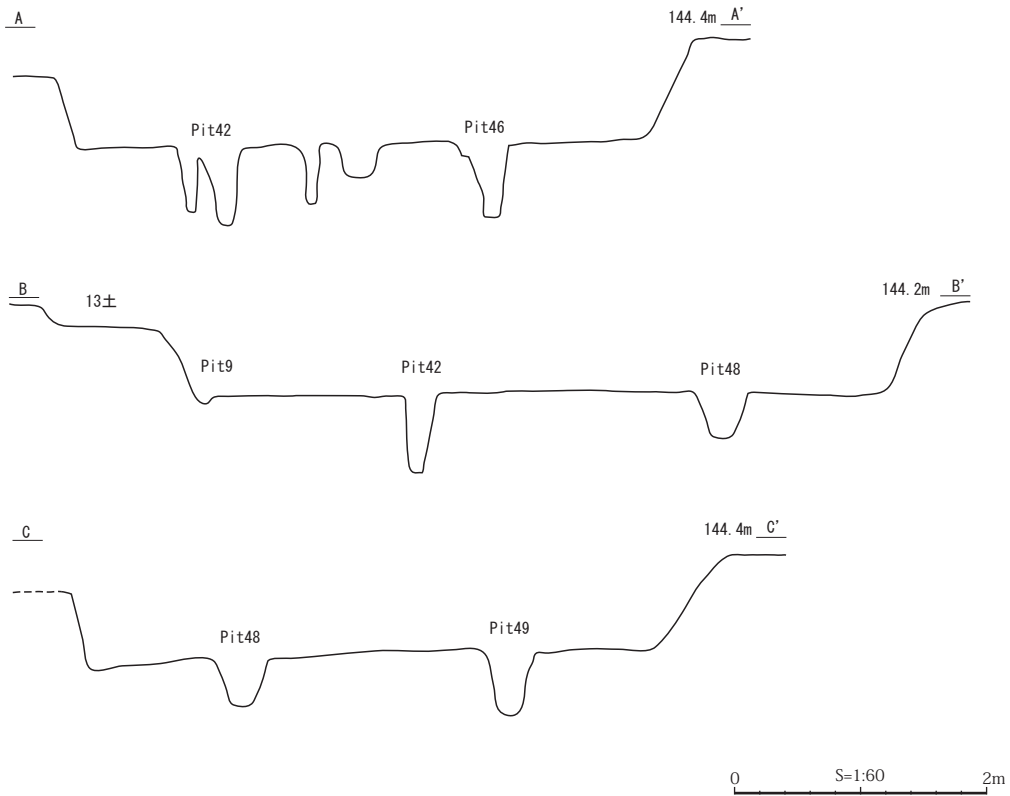
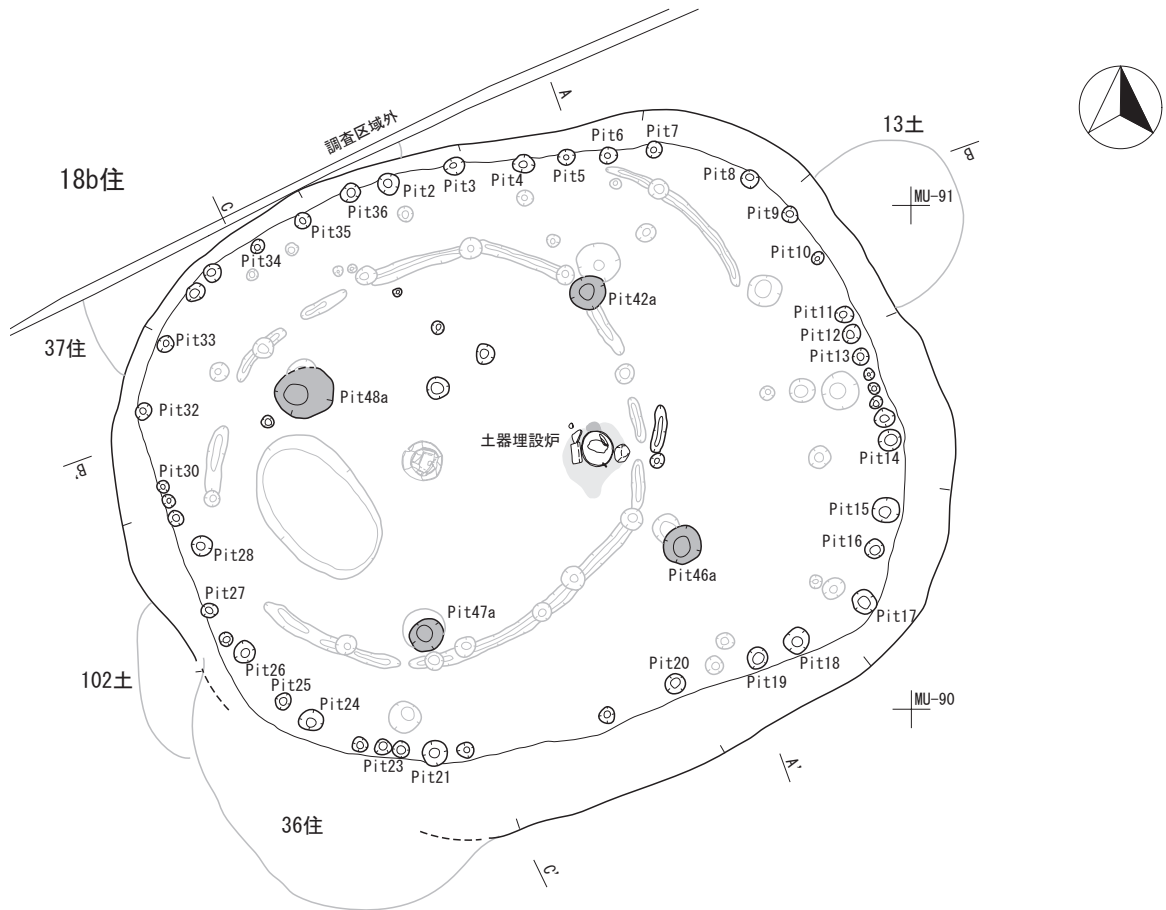


图31 第18号b竖穴住居跡 (4)

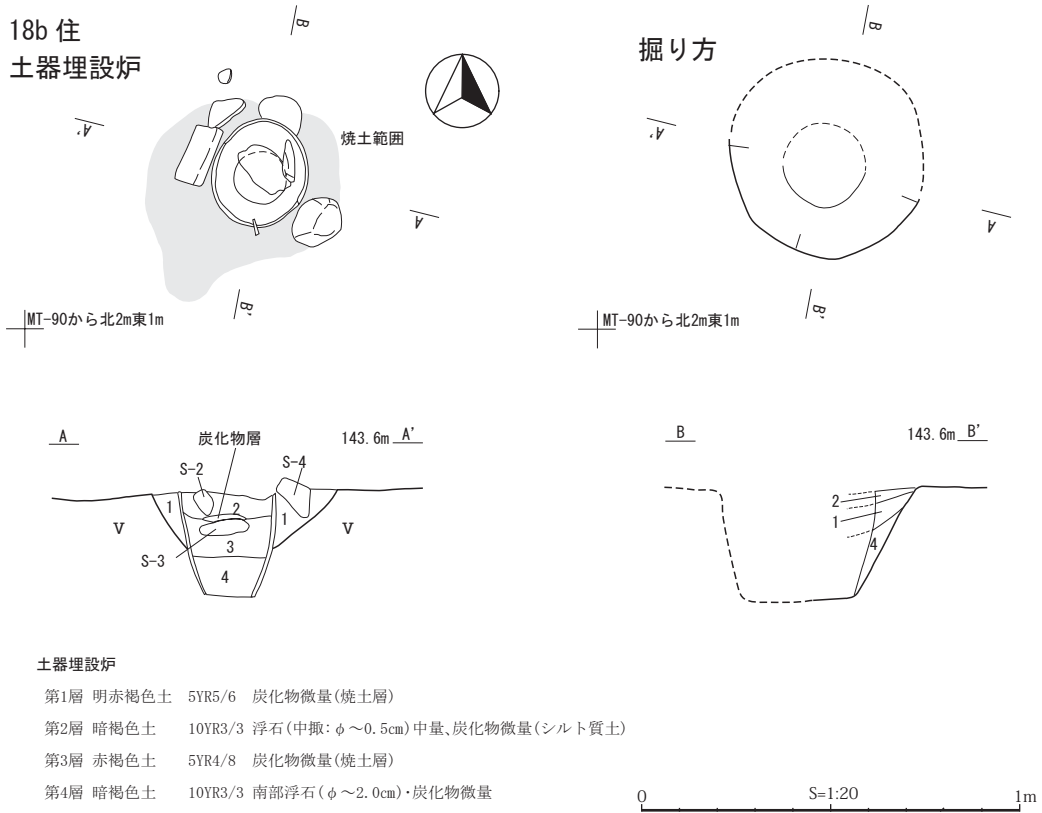


図32 第18号b竖穴住居跡(5)

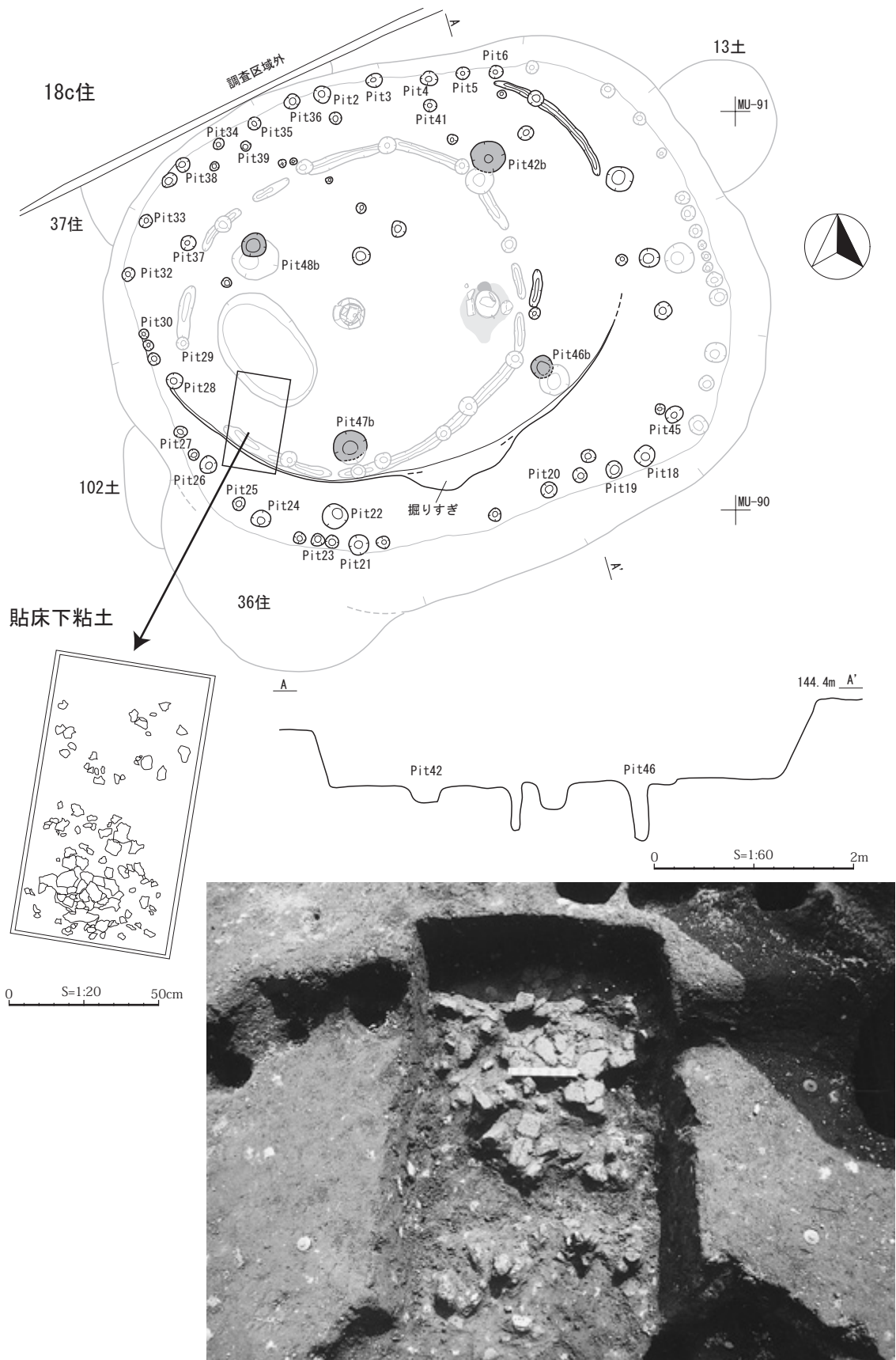


図33 第18号c竖穴住居跡(6)

第19号竪穴住居跡 (図34)

〔位置〕 調査区東側の NJ ～ NL-97・98グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集地域で第Ⅵ層を掘り下げ中に壁柱穴列を確認した。北側で第2号竪穴住居跡と南西側で第13号 a 竪穴住居跡と重複し、本住居跡は第2号住居跡よりも新しく、第13号住居跡より古い。

〔形態・規模〕 南側は調査区域外で、南西側は第13号 a 住居跡と重複するため、平面形および規模は不明である。

〔壁・床面〕 壁は確認できなかった。残存する床面は堅く締まっており、壁際に壁柱穴が並んでいる。残存する床面積は約13.5㎡である。

〔ピット〕 ピットは床面と壁よりに10基検出した。いずれも壁柱穴で痕等が確認されず、用途等については不明である。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 土層断面図で確認できる壁の高さは約50cm、床面から傾斜角75度で立ち上がる。残存する床面はほぼ平坦である。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土等から土器の破片 (P127・128・133・156・158・198・199・201・203・233～235) と石器 (S25) が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後葉以前に構築されたと考えられる。

第20号竪穴住居跡→土坑になったため欠番**第21号竪穴住居跡 (図35)**

〔位置〕 調査区中央部の MY・MZ-91・92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。東側で第26号竪穴住居跡、西側で第35号・第40号・第41号土坑と重複し、本住居跡がいずれの遺構よりも新しい。

〔形態・規模〕 南東側は調査区域外のため規模は不明であるが、調査した部分から長方形と推測される。

〔壁・床面〕 壁の高さは約60cm、床面から傾斜角80度で立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、堅く締まっている。北西から北東の壁際には幅10～15cm、深さ8～26cmの壁溝を検出し、壁溝中には深さ約8cm～48cmの壁柱穴みられ、住居跡の壁際を廻るものと思われる。残存する床面積は約7.0㎡、軸方向は N-21°-E である。

〔ピット〕 ピットは床面から2基検出し、ピット1(深さ69cm)・ピット2(深さ55cm)が主柱穴と思われる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、各層に浮石が含まれている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片 (P26・28～142)、石器 (S5～7・9・10・16～32)、軽石 (K3)、石製品 (CS1)、骨 (B3・4)、種子 (T1・2) が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後葉に廃棄されたと考えられる。

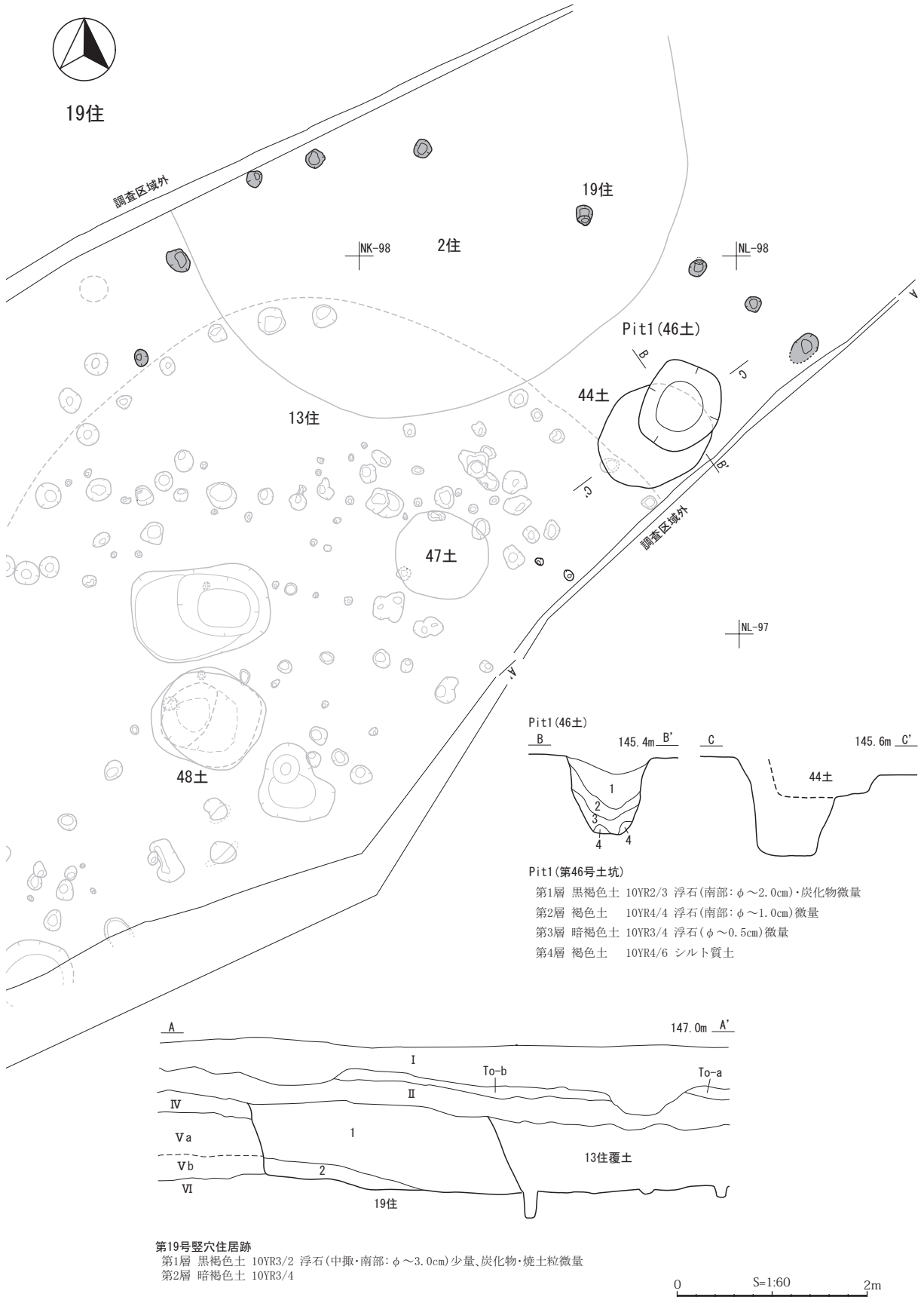
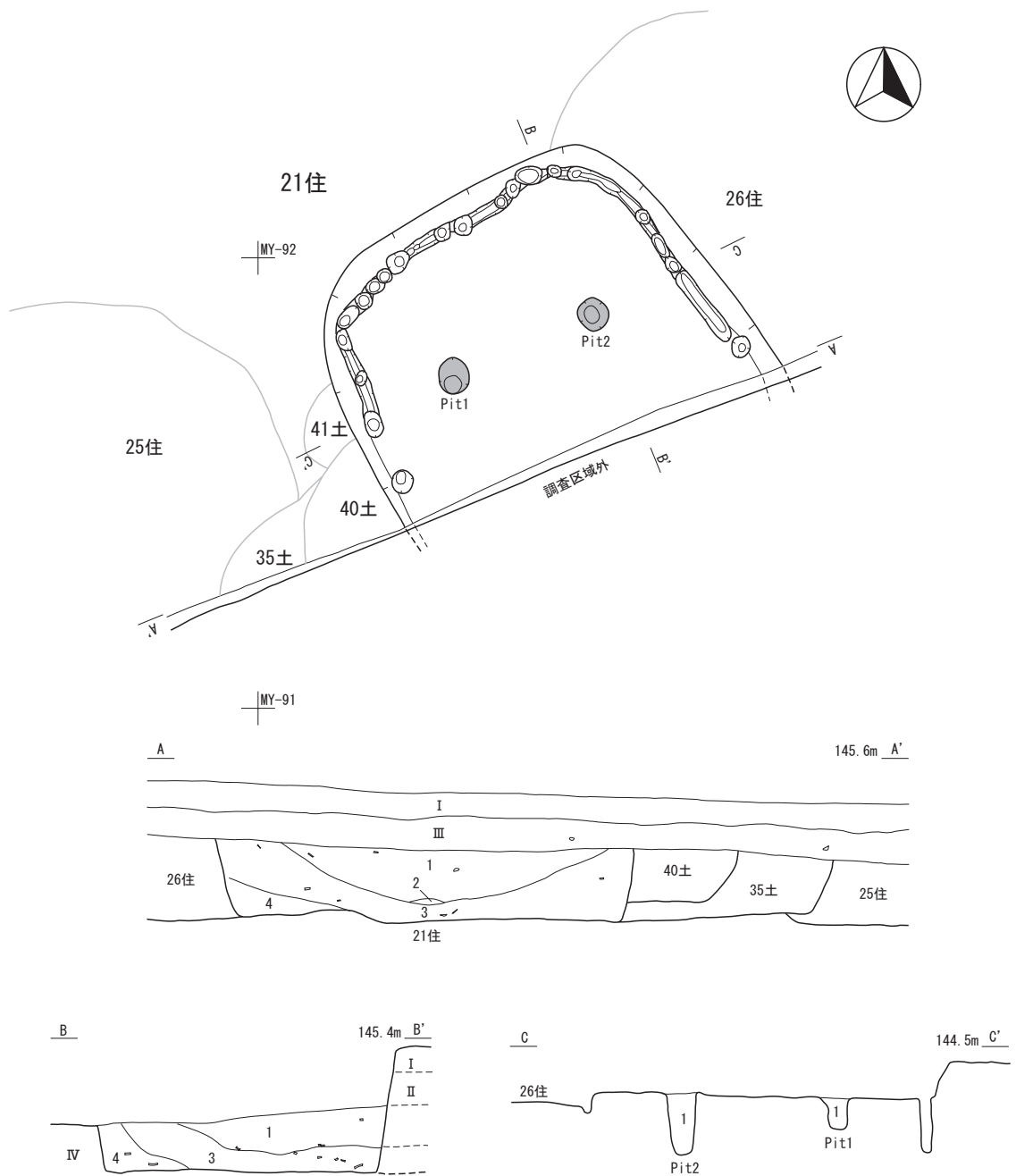


図34 第19号竪穴住居跡



第21号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)少量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 浮石(中礫: φ~0.5cm)微量、粘土質土
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)少量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)少量

Pit1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫・南部: φ~1.0cm)少量、炭化物微量

Pit2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫・南部: φ~1.0cm)・炭化物微量

図35 第21号竪穴住居跡

第22号竪穴住居跡→土坑になったため欠番

第23号竪穴住居跡 (図36)

[位置] 調査区東側のND・NE-94・95グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北側で第42号土坑と重複し、本竪穴住居跡が新しい。

[形態・規模] 規模は東西約2m80cm、南北約2m50cmのほぼ円形である。

[壁・床面] 壁の高さは約45cmで床面から傾斜角約60度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。床面積は約3.8㎡、軸方向はN-66°-Eである。

[ピット] ピットは床面から2基検出し、ピット1(深さ46cm)・ピット2(深さ42cm)ともにその配置から支柱穴と思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は4層に分層され、壁際に崩落したと思われる中振浮石のブロックが確認されている。

[付属施設] 本住居跡に伴うと思われる施設は確認できなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～15)と石器(S1～3)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後葉に廃棄されたと考えられる。

第24号竪穴住居跡 (図37)

[位置] 調査区東側のNC・ND-94グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北西側で第31号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[形態・規模] 規模は長径約4m10cm、短径約3m60cmの楕円形である。

[壁・床面] 壁の高さは約65cm、床面から傾斜角約70度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっており、中央に炭化物の範囲(220cm×160cm)が確認された。北壁際には幅10～20cm、深さ8～15cmの壁溝が検出された。床面積は約7.3㎡、軸方向はN-64°-Wである。

[ピット] ピットは床面から4基検出した。ピット2(深さ44cm)とピット3(深さ33cm)がその配置から支柱穴と思われる。また、壁溝内にも数基のピットは確認されてる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は7層に分層され、第1層～第2層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 本住居跡に伴うと思われる施設は確認できなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～169)、石器(S1～65)、軽石(K1)、石製品(CS1)、骨(B1・2)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後葉に廃棄されたと考えられる。

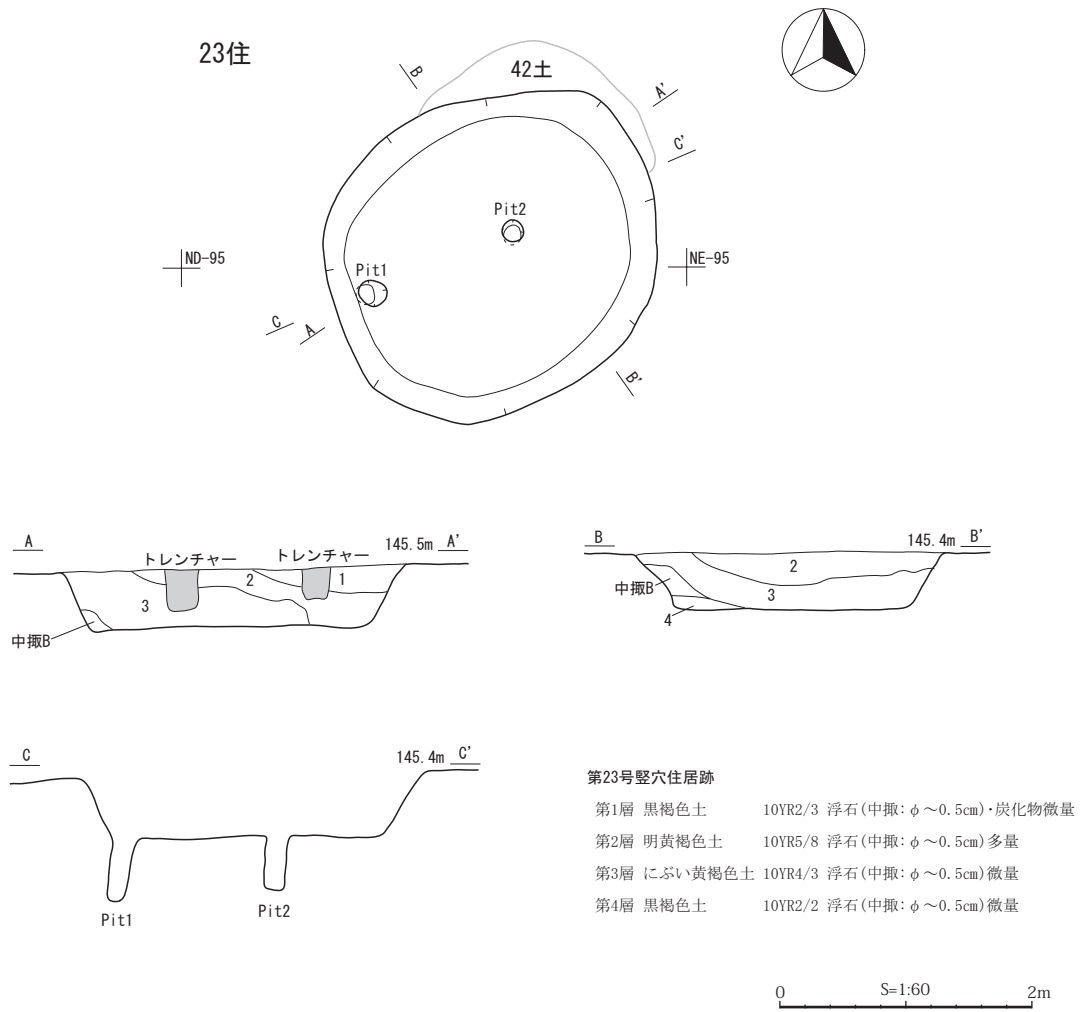


図36 第23号竪穴住居跡

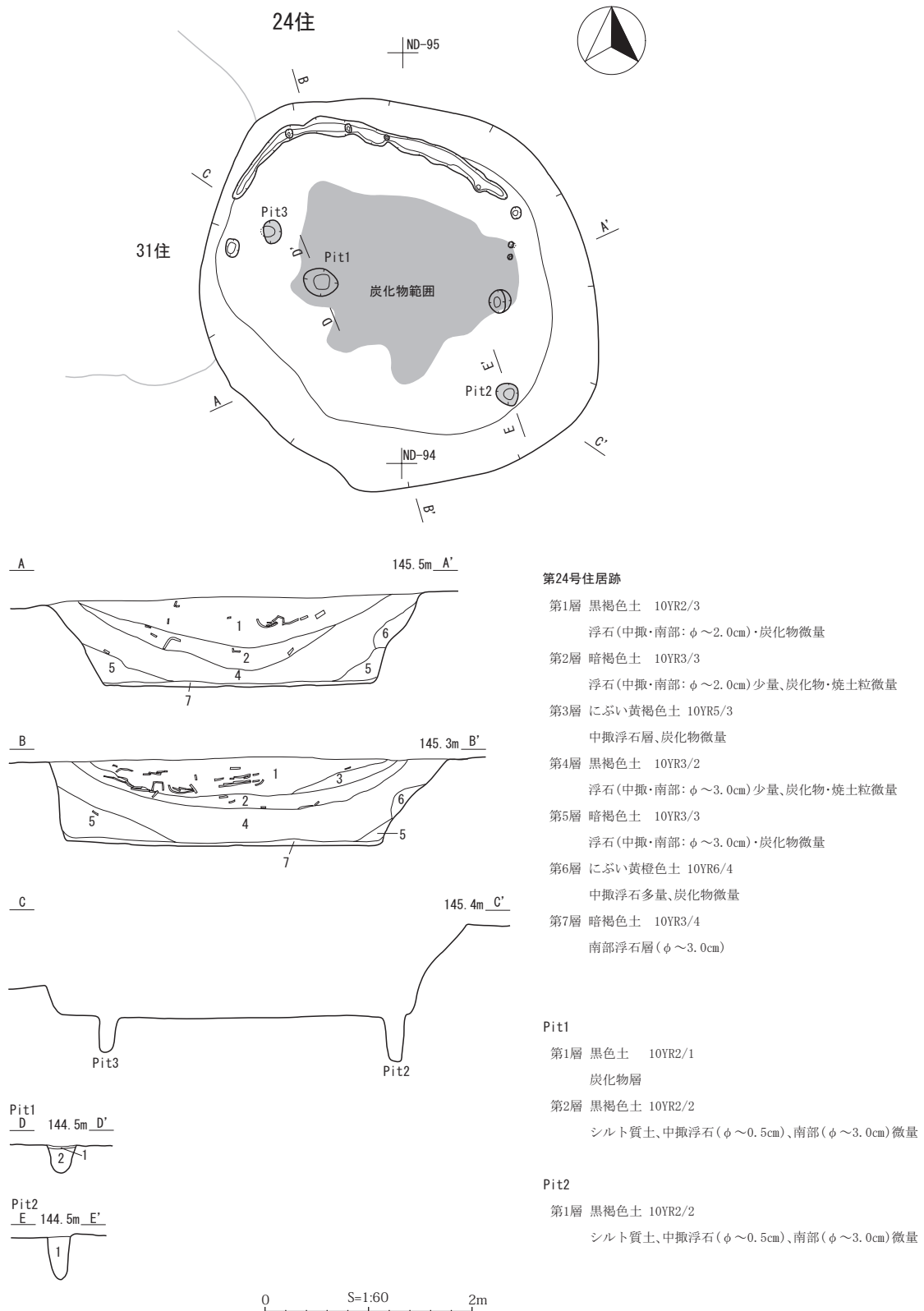


図37 第24号竪穴住居跡

第25号 竪穴住居跡 (図38)

[位置] 調査区中央部のMX-91グリッドに位置している。

[検出状況] 第Ⅵ層上面で落ち込みを確認した。南東側で第35号土坑、西側で第38号土坑と重複し、本住居跡は第38号土坑よりも新しく、第35号土坑より古い。

[形態・規模] 南東側は調査区域外だが、残存部分から直径約3mのほぼ円形と推測される。

[壁・床面] 残存している南壁の高さは約45cmで、床面から傾斜角60度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっている。床面積は約7.1㎡である。

[ピット] ピットは検出されなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は6層に分層され、第3層と第4層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～29)、石器(S1～3)、剥片(HS1)、骨(B1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第26号 a 竪穴住居跡 (図39)

[位置] 調査区中央部のMY・MZ-91・92グリッドに位置している。

[検出状況] 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。西側で第21号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[形態・規模] 南側は調査区域外であるが、残存部から平面形は南北にやや膨らむ円形あるいは楕円形と推定される。

[壁・床面] 残存している北東壁の高さは約75cm、床面から傾斜角70度で立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、堅く締まっている。残存する床面積は約7.5㎡、軸方向はN-61°-Wである。

[ピット] ピットは床面から3基検出し、ピット1(深さ47cm)・ピット2(深さ61cm)が支柱穴と思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、1層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～25・27、P-1～35・39・41～71)、石器(S1～4・8・11・15、S1～18)、軽石(K1・2)、骨(B1～3)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第26号 b 竪穴住居跡 (図39)

[位置] 調査区中央部のMY・MZ-91・92グリッドに位置している。

[検出状況] 第26号 a 竪穴住居跡の床面を精査して壁溝を検出した。第26号 a 竪穴住居跡の拡張前の壁溝と思われる。

[形態・規模] 壁溝から平面形はやや南北に膨らむ円形と推定される。

[壁・床面] 壁は確認できないが、床面は平坦で、堅く締まっており、壁際には幅5～10cm、深さ5～10cmの壁溝と壁柱穴(深さ8～30cm)が確認された。残存する床面積は約5.5㎡である。

[ピット] ピットは検出されなかった。

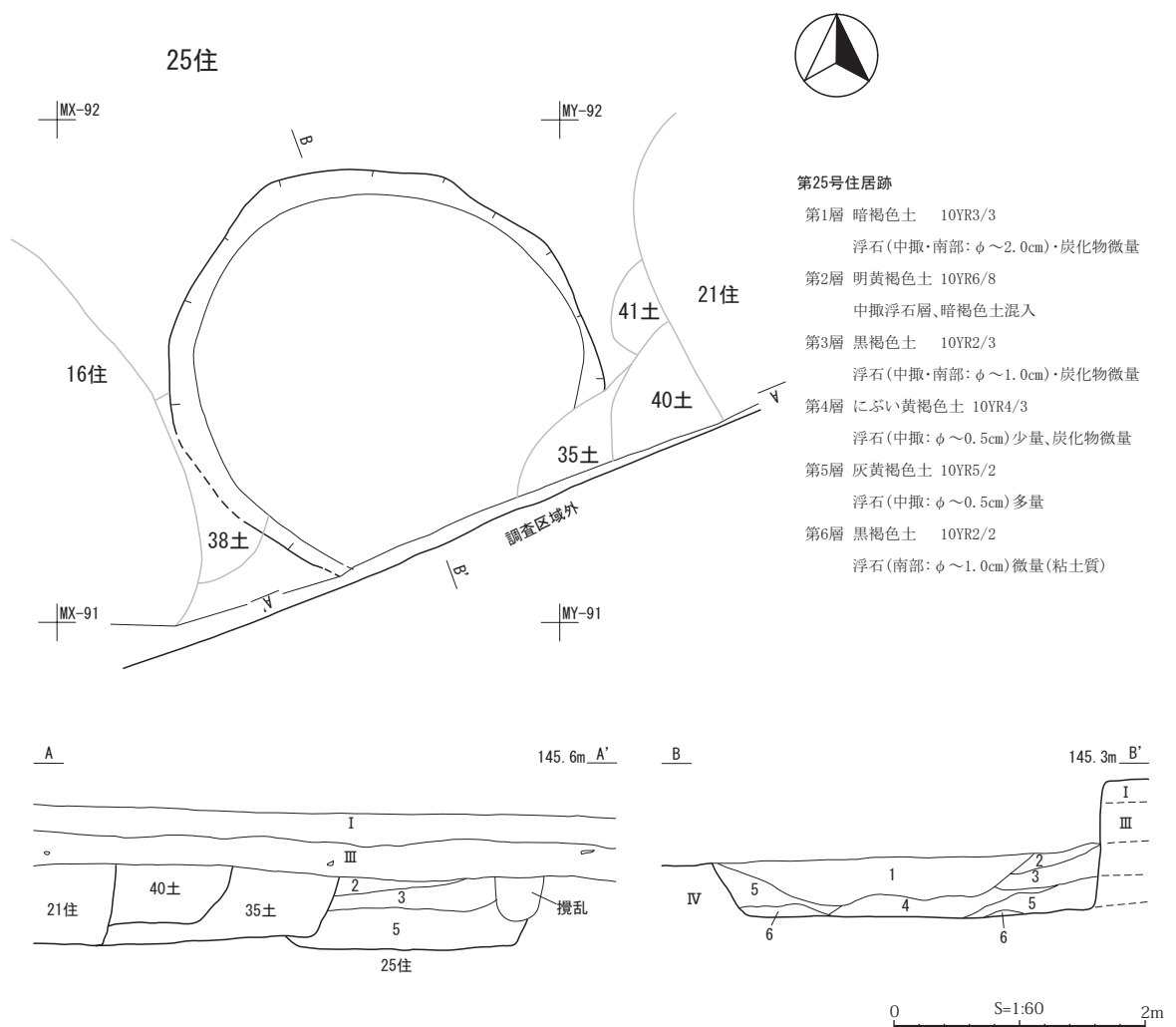


図38 第25号竪穴住居跡

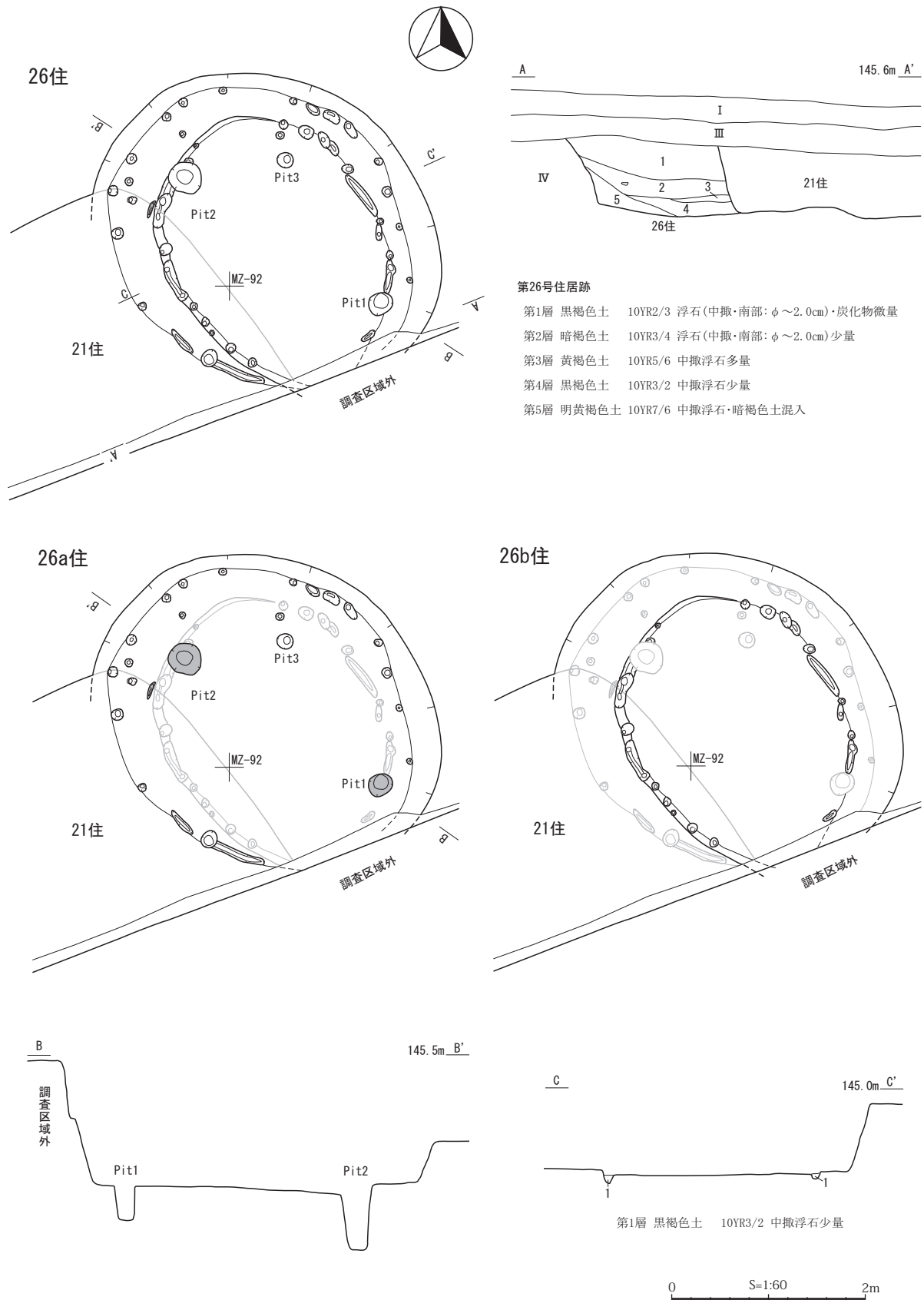


図39 第26号竪穴住居跡

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 壁溝の堆積土は黒褐色土で、炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期中葉以前に構築されたと考えられる。

第27号竪穴住居跡 (図40)

[位置] 調査区中央部の MW・MX-92グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。東側で第28号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[形態・規模] 北西側は調査区域外のため平面形・規模ともに不明である。

[壁・床面] 残存している南壁の高さは約75cm、床面から傾斜角55度で立ち上がり、途中に幅15cm前後の段差がみられる。床面はやや起伏がみられ、部分的に堅く締まっている。残存する床面積は約0.36㎡である。

[ピット] ピットは検出されなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は4層に分層され、第1層・第3層・第4層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～14)と石器(S1～4)、軽石(K1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。



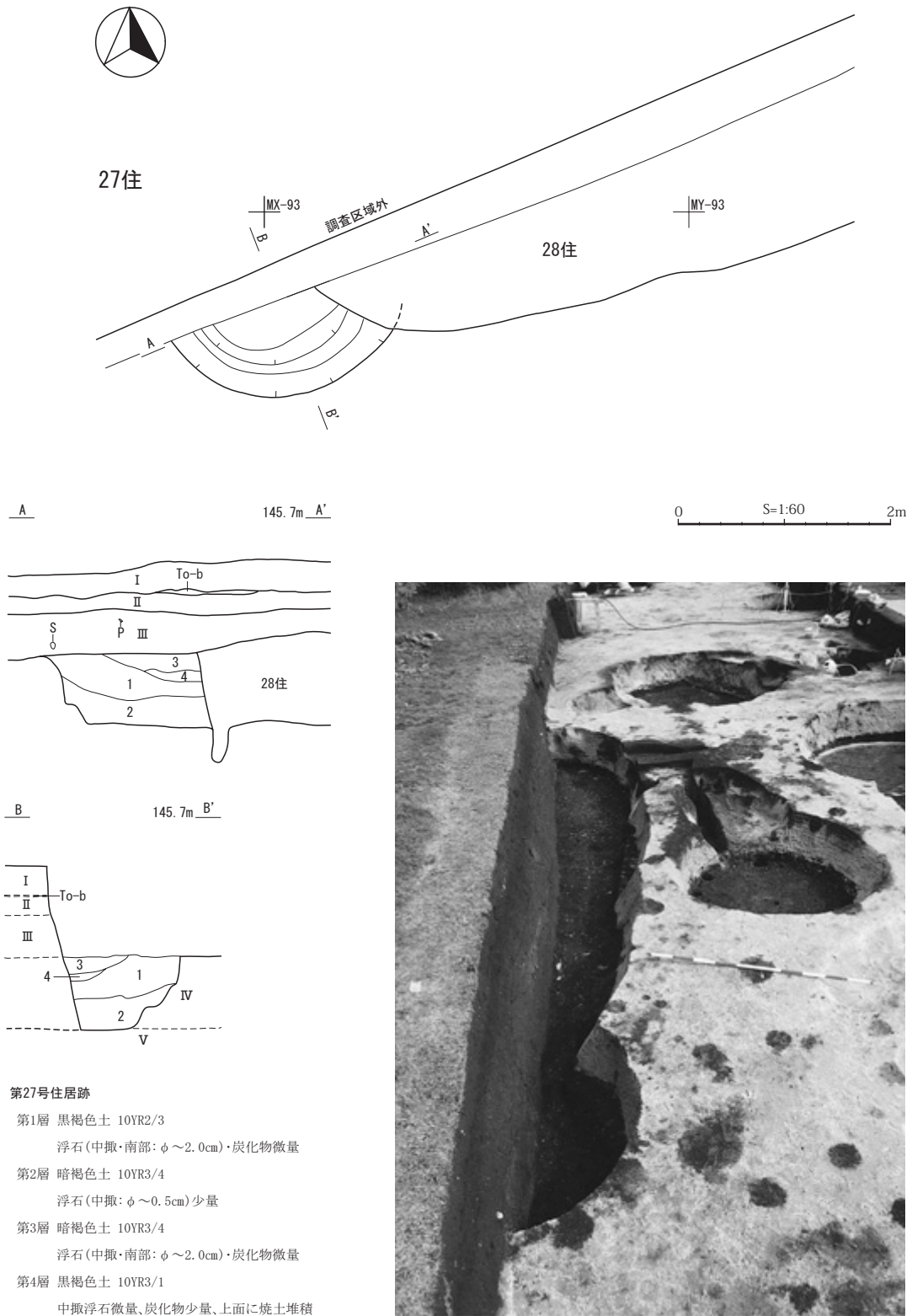


図40 第27号竪穴住居跡

第28号 a 竪穴住居跡 (図41・42)

[位置] 調査区中央部の MX・MY-92・93グリッドに位置している。

[検出状況] 第Ⅵ層上面で落ち込みを確認した。西側で第27号竪穴住居跡と重複し本住居跡が新しい。

[形態・規模] 北西側は調査区域外のため平面形・規模ともに不明である。

[壁・床面] 残存している南壁の高さは約65cm、床面から傾斜角65度で立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、堅く締まっている。壁際には1m前後の間隔で壁柱穴が廻ると思われる。残存する床面積は約6.3㎡である。

[ピット] 多くのピットを床面から検出したが、いずれも壁柱穴(深さ11～53cm)と思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は9層に分層され、第1層・第3層・第4層・第6層～第9層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～115)と石器(S1～24)、土製品(CD1)、種子(T1・2)、骨(B1～5)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第28号 b 竪穴住居跡 (図41・42)

[位置] 調査区中央部の MX・MY-92・93グリッドに位置している。

[検出状況] 第28号 a 竪穴住居跡の床面から壁溝と壁柱穴を検出した。第28号 a 竪穴住居跡の拡張前のものと思われる。

[形態・規模] 北西側は調査区域外のため平面形・規模ともに不明である。

[壁・床面] 壁は確認できないが、床面はやや起伏がみられ、堅く締まっており、壁際に幅10～20cm、深さ5～15cmの壁溝と1m前後の間隔で壁柱穴(深さ25～45cm)が廻ると思われる。残存する床面積は約4.1㎡である。

[ピット] 多くのピットを床面から検出したが、いずれも壁柱穴の可能性が高い。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 壁溝、壁柱穴ともに暗褐色土の層で、炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期中葉以前に廃棄されたと考えられる。

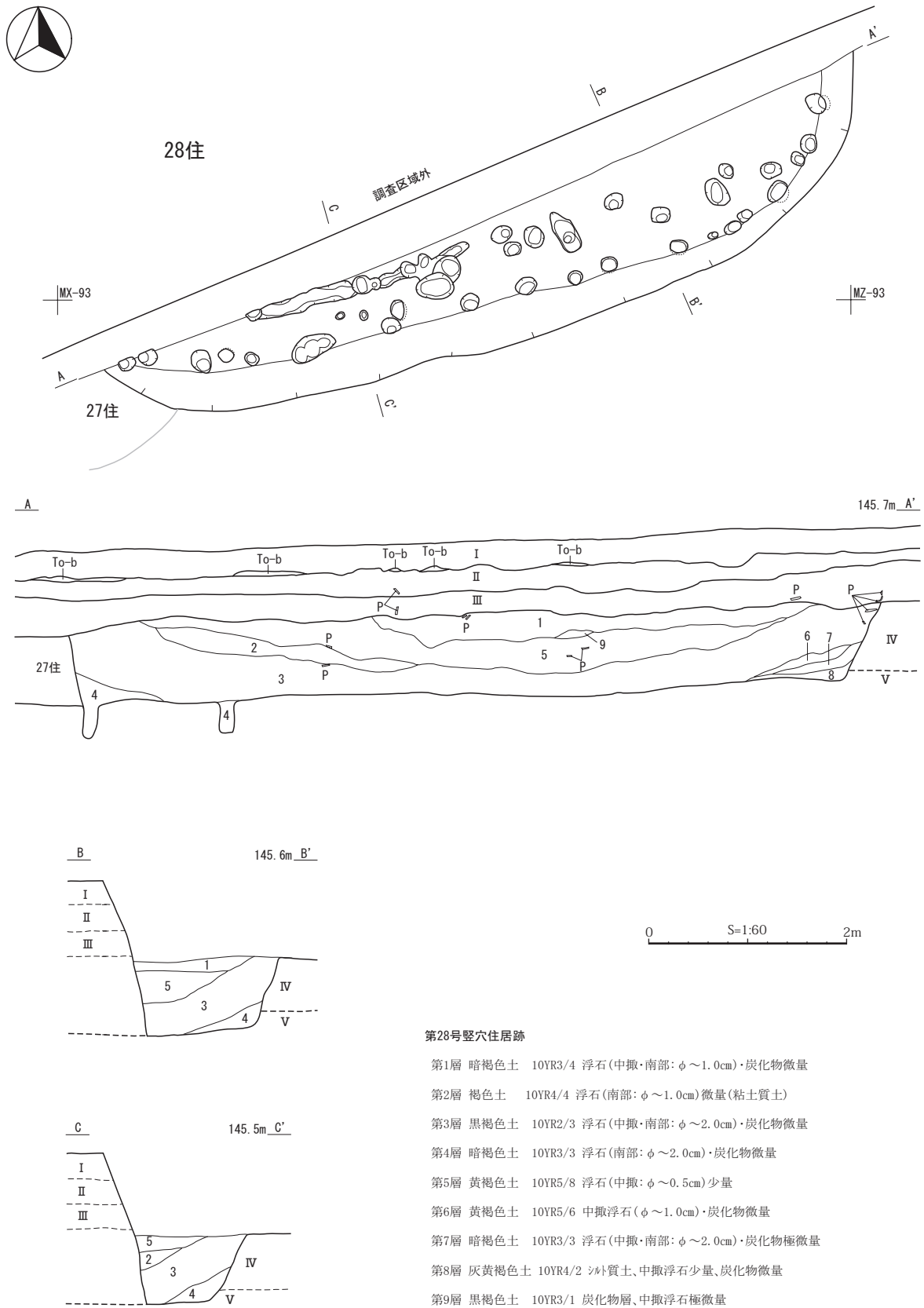


図41 第28号竖穴住居跡(1)

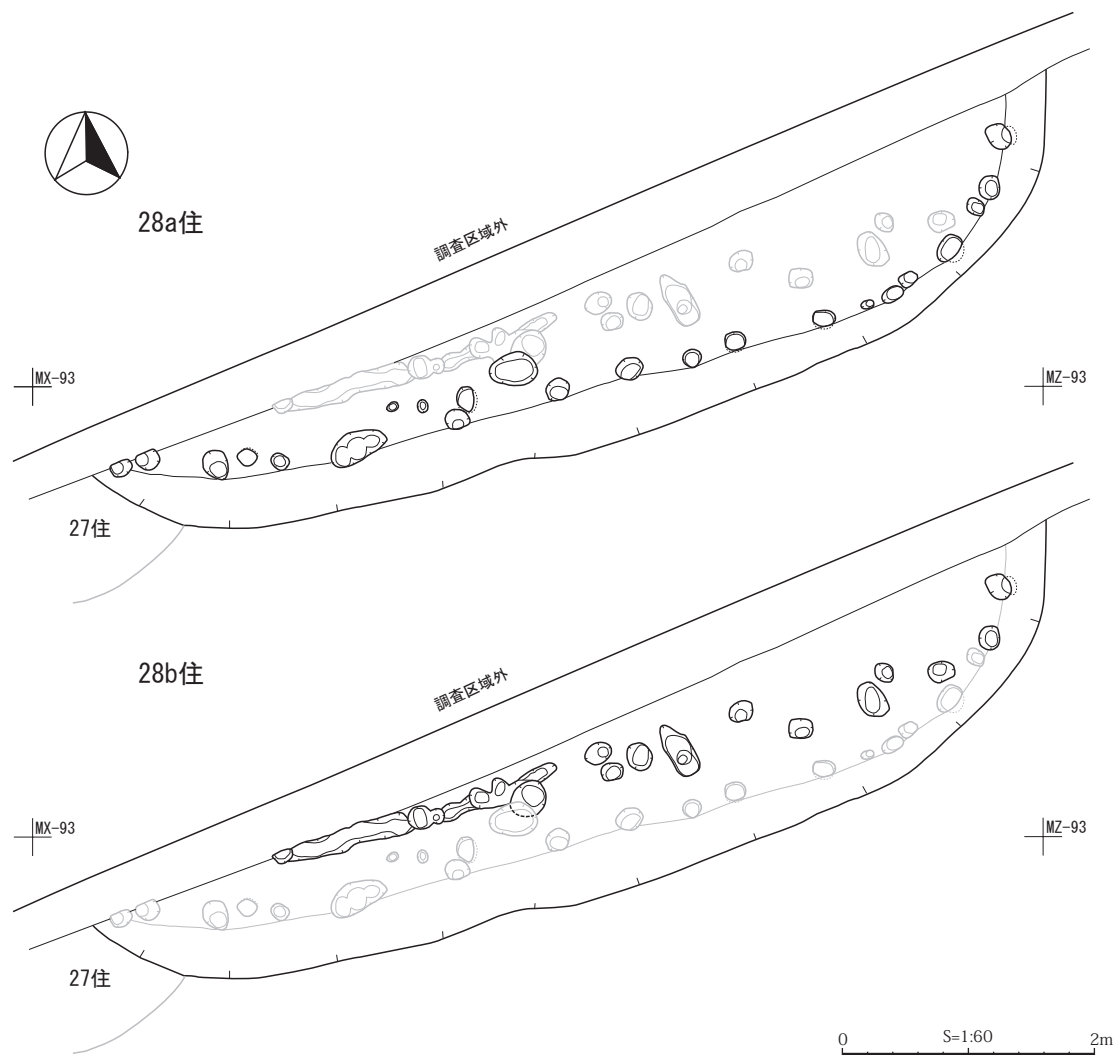


图42 第28号a·b竖穴住居跡(2)

第29号 竪穴住居跡 (図43)

〔位置〕 調査区中央部のMX・MY-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 竪穴住居跡の落ち込みを第IV層上面で確認した。北東側で第31号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

〔形態・規模〕 規模は南北約2m55cm、東西約2m30cmの南側がやや膨らむ円形である。

〔壁・床面〕 残存している壁の高さは約55cm、床面から傾斜角62度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。床面積は約2.7㎡、軸方向はN-7°-Wである。

〔ピット〕 ピットは床面の北壁際に3基、南壁際に4基、計7基検出した。いずれも壁柱穴で、ピット1(深さ20cm)とピット2(深さ35cm)が支柱穴と思われる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層された。第2層は炭化物が含まれる黒褐色土、第4層は中礫浮石の崩落土と思われる層が確認されている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～37:P3欠)と剥片(HS1・2)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期前葉に廃棄されたと考えられる。

第30号 竪穴住居跡 (図44)

〔位置〕 調査区中央部のMZ-92・93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。当初北西側で第39号土坑と重複すると思われたが、調査の結果、竪穴住居跡に伴う出入口の張出しと考えられる。

〔形態・規模〕 規模は長径約4m、短径約3mで、平面形は隅丸長方形である。北西部分に長さ1m40cm、幅130cmの出入口がみられる。

〔壁・床面〕 残存している壁の高さは約65cm、床面から傾斜角54度で立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、堅く締まっている。床面積は約6.4㎡である。

〔ピット〕 ピットは床面から18基検出した。壁際のピット1～10が壁柱穴と考えられる。

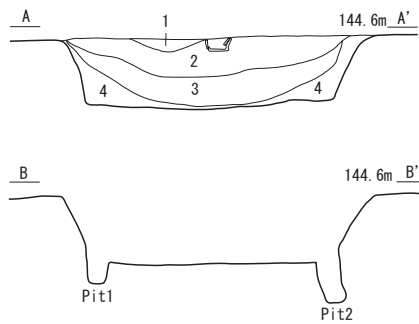
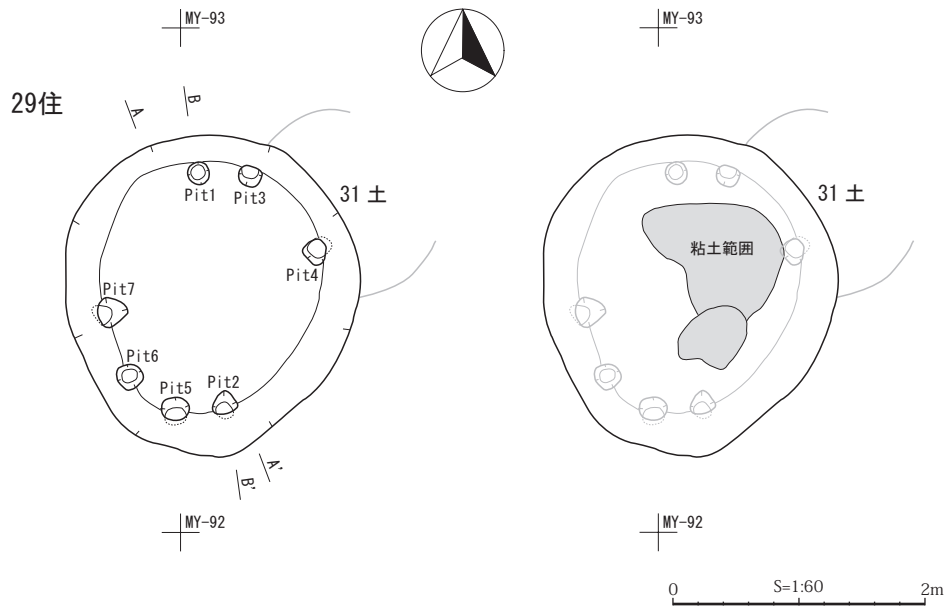
〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層され、第5層が炭化物層である。

〔付属施設〕 北西部分に床面から15cmほどの高さで幅約35cmのテラス状の段差がみられ、長さ1m40cm、幅130cm、深さ約40cmの落ち込みに続いており、その形態から出入口と考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～41)と石器(S1～14)、軽石(K1)、骨(B1)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。



第29号竖穴住居跡

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6
浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)多量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2
浮石(中礫・南部: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量(シルト質土)
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量(シルト質土)
- 第4層 明黄褐色土 10YR6/8
中礫浮石層

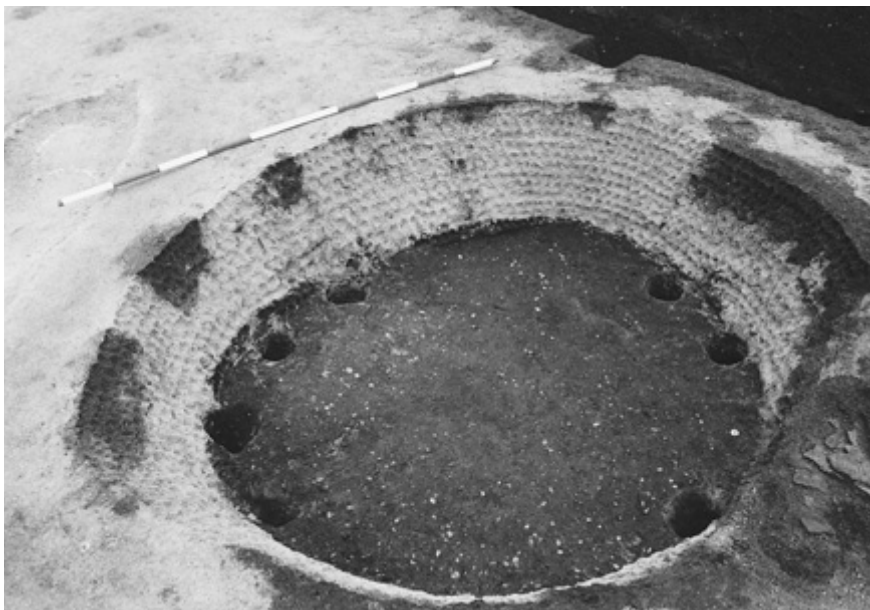


图43 第29号竖穴住居跡

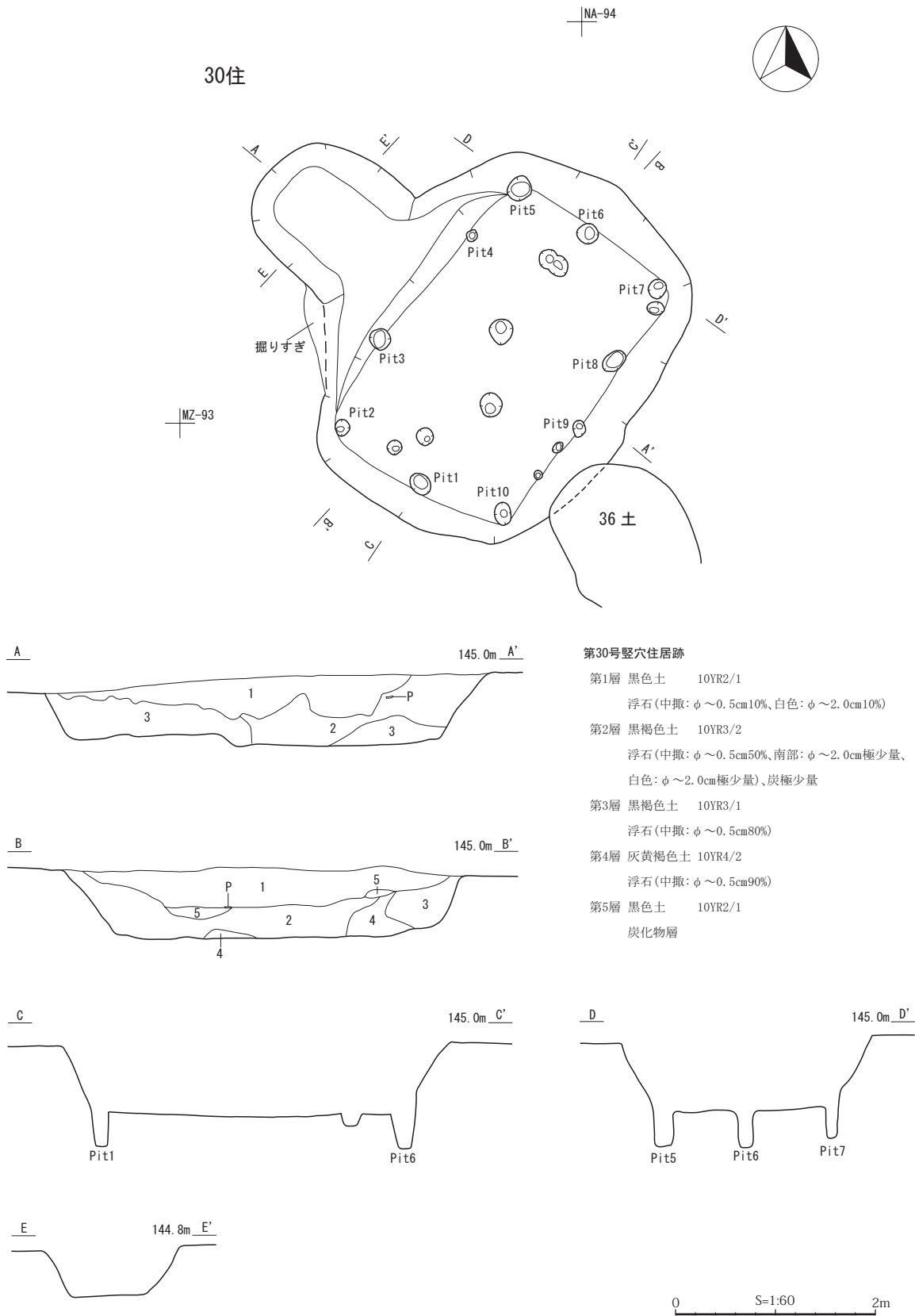


図44 第30号竪穴住居跡

第31号竪穴住居跡（図45～49）

〔位置〕 調査区東側のNB・NC-94に位置している。

〔検出状況〕 第VI層上面で落ち込みを確認した。第24号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔形態・規模〕 北西側は調査区域外で、南東側は重複する住居跡に削平されているが、残存部から長径約3m50cmの円形あるいは楕円形と推定される。

〔壁・床面〕 確認できる壁の高さは約40cm、床面から傾斜角75度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約7.6㎡、軸方向はN-19°-Eである。

〔ピット〕 ピットは床面から3基検出した。ピット1（深さ66cm）、ピット2（深さ50cm）が支柱穴と思われる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

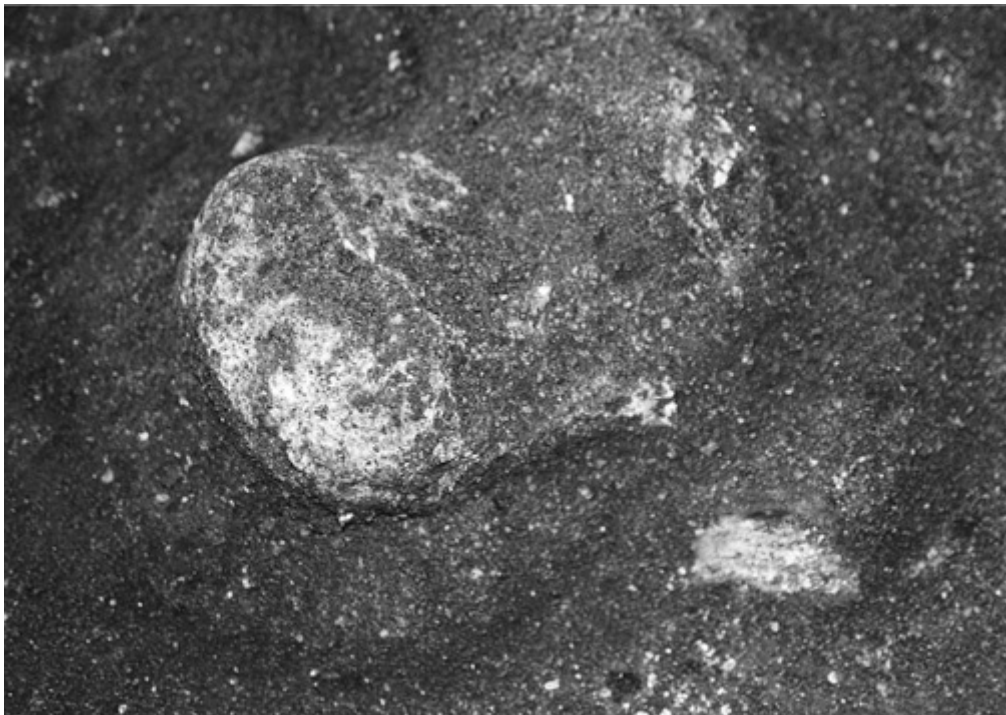
〔堆積土〕 堆積土は5層に分層され、第1層と第3層に炭化物が含まれ、第5層が灰白色の粘土層である。

〔埋葬形態〕 精査中に床面直上で、灰白色の糊状範囲が確認された。その後、頭蓋骨を検出し、脊柱から寛骨、大腿骨、脛骨の順に確認できた。下顎骨は頭蓋骨から10cmほど離れた位置にみられ、上顎骨とは接していない。寛骨の下部から扁平の礫が出土し、遺体はその上部に安置されていたと思われる。また、埋葬形態はその状態から、灰白色の粘土質土の上に側臥伸展葬で埋葬され、周囲には円筒下層a式の深鉢土器の破片が散在されていたと思われる。検出時の人骨自体の遺存状態は極めて脆弱である。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～53)と石器(S1～17)、剥片(HS1)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期前葉に廃棄された竪穴住居跡に埋葬した廃屋墓の可能性が考えられる。



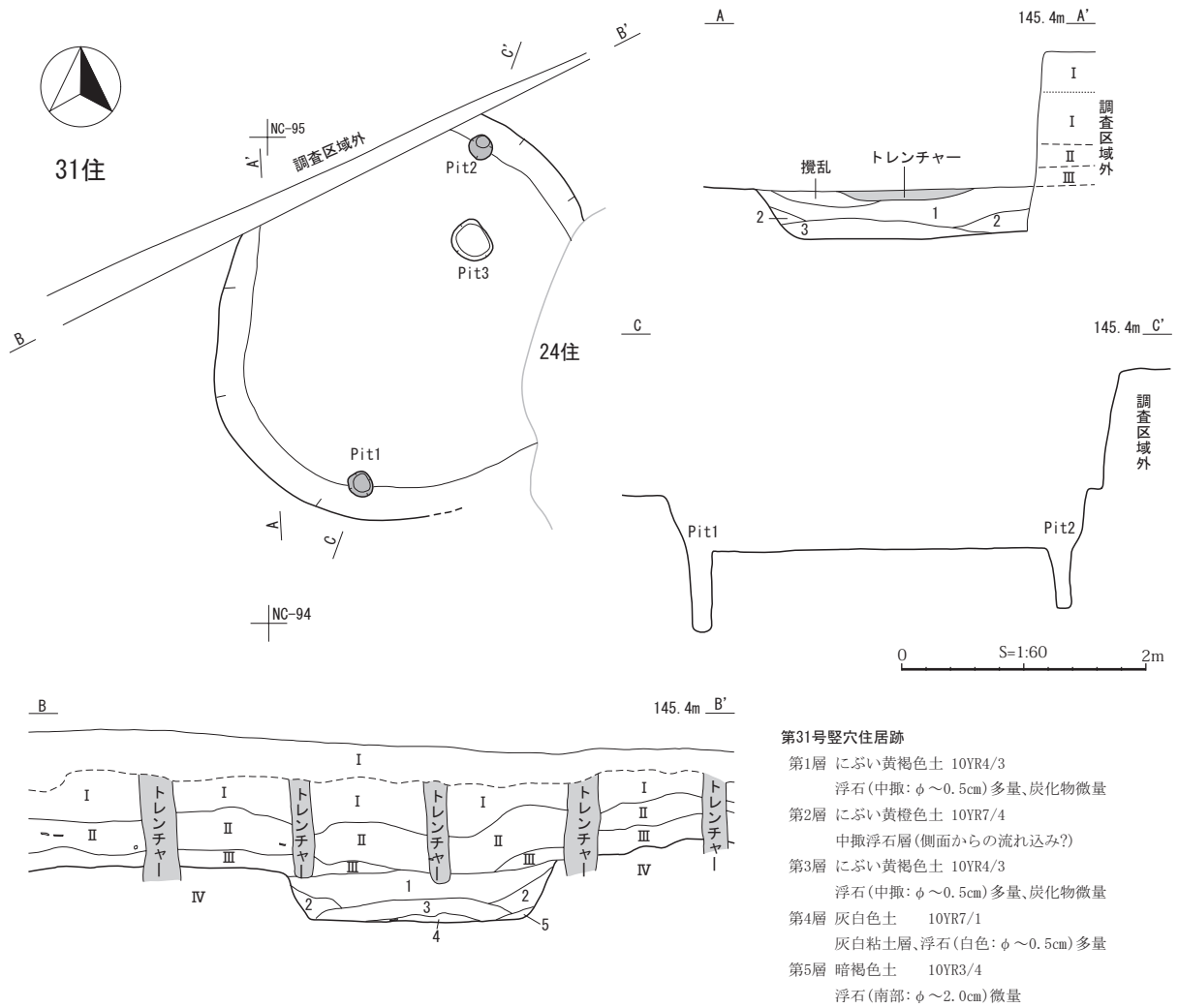
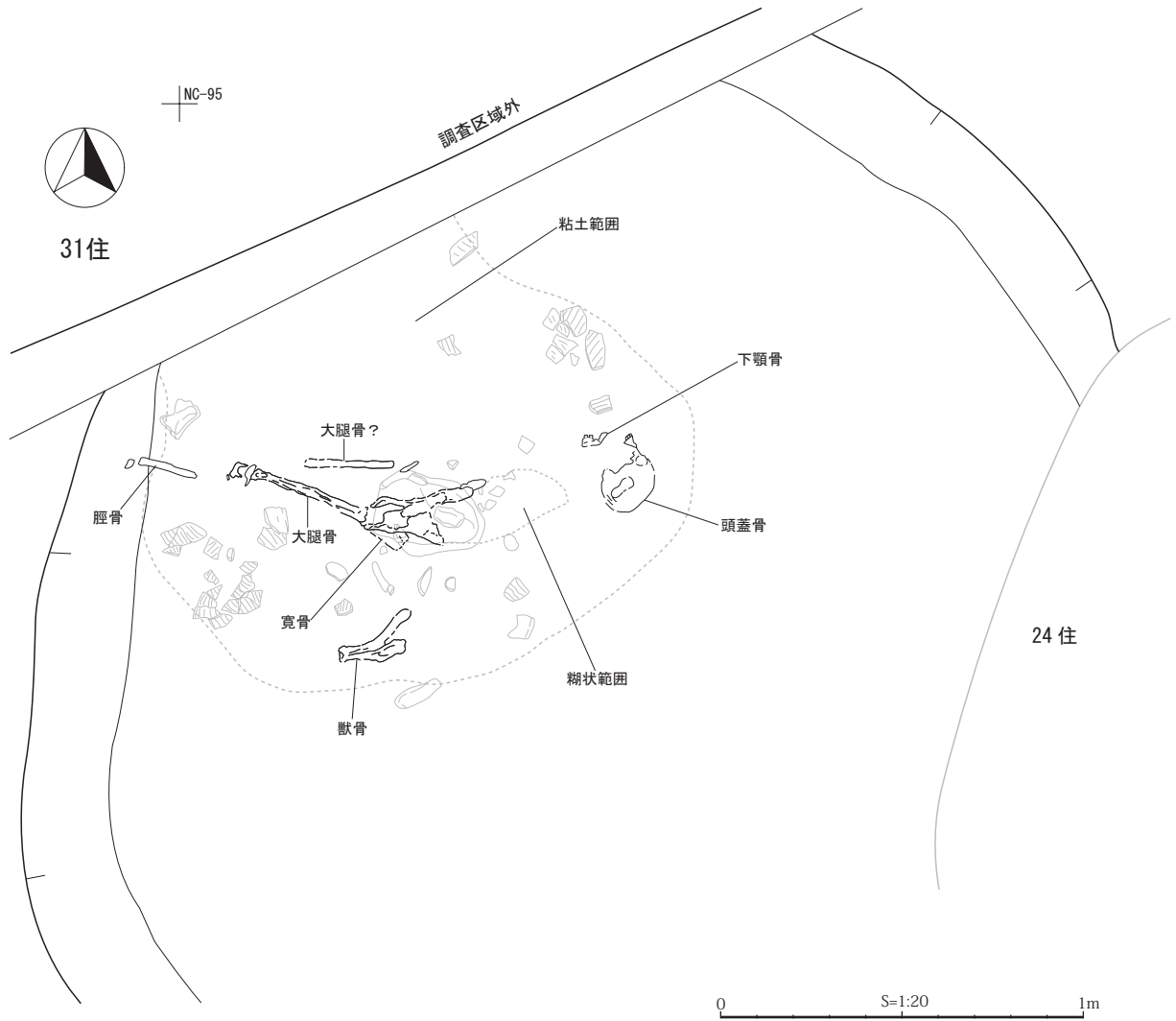
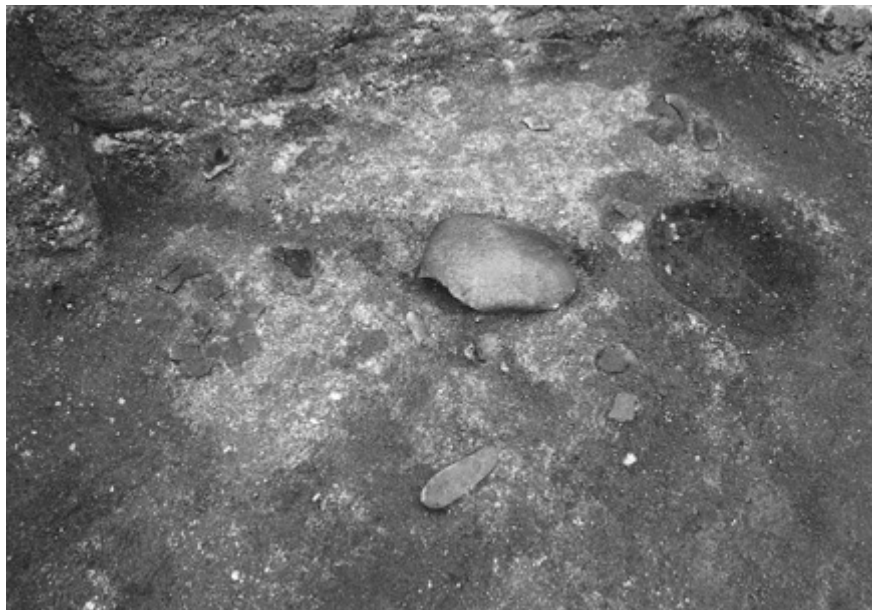
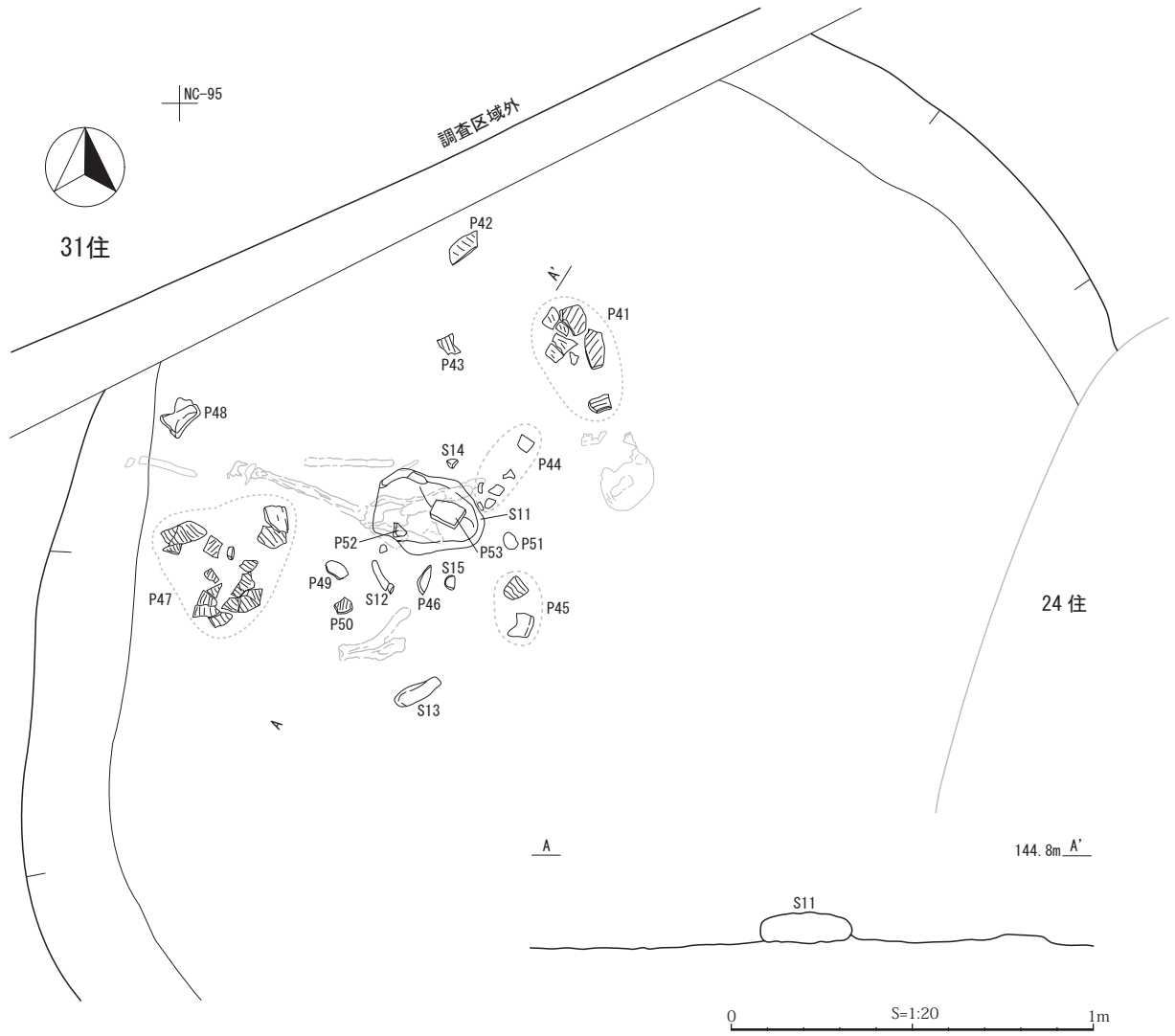


図45 第31号竪穴住居跡(1)



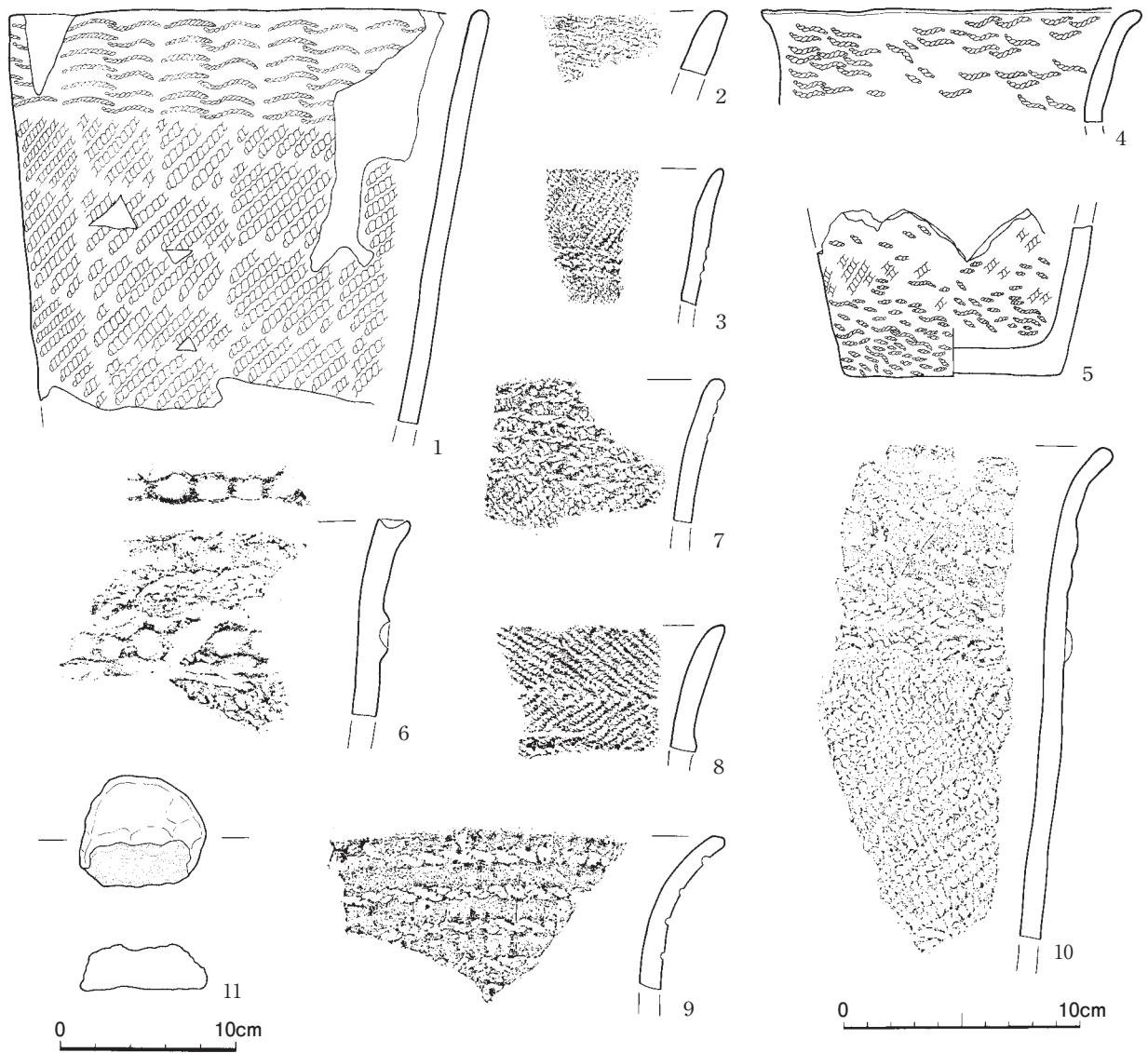
粘土範圍と人骨出土状況

图46 第31号竖穴住居跡(2)



粘土範囲と遺物出土状況

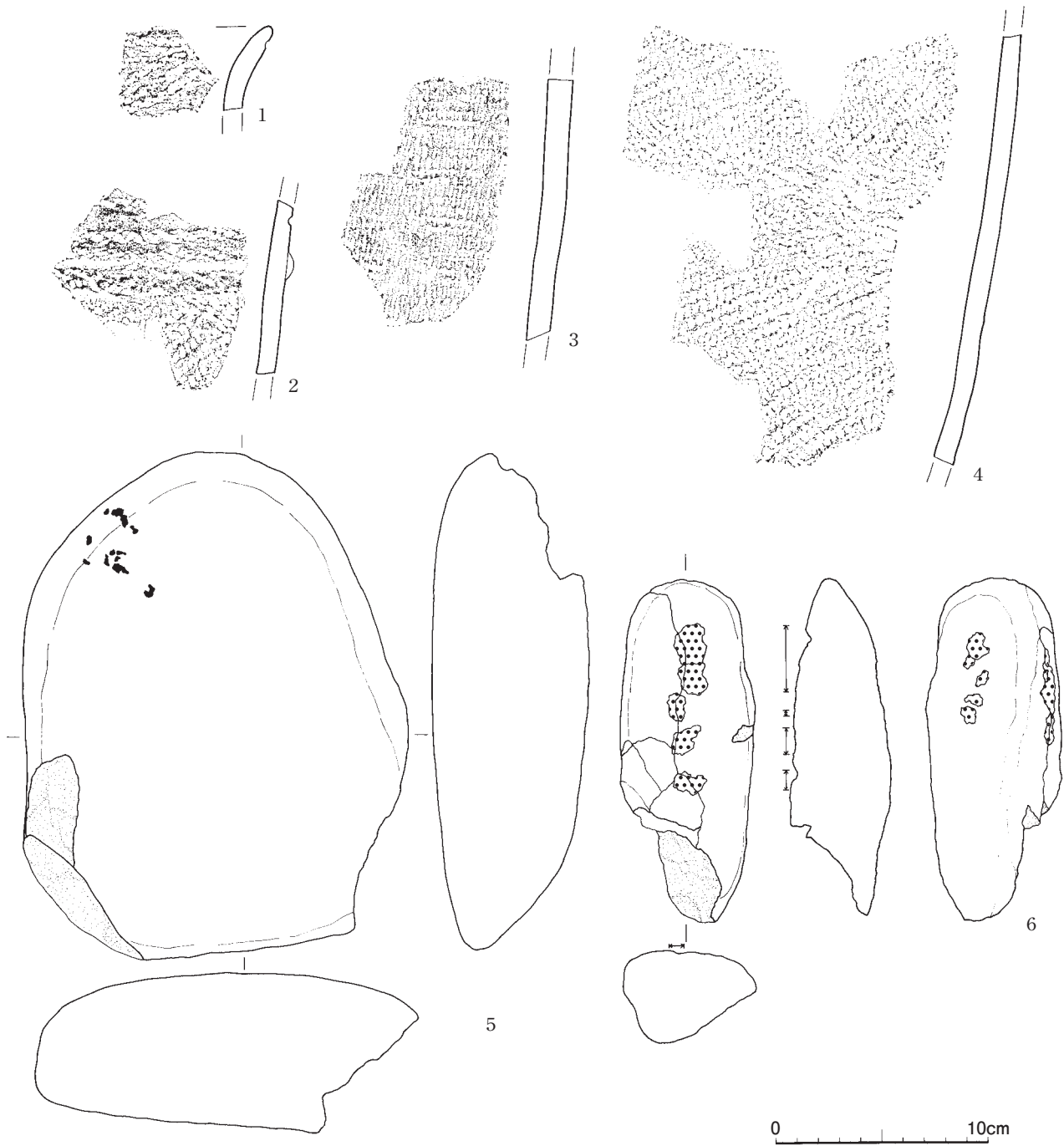
図47 第31号竪穴住居跡(3)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
1	覆土		LR 縄文	R 結節	II-1	
2	覆土		R 結節		II-1	
3	覆土		LR 縄文、LR 側圧	LR 縄文	II-2	
4	床面		R 結節		II-1	P47
5	床面			LR 縄文、R 結節	II-1	P48
6	覆土	指頭圧痕	R 結節、指頭圧痕		II-1	P1
7	覆土		R 結節、LR 縄文		II-1	
8	覆土		LR+RL 結束第1種、LR 側圧		II	
9	覆土		R 結節		II-2	P27
10	覆土		LR 側圧、R 結節	LR 縄文	II-1	P28

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
11	床面	3.2	3.7	1.3	16.3	流紋岩	II	S15

図48 第31号竖穴住居跡 出土遺物 (1)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
1	覆土		LR 側圧		II	
2	覆土		LR 側圧、R 結節	LR 縄文	II-2	P18
3	覆土			r 多軸絡条体	II	P35
4	覆土			LR 縄文、R 結節	II-1	P20

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
5	床面	31.8	24.3	10.0	11600	デイサイト	II-12	S11 不明付着物
6	床面	16.0	6.3	4.3	5133	安山岩	II-11b	S12・13・14

図49 第31号竪穴住居跡 出土遺物 (2)

第32号 竪穴住居跡 (図50)

[位置] 調査区東側のNB・NC-92・93グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 南側は調査区域外のため不明部分が多いが、調査した部分から直径約3mの円形と思われる。

[壁・床面] 調査した壁の高さは約50cmで、床面から傾斜角70度で立ち上がり、途中から35度と緩やかになる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約2.5㎡である。

[ピット] ピットは床面から検出されなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、第5層が壁面から崩落した中振浮石層と思われる。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～84:P7・18・40・60欠番)と石器(S1～12)、剥片(HS1～4)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。

第33号 a 竪穴住居跡 (図51)

[位置] 調査区東側のNG・NH-94～96グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に床面と思われる硬化面と焼土範囲を確認した。西側で第38号 竪穴住居跡、直上で第14号 竪穴住居跡と第52号・第53号 土坑、直下で第33号 b 竪穴住居跡と重複し、本住居跡は第14号・第38号 住居跡、第52号・第53号 土坑より古く、第33号 b 竪穴住居跡よりも新しい。

[形態・規模] 残存部分から長径約5m60cm、短径約4m40cmの不整楕円形と思われる。

[壁・床面] 残存している南壁の高さは約65cm、床面から傾斜角80度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっている。床面積は約18.3㎡である。

[ピット] ピットは床面から検出されなかった。

[炉] 住居跡の中央部北よりに地床炉と思われる焼土範囲(110×60cm)を検出した。平面形は不整楕円形で赤褐色土の上に明赤褐色土の焼土が重なるように確認された。南西側の焼土は、本住居跡の構築以前の住居跡の炉跡と推定される。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、第1層と第2層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～30・32～37・40・41・43～45・47・49・51・53～60・63～100)と石器(S1～5・7～32)、軽石(K1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に廃棄されたと考えられる。

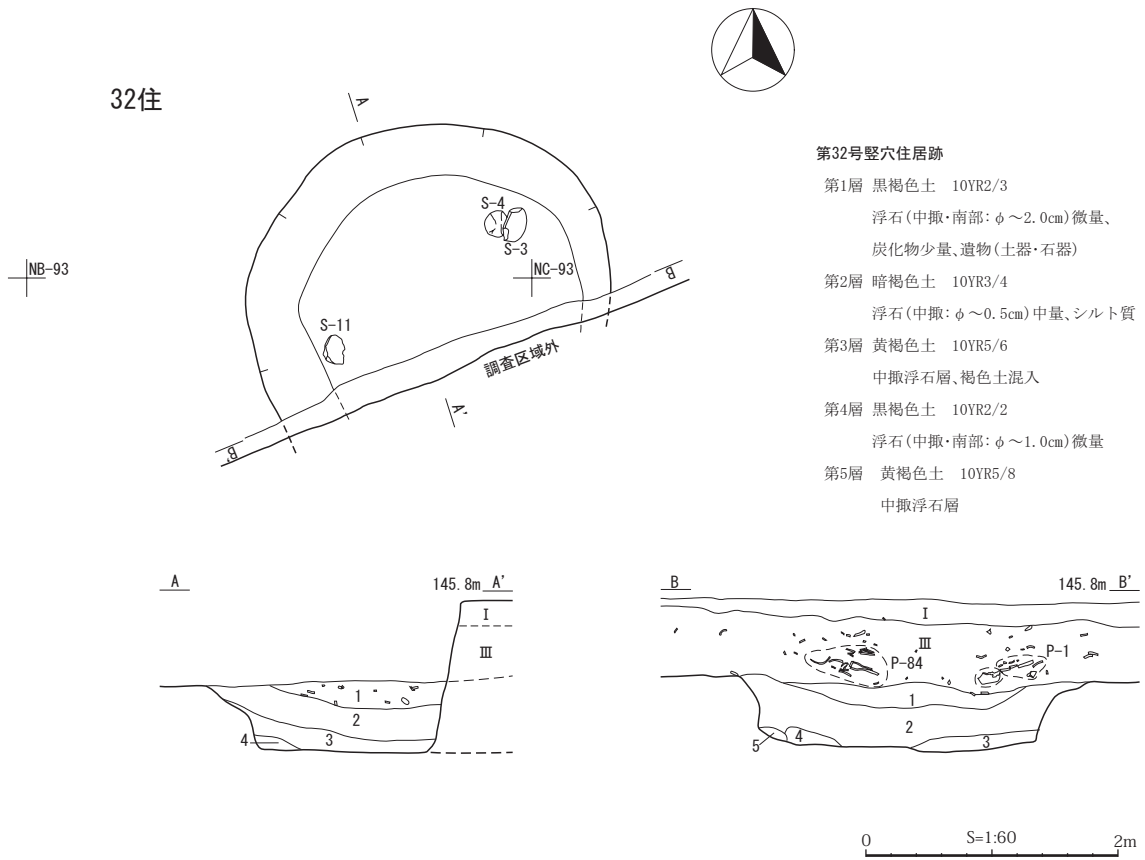
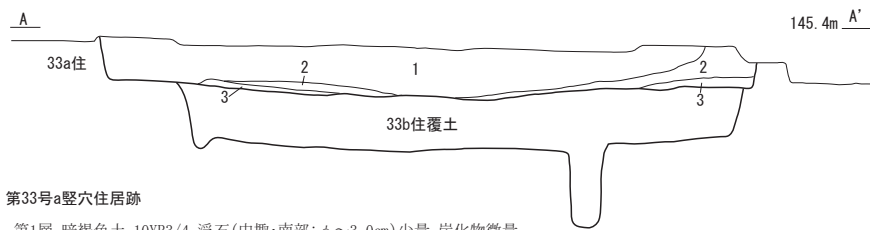
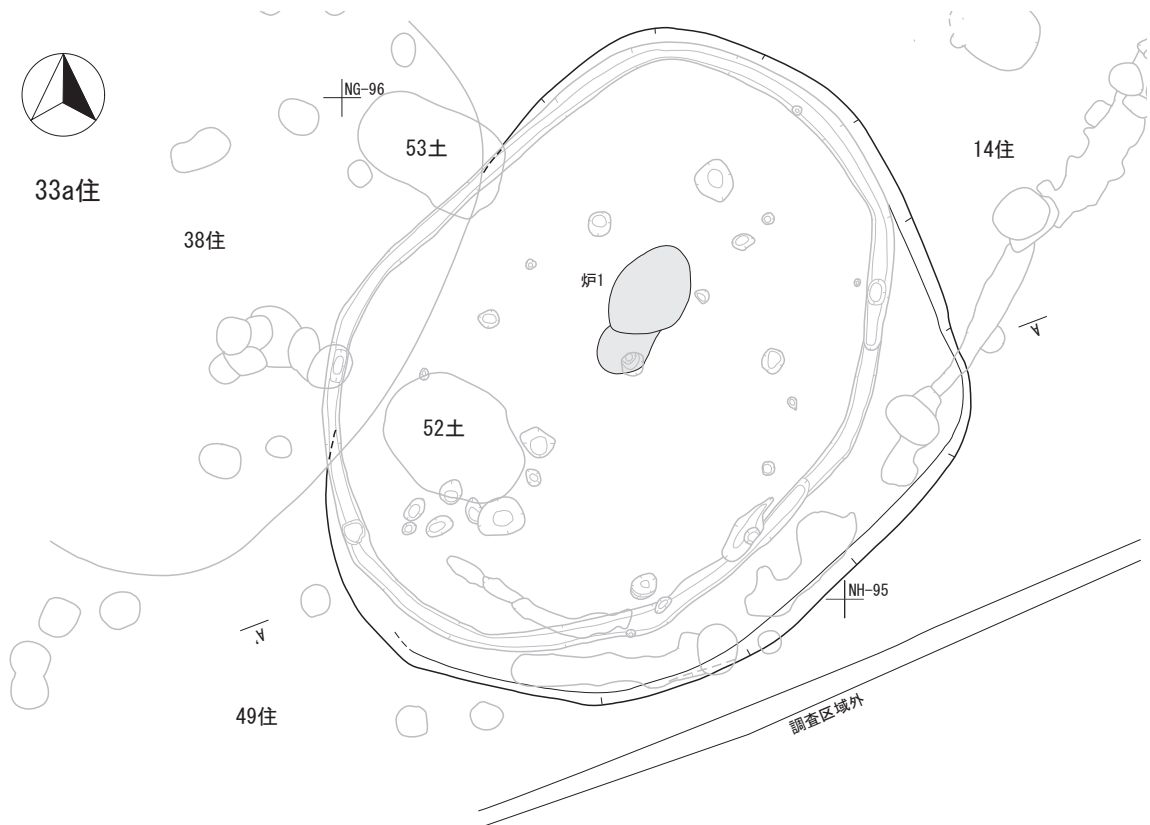


図50 第32号竪穴住居跡



第33号a竪穴住居跡

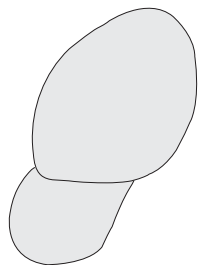
第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中撒・南部: $\phi \sim 3.0\text{cm}$)少量、炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中撒・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)炭化物微量

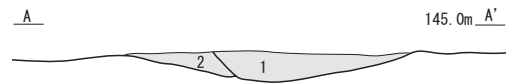
第3層 褐色土 10YR4/4 縮まりあり(貼床)、浮石(中撒・南部)微量

0 S=1:60 2m

33a住
地床炉



NH-95から
北2m西1m



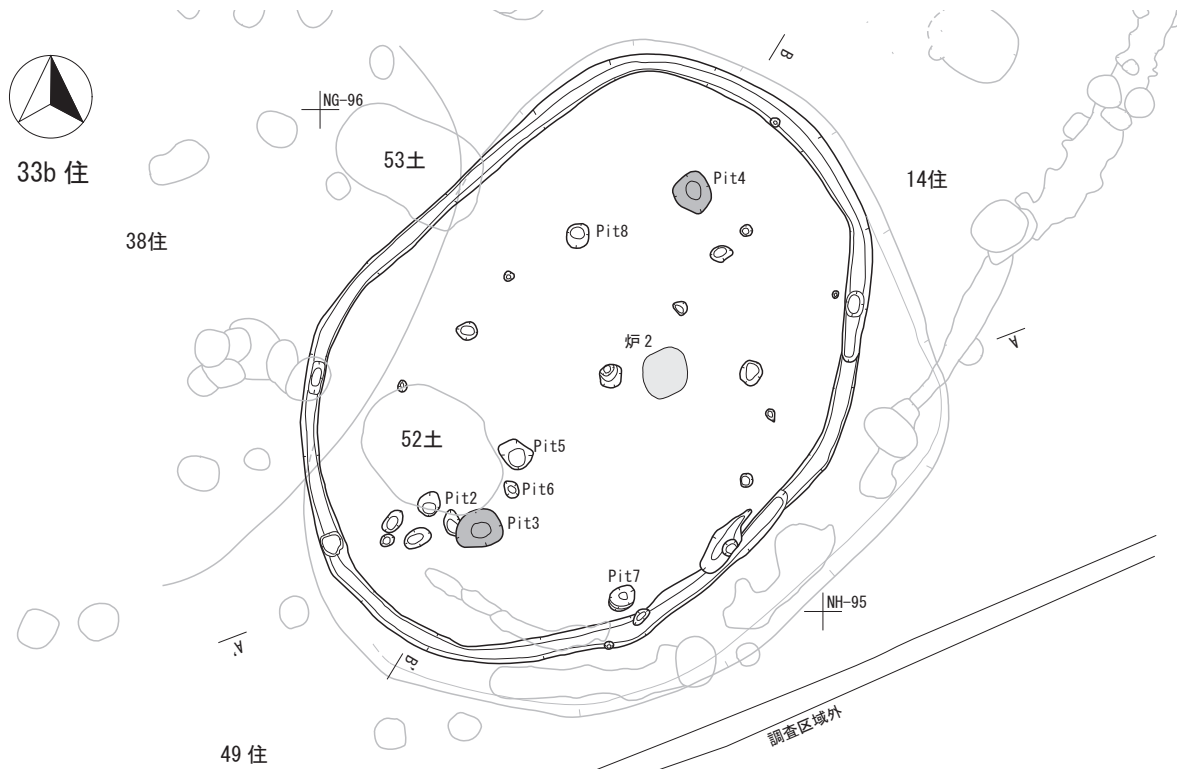
地床炉

第1層 明赤褐色焼土 5YR5/8 浮石(中撒・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)

第2層 赤褐色焼土 5YR4/8 浮石(中撒・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)

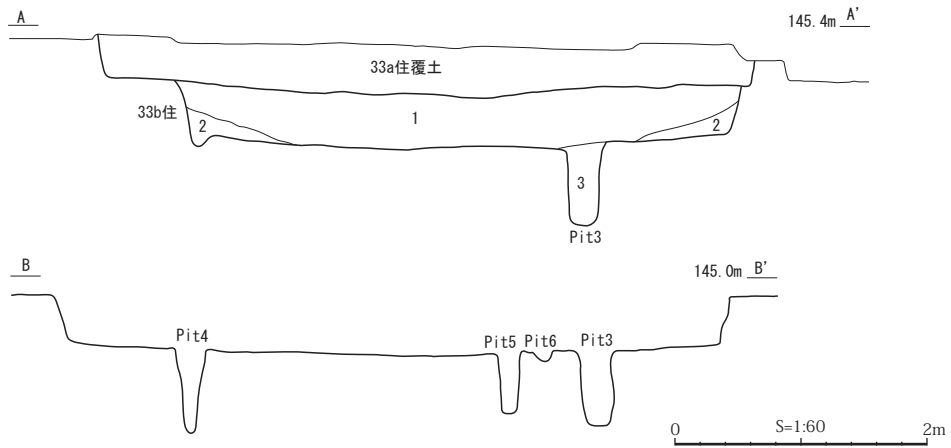
0 S=1:30 1m

図51 第33号a竪穴住居跡(1)



第33号b竪穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量(Pit3埋土)



33b 住
地床炉

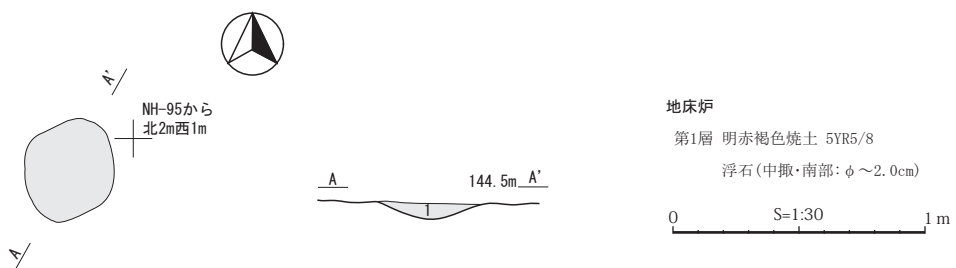


図52 第33号b竪穴住居跡 (2)

第33号b 竪穴住居跡 (図52)

[位置] 調査区東側の NG・NH-94～96グリッドに位置している。

[検出状況] 第33号 a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて確認した。西側で第38号竪穴住居跡、直上で第14号・第33号 a 竪穴住居跡と第52号・第53号土坑と重複し、本住居跡はいずれの遺構よりも古い。

[形態・規模] 規模は長径約5m20cm、短径約3m70cmの楕円形である。

[壁・床面] 確認できた壁の高さは約40cm、床面から傾斜角80度で立ち上がる。床面は概ね平坦で、中央部は堅く締まっている。床面積は約15.5㎡、軸方向は N-32°-E である。

[ピット] ピットは床面から17基検出した。ピット3(深さ65cm)とピット4(深さ66cm)が支柱穴と思われる。

[炉] 住居跡の中央部東よりに地床炉と思われる焼土範囲(80×70cm)を検出した。平面形は不整形で、焼土部分は強い被熱を受けていたと思われる。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層と第2層に炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P31・38・39・42・46・48・50・52・61・62)と石器(S6)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半以前に構築されたと考えられる。

第34号 竪穴住居跡 (図53)

[位置] 調査区東側の NC-94グリッドに位置している。

[検出状況] 第Ⅵ層上面で土器埋設炉を確認した。北側で第31号竪穴住居跡、東側で第24号竪穴住居跡と重複し、本住居跡がどちらの遺構よりも新しい。

[形態・規模] 土器埋設炉のみ検出したため平面形および規模は不明である。

[壁・床面] 壁および床面と思われる硬化面も確認できなかった。

[ピット] 埋設炉を検出したレベルとほぼ同じレベルで周辺にピットが確認され、それらは壁柱穴の可能性も考えられる。

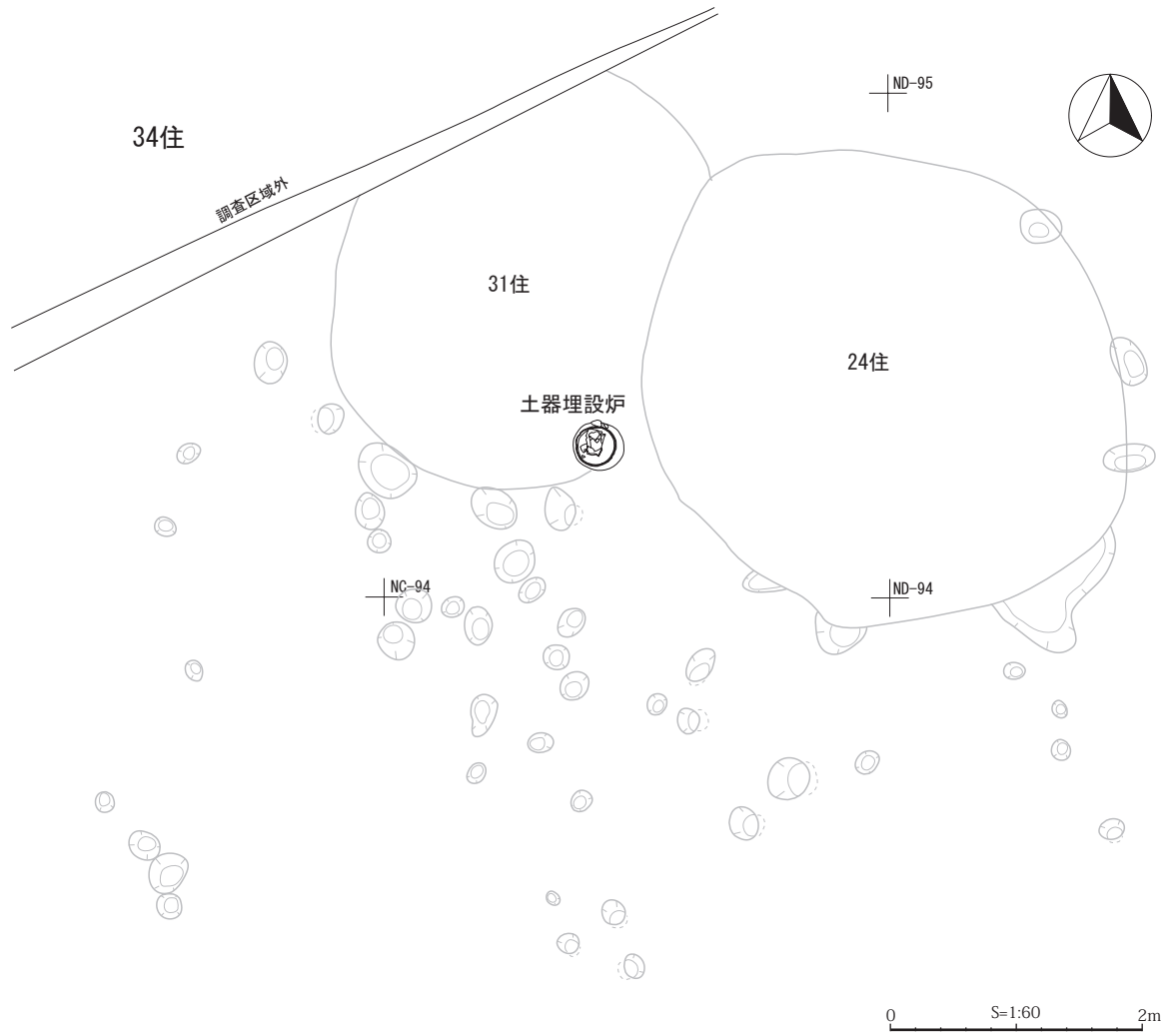
[炉] 検出した土器埋設炉は直径約45cmの円形の掘り方に口縁部と底部の欠損した深鉢土器を正位に埋設している。土器内の充填土は上層に炭化物と焼土粒を含んだ黒褐色土、下層に中振浮石と思われるにぶい黄褐色土の層である。掘り方は中振浮石が多量に含まれるにぶい黄褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 本住居跡と思われる堆積土は確認されなかった。

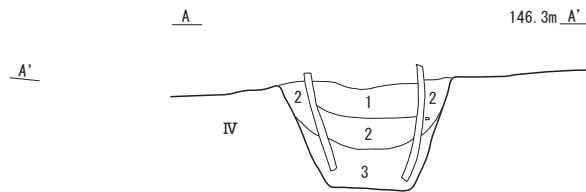
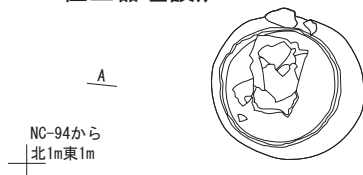
[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～19)と石器(S1・2)が出土している。

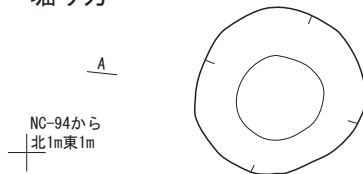
[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に構築されたと考えられる。



34住土器埋設炉



掘り方



第34号竪穴住居跡埋設炉

- 第1層 黒褐色土 7.5YR3/2 浮石(中振: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物・焼土粒微量
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 中振浮石層?
- 第3層 にぶい黄褐色土 10YR6/3 中振浮石層($\phi \sim 1.0\text{cm}$)多量、2層より粒子大

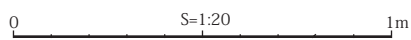


図53 第34号竪穴住居跡

第35号竪穴住居跡 (図54)

[位置] 調査区東側のNI・NJ-97グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げて柱穴列を確認した。西側で第4号a・b・c竪穴住居跡、南側で第13号・第19号竪穴住居跡の柱穴列と重複し、本住居跡は第4号a住居跡より古く、第4号b・第4号c・第13号・第19号住居跡の柱穴列よりも新しいと思われる。

[形態・規模] 北側は調査区域外のため、柱穴列と残存部分から円形あるいは楕円形と推定される。

[壁・床面] 壁は確認できなかった。床面は平坦だが、明確に硬化面として捉えることはできなかった。残存する床面積は約8.4㎡である。

[ピット] 壁柱穴と思われるピットを6基検出した。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土として確認できなかったが、ピット内の堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土が確認されている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期後半に構築または廃棄されたと考えられる。

第36号竪穴住居跡 (図55)

[位置] 調査区中央部のMS・MT-89・90グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で竪穴住居跡の落ち込みを確認したが、当初第18号竪穴住居跡の落ち込みと想定していたため、床面と思われる硬化面を検出した時点で、竪穴住居跡と認識した。北側で第18号竪穴住居跡、南側で第88号土坑、西側で第102号土坑と重複し、本住居跡が第18号竪穴住居跡より古く、第88号・第102号土坑よりも新しい。

[形態・規模] 北側は第18号竪穴住居跡の埋土として掘り下げたため、規模および平面形は不明である。

[壁・床面] 確認できた壁の高さは約45cm、床面から傾斜角70度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約1.9㎡である。

[ピット] ピットは検出されなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、第1層～第3層に炭化材が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～13)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

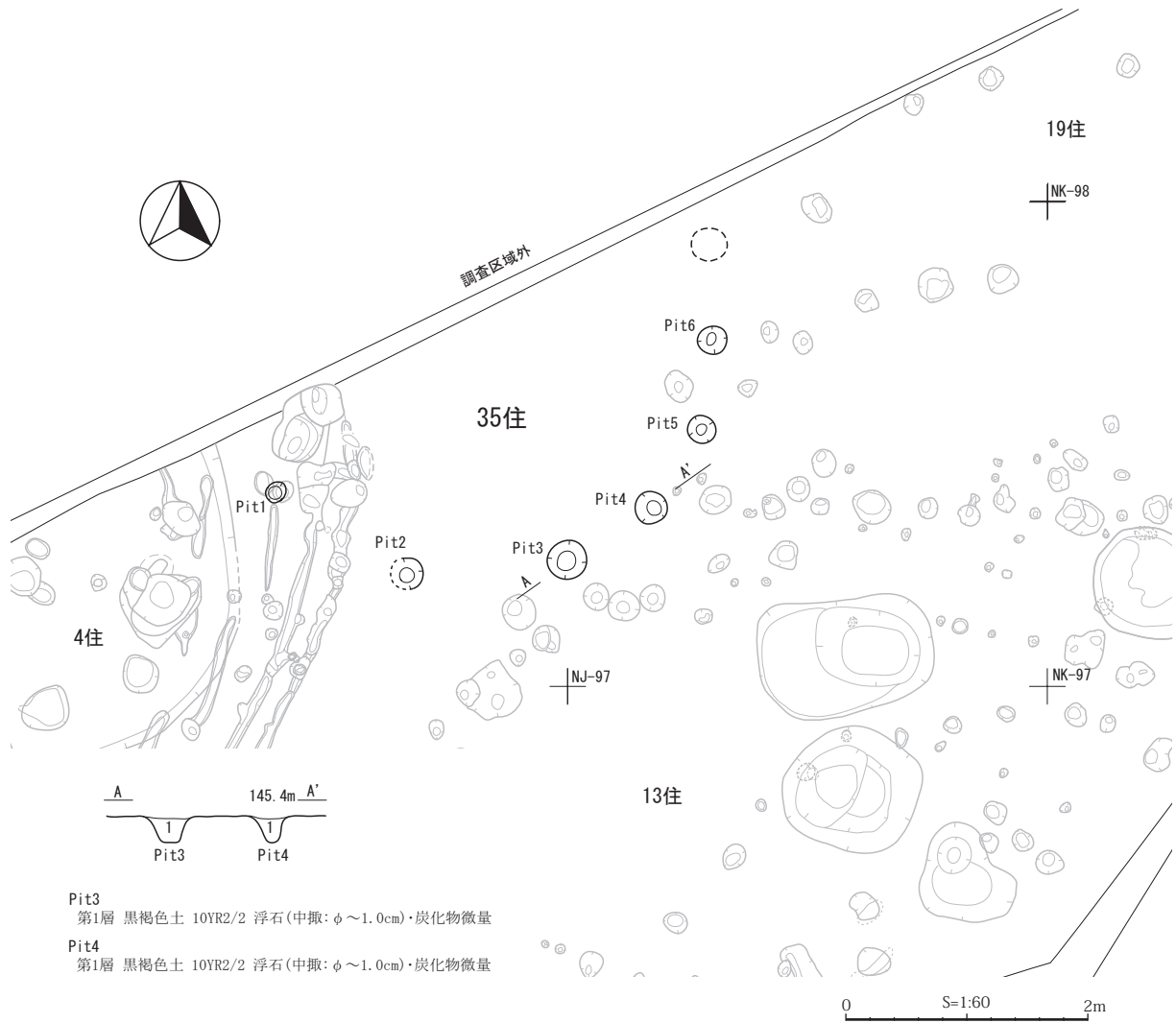


図54 第35号竪穴住居跡

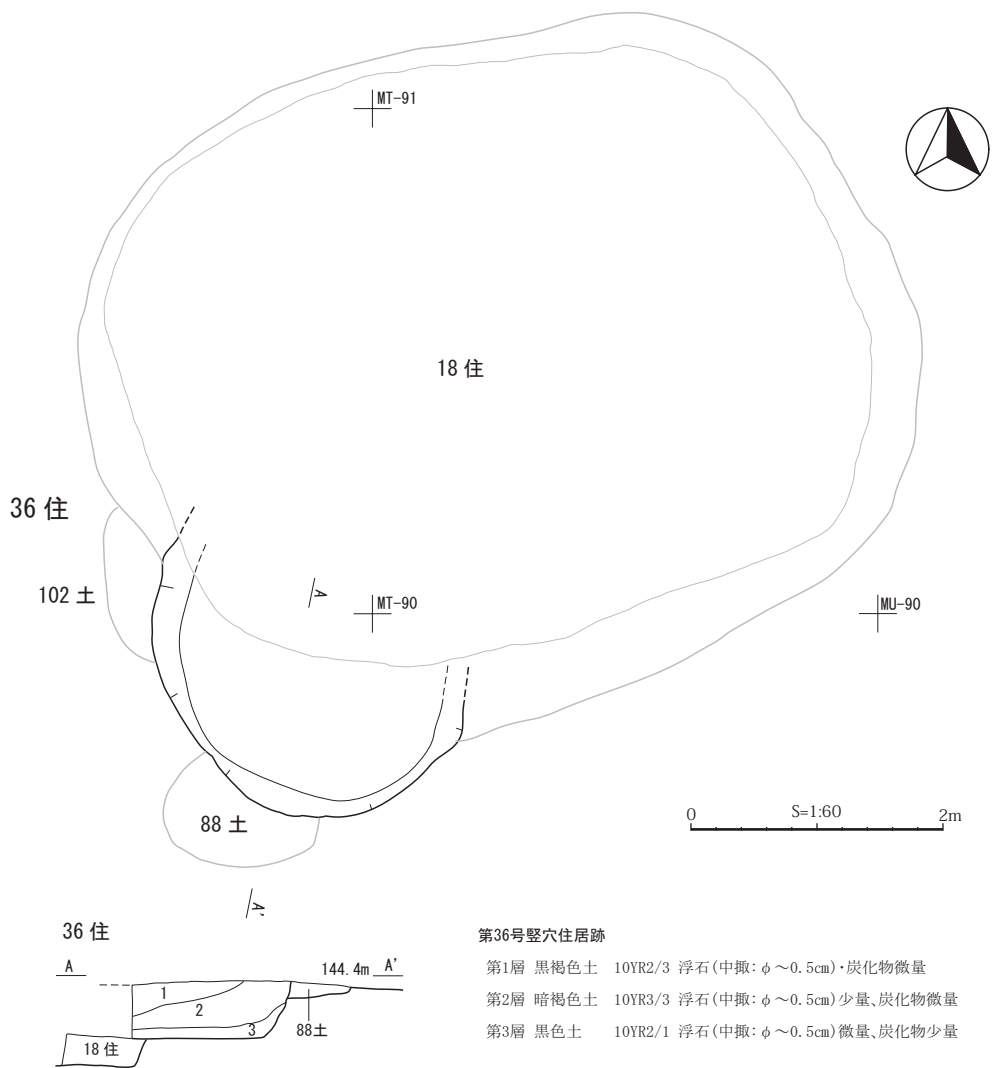


图55 第36号竖穴住居跡

第37号 a 竪穴住居跡 (図56)

〔位置〕 調査区中央部の MS・MT-90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第18号竪穴住居跡の埋土を掘り下げ中に床面と思われる硬化面を検出した。北西側で第37号 b 竪穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔形態・規模〕 床面と思われる硬化面は、東西約3m20cm、南北約3mの範囲で確認され、平面形はほぼ円形と推定される。

〔壁・床面〕 壁は、住居跡の埋土を掘り下げて検出したため、ベルト部分のみ確認でき、残存している南壁の高さは約65cm、床面から傾斜角70度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。

〔ピット〕 ピットは確認できなかった。床面積は約7.8㎡である。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層され、第1層から第5層にかけて炭化物、第3層から第5層に焼土粒が含まれている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P3～6・9・11・34～40・43～46・52～54・57・60～65・69・76～88・97～99・114・115)と石器(S6・7・11～13・22・24・25・32・35・38・42)、剥片(HS1・6・13・15)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

第37号 b 竪穴住居跡 (図57・58)

〔位置〕 調査区中央部の MS・MT-90・91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第18号竪穴住居跡の埋土を掘り下げ中に土器埋設炉を検出した。南東側で第37号 a 竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔形態・規模〕 竪穴住居跡の北西側は調査区域外で、南東側を重複する住居跡により削平されているため、平面形および規模は不明である。

〔壁・床面〕 壁は、住居跡の埋土を掘り下げて検出したため、ベルト部分のみ確認でき、残存している南壁の高さは約65cm、床面から傾斜角69度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。残存する床面積は約4.2㎡である。

〔ピット〕 ピットは確認できなかった。

〔炉〕 住居跡の中央部に土器埋設炉を検出した。直径約30cmの円形の掘り方に口縁部の欠損した深鉢土器を正位に埋設しており、南側に明赤褐色土の焼土範囲がみられる。土器内の充填土は褐色土で炭化物と焼土粒が含まれている。掘り方はシルト質の暗褐色土で埋め戻されている。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物少量を含んだ黒色土の層が確認されている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 炉跡から土器の破片(MP1:P1～7、MP2:1～5)、石器(S1)、炭(MS1)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期中葉以前に構築されたと考えられる。

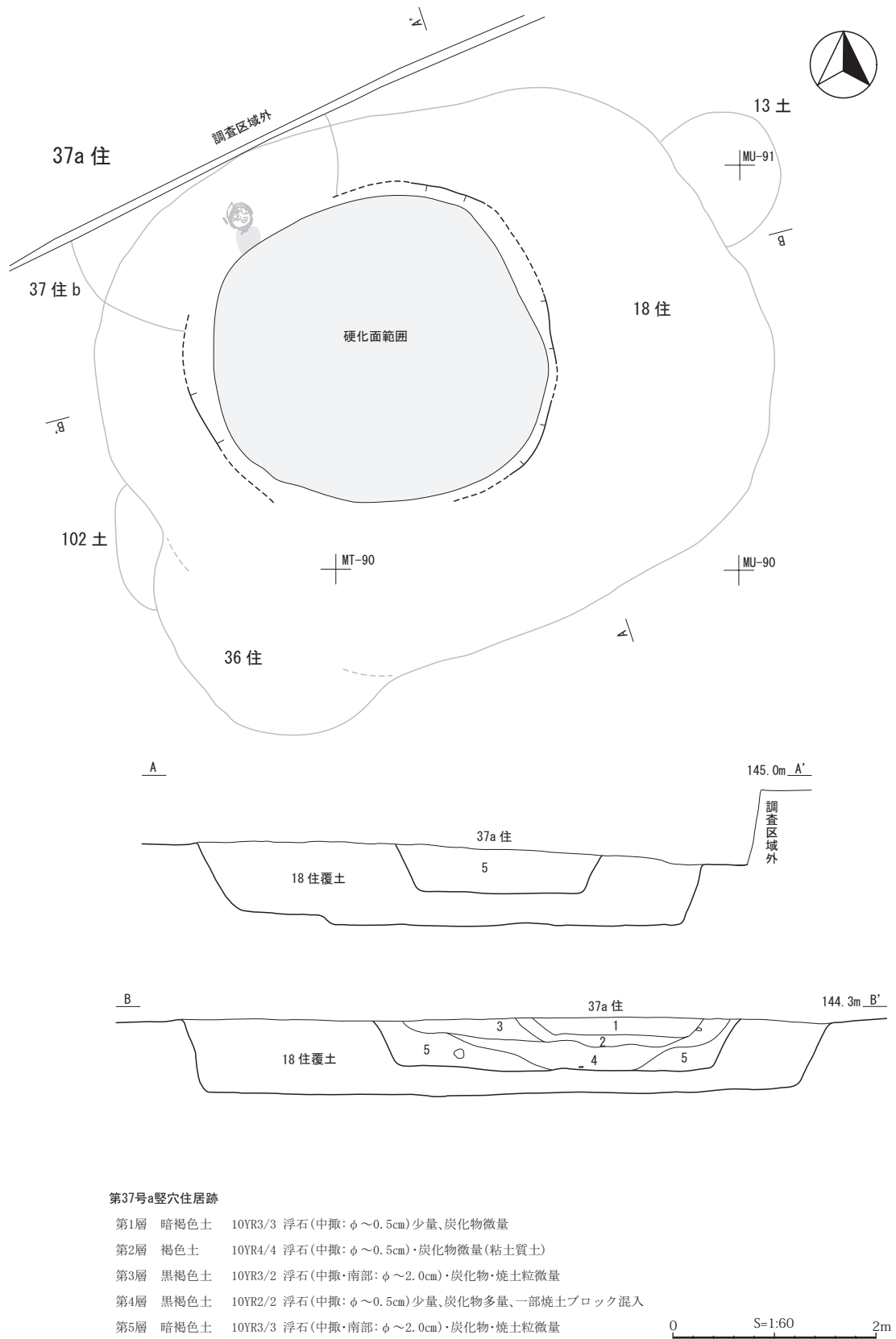


図56 第37号a竖穴住居跡 (1)

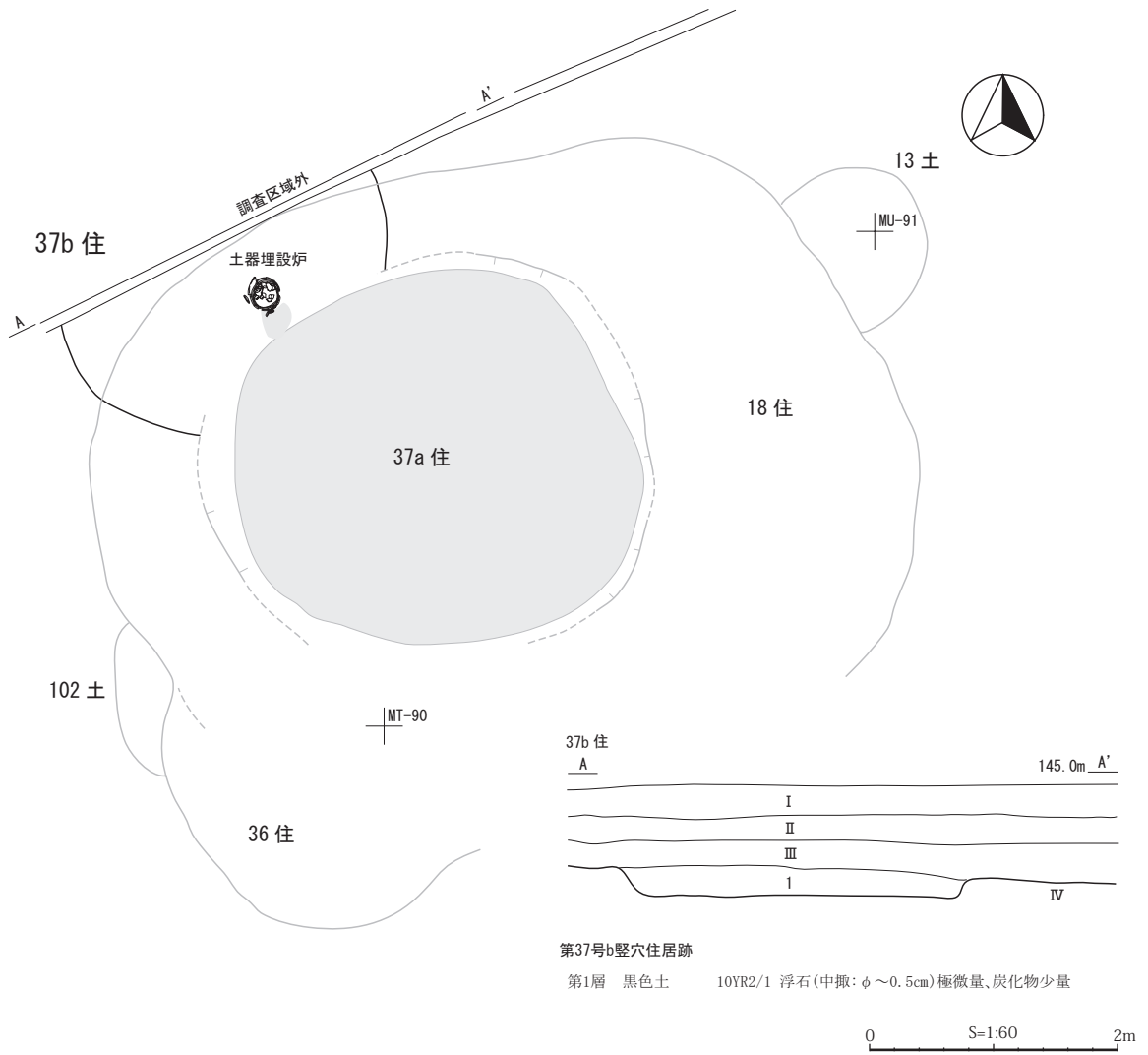
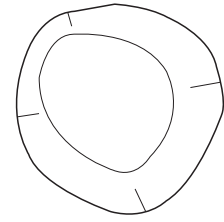
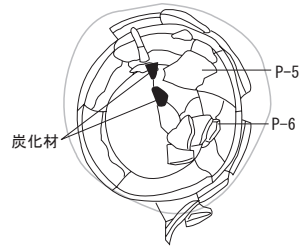
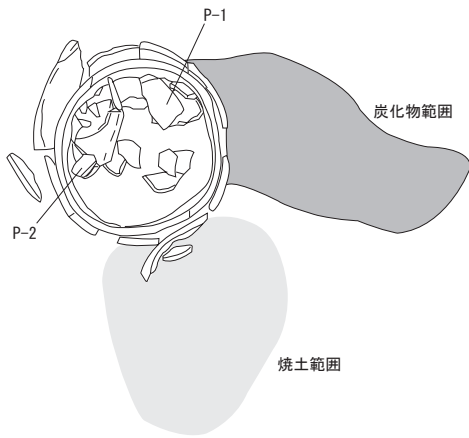


図57 第37号b竖穴住居跡 (2)

土器埋設炉検出状況



掘り方

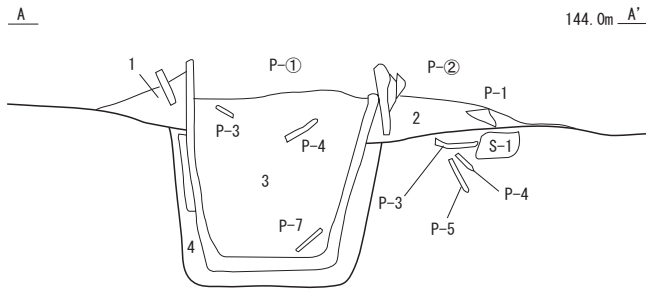


MT-91から西1m南1m

MT-91から西1m南1m

MT-91から西1m南1m

0 S=1:10 50cm



第37号b土器埋設遺構

- 第1層 黒色土 10YR2/1
浮石(中礫: φ~0.5cm)極微量、炭化物少量
- 第2層 明赤褐色土 5YR5/6(焼土層)
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
- 第3層 褐色土 10YR4/6
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量(シルト質土)(掘り方)

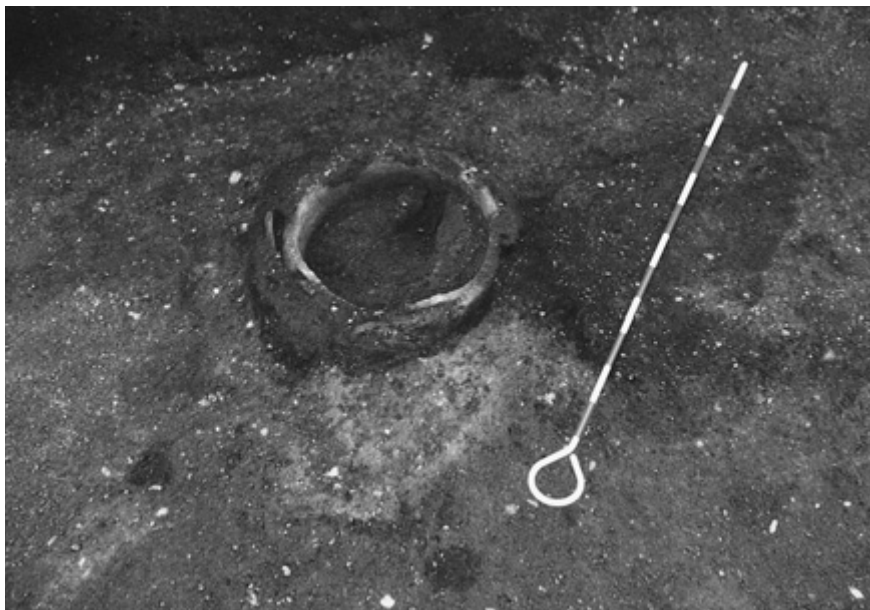


図58 第37号b竪穴住居跡(3)

第38号 竪穴住居跡 (図59)

〔位置〕 調査区東側の NF・NG-95・96グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に床面と思われる硬化面を確認した。西側で第15号竪穴住居跡、東側で第14号・第33号竪穴住居跡、第53号土坑、南西側で第19号土坑と重複し、本住居跡は第33号住居跡と53号土坑よりも新しく、第14号・第15号住居跡と第19号土坑よりも古いと思われる。

〔形態・規模〕 北側は調査区域外だが、確認できた硬化面は長径約5m、短径約4m50cmの楕円形である。

〔壁・床面〕 壁を確認することはできなかったが、床面はほぼ平坦で中央に黄褐色土の粘土範囲(230×95cm)が広がっている。残存する床面積は約19.2㎡である。

〔ピット〕 ピットは床面から15基検出した。いずれも明確な柱痕は確認できなかったが、柱穴の可能性は否定できない。また、同一レベルで重複する住居跡の柱穴の可能性も考えられる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は確認できなかった。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土等から住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期後半以前に構築されたと考えられる。

第39号 竪穴住居跡→第13号 b 竪穴住居跡となったため欠番**第40号 a 竪穴住居跡** (図60～63)

〔位置〕 調査区西側の NB～ND-81・82グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅵ層上面で落ち込みを確認した。南東隅で第3号竪穴住居跡と第81号土坑、貼り床下から第97号・第100号土坑と重複し、本住居跡が貼り床下の土坑よりも新しく、第3号住居跡よりも新しく、第81号土坑より古い。また、若干ずれているものの同一プランで住居跡が重複している。

〔形態・規模〕 ほぼ同一プランで住居跡が重複しているため、壁柱穴列から長径約8m30cm、短径約5m15cmの楕円形と推定できる。

〔壁・床面〕 残存している西壁の高さは約75cm、床面から傾斜角65度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。床面積は約35.1㎡、軸方向はN-55°-Eである。

〔ピット〕 ピットは床面と壁際に多数検出した。本住居跡の主柱穴はピット52(深さ59cm)、ピット120(深さ69cm)、ピット134(深さ64cm)、ピット107(深さ64cm)、ピット50(深さ42cm)、ピット110(深さ60cm)、ピット136(深さ41cm)と重複する第100号土坑で確認できなかったピットを加えた8基と考えられる。また、壁際には40～90cmの間隔で、深さ17～66cmの壁柱穴が廻っていると思われるが、本住居跡に伴わないピットは同一レベルで重複する住居跡のものと考えられる。

〔炉〕 ほぼ中央部で石囲炉を検出した。角礫を用いて50×50cmの方形に配置し、床面から10cmほど下がった底面が強い焼成を受けている。

〔堆積土〕 堆積土は10層に分層され、第7層以外は炭化物が含まれており、第6層と第10層はシルト質土である。本住居跡と重複する第40号 b 竪穴住居跡との区分する層を見つけ出せなかった。

〔付属施設〕 検出されなかった。

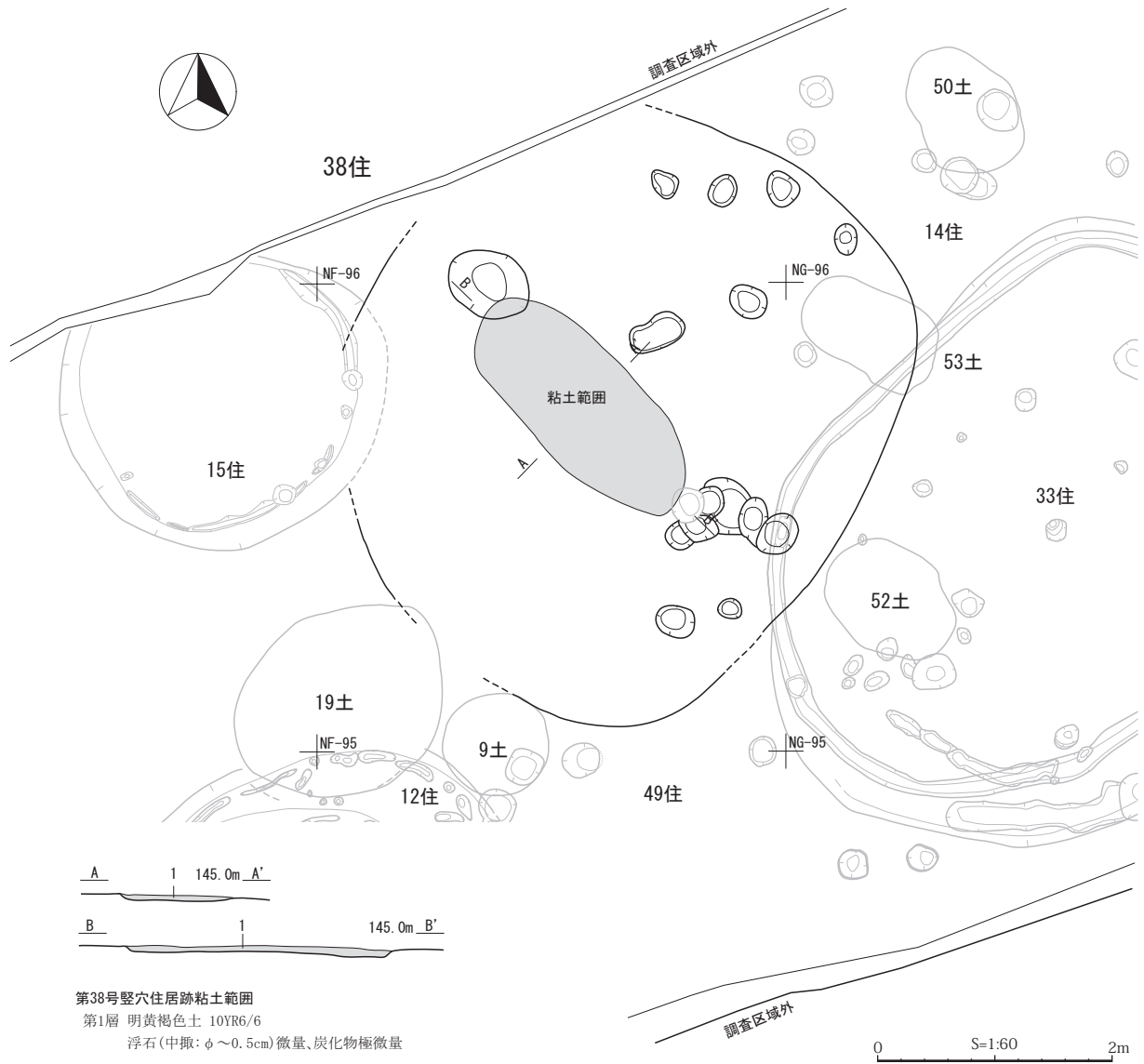


图59 第38号竖穴住居跡

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～19・21～52・54～92)と石器(S1～23・25～27・29～31・33～47・52～54・56～71・73～88・90～99)、軽石(K1～3)と、土偶(CD1・2)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

第40号b 竪穴住居跡 (図64)

[位置] 調査区西側のNB～ND-81～83グリッドに位置している。

[検出状況] 第40号a 竪穴住居跡の精査中に、北側の一部と東から南壁にかけてテラス状の段差と壁柱穴を確認した。南東隅で第3号竪穴住居跡と第81号土坑、南西側で第97号土坑、中央部で第100号土坑と重複し、本住居跡は第3号住居跡よりも新しく、第81号土坑よりも古い。第97号・第100号土坑の新旧関係は不明である。

[形態・規模] 中央部分は重複する住居跡に削平されているが、残存部分から長径約8m50cm、短径約6m40cmの楕円形と推定できる。

[壁・床面] 残存している壁の高さ北東壁が約50cm、南東壁から南壁が約60cmで、床面から傾斜角75度で、立ち上がる。確認できる床面は起伏がみられ、部分的に硬化面が確認できる。床面積は約42.1㎡である。

[ピット] ピットは床面が検出された壁際で確認された。いずれも壁柱穴と思われ、間隔はおよそ30cm～1mで、深さは15～50cmである。

[炉] 中央部が削平されているため確認できなかった。

[堆積土] 土層断面から本住居跡の明確な層を見いだすことができなかったが、シルト質の暗褐色土と思われる。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うものとして取り上げた遺物はなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

第40号c 竪穴住居跡 (図65・66)

[位置] 調査区西側のNB～ND-81～83グリッドに位置している。

[検出状況] 第40号a・第40号b 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁柱穴列を確認した。南東隅で第81号土坑、床面で第97号・第100号土坑と重複し、本住居跡は第100号土坑よりも新しく、第81号・第97号土坑よりも古い。

[形態・規模] ほぼ同一プランで住居跡が重複しているため、壁柱穴列から長径約7m、短径約6m40cmの楕円形と推定できる。

[壁・床面] 残存している西壁の高さは約1m、床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。床面積は約35.7㎡、軸方向はN-60°-Eである。

[ピット] ピットは床面と壁際に多数検出した。本住居跡の主柱穴はピット119(深さ47cm)、ピット108(深さ72cm)、ピット133(深さ46cm)、ピット122(深さ62cm)の4基と考えられる。また、壁際には60～1m40cmの間隔で、深さ20～60cmの壁柱穴が廻っていると思われるが、本住居跡に伴わないピットは同一レベルで重複する住居跡のものと考えられる。

[炉] 住居跡の中央部南西よりにほぼ同じレベルでほぼ直線上に3基の土器埋設炉を検出した。土器埋設炉2は直経約40cmの円形の掘り方に口縁部と底部の欠損した深鉢土器を正位に埋設している。土器内の充填土は2層に分けられ、第2層が強い焼成を受けている。掘り方は褐色土で埋め戻されている。土器埋設炉3は長径45cm、短径35cmの楕円形の掘り方に口縁部が欠損した深鉢土器を正位に埋設している。土器内の充填土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。掘り方は明褐色土で埋め戻されている。土器埋設炉4は直経約40cmの円形の掘り方に口縁部と底部の一部が欠損した深鉢土器を正位に埋設している。土器内の充填土は3層に分けられ、第2層が強い焼成を受けている。掘り方は明褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 土層断面から本住居跡と第40号 a 住居跡とを区分する層を見いだすことができなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P20・53)と石器(S24・28・32・48・49・50・51・55・72・89)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

第40号 d 竪穴住居跡 (図66)

[位置] 調査区西側の NC-82グリッドに位置している。

[検出状況] 第40号 c 竪穴住居跡の床面を掘り下げて第40号 c 住居跡の土器埋設炉2の東よりに土器埋設炉5を確認した。南東隅で第81号土坑、床面で第97号・第100号土坑と重複し、本住居跡はいずれの土坑よりも古いと思われる。

[形態・規模] 土器埋設炉のみ検出したため、住居跡の規模や平面形は不明である。

[壁・床面] 壁は確認できなかった。床面も土器埋設炉周辺が堅く締まっている程度で範囲など把握できなかった。

[ピット] ピットは床面と壁際に多数検出したが、どのピットが本住居跡に伴うものかどうについては推定できなかった。

[炉] 床面から土器埋設炉を検出した。土器埋設炉5は直経約30cmの円形の掘り方に口縁部の欠損した深鉢土器を正位に埋設している。土器内の充填土は2層に分けられ、どちらかと言えば第1層が強い焼成を受けている。掘り方は褐色土で埋め戻されている。

[堆積土] 本住居跡の堆積土として確認できなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴う遺物は土器埋設炉の土器以外出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

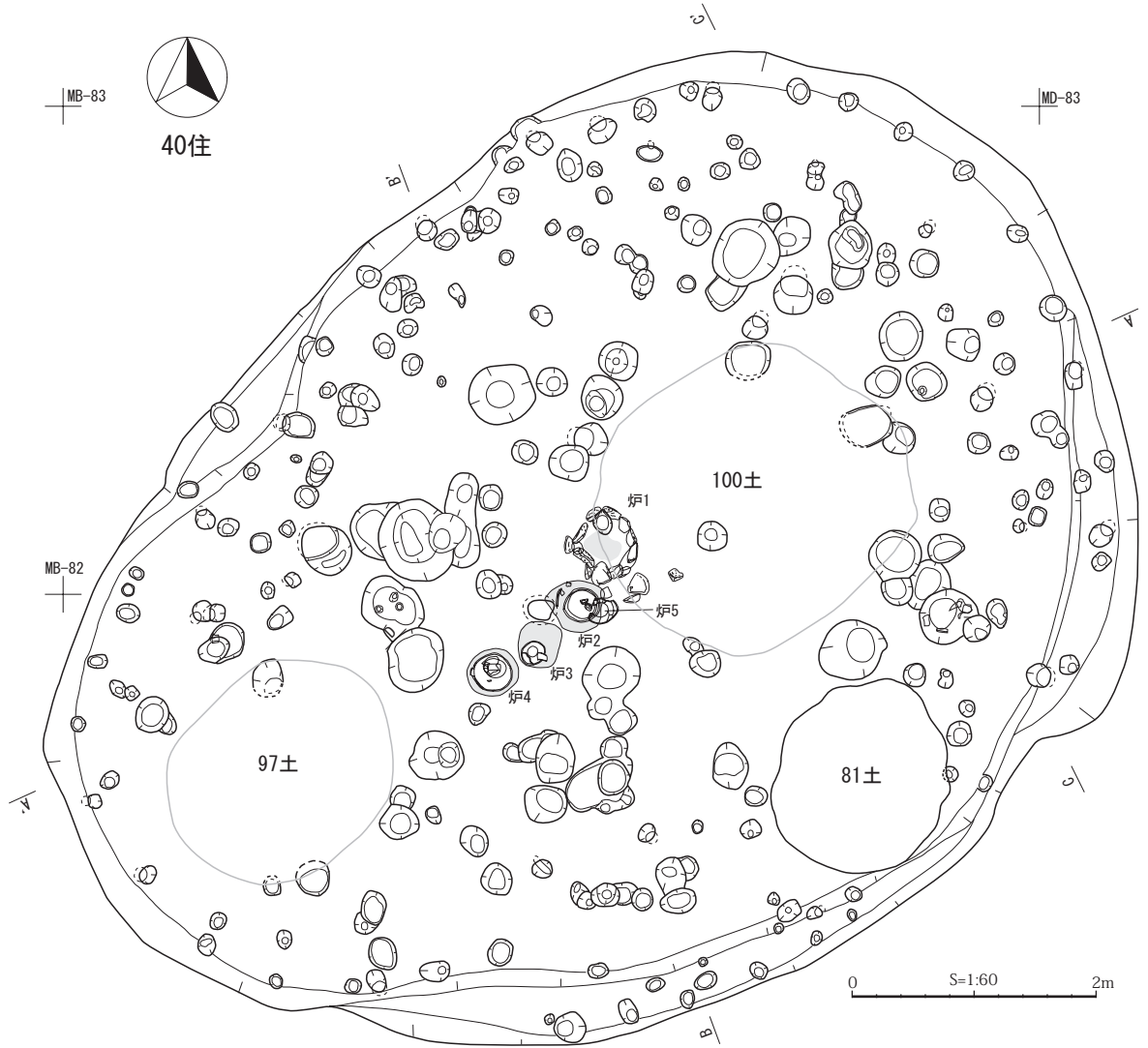
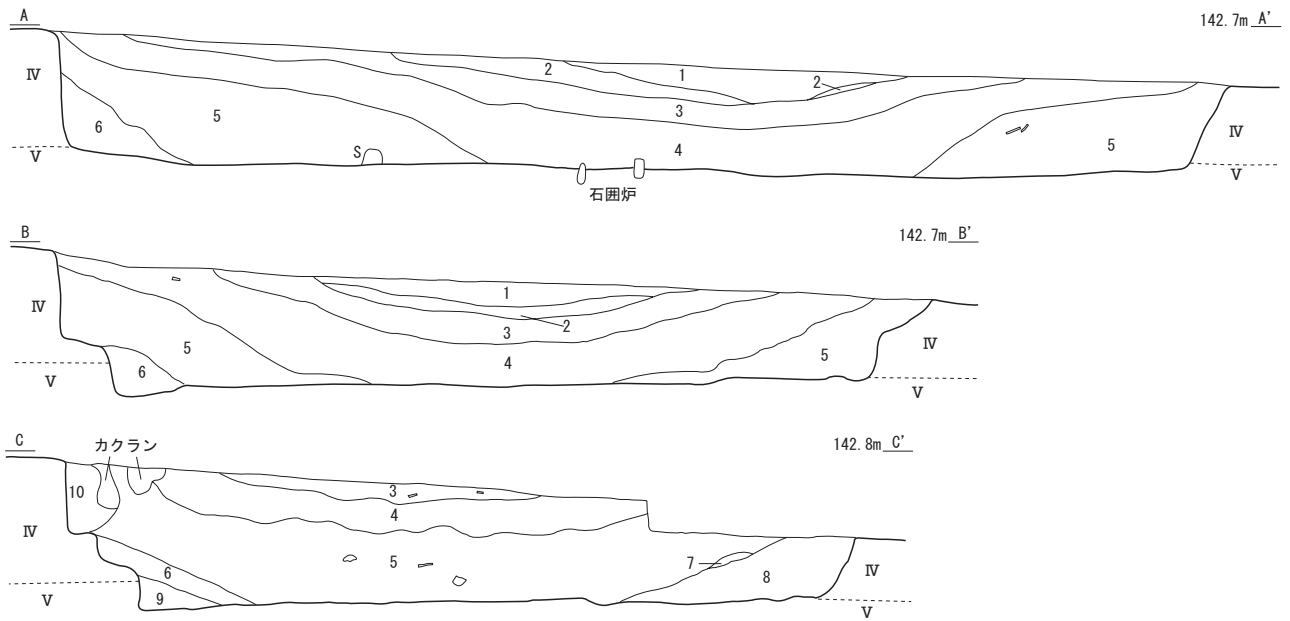


图60 第40号竖穴住居跡(1)



第40号竪穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石 (To-b: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 浮石 (中敷) 中量、炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石 (南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$) 少量、炭化物微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 浮石 (南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第5層 褐色土 10YR4/4 浮石 (中敷: $\phi \sim 1.0\text{cm}$) 少量、炭化物微量 (やや粘土質土)
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 浮石 (中敷: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量 (ややシルト質土)
- 第7層 黄褐色土 10YR5/6 浮石 (中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 微量 (粘土質土・しまりあり)
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 浮石 (中敷: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 浮石 (南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3 浮石 (中敷: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量 (ややシルト質土)

0 S=1.60 2m



図61 第40号竪穴住居跡(2)

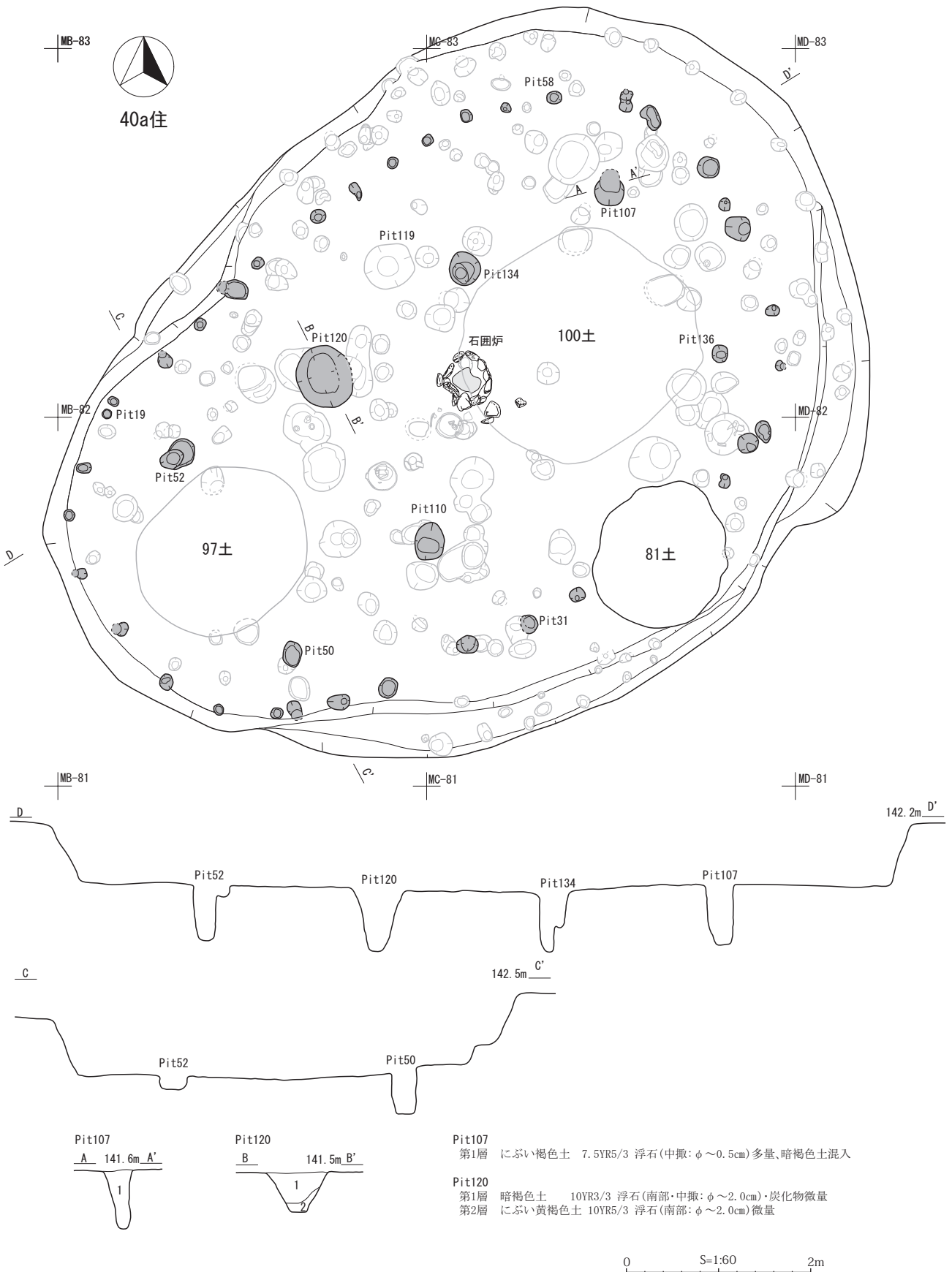
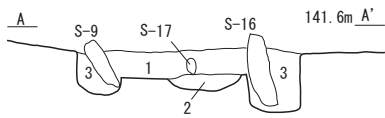
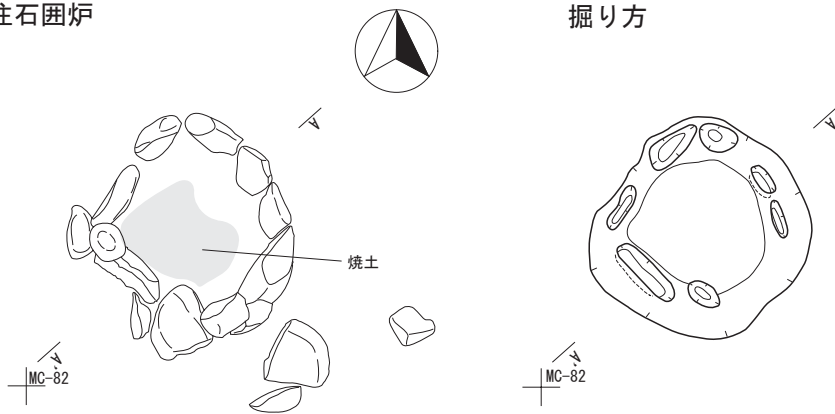


図62 第40号a竪穴住居跡(3)

40a 住石囲炉

掘り方



石囲炉

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量(掘り方覆土)
- 第2層 明赤褐色土 5YR5/6 焼土層・浮石・炭化物微量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量

0 S=1:20 1m

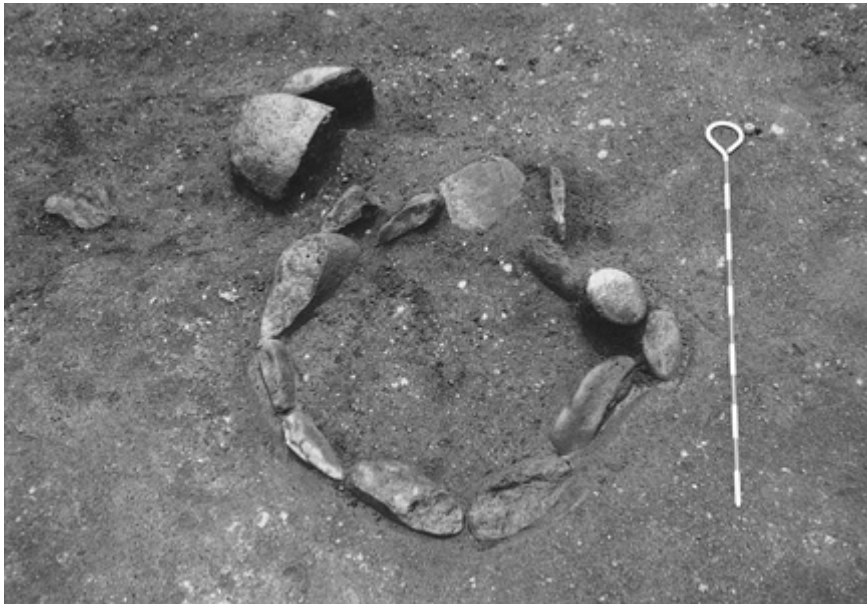


図63 第40号a竪穴住居跡(4)

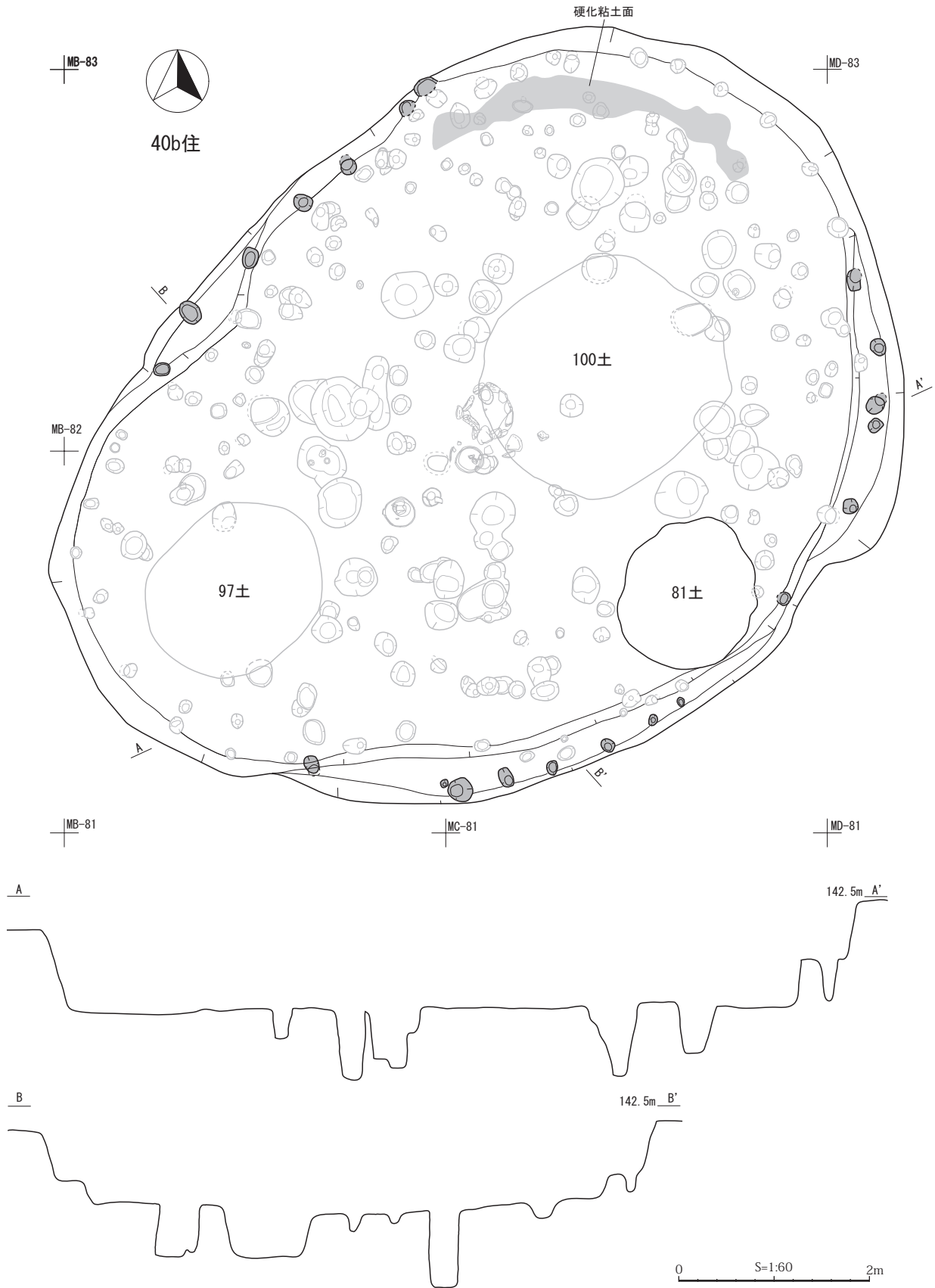


图64 第40号b竖穴住居跡(5)

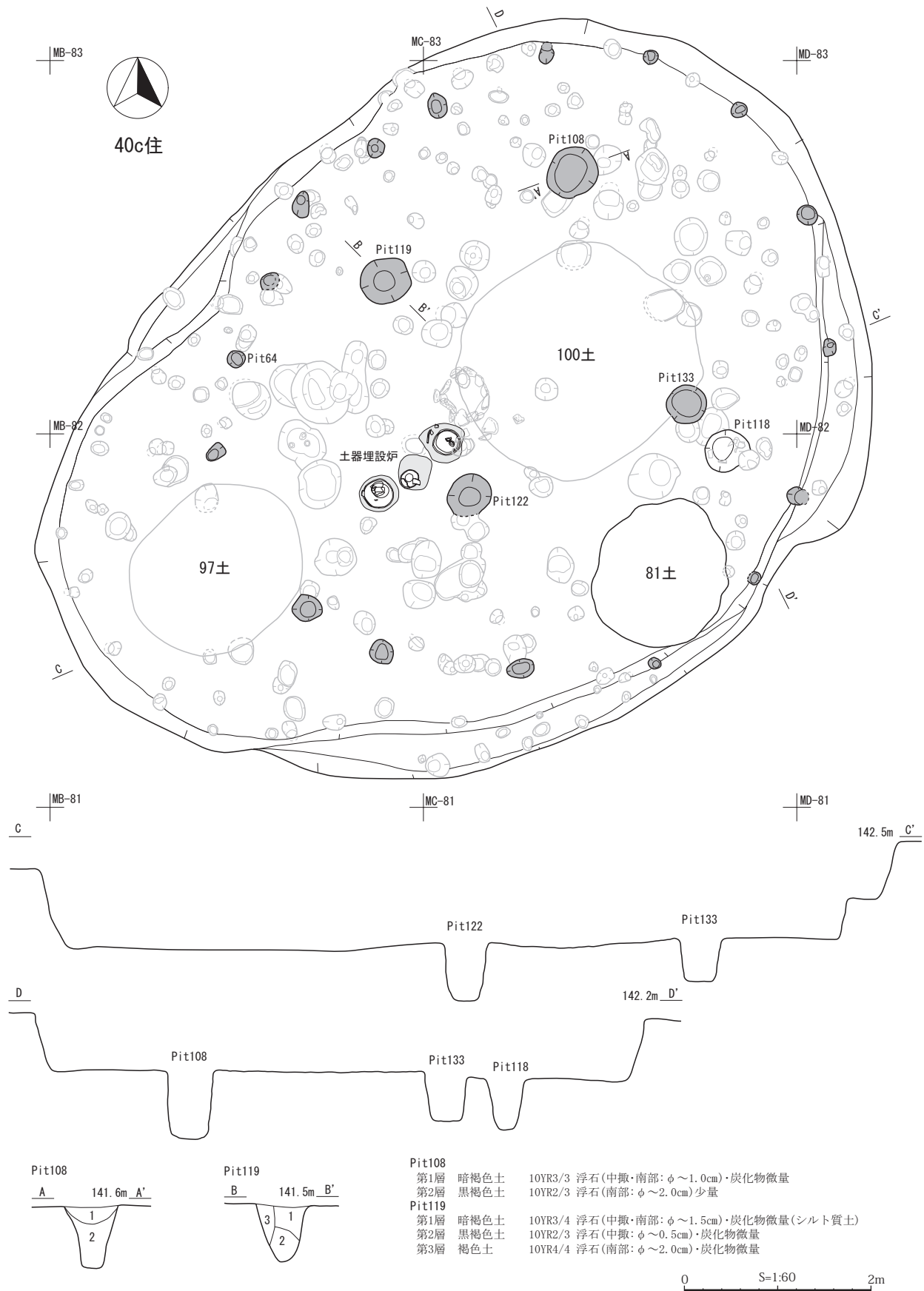


図65 第40号c竖穴住居跡(6)

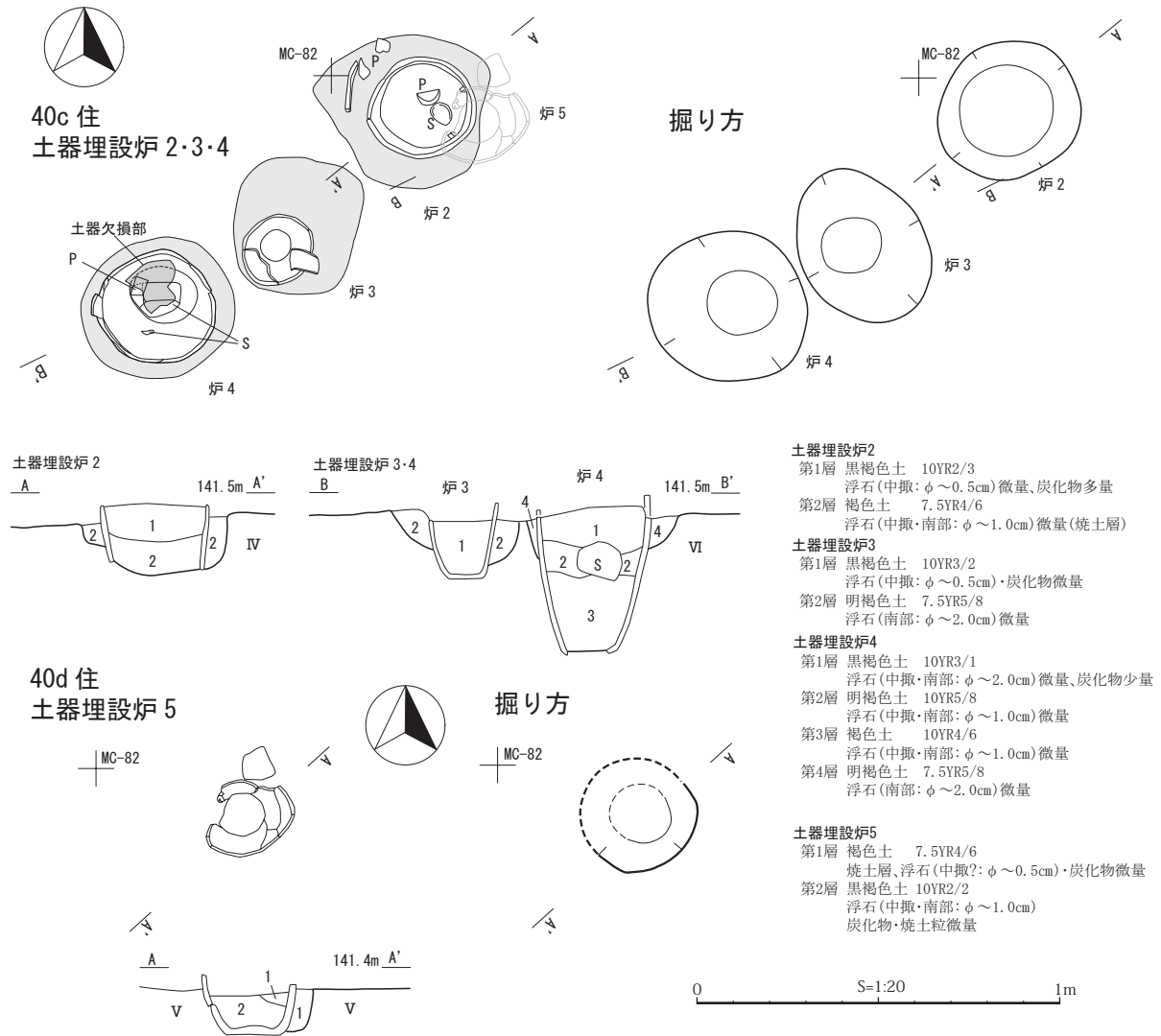


図66 第40号c・d竪穴住居跡(7)

第41号竪穴住居跡（図67）

〔位置〕 調査区中央部のMR-89グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で暗褐色土の落ち込みが確認された。北側で第91号土坑、東側で第92号土坑と重複し、本住居跡がいずれの土坑よりも古い。

〔形態・規模〕 規模は長径約2m95cm、短径約2m55cmで、平面形はやや東側が張り出しているが、概ね楕円形である。

〔壁・床面〕 残存している壁の高さは約15cm、床面はやや起伏がみられ、堅く締まっているとはいえない。床面積は約6.0㎡、軸方向はN-49°-Eである。

〔ピット〕 ピットは床面から9基検出した。ピット1(深さ37cm)とピット9(深さ40cm)が支柱穴と思われる。

〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は暗褐色土の層で、炭化物が含まれている。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～41)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に廃棄されたと考えられる。



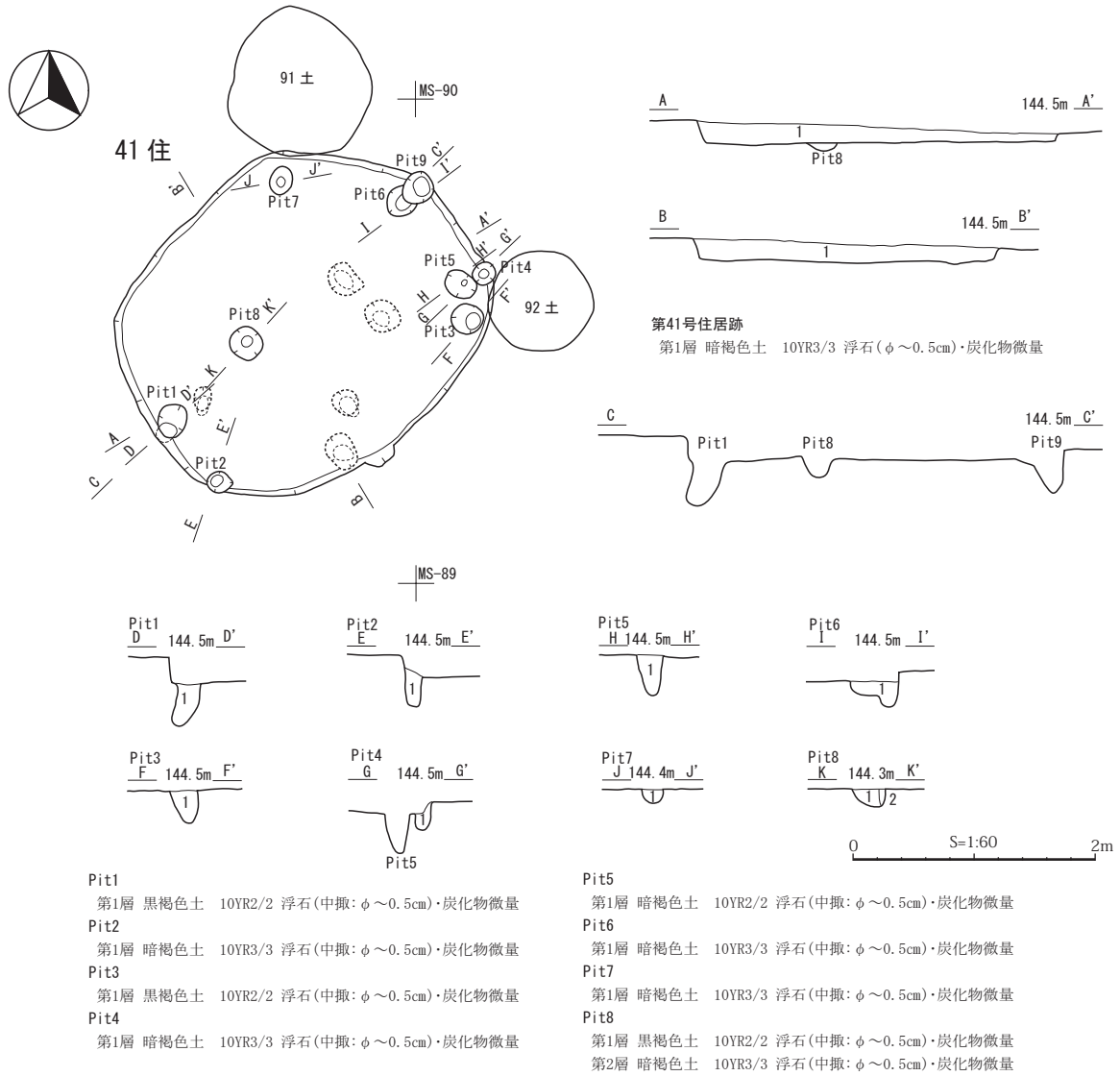


図67 第41号竪穴住居跡

第42号 a 竪穴住居跡 (図68)

[位置] 調査区中央部の MO-87グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北東側で第42号 b 竪穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[形態・規模] 南東側は調査区域外のため規模は不明であるが、平面形はほぼ円形と思われる。

[壁・床面] 壁の高さは約40cm、床面から傾斜角75度で立ち上がる。床面は平坦で、堅く締まっており、壁際には幅8～20cm、深さ5～10cmの壁溝と55～65cmの間隔で壁柱穴が確認された。残存する床面積は約1.3㎡である。

[ピット] ピットは床面の壁際から4基検出し、いずれも壁柱穴(深さ19～38cm)と思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P5～8・14～17・19～26)と石器(S5～8)、軽石(K1・2)、小型土器(C-1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。

第42号 b 竪穴住居跡 (図68)

[位置] 調査区中央部の MO・MP-87・88グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で部分的に拡がる粘土範囲の中に、暗褐色土の落ち込みを確認した。南西側で第42号 a 竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[形態・規模] 南側は調査区域外のため平面形・規模ともに不明である。

[壁・床面] 残存する壁は、高さは約35cm、床面から傾斜角75度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、部分的に堅く締まっている。残存する床面積は約3.3㎡である。

[ピット] ピットは検出されなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～4・18・27)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉以前に構築されたと考えられる。

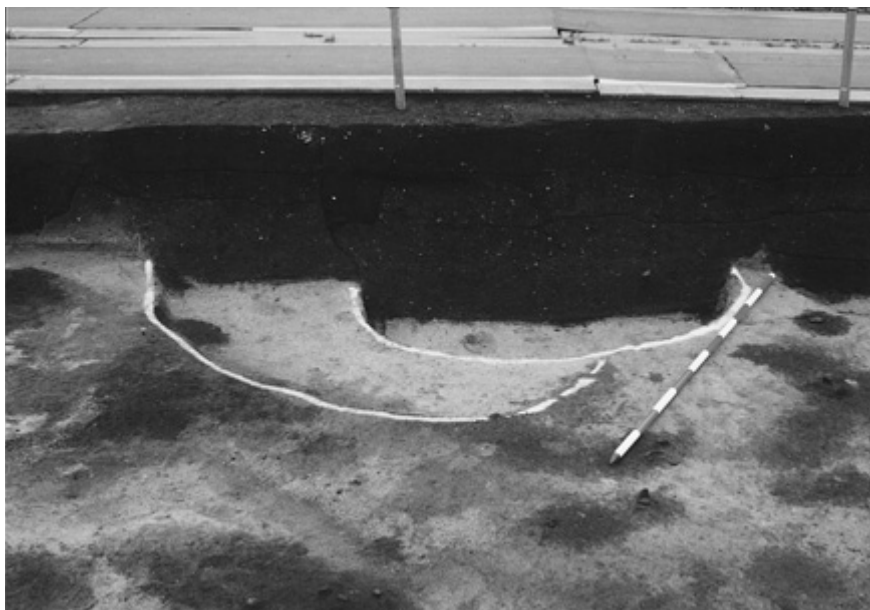
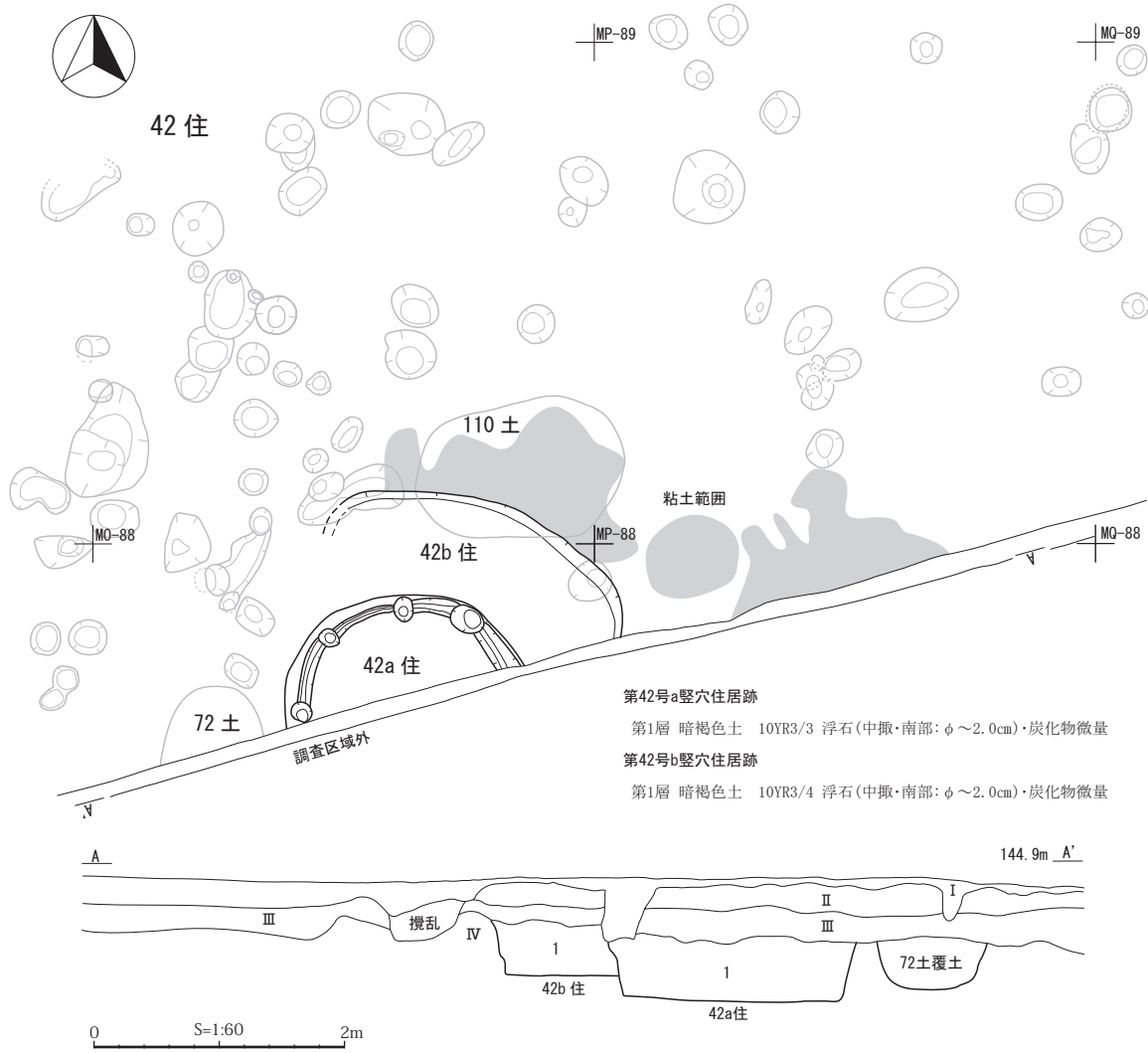


図68 第42号竪穴住居跡

第43号 a 竪穴住居跡 (図69・70)

[位置] 調査区西側の MD-83、ME-83・84グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。第1号風倒木と東側で重複し、本住居跡が古い。

[形態・規模] 第43号 c 竪穴住居跡埋土を掘り込んで構築していると考えられ、確認できた床面の規模は長径約3m40cm、短径約2m70cmで、平面形は楕円形である。

[壁・床面] 壁として確認はできなかったが、確認面である中振浮石層までの高さは80cmほどと思われる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。壁際には壁柱穴が廻り、北西側と南東側の一部に幅15～25cm、深さ5～25cmの壁溝が検出されている。床面積は約7.8㎡、軸方向はN-34°-Eである。

[ピット] ピットは床面の壁際を中心に検出し、ピット1(深さ69cm)とピット2(深さ67cm)が支柱穴と思われる。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は5層に分けられるが、本住居跡と第43号 c 住居跡とを区別する分層は残念ながらできなかった。第1層～第4層中に炭化物が含まれ、第5層は堅く締まった住居跡の貼床粘土が確認されている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～123)と石器(S1～24)、種子(T1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期中葉に廃棄されたと考えられる。

第43号 b 竪穴住居跡 (図71)

[位置] 調査区西側の NE-83グリッドに位置している。

[検出状況] 第43号 a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて壁溝を確認した。第43号 a 竪穴住居跡の拡張以前の住居跡と考えられる。

[形態・規模] 確認できた壁溝から、直径約2m50cmのほぼ円形と思われる。床面積は約5.6㎡である。

[壁・床面] 壁としては確認できないが、確認面である中振浮石層までの高さは85cmほどと思われる。床面は平坦で、堅く締まっている。北西壁と南西壁の一部が第43号 a 住居跡と同一のプランになるため削平されているが、幅10～15cm、深さ5～10cmの壁溝がほぼ一巡すると思われる。

[ピット] 本住居跡に伴うと思われるピットは確認できなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[付属施設] 検出されなかった。

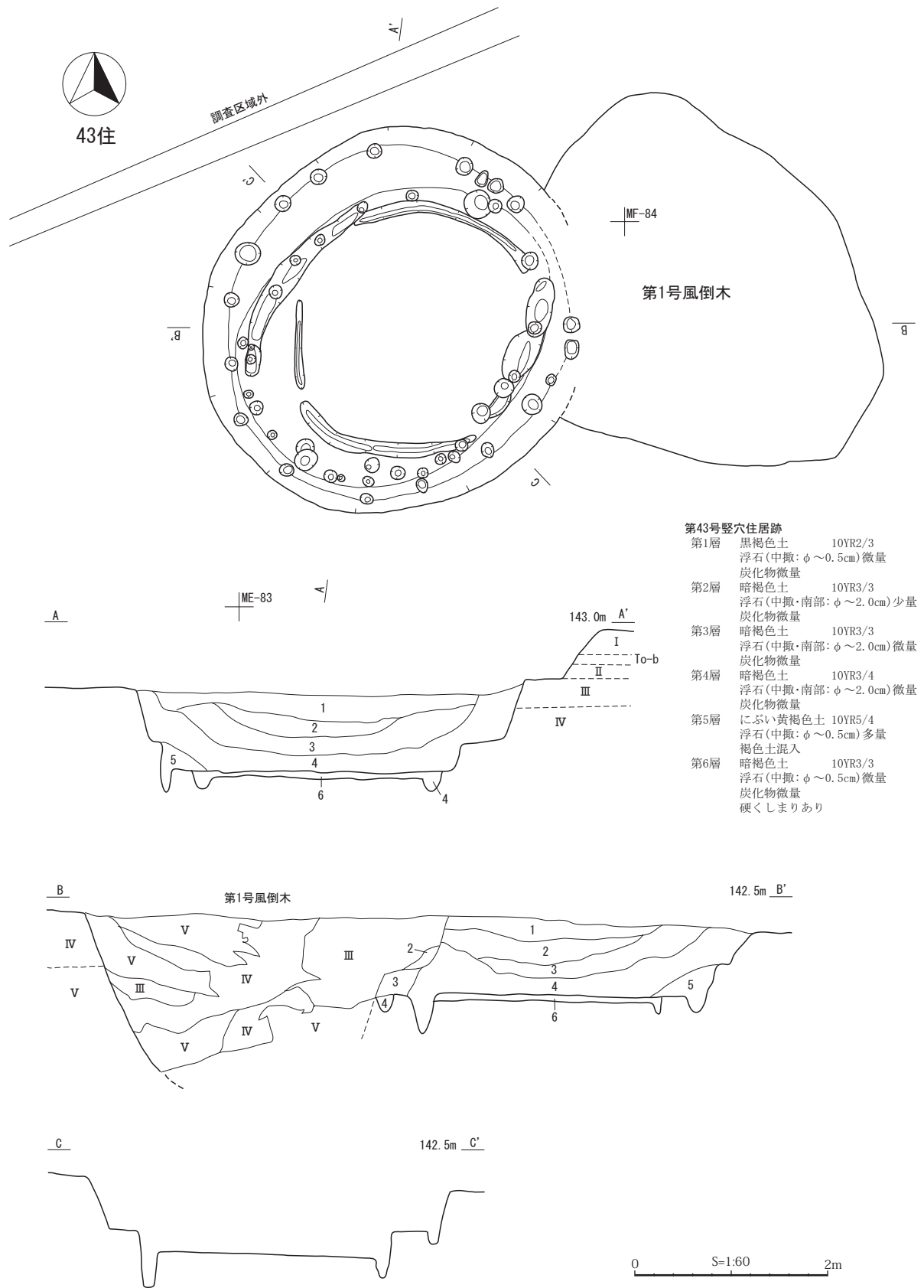
[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代中期中葉以前に構築されたと考えられる。

第43号 c 竪穴住居跡 (図71)

[位置] 調査区西側の ME-83・84グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。東側で第1号風倒木と重複し、本住居跡が古い。第43号 a・b 住居跡は本住居跡の埋土を掘り込んで構築されている。



第43号竪穴住居跡

- | | | |
|-----|----------------------|---------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 |
| | 浮石(中礫: φ~0.5cm)微量 | |
| | 炭化物微量 | |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 |
| | 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)少量 | |
| | 炭化物微量 | |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 |
| | 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)微量 | |
| | 炭化物微量 | |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 |
| | 浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)微量 | |
| | 炭化物微量 | |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 |
| | 浮石(中礫: φ~0.5cm)多量 | |
| | 褐色土混入 | |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 |
| | 浮石(中礫: φ~0.5cm)微量 | |
| | 炭化物微量 | |
| | 硬くしまりあり | |

図69 第43号竪穴住居跡(1)

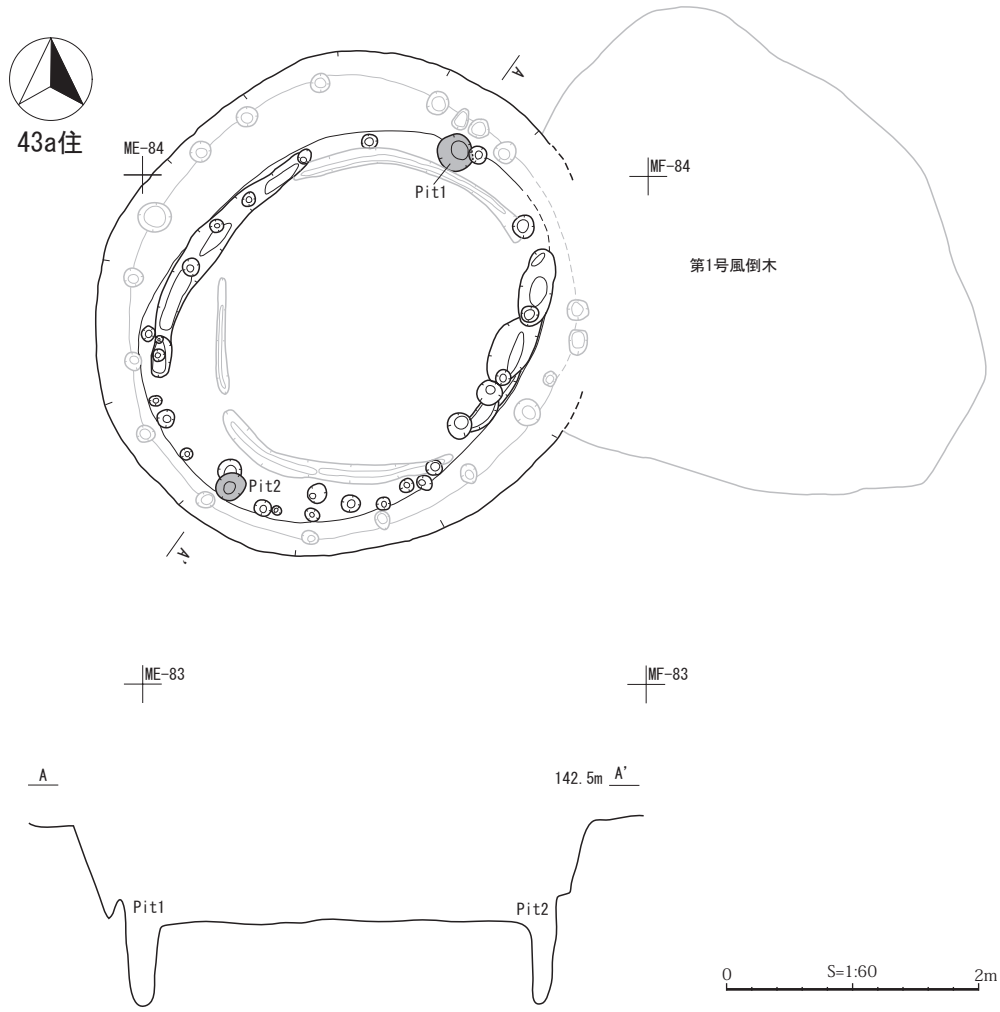
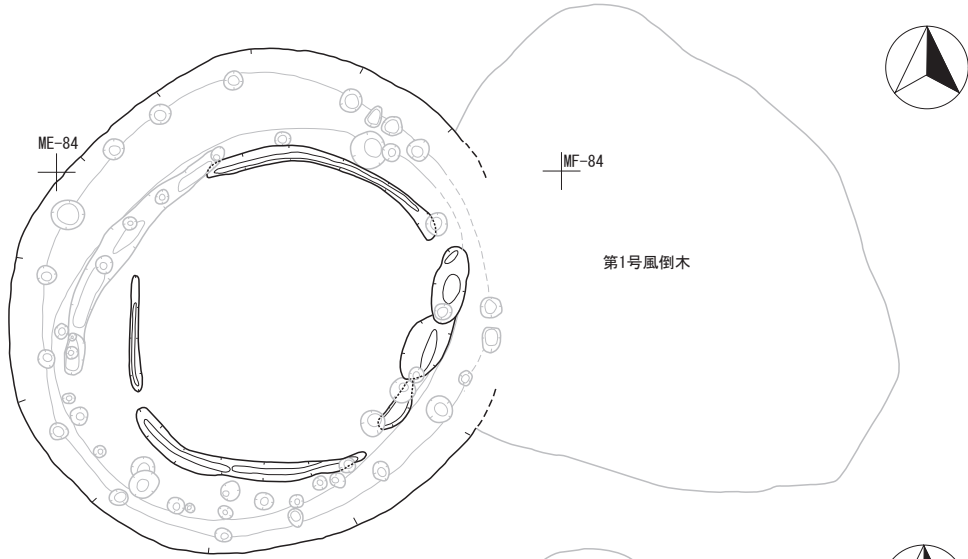


图70 第43号a竖穴住居跡(2)

43b住



43c住

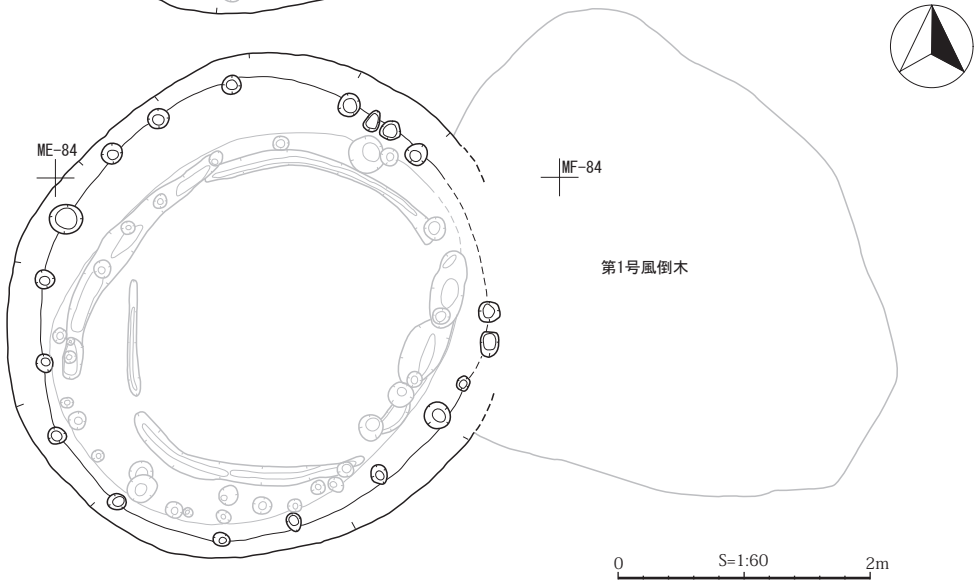


図71 第43号b・c竪穴住居跡(3)

〔形態・規模〕 東側は風倒木と重複しているが、残存部分から長径約4m10cm、短径約3m90cmのほぼ円形である。

〔壁・床面〕 確認できる壁の高さは約50cm、床面と考えられる段差部分は概ね平坦である。東側の一部を除いて壁際には壁柱穴を検出した。床面積は約10.4㎡である。

〔ピット〕 確認できたピットはいずれも壁柱穴(深さ15～30cm)で、およそ70～90cmの間隔で壁際を廻ると思われる。

〔炉〕 炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 本住居跡の堆積土と思われる土層は確認できなかったが、掘り込みから炭化物を含んだ暗褐色土と思われる。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代中期中葉以前に構築されたと考えられる。

第44号竪穴住居跡 (図72)

〔位置〕 調査区中央部のMQ・MR-89・90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第VI層上面で落ち込みを確認した。東側で第95号土坑、中央部で第98号・第99号土坑と重複し、本住居跡は第95号土坑よりも新しく、第98号・第99号土坑よりも古い。

〔形態・規模〕 北側は調査区域外のため平面形および規模は不明である。

〔壁・床面〕 確認できる南壁の高さは約50cm、床面から傾斜角50度で立ち上がる。床面は堅く締っているが、やや起伏がみられ、南側から西側にかけて10cmほどの段差が確認でき、テラス状の範囲が広がっている。残存する床面積は約8.2㎡である。

〔ピット〕 ピットは床面の壁際を中心に18基検出した。いずれも壁柱穴と思われるが、南側は二列確認でき、東側の壁とプランを同じにする住居跡が想定されるが、新旧関係等を断定できるには至らなかった。

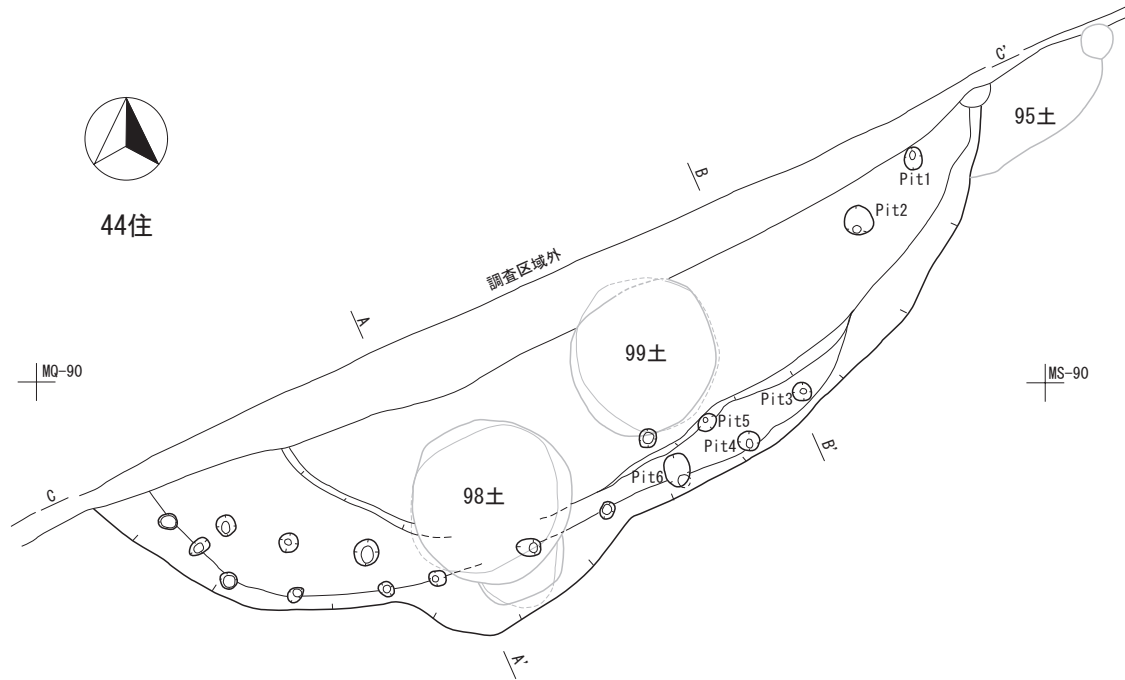
〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は10層に分層され、すべての層に炭化物が含まれているのが確認できた。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～44)と石器(S1～16)、軽石(K1・2)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代中期前葉に廃棄されたと考えられる。



第44号竖穴住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2
浮石(中礫: φ~0.5cm)微量、炭化物少量
- 第4層 にぶい黄褐色土 10YR4/3
浮石(中礫: φ~0.5cm)中量、炭化物微量(シルト質土)
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2
浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
- 第7層 黒褐色土 10YR3/3
浮石(中礫: φ~0.5cm)中量、炭化物微量(シルト質土)
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2
浮石(中礫・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
- 第9層 にぶい黄褐色土 10YR5/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)中量、炭化物微量(シルト質土)
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量

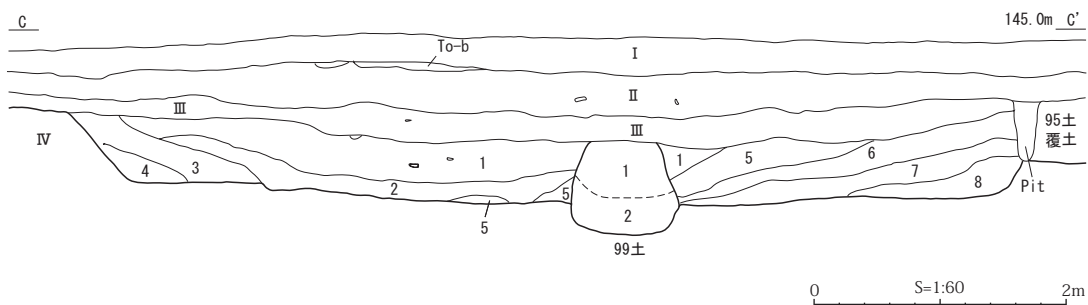
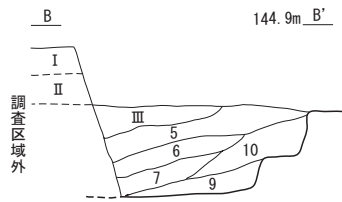
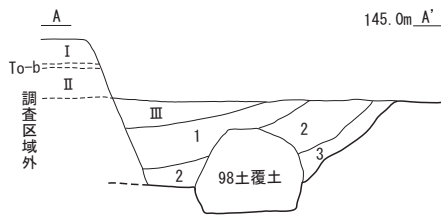


図72 第44号竖穴住居跡

第45号竪穴住居跡（図73）

〔位置〕 調査区中央部のMN-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層を掘り下げ中に地床炉と床面と思われる硬化面を確認した。第42号竪穴住居跡と第72号土坑と重複し、本住居跡がいずれの遺構よりも古いと思われる。

〔形態・規模〕 南西側は調査区域外のため平面形・規模ともに不明である。

〔壁・床面〕 壁は確認できなかった。床面と思われる硬化面はやや起伏が認められ、西側に緩やかに傾斜している。残存する床面積は約13.9㎡である。

〔ピット〕 ピットは確認できなかったが、周辺で検出したピットの中に規模的に同一なものが炉を中心として円形に取り囲んだ状態で検出しており、本住居跡の壁柱穴の可能性が考えられる。

〔炉〕 位置的には住居跡のどの部分に位置するのかわからないが地床炉が検出されている。平面形は直径約50cmの円形で、炉の周辺は堅く締まっている。

〔堆積土〕 堆積土は確認できなかった。

〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1・SI-42:P9～13)と石器(SI-42:S1～4)が出土している。

〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉に構築されたと考えられる。

第46号竪穴住居跡（図74）

〔位置〕 調査区中央部のML・MM-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅵ層上面で落ち込みを確認した。西側で第47号竪穴住居跡、東側で第113号土坑、南側で第76号土坑・第101号土坑・第115号土坑と重複し、本住居跡が第101号土坑よりも古く、第47号住居跡と第113号土坑・第115号土坑よりも新しい。第76号土坑との新旧関係は不明である。

〔形態・規模〕 北側は調査区域外のため規模及び平面形は不明である。

〔壁・床面〕 一部確認できた壁の高さは約30cm、床面から傾斜角50度で立ち上がる。床面は西側に向かって緩やかに傾斜している。残存する床面積は約4.1㎡である。

〔ピット〕 ピットは床面から2基検出した。いずれも柱痕等が確認されず、用途等については不明である。

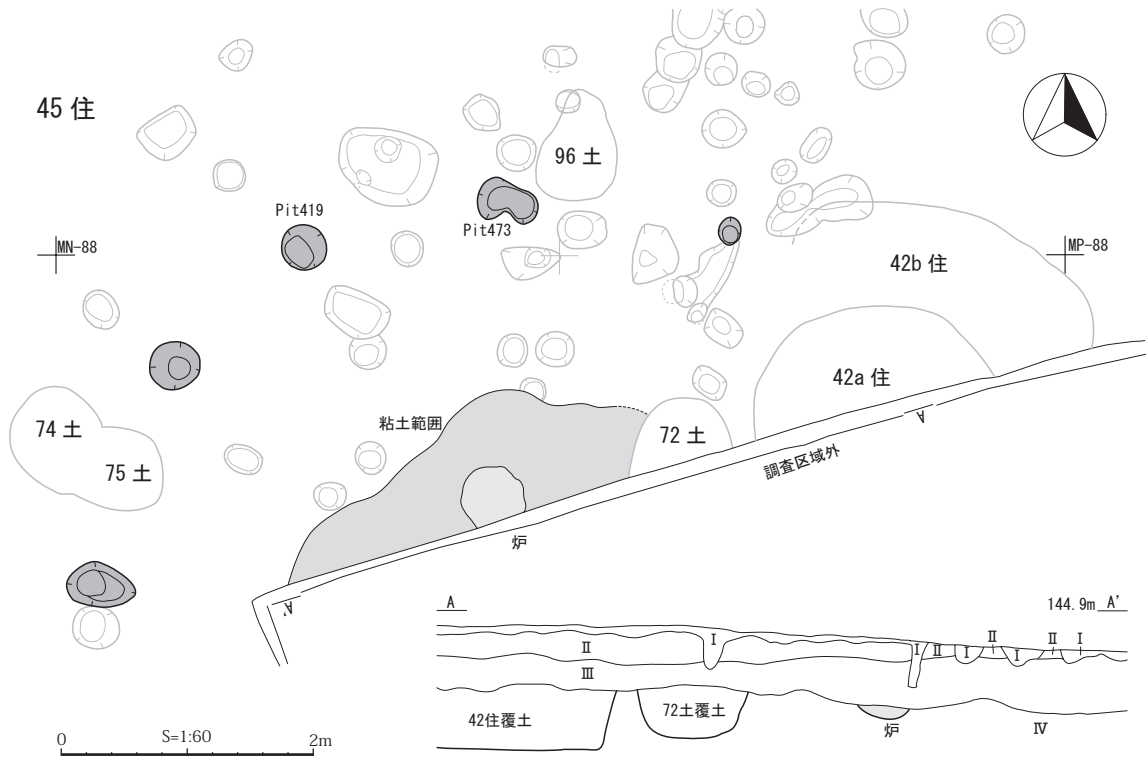
〔炉〕 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は3層に分層され、第1層と第2層に炭化物が含まれている。

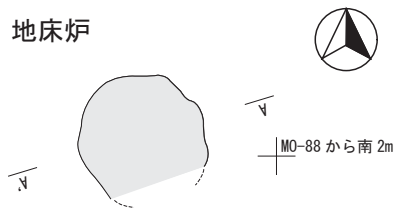
〔付属施設〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～10)と石器(S1～6)が出土している。

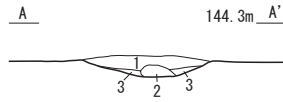
〔小結〕 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に廃棄されたと考えられる。



地床炉



0 S=1:30 1 m



地床炉

- 第1層 赤褐色土 5YR4/8
浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量、炭化物微量、焼土層(シルト質土)
- 第2層 黄褐色土 10YR5/8
浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量(シルト質土)
- 第3層 明褐色土 7.5YR5/8
浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量(シルト質土)

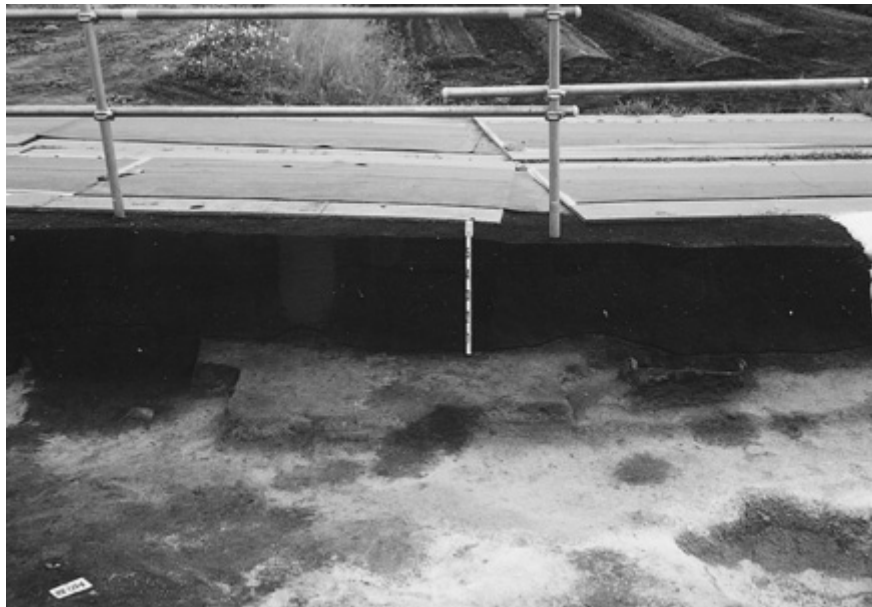


図73 第45号竖穴住居跡

第47号竪穴住居跡 (図74)

[位置] 調査区中央部の ML-87グリッドに位置している。

[検出状況] 竪穴住居跡の北西側は調査区域外である。第Ⅵ層上面で確認され、東側で第46号竪穴住居跡、西側で第78号土坑と重複し、本住居跡が第46号住居跡よりも新しく、第78号土坑よりも新しい。

[形態・規模] 北西側は調査区域外のため規模及び平面形は不明である。

[壁・床面] 残存する壁の高さは約65cm、床面から傾斜角69度で立ち上がる。床面は平坦だが、東側に深さ10cmほどの落ち込みがみられる。残存する床面積は約1.4㎡である。

[ピット] ピットは検出されなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物が含まれている。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～8)と石器(S1～4)、岩版(CS1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に廃棄されたと考えられる。

第48号a竪穴住居跡 (図75)

[位置] 調査区西側の MF・MG-82・83グリッドに位置している。

[検出状況] 第Ⅳ層上面で落ち込みが確認された。北東側で第105号土坑、南東側で第109号土坑と重複し、本住居跡がいずれの土坑よりも古い。また、床面から確認された直径約2m、幅5～15cm、深さ3～8cmの溝は本住居跡に伴うものではなく、構築以前のものと考えられる。

[形態・規模] 規模は直径約4m40cmで、平面形は円形である。

[壁・床面] 確認できた壁の高さは約75cm、床面から傾斜角75度で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。壁際には幅10～15cm、深さ5～12cmの壁溝が部分的に検出されている。床面積は約12.7㎡、軸方向は N-14°-W である。

[ピット] ピットは床面から6基検出した。ピット2(深さ65cm)とピット3(深さ58cm)が主柱穴と考えられる。

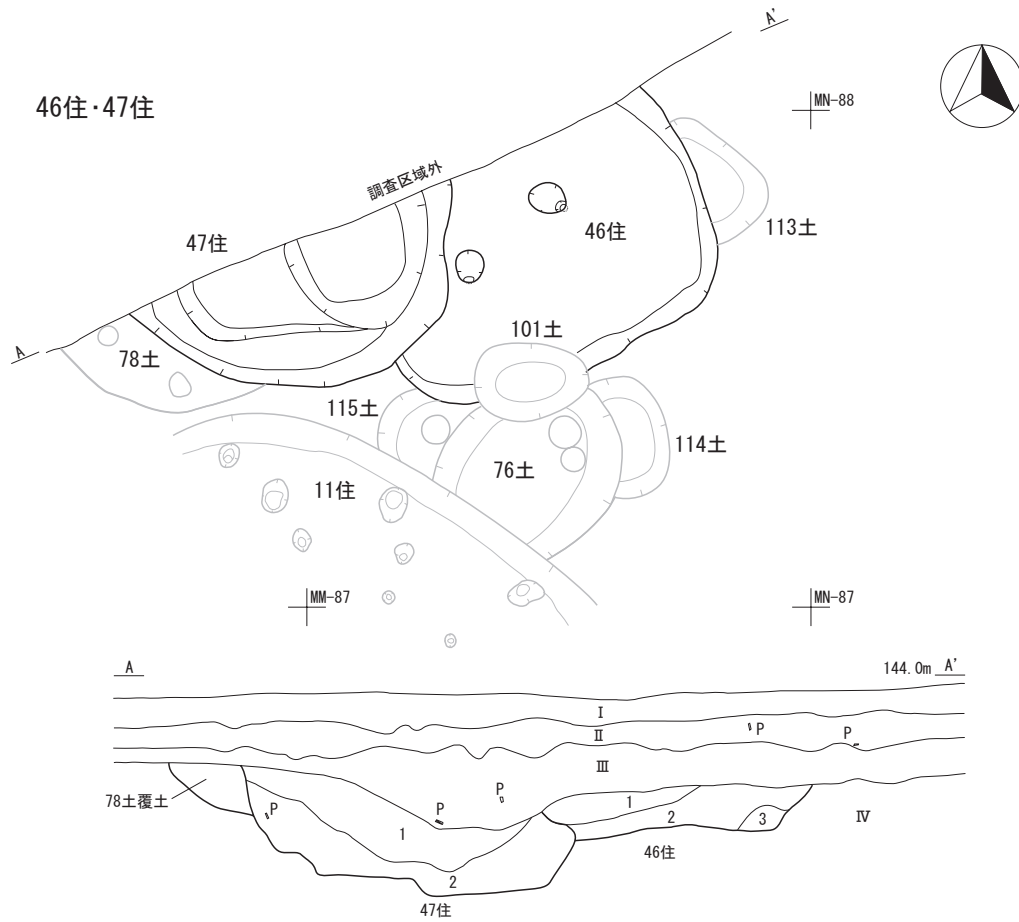
[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、第1層～第3層に炭化物が含まれているのが確認された。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～64)と石器(S1～21)、炭(MS1)が出土している。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に廃棄されたと考えられる。



第46号竖穴住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫φ~0.5cm)・炭化物微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 浮石(中礫:φ~0.5cm)少量、炭化物微量
- 第3層 明黄褐色土 10YR6/8 中礫浮石崩落土

第47号竖穴住居跡

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 浮石(中礫:φ~0.5cm)少量、炭化物微量(シルト質土)
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫φ~0.5cm)・炭化物微量

0 S=1:60 2m



図74 第46・47号竖穴住居跡

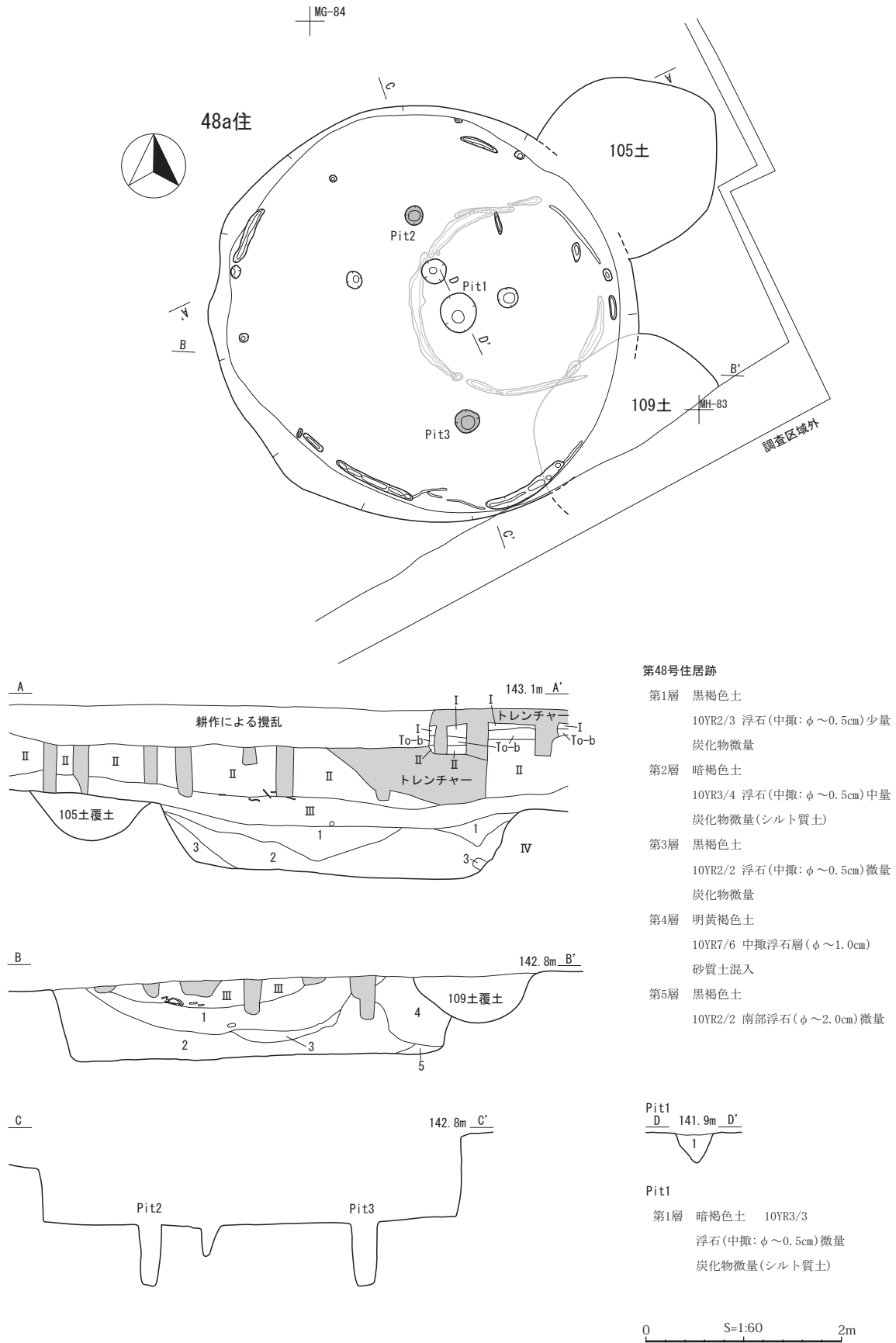


図75 第48号a竪穴住居跡(1)

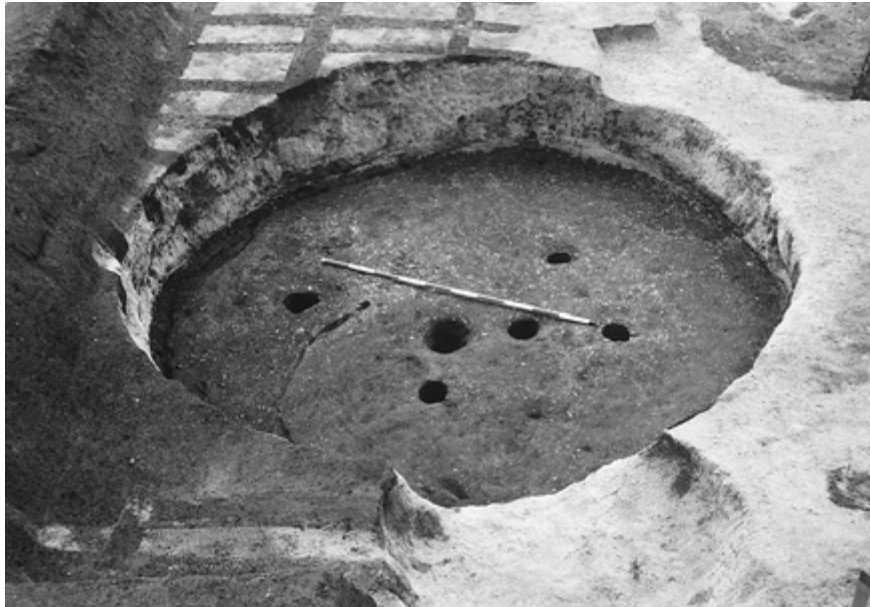
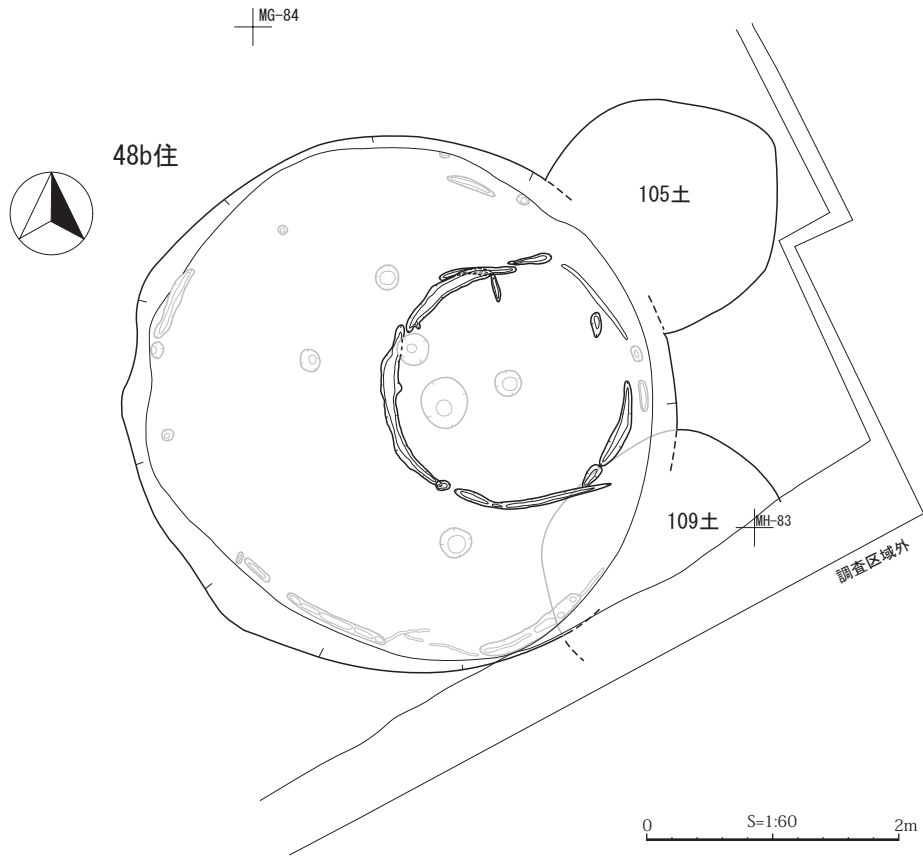


図76 第48号b竪穴住居跡 (2)

第48号b 竪穴住居跡 (図76)

[位置] 調査区西側のMG-83グリッドに位置している。

[検出状況] 第48号a 竪穴住居跡の床面を精査中に円形に廻る壁溝を検出した。本住居跡よりも古い。

[形態・規模] 壁溝の規模は直径約2mで、平面形は円形である。

[壁・床面] 床面から検出したため壁は確認できなかった。壁溝は幅5～15cm、深さ3～8cmでほぼ一巡する。床面積は約2.9㎡である。

[ピット] ピットは確認できなかった。

[炉] 床面から炉と思われる焼成痕は検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は確認できなかった。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係から縄文時代前期後半以前に構築された土坑の可能性が考えられる。

第49号 竪穴住居跡 (図77)

[位置] 調査区東側のNF・NG-94グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地を掘り下げ壁溝と柱穴列を確認した。西側で第12号竪穴住居跡、東側で第33号竪穴住居跡、中央部で第55号土坑と重複し、第12号住居跡より新しく、第55号土坑より古い。第33号住居跡との新旧関係は不明である。

[形態・規模] 南側は調査区域外のため規模は不明であるが、検出した壁溝と柱穴列から平面形は円形あるいは楕円形と思われる。

[壁・床面] 壁は確認できなかったため不明である。床面と思われる硬化面が部分的に確認されている。残存する床面積は約10.3㎡である。

[ピット] ピットは床面から8基検出した。いずれも壁柱穴と考えられ、深さは35～80cmで、1m～2mの間隔で壁際を廻るものと思われる。

[炉] 床面の中央北西よりに地床炉と思われる焼土範囲(50×25cm)が確認されている。

[堆積土] 土層断面図から堆積土は2層に分層できたが、壁として立ち上がりを確認できなかった。第1層が炭化物を含んだ暗褐色土の層で、第2層が黒褐色土の貼り床と思われる。

[付属施設] 検出されなかった。

[出土遺物] 本住居跡に伴うと思われる遺物は出土しなかった。

[小結] 本住居跡は、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後半に構築または廃棄されたと考えられる。

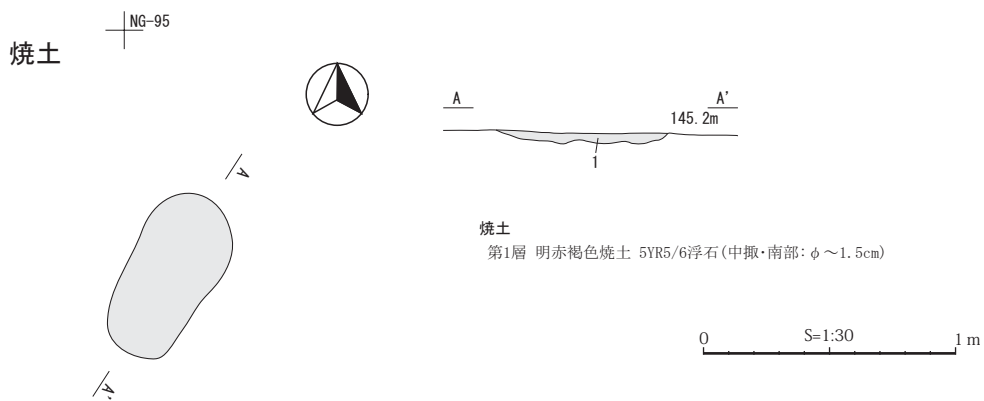
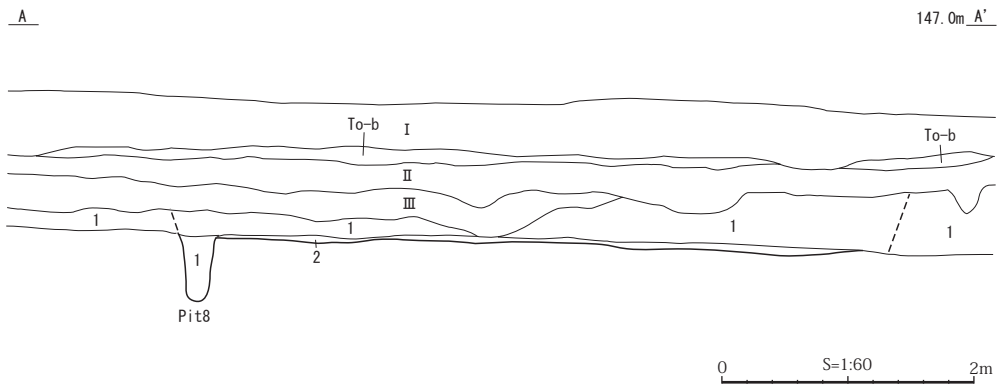
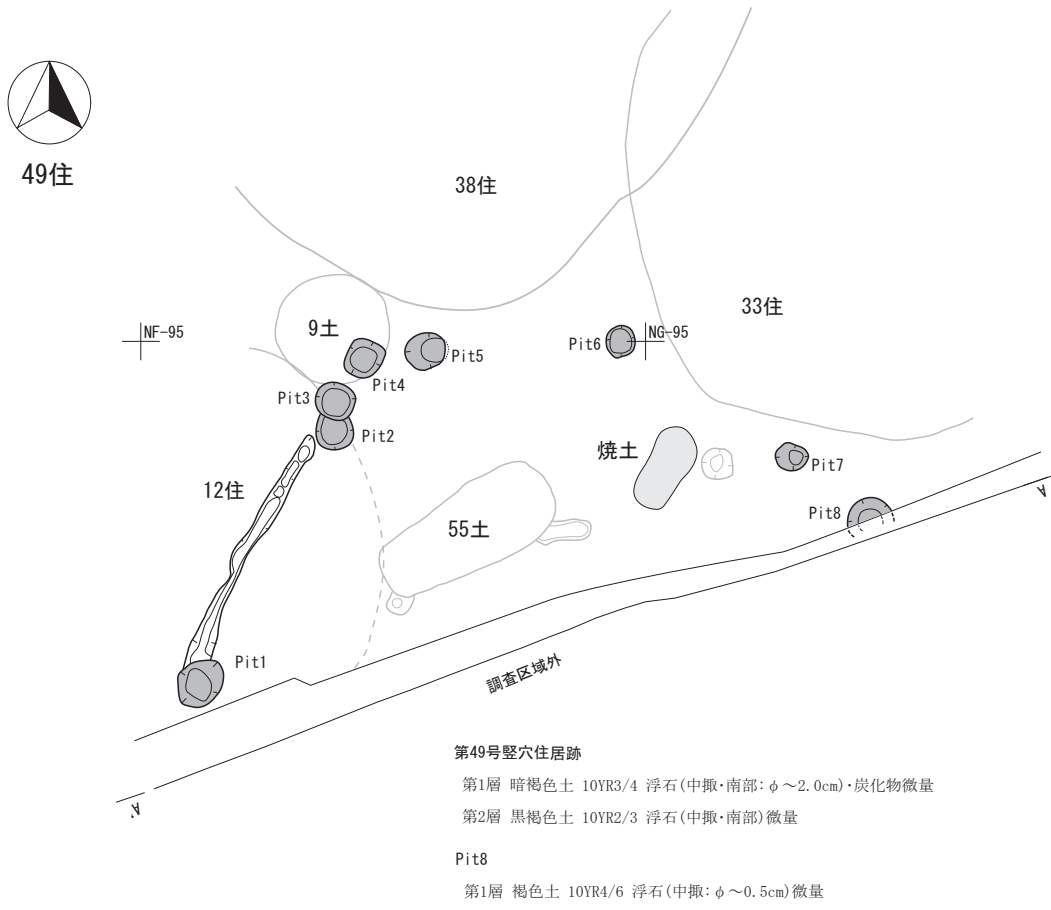
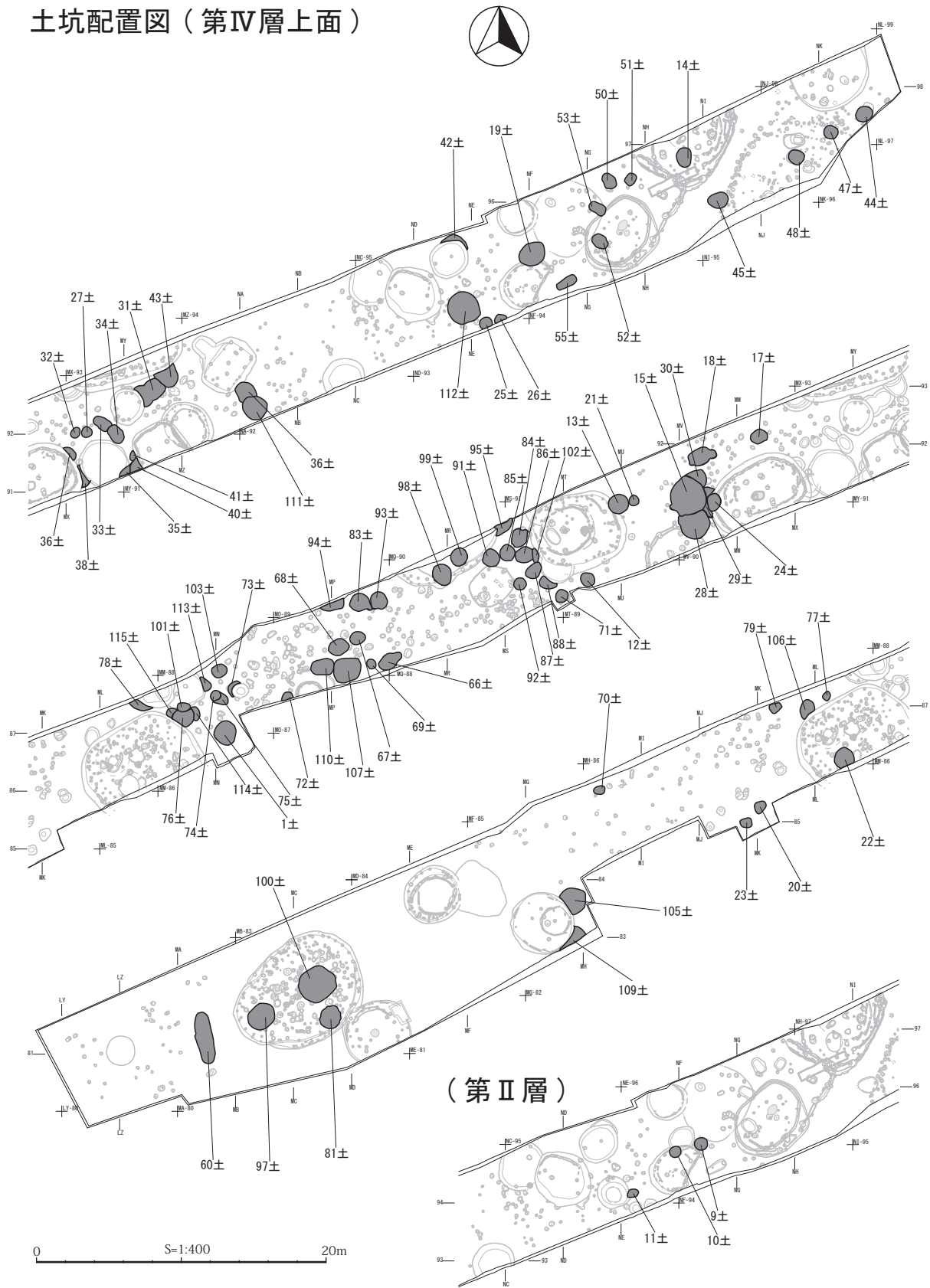


図77 第49号竪穴住居跡

土坑配置図（第Ⅳ層上面）



2 土坑

土坑は平坦面を中心に87基検出されている。

第1号土坑（図78）

〔位置〕 調査区中央の MN-86・87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は直径約1m70cmのほぼ円形である。

〔壁・底面〕 底面は起伏があり、深さは約15cmである。北側壁際に直径約20cm、深さ約15cmのピット1が検出された。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含む黒褐色土の層で、ピット1から炭化材(M1～5)が出土している。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～15)が出土している。

第2号土坑～第8号土坑→十和田b火山灰上面確認されたが攪乱のため欠番

第9号土坑（図78）

〔位置〕 調査区東側の NF-94・95グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層上面で十和田b降下火山灰を掘り込むように落ち込みを確認した。北東側の一部は長芋のトレンチャーによって削平されている。

〔形態・規模〕 平面形は直径約90cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、深さは約30cmである。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～21)が出土している。

第10号土坑（図78）

〔位置〕 調査区東側の NE・NF-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層上面で落ち込みを確認した。北側の一部は長芋のトレンチャーによって削平されている。

〔形態・規模〕 平面形は直径約80cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、深さは約30cmである。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土の層が確認された。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～44)と石器(S1)が出土している。

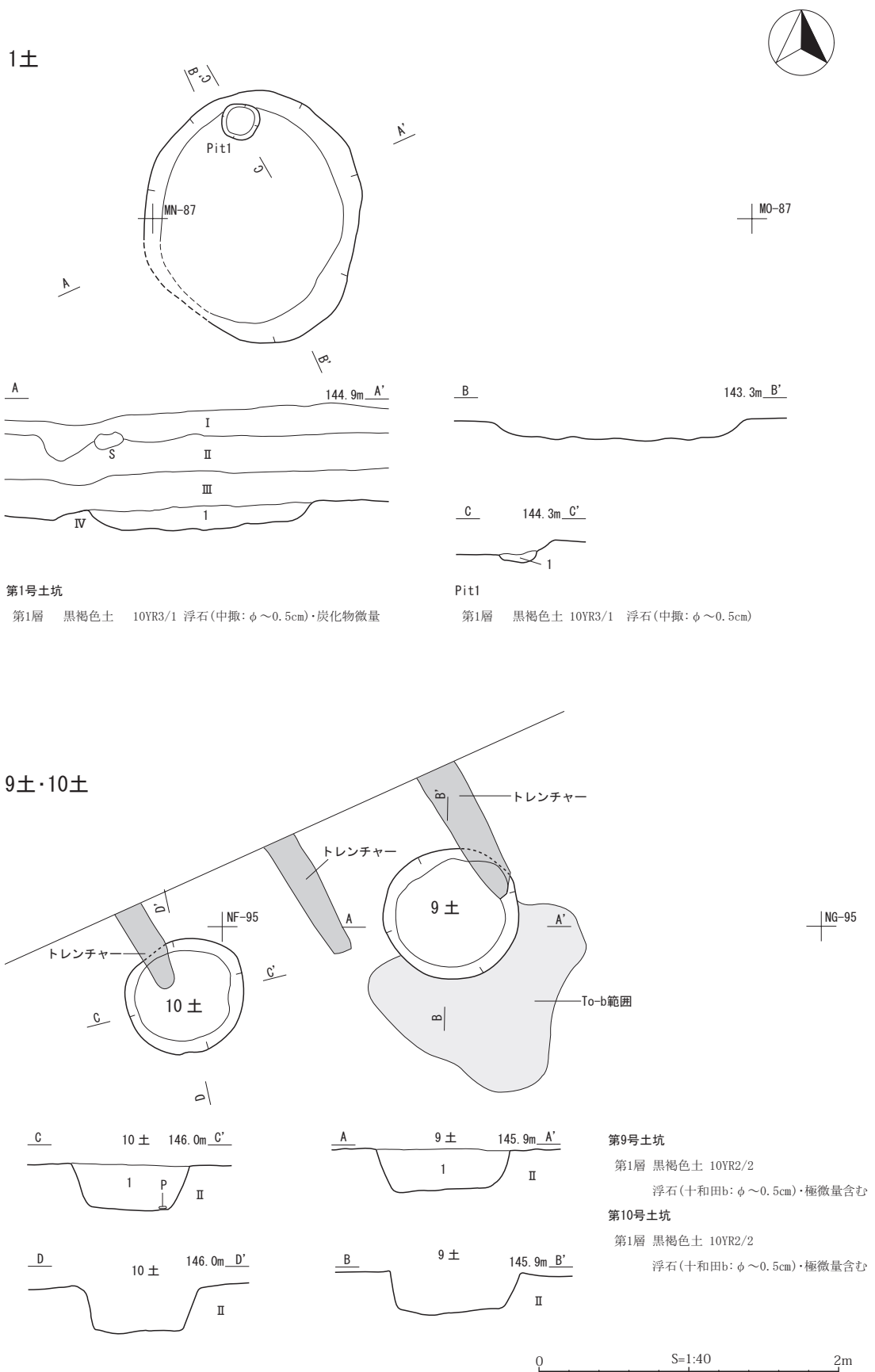


図78 土坑(1)

第11号土坑 (図79)

〔位置〕 調査区東側の NE-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅱ層上面で部分的に十和田 b 降下火山灰の範囲とともに落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 北側が調査区域外のため、平面形及び規模ともに不明である。

〔壁・底面〕 底面はかなり起伏がみられ、深さは約40cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層は十和田 b 火山灰層で上層に細粒、下層にやや大粒の灰白色軽石を含んでいる。第2層は黒褐色土の層である。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～9)が出土している。

第12号土坑 (図79)

〔位置〕 調査区中央の MT-89グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は直径約1mの円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約15cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を微量に含んだ褐色土の層が確認された。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～10)が出土している。

第13号土坑 (図79)

〔位置〕 調査区中央の MT・MU-90・91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南西側で第18号 b 竪穴住居跡と重複し、本土坑が第18号 b 住居跡よりも新しい。

〔形態・規模〕 平面形は直径約1m40cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、緩やかに立ち上がる。深さは約30cmである。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～26)と石器(S1～7)が出土している。

第14号土坑 (図80)

〔位置〕 調査区東側の NH-96グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集部分の遺構確認中に落ち込みを確認した。第4号 a・第4号 b・第4号 c 竪穴住居跡と重複し、本土坑がいずれの住居跡よりも新しい。

〔形態・規模〕 平面形は長径約1m40cm、短径約1m10cmの楕円形である。

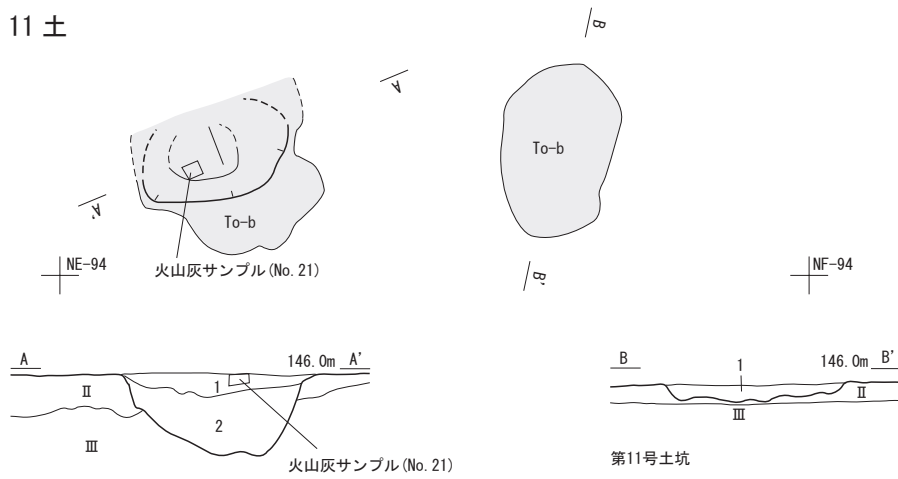
〔壁・底面〕 東壁は内側にやや挟り込むが、他の壁はかなり急に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。遺構確認面からの深さは約50cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層・第2層ともに炭化物が含まれ、第1層には焼土粒も極微量だが含まれている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～8)と石器(S1・2)が出土している。



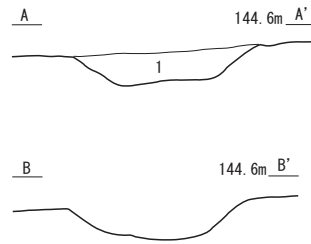
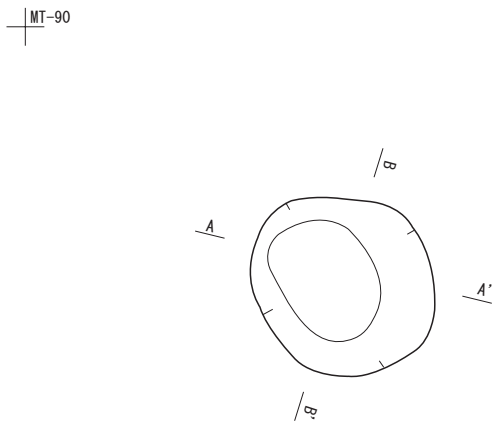
11 土



第11号土坑

第1層 にぶい黄色土 2.5Y6/4 十和田火山灰層
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(十和田b: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量

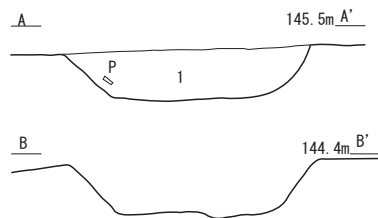
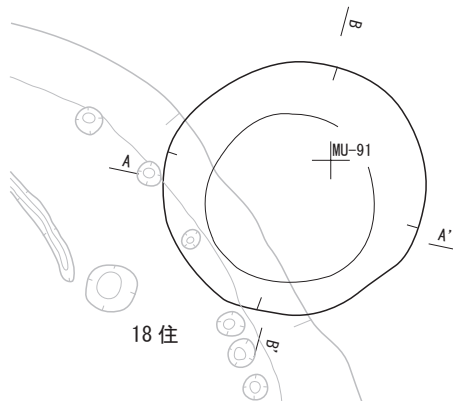
12 土



第12号土坑

第1層 褐色土 10YR4/4
 浮石(中振: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量、炭化物微量

13 土



第13号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2
 浮石(中振: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)少量、炭化物微量

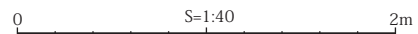


図79 土坑(2)

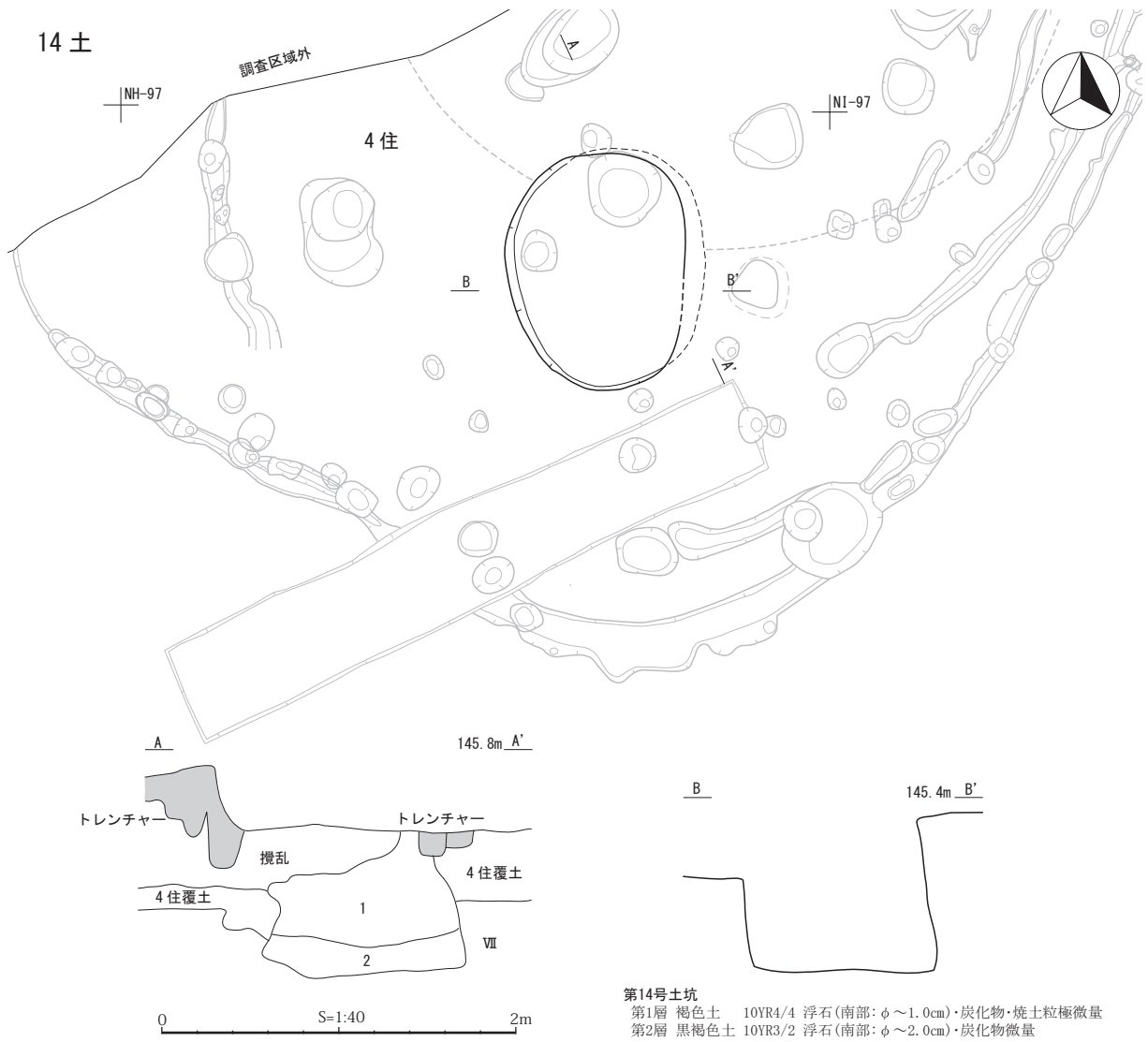


図 80 土坑 (3)

第15号土坑 (図81)

〔位置〕 調査区中央の MU・MV-90・91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。南側で第28号土坑、東側で第29号土坑、北側で第30号土坑と重複し、本土坑がいずれの土坑よりも新しい。

〔形態・規模〕 平面形は直径約2m50cmの円形である。

〔壁・底面〕 壁は底面から急に立ち上がり、底面はほぼ平坦で、深さは約55cmである。壁際には幅5～12cm、深さ2～6cmの壁溝が、一部を除いてほぼ全周するように確認された。

〔ピット〕 ピットは底面と壁溝内から8基検出した。その配置からピット1(深さ11cm)とピット2(深さ12cm)、ピット3(深さ12cm)とピット4(深さ14cm)が柱穴の可能性が考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は3層に分層され、第1層～第3層にかけて炭化物が含まれ、第3層は中振浮石が多量に含まれているにぶい黄褐色土である。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～74)と石器(S1～8)、骨(B1)が出土している。

〔小結〕 地床炉など検出されなかったが堅穴住居跡の可能性が高く、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期と考えられる。

第16号土坑→攪乱のため欠番

第17号土坑 (図82)

〔位置〕 調査区中央の MW-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は長径1m20cm、短径95cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 壁はやや急に立ち上がり、底面は概ね平坦で、深さは約55cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を微量に含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～55)と石器(S1～8)、種子(T1・2)が出土している。

第18号土坑 (図82)

〔位置〕 調査区中央の MV-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は長径約1m60cm、短径約1m10cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 重複するピットによって東西の一部が削平されているが、残存部分の底面は平坦で深さは約20cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物と焼土粒を極微量含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～34)と石器(S1)が出土している。

15土

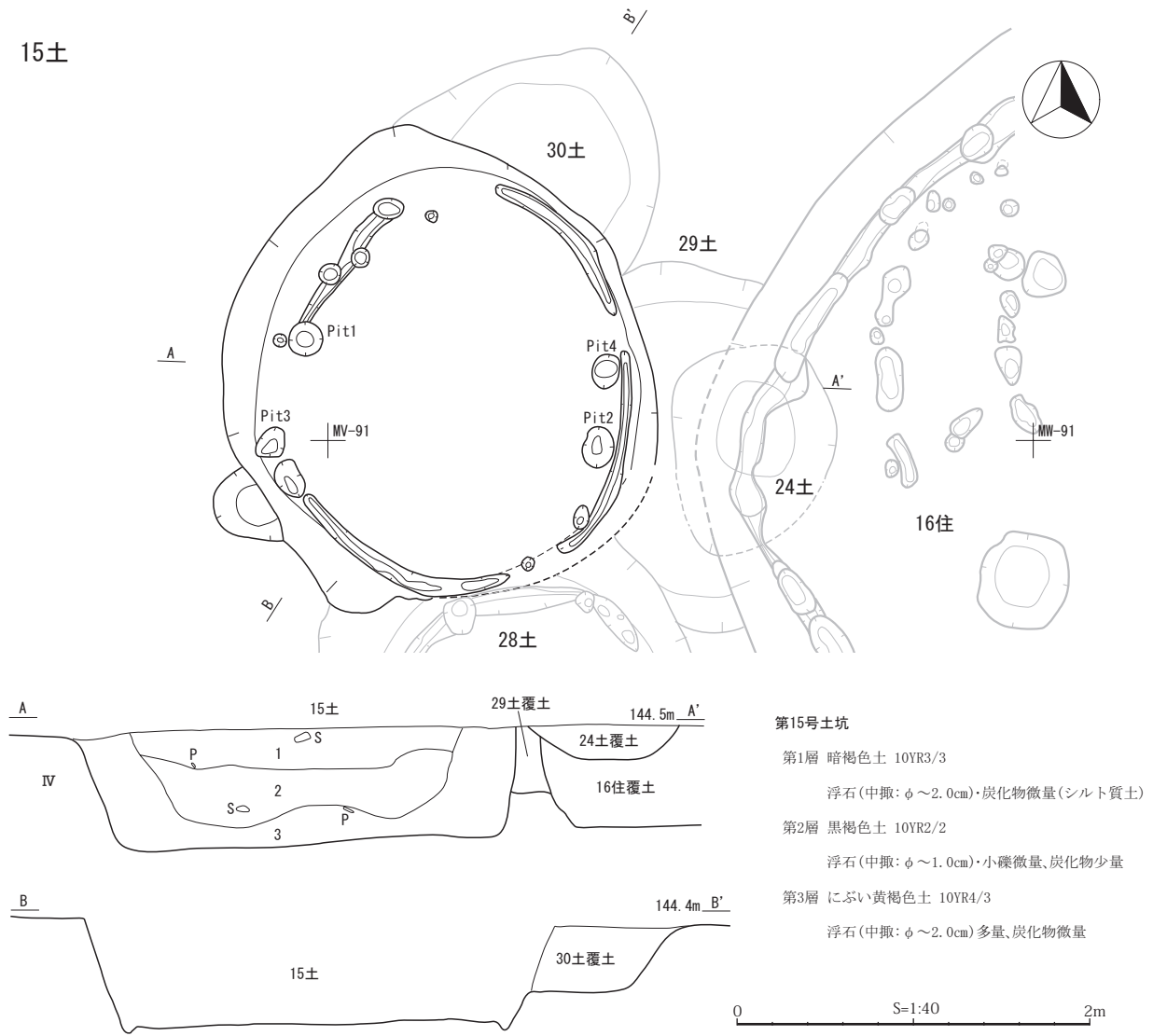


図81 土坑(4)

第19号土坑 (図82)

[位置] 調査区東側の NE・NF-94・95グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。南側で第12号竪穴住居跡、北東側で第38号竪穴住居跡と重複し、本土坑がいずれの住居跡よりも新しい。

[形態・規模] 平面形は長径約2m、短径約1m60cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約40cmである。

[堆積土] 堆積土は炭化物を少量含んだ暗褐色土の層である。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～11)と石器(S1)が出土している。

第20号土坑 (図83)

[位置] 調査区中央の MJ・MK-85グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は南北約65cm、東西約80cmの不整形である。

[壁・底面] 底面は中央部で大きく窪み、深さは約70cmである。

[堆積土] 堆積土は炭化物を微量に含んだ黒褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～15)が出土している。

第21号土坑 (図83)

[位置] 調査区中央の MU-90・91グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は直径約70cmの円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約20cmである。

[堆積土] 堆積土は暗褐色土の層で、炭化物が微量に含まれている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～5)と石器(S1)が出土している。

第22号土坑 (図84)

[位置] 調査区中央の ML-85・86グリッドに位置している。

[検出状況] 第11号 a 竪穴住居跡の堆積土を掘り下げ中に廃棄したと思われる炭化物の範囲を検出した。第11号 a 竪穴住居跡の埋土を掘り込んで構築していることから、本土坑が新しい。

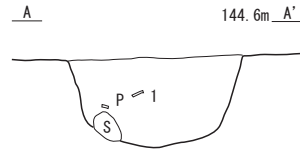
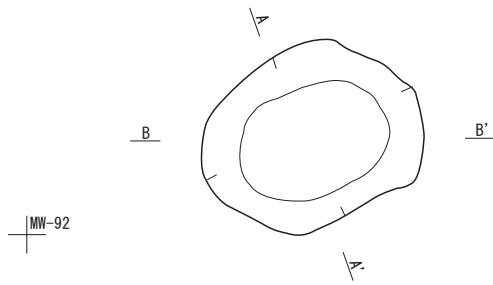
[形態・規模] 平面形は開口部直径約1m40cm、坑底部直径約1m80cmのほぼ円形である。

[壁・底面] 断面形は底部が内側に抉り込むフラスコ状で、深さは約1m70cmである。

[堆積土] 堆積土は7層に分層され、第1層中に多量の炭化物とともに炭化したクルミなど堅果類が含まれているのが確認された。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～39)と石器(S1～8)、骨(B1・2)、石製品(CS1)が出土している。

17 土



第17号土坑

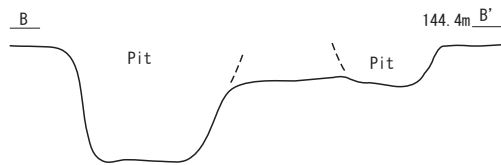
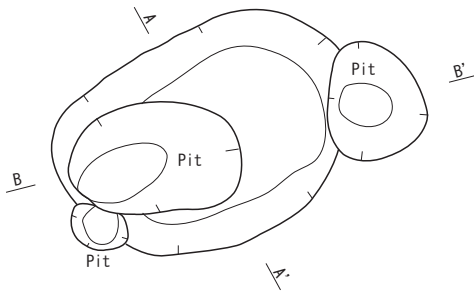
第1層 黒褐色土 10YR2/3

浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)少量、炭化物微量



18 土

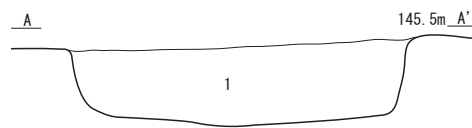
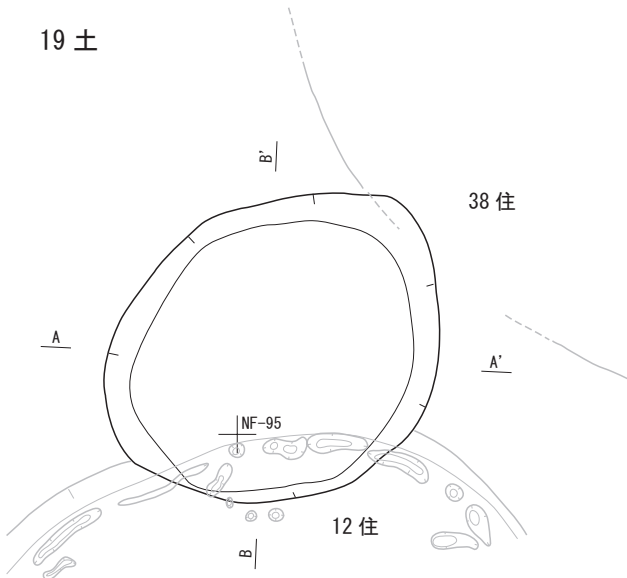
MW-92



第18号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量、炭化物・焼土粒極微量

19 土



第19号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3

浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物少量

0 S=1:40 2m

図82 土坑(5)

第23号土坑 (図83)

- [位置] 調査区中央の MJ-84・85グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 平面形は南北約1m50cm、東西約80cmの不整形である。
- [壁・底面] 底面はすり鉢状で、深さは約25cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1・2)が出土している。

第24号土坑 (図83)

- [位置] 調査区中央の MV-90・91グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で確認した第16号竪穴住居跡の東側を掘り下げ中に検出した。東側で第16号竪穴住居跡、下部で第29号土坑と重複し、本土坑がどちらの遺構よりも新しい。
- [形態・規模] 平面形は長径約1m20cm、短径約80cmの楕円形である。
- [壁・底面] 底面はすり鉢状で、深さは約25cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～8)が出土している。

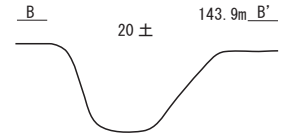
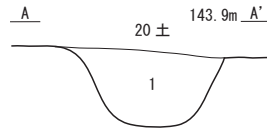
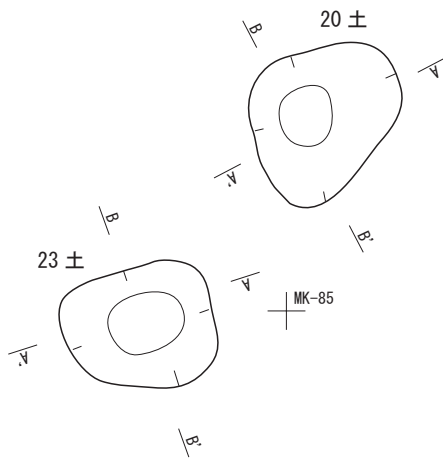
第25号土坑 (図85)

- [位置] 調査区東側の NE-93・94グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 南側の一部が調査区域外であるが、平面形は直径約85cmのほぼ円形である。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約10cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を微量に含んだ黒褐色土の層が確認された。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～3)と石器(S1)が出土している。

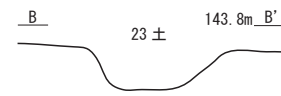
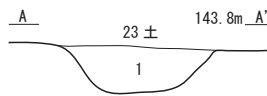
第26号土坑 (図85)

- [位置] 調査区東側の NE-93・94グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 南側は調査区域外のため平面形及び規模は不明である。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、残存する部分の深さは約20cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層を確認した。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1)が出土している。

20±・23±

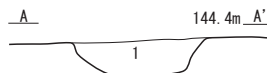
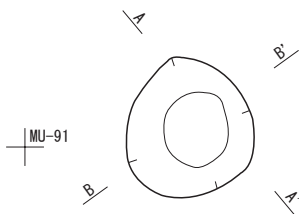


第20号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)少量、炭化物微量



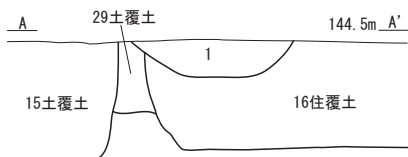
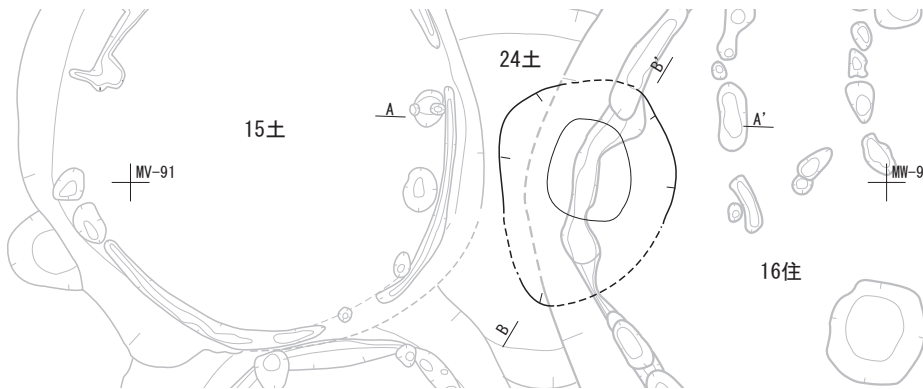
第23号土坑
第1層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量

21±



第21号土坑
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量・炭化物極微量

24±



第24号土坑
第1層 褐色土 10YR4/6 浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量

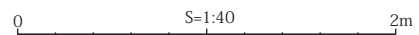
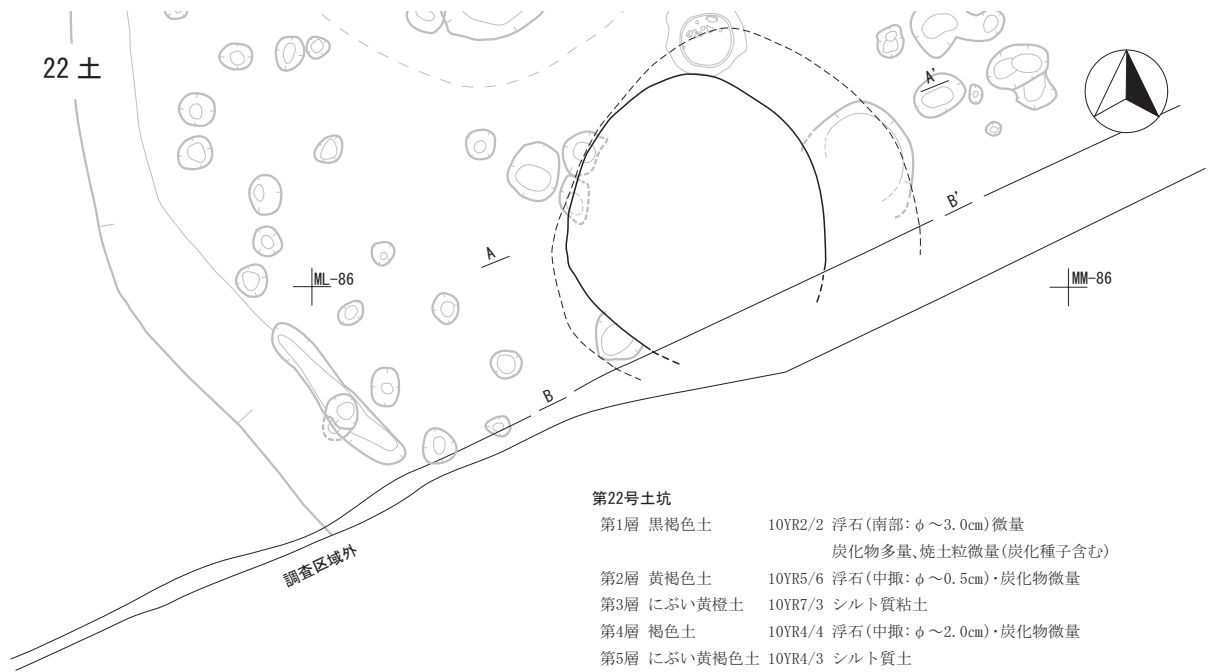


図83 土坑(6)



第22号土坑

- | | |
|-------------|--|
| 第1層 黒褐色土 | 10YR2/2 浮石(南部: $\phi \sim 3.0\text{cm}$)微量
炭化物多量、焼土粒微量(炭化種子含む) |
| 第2層 黄褐色土 | 10YR5/6 浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量 |
| 第3層 にぶい黄橙土 | 10YR7/3 シルト質粘土 |
| 第4層 褐色土 | 10YR4/4 浮石(中敷: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量 |
| 第5層 にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 シルト質土 |
| 第6層 暗褐色土 | 10YR3/3 浮石(中敷: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)少量、炭化物微量(シルト質土) |
| 第7層 にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 灰白色浮石($\phi \sim 2.0\text{cm}$)少量、炭化物微量 |

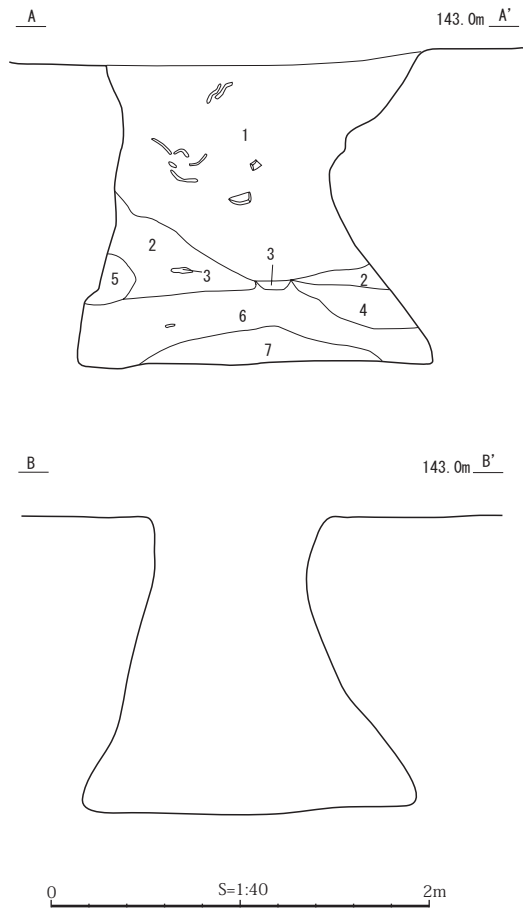


図84 土坑(7)

第27号土坑 (図83)

〔位置〕 調査区中央のMX-91・92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は直径約70cmのほぼ円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、南側が若干低くなり、深さは約12cmである。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土の層で、炭化物と焼土粒を微量に含んでいる。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～14)、石器(S1)、炭化材(MS1)が出土している。

第28号土坑 (図83)

〔位置〕 調査区中央のMV-90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南側で第17号竪穴住居跡、北側で第15号土坑、北東側で第29号土坑と重複し、本土坑が第15号土坑よりも古く、他のいずれの遺構より新しい。

〔形態・規模〕 平面形は直径約2mの円形である。

〔壁・底面〕 壁は底面から急に立ち上がり、底面はほぼ平坦で、深さは約60cmである。壁際には幅8～12cm、深さ5～8cmの壁溝が、東側の一部を除いてほぼ全周するように確認された。また、底面中央の北西よりに40×25cmの焼土範囲を確認した。地床炉の可能性が考えられる。

〔ピット〕 ピットは壁溝内から5基検出した。いずれも柱痕等が確認されてはいないが、ピット1(深さ20cm)、ピット2(深さ17cm)、ピット3(深さ29cm)、ピット4(深さ16cm)、ピット5(深さ24cm)の5基が壁柱穴と思われる。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物を含んだ層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1)が出土している。

〔小結〕 地床炉と思われる焼土範囲が検出され、規模的には小型であるが竪穴住居跡の可能性が高く、遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期前葉に廃棄されたと思われる。

第29号土坑 (図88)

〔位置〕 調査区中央のMV-90・91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。第24号土坑に上部を掘り込まれ、東側で第16号竪穴住居跡、西側で第15号土坑、南西側で第28号土坑と重複し、本土坑はいずれの遺構より古い。また、第30号土坑とも重複すると思われるが、新旧関係は不明である。

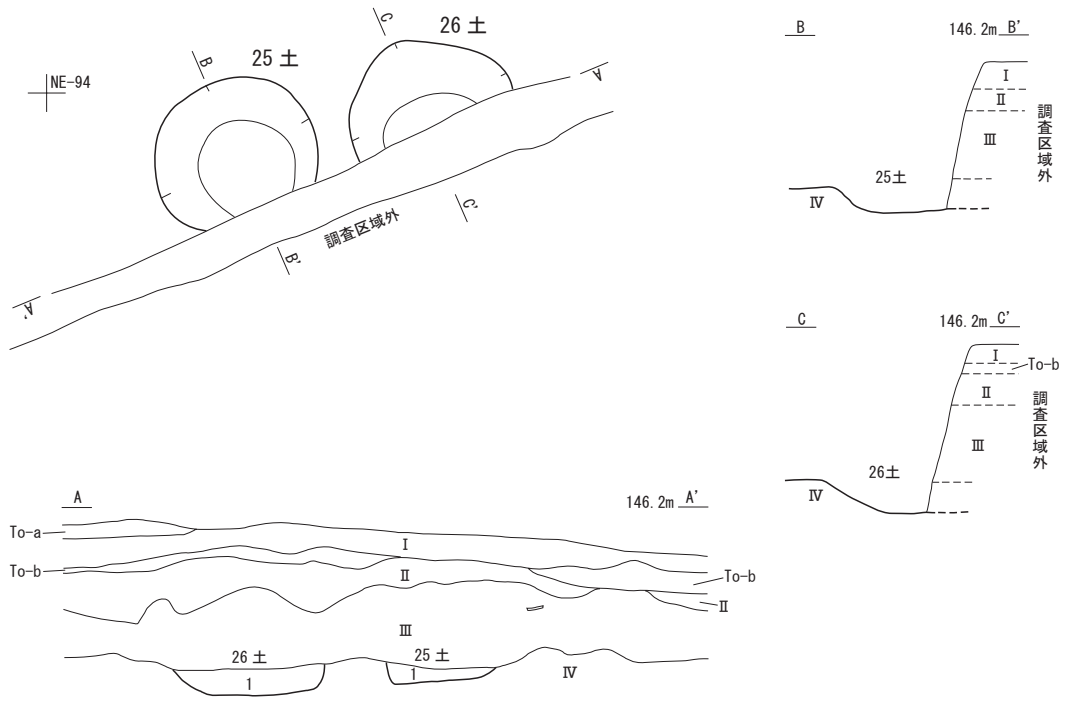
〔形態・規模〕 重複する遺構によって削平されているため、平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存する壁はやや急に立ち上がり、底面は中振浮石層をほぼ平坦にして構築され、深さは約30cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物を微量に含んだ層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～14)、石器(S1)、軽石(K1・2)、土製品(CD1)が出土している。

25 土・26 土



第25号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量

第26号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量

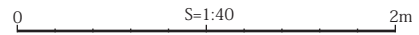


図85 土坑(8)

27 土・32 土・33 土・34 土

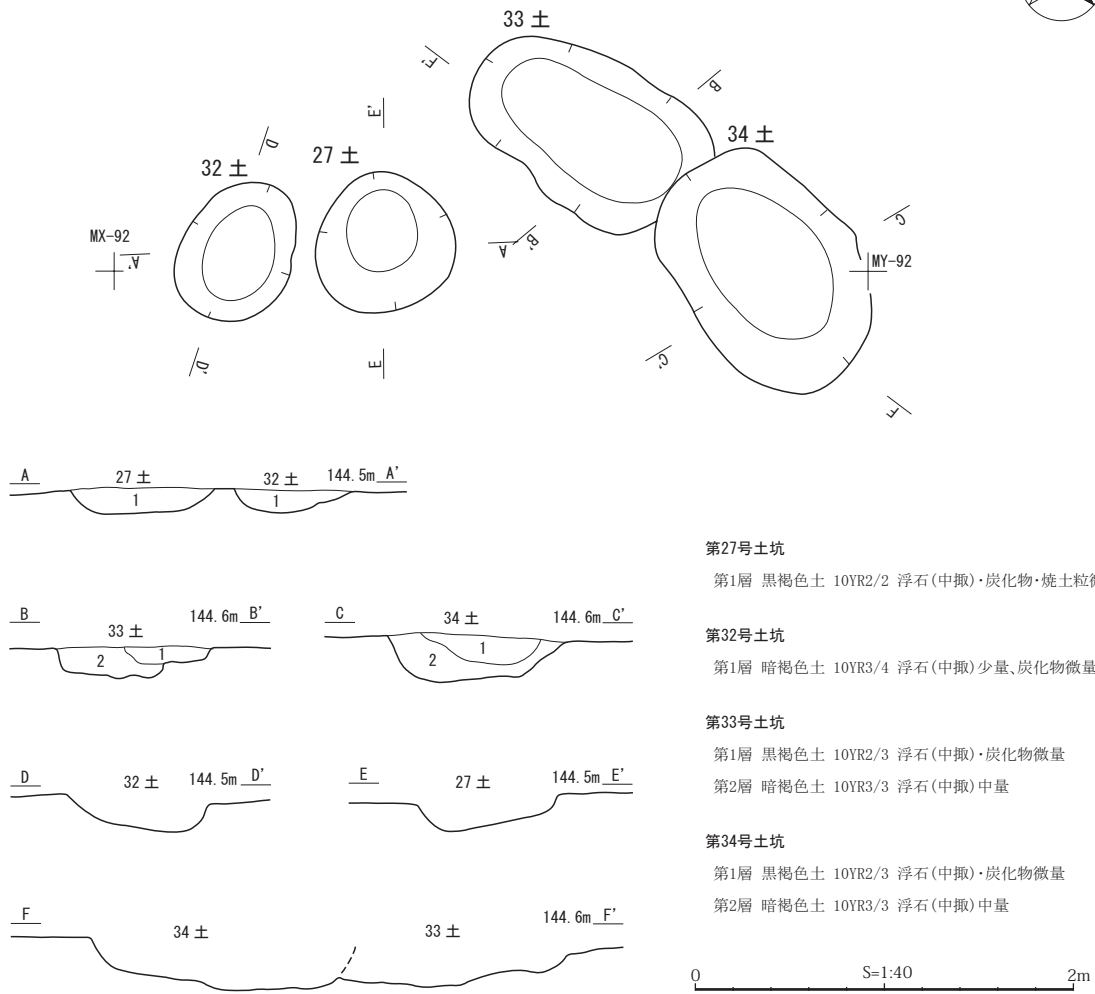


図86 土坑(9)

28土

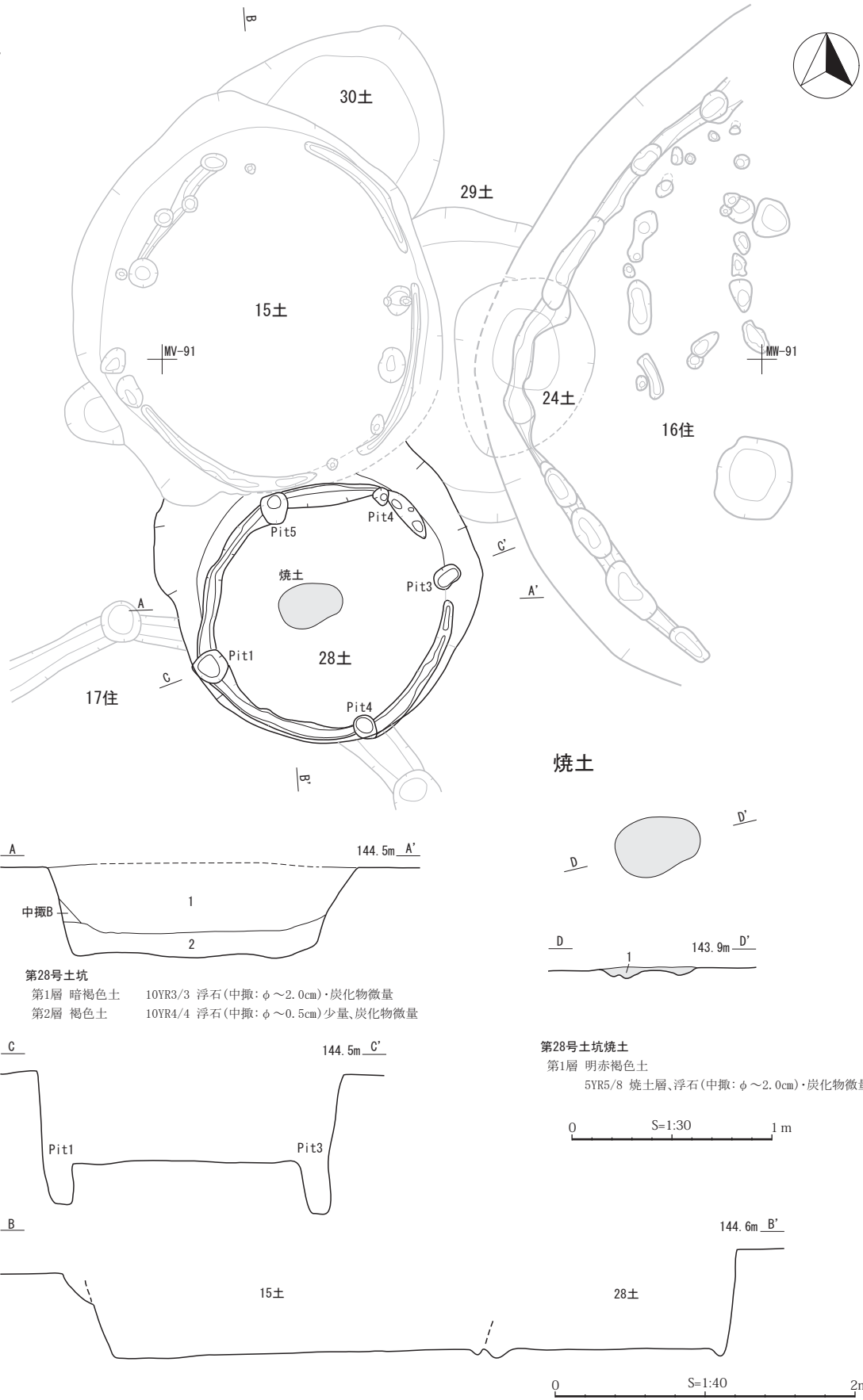


図87 土坑(10)

第30号土坑 (図88)

〔位置〕 調査区中央の MV-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南側で第15号土坑と第29号土坑と重複し、第15号土坑よりも古い。第29号土坑との新旧関係は不明である。

〔形態・規模〕 重複する遺構によって削平されているため、平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存部分から壁はやや緩やかに底面から立ち上がり、底面は平坦で、深さは約35cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器(P1～72)、石器(S1)、軽石(K1)が出土している。

第31号土坑 (図89)

〔位置〕 調査区中央の MY-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南西側で第29号竪穴住居跡、北東側で第43号土坑と重複し、本土坑がいずれの遺構よりも古い。

〔形態・規模〕 重複する遺構によって削平されているため規模は不明だが、残存部分から直径約1m50cmの土坑と楕円形の土坑が重複している可能性が考えられる。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約50cmである。

〔堆積土〕 北東側の土層を確認できずに取り除いてしまったため、残存する南西部分の堆積土は2層に分層された。第1層と第2層に炭化物が含まれている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～6・12～18)が出土している。

第32号土坑 (図86)

〔位置〕 調査区中央の MX-91・92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は長径約80cm、短径約60cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、南側が若干低くなり、深さは約10cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を微量に含んだ暗褐色土の層が確認された。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～3)と石器(S1)が出土している。

第33号土坑 (図86)

〔位置〕 調査区中央の MX-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南東側で第34号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 重複する土坑によって南側の一部が削平されているが、残存部分から長径約1m20cm、短径約80cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、深さは約20cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～5)が出土している。

29±・30±

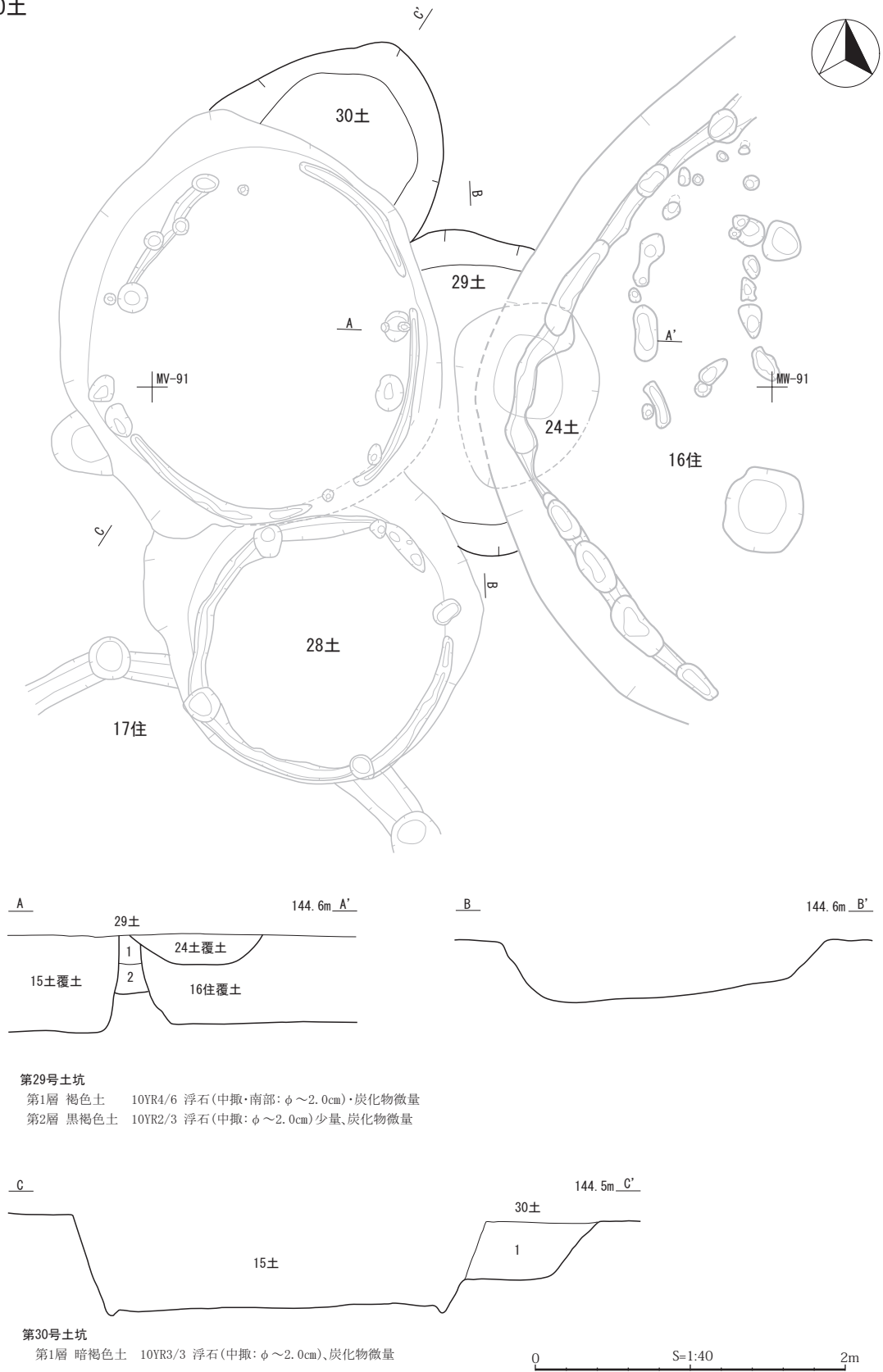


図88 土坑(11)

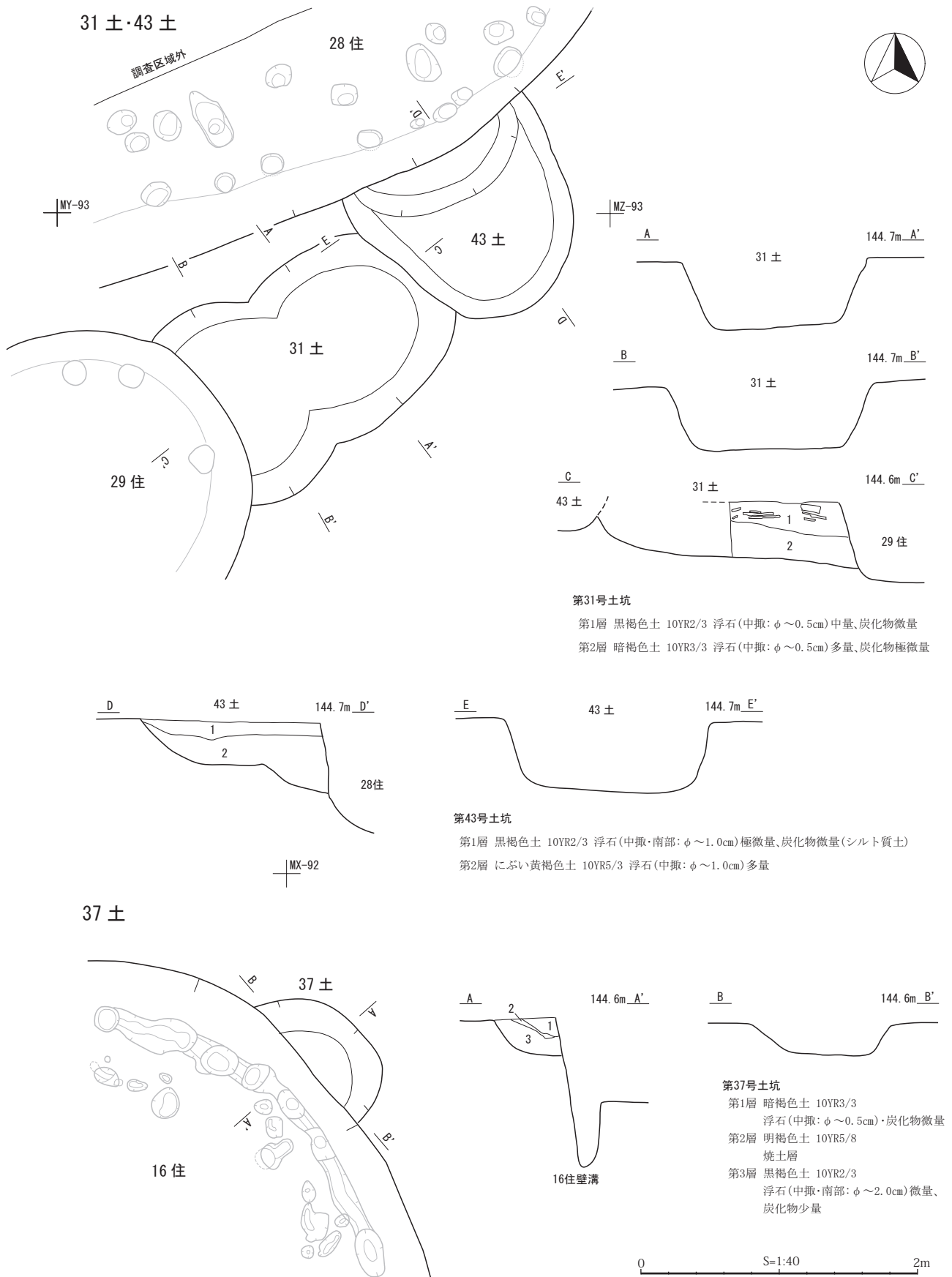


図89 土坑(12)

第34号土坑 (図86)

〔位置〕 調査区中央のMX-91・92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。北西側で第33号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔形態・規模〕 平面形は、長径約1m35cm、短径約90cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは28cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれる。

〔出土遺物〕 覆土から土器(P1～12)の破片と骨(B1)が出土している。

第35号土坑 (図90)

〔位置〕 調査区中央のMY-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第25号竪穴住居跡、東側で第21号竪穴住居跡と第40号土坑と重複し、本土坑は第25号住居跡よりも新しく、第21号住居跡と第40号土坑よりも古い。

〔形態・規模〕 南側が調査区域外であり、西側も重複する遺構によって削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存部分から壁は床面から急に立ち上がり、底面は平坦で堅く、深さは約50cmである。

〔堆積土〕 堆積土は3層に分層され、いずれの層も炭化物を含み、第2層は明褐色土の焼土層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P3～5・7・10・17)と石器(S2)が出土している。

第36号土坑 (図91)

〔位置〕 調査区中央のMZ・NA-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。北側で第30号竪穴住居跡、南東側で第111号土坑(旧第1号焼土遺構)と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しい。

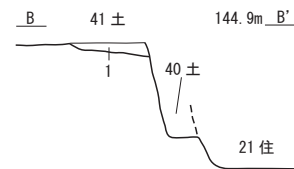
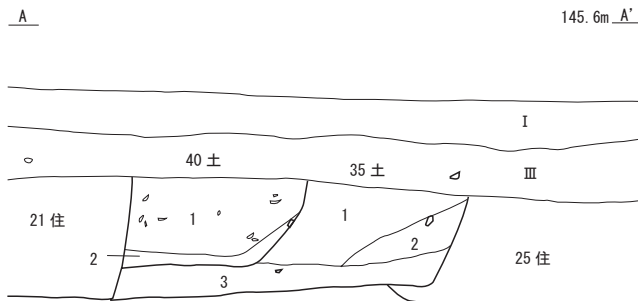
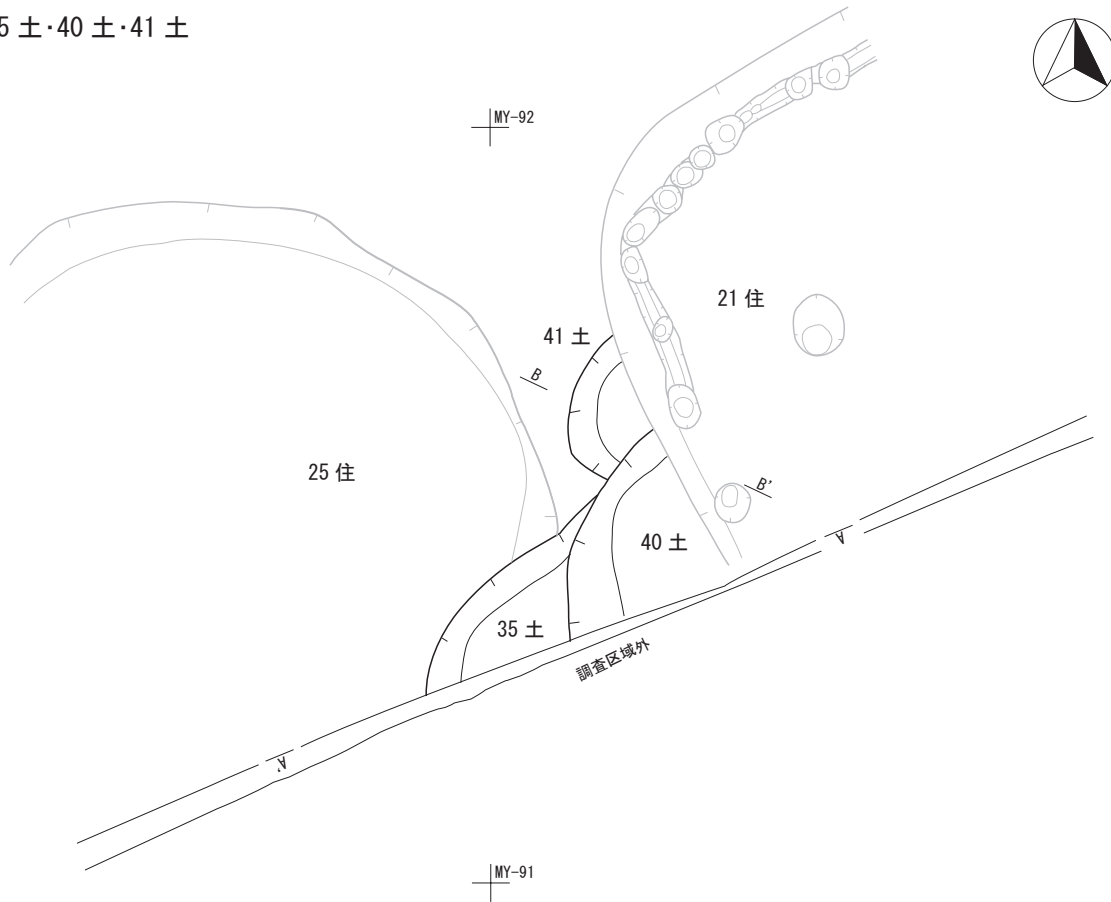
〔形態・規模〕 平面形は、開口部が長径約1m50cm、短径約1m20cmの楕円形で、坑底部は直径約1m60cmのほぼ円形で、断面形はフラスコ状である。

〔壁・底面〕 北西壁に直径約30cm、深さ約70cmのピットが確認され、本土坑に伴うものと考えられるが用途等については不明である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは約1m85cmである。

〔堆積土〕 堆積土は22層に分層された。全体的に黒色土か黒褐色土を主体とした層で、一部炭化物や焼土粒が含まれている。下層部は壁の崩落を伴った自然堆積とみられ、中層から上層部にかけては遺物や炭化物などを廃棄したと思われる堆積状況である。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～45)と石器(S1～13)、骨(B1～4)が出土している。

35 土・40 土・41 土



第35号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 明褐色土 7.5YR5/8 焼土層、浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)少量、炭化物微量

第40号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 黒色土 10YR2/1 炭化物層、浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・焼土粒微量

第41号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

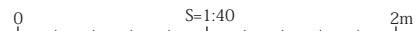
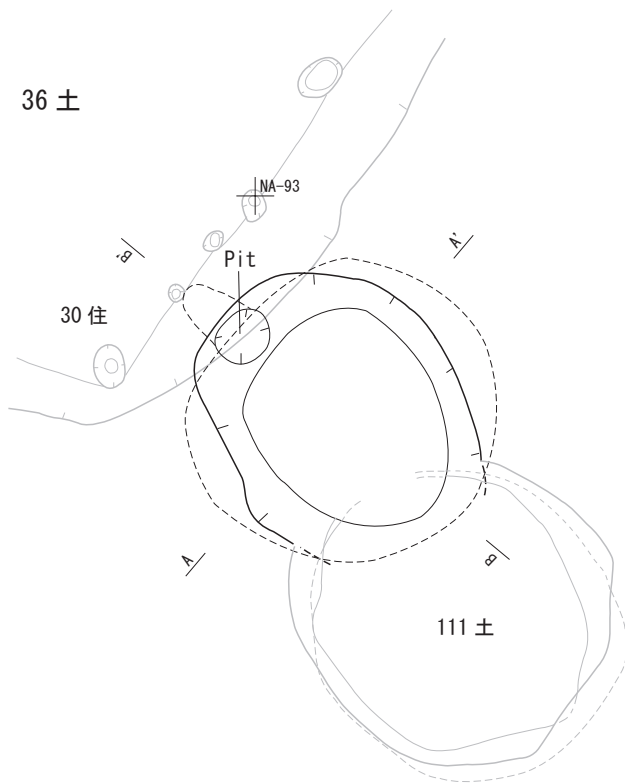


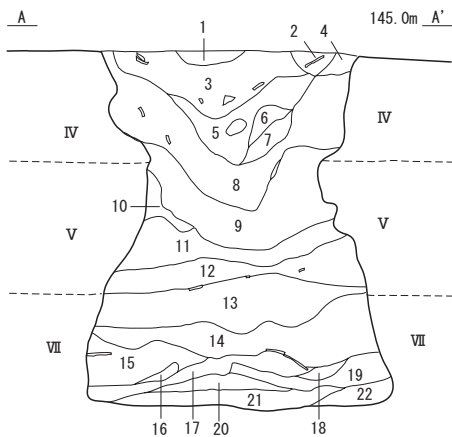
図90 土坑 (13)

36 土

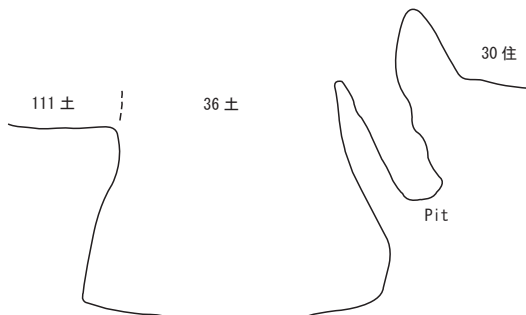


第36号土坑

- 第1層 暗赤褐色土 5YR3/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物極微量、焼土粒少量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: φ~0.3cm・南部: φ~0.5cm)・焼土粒微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物極微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~1.0cm)・炭化物極微量
- 第5層 黒色土 10YR2/1 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物極微量
- 第6層 黒色土 10YR2/1 浮石(中礫: φ~0.2cm・南部: φ~0.5cm)極微量、炭化物中量
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 中礫浮石(φ~0.5cm)極微量
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物極微量、焼土微量
- 第9層 黒褐色土 10YR3/1 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物極微量
- 第10層 黒色土 10YR1.7/1 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物極微量
- 第11層 黒褐色土 10YR3/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物・焼土粒極微量
- 第12層 黒褐色土 10YR3/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~1.0cm)・炭化物微量
- 第13層 黒褐色土 10YR3/1 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)極微量
- 第14層 黒褐色土 10YR3/1 中礫浮石(φ~0.5cm)・炭化物極微量
- 第15層 黒褐色土 10YR3/2 浮石(中礫: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)極微量
- 第16層 黒色土 10YR2/1 南部浮石崩落土
- 第17層 黒褐色土 10YR3/2 中礫浮石(φ~0.5cm)・炭化物極微量
- 第18層 黒褐色土 10YR3/2 中礫浮石(φ~0.5cm)少量
- 第19層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 中礫浮石(φ~0.5cm)中量
- 第20層 暗赤褐色土 5YR3/6 中礫浮石(φ~0.5cm)・焼土粒・灰微量
- 第21層 黒褐色土 10YR3/2 八戸火山灰崩落土、炭化物極少量
- 第22層 暗褐色土 10YR3/4 中礫浮石(φ~0.5cm)少量



B 145.0m B'



0 S=1:40 2m

図91 土坑 (14)

第37号土坑 (図89)

〔位置〕 調査区中央のMX-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。南西側で第16号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 南西部分は竪穴住居跡によって削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さ約30cmである。

〔堆積土〕 堆積土は3層に分層され、第1層は炭化物を含む暗褐色土、第2層は明褐色土の焼土層、第3層は炭化種子を含む黒褐色土の層である。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～37)、石器(S1～5)、種子(T1～7)が出土している。

第38号土坑 (図92・93)

〔位置〕 調査区中央のMX-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第16号竪穴住居跡、東側で第25号竪穴住居跡と重複し、本土坑がどちらの住居跡よりも古い。

〔形態・規模〕 重複する住居跡によって大部分が削平されているが平面形は円形あるいは楕円形と推定でき、規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存する壁はやや緩やかに立ち上がり、底面はやや起伏がみられる。確認面から底面までの深さは約35cmである。



人骨(歯)取り上げ状況

〔埋葬形態〕 精査中に堆積土からやや粘性のみられる灰白色の糊状範囲を検出したが、人骨とは確認できず、掘り下げたため、頸椎から寛骨にかけてを取り除いてしまった。その後、上・下顎骨と歯が出土し、人骨頭部と判明した。大腿骨と脛骨はその上部を深鉢土器に覆われていたため、遺存状態は頭蓋骨と比較して良好であるが一般的には脆弱である。出土状態から、仰臥屈葬と考えられ、下半身に大型の深鉢土器を被せられて埋葬されていたと思われる。

〔堆積土〕 堆積土は、炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～11)、剥片(HS1～3)が出土している。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代前期前葉に構築された土坑墓と考えられる。

第39号土坑→第30号竪穴住居跡に伴う出入り口に変更したため欠番

第40号土坑 (図90)

〔位置〕 調査区中央のMY-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。第35号土坑を掘り込んで構築されていると考えられ、東側で第21号竪穴住居跡、北側で第41号土坑と重複し、本土坑は第21号竪穴住居跡よりも古い、第35号・第41号土坑よりも新しい。

〔形態・規模〕 南側が調査区域外であり、東側が重複する住居跡によって削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存部分から壁はやや急に立ち上がり、底面は概ね平坦で、深さは約40cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層は炭化物を含む黒褐色土で、第2層は焼土粒を含む黒色土の炭化物層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1・2・11～13・18・19)が出土している。

第41号土坑 (図90)

〔位置〕 調査区中央のMY-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。東側で第21号竪穴住居跡、南側で第40号土坑と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも古い。

〔形態・規模〕 重複する遺構により削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存部分から底面は平坦で、深さは約10cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を微量に含んだ黒褐色土の層が確認された。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1・2)が出土している。

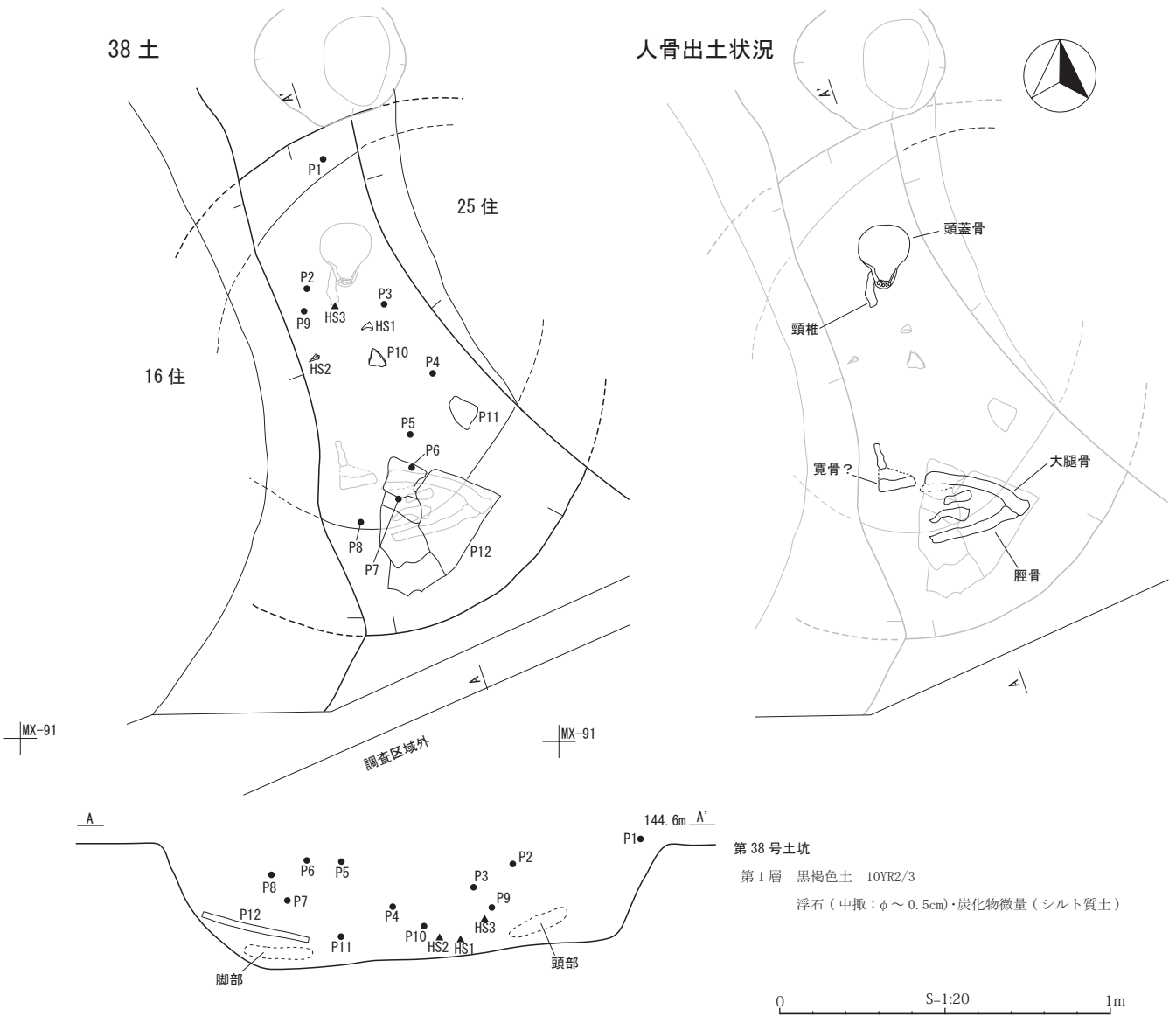


図92 土坑(15) (デジタルデータによる合成)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
1	床面			R 結節、R+L 単軸絡条体第IA類、LR 縄文	II-2	P12 内面スス状炭化物付着
2	覆土		R 結節		II-2	P5
3	床面			R 結節、RLR 縄文	II-2	P11
4	覆土			R 多軸絡条体	II	P1

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
5	底面	1.9	0.7	0.4	0.6	珪質頁岩	I-1	HS2
6	底面	3.7	1.8	0.6	6.7	珪質頁岩	I-8	HS1

図93 第38号土坑 出土遺物

第42号土坑 (図94)

〔位置〕 調査区東側の ND-95グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。南側で第23号竪穴住居跡と重複し、本土坑が住居跡よりも古い。

〔形態・規模〕 竪穴住居跡によって削平されているため、平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存部分の確認面から底面までの深さは約15cmである。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第43号土坑 (図89)

〔位置〕 調査区中央の MY-92・93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。北西側で第28号竪穴住居跡と、南西側で第31号土坑と重複し、本土坑が第28号住居跡よりは古く、第31号土坑よりも新しい。

〔形態・規模〕 北西側で竪穴住居跡によって削平されているため規模は不明であるが、残存部分から平面形は楕円形と思われる。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、ほぼ中央に10cmほどの段差が確認できた。深さは約30cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物を微量に含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～8)と石器(S1・2)が出土している。

第44号土坑 (図94)

〔位置〕 調査区東側の NK-97グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。ほぼ同レベルで第19号竪穴住居跡の直下で柱穴であるピット1(旧第46号土坑)と重複し、本土坑がいずれの遺構よりも新しいと思われる。

〔形態・規模〕 平面形は長径約1m20cm、短径約1m5cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約25cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物を微量に含んでいるのが確認されている。

〔出土遺物〕 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第45号土坑 (図95)

〔位置〕 調査区東側の NI-95・96グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。第13号竪穴住居跡の壁柱穴列と重複し、本土坑が新しい。

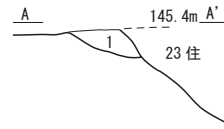
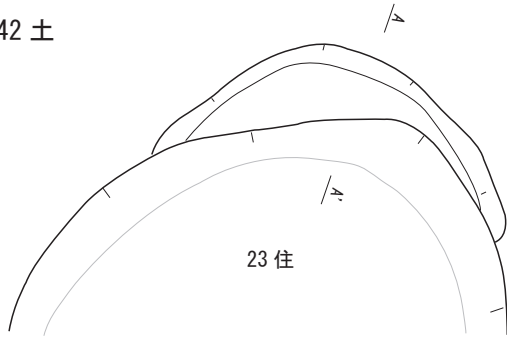
〔形態・規模〕 平面形は長径約1m40cm、短径約1m10cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、深さは約20cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物と焼土粒を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

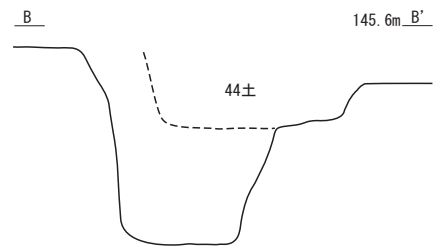
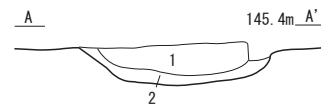
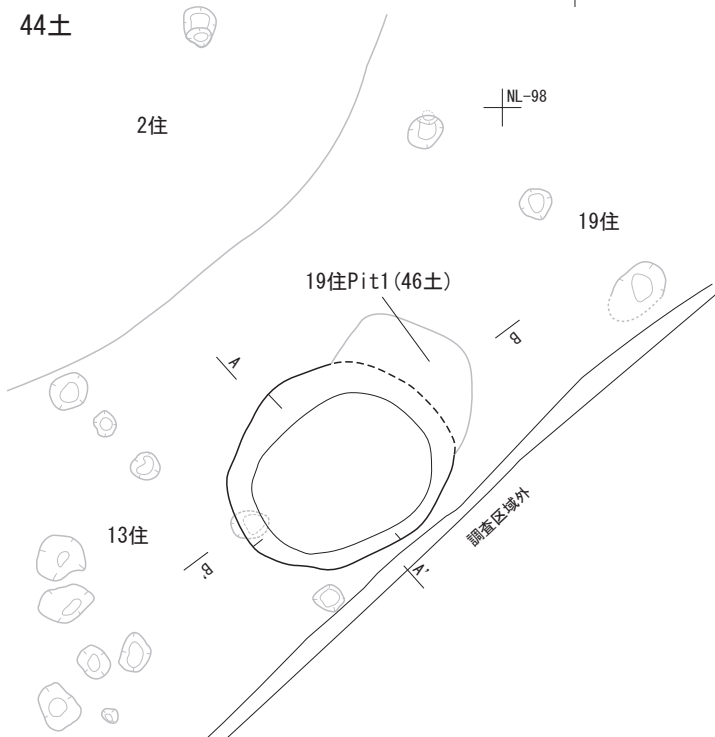
〔出土遺物〕 覆土から石器(S1～3)が出土している。

42 土



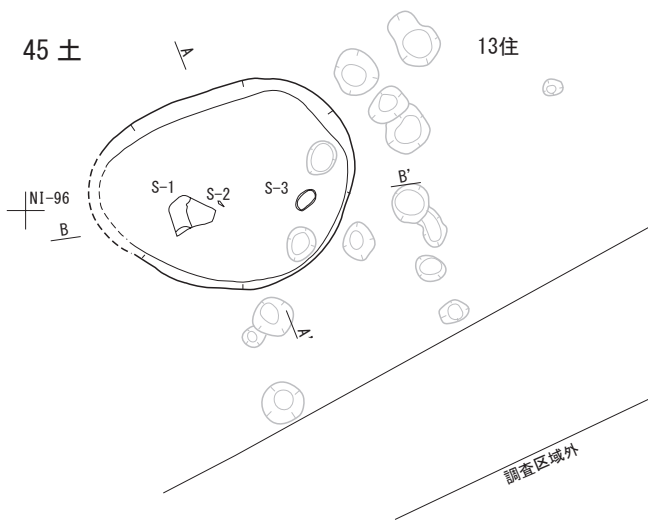
第42号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量

44 土



第44号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量
第2層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量

45 土



第45号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量、
炭化物・焼土粒極微量

0 S=1:40 2m

図94 土坑(16)

第46号土坑→第19号竪穴住居跡の柱穴(ピット1)に変更したため欠番

第47号土坑 (図95)

[位置] 調査区東側のNK-97グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。ほぼ同レベルで第13号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しいと思われる。

[形態・規模] 平面形は直径約1mのほぼ円形である。

[壁・底面] 底面はやや起伏がみられ、深さは5cmほどで緩やかに窪み、北側に炭化物の範囲がみられる。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含む黒褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第48号土坑 (図95)

[位置] 調査区東側のNJ-96グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。ほぼ同レベルで第13号竪穴住居跡の直下で柱穴であるピット126(旧第56号土坑)と重複し、本土坑がいずれの遺構よりも新しいと思われる。

[形態・規模] 平面形は直径約1mのほぼ円形である。

[壁・底面] 底面はやや起伏がみられ、深さは約5cmほどで緩やかに窪んでいる。

[堆積土] 堆積土は炭化物と焼土粒を微量に含んでいる暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第49号土坑→第13号竪穴住居跡の柱穴(ピット125)に変更したため欠番

第50号土坑 (図96)

[位置] 調査区東側のNG-96グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。第14号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

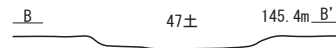
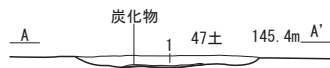
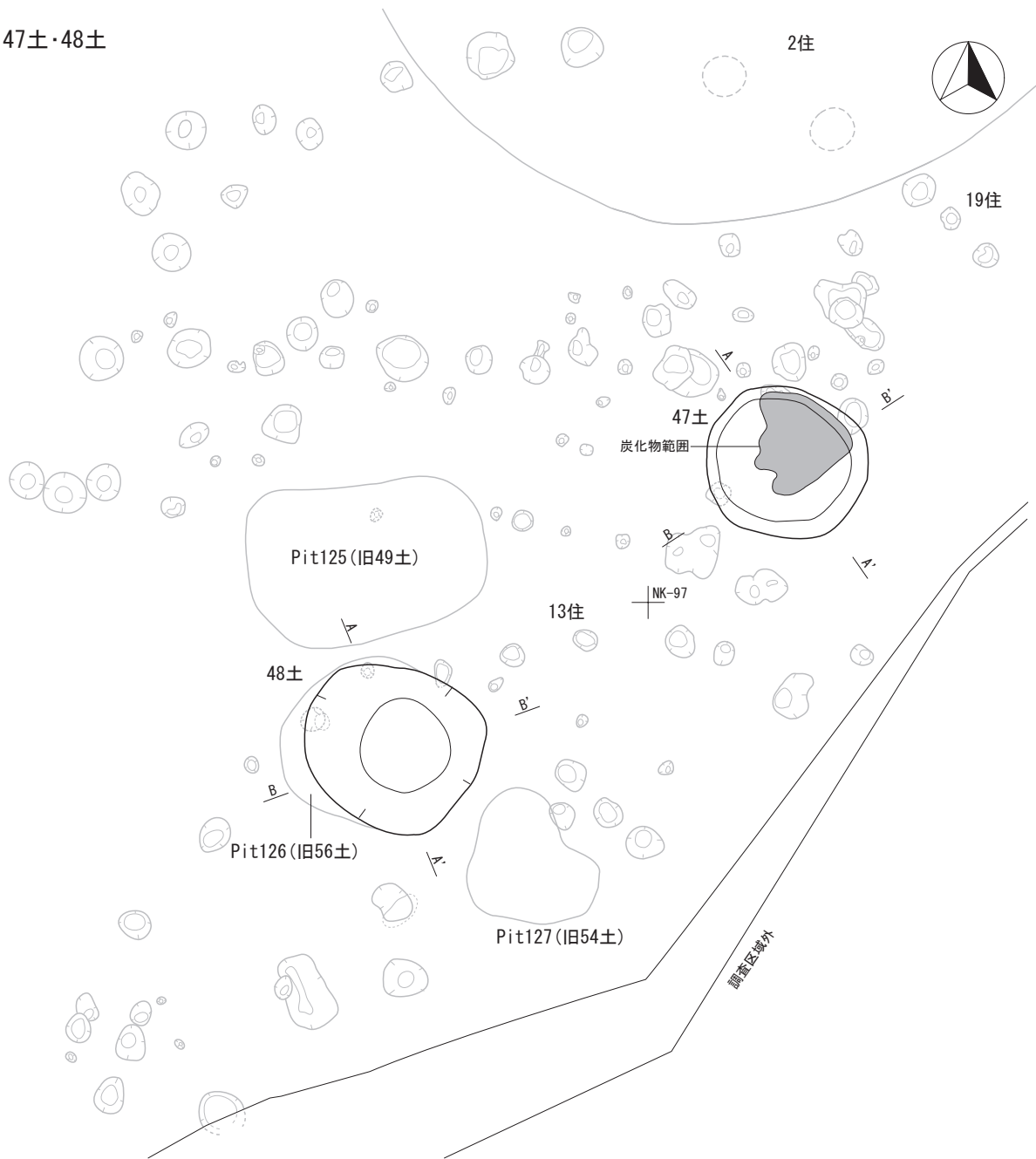
[形態・規模] 平面形は長径約1m15cm、短径約65cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面はやや起伏がみられ、北側が若干低くなり、深さは約35cmである。中央部東側にピット(深さ約27cm)を検出したが、構築以前のピットと考えられる。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含む暗褐色土の層が確認されている。

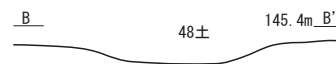
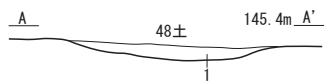
[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1・2)と石器(S1)が出土している。

47土・48土



第47号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量



第48号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)・炭化物微量、焼土粒極微量

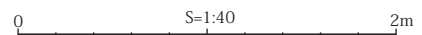


図95 土坑(17)

第5 1号土坑 (図96)

[位置] 調査区東側の NG-96グリッドに位置している。第14号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は長径約85cm、短径約70cmの隅丸長方形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約20cmである。

[堆積土] 堆積土は暗褐色土の層が確認された。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～3)が出土している。

第5 2号土坑 (図96)

[位置] 調査区東側の NG-95グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。第33号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

[形態・規模] 平面形は、長径約1m20cm、短径約90cmのほぼ楕円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約30cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物と焼土粒が含まれている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～10)と石器(S1・2)が出土している。

第5 3号土坑 (図96)

[位置] 調査区東側の NG-95・96グリッドに位置している。

[検出状況] 東側の遺構密集地域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。第33号・第38号竪穴住居跡と重複し、第38号竪穴住居跡よりは古く、第33号竪穴住居跡よりも新しい。

[形態・規模] 平面形は長径約1m25cm、短径約70cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面は平坦で、深さは約25cmである。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第5 4号土坑→第13号竪穴住居跡の柱穴(ピット127)に変更したため欠番

50 土・51 土・52 土・53 土

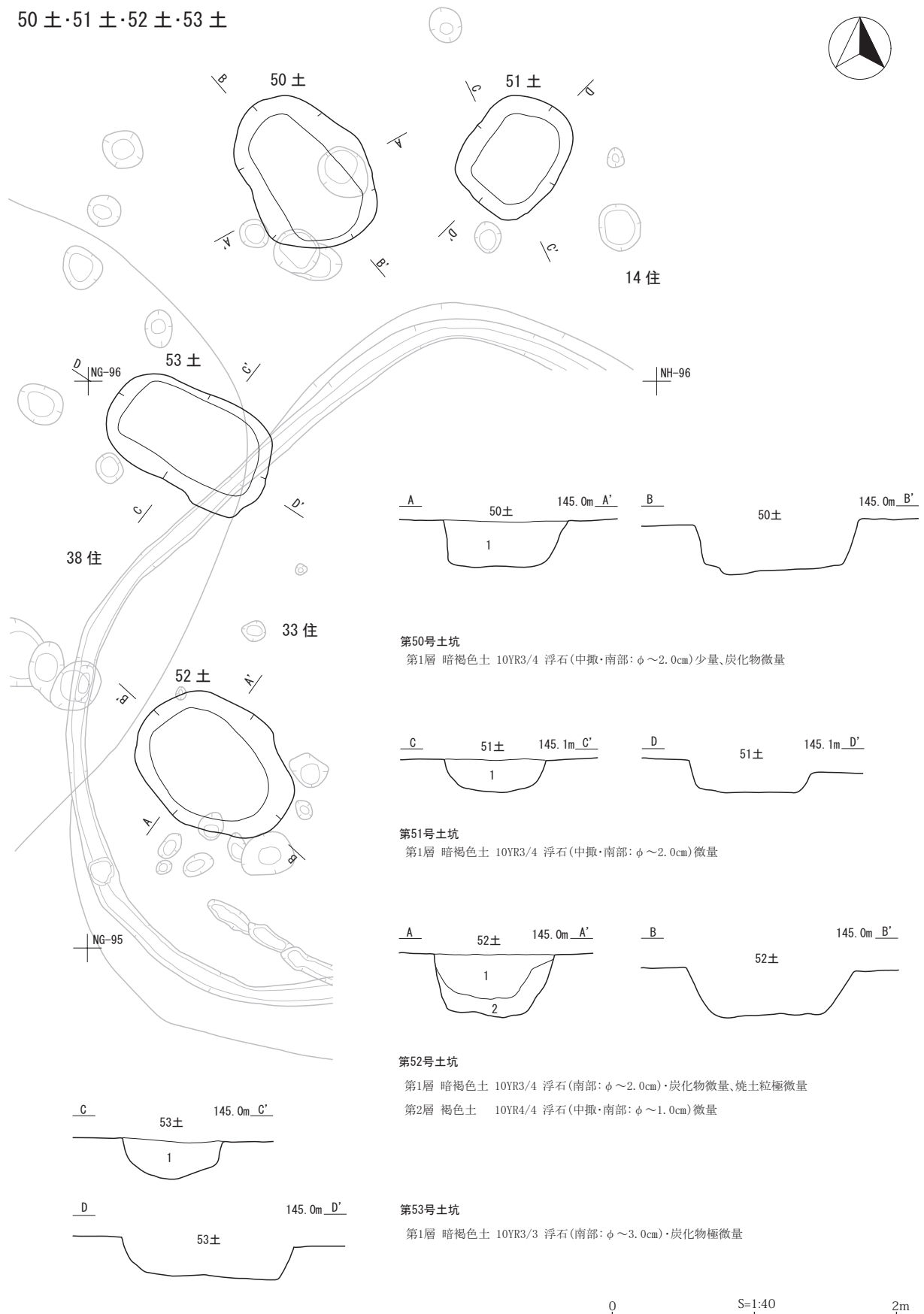


図96 土坑(18)

第55号土坑 (図97～99)

〔位置〕 調査区東側のNF-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕 東側の遺構密集区域を掘り下げ中に落ち込みを確認した。上部に検出した配石に伴う可能性が考えられる。

〔形態・規模〕 平面形は長径約1m50cm、短径約60cmの隅丸長方形である。

〔上部配石〕 第Ⅲ層を掘り下げ中にコの字状に配置されたとと思われる礫を8個検出した。ほぼすべてが角の取れた円礫で、大きさは10～50cm、重さが0.4～19.6kgである。

〔壁・底面〕 壁面に奥行き3～8cmの小ピットが13基検出されている。底面はほぼ平坦で、深さは確認面から約40cmと浅いため、(※身長150cm前後の人が脚を折り曲げ屈葬の姿勢時、足から膝まで長さは約43cm前後となり、掘り込みの深さが40cmでは膝が坑外に突出するため、土坑の短径幅が40cm以下で屈葬姿勢での埋葬は、土坑の掘り込みの深さが45cm以上が必要と思われる。)上部の配石からの深さである約1m10cmほどあったと思われる。

〔埋葬形態〕 底面を精査中に底面南壁よりにやや粘性のある灰白色の糊状範囲を検出したが、極めて脆弱なため、人骨を確認するまでにはいかず、辛うじて頭蓋骨と歯と思われる範囲を残すことができた。埋葬姿勢は頭蓋骨と土坑の幅から仰臥屈葬と考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は浮石を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から小型の深鉢土器の底部(P1)、底面からは円礫(S1)、底面のピット2からは角礫(S2)と埋設された深鉢土器(P2)が出土している。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代中期後半に構築された土坑墓と考えられ、上部に配石を伴う可能性が高い。

第56号土坑→第13号竪穴住居跡の柱穴(ピット126)に変更したため欠番**第57号土坑～第59号土坑**→欠番**第60号土坑(溝状土坑)** (図100)

〔位置〕 調査区西側の緩斜面MA-80・81グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で溝状の落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は長径約3m60cm、短径約1m10cmの南北に長い楕円形で、傾斜に対して平行に掘り込まれている。

〔壁・底面〕 底面は起伏がみられ、南側が若干低くなる。深さは約2m10cmと深くⅦ層(八戸火山灰層)まで掘り込まれている。断面形はY字状で確認面から1mほど下は幅が約25cmと狭くなり、底面の両端はやや内側に抉り込んでいる。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層され、第4層は中礫浮石の崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕 覆土の上層から土器の破片(P1～14)が出土している。

55土(上部配石1)(1)

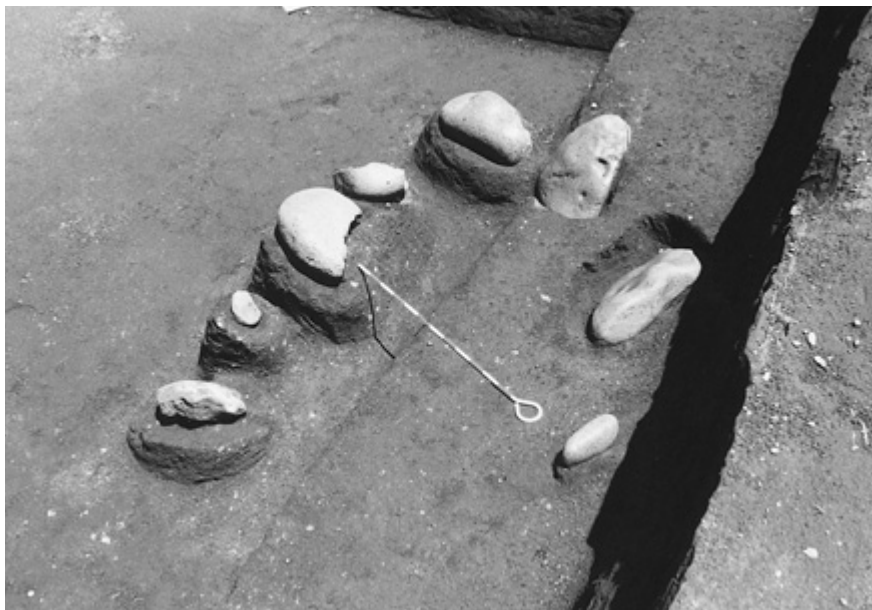
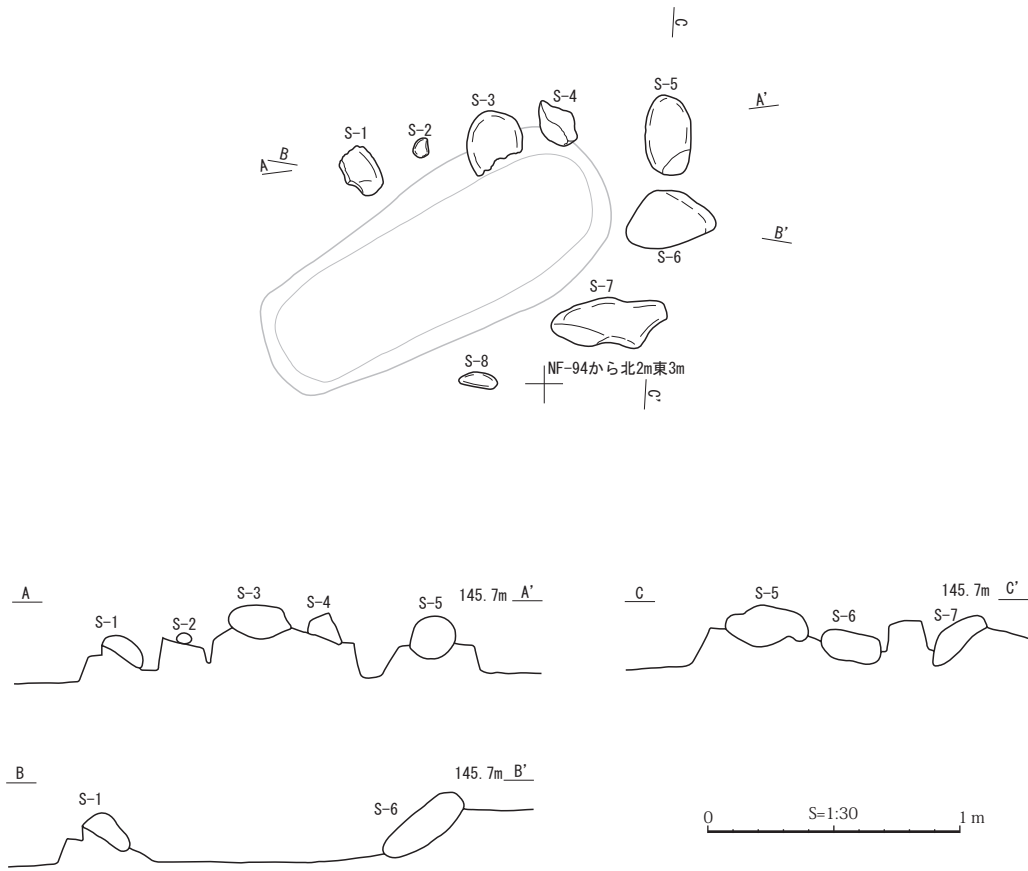
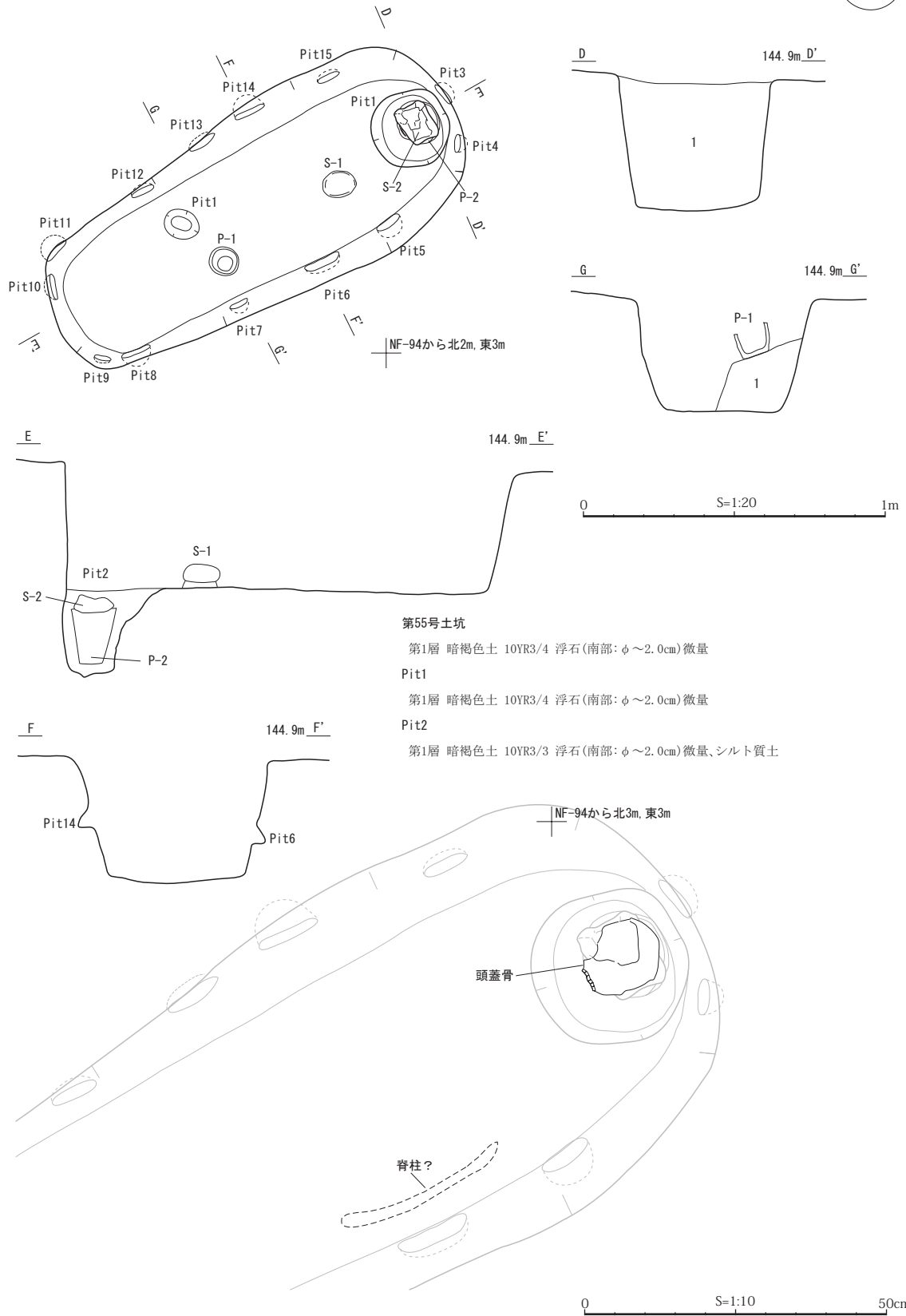


図97 土坑(19)

55 土 (2)



第55号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(南部:φ~2.0cm)微量

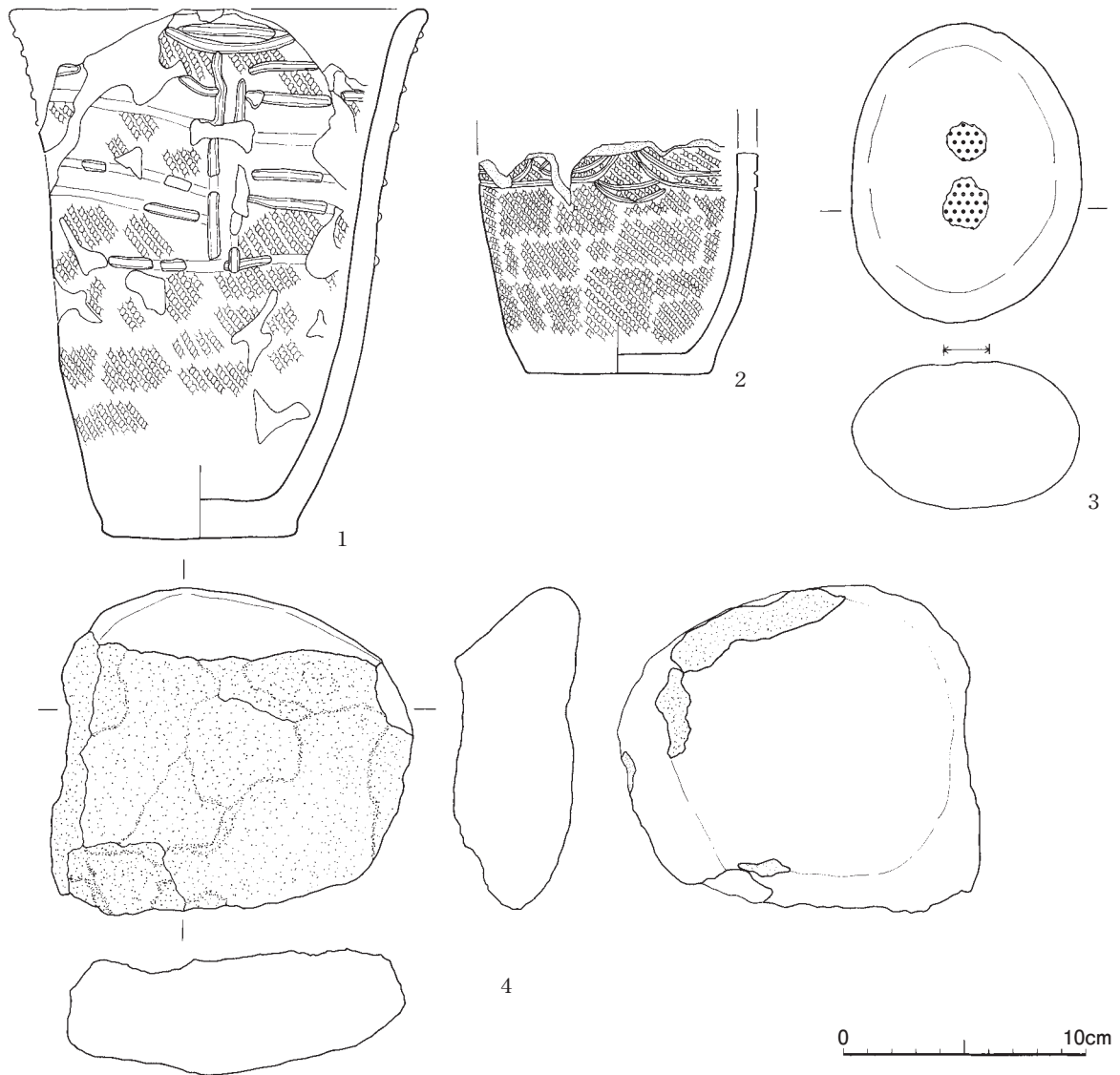
Pit1

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(南部:φ~2.0cm)微量

Pit2

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(南部:φ~2.0cm)微量、シルト質土

図98 土坑(20)

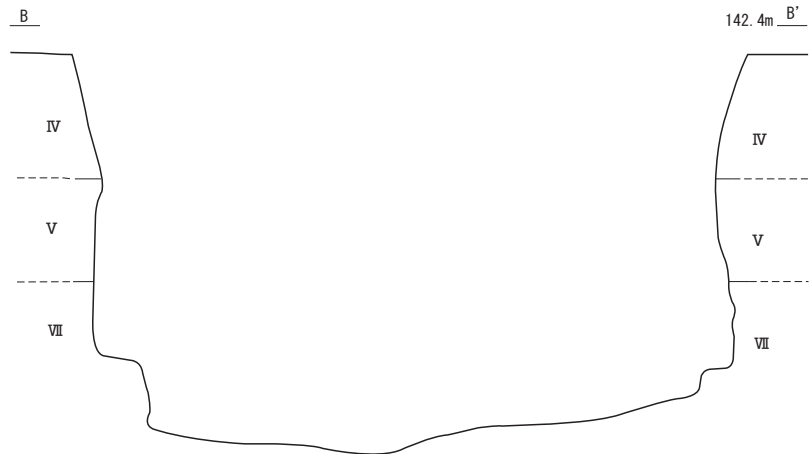
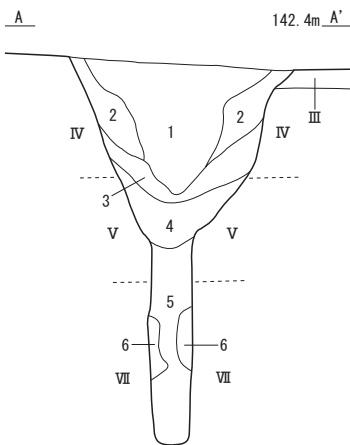
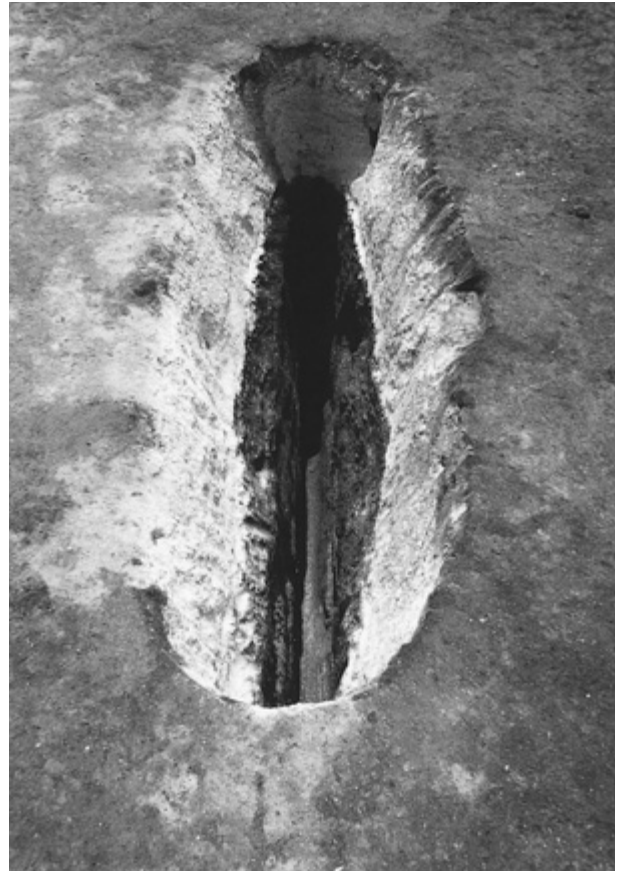
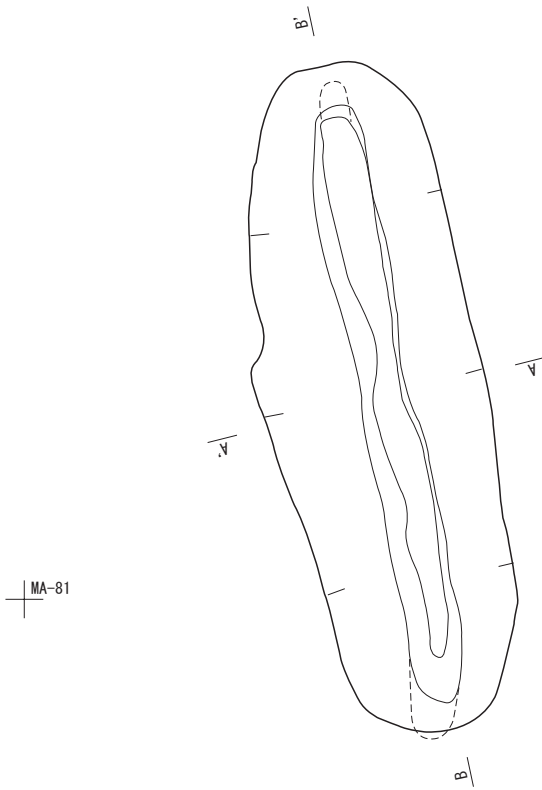


図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
1	Pit2、確認面		粘土紐貼付、RL縄文	RL縄文	Ⅲ-4	P-2
2	1層			沈線、RL縄文	Ⅲ-5	P-1

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
3	底面	12.3	9.6	6.1	1100	安山岩	Ⅱ-11b	S-1
4	Pit2、確認面	13.2	14.3	5.0	1500	安山岩	Ⅱ-12	S-2

図99 第55号土坑 出土遺物

60土



第60号土坑(溝状土坑)

- 第1層 黒色土 10YR2/1 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 1.0\text{cm}$) 極微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 極微量
- 第3層 黒褐色土 10YR3/1 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 中量
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 中礫浮石崩落土、黒褐色土(10YR3/1) 混入
- 第5層 黒褐色土 10YR3/1 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 中量
- 第6層 明褐色土 10YR6/6 中礫浮石崩落土、黒褐色土(10YR3/1) 混入

0 S=1:40 2m

図100 土坑(21)

第61号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

第62号土坑→欠番

第63号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

第64号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

第65号土坑→欠番

第66号土坑 (図101)

[位置] 調査区中央の MP・MQ-88グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北東隅でピットと重複し本土坑が新しい。

[形態・規模] 平面形は南側がトレンチャーによって削平されているが、残存部分から長径約1m30cmの楕円形と思われる。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約25cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれた層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～13)と石器(S1)が出土している。

第67号土坑 (図101)

[位置] 調査区中央の MP-88グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は長径約1m10cm、短径約90cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約20cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれた層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～6)と石器(S1・2)が出土している。

第68号土坑 (図101)

[位置] 調査区中央の MO・MP-88グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

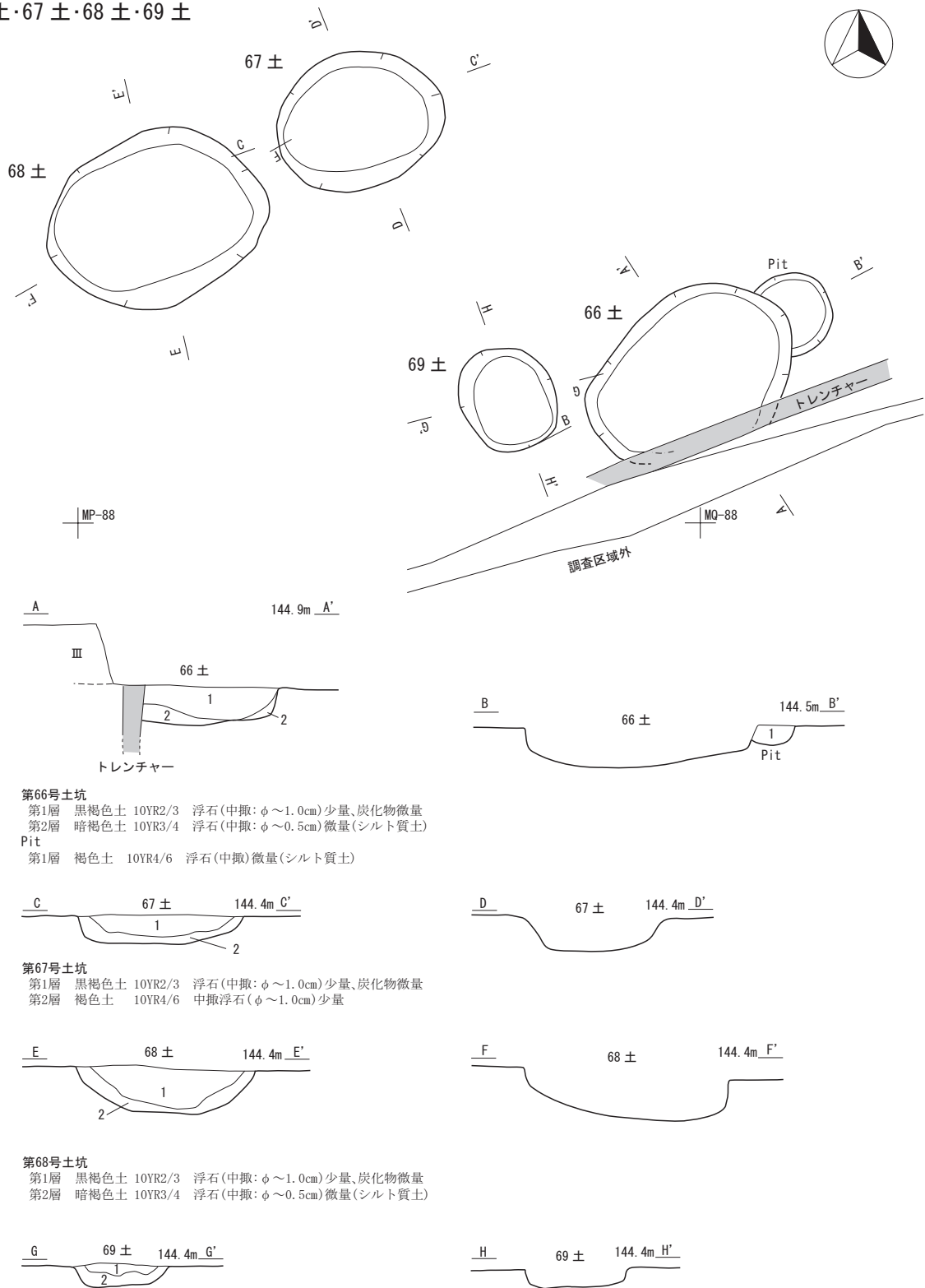
[形態・規模] 平面形は長径約1m50cm、短径1m10cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦だが、南西側が若干低くなり、深さは約30cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれた層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～21)と石器(S1)が出土している。

66 ±・67 ±・68 ±・69 ±



0 S=1:40 2m

図101 土坑 (22)

第69号土坑 (図101)

- [位置] 調査区中央の MP-88グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 平面形は長径約70cm、短径約60cmの楕円形である。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約10cmである。
- [堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物が含まれた層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1)が出土している。

第70号土坑 (図102)

- [位置] 調査区西側の MH-85グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 平面形は長径約80cm、短径約60cmのほぼ楕円形である。
- [壁・底面] 底面はやや起伏がみられ、深さは約20cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～9)が出土している。

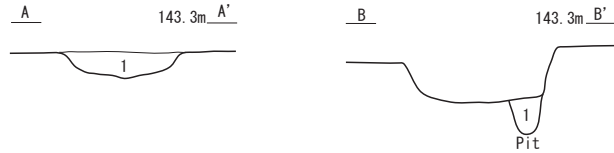
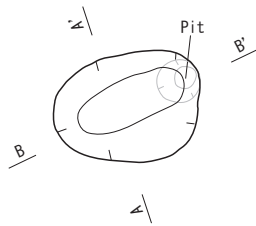
第71号土坑 (図102)

- [位置] 調査区中央の MS・MT-89グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 平面形は直径約85cmのほぼ円形である。
- [壁・底面] 底面はすり鉢状で、深さは約30cmである。
- [堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～18)、石器(S1・2)が出土している。

第72号土坑 (図102)

- [位置] 調査区中央の MO-87グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。直下で第45号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しいと思われる。
- [形態・規模] 南側が調査区域外であり、平面形および規模は不明である。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さ約40cmである。
- [堆積土] 堆積土は2層に分層され、いずれの層も炭化物を含んだ層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～4)が出土している。

70 土



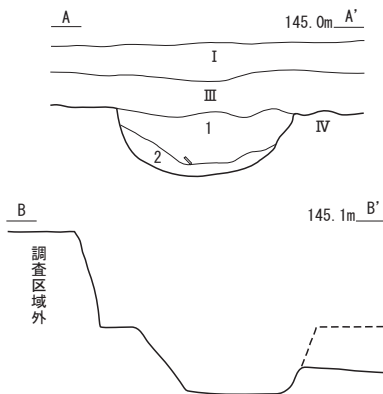
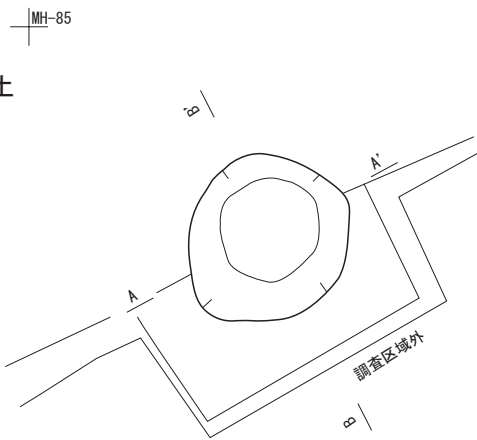
第70号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

Pit

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

71 土

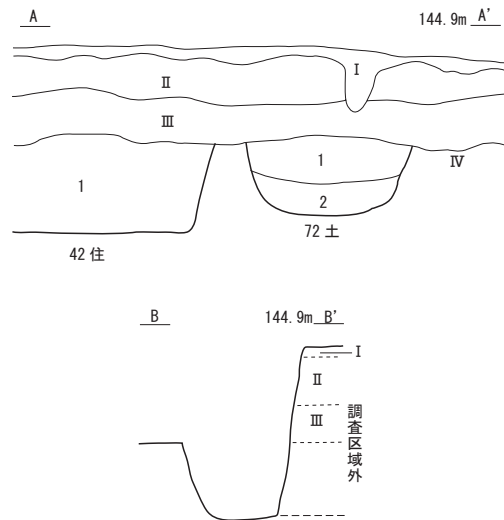
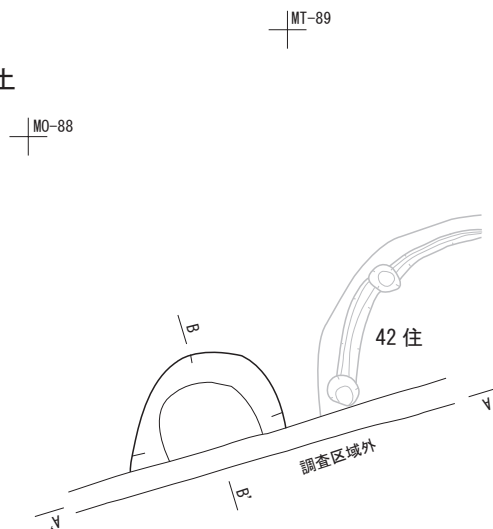


第71号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量

72 土



第72号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量・炭化物少量

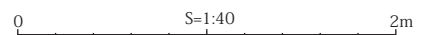


図102 土坑 (23)

第73号土坑 (図103)

〔位置〕 調査区中央の MN-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。東側で第1号集石遺構と重複し、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 平面形は集石遺構によって削平され、平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約30cmで、西側に深さ約40cmのピットを伴っていると思われる。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～53)と石器(S1)、軽石(K1)、炭化物(M1)が出土している。

第74号土坑 (図103)

〔位置〕 調査区中央の MN-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南西側で第75号土坑と重複し、本土坑が新しい。

〔形態・規模〕 平面形は直径約75cmの円形である。

〔壁・底面〕 底面はすり鉢状で、深さは約15cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～5)が出土している。

第75号土坑 (図103)

〔位置〕 調査区中央の MM・MN-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。北西側で第74号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 重複する遺構によって削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約20cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物を含んだ層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～3)が出土している。

第76号土坑 (図103)

〔位置〕 調査区中央の MM-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で落ち込みを確認した。南側で第11号竪穴住居跡、北側で第46号竪穴住居跡と第101号土坑、東側で第114号土坑、西側で第115号土坑と重複し、本土坑は第11号住居跡と第101号土坑よりも古く、第114号・第115号土坑より新しい。第46号住居跡との新旧関係は不明である。

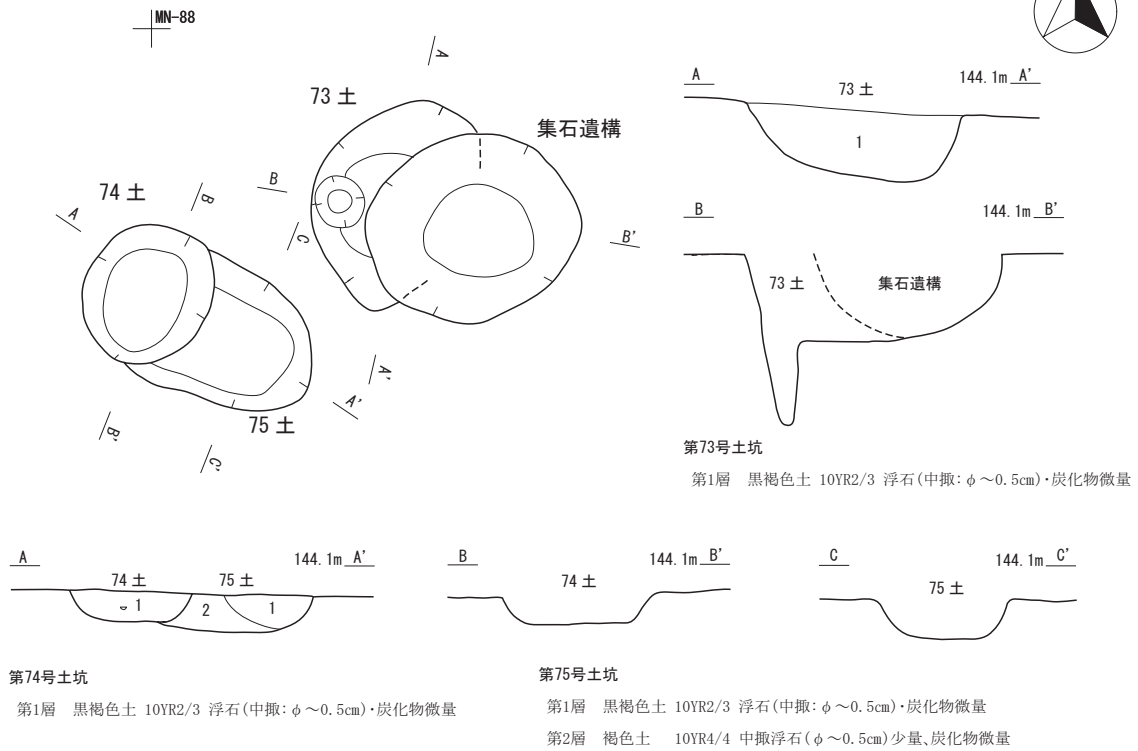
〔形態・規模〕 周囲を重複する遺構によって削平されているため規模は不明であるが、平面形は円形あるいは楕円形と思われる。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約35cmである。

〔堆積土〕 堆積土は、炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～5)が出土している。

73土・74土・75土



76土・78土

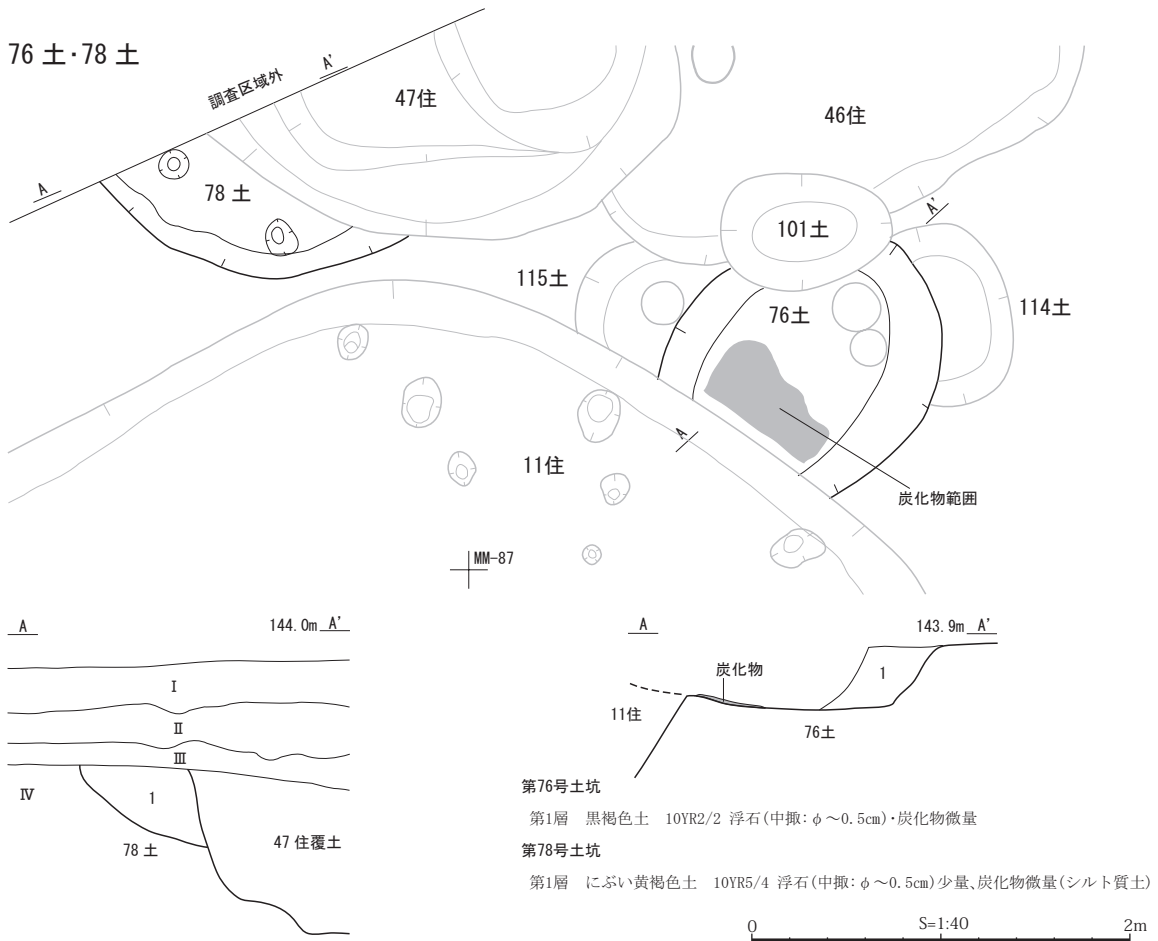


図103 土坑 (24)

第77号土坑 (図104)

- [位置] 調査区中央の ML-87グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 平面形は長径約65cm、短径約50cmのほぼ楕円形である。
- [壁・底面] 底面は平坦で、深さは約20cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～3)が出土している。

第78号土坑 (図103)

- [位置] 調査区中央の ML-87グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。東側で第47号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古いと思われる。
- [形態・規模] 北側は調査区域外で、東側は住居跡によって削平されているため、平面形および規模は不明である。
- [壁・底面] 残存部分の底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、深さは約25cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んでいるにぶい黄褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1)が出土している。

第79号土坑 (図104)

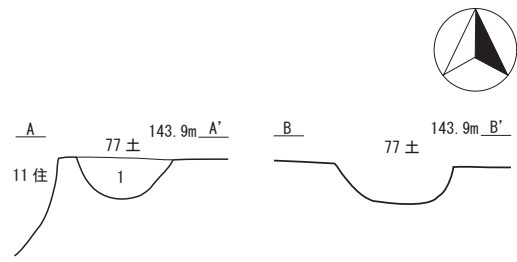
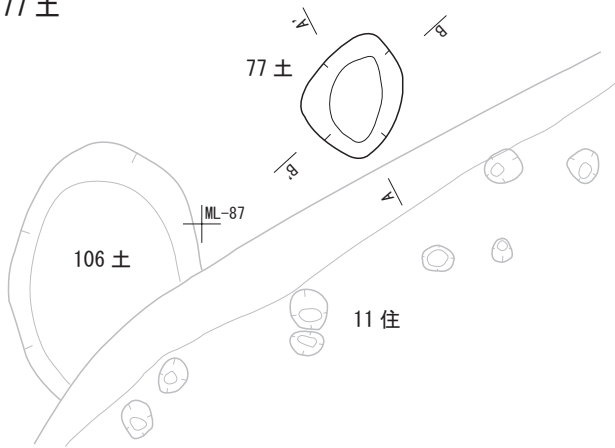
- [位置] 調査区中央の MK-86・87グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 東側がピットによって削平されているため、平面形および規模は不明である。
- [壁・底面] 残存部の底面はやや起伏がみられ、深さは約15cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1)と石器(S1)が出土している。

第80号土坑→風倒木のため欠番

第81号土坑 (図105)

- [位置] 調査区西側の MC-81グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認された第40号竪穴住居跡を掘り下げて検出した。第40号住居跡を掘り込んでいるため、本土坑が新しい。
- [形態・規模] 確認できた平面形は直径約1m50cmのほぼ円形で、坑底部は直径約1m70cmである。断面形はフラスコ状と思われる。
- [壁・底面] 底面はほぼ平坦で、確認された住居跡の床面からの深さは約1m20cmである。
- [堆積土] 堆積土は22層に分層され、上層は炭化物を含んだ黒褐色土の層が主体であるが、下層は崩落した八戸火山灰の層が堆積している。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～5)、石器(S1～9)、軽石(K1)、炭化物(M1・2)が出土している。

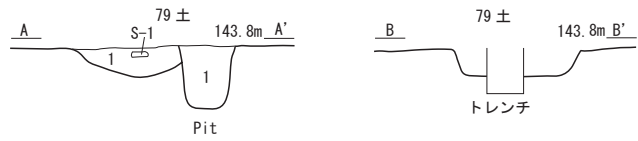
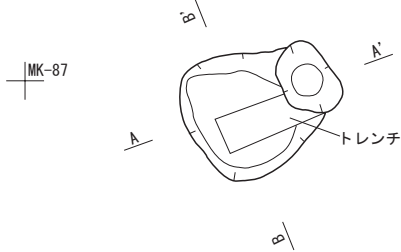
77 土



第77号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫φ~0.5cm)・炭化物微量

79 土



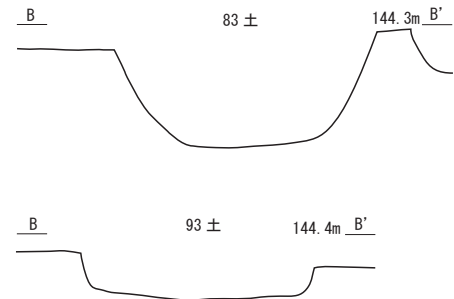
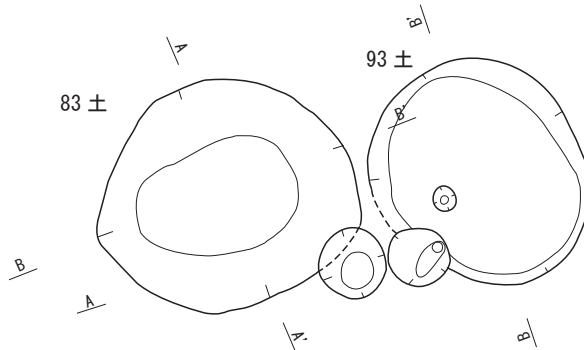
第79号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫:φ~0.5cm)・炭化物微量

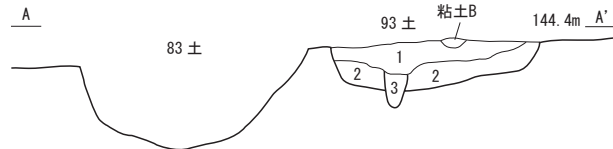
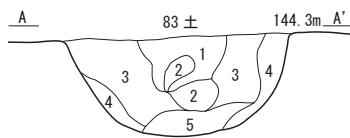
Pit

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中礫:φ~0.5cm)・炭化物微量

83 土・93 土



MQ-89



第83号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中礫:φ~0.5cm)・炭化物微量(シルト質土)
 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 中礫浮石層、炭化物微量
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石(中礫:φ~0.5cm)・炭化物微量
 第4層 褐色土 10YR4/4 浮石(中礫:φ~0.5cm)少量、炭化物微量
 第5層 黒褐色土 10YR3/1 浮石(中礫:φ~1.0cm)微量、炭化物少量

第93号土坑

第1層 褐色土 10YR4/4 浮石(中礫:φ~0.5cm)・炭化物微量
 第2層 明黄褐色土 10YR6/8 浮石(中礫:φ~0.5cm)多量
 第3層 褐色土 10YR4/6 浮石(中礫:φ~0.5cm)少量、炭化物微量

0 S=1:40 2m

図104 土坑 (25)

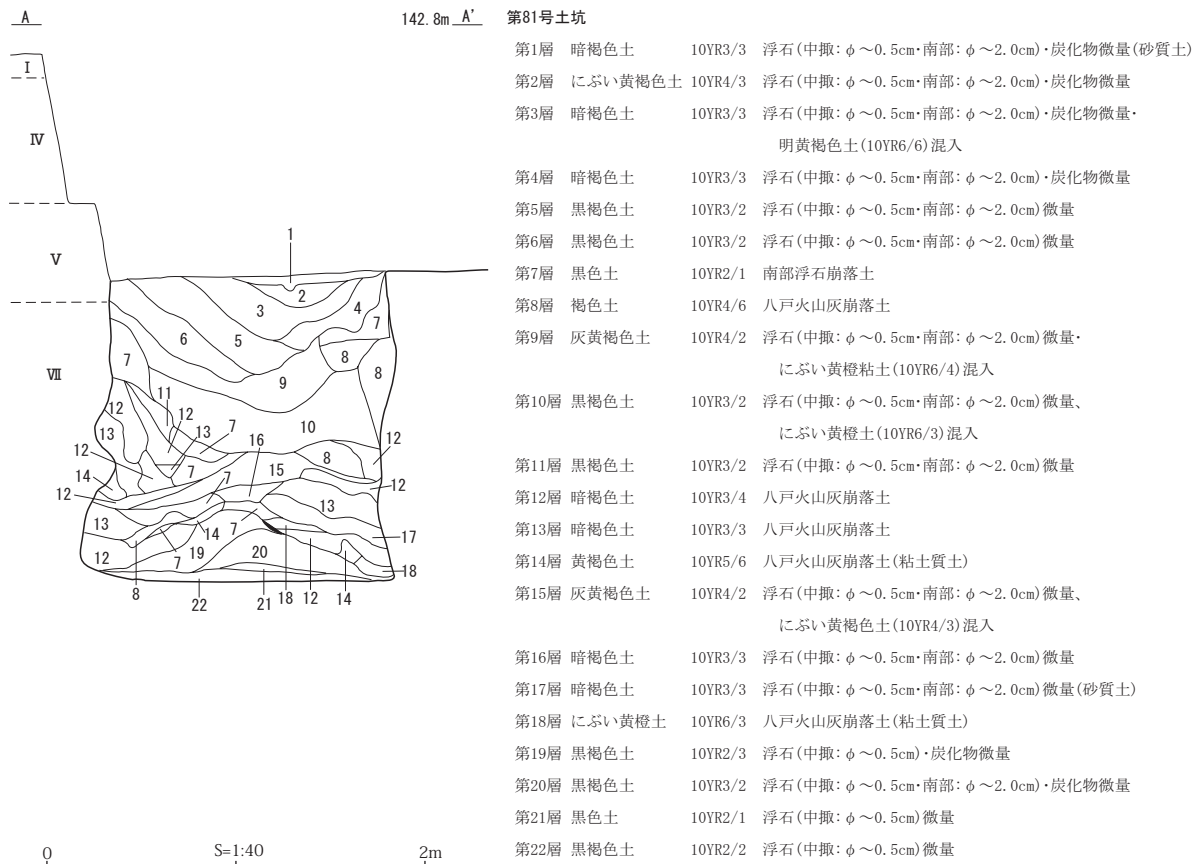
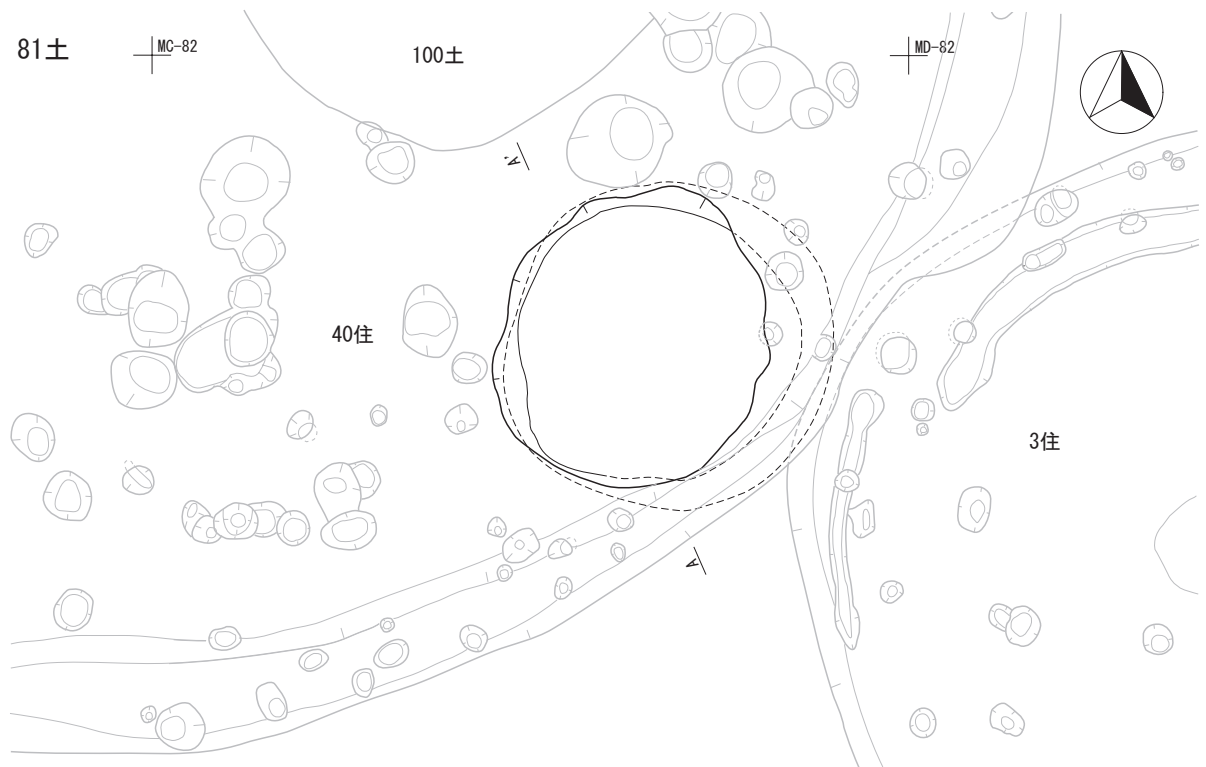


図105 土坑(26)

第82号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

第83号土坑 (図104)

[位置] 調査区中央の MP-89グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は直径約1m30cmのほぼ円形である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約50cmである。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、いずれの層にも炭化物が含まれている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～33)、石器(S1)、炭化物(M1～3)が出土している。

第84号土坑 (図106)

[位置] 調査区中央の MS-90グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は、長径約1m40cm、短径約1m20cmである。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約15cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物を含んでいる層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～11)と石器(S1・2)が出土している

第85号土坑 (図106)

[位置] 調査区中央の MR・MS-89・90グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は直径約1m10cmのほぼ円形である。

[壁・底面] 底面はやや起伏があり、深さは約30cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層は炭化物を含んでいる。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～3)と石器(S1～3)が出土している。

第86号土坑 (図107)

[位置] 調査区中央の MS-89・90グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。南西側で第23号埋設土器と重複し、本土坑が古い。

[形態・規模] 埋設土器の掘り方により削平されているが、残存部から長径約1m35cm、短径約1m5cmの楕円形である。

[壁・底面] 底面は平坦で、深さは約20cmである。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～4)が出土している。

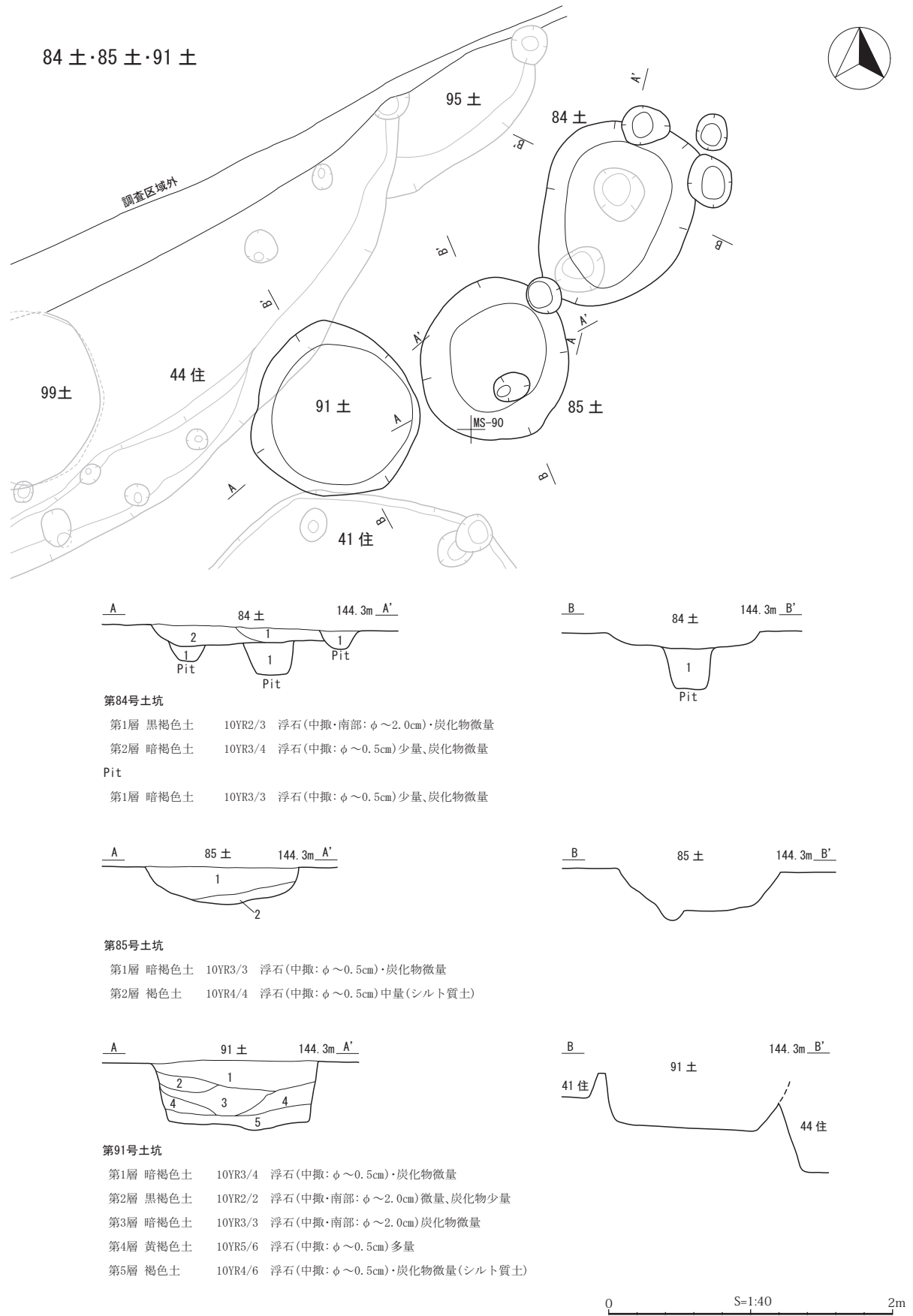


図106 土坑 (27)

第87号土坑 (図107)

- [位置] 調査区中央の MS-89グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。
- [形態・規模] 平面形は長径約1m30cm、短径約85cmの南東側がやや張り出す楕円形である。
- [壁・底面] 底面は平坦で、深さは約20cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含む黒褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～9)が出土している。

第88号土坑 (図107)

- [位置] 調査区中央の MS-89グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北東側で第36号竪穴住居跡と重複し、本土坑が竪穴住居跡より古い。
- [形態・規模] 北東部が竪穴住居跡により削平されているため、平面形および規模は不明である。
- [壁・底面] 残存部から底部は平坦で、深さは約15cmである。
- [堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～3)が出土している。

第89号土坑・第90号土坑→欠番

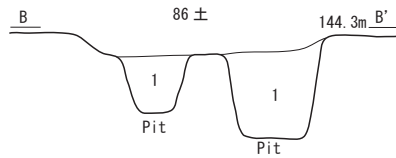
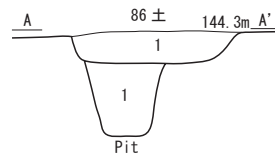
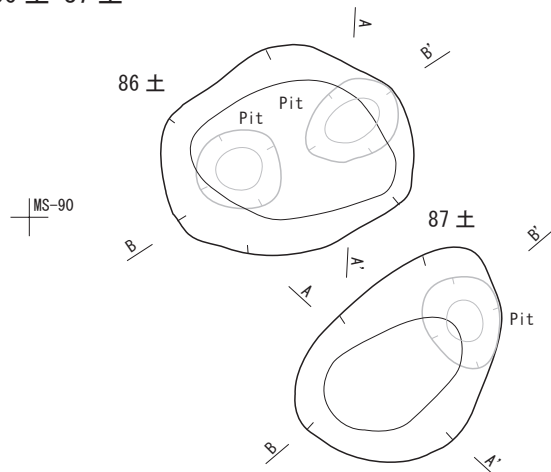
第91号土坑 (図106)

- [位置] 調査区中央の MR-89・90グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。北側で第44号竪穴住居跡、南側で第41号土坑と重複し、本土坑はいずれの遺構よりも新しいと思われる。
- [形態・規模] 平面形は径約1m20cmの円形である。
- [壁・底面] 底面は平坦で、深さは約40cmである。
- [堆積土] 堆積土は5層に分層され、第3層以外の層に炭化物が含まれている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～30)と石器(S1～5)が出土している。

第92号土坑 (図107)

- [位置] 調査区中央の MS-89グリッドに位置している。
- [検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第41号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。
- [形態・規模] 平面形は直径約85cmの円形である。
- [壁・底面] 壁は底面から急に立ち上がり、底面は平坦で、深さは約40cmである。
- [堆積土] 堆積土は2層に分層され、第1層・第2層ともに炭化物を含んだ層が確認されている。
- [出土遺物] 覆土から土器の破片(P1・2)と石器(S1)が出土している。

86 ± · 87 ±



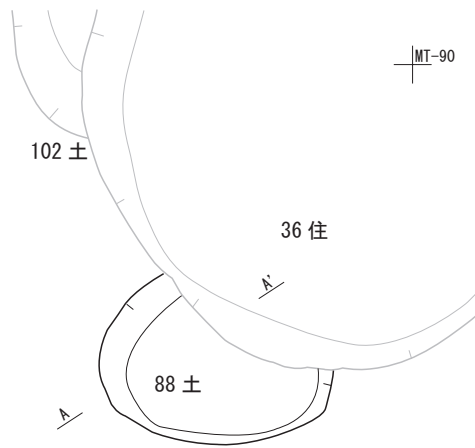
第86号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) · 炭化物微量

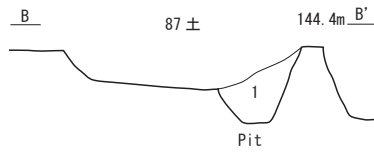
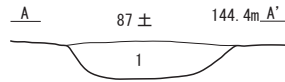
Pit

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 少量、炭化物微量

88 ±



MI-90

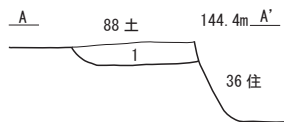


第87号土坑

第1層 黑褐色土 10YR2/3 浮石(中撒·南部: $\phi \sim 1.0\text{cm}$) · 炭化物微量

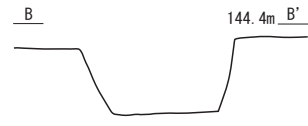
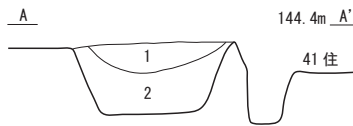
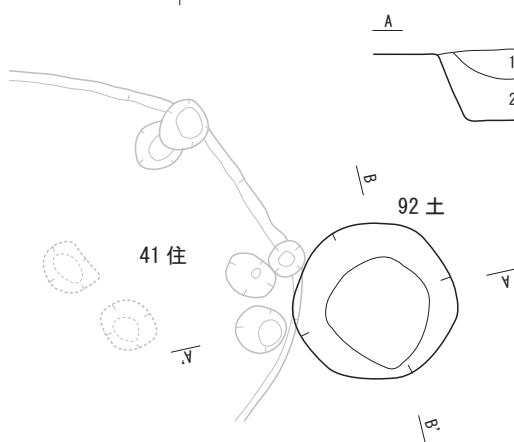
第88号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 少量、炭化物微量



92 ±

MS-90



第92号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 少量、炭化物微量

第2層 褐色土 10YR4/6 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$) 多量、炭化物微量

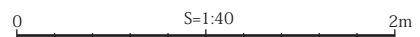


图107 土坑(28)

第93号土坑 (図104)

[位置] 調査区中央の MP-89グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は長径約1m25cm、短径約1mの楕円形である。

[壁・底面] 底面はやや起伏がみられ、深さは約20cmである。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、第1層と第3層に炭化物が含まれた層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～3)が出土している。

第94号土坑 (図108)

[位置] 調査区中央の MO・MP-89グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。

[形態・規模] 北側は調査区域外のため平面形および規模は不明である。

[壁・底面] 底面はほぼ平坦で、深さは約25cmで、壁際に沿って幅8～12cm、深さ約6cmの壁溝が検出されている。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～17)と石器(S1～5)が出土している。

第95号土坑 (図108)

[位置] 調査区中央の MR・MS-90グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。南西側で第44号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

[形態・規模] 北側は調査区域外で、西側は竪穴住居跡により削平されているため、平面形および規模は不明である。

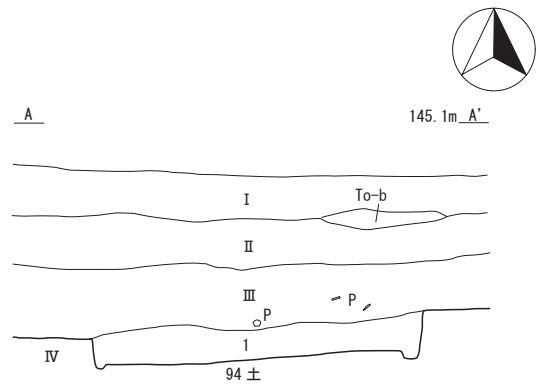
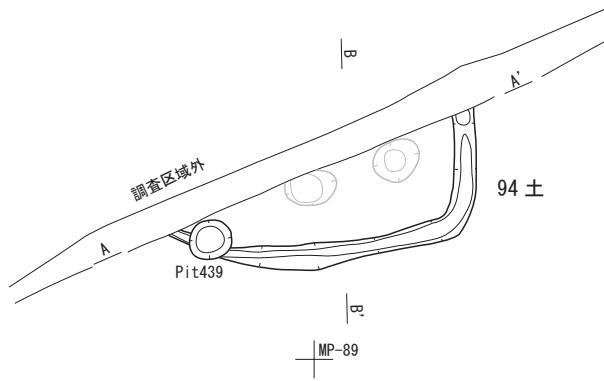
[壁・底面] 残存部分から底面はほぼ平坦で、深さは約40cmである。

[堆積土] 堆積土は2層に分層され、いずれの層も炭化物を含んだ層が確認されている。

[出土遺物] 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第96号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

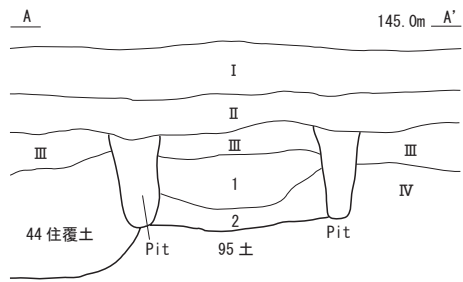
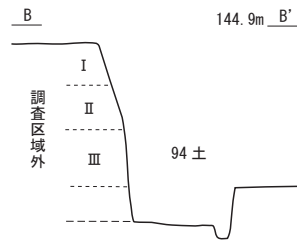
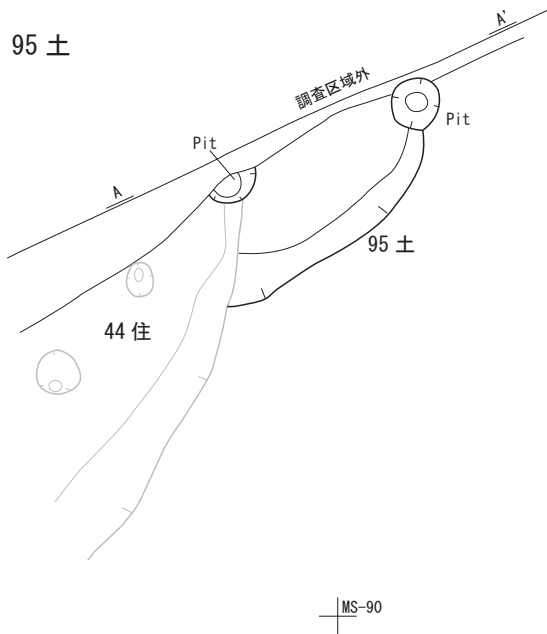
94 土



第94号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

95 土

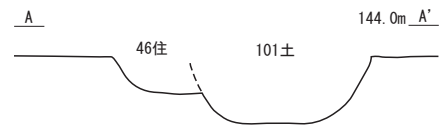
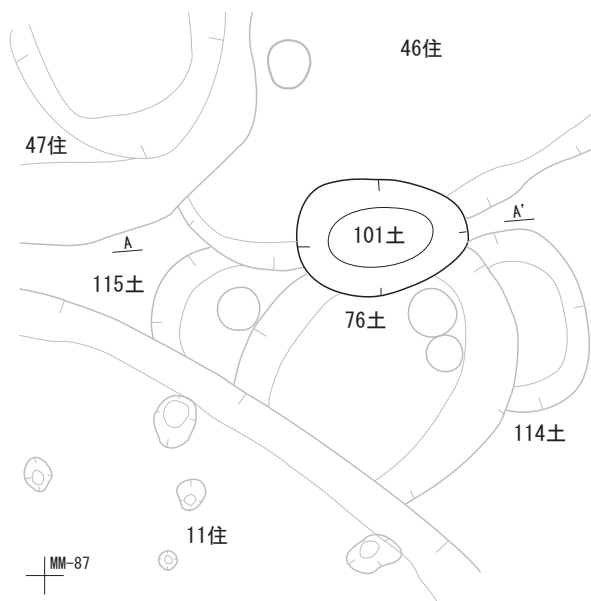


第95号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中撒・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 褐色土 10YR4/4 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

101 土



第101号土坑

第1層 黑褐色土 10YR2/2 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

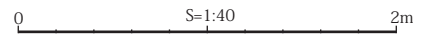


图108 土坑 (29)

第97号土坑 (図109)

〔位置〕 調査区西側の MB-81グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第40号 a 竪穴住居跡の床面を掘り下げて落ち込みを確認した。本土坑を埋め戻して第40号 a 住居跡が構築されているため、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 平面形は、開口部直径約1m90cm、坑底部直径約2m40cmのほぼ円形である。断面形はフラスコ状である。

〔壁・底面〕 北東壁の中位に直径8cm、深さ約1m10cmのピット確認され、本土坑に伴うものと考えられるが用途等については不明である。底面は平坦で、確認された住居跡の床面からの深さは約1m20cmである。

〔堆積土〕 堆積土は22層に分層され、第1層～第4層が重複する第40号 a 住居跡の覆土で、下層部は崩落した八戸火山灰が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～5)と石器(S1～3)が出土している。

第98号土坑 (図110)

〔位置〕 調査区中央の MQ・MR-89グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で確認された第44号竪穴住居跡を掘り下げて検出した。第44号住居跡の埋土を掘り込んで構築されていることから、本土坑が新しい。

〔形態・規模〕 確認された部分の平面形は直径約1m30cmの円形で、断面形はフラスコ状である。

〔壁・底面〕 底面は底面は平坦で、第44号住居跡の床面からの深さは約30cmであるが、住居跡の確認面からの深さは、約1mである。また、住居跡の床面と同じレベルで南側に30cmほど掘り込まれた部分がみられる。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、いずれの層にも炭化物が含まれているのが確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～13)と骨(B1)が出土している。

第99号土坑 (図110)

〔位置〕 調査区中央の MR-89・90グリッドに位置している。

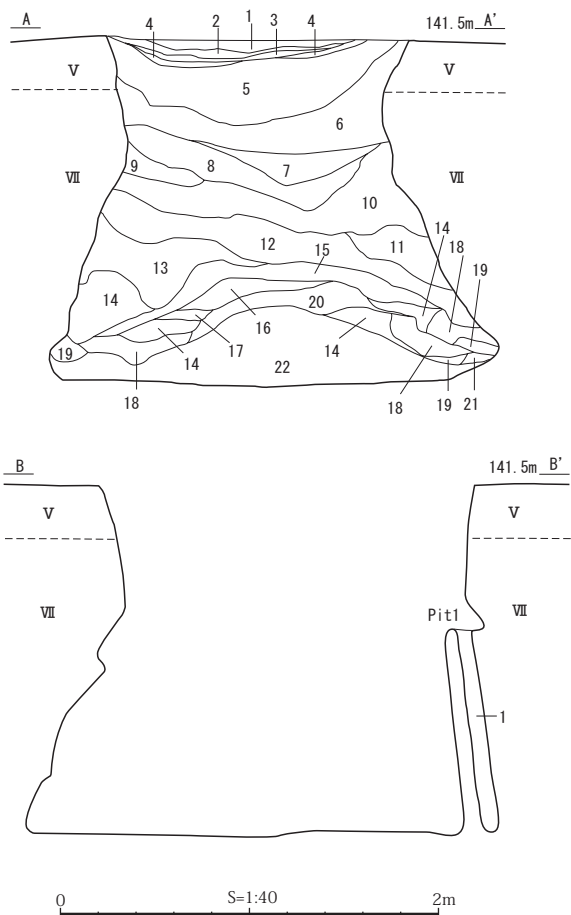
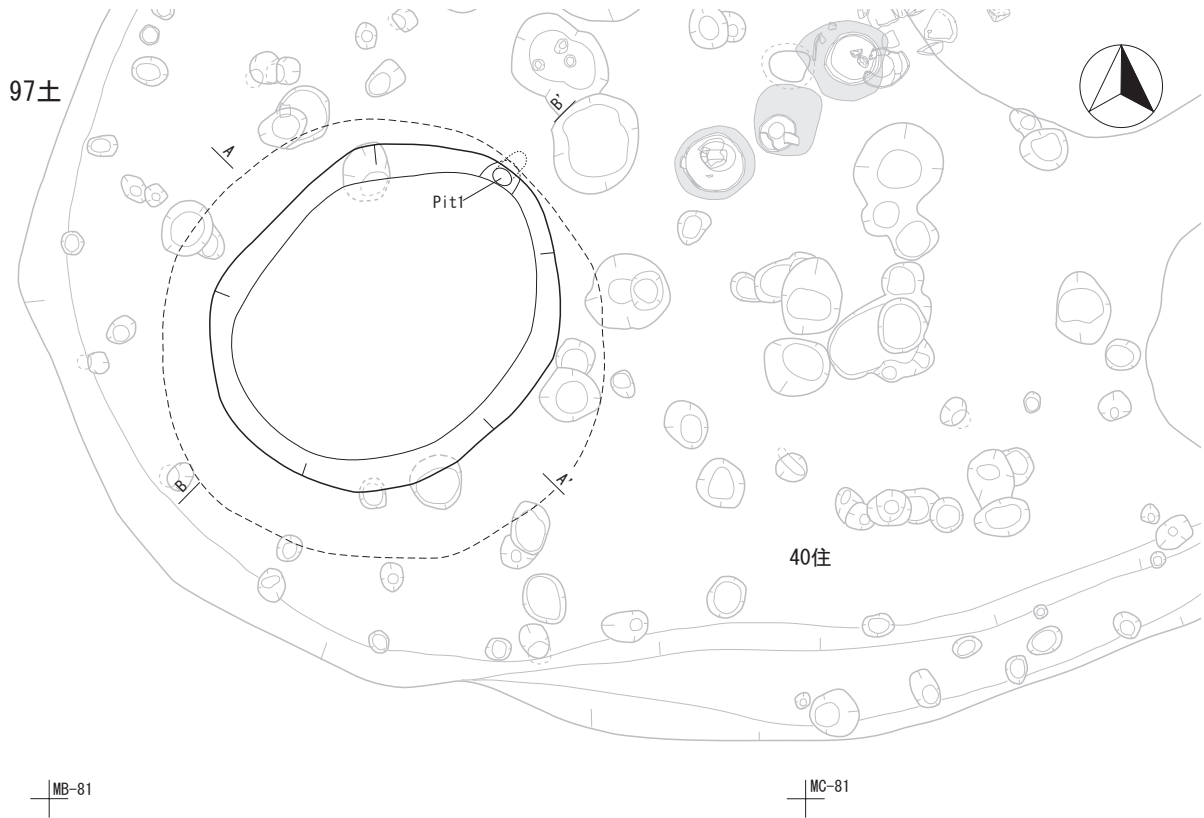
〔検出状況〕 第IV層上面で確認された第44号竪穴住居跡を掘り下げて検出した。第44号住居跡の埋土を掘り込んで構築されていることから、本土坑が新しい。

〔形態・規模〕 平面形は北側の一部が調査区域外であるが、残存部分から径約1m20cmの円形で、断面形はフラスコ状である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、第44号住居跡の床面からの深さは約30cmであるが、住居跡の確認面からの深さは約1m10cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物を含んでいる層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～3)が出土している。



第97号土坑

第1層 黒褐色土	10YR2/3	第40号住居跡内覆土
第2層 黒色土	10YR2/1	第40号住居跡覆土
第3層 黒褐色土	10YR2/2	第40号住居跡内覆土
第4層 黒色土	10YR2/1	第40号住居跡覆土
第5層 黒褐色土	10YR2/2	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物極微量
第6層 黒褐色土	10YR3/1	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
第7層 灰黄褐色土	10YR4/2	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)多量
第8層 黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量
第9層 黒色土	10YR2/1	南部浮石崩落土
第10層 黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
第11層 黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量
第12層 黒褐色土	10YR3/1	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
第13層 暗褐色土	10YR3/3	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量
第14層 褐色土	10YR4/6	八戸火山灰崩落土
第15層 黒色土	10YR2/1	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
第16層 黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
第17層 褐色土	10YR4/6	八戸火山灰崩落土
第18層 暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第19層 黄褐色土	10YR5/6	八戸火山灰崩落土(粘土質土)
第20層 黒褐色	10YR2/2	浮石(南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
第21層 にぶい黄橙土	10YR6/3	八戸火山灰崩落土(粘土質土)
第22層 暗褐色土	10YR3/3	浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量
Pit1		
第1層 黒褐色土	10YR2/3	

図109 土坑(30)

98±・99±

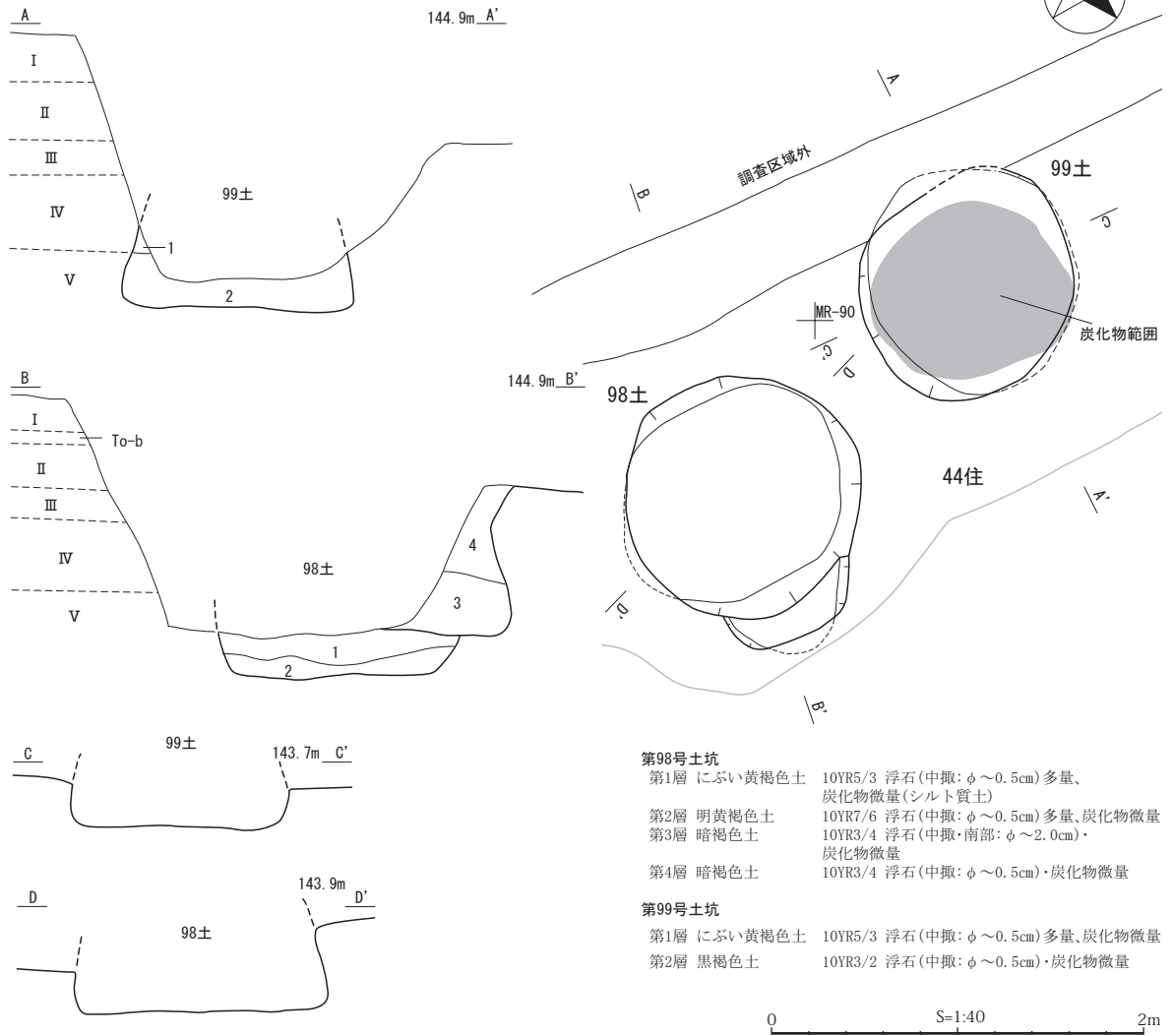


図110 土坑(31)

第100号土坑 (図111)

〔位置〕 調査区西側の MC-81・82グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第40号 c 竪穴住居跡の床面を掘り下げて落ち込みを確認した。本土坑を埋め戻して第40号 c 住居跡が構築されているため、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 平面形は、開口部直径約2m60cm、坑底部直径約2mの円形である。断面形は寸胴状だが埋土の堆積状況からフラスコ状であったと思われる。

〔壁・底面〕 底面は平坦で、確認された住居跡の床面からの深さは約2mと深く、重複する住居跡の確認面からはおよそ3m以上掘り込まれていたと考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は43層に分層され、第1層～第5層が重複する住居跡の覆土で、下層部は崩落した八戸火山灰の層が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～9)、石器(S1～4)、炭化物(M1)が出土している。

第101号土坑 (図108)

〔位置〕 調査区中央の MM-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。北側で第46号竪穴住居跡、南側で第76号土坑と重複し、本土坑がいずれの遺構よりも新しい。

〔形態・規模〕 平面形は長径約90cm、短径約60cmの卵形である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約35cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第102号土坑 (図112)

〔位置〕 調査区中央の MS-89・90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。北側で第18号 b 竪穴住居跡、東側で第36号竪穴住居跡と重複し、本土坑がいずれの遺構よりも古い。

〔形態・規模〕 重複する住居跡により削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 残存部から、底面は平坦で深さは約40cmである。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、第1層・第2層・第4層に炭化物を含んだ層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～14)と石器(S1)が出土している。

第103号土坑 (図112)

〔位置〕 調査区中央の MM・MN-87・88グリッドに位置している。

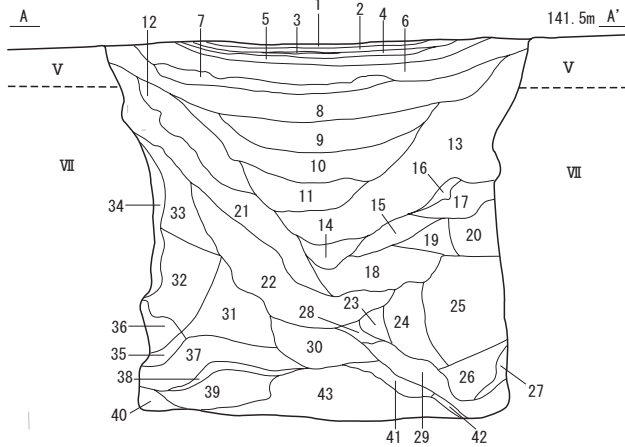
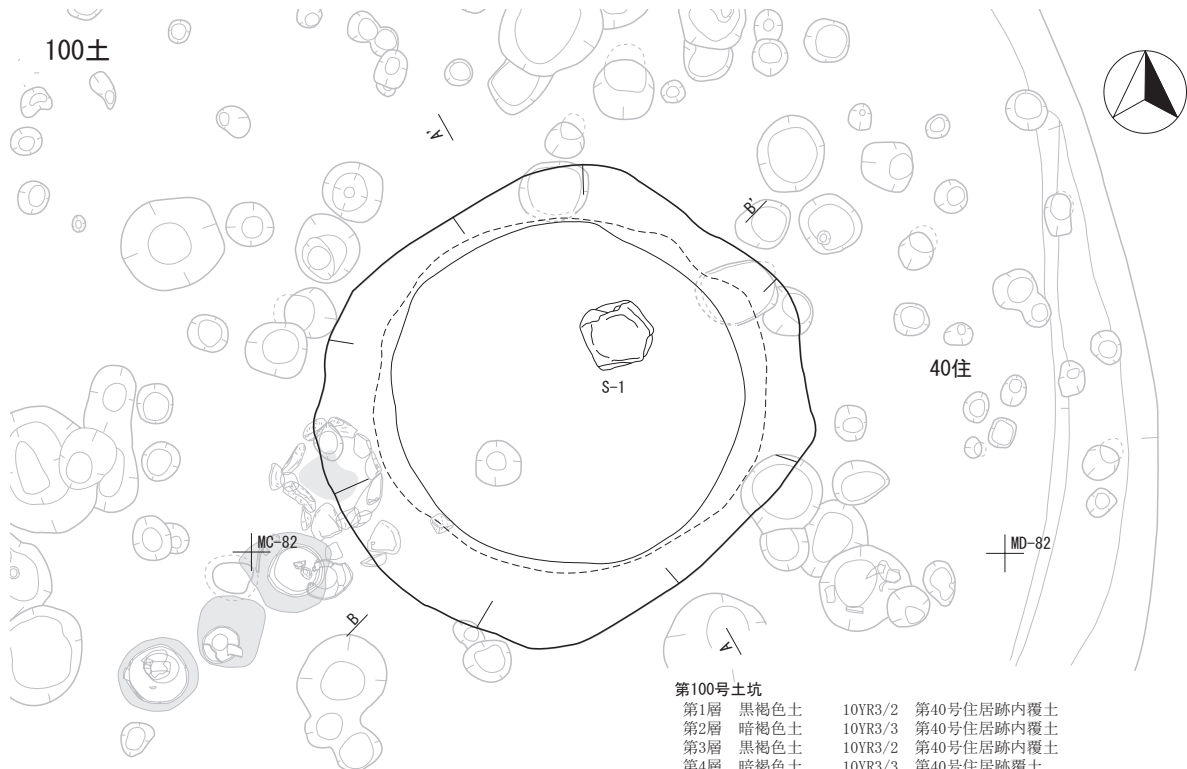
〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 平面形は直径約1mのほぼ円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏があり、深さは約20cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、第1層に炭化物を含んだ層を確認している。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～11)と石器(S1)が出土している。



第100号土坑

第1層	黒褐色土	10YR3/2	第40号住居跡内覆土
第2層	暗褐色土	10YR3/3	第40号住居跡内覆土
第3層	黒褐色土	10YR3/2	第40号住居跡内覆土
第4層	暗褐色土	10YR3/3	第40号住居跡覆土
第5層	黒色土	10YR2/1	第40号住居跡覆土
第6層	黒褐色土	10YR2/3	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第7層	灰黄褐色土	10YR4/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第8層	黒褐色土	10YR2/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第9層	灰黄褐色土	10YR4/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第10層	黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第11層	黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第12層	黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)
第13層	黒色土	10YR2/1	浮石(南部: φ~2.0cm)多量
第14層	黒色土	10YR2/1	浮石(南部: φ~2.0cm)多量
第15層	黒色土	10YR2/1	浮石(南部: φ~2.0cm)多量
第16層	黒色土	10YR2/1	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第17層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)
第18層	黒色土	10YR2/1	浮石(南部: φ~2.0cm)多量
第19層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第20層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第21層	黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量
第22層	黒色土	10YR2/1	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第23層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第24層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第25層	暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第26層	黄褐色粘質土	10YR5/6	八戸火山灰崩落土
第27層	にぶい黄橙粘質土	10YR6/3	八戸火山灰崩落土
第28層	黒色土	10YR2/1	浮石(南部: φ~2.0cm)多量
第29層	暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第30層	暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第31層	暗褐色土	10YR3/3	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第32層	暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第33層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第34層	黒色土	10YR2/1	浮石(南部: φ~2.0cm)多量
第35層	にぶい黄橙粘質土	10YR6/3	八戸火山灰崩落土
第36層	黄褐色粘質土	10YR5/6	八戸火山灰崩落土
第37層	暗褐色土	10YR3/3	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第38層	褐色土	10YR4/6	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
第39層	暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第40層	にぶい黄橙粘質土	10YR6/3	八戸火山灰崩落土
第41層	暗褐色土	10YR3/3	八戸火山灰崩落土
第42層	黄褐色粘質土	10YR5/6	八戸火山灰崩落土
第43層	黒褐色土	10YR3/2	浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)・炭化物微量

図111 土坑(32)

第104号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

第105号土坑 (図112)

[位置] 調査区西側の MG・MH-83グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。第48号堅穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

[形態・規模] 平面形は直径約1m80cmのほぼ円形であるが、。

[壁・底面] 底面は平坦で、深さは約45cmであるが、土層断面図では開口部が狭まるフラスコ状で、第III層から掘り込まれ深さは約80cmである。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、第1層・第2層は炭化物を含んでいる層が確認されている。

[出土遺物] 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第106号土坑 (図112)

[位置] 調査区中央の MK・ML-86・87グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。南東側で第11号堅穴住居跡と重複し、本土坑が堅穴住居跡よりも古い。

[形態・規模] 南東側は堅穴住居跡によって削平されているため平面形および規模は不明である。

[壁・底面] 残存部から底面は平坦で、深さは約15cmである。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1～7)と石器(S1)が出土している。

第107号土坑 (図113)

[位置] 調査区中央の MP-87・88グリッドに位置している。

[検出状況] 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第110号土坑と重複し、本土坑が新しい。

[形態・規模] 平面形は南北約1m70cm、東西約1m80cmの不整形である。

[壁・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦で深さが約65cmである。

[堆積土] 堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 覆土から土器の破片(P1)が出土している。

第108号土坑→土坑から柱穴(ピット群C)に変更したため欠番

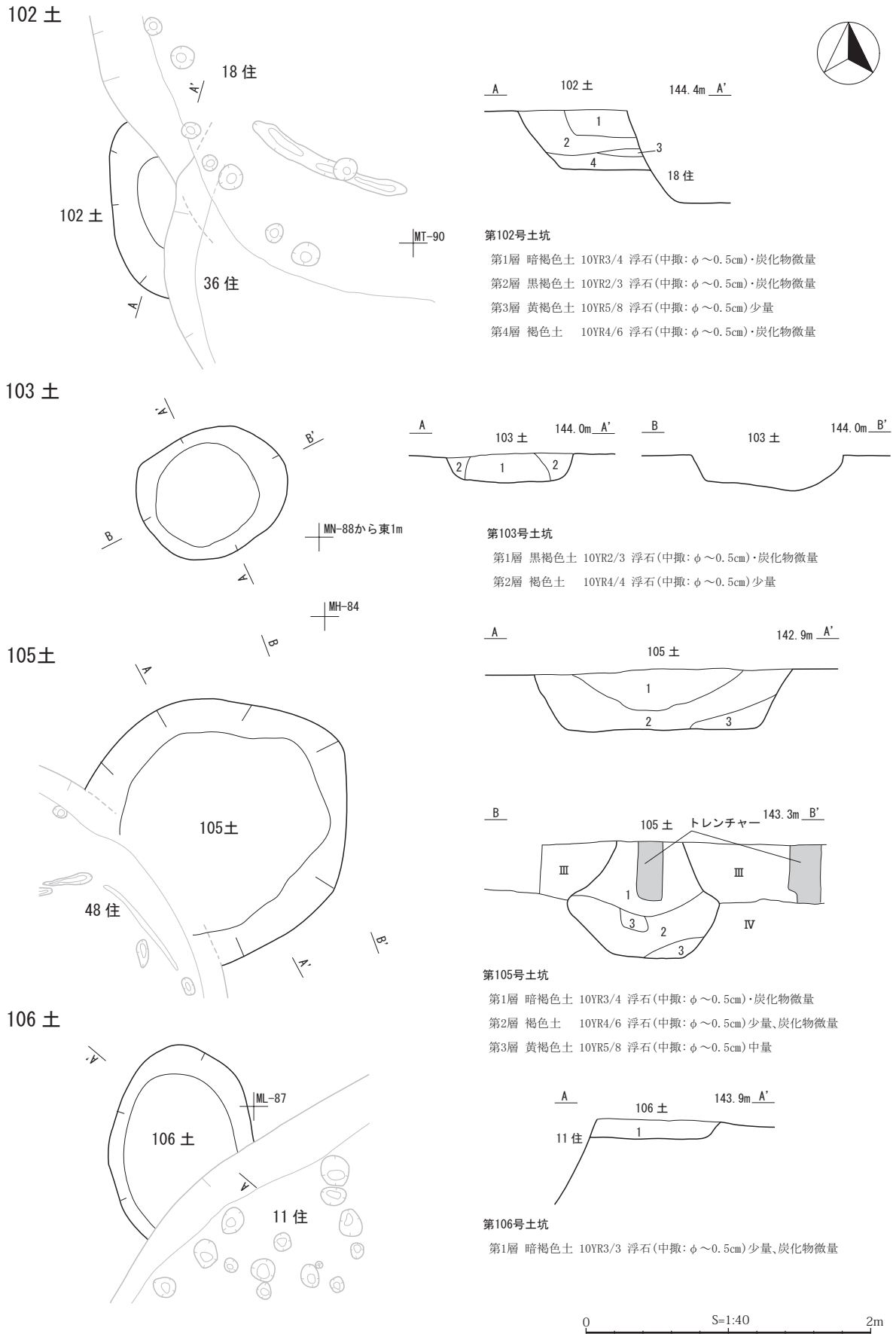


図112 土坑 (33)

第109号土坑 (図113)

〔位置〕 調査区西側の MG・MH-82・83グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第48号竪穴住居跡と重複し、本土坑が住居跡よりも新しい。

〔形態・規模〕 南東側が調査区域外で、西側が重複する住居跡に削平されているため、平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 底面はすり鉢状で、壁は中央から緩やかに立ち上がり、深さは約60cmである。

〔堆積土〕 堆積土は2層に分層され、いずれも炭化物を含んだ層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～3)と石器(S1・2)が出土している。

第110号土坑 (図113)

〔位置〕 調査区中央の MO・MP-88グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。南側で第42号竪穴住居跡、東側で第107号土坑と重複し、本土坑が第42号住居跡よりも新しく、第107号土坑よりも古い。

〔形態・規模〕 平面形は長径約1m65cm、短径約1m20cmの楕円形である。

〔壁・底面〕 底面はやや起伏がみられ、深さは約25cmである。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、第3層以外はいずれも炭化物を含んだ層が確認されている。

〔出土遺物〕 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第111号土坑 (図114)

〔位置〕 調査区中央の NA-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で焼土範囲(80×70cm)を検出し第1号焼土遺構として精査したが、掘り下げた結果、土坑の上部に堆積してある焼土と分かったため土坑に変更した。北側で第36号土坑と重複し、本土坑が古い。

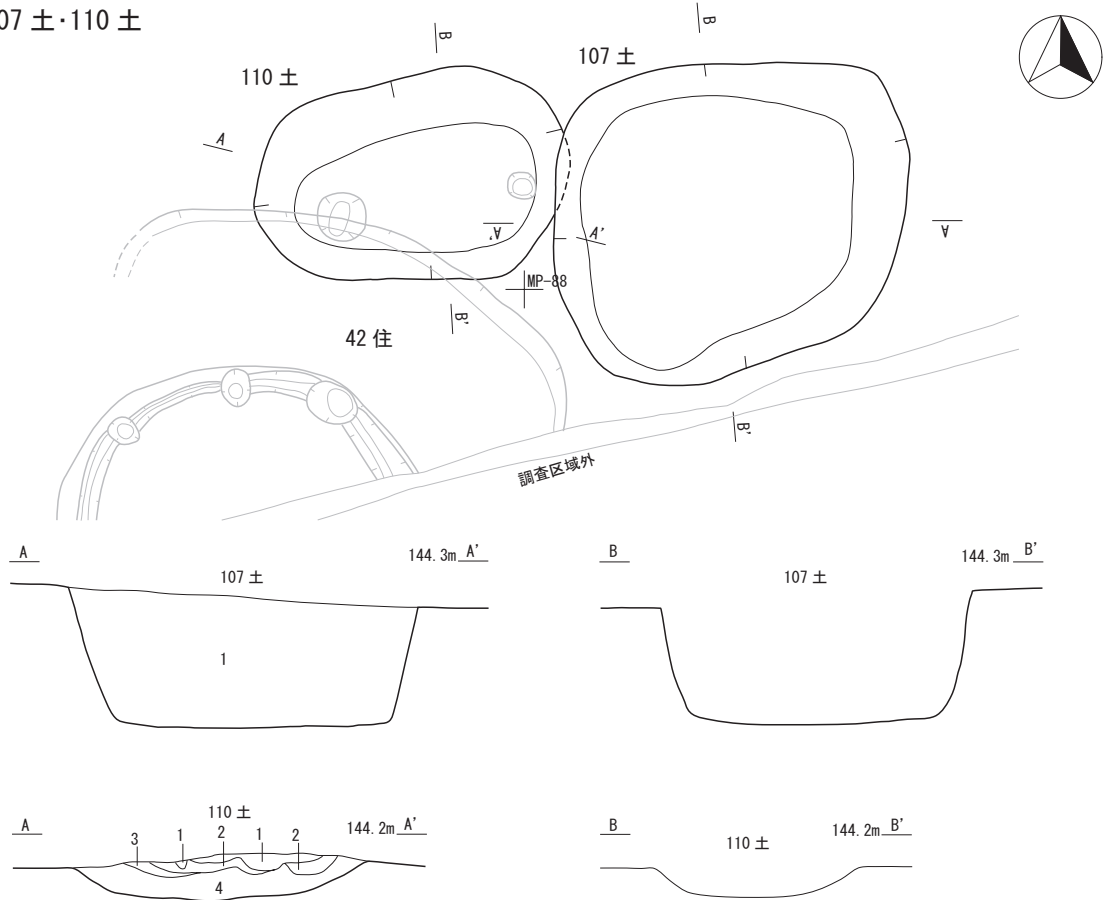
〔形態・規模〕 平面形は開口部直径1m60cm、坑底部直径約1m70cmのほぼ円形である。断面形は明確ではないが堆積土からフラスコ状であったと思われる。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは約90cmである。

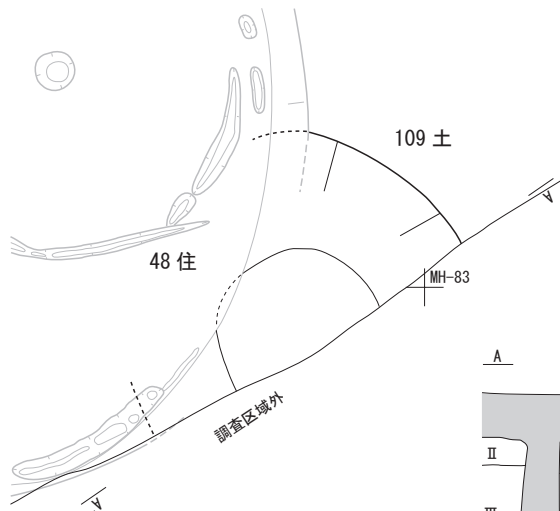
〔堆積土〕 堆積土は31層に分層され、上層には炭化物や焼土粒などを含んだ黒褐色土の層が人為的に埋め戻され、中層から下層にかけて崩落したと思われる中振浮石や南部浮石の層が堆積している。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～117)、石器(S1～15)、剥片(HS1～16)が出土している。

107 土・110 土



109 土



第107号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第110号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4
浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量(粘土質土)
第3層 黄褐色土 10YR5/6
浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)多量
第4層 褐色土 10YR4/6
浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)多量、炭化物微量

第109号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
第2層 褐色土 10YR4/4 浮石(中敷: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

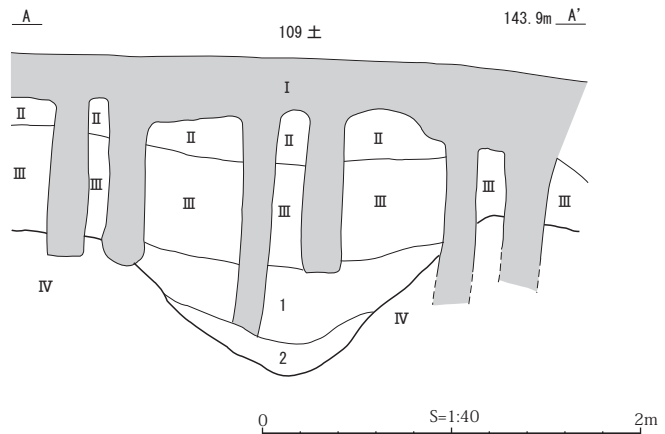
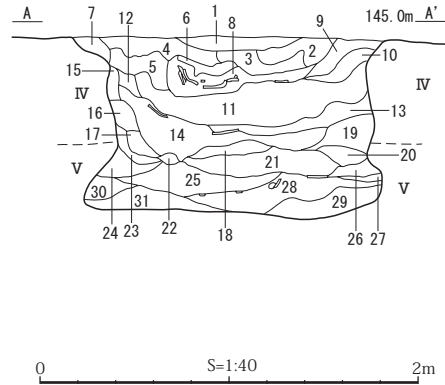
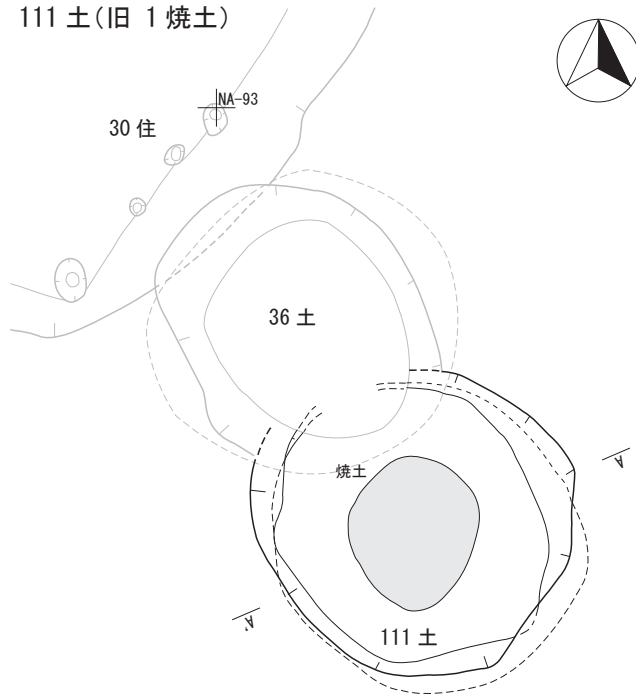


図113 土坑 (34)

111 土(旧 1 焼土)



第111号土坑

- | | | | |
|------|--------|----------|---------------------------|
| 第1層 | 赤褐色土 | 5YR4/6 | 焼土層 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物・焼土粒微量 |
| 第3層 | 暗赤褐色土 | 5YR3/4 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 浮石(中撒: φ~1.0cm)微量、焼土粒少量 |
| 第5層 | 極暗褐色土 | 7.5YR2/3 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)微量 |
| 第6層 | 極暗赤褐色土 | 5YR2/4 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)微量 |
| 第7層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)多量 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | |
| 第9層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | |
| 第10層 | 黒色土 | 10YR2/1 | |
| 第11層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物少量・遺物多量 |
| 第12層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 灰(灰黄褐色10YR4/2)多量 |
| 第13層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | |
| 第14層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)・焼土粒・炭化物微量 |
| 第15層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)少量 |

- | | | | |
|------|--------|---------|--|
| 第16層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)少量 |
| 第17層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)・焼土粒少量 |
| 第18層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~2.0cm)微量
焼土粒中量 |
| 第19層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 中撒浮石崩落土 |
| 第20層 | 極暗赤褐色土 | 5YR2/3 | |
| 第21層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物・焼土粒微量 |
| 第22層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物・焼土粒多量、灰(10YR6/4)少量 |
| 第23層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 中撒浮石崩落土 |
| 第24層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 中撒浮石崩落土 |
| 第25層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)少量 |
| 第26層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 浮石(中撒: φ~0.5cm・南部: φ~0.2cm)微量 |
| 第27層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 浮石(中撒: φ~0.5cm)中量 |
| 第28層 | 黒色土 | 10YR2/1 | |
| 第29層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 中撒浮石崩落土 |
| 第30層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 南部浮石崩落土 |
| 第31層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 中撒浮石崩落土 |



図114 土坑(35)

第112号土坑 (図115)

〔位置〕 調査区東側のND・NE-93・94グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認し、当初第22号竪穴住居跡として精査したが、硬化面(貼り床?)を取り除いた後、人為的に埋め戻された中振浮石の層が堆積していることが分かり土坑に変更した。

〔形態・規模〕 平面形は径約2m20cmのほぼ円形で、南東部に楕円形のピット(深さ20cm)が付け足されている。

〔壁・底面〕 底面は平坦で、深さは約20cmである。断面はフラスコ状で、深さは約1m40cmである。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層され、第1層に炭化物が含まれている。

〔出土遺物〕 縦に埋設された土器(P1)と土器の破片(P2～43)が出土している。

第113号土坑 (図116)

〔位置〕 調査区中央のMM-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第46号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 重複する住居跡に削平されているため平面形および規模は不明である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約17cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第114号土坑 (図116)

〔位置〕 調査区中央のMM-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。西側で第76号土坑と重複し、本土坑が古い。

〔形態・規模〕 重複する土坑によって削平されているため平面形はおよび規模は不明である。

〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約22cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 本土坑に伴うと思われる遺物は出土していない。

第115号土坑 (図116)

〔位置〕 調査区中央のMM-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第IV層上面で落ち込みを確認した。南側で第11号竪穴住居跡、北側で第46号竪穴住居跡、東側で第76号土坑と重複し、本土坑がいずれの遺構よりも古い。

〔形態・規模〕 重複する遺構によって削平されているため平面形はおよび規模は不明である。

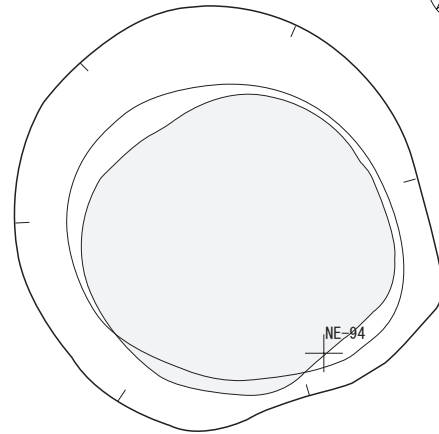
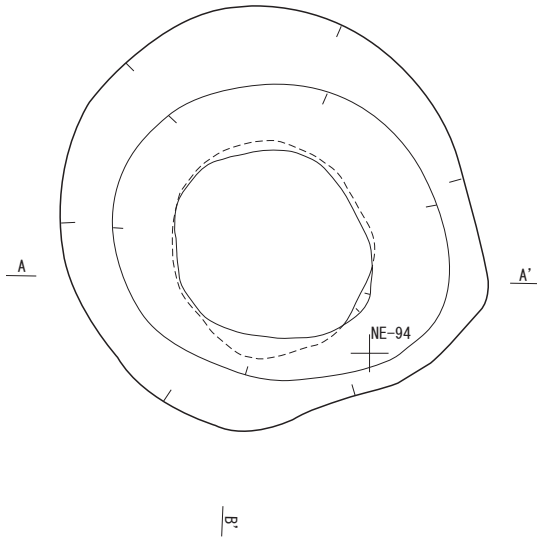
〔壁・底面〕 底面はほぼ平坦で、深さは約19cmである。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 覆土から土器の破片(P1～5)が出土している。

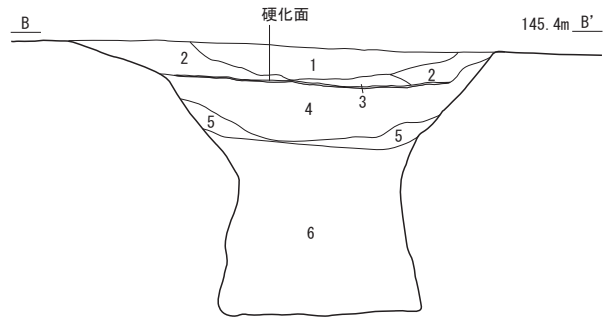
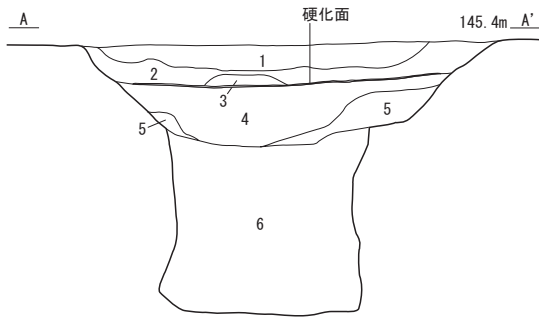
112土(旧22住)

硬化面



第112号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 褐色土 10YR4/6 浮石(中撒: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)少量
- 第3層 明黄褐色土 10YR6/8 中撒浮石層($\phi \sim 0.5\text{cm}$)
- 第4層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 浮石(中撒・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)微量(粘土質: 貼床?)
- 第5層 にぶい黄橙色土 10YR6/3 浮石(中撒: $\phi \sim 1.0\text{cm}$)多量
- 第6層 明横褐色土 2.5Y7/6 中撒浮石層



0 S=1:40 2m

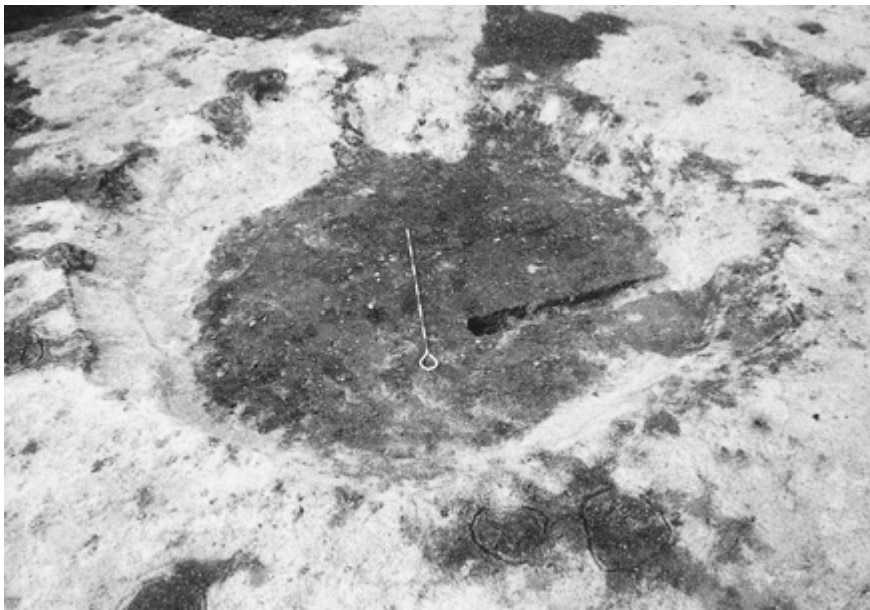


图115 土坑(36)

113土・114土・115土

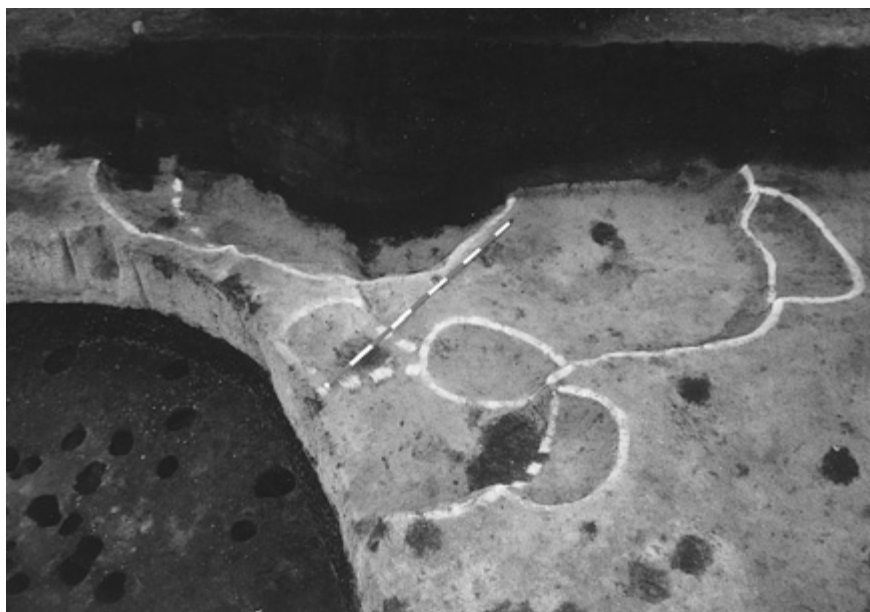
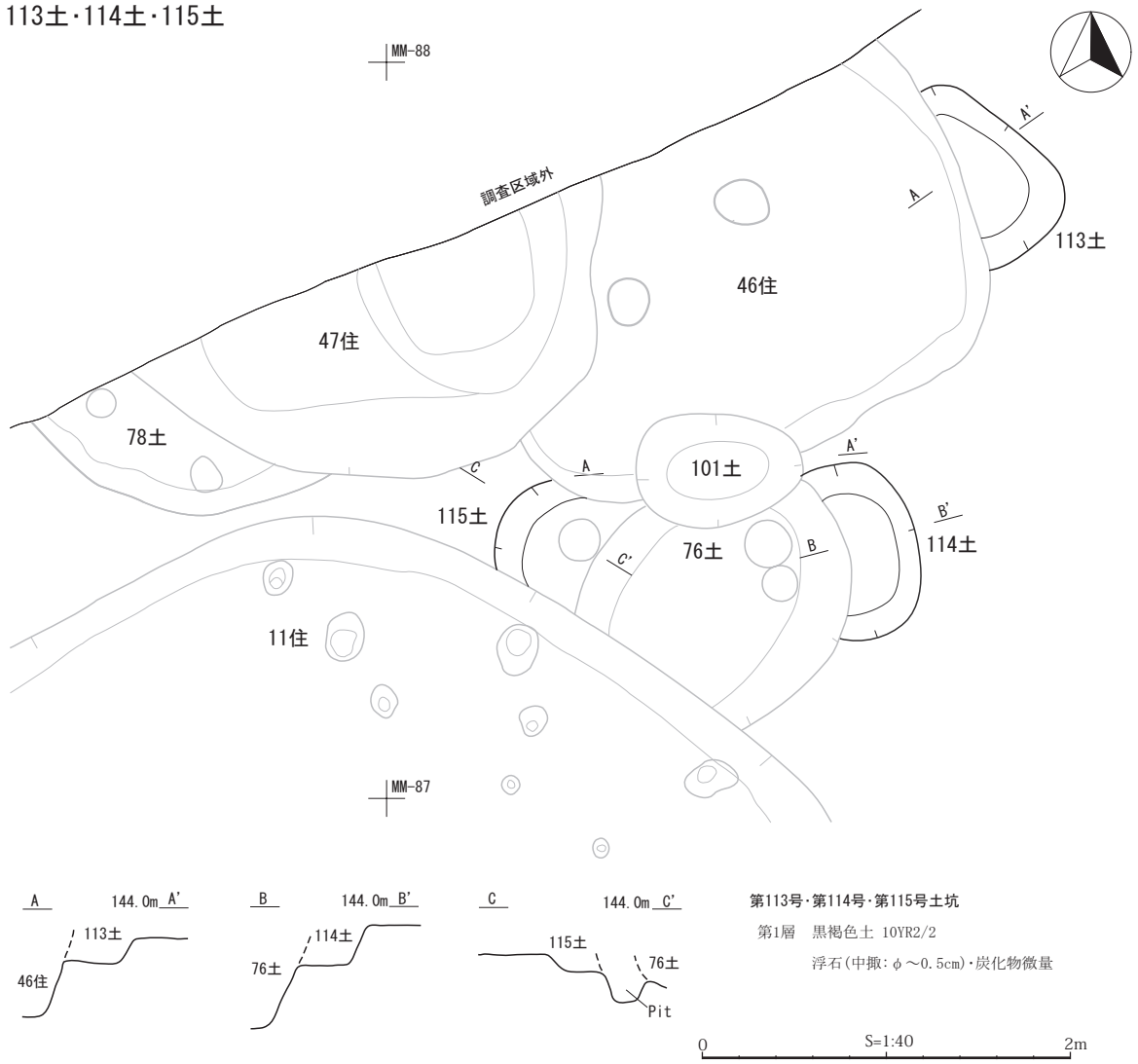
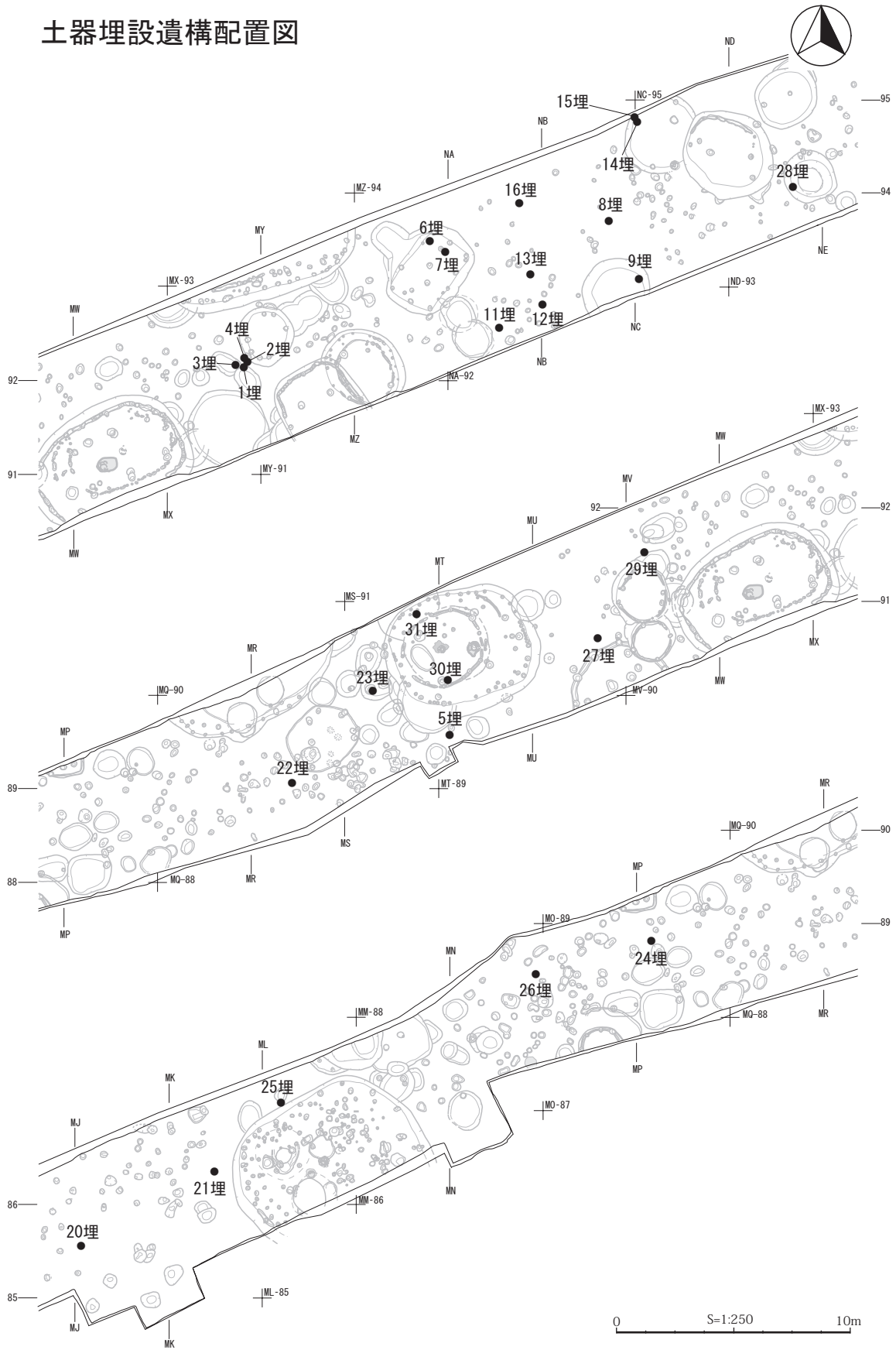


図116 土坑(37)

土器埋設遺構配置図



3 土器埋設遺構

土器埋設遺構は調査区の捨て場(遺物包含層)を中心に26基検出されている。

第1号土器埋設遺構(図117)

[位置] 調査区中央部のMX-92グリッドに位置している。

[検出状況] 遺物包含層中の第Ⅲ層中位面で検出した。

[埋設状況・掘り方] 深鉢土器の胴部から口縁部を倒立させた状態で埋設している。掘り方は不明瞭で確認できなかった。

[埋土] 土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 土器内から被熱を受けた碟が出土している。

第2号土器埋設遺構(図117)

[位置] 調査区中央部のMX-92グリッドに位置している。

[検出状況] 遺物包含層中の第Ⅲ層中位面で検出した。

[埋設状況・掘り方] 深鉢土器の底部から口縁部を倒立させた状態で埋設している。掘り方は不明瞭で確認できなかった。

[埋土] 土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第3号土器埋設遺構(図117)

[位置] 調査区中央部のMX-92グリッドに位置している。

[検出状況] 遺物包含層中の第Ⅲ層中位面で検出した。

[埋設状況・掘り方] 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は不明瞭で確認できなかった。

[埋土] 土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第4号土器埋設遺構(図117)

[位置] 調査区中央部のMX-92グリッドに位置している。

[検出状況] 遺物包含層中の第Ⅲ層中位面で検出した。

[埋設状況・掘り方] 深鉢土器の口縁部から胴部を正立させた状態で埋設している。掘り方は不明瞭で確認できなかった。

[埋土] 土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物] 土器内から剥片石器と石製品が出土している。

1土器埋設・2土器埋設・3土器埋設・4土器埋設

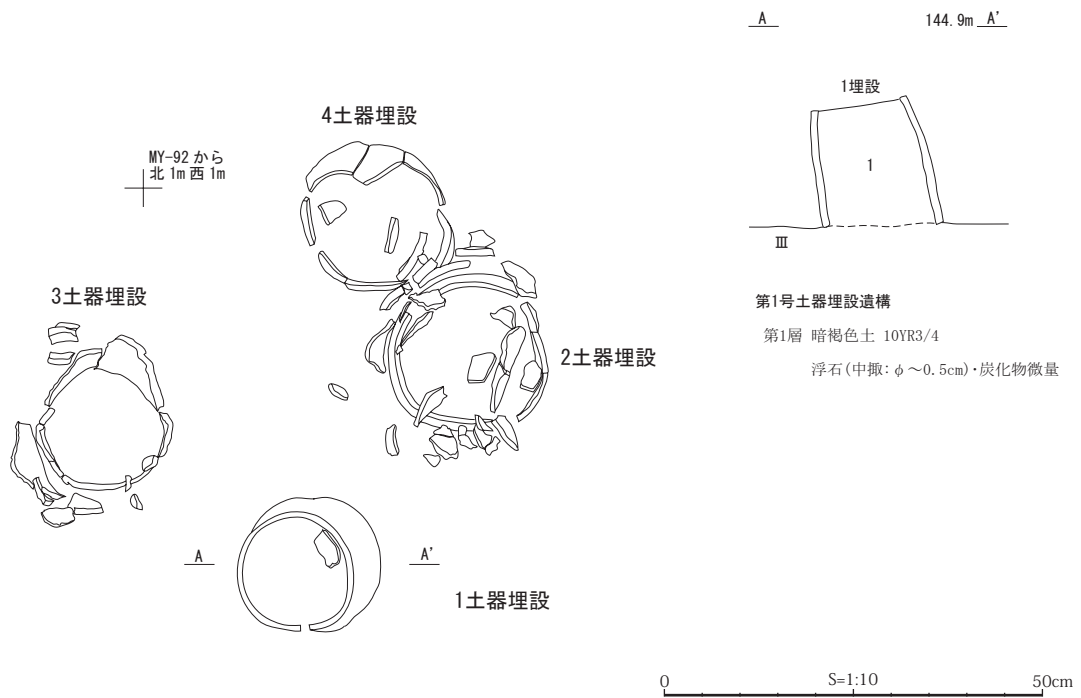


図117 土器埋設(1)

第5号土器埋設遺構（図118）

〔位置〕 調査区中央部の MT-89グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約25cmの円形で、確認できた深さは5cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第6号土器埋設遺構（図119）

〔位置〕 調査区中央部の MZ-93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約30cmのほぼ円形で、深さは確認面から約25cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第7号土器埋設遺構（図120）

〔位置〕 調査区中央部の MZ-93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から口縁部を倒立させた状態で埋設している。掘り方は直径約30cmのほぼ円形で、深さは約25cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第8号土器埋設遺構（図121）

〔位置〕 調査区中央部の NB-93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約30cmのほぼ円形で、深さは約20cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から同一個体の口縁部破片が出土している。

5 土器埋設

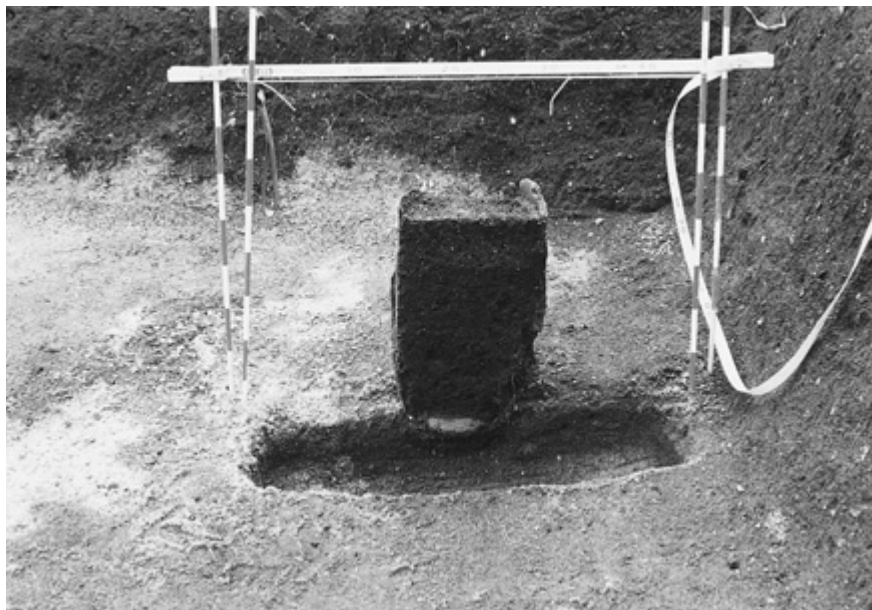
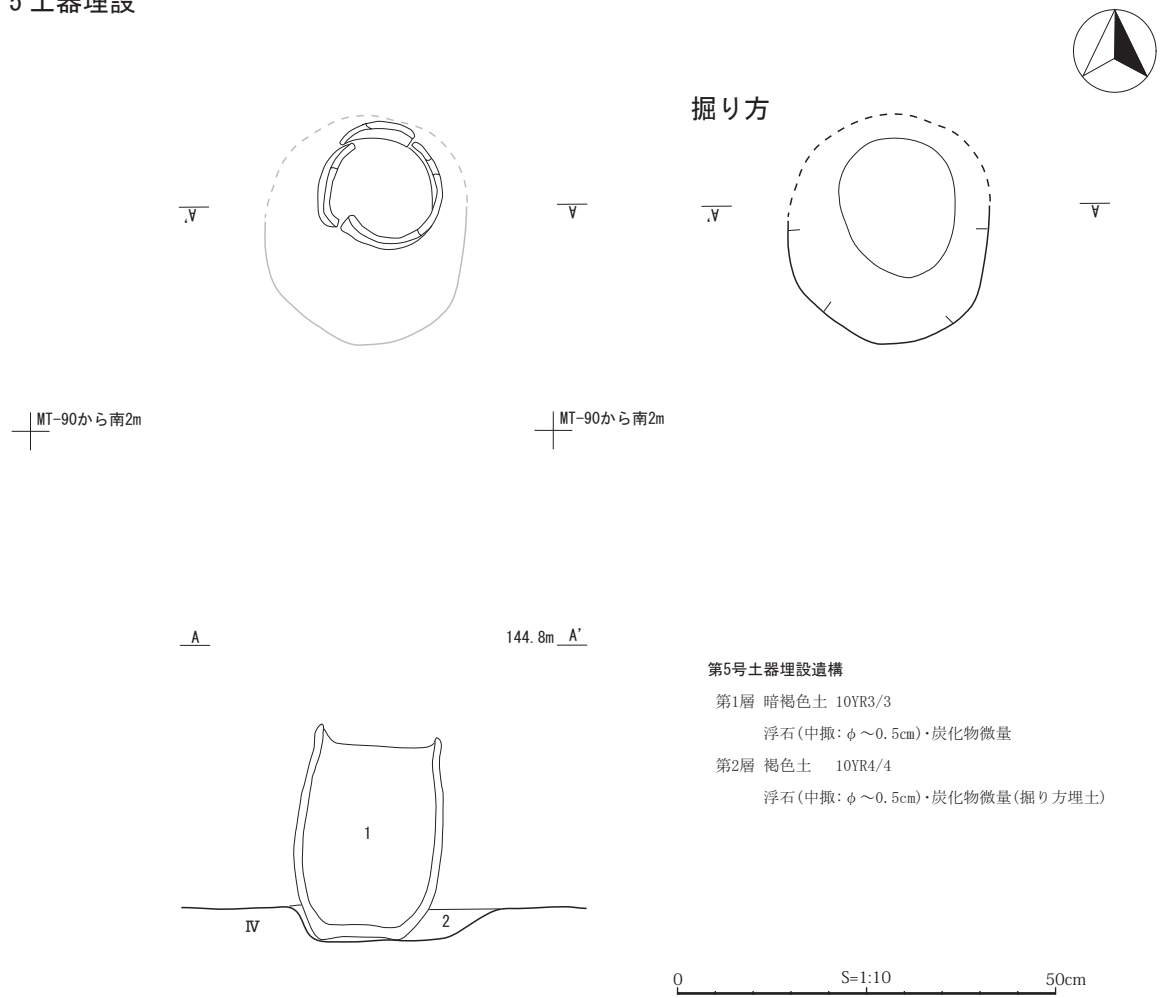


図118 土器埋設(2)

6 土器埋設

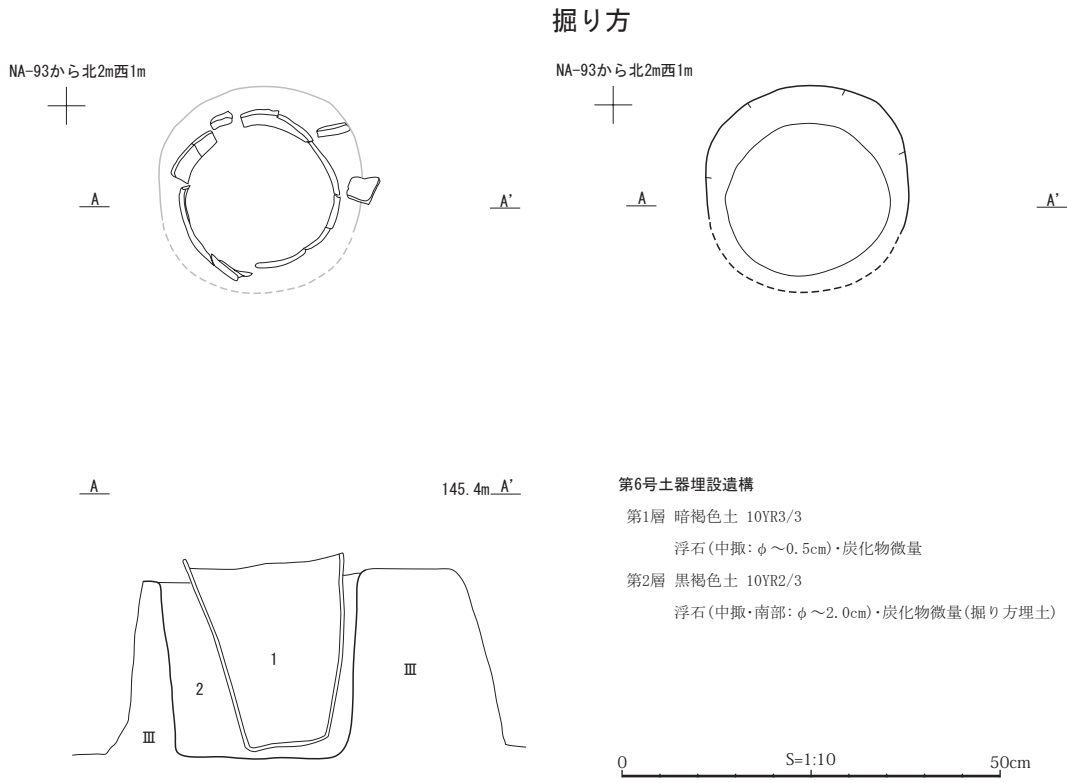


図119 土器埋設(3)

7 土器埋設

NA-93から北2m

NA-93から北2m



掘り方

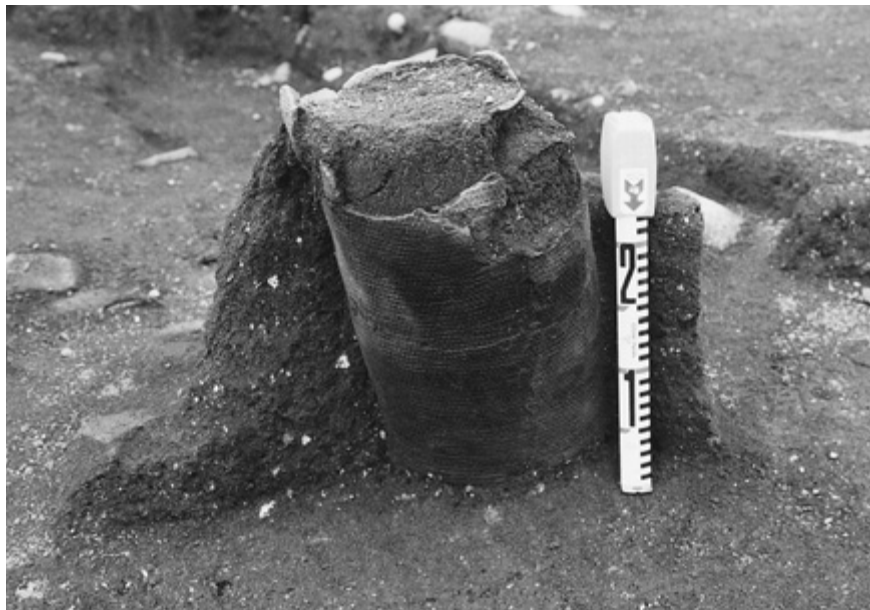
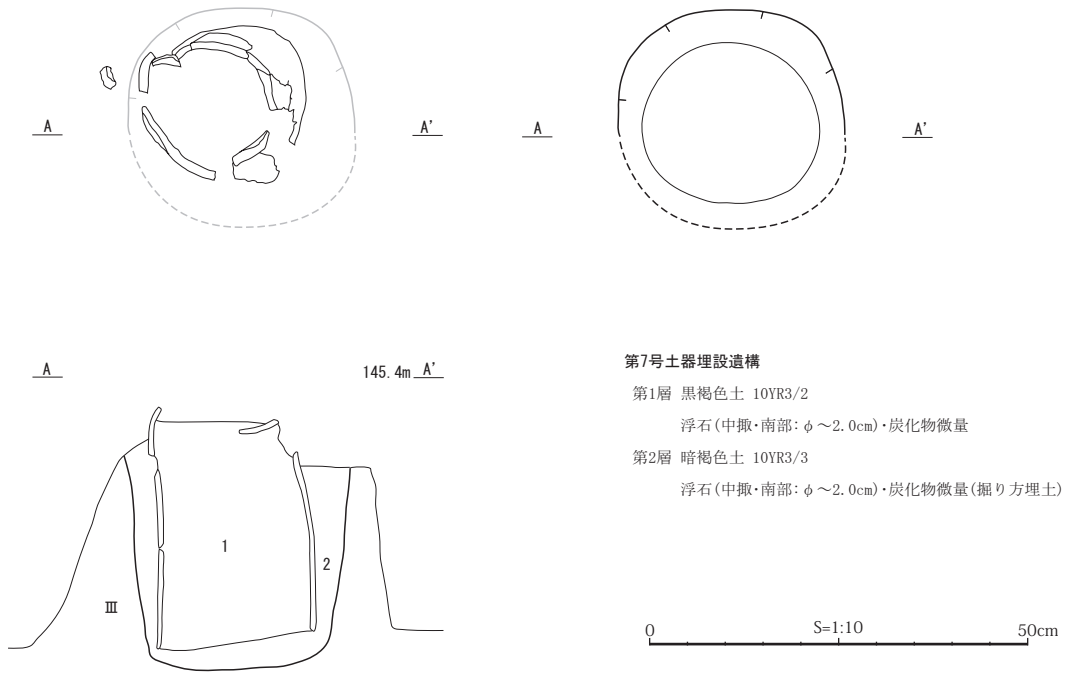
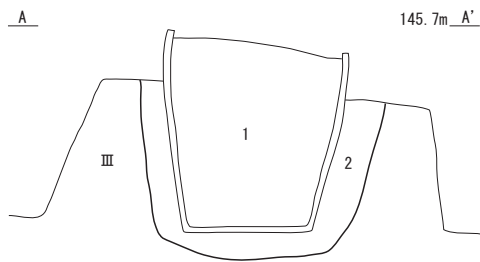
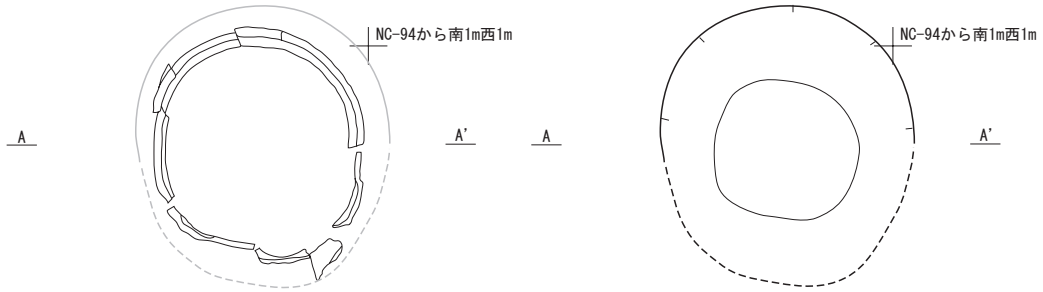


図120 土器埋設(4)

8 土器埋設



掘り方



第8号土器埋設遺構

第1層 暗褐色土 10YR3/3

浮石(中振・南部φ~1.0cm)・炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/3

浮石(中振・南部φ~1.0cm)・炭化物微量(掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm



図121 土器埋設(5)

第9号土器埋設遺構（図122）

〔位置〕 調査区中央部の NC-93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約30cmのほぼ円形で、確認できた深さは約5cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第10号土器埋設遺構→欠番

第11号土器埋設遺構（図123）

〔位置〕 調査区中央部の NA-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約45cmのほぼ円形で、深さは約35cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は褐色土から暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から小礫が1点出土している。

第12号土器埋設遺構（図124）

〔位置〕 調査区中央部の NB-92グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約30cmのほぼ円形で、深さは約15cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第13号土器埋設遺構（図125）

〔位置〕 調査区中央部の NA-93グリッドに位置している。

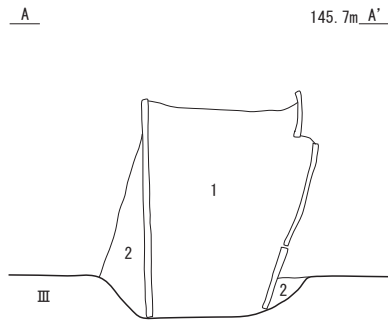
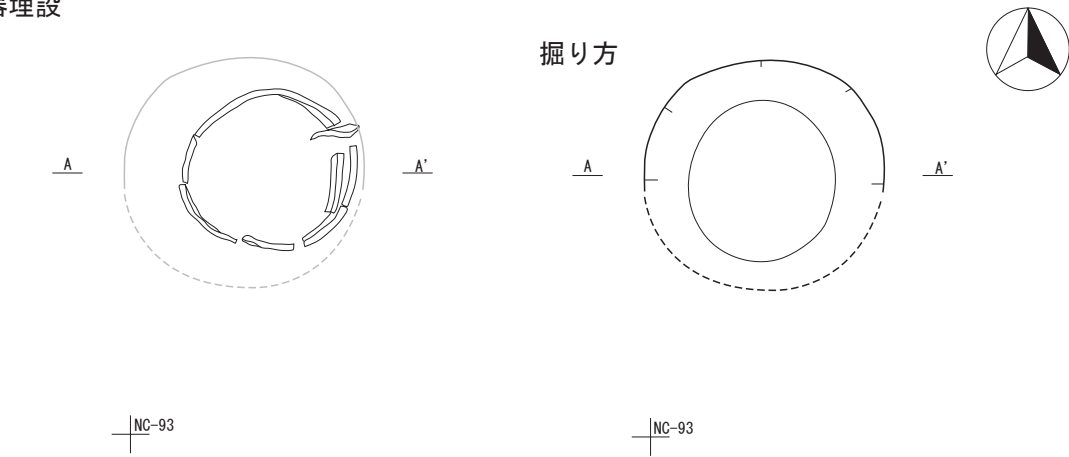
〔検出状況〕 第Ⅲ層下位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約20cmの円形で、確認面からの深さは5cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

9 土器埋設



第9号土器埋設遺構

第1層 褐色土 10VR3/4

浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量・炭化物微量

第2層 暗褐色土 10VR3/3

浮石(中礫・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$)・炭化物微量(掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm



図122 土器埋設(6)

11 土器埋設

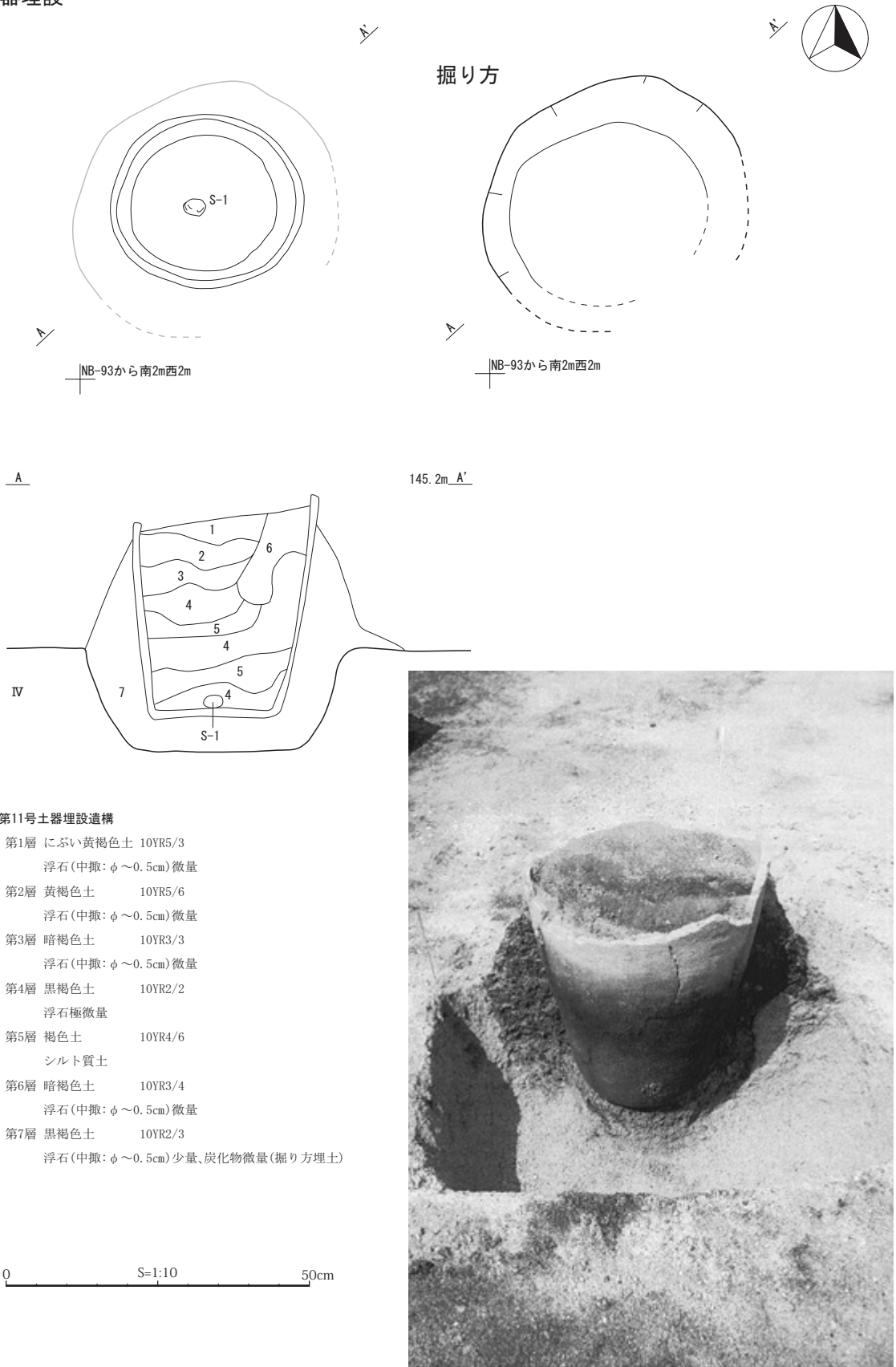
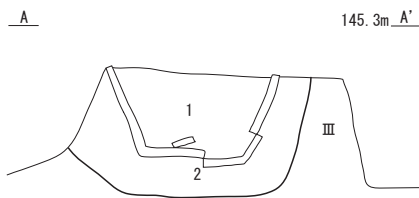
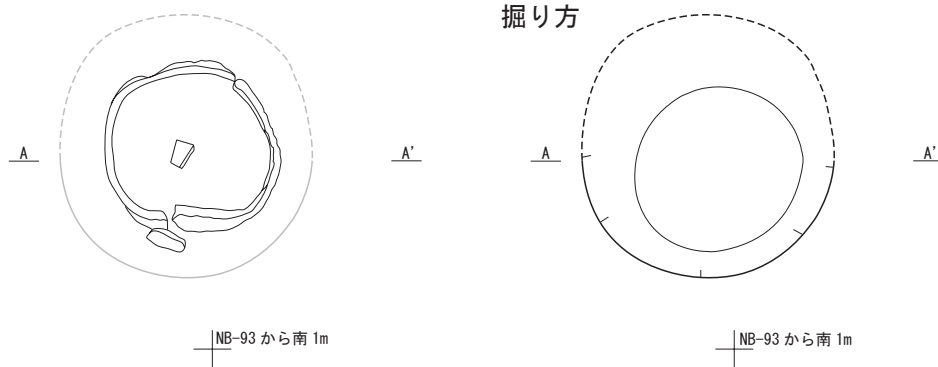


図123 土器埋設(7)

12 土器埋設



第12号土器埋設遺構

第1層 暗褐色土 10YR3/3

浮石（中振：φ～0.5cm）・炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/3

浮石（中振：φ～0.5cm）・炭化物微量（掘り方埋土）

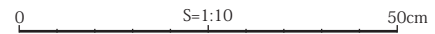
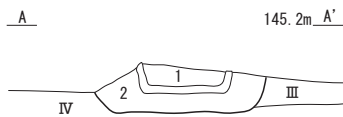
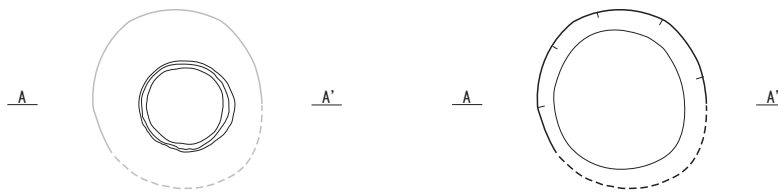


図124 土器埋設(8)

13 土器埋設



NB-93

NB-93

第13号土器埋設遺構

第1層 褐色土 10YR4/4

浮石 (中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 暗褐色土 10YR3/3

浮石 (中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量 (掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm



図125 土器埋設(9)

第14号土器埋設遺構（図126）

〔位置〕 調査区中央部のNC-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。第15号土器埋設遺構と重複し、本土器埋設が新しい。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約20cmのほぼ円形で、深さは約10cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第15号土器埋設遺構（図126）

〔位置〕 調査区中央部のNC-94グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。第14号土器埋設遺構と重複し、本土器埋設が古い。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約20cmのほぼ円形で、深さは約10cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第16号土器埋設遺構（図127）

〔位置〕 調査区中央部のNA-93グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約45cmのほぼ円形で、深さは約45cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は黒褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第17号～第19号土器埋設遺構→欠番

第20号土器埋設遺構（図128）

〔位置〕 調査区中央部のMJ-85グリッドに位置している。

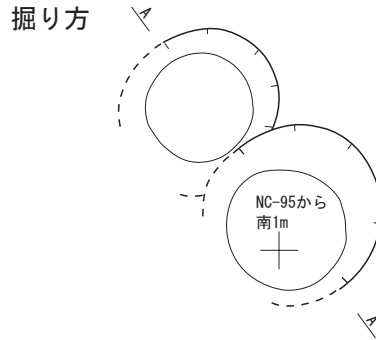
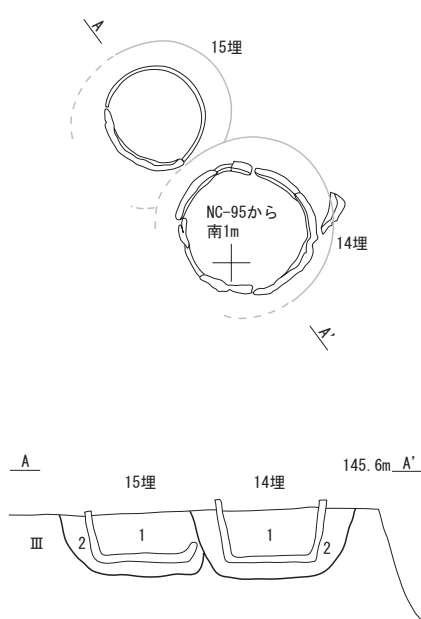
〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部を倒立させた状態で埋設している。掘り方は直径約25cmのほぼ円形で、確認面からの深さは約5cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から石匙と円礫が出土している。

14 土器埋設・15 土器埋設



第14号土器埋設遺構

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3
浮石（中礫：φ～0.5cm）・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3
浮石（中礫：φ～0.5cm）・炭化物微量（掘り方埋土）

第15号土器埋設遺構

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石（中礫：φ～0.5cm）・炭化物微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2
浮石（中礫：φ～0.5cm）・炭化物微量（掘り方埋土）

0 S=1:10 50cm



図126 土器埋設(10)

16 土器埋設

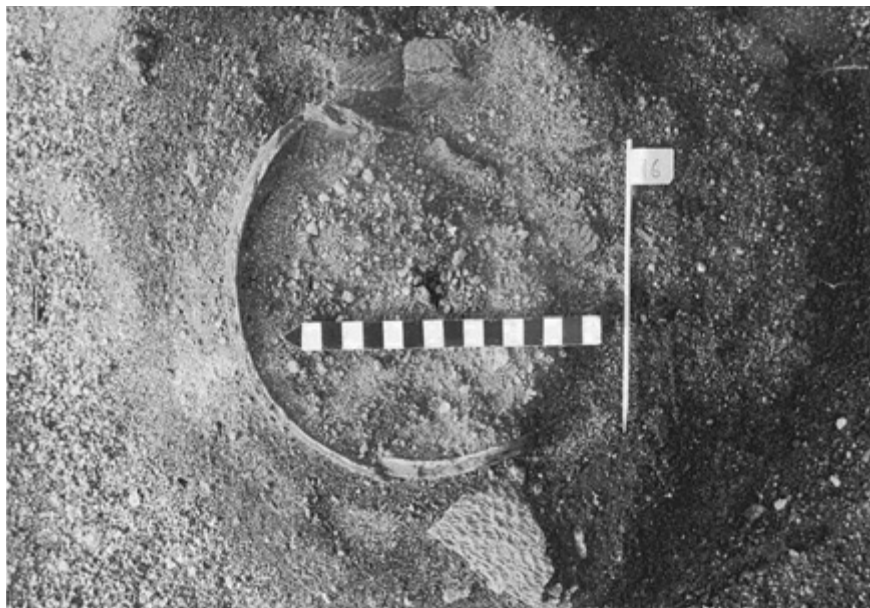
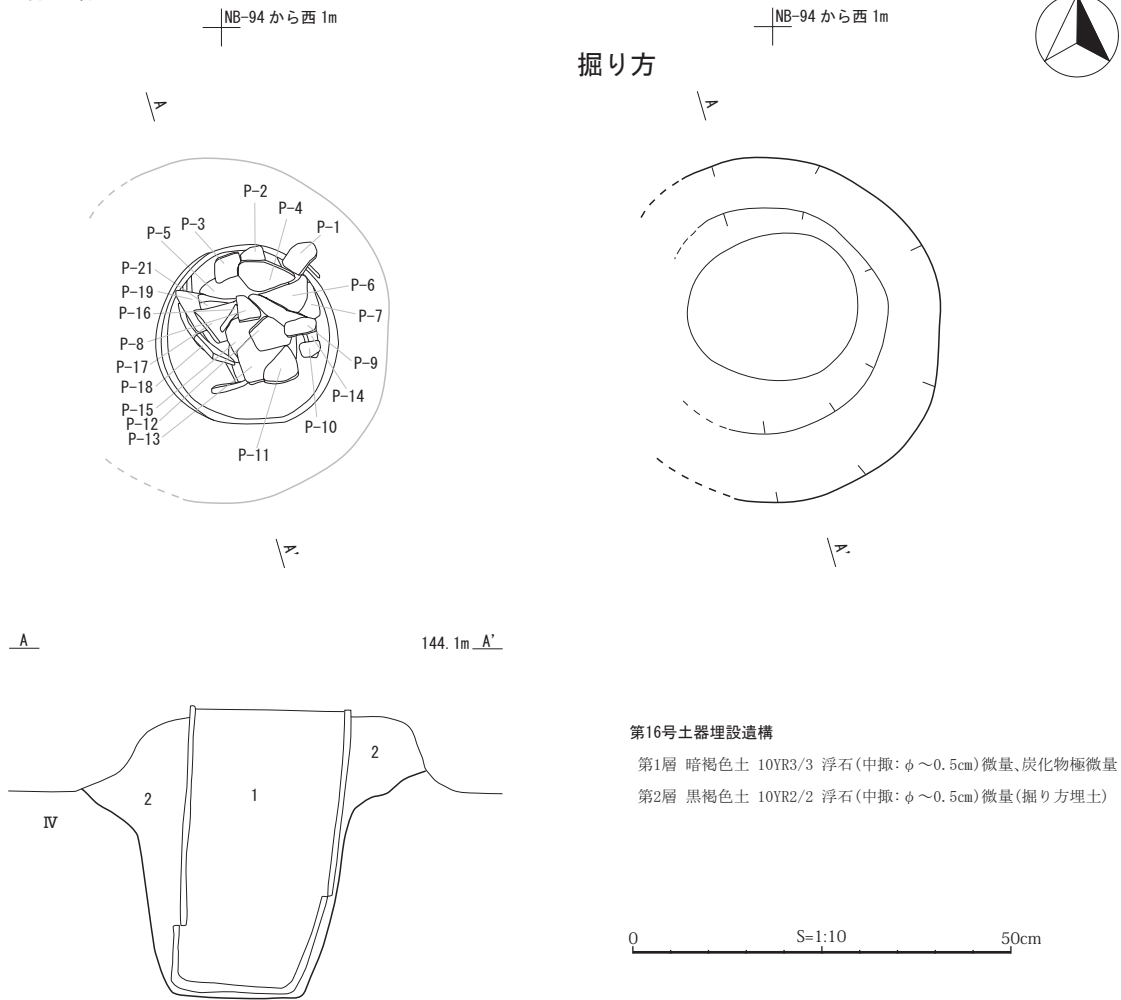
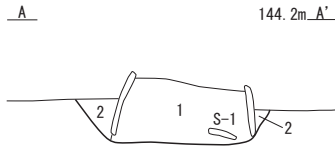
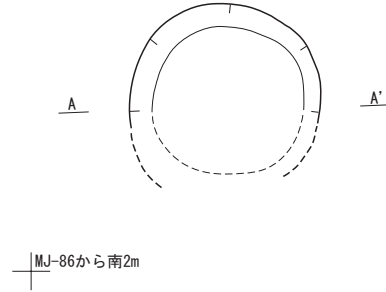
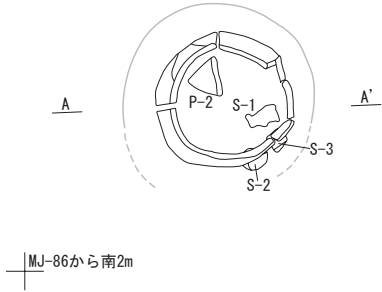


図127 土器埋設(11)

20 土器埋設



掘り方



第20号土器埋設遺構

第1層 暗褐色土 10YR3/3

浮石（中振：φ～0.5cm）・炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/2

浮石（中振：φ～1.0cm）・炭化物微量（掘り方埋土）

0 S=1:10 50cm

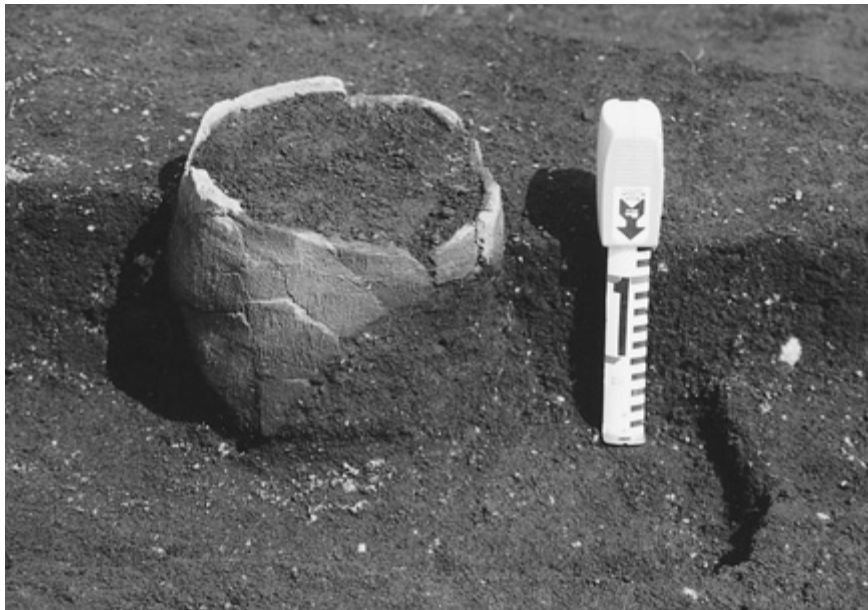


図128 土器埋設(12)

第21号土器埋設遺構（図129）

〔位置〕 調査区中央部の MK-86グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の口縁部から底部を正立の状態に埋設している。掘り方は直径約65cmのほぼ円形で、深さは約30cm、底面はほぼ平坦である。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は暗褐色土に炭化物を含む層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第22号土器埋設遺構（図130）

〔位置〕 調査区中央部の MR-89グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層下層面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の底部を正立させた状態に埋設している。掘り方は直径約30cmのほぼ円形で、深さは約10cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土と土器内部充填土はいずれも炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第23号土器埋設遺構（図131）

〔位置〕 調査区中央部の MS-90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の口縁部から底部を正立させた状態に埋設している。掘り方は直径約60cmのほぼ円形で、深さは約40cm、底面は若干窪んでいる。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ褐色土、土器内部充填土は暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から剥片が出土している。

第24号土器埋設遺構（図132）

〔位置〕 調査区中央部の MP-88グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の口縁部から底部を正立させた状態に埋設している。掘り方は直径約40cmのほぼ円形で、深さは約20cm、底面はほぼ平坦である。

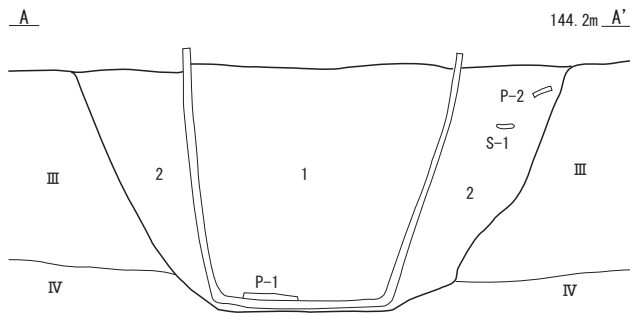
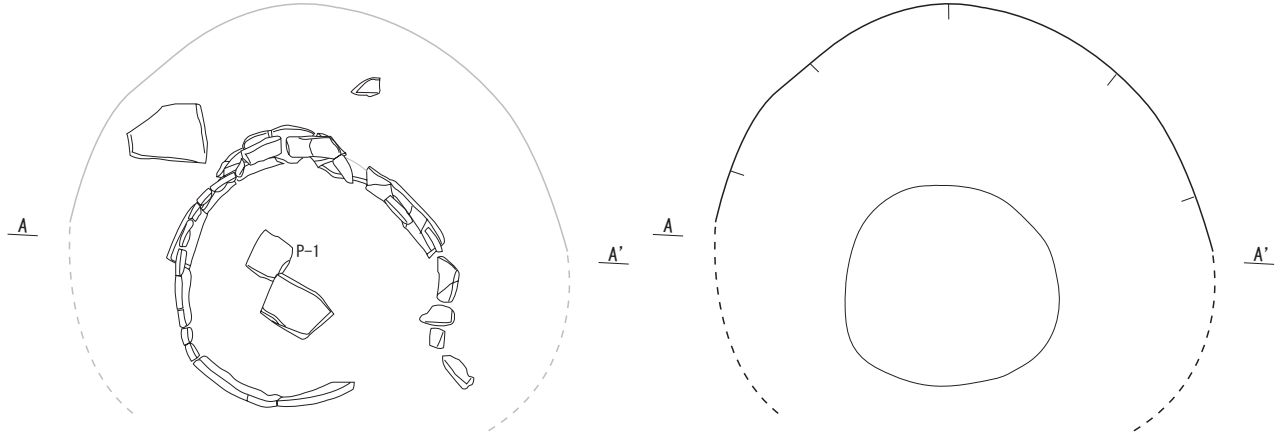
〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ暗褐色土、土器内部充填土はシルト質の暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から底部が欠損している深鉢土器と礫が出土している。

21 土器埋設

MK-86から東1m北2m

MK-86から東1m北2m



第21号土器埋設遺構

第1層 暗褐色土 10YR3/3

浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/3

浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

(掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm

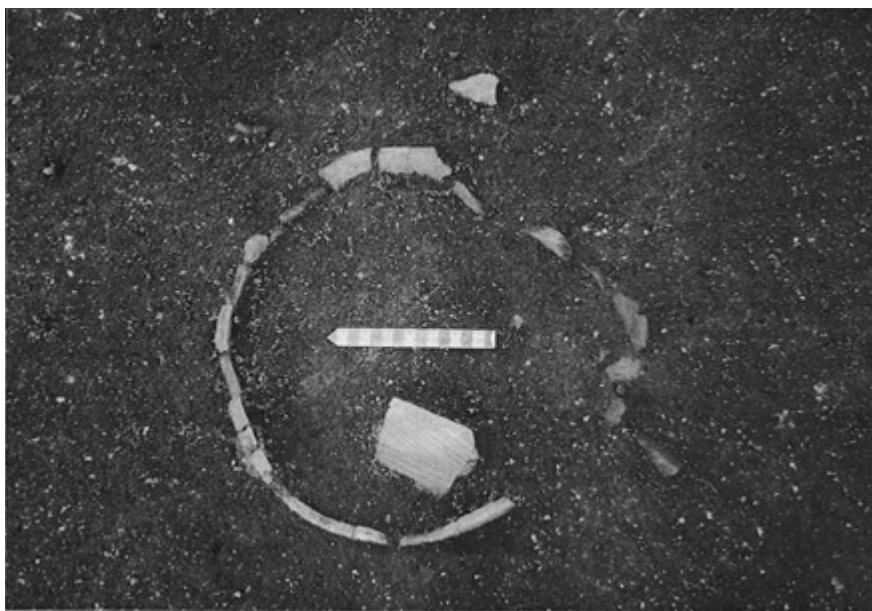
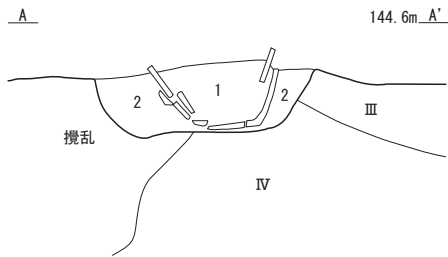
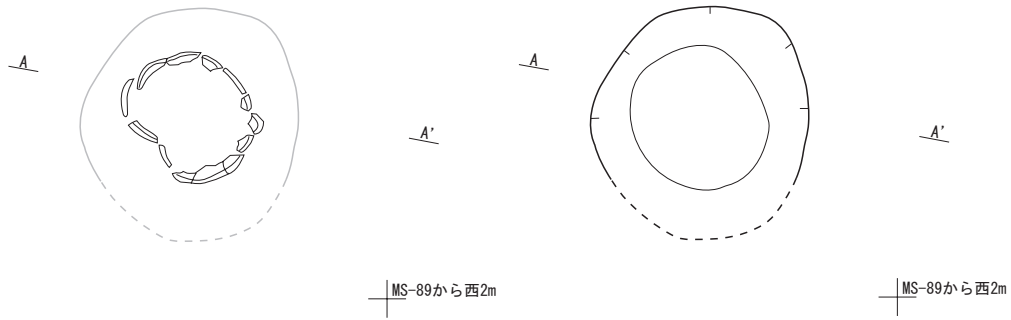


図129 土器埋設(13)

22 土器埋設



第22号土器埋設遺構

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 暗褐色土 10YR3/3 (掘り方)浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量(掘り方埋土)

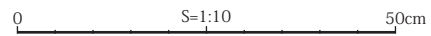


図130 土器埋設(14)

23 土器埋設

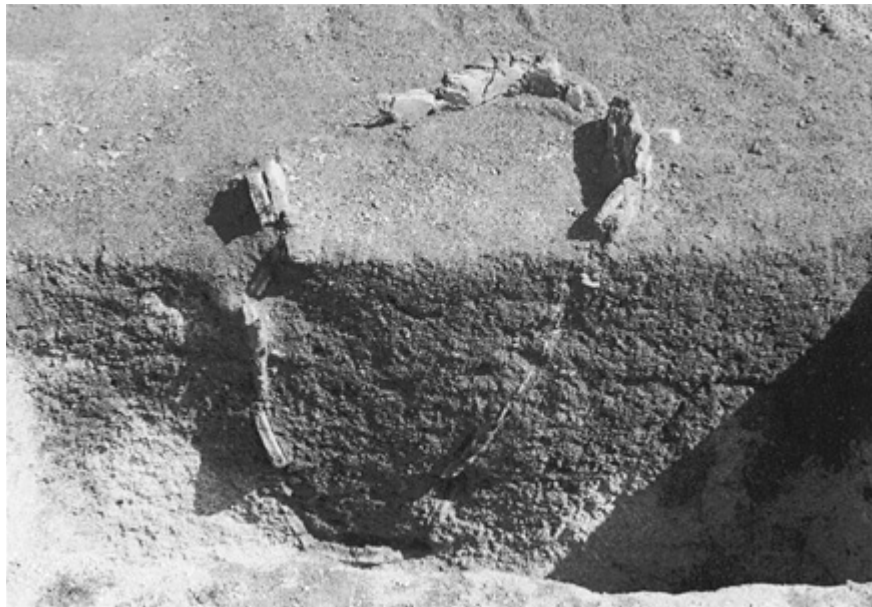
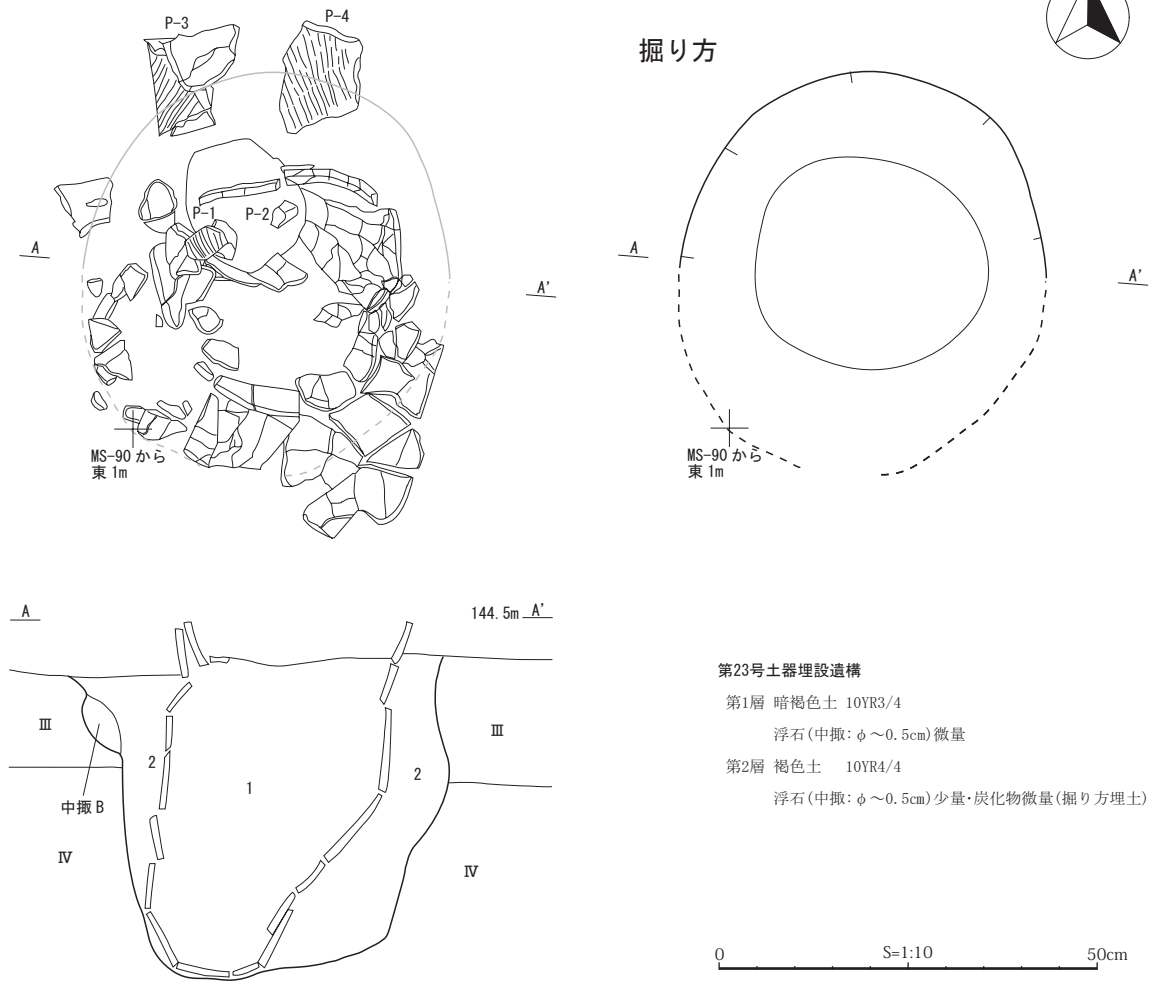
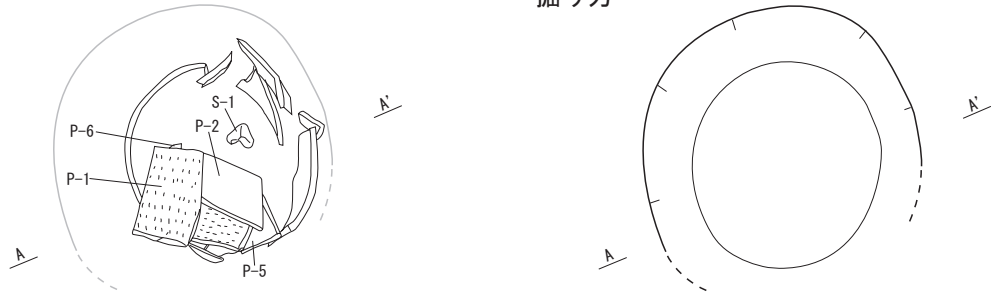


図131 土器埋設(15)

24 土器埋設

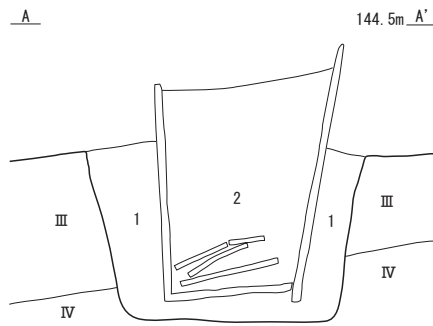


掘り方



MP-88から北3m

MP-88から北3m



第24号土器埋設遺構

第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石微量(シルト質土)

第2層 暗褐色土 10YR3/3

浮石(中撒: φ~0.5cm)・炭化物微量(掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm

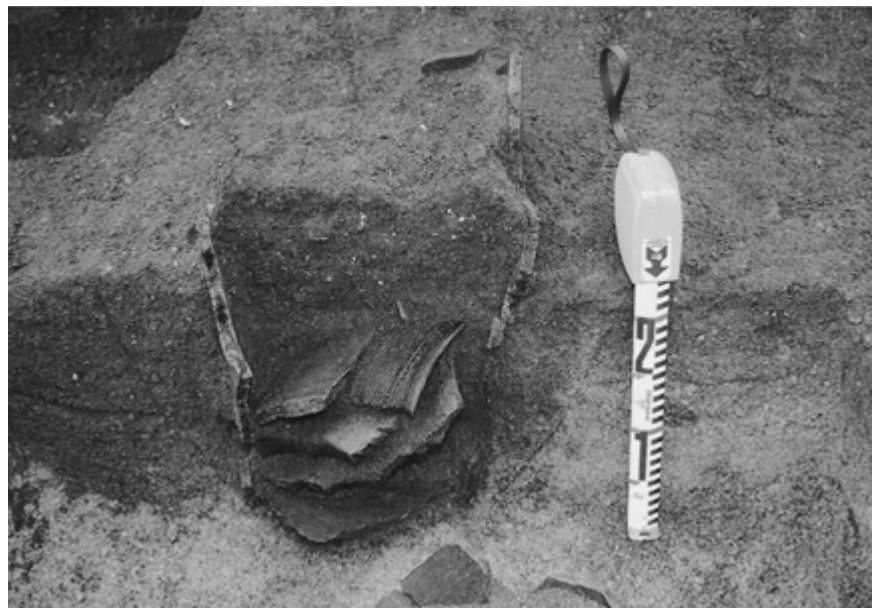


図132 土器埋設(16)

第25号土器埋設遺構（図133）

〔位置〕 調査区中央部の ML-87グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層下位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の胴部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約40cmのほぼ円形で、深さは約45cm、底面は若干窪んでいる。

〔埋土〕 掘り方埋土は黒褐色土、土器内部充填土は上層に炭化物を含んだ暗褐色土、下層にシルト質の褐色土が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から深鉢土器が出土している。

第26号土器埋設遺構（図134）

〔位置〕 調査区中央部の MN-88グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の口縁部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約55cmのほぼ円形で、深さは約40cm、底面は若干窪んでいる。

〔埋土〕 掘り方埋土、土器内部充填土ともに炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から剥片が出土している。

第27号土器埋設遺構（図135）

〔位置〕 調査区中央部の MU-90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約35cmのほぼ円形で、深さは約10cm、底面は平坦である。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は浮石を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内から礫が出土している。

第28号土器埋設遺構（図136）

〔位置〕 調査区中央部の ND-94グリッドに位置している。

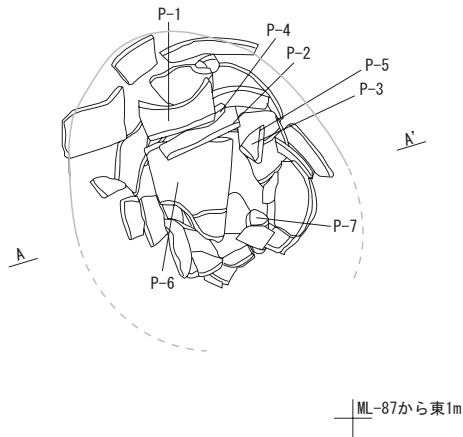
〔検出状況〕 第Ⅳ層上面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の口縁部から底部を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約30cmの円形で、深さは約20cm、底面はほぼ平坦である。

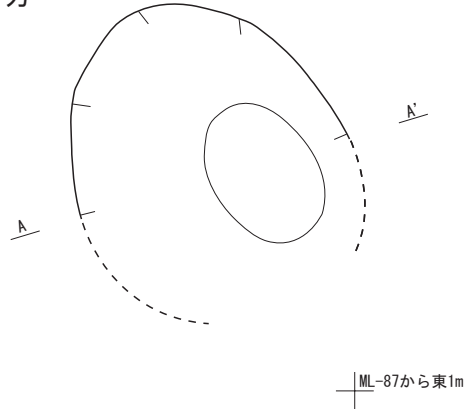
〔埋土〕 掘り方埋土、土器内部充填土ともに炭化物を含んだ黒褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

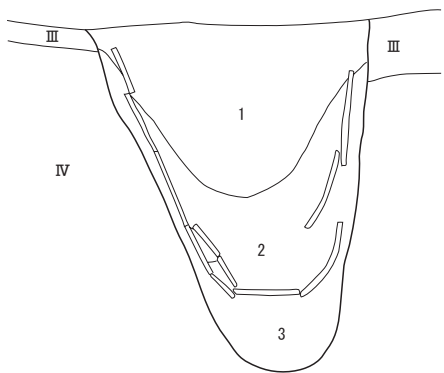
25 土器埋設



掘り方



A 144.0m A'



第25号土器埋設遺構

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量(シルト質土)
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(中礫: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)微量(掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm



図133 土器埋設(17)

26 土器埋設

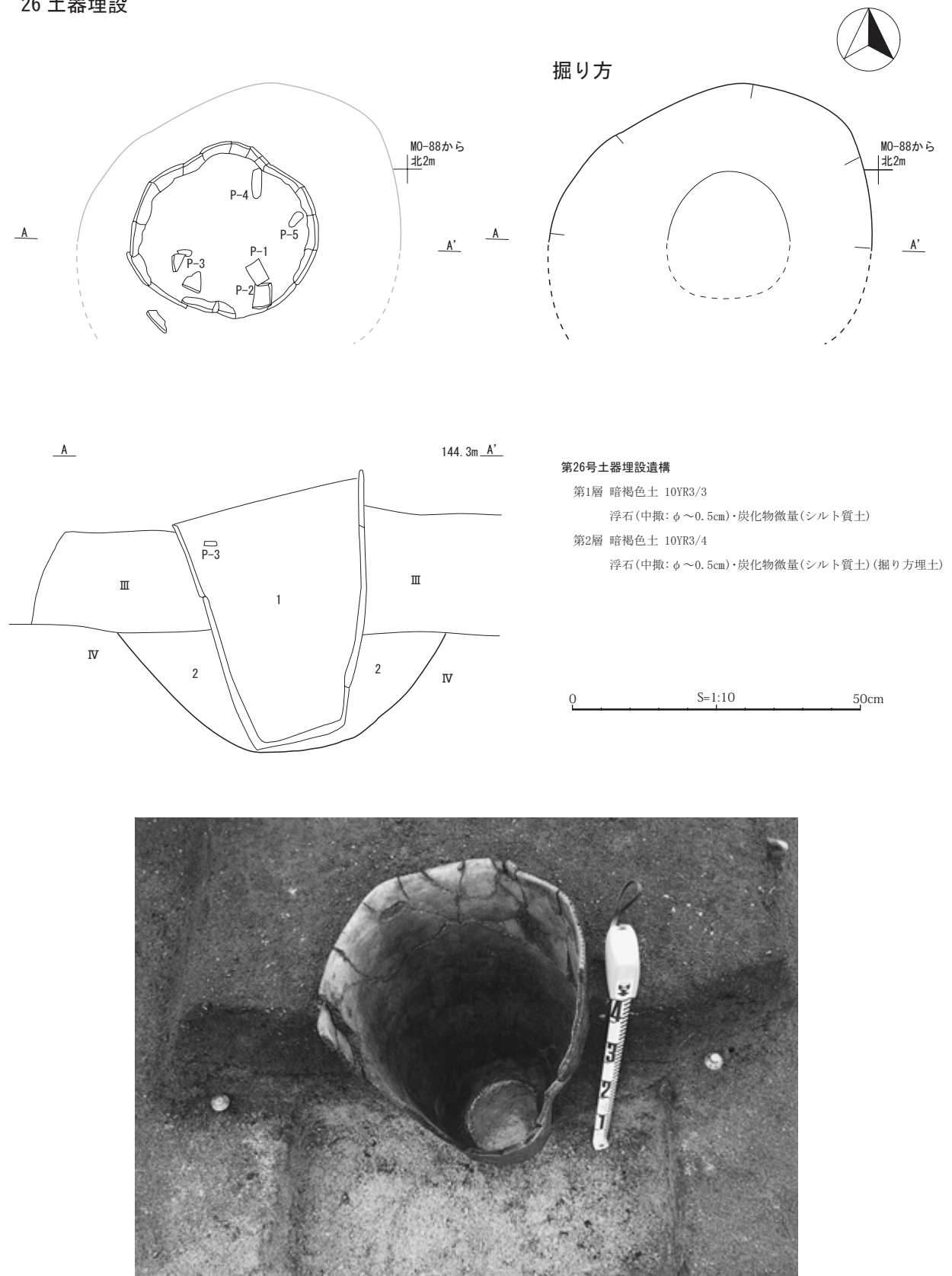


図134 土器埋設(18)

27 土器埋設

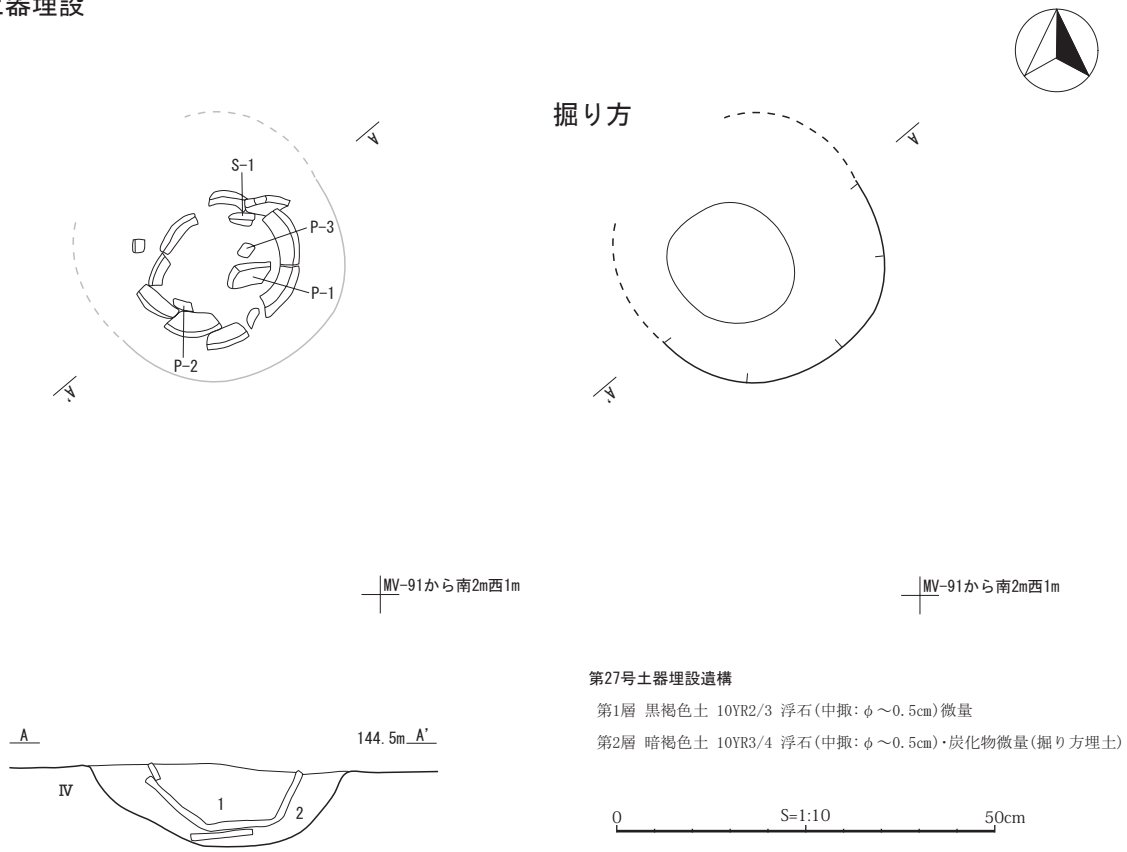
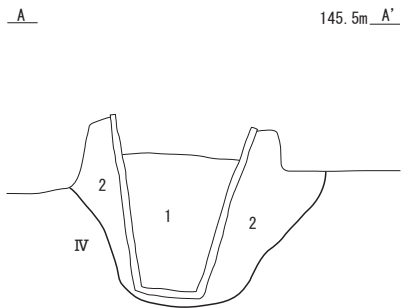
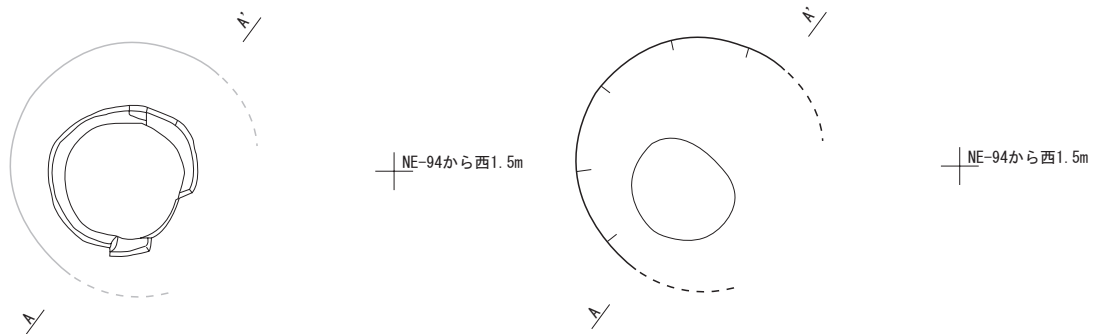


図135 土器埋設(19)

28 土器埋設



掘り方



第28号土器埋設遺構

第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石 (中取: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石 (中取: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量 (掘り方埋土)

0 S=1:10 50cm



図136 土器埋設 (20)

第29号土器埋設遺構（図137）

〔位置〕 調査区中央部のMV-91グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層下位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の底部が欠損している胴部を倒立させて埋設されている。同一個体である底部破片は底面に正位で検出された。掘り方は直径約35cmのほぼ円形で、確認できた深さは約10cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土はシルト質の暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

第30号土器埋設遺構（図138）

〔位置〕 調査区中央部のMT-90グリッドに位置している。

〔検出状況〕 第Ⅲ層中位面で検出した。

〔埋設状況・掘り方〕 深鉢土器の口縁部から底部を正立させた状態で埋設している。土器の底部付近には径3cmほどの穴が開けられている。掘り方は直径約25cmの円形で、深さは約15cmである。

〔埋土〕 掘り方埋土は炭化物を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は浮石を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

〔出土遺物〕 土器内及び掘り方から遺物は出土していない。

29 土器埋設

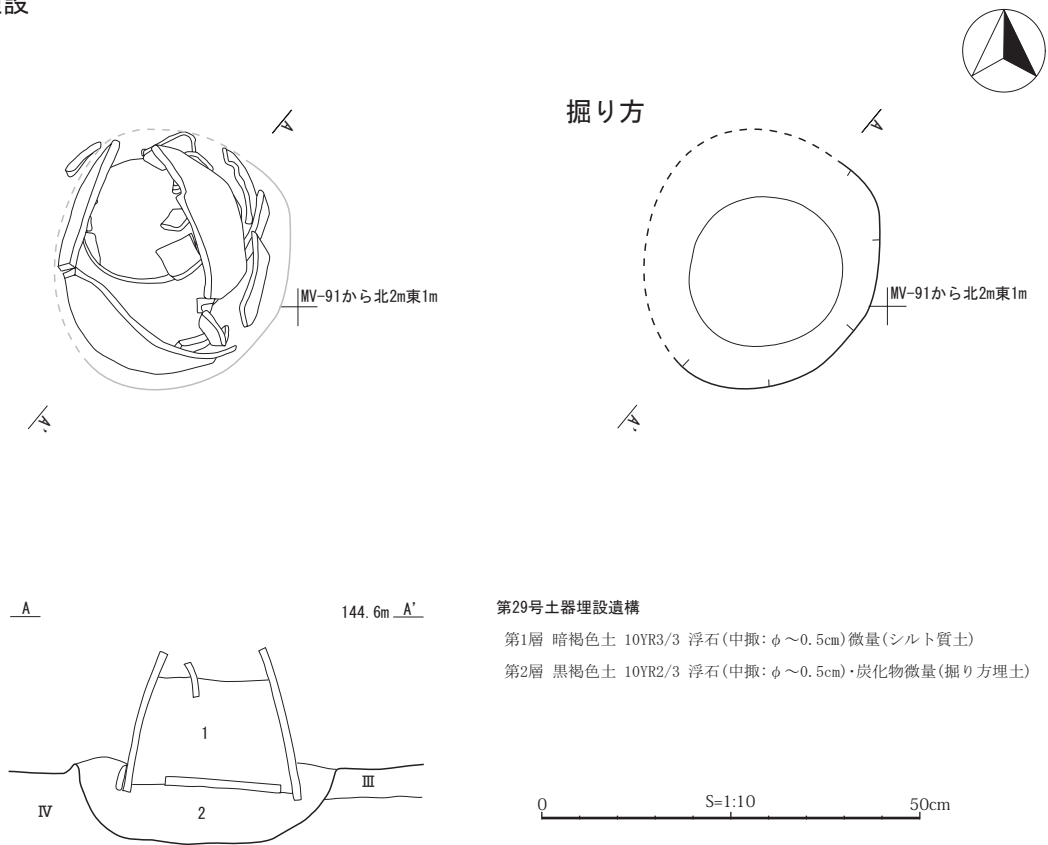


図137 土器埋設(21)

30 土器埋設

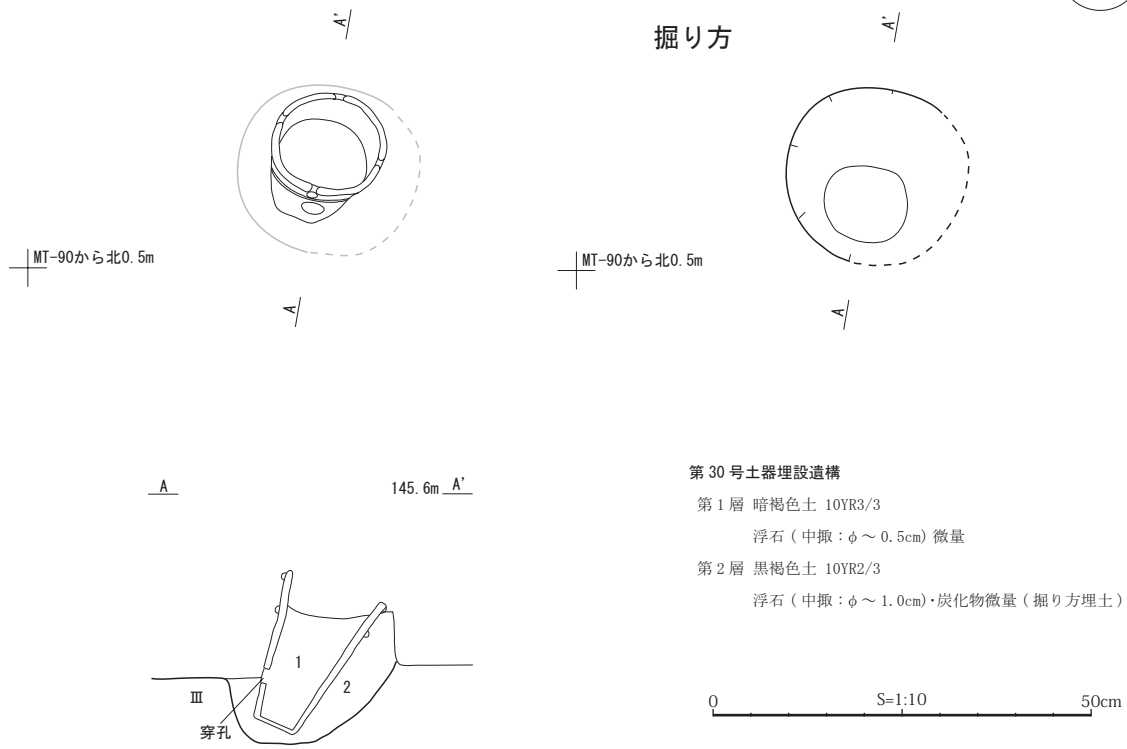


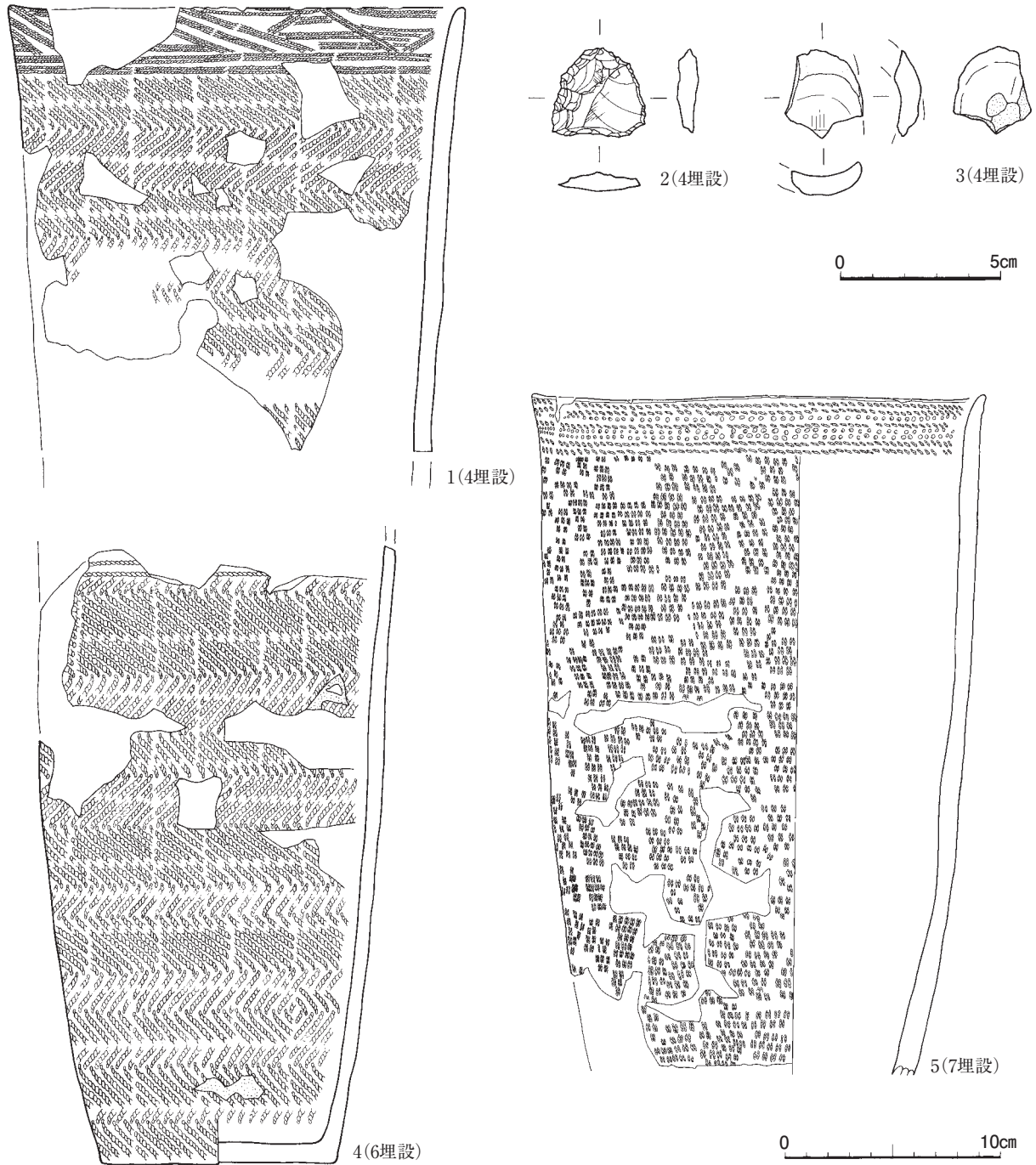
図138 土器埋設 (22)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
1-1	MX-92 Ⅲ層中位面	LR縄文	LR側圧、R結節(横)	R結節(横)、RL+LR結束第1種	Ⅱ-4	2埋設
1-2	MX-92 Ⅲ層中位面		LR側圧	R多軸絡条体	Ⅱ-3	1埋設
1-4	MX-92 Ⅲ層中位面		RL側圧	LR+RL結束第1種	Ⅱ-4	3埋設
1-5	MT-89 Ⅳ層上面			LR縄文	Ⅱ-1	5埋設

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
1-3	土器内覆土	12.4	10.6	5.6	848.8	安山岩	Ⅱ-12?	被熱痕 1土器埋設

図139 土器埋設遺構 出土遺物(1)

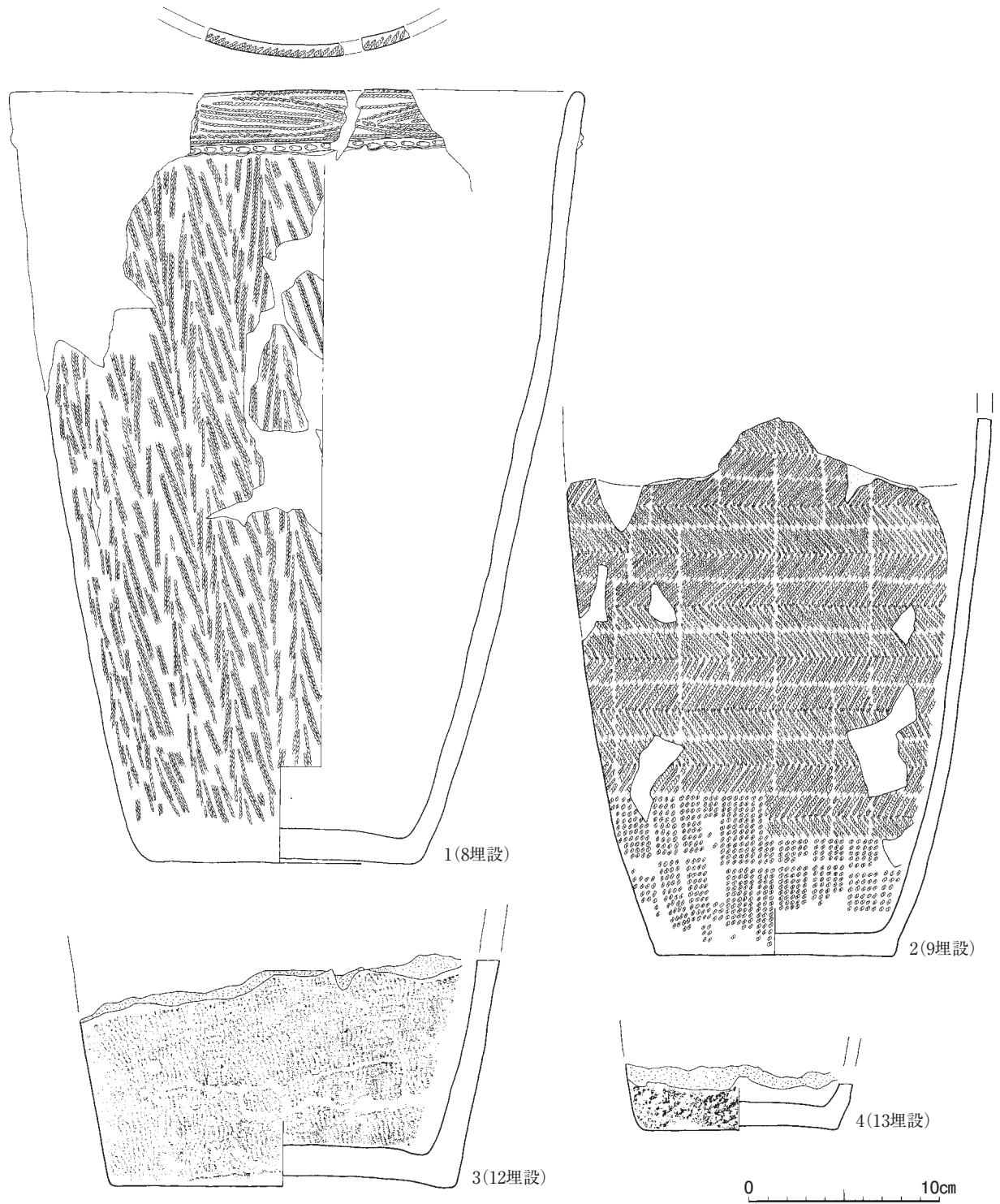


図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
2-1	MX-92 Ⅲ層中位面		R側圧	RL + LR結束第1種	Ⅱ-4	4埋設
2-4	MZ-93 Ⅲ層中位面			RL + LR結束第1種	Ⅱ-2	6埋設
2-5	MZ-93 Ⅲ層中位面		LR側圧、刺突	R(2本組)多軸絡条体	Ⅱ-4	7埋設

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
2-2	土器内覆土	2.7	2.9	0.6	5.3	珪質頁岩	I-8	S4 4埋設

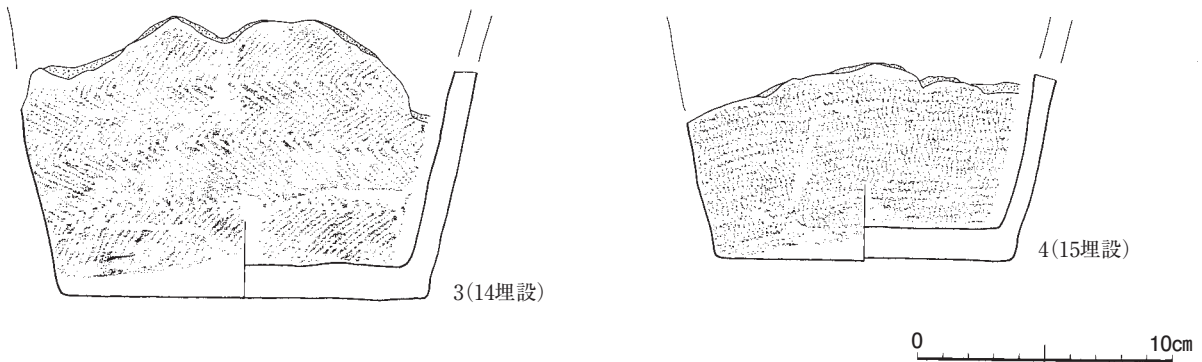
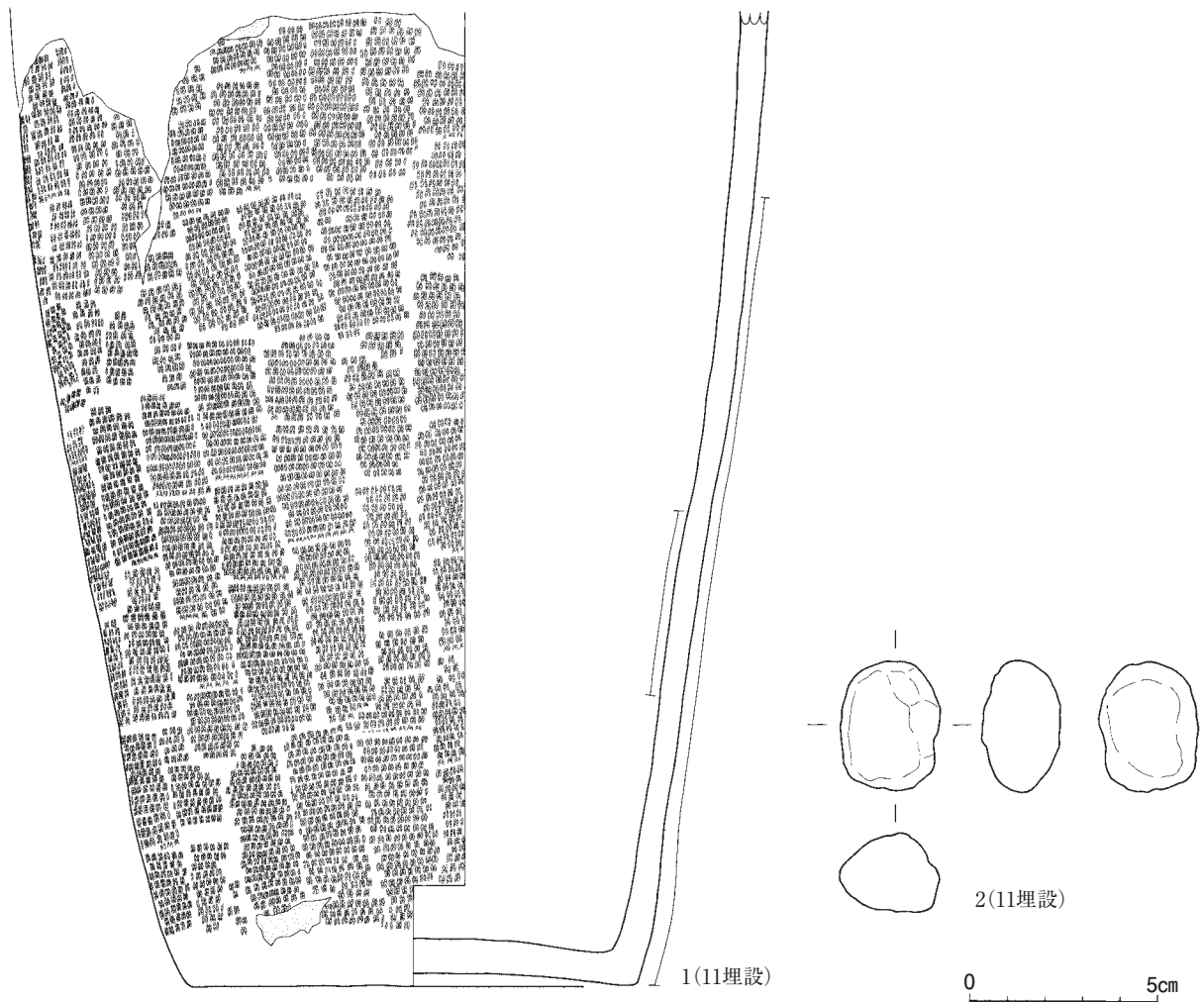
図版番号	器種	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	備考
			長さ	幅	厚さ			
2-3	不明石製品	土器内覆土	2.8	2.5	0.7	2.8	細粒凝灰岩	4埋設

図140 土器埋設遺構 出土遺物(2)



圖版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
3-1	NB-93 Ⅲ層中位面	LR縄文	L側圧、R側圧、LR側圧、刺突	L・R(各2条)単軸絡条体第1A類	Ⅱ-4	8埋設
3-2	NC-93 Ⅲ層中位面			LR+RL結束第1種、LR単軸絡条体第1類	Ⅱ	9埋設
3-3	NB-92 Ⅲ層中位面			R多軸絡条体	Ⅱ	12埋設
3-4	NA-93 Ⅲ層下位面			RL縄文?	Ⅱ?	13埋設

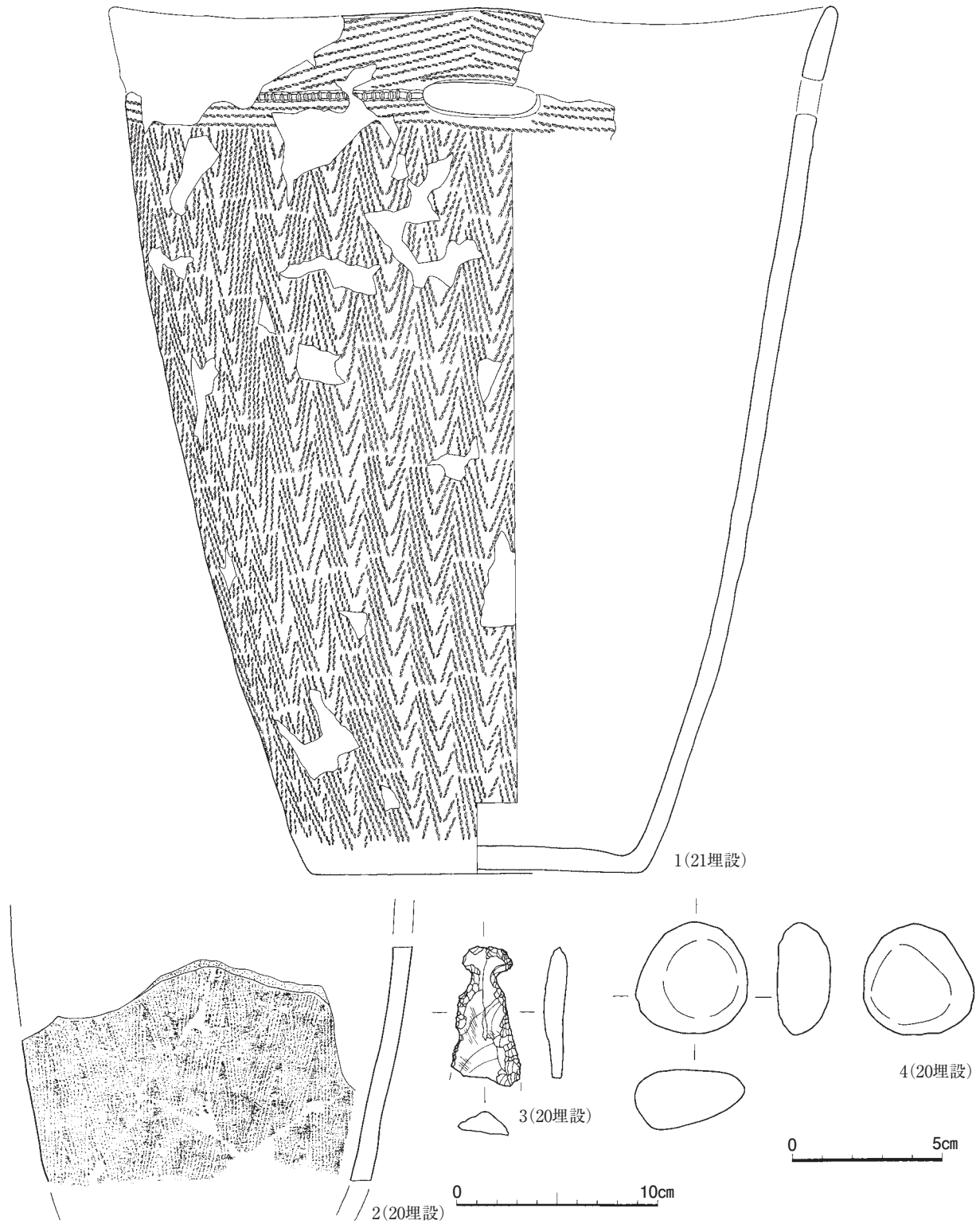
図141 土器埋設遺構 出土遺物(3)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			重量(g)	石質	分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部				
4-1	NA-92 Ⅳ層上面			L+R(2本組)多軸絡条体			Ⅱ	11埋設
4-3	NC-94 Ⅲ層中位面			LR+RL結束第1種、L付加条			Ⅱ	14埋設
4-4	NC-94 Ⅲ層中位面			R多軸絡条体			Ⅱ	15埋設

図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
4-2	土器内覆土	3.5	2.7	2.1	26.6	チャート	Ⅱ-11?	S1 11埋設

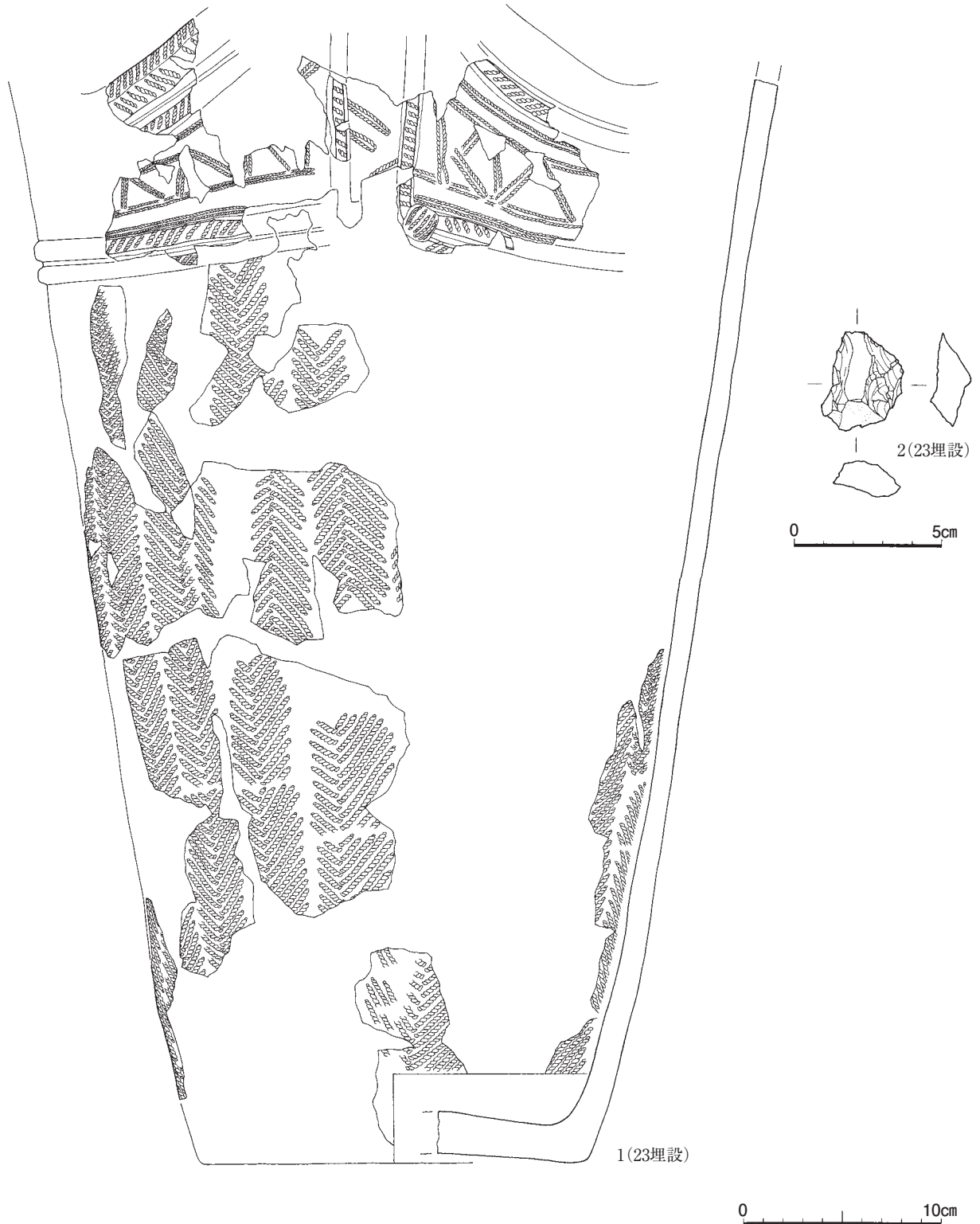
図142 土器埋設遺構 出土遺物(4)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
5-1	MK-86 Ⅲ層中位面		LR側圧、微隆帯、刻目	LR単軸絡条体第1A類	Ⅱ-4	透し 21埋設
5-2	MJ-85 Ⅲ層中位面			R+L単軸絡条体第1A類	Ⅱ	20埋設

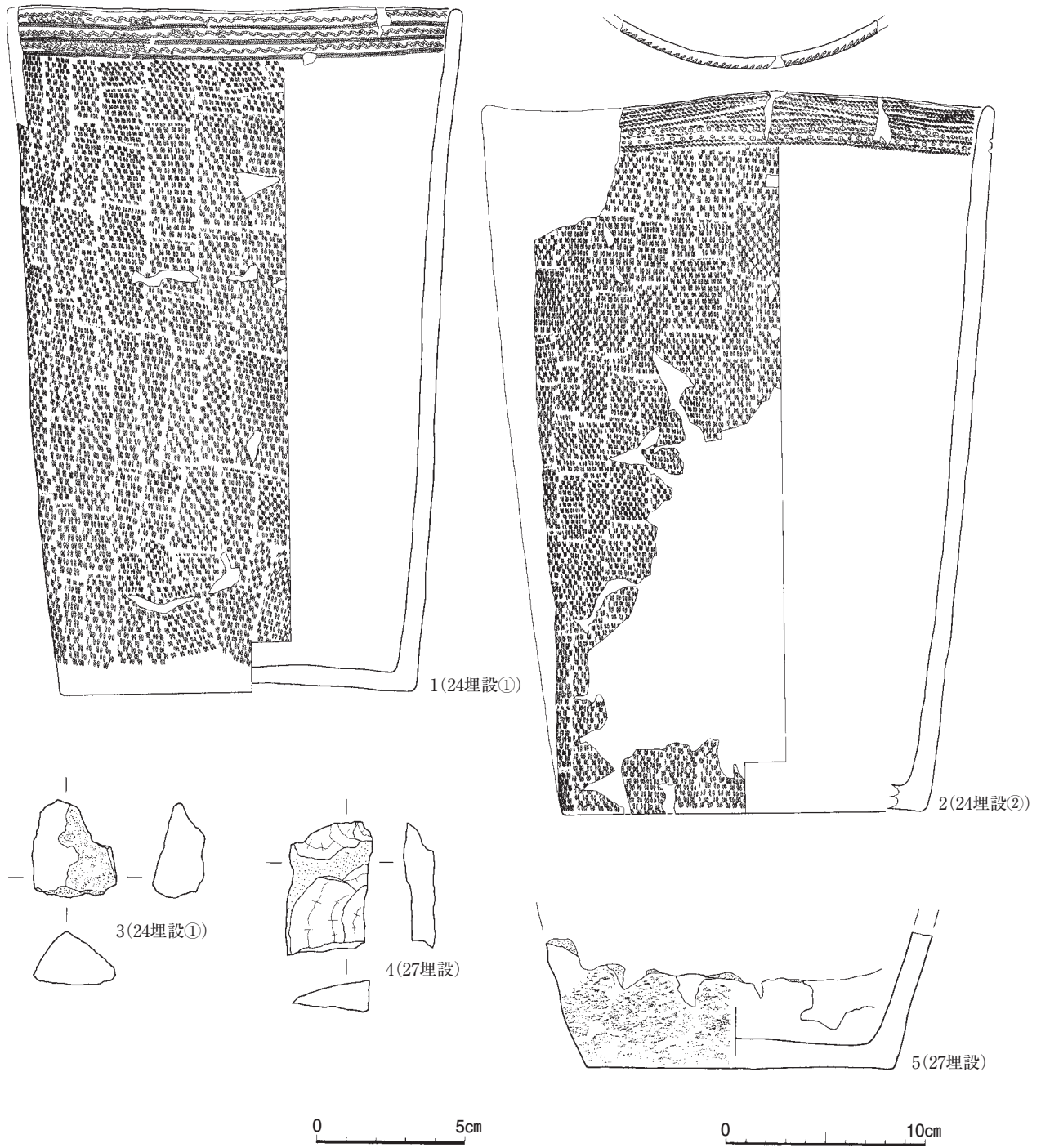
図版番号	出土位置・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
5-3	土器内覆土	4.5	2.3	0.7	5.8	珪質頁岩	I-4a	S1 20埋設
5-4	土器内覆土	3.8	3.7	2.0	28.7	凝灰岩	Ⅱ-11	S2 20埋設

図143 土器埋設遺構 出土遺物(5)



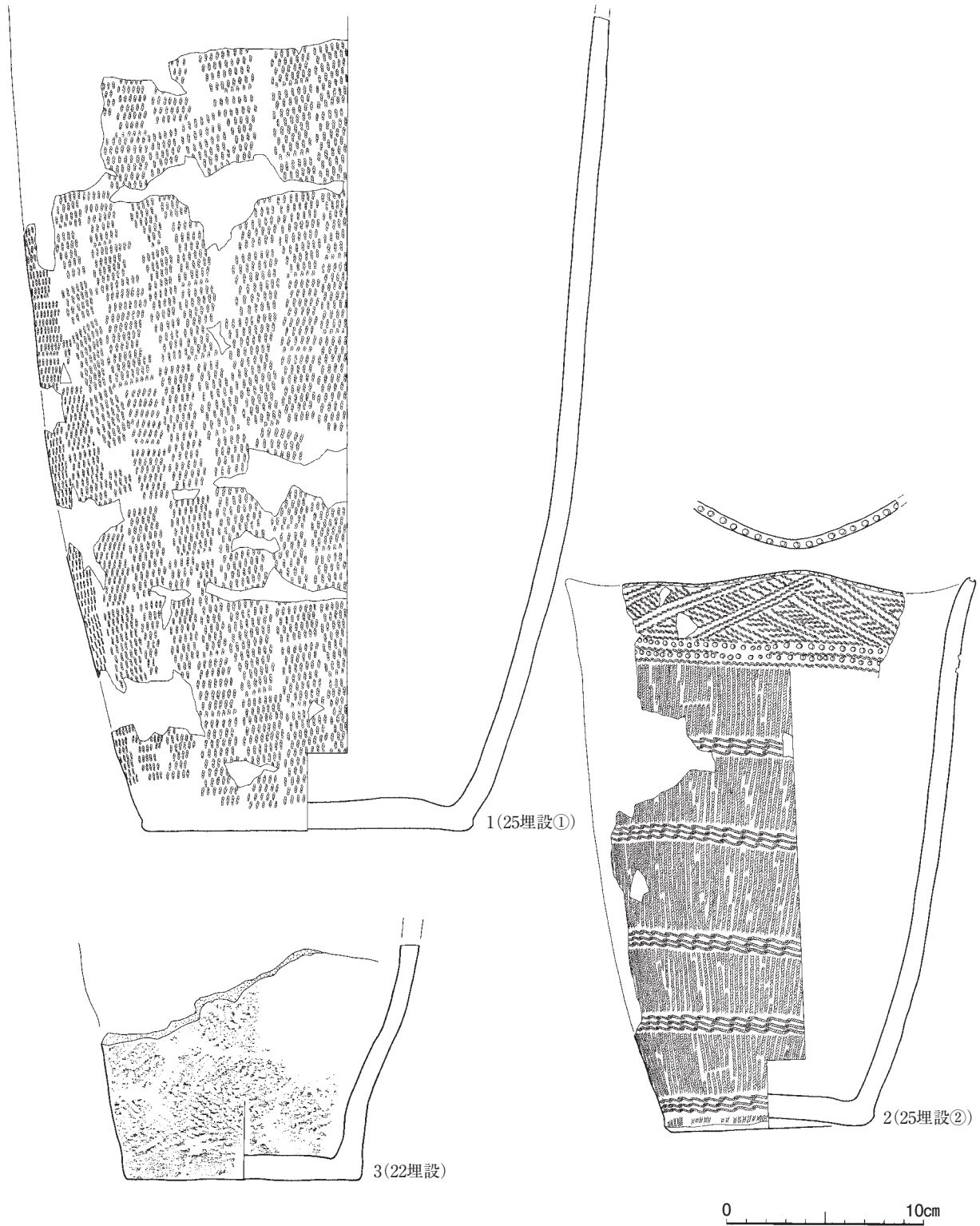
図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考		
		口唇部	口縁部	胴部				
6-1	MS-90 III層中位面	L・R(2本組)側圧、粘土紐貼付L側圧 LR+RL結束第1種(縦)			Ⅲ-1	23埋設		
図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
6-2	土器内覆土	3.4	2.5	1.2	9.1	珪質頁岩	I-8?	23埋設

図144 土器埋設遺構 出土遺物(6)



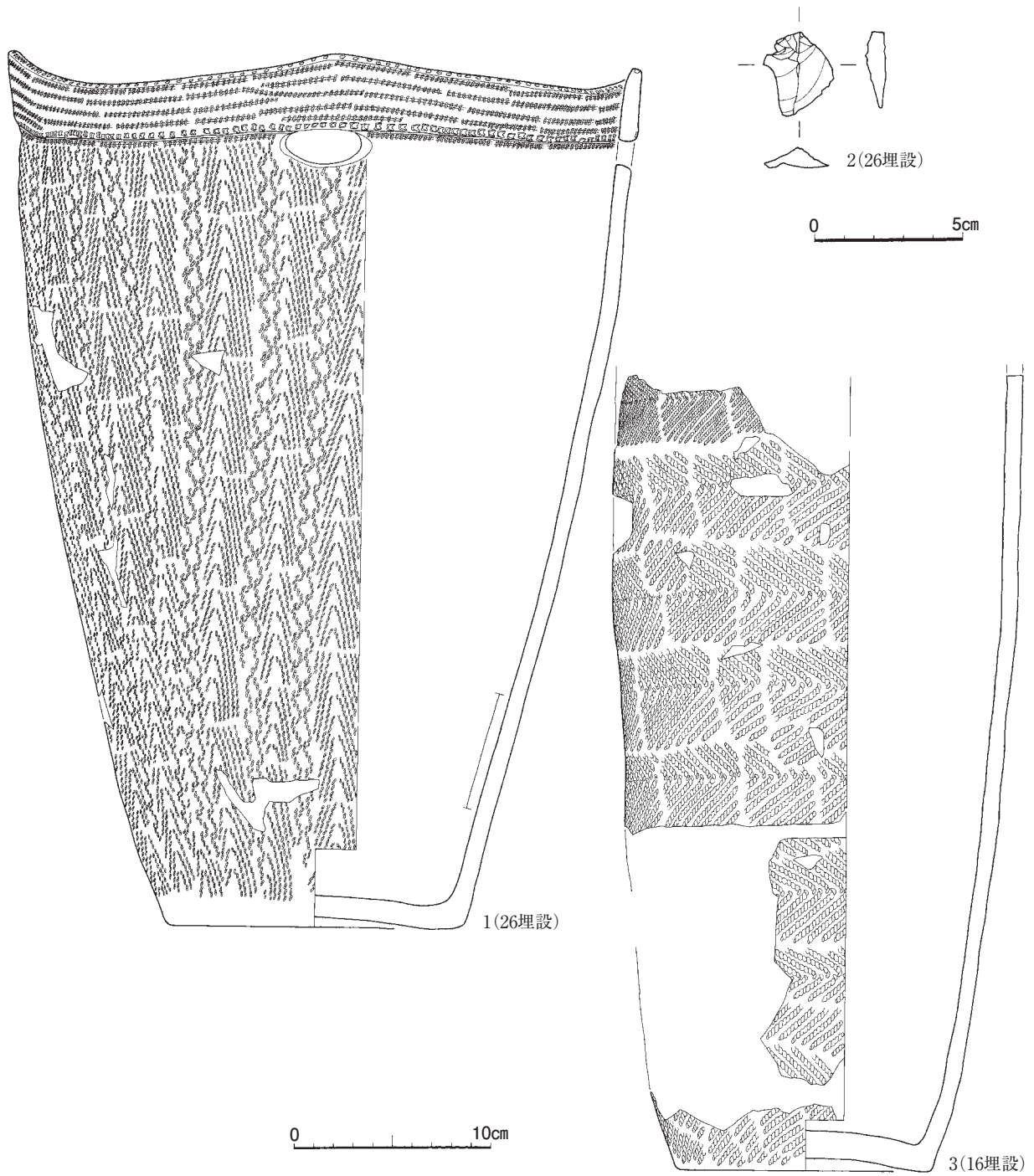
図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考		
		口唇部	口縁部	胴部				
7-1	MP-88 Ⅲ層中位面		R結節、R・L(2本組)側圧	R(2本組)多軸絡条体	Ⅱ-4	24埋設①		
7-2	土器内覆土	LR縄文	LR側圧、刺突	R・L(2本組)多軸絡条体	Ⅱ-4	24埋設②		
7-5	MU-90 Ⅳ層上面			LR縄文?	Ⅱ	27埋設		
図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
7-3	土器内覆土	3.2	2.8	1.8	14.8	安山岩	Ⅱ	S1 24埋設
7-4	土器内覆土	4.3	2.8	1.1	13.8	デイスサイト	Ⅱ	S1 27埋設

図145 土器埋設遺構 出土遺物(7)



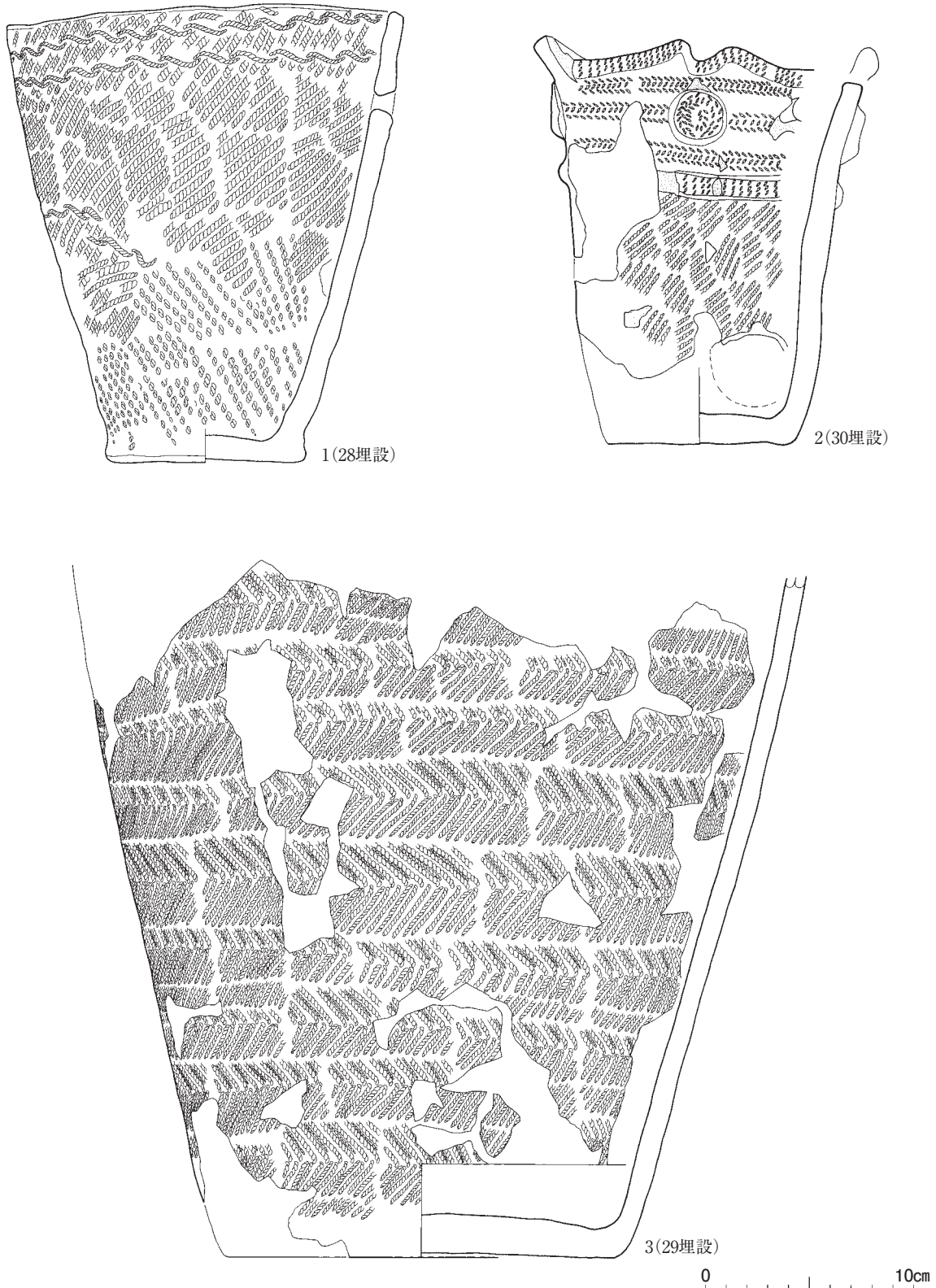
図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
8-1	ML-87 Ⅲ層下位面			R多軸絡条体	Ⅱ	25埋設①
8-2	ML-87 Ⅲ層下位面	管状刺突	LR側圧、管状刺突	L単軸絡条体第1類、R結節	Ⅱ-3	25埋設②
8-3	MR-89 Ⅲ層下位面			LR+RL結束第1種	Ⅱ	22埋設

図146 土器埋設遺構 出土遺物(8)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考		
		口唇部	口縁部	胴部				
9-1	MN-88 Ⅲ層中位	刺突(半裁竹管)	L単軸絡糸体第1類側圧、微隆帯、刺突(半裁竹管)	LR単軸絡糸体第1A類、LR結節(縦)	Ⅱ-4	透し 26埋設		
9-3	NA-93 Ⅳ層上位			LR+RL結束第1種(細・太)	Ⅱ-2	16埋設		
図版番号	出土位置・層位	計測値(cm)			重量(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
9-2	MN-88・覆土	2.6	2.2	0.7	2.6	頁岩	I-8	26埋設

図147 土器埋設遺構 出土遺物(9)



図版番号	出土位置・層位	外面文様			分類	備考
		口唇部	口縁部	胴部		
10-1	ND-93 Ⅳ層上面		R結節、LR縄文	LR縄文、LR縄文、RLR複節	Ⅱ-1	28埋設
10-2	MT-90 Ⅲ層中位面		LR側圧、粘土紐貼付	LR縄文	Ⅲ-1	穿孔、30埋設
10-3	MV-91 Ⅲ層下位面			LR+RL結束第1種(Lの付加)	Ⅲ?	29埋設

図148 土器埋設遺構 出土遺物(10)

4 ピット群

ピット群は調査区の平坦面に3カ所、西側の緩斜面に1カ所で検出し、総数516基のピットを調査した。竪穴住居跡の壁柱穴などの可能性も十分考えられるが、本報告書では図示するだけにとどめた。規模や深さなどの計測値は別表にて記載してある。

ピット群A（図149）

〔位置〕 調査区西側の緩斜面LY～MA-80～82グリッドに位置し、総数37基のピットを確認した。

〔形態・規模〕 それぞれピットの平面形は多種多様だが、概ね直径が約20～30cmの円形あるいは楕円形で、深さは15～60cmである。

〔堆積土〕 堆積土は、大きく黒褐色土・暗褐色土・褐色土の各土壌を主体として堆積するピットに分けられる。

〔出土遺物〕 数基のピットから縄文土器の破片と剥片石器などが出土している。

ピット群B（図153）

〔位置〕 調査区西側の緩斜面MF～MK-84～86グリッドに位置し、総数100基のピットを確認した。

〔形態・規模〕 それぞれピットの平面形は多種多様だが、概ね直径が約15～60cmの円形あるいは楕円形で、深さは15～65cmである。

〔堆積土〕 堆積土は、大きく黒褐色土・暗褐色土・褐色土の各土壌を主体として堆積するピットに分けられる。

〔出土遺物〕 数基のピットから縄文土器の破片と剥片石器などが出土している。

ピット群C（図153）

〔位置〕 調査区西側の緩斜面MM～MS-87～89グリッドに位置し、総数181基のピットを確認した。

〔形態・規模〕 それぞれピットの平面形は多種多様だが、概ね直径が約10～50cmの円形あるいは楕円形で、深さは10～60cmである。

〔堆積土〕 堆積土は、大きく黒褐色土・暗褐色土・褐色土の各土壌を主体として堆積するピットに分けられる。

〔出土遺物〕 数基のピットから縄文土器の破片と剥片石器などが出土している。

ピット群D（図154・155）

〔位置〕 調査区西側の緩斜面MU～NE-90～95グリッドに位置し、総数198基のピットを確認した。

〔形態・規模〕 それぞれピットの平面形は多種多様だが、概ね直径が約15～60cmの円形あるいは楕円形で、深さは10～60cmである。

〔堆積土〕 堆積土は、大きく黒褐色土・暗褐色土・褐色土の各土壌を主体として堆積するピットに分けられる。

〔出土遺物〕 数基のピットから縄文土器の破片と剥片石器などが出土している。

Pit群配置図

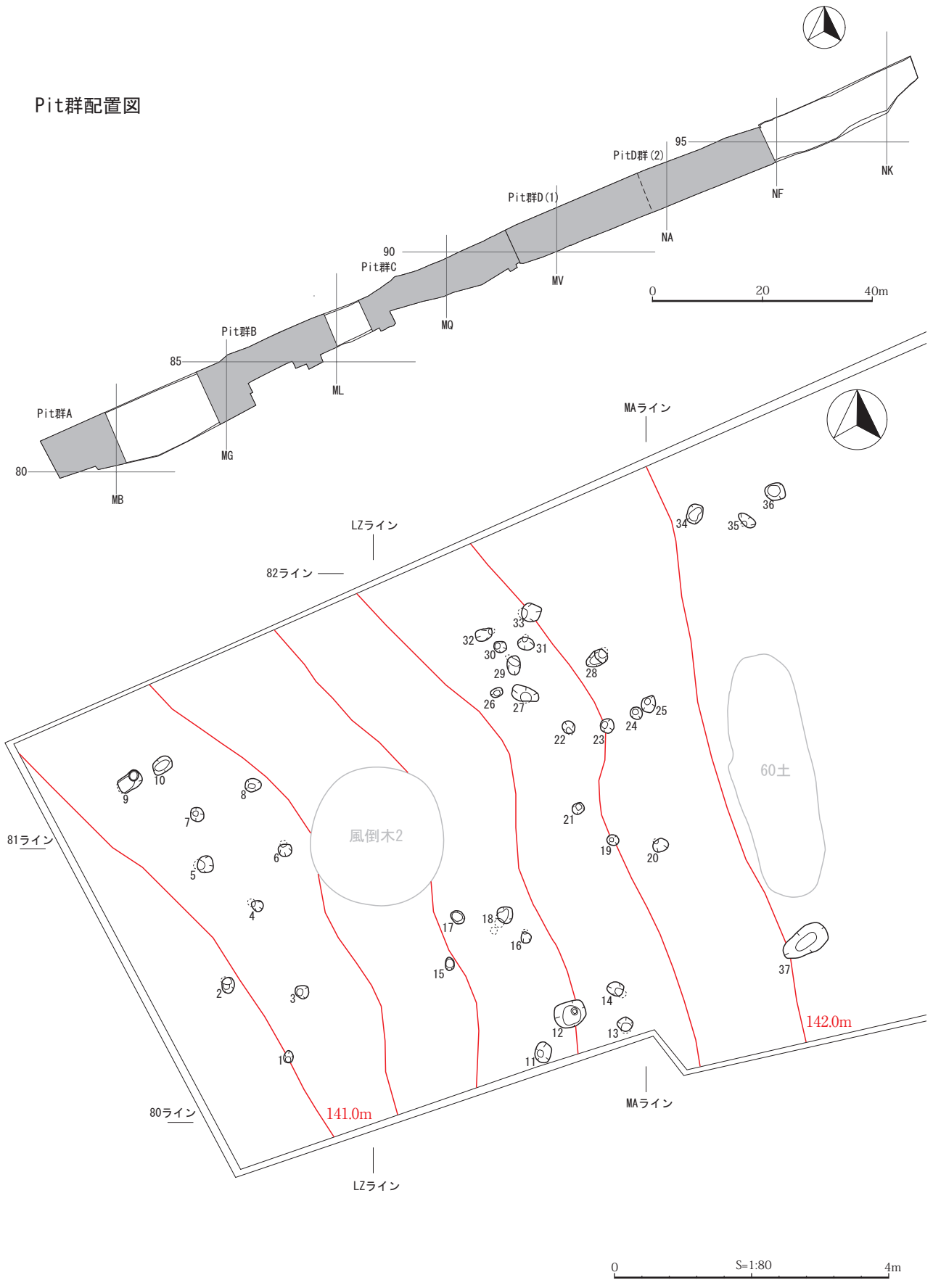
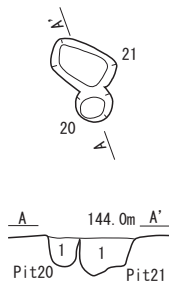


図149 Pit群A

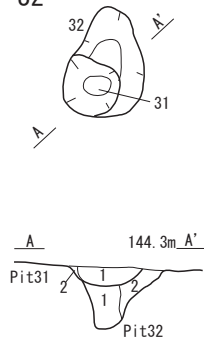
Pit20·21



Pit20
第1層 褐色土 10YR4/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit21
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

Pit31·32



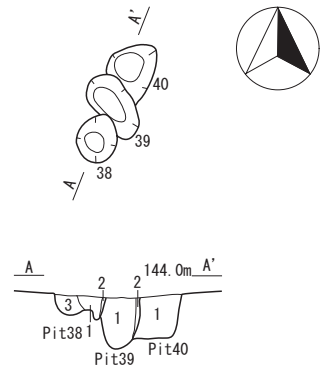
Pit31
第1層 黑褐色土 10YR2/3
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

第2層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

Pit32
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

第2層 褐色土 10YR4/6
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)中量

Pit38·39·40



Pit38
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

第2層 中撒浮石

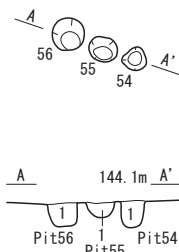
第3層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit39
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

第2層 中撒浮石

Pit40
第4層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit54·55·56

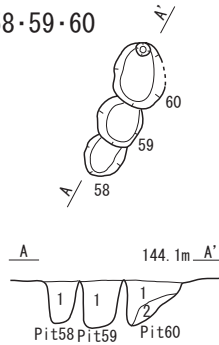


Pit54
第1層 褐色土 10YR4/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit55
第1層 褐色土 10YR4/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit56
第1層 褐色土 10YR4/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit58·59·60



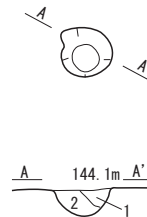
Pit58
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

Pit59
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量·炭化物微量

Pit60
第1層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

第2層 褐色土 10YR4/6
中撒浮石($\phi \sim 0.5\text{cm}$)少量

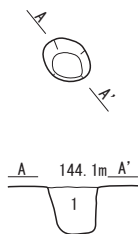
Pit64



Pit64
第1層 褐色土 10YR4/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ·南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$ 極少量)

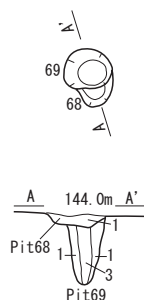
第2層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ ·南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$ 極少量)

Pit65



Pit65
第1層 黑褐色土 10YR2/3
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)·炭化物微量

Pit68·69



Pit68
第1層 黑褐色土 10YR2/3
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

Pit69
第1層 褐色土 10YR4/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

第2層 黑褐色土 10YR2/3
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

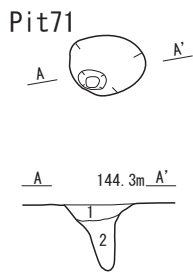
Pit70



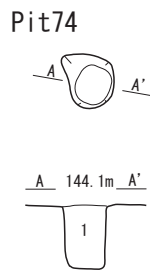
Pit70
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)

0 S=1:60 2m

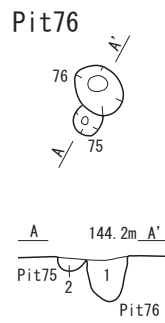
図150 Pit群C(1)



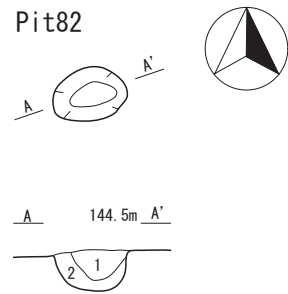
Pit71
 第1層 暗褐色土 10YR3/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
 第2層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量



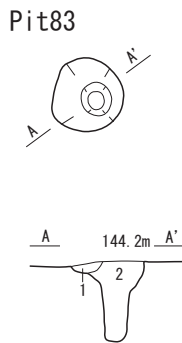
Pit74
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・南部: $\phi \sim 2.0\text{cm}$ ・炭化物微量



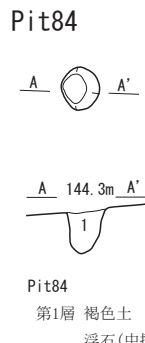
Pit75-Pit76
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)
 第2層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)



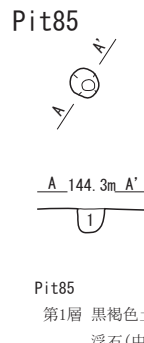
Pit82
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
 第2層 褐色土 10YR4/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)多量



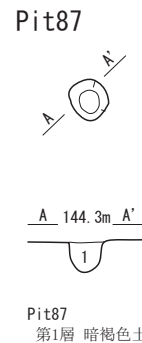
Pit83
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量



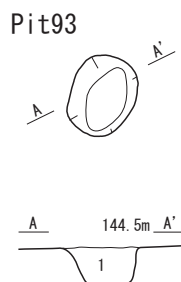
Pit84
 第1層 褐色土 10YR4/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$ 多含)



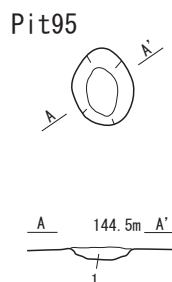
Pit85
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)



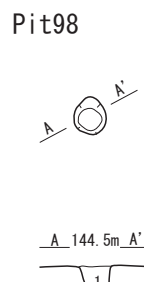
Pit87
 第1層 暗褐色土 10YR3/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)



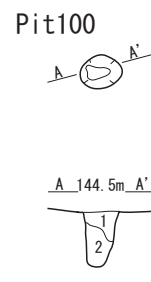
Pit93
 第1層 暗褐色土 10YR3/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量



Pit95
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量



Pit98
 第1層 黒褐色土 10YR2/3
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

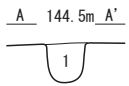
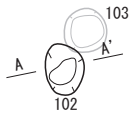


Pit100
 第1層 褐色土 10YR4/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/4
 浮石(中撒: $\phi \sim 0.5\text{cm}$)・炭化物微量

0 S=1:60 2m

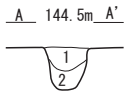
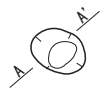
図151 Pit群C(2)

Pit102



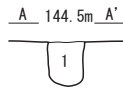
Pit102
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量

Pit107



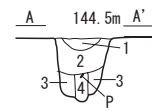
Pit107
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
第2層 褐色土 10YR4/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量

Pit110



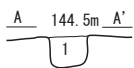
Pit110
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量

Pit115



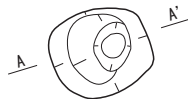
Pit115
第1層 黒褐色土 10YR2/3
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
第2層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量
第3層 褐色土 10YR4/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)多量
第4層 暗褐色土 10YR3/3
浮石(中礫: φ~0.5cm)少量

Pit136



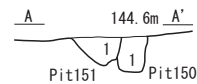
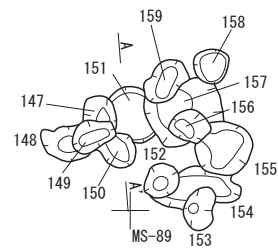
Pit136
第1層 暗褐色土 10YR3/4
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量

Pit143



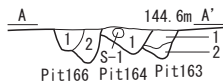
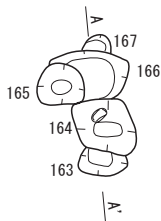
Pit143
第1層 黒褐色土 10YR2/2
浮石(中礫: φ~0.5cm)・炭化物微量

Pit150-151



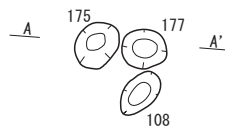
Pit150
第1層 黒色土 10YR2/1
浮石(中礫: φ~0.5cm)
Pit151
第1層 黒色土 10YR1.7/1
浮石(中礫: φ~0.5cm)

Pit163-164-166



Pit166
第1層 暗褐色土 10YR3/4 パミス・炭化物微量
第2層 黒褐色土 10YR2/3 パミス・炭化物微量
Pit164
第1層 黒色土 10YR2/1 パミス(φ~0.5cm)・炭化物微量
Pit163
第1層 暗褐色土 10YR3/4 パミス・炭化物微量
第2層 褐色土 10YR4/4 浮石(中礫: φ~0.5cm)少量

Pit176-177



0 S=1:60 2m

図152 Pit群C(3)

Pit 群 A 観察表

Pit番号	深さ cm	径 cm
Pit1	28.9	20×15
Pit2	30.5	25×20
Pit3	37.3	20×22
Pit4	38.7	17×20
Pit5	61.8	26×25
Pit6	42.1	19×20
Pit7	42.8	22×21
Pit8	21.9	21×25
Pit9	59.6	40×24
Pit10	63.7	33×23
Pit11	57.7	33×26
Pit12	68.9	50×40
Pit13	60.5	23×25
Pit14	61.0	21×26
Pit15	55.0	20×15
Pit16	44.0	18×16
Pit17	57.5	20×23
Pit18	62.3	26×25
Pit19	27.3	17×19
Pit20	37.9	20×25
Pit21	57.8	18×18
Pit22	28.6	21×19
Pit23	34.4	23×22
Pit24	24.2	20×18
Pit25	22.4	24×22
Pit26	14.4	14×20
Pit27	14.4	23×43
Pit28	62.2	36×24
Pit29	41.6	30×20
Pit30	28.7	17×20
Pit31	53.0	19×25
Pit32	37.7	18×28
Pit33	41.1	28×30
Pit34	21.9	31×25
Pit35	23.6	30×15
Pit36	24.4	27×33
Pit37	60.0	75×40

Pit 群 B 観察表

Pit番号	深さ cm	径 cm
Pit1	34.2	24×18
Pit2	32.9	19×26
Pit3	36.7	22×25
Pit4	13.9	(10×20)
Pit5	55.6	15×30
Pit6	50.0	15×18
Pit7	65.0	25×18
Pit8	60.6	15×21
Pit9	45.7	29×22
Pit10	22.5	30×30
Pit11	62.7	24×20
Pit12	59.8	25×33
Pit13	48.2	20×22
Pit14	34.4	(13×25)
Pit15	30.2	(25×20)
Pit16	21.5	(15×33)
Pit17	53.5	24×22
Pit18	46.4	25×25
Pit19	—	24×26
Pit20	61.0	29×23
Pit21	37.8	22×16
Pit22	43.0	(40×23)
Pit23	56.0	20×25
Pit24	40.0	17×15
Pit25	21.0	16×19
Pit26	32.8	53×23
Pit27	40.8	28×28
Pit28	31.0	21×18
Pit29	17.4	16×18
Pit30	41.4	36×18
Pit31	43.5	30×25
Pit32	38.6	(30×15)
Pit33	23.4	22×18
Pit34	40.6	14×12
Pit35	42.3	33×27
Pit36	24.5	23×25
Pit37	49.4	22×27
Pit38	21.1	21×18
Pit39	46.4	30×23
Pit40	55.2	28×22
Pit41	51.9	27×24
Pit42	53.7	24×22
Pit43	27.3	30×26
Pit44	54.4	26×24
Pit45	67.9	24×26
Pit46	64.4	26×30
Pit47	39.2	60×58
Pit48	35.7	63×57
Pit49	40.6	32×36
Pit50	47.1	30×(40)

Pit番号	深さ cm	径 cm
Pit51	19.8	(18×24)
Pit52	42.3	(19)×20
Pit53	30.7	35×21
Pit54	38.2	24×25
Pit55	54.2	30×30
Pit56	45.8	23×21
Pit57	62.3	44×50
Pit58	38.5	27×33
Pit59	25.1	19×25
Pit60	12.8	21×23
Pit61	59.4	(65)×33
Pit62	60.7	46×22
Pit63	30.2	60×80
Pit64	23.1	(32×65)
Pit65	59.0	30×48
Pit66	43.9	37×44
Pit67	16.8	30×22
Pit68	34.0	28×(23)
Pit69	26.5	23×23
Pit70	40.8	28×30
Pit71	48.6	18×21
Pit72	19.8	27×18
Pit73	56.7	30×28
Pit74	34.9	24×24
Pit75	40.7	(40×60)
Pit76	38.4	36×45
Pit77	42.7	27×30
Pit78	39.4	(25)×25
Pit79	19.0	23×23
Pit80	40.6	30×23
Pit81	10.2	13×16
Pit82	54.1	27×35
Pit83	21.5	44×28
Pit84	20.6	15×22
Pit85	42.8	26×23
Pit86	29.5	25×35
Pit87	28.8	35×33
Pit88	13.8	23×26
Pit89	14.1	33×29
Pit90	16.0	18×25
Pit91	40.8	35×32
Pit92	16.0	24×24
Pit93	9.6	(25×30)
Pit94	12.1	27×38
Pit95	9.9	32×20
Pit96	30.9	(25×50)
Pit97	16.6	14×20
Pit98	22.4	26×32
Pit99	16.7	20×20
Pit100	17.0	14×11

Pit 群 C 観察表

Pit番号	深さ cm	径 cm	堆積土
Pit1	9.6	36×47	黒褐色土
Pit2	20.0	26×28	黒褐色土
Pit3	21.2	25×22	黒褐色土
Pit4	24.3	33×38	黒褐色土
Pit5	第45号竪穴住居跡のピットに変更したため欠番		
Pit6	28.4	27×33	黒褐色土
Pit7	21.0	23×33	黒褐色土
Pit8	第45号竪穴住居跡のピットに変更したため欠番		
Pit9	35.6	33×26	黒褐色土
Pit10	23.4	25×52	黒褐色土
Pit11	26.2	50×30	黒褐色土
Pit12	31.8	21×27	黒褐色土
Pit13	21.3	26×24	黒褐色土
Pit14	15.8	20×18	黒褐色土
Pit15	11.5	23×23	黒褐色土
Pit16	16.1	(19×23)	黒褐色土
Pit17	25.9	(23)×21	黒褐色土
Pit18	18.5	28×30	黒褐色土
Pit19	22.2	26×24	—
Pit20	26.6	(26)×30	褐色土
Pit21	35.5	36×53	暗褐色土
Pit22	13.0	29×26	黒褐色土
Pit23	第45号竪穴住居跡のピットに変更したため欠番		
Pit24	43.3	60×80	黒褐色土
Pit25	43.9	25×26	暗褐色土
Pit26	26.5	34×45	黒褐色土
Pit27	8.6	22×28	黒褐色土
Pit28	29.8	27×47	—
Pit29	34.3	30×39	—
Pit30	第45号竪穴住居跡のピットに変更したため欠番		
Pit31	53.0	52×44	黒褐色土
Pit32	—	85×55	褐色土
Pit33	34.6	29×30	—
Pit34	32.9	27×34	—
Pit35	52.9	17×26	—
Pit36	21.4	29×38	—
Pit37	47.0	(30×70)	—
Pit38	22.3	32×(30)	暗褐色土
Pit39	34.6	57×(25)	暗褐色土
Pit40	42.3	(40)×38	暗褐色土
Pit41	26.0	31×21	—
Pit42	56.8	32×24	—
Pit43	43.9	18×13	—
Pit44	56.7	25×20	—
Pit45	16.2	50×25	—
Pit46	第45号竪穴住居跡のピットに変更したため欠番		
Pit47	40.9	50×36	—
Pit48	19.4	19×24	—
Pit49	10.1	35×90	—
Pit50	42.0	20×30	—

Pit番号	深さ cm	径 cm	堆積土
Pit51	11.6	18×20	—
Pit52	11.1	30×20	—
Pit53	17.4	30×35	—
Pit54	26.4	18×20	褐色土
Pit55	23.4	18×24	褐色土
Pit56	36.1	26×26	褐色土
Pit57	16.4	30×30	暗褐色土
Pit58	43.6	(28)×31	暗褐色土
Pit59	42.6	(29)×37	暗褐色土
Pit60	36.6	58×41	暗褐色土
Pit61	15.3	16×16	—
Pit62	23.1	44×40	—
Pit63	51.1	18×22	—
Pit64	28.4	40×40	褐色土
Pit65	42.9	30×42	黒褐色土
Pit66	17.0	30×30	褐色土
Pit67	21.8	41×30	—
Pit68	7.7	(13)×28	黒褐色土
Pit69	63.1	32×38	黒褐色土
Pit70	28.2	30×35	暗褐色土
Pit71	44.6	48×60	暗褐色土
Pit72	56.3	50×20	暗褐色土
Pit73	30.9	32×28	黒褐色土
Pit74	51.8	50×43	黒褐色土
Pit75	18.8	(20×23)	黒褐色土
Pit76	45.0	43×35	黒褐色土
Pit77	29.6	32×30	—
Pit78	28.7	37×28	暗褐色土
Pit79	36.1	22×(30)	暗褐色土
Pit80	26.7	48×28	暗褐色土
Pit81	23.0	35×20	—
Pit82	46.4	42×60	黒褐色土
Pit83	63.4	59×57	黒褐色土
Pit84	41.2	35×30	褐色土
Pit85	24.2	23×23	黒褐色土
Pit86	27.0	26×32	暗褐色土
Pit87	32.0	34×32	暗褐色土
Pit88	16.0	25×25	—
Pit89	15.5	20×23	—
Pit90	15.8	32×24	—
Pit91	14.7	21×23	—
Pit92	12.4	27×29	—
Pit93	62.8	65×50	暗褐色土
Pit94	54.8	23×26	—
Pit95	13.0	60×50	黒褐色土
Pit96	15.2	11×18	黒褐色土
Pit97	21.8	25×21	—
Pit98	38.4	30×27	黒褐色土
Pit99	31.8	27×27	—
Pit100	54.8	29×35	褐色土

Pit番号	深さ cm	径 cm	堆積土
Pit101	63.0	30×40	—
Pit102	37.0	40×31	暗褐色土
Pit103	32.1	34×34	—
Pit104	11.6	24×25	—
Pit105	25.5	20×20	—
Pit106	26.7	26×20	—
Pit107	51.0	45×30	暗褐色土
Pit108	20.1	40×25	—
Pit109	15.7	30×25	—
Pit110	34.1	27×30	暗褐色土
Pit111	15.1	45×45	—
Pit112	16.0	25×25	黒褐色土
Pit113	46.9	(35)×35	黒褐色土
Pit114	46.7	(25)×25	黒褐色土
Pit115	51.2	43×46	黒褐色土
Pit116	19.7	24×24	—
Pit117	13.6	22×25	—
Pit118	24.7	35×17	—
Pit119	6.0	23×20	—
Pit120	22.7	35×18	—
Pit121	13.5	15×14	—
Pit122	13.2	27×31	—
Pit123	19.2	12×10	—
Pit124	53.8	25×43	—
Pit125	42.0	36×50	—
Pit126	21.7	38×27	—
Pit127	37.7	30×34	—
Pit128	13.2	12×10	—
Pit129	11.4	18×17	—
Pit130	49.4	35×27	—
Pit131	45.8	32×45	—
Pit132	38.5	38×25	—
Pit133	—	24×22	—
Pit134	26.8	19×14	—
Pit135	14.2	22×22	—
Pit136	40.7	39×32	暗褐色土
Pit137	9.8	32×27	—
Pit138	16.5	33×24	—
Pit139	19.4	30×30	—
Pit140	23.1	37×20	—
Pit141	19.1	22×20	—
Pit142	22.5	22×22	—
Pit143	33.7	72×85	黒褐色土
Pit144	24.2	35×25	—
Pit145	16.7	26×26	—
Pit146	29.0	25×30	—
Pit147	27.2	(20)×25	—
Pit148	30.0	(25)×25	—
Pit149	45.6	24×35	—
Pit150	36.8	(25×25)	黒色土

Pit番号	深さ cm	径 cm	堆積土
Pit151	5.7	45×(25)	黒色土
Pit152	27.8	24×28	—
Pit153	25.8	33×25	—
Pit154	7.9	35×(50)	—
Pit155	11.5	40×50	—
Pit156	22.7	25×33	—
Pit157	12.1	(55)×62	—
Pit158	26.7	26×28	—
Pit159	16.7	40×23	—
Pit160	17.5	20×21	—
Pit161	19.0	20×40	—
Pit162	35.5	31×35	—
Pit163	27.1	(25)×42	暗褐色土
Pit164	23.1	43×40	黒色土
Pit165	24.8	33×35	—
Pit166	16.1	40×56	暗褐色土
Pit167	31.3	25×20	—
Pit168	18.2	24×22	—
Pit169	36.9	33×23	—
Pit170	7.3	17×24	—
Pit171	12.8	26×24	—
Pit172	22.0	18×25	—
Pit173	19.3	22×18	—
Pit174	15.2	21×(11)	—
Pit175	57.3	40×32	—
Pit176	40.7	30×40	—
Pit177	16.9	30×30	—
Pit178	8.0	28×28	—
Pit179	9.6	20×20	—
Pit180	66.1	40×40	—
Pit181	39.1	30×33	—
Pit182	11.5	10×25	—
Pit183	46.5	25×20	—
Pit184	46.1	40×33	—
Pit185	22.0	28×23	—
Pit186	11.0	28×35	—

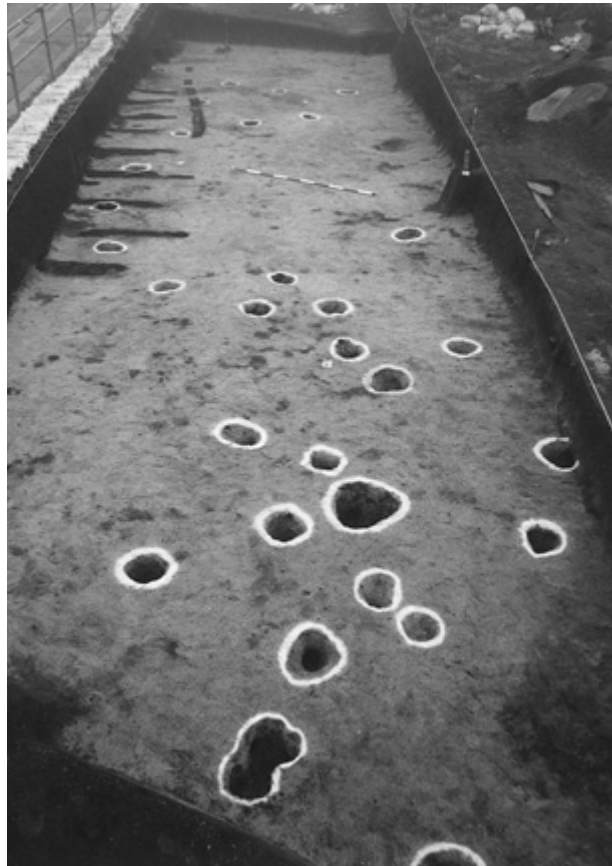
Pit 群 D 観察表

Pit 番号	深さ cm	径 cm
Pit1	15.4	32×32
Pit2	68.4	38×42
Pit3	18.7	36×32
Pit4	6.9	34×28
Pit5	9.6	20×16
Pit6	31.3	22×26
Pit7	44.6	26×22
Pit8	64.1	30×30
Pit9	12.9	16×16
Pit10	20.1	24×26
Pit11	9.9	20×18
Pit12	8.9	20×26
Pit13	31.9	26×34
Pit14	7.7	16×12
Pit15	10.0	(68×20)
Pit16	33.2	20×14
Pit17	30.0	22×18
Pit18	19.4	46×48
Pit19	23.4	18×20
Pit20	14.1	48×22
Pit21	25.0	26×20
Pit22	32.9	20×22
Pit23	46.4	22×26
Pit24	22.5	14×16
Pit25	11.1	16×14
Pit26	38.4	14×20
Pit27	18.1	22×20
Pit28	19.1	26×44
Pit29	14.4	16×16
Pit30	35.9	32×24
Pit31	20.1	20×18
Pit32	21.8	20×20
Pit33	12.0	24×16
Pit34	60.3	24×20
Pit35	32.7	24×18
Pit36	23.8	20×18
Pit37	37.2	42×28
Pit38	15.5	26×20
Pit39	41.3	48×34
Pit40	40.2	26×36
Pit41	15.8	18×12
Pit42	29.7	36×34
Pit43	13.2	16×14
Pit44	30.7	32×28
Pit45	18.0	26×22
Pit46	29.0	32×28
Pit47	20.5	28×26
Pit48	15.6	18×14
Pit49	9.0	22×16
Pit50	15.5	22×26

Pit番号	深さ cm	径 cm
Pit51	12.0	22×22
Pit52	19.1	18×24
Pit53	20.0	28×24
Pit54	27.4	26×22
Pit55	19.2	28×30
Pit56	14.7	26×30
Pit57	33.5	22×26
Pit58	43.2	20×20
Pit59	13.7	18×22
Pit60	62.0	28×32
Pit61	30.3	40×38
Pit62	16.7	22×26
Pit63	31.5	38×28
Pit64	12.0	24×28
Pit65	26.5	26×58
Pit66	34.0	26×28
Pit67	29.1	24×30
Pit68	32.9	30×26
Pit69	20.5	14×30
Pit70	22.7	(50×24)
Pit71	17.2	26×22
Pit72	29.4	22×26
Pit73	10.6	16×18
Pit74	15.4	18×26
Pit75	12.5	22×20
Pit76	21.3	36×26
Pit77	23.8	58×86
Pit78	37.1	24×18
Pit79	6.5	14×18
Pit80	44.2	52×60
Pit81	41.5	68×40
Pit82	46.7	26×32
Pit83	12.3	18×18
Pit84	37.8	20×26
Pit85	45.9	32×22
Pit86	47.2	24×36
Pit87	35.2	30×44
Pit88	49.0	28×22
Pit89	34.1	34×24
Pit90	34.5	40×40
Pit91	8.2	20×18
Pit92	15.7	16×14
Pit93	17.0	24×26
Pit94	22.3	24×32
Pit95	18.1	38×28
Pit96	15.1	20×18
Pit97	23.2	18×24
Pit98	16.3	22×16
Pit99	31.1	22×22
Pit100	16.7	22×20

Pit番号	深さ cm	径 cm
Pit101	65.7	24×30
Pit102	18.1	16×18
Pit103	15.3	26×24
Pit104	8.9	18×18
Pit105	11.0	24×18
Pit106	41.1	28×28
Pit107	10.3	30×38
Pit108	40.8	32×26
Pit109	11.5	22×18
Pit110	10.8	24×28
Pit111	14.0	18×14
Pit112	40.9	22×18
Pit113	6.7	14×16
Pit114	26.0	18×18
Pit115	12.7	18×16
Pit116	17.3	22×18
Pit117	26.5	28×28
Pit118	18.4	22×22
Pit119	23.1	34×32
Pit120	18.5	28×24
Pit121	11.3	18×18
Pit122	16.9	18×16
Pit123	15.4	16×18
Pit124	14.8	16×20
Pit125	23.4	34×28
Pit126	10.9	16×18
Pit127	17.8	22×18
Pit128	14.9	22×20
Pit129	16.3	12×14
Pit130	16.6	20×16
Pit131	11.4	18×16
Pit132	25.6	16×22
Pit133	16.8	34×22
Pit134	35.5	24×24
Pit135	16.8	22×22
Pit136	12.3	26×22
Pit137	27.7	30×30
Pit138	31.7	28×30
Pit139	13.7	18×20
Pit140	35.7	32×24
Pit141	14.0	26×18
Pit142	43.5	38×32
Pit143	38.7	36×28
Pit144	42.8	30×42
Pit145	35.0	18×18
Pit146	35.0	30×26
Pit147	22.1	38×50
Pit148	26.2	26×22
Pit149	19.1	28×24
Pit150	42.2	34×32

Pit番号	深さ cm	径 cm
Pit151	33.3	22×18
Pit152	49.2	22×20
Pit153	7.3	18×18
Pit154	33.8	30×20
Pit155	6.9	(16×18)
Pit156	35.9	(30×30)
Pit157	20.3	18×22
Pit158	9.0	18×18
Pit159	12.4	16×14
Pit160	7.0	14×20
Pit161	14.0	(108×56)
Pit162	38.1	22×42
Pit163	25.5	42×24
Pit164	35.2	28×36
Pit165	22.7	16×22
Pit166	26.9	14×18
Pit167	23.7	50×62
Pit168	41.7	44×50
Pit169	21.3	18×20
Pit170	20.7	18×18
Pit171	12.8	18×16
Pit172	20.6	20×28
Pit173	39.7	38×32
Pit174	23.5	22×30
Pit175	23.5	24×22
Pit176	22.7	18×22
Pit177	21.2	26×18
Pit178	14.1	24×16
Pit179	24.4	26×24
Pit180	32.5	18×18
Pit181	39.2	24×26
Pit182	13.3	20×15
Pit183	12.9	22×15
Pit184	15.3	30×20
Pit185	18.3	58×35
Pit186	5.0	15×15
Pit187	4.4	13×15
Pit188	8.2	14×17
Pit189	8.2	30×18
Pit190	7.9	20×26
Pit191	7.6	23×15
Pit192	51.1	40×46
Pit193	34.6	50×40
Pit194	17.7	30×25
Pit195	24.9	(25×52)
Pit196	17.6	56×54
Pit197	8.2	15×15
Pit198	10.0	(30×30)



Pit 群B 完掘状況



Pit 群C 検出作業状況

() は残存部分の数値

5 集石遺構

集石遺構調査区のほぼ中央部に1基検出されている。

第1号集石遺構（図156・157）

〔位置〕 調査区中央のMN-87グリッドに位置する。

〔検出状況〕 第三層中位面で数個の礫とともに暗褐色の落ち込みを確認した。

〔形態・規模〕 直径約70cmのほぼ円形の掘り方に、握り拳大の礫が148個を円形に積み重ねられた状態で検出している。

〔堆積土〕 堆積土は炭化物を含んだ層が確認された。

〔出土遺物〕 確認面から数点の土器片が出土している。

6 礫群

礫群は調査区東側の農道直下で1カ所検出されている。

第1号礫群（図158）

〔位置〕 調査区東側のNC・ND-93・94グリッドに位置する。

〔検出状況〕 第三層を掘り下げ中に被熱を受けたと思われる多数の礫をが上面で検出した。

〔規模〕 径3～20cm程の礫が1m50cm×3m50cmの範囲に集中している。

〔出土遺物〕 ほぼ同じレベルから土器片が出土している。

7 畠跡

畠跡は調査区の東側で1カ所検出されている。

第1号畠跡（図159）

〔位置〕 調査区東側のNG～NI-94・95グリッドに位置する。

〔検出状況〕 調査区東側の遺構密集区の南側を拡張して掘り下げ、第二層上面で十和田a降下火山が畠跡の畝間に堆積したと思われる溝状の範囲を数列検出した。本来は北側にも広がっていたものと考えられる。

〔規模〕 北東から南西にかけて、長さ5cm～1m、幅15～30cmで十和田a降下火山灰の範囲が列状に点在する。それらの深さは3～12cmである。

〔堆積土〕 確認された畝間の堆積土は、にぶい黄褐色土の十和田a降下火山灰層である。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

集石1

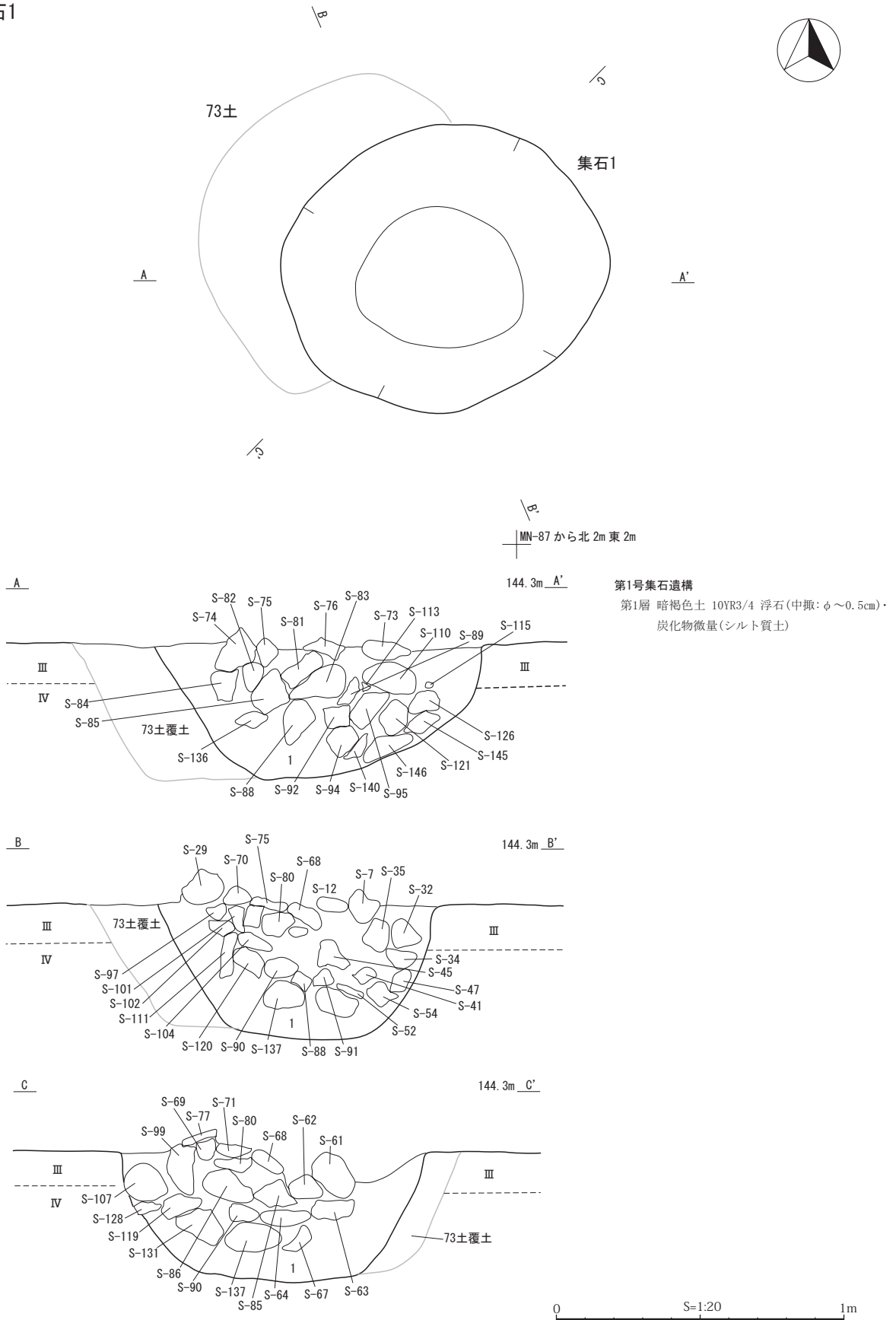
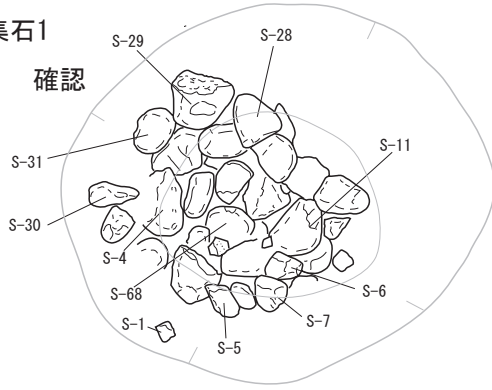


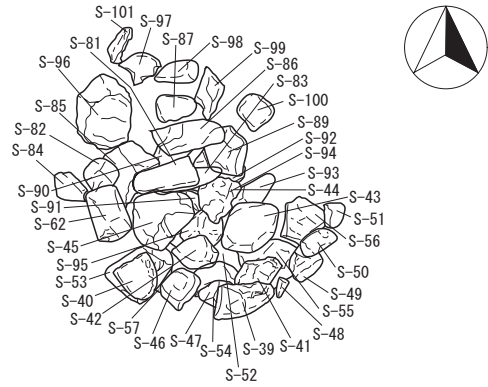
図156 第1号集石遺構(1)

集石1

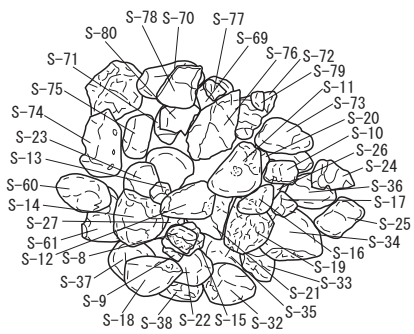
確認



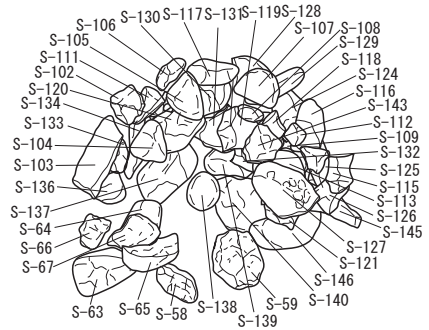
MN-87 から北 2m 東 2m



MN-87 から北 2m 東 2m



MN-87 から北 2m 東 2m



MN-87 から北 2m 東 2m

0 S=1:20 1m



図157 第1号集石遺構 (2)

第1号集石遺構 石器観察表

番号	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	石質	備考	番号	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (kg)	石質	備考
S-1	5.5×4.3×4.2	0.1	デイサイト		S-41	9.9×12.2×7.0	1.2	デイサイト	
S-2	10.3×7.4×8.1	0.8	安山岩		S-42	12.3×9.4×7.4	0.9	安山岩	被熱痕
S-3	15.4×14.3×7.0	2.5	安山岩		S-43	18.6×15.2×11.5	4.8	安山岩	
S-4	9.4×6.7×4.1	0.3	デイサイト		S-44	11.0×13.9×7.2	1.4	安山岩	
S-5	12.5×10.5×5.9	0.3	安山岩	S-98と接合、被熱痕	S-45	17.2×16.8×10.5	4.3	デイサイト	
S-6	10.0×8.9×7.7	0.5	流紋岩		S-46	7.7×11.3×5.7	1.6	安山岩	被熱痕
S-7	10.3×9.5×9.5	1.2	安山岩		S-47	10.0×9.0×5.9	0.9	安山岩	
S-8	7.9×9.4×7.5	0.4	安山岩		S-48	7.0×13.8×5.2	0.6	デイサイト	
S-9	7.6×5.6×5.0	0.2	チャート		S-49	11.9×8.3×7.6	1.2	チャート	
S-10	17.0×14.6×10.1	0.7	安山岩	S-19・24と接合、被熱痕	S-50	8.5×7.7×4.4	0.4	安山岩	
S-11	16.9×11.9×5.0	1.7	デイサイト	被熱痕	S-51	11.4×10.3×6.5	0.6	安山岩	
S-12	14.8×12.0×4.1	0.8	安山岩		S-52	15.0×10.5×2.7	0.5	安山岩	
S-13	7.6×5.7×6.3	0.4	デイサイト		S-53	15.4×14.2×6.3	2.1	安山岩	被熱痕
S-14	13.0×14.8×9.8	2.5	安山岩		S-54	17.6×9.4×8.2	1.9	安山岩	被熱痕
S-15	13.0×10.1×7.8	1.3	安山岩		S-55	16.3×14.4×12.8	3.7	安山岩	
S-16	13.0×9.0×4.6	0.9	安山岩	被熱痕	S-56	S-116と接合	3.3	—	被熱痕
S-17	12.2×8.9×7.4	1.2	安山岩	被熱痕	S-57	12.6×9.7×4.7	0.8	安山岩	
S-18	11.5×15.5×5.3	1.2	安山岩	被熱痕	S-58	14.3×5.7×7.3	1.0	安山岩	被熱痕
S-19	S-10・24と接合	2.5	—	被熱痕	S-59	17.3×13.4×9.3	2.9	デイサイト	被熱痕
S-20	10.3×14.5×7.7	2.0	デイサイト		S-60	15.4×8.2×9.2	1.9	安山岩	
S-21	14.0×14.4×10.3	3.5	安山岩		S-61	19.7×12.3×12.8	3.9	流紋岩	
S-22	13.5×11.9×7.7	1.8	安山岩		S-62	15.7×9.2×7.8	1.8	デイサイト	
S-23	10.0×8.3×8.4	1.2	安山岩	被熱痕	S-63	17.1×12.0×7.9	2.5	安山岩	
S-24	S-10・19と接合	0.3	—	被熱痕	S-64	13.8×8.7×4.8	1.1	安山岩	
S-25	12.2×9.6×5.3	0.8	安山岩		S-65	12.4×14.4×6.3	1.8	安山岩	被熱痕
S-26	19.6×12.0×8.3	2.3	流紋岩		S-66	14.4×9.2×8.1	1.5	安山岩	
S-27	16.8×9.6×10.8	2.1	安山岩		S-67	13.6×7.5×7.8	1.3	安山岩	
S-28	11.6×13.7×5.3	1.2	安山岩		S-68	12.1×15.0×5.6	1.8	安山岩	
S-29	13.5×12.8×13.0	3.0	安山岩	被熱痕	S-69	10.9×11.5×4.4	0.9	デイサイト	
S-30	13.4×8.2×4.6	0.7	安山岩		S-70	16.6×8.6×6.2	1.8	流紋岩	被熱痕
S-31	12.6×10.4×5.0	1.0	安山岩		S-71	10.9×7.6×4.6	0.7	安山岩	
S-32	12.5×9.0×8.5	1.5	安山岩		S-72	14.0×8.2×7.6	1.1	安山岩	
S-33	9.9×9.2×3.3	0.4	安山岩		S-73	15.5×10.2×6.8	2.1	流紋岩	
S-34	15.8×18.0×7.5	3.3	安山岩	被熱痕	S-74	18.7×10.2×15.2	3.3	安山岩	被熱痕
S-35	17.4×12.2×12.3	4.4	流紋岩		S-75	16.4×10.0×7.6	2.2	流紋岩	被熱痕
S-36	15.3×13.2×9.5	2.8	安山岩		S-76	12.4×9.8×8.2	1.7	流紋岩	
S-37	12.0×12.5×9.5	2.5	安山岩		S-77	10.3×6.1×5.2	0.4	安山岩	
S-38	11.5×13.7×7.7	1.9	安山岩		S-78	17.7×15.5×17.9	4.3	安山岩	被熱痕
S-39	14.4×11.5×6.5	1.8	流紋岩		S-79	5.2×3.6×1.8	30(g)	安山岩	
S-40	12.8×10.4×8.0	1.6	安山岩		S-80	10.5×11.3×9.1	1.4	安山岩	

番号	長さ×幅×高さ (cm)	重量 (kg)	石質	備考
S-81	15.0×9.0×5.0	1.3	安山岩	
S-82	10.1×10.2×6.9	1.1	安山岩	
S-83	19.8×11.5×7.8	2.3	安山岩	被熱痕
S-84	20.0×15.1×12.0	1.2	安山岩	S-125・147と接合、 被熱痕
S-85	11.1×11.3×9.8	1.9	デイサイト	被熱痕
S-86	18.6×18.3×9.2	4.9	安山岩	被熱痕
S-87	12.8×8.4×4.8	0.7	安山岩	被熱痕
S-88	13.4×8.0×6.2	0.9	安山岩	
S-89	12.5×12.9×6.2	1.9	デイサイト	
S-90	14.0×7.6×6.9	1.2	安山岩	
S-91	10.7×10.3×6.7	0.9	安山岩	
S-92	13.5×12.3×9.9	2.7	安山岩	
S-93	10.9×7.6×7.3	1.0	安山岩	
S-94	8.9×7.2×7.4	1.1	安山岩	
S-95	15.2×11.8×9.3	2.9	安山岩	
S-96	18.7×14.8×9.8	2.8	安山岩	
S-97	15.5×11.6×5.9	0.6	デイサイト	S-101・112・114・122・ 123と接合、被熱痕
S-98	S-5と接合	0.9	—	被熱痕
S-99	17.5×14.7×7.1	2.1	安山岩	被熱痕
S-100	11.3×10.2×10.2	1.7	安山岩	
S-101	S-97・112・114・ 122・123と接合	0.3	—	被熱痕
S-102	9.7×6.9×6.7	0.6	安山岩	
S-103	19.8×8.2×7.5	2.9	安山岩	被熱痕
S-104	9.0×10.9×5.2	0.9	デイサイト	
S-105	13.4×9.8×8.7	1.8	デイサイト	被熱痕
S-106	10.1×6.8×5.7	0.6	安山岩	
S-107	14.0×13.2×12.9	3.9	安山岩	
S-108	13.5×6.3×3.6	0.2	流紋岩	
S-109	10.5×7.9×5.3	0.6	安山岩	
S-110	15.9×16.0×8.9	3.8	安山岩	被熱痕
S-111	17.0×17.5×7.3	3.6	安山岩	被熱痕
S-112	S-97・101・114・ 122・123と接合	0.1	—	被熱痕
S-113	17.3×10.7×7.9	2.2	安山岩	被熱痕
S-114	S-97・101・112・ 122・123と接合	0.2	—	被熱痕
S-115	10.0×6.9×4.9	0.5	流紋岩	
S-116	17.8×15.4×11.2	1.4	安山岩	S-56と接合
S-117	14.4×9.4×8.0	1.6	安山岩	被熱痕
S-118	S-108と接合	0.1	—	
S-119	12.9×10.9×8.7	1.6	安山岩	
S-120	19.0×11.4×7.0	2.1	流紋岩	被熱痕

番号	長さ×幅×高さ (cm)	重量 (kg)	石質	備考
S-121	9.3×9.2×7.2	0.9	安山岩	
S-122	S-97・101・112・ 114・123と接合	50(g)	—	被熱痕
S-123	S-97・101・112・ 114・122と接合	30(g)	—	被熱痕
S-124	12.6×11.4×7.0	1.6	安山岩	
S-125	S-84・147と接合	2.3	—	被熱痕
S-126	11.8×7.2×8.5	1.7	安山岩	
S-127	9.4×12.2×8.9	1.3	安山岩	
S-128	11.5×9.8×3.7	0.8	安山岩	
S-129	15.3×11.5×4.2	1.3	安山岩	
S-130	14.5×10.0×9.9	2.5	安山岩	被熱痕
S-131	16.7×12.0×12.7	3.9	安山岩	被熱痕
S-132	19.5×8.7×11.8	2.7	流紋岩	S-142と接合、 被熱痕
S-133	8.0×10.2×6.4	0.8	安山岩	
S-134	17.9×9.7×7.6	2.0	チャート	
S-135	10.0×10.6×5.5	1.7	安山岩	被熱痕
S-136	8.5×7.7×6.3	0.6	安山岩	
S-137	16.5×12.5×9.7	3.8	安山岩	
S-138	11.0×9.5×4.6	0.8	安山岩	
S-139	14.4×10.2×5.3	1.5	安山岩	
S-140	14.8×14.4×7.9	2.1	安山岩	被熱痕
S-141	13.7×11.0×5.3	1.9	安山岩	被熱痕
S-142	S-132と接合	0.3	—	被熱痕
S-143	11.0×9.1×8.5	1.7	安山岩	
S-144	9.2×9.1×6.2	1.0	安山岩	被熱痕
S-145	23.8×13.0×6.6	1.8	安山岩	
S-146	20.3×14.5×9.9	3.7	安山岩	
S-147	S-84・125と接合	2.7	—	被熱痕
S-148	7.6×6.9×3.8	0.3	流紋岩	

第1号礫群

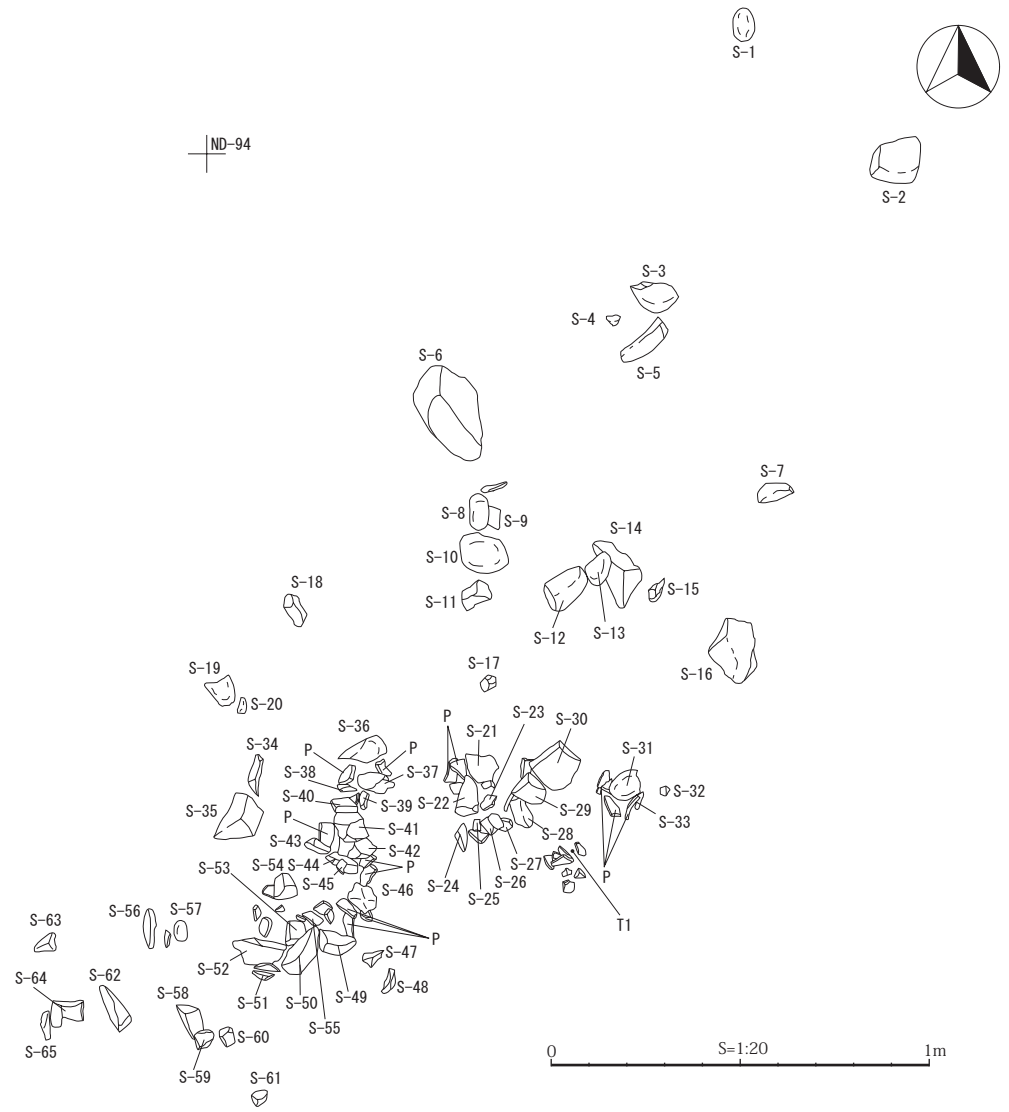


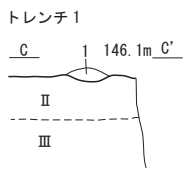
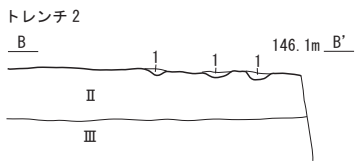
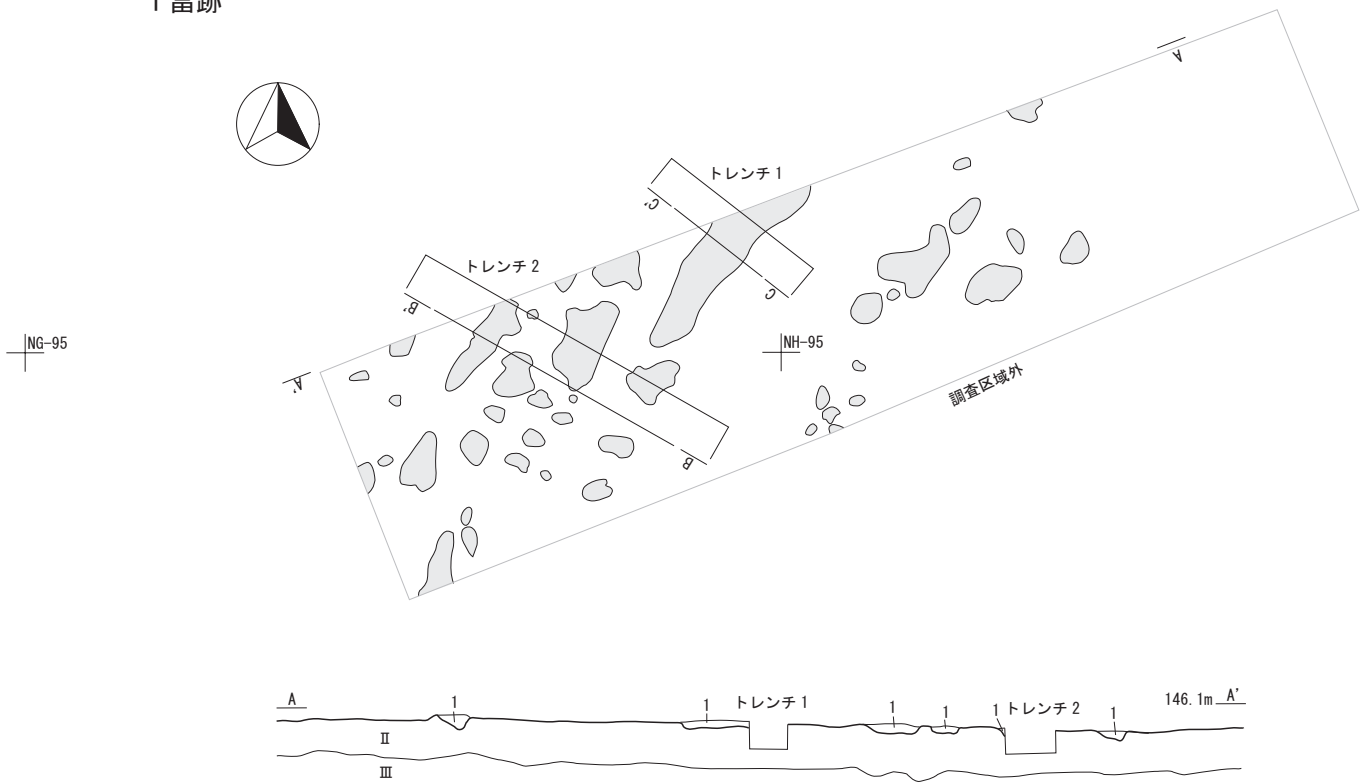
図158 第1号礫群

第1号礫群 観察表

番号	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
S-1	7.8×5.0×4.7	52.4	軽石	
S-2	15.1×11.2×7.7	2255.3	安山岩	
S-3	9.8×10.0×5.1	654.1	安山岩	
S-4	3.6×3.8×2.9	40.2	凝灰岩	
S-5	15.7×7.2×6.0	702.8	泥岩	
S-6	24.7×19.9×12.8	10.6(kg)	安山岩	
S-7	11.5×7.4×5.2	552.6	安山岩	被熱痕
S-8	12.0×4.8×5.4	304.0	安山岩	被熱痕
S-9	4.9×5.3×1.5	61.7	安山岩	
S-10	13.8×10.3×5.3	1058.9	安山岩	
S-11	6.2×9.0×2.4	145.0	安山岩	
S-12	14.3×8.8×4.7	913.0	凝灰岩	
S-13	9.1×6.8×4.1	355.9	安山岩	
S-14	18.3×7.2×9.8	1454.0	安山岩	
S-15	7.2×4.1×3.7	94.9	安山岩	
S-16	14.0×15.3×9.3	1776.0	凝灰岩	
S-17	4.2×4.8×3.8	91.0	流紋岩	
S-18	7.5×4.0×4.3	138.1	安山岩	
S-19	不明	—	—	
S-20	4.4×3.2×2.0	36.0	泥岩	
S-21	10.3×10.6×6.3	1311.5	安山岩	S-25・30・38・59・60と 接合
S-22	10.1×6.4×2.8	105.7	安山岩	
S-23	5.4×4.7×3.7	146.6	安山岩	
S-24	4.7×3.3×2.4	34.9	凝灰岩	
S-25	5.6×2.5×2.6	18.9	安山岩	S-21・30・38・59・60と 接合
S-26	8.9×6.0×3.7	143.9	安山岩	
S-27	3.2×2.2×2.2	10.8	凝灰岩	
S-28	9.1×7.9×5.4	516.5	安山岩	
S-29	7.3×4.4×2.7	59.3	凝灰岩	その他2つ
S-30	10.4×11.8×6.8	1600.0	安山岩	S-21・25・38・59・60と 接合
S-31	9.4×8.1×4.7	501.3	安山岩	
S-32	2.9×2.6×2.6	21.5	安山岩	被熱痕
S-33	6.6×2.5×1.7	39.8	泥岩	
S-34	10.3×3.6×5.2	170.5	安山岩	
S-35	12.8×10.9×7.8	1164.0	安山岩	
S-36	不明	—	—	
S-37	9.5×5.2×2.6	130.8	安山岩	S-63と接合
S-38	5.9×3.7×2.0	25.5	安山岩	S-21・25・30・59・60と 接合
S-39	6.8×4.5×2.6	55.8	安山岩	
S-40	6.2×2.8×6.1	133.9	安山岩	

番号	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
S-41	12.3×6.7×3.0	390.9	安山岩	
S-42	10.2×7.2×2.8	250.8	安山岩	
S-43	7.0×4.8×2.2	63.7	安山岩	S-44と接合
S-44	10.8×3.9×2.1	100.1	安山岩	S-43と接合
S-45	3.7×2.4×0.9	6.6	安山岩	
S-46	8.3×7.7×2.4	119.2	安山岩	
S-47	8.3×5.0×1.1	29.9	安山岩	被熱痕
S-48	7.3×3.0×5.0	90.6	安山岩	
S-49	9.9×6.2×5.3	536.8	チャート	
S-50	13.8×7.9×7.7	619.4	安山岩	S-52・58・62と接合、 被熱痕
S-51	5.8×2.8×1.8	23.6	安山岩	被熱痕
S-52	15.4×7.8×8.2	965.9	安山岩	S-50・58・62と接合、 被熱痕
S-53	7.3×6.4×5.9	328.7	安山岩	被熱痕
S-54	5.7×6.1×5.9	232.6	安山岩	S-61と接合、 被熱痕
S-55	5.8×4.0×5.8	102.1	安山岩	被熱痕
S-56	11.5×3.6×1.6	52.7	安山岩	
S-57	3.7×5.3×1.7	32.8	安山岩	
S-58	13.8×5.2×5.5	321.5	安山岩	S-50・52・62と接合、 被熱痕
S-59	5.5×4.4×5.0	177.4	安山岩	S-21・25・30・38・60と 接合
S-60	5.0×4.4×2.7	67.9	安山岩	S-21・25・30・38・59と 接合、被熱痕
S-61	5.5×4.0×3.8	90.5	安山岩	S-54と接合、 被熱痕
S-62	11.3×6.7×5.7	401.0	安山岩	S-50・52・58と接合、 被熱痕
S-63	7.3×5.0×1.8	50.7	安山岩	S-37と接合
S-64	5.2×8.3×3.3	186.9	閃緑岩	
S-65	6.6×2.4×1.3	18.8	安山岩	

1 畠跡



0 S=1:40 1m

第1号畠跡

第1層 にぶい黄橙 10YR7/4 十和田火山灰層



図159 第1号畠跡

第2節 出土遺物

1 土器

今回の調査で出土した縄文土器は段ボール箱で約620箱分である。

縄文土器は、下記のとおり分類した。詳細については遺物編に記載する。

第Ⅰ群 縄文時代早期の土器(今回の調査では出土していない)

第Ⅱ群 縄文時代前期の土器

1類 円筒下層 a 式に比定される土器

2類 円筒下層 b 式に比定される土器

3類 円筒下層 c 式に比定される土器

4類 円筒下層 d1式に比定される土器

5類 円筒下層 d2式に比定される土器

第Ⅲ類 縄文時代中期の土器

1類 円筒上層 a 式に比定される土器

2類 円筒上層 b 式に比定される土器

3類 円筒上層 c 式に比定される土器

4類 円筒上層 d 式に比定される土器

5類 円筒上層 e 式に比定される土器

6類 榎林式・最花式に比定される土器

7類 大木10式に併行する土器

第Ⅳ群 縄文時代後期の土器(今回の調査では出土していない)

第Ⅴ群 縄文時代晩期の土器(今回の調査では出土していない)

2 石器

出土した石器は、段ボール箱で約125箱、剥片石器約1300点、礫石器約1000点である。前項の土器と同様、詳細については遺物編に記載するため、おおまかな器種分類のみ記載する。

第Ⅰ群 剥片石器

1類 石鏃

a種 有茎 b種 無茎

2類 石槍

3類 石筥

4類 石匙

a種 縦型 b種 横型

5類 石錐

6類 楔形石器

7類 異形石器

8類 不定形石器

第II群 礫石器

10類 石斧

a種 打製石斧 b種 磨製石斧

11類 敲磨器類

a種 磨石 b種 敲石・凹み石 c種 半円状扁平打製石器 d種 北海道式石冠

12類 石皿・台石類

13類 砥石

3 土製品・石製品

縄文時代の土製品約130点、石製品約210点(軽石製品を含む)が出土している。詳細については遺物編に記載する。

土製品

- ・土偶
- ・円盤状土製品
- ・ミニチュア土器

石製品

- ・石製垂飾品(耳飾り他)
- ・石棒
- ・軽石製品
- ・凝灰岩質石製品
- ・琥珀(コハク)

第4章 まとめ

1 遺跡の立地

本遺跡は、五戸川の右岸、標高約135～143mの河岸段丘上に位置する。遺跡の大部分は畑地で、トラクターなどの機械を用いた大規模な耕作が行われている。調査対象区域は畑地を通る農道の拡幅のため、その幅は6～7mで、長さはおよそ200mと細長く、調査面積も約2100㎡と小規模である。

2 検出遺構

本遺跡で検出した遺構は、縄文時代前期から中期にかけての竪穴住居跡39軒（拡張及び建替えて確認できた23軒を含まない）、土坑87基（含溝状土坑1基）、土器埋設遺構26基、ピット群4カ所、集石遺構1基、礫群1カ所、畠跡1カ所の計159である。その他に遺物包含層（捨て場）と盛り土区域が確認されている。

3 出土遺物

本遺跡で出土した遺物は、段ボール箱で約750個分である。ほとんどが縄文時代前期から中期にかけての土器や石器である。この中には中期初頭と思われる土偶も数点出土しているほか、円盤状土製品などの土製品や軽石製の石製品などもみられる。

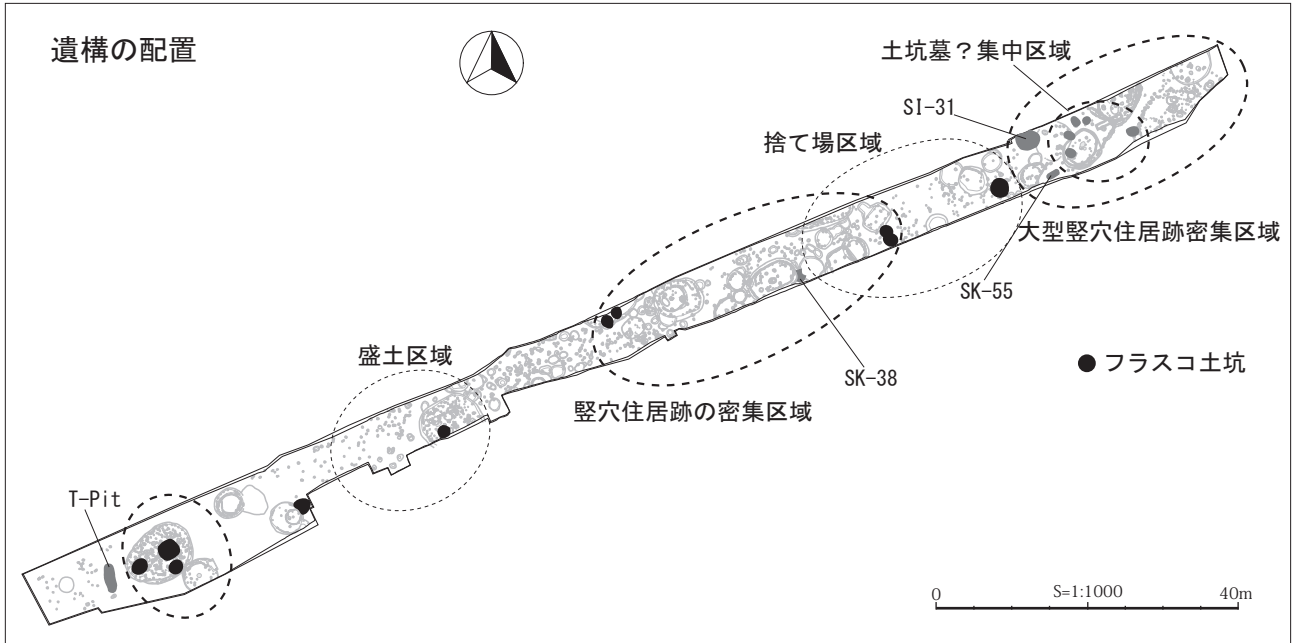
4 まとめ

調査では、農道部分の下部は十和田b降下火山灰のプライマリーな堆積がみられるなど、極めて遺構や遺物の遺存状態が良く、調査区中央部に遺物包含層（捨て場）の存在する。遺跡周辺の畑地は長芋を中心とする大規模な耕作が行われているため、トレンチャー（耕作機械による溝跡）によって地表からおよそ1.5mの深さまで攪乱されており、掘り込みの浅い遺構はほとんど残存していない。

調査した遺構は縄文時代前期から中期を中心とした竪穴住居跡や土坑などで、39軒の竪穴住居跡のうち15軒が拡張や建替えによる重複がみられ、特に調査区の東側は切り合いが激しく、本来見られるはずの中掘浮石層（中央部から西側では中掘浮石が1mほど堆積している）と南部浮石層が欠落している区域が認められるほど重複している。ただ、本遺跡の竪穴住居跡は壁際に壁溝や壁柱穴を持つものが多いため、辛うじてその範囲を確認できたものも少なくない。

竪穴住居跡は、調査区の幅が狭いため半数以上の住居跡が調査区域外にかかり、規模が分かるものは全体の4割に満たない。規模の計測できる住居跡の長径は2～8.5m、短径が2～6.4m、床面積は2.7～14.2㎡で、軸方向は北西をとるものが多く、炉は地床炉、土器埋設炉、石囲炉などがみられる。全体的に小型の住居跡が多く、東側の遺構密集区域にはやや大型の住居跡が分布している。

調査で人骨が出土した土坑墓は3基だが、土坑墓の形態はそれぞれ異なり、竪穴住居跡あるいは竪穴遺構を利用または再利用（SI-31）、円形または楕円形の土坑（SK-38）、隅丸長方形の土坑（SK-55）で上部に配石を伴うなど様々である。また、人骨の出土状況からみた埋葬姿勢も伸展葬（SI-31）、



屈葬(SK-38・SK-55)と相違がみられる。それらの土坑墓から出土した土器は、円筒下層a式期(SI-31)、円筒下層b式期(SK-38)、円筒上層d式期(SK-55)の時期に比定され、土坑の形態や人骨の埋葬方法には、時期的あるいは地域的なものと考えられるが、検出した土坑墓が、時期も形態も相異なるものがそれぞれ1基のみであることから断言はできない。

調査区の中央部にみられる捨て場(遺物包含層)は、遺物を取り上げて直下で検出された遺構の堆積状況から、遺構が埋まりきらない状態の窪地へ、大量の土器や石器が廃棄され包含層が形成されたと考えられる。また、盛り土は住居跡などの構築する際に掘った土と一緒に出土した遺物が堆積し盛り土が作られていると考えられる。それぞれの時期は、捨て場が前期中葉～後葉(円筒下層c～d式期)、盛り土が前期後半～中期初頭(円筒下層d～円筒上層a式期)と思われる。

遺構の配置については、竪穴住居跡の密集する区域、大型のフラスコ状土坑がみられる区域、溝状土坑(落とし穴)がつくられる区域というように、調査区内にある程度配置的なまとまりがみられるが、調査した部分は遺跡範囲に比べ細長く規模的に小さく、今回の調査だけで遺跡の全容を捉えることは難しく時期的な要因も加味して考える必要がある。しかし、調査面積に対する遺構数と遺物量からみれば、青森市三内丸山遺跡や八戸市(旧南郷村)畑内遺跡に匹敵する大集落と考えられる。

最後に発掘調査並びに報告書作成にご協力していただきました方々に心から感謝申し上げます。

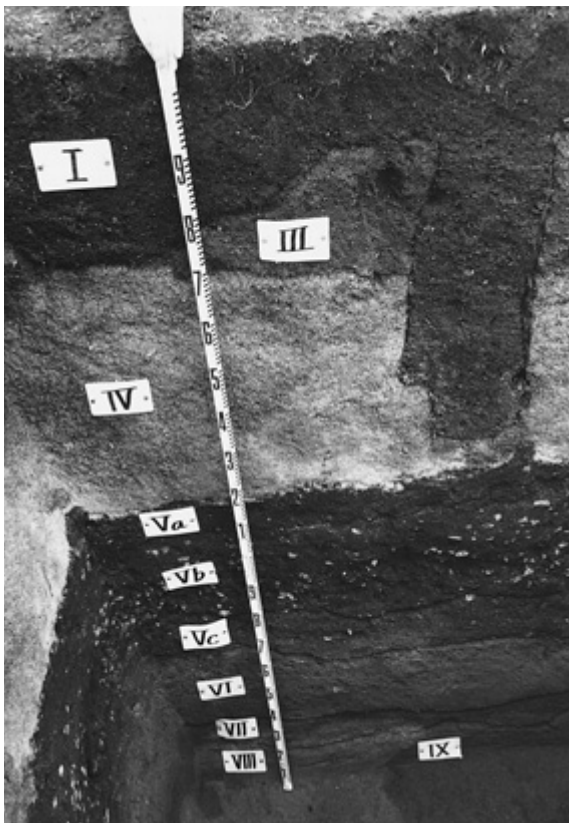
(調査担当者)

《引用・参考文献》

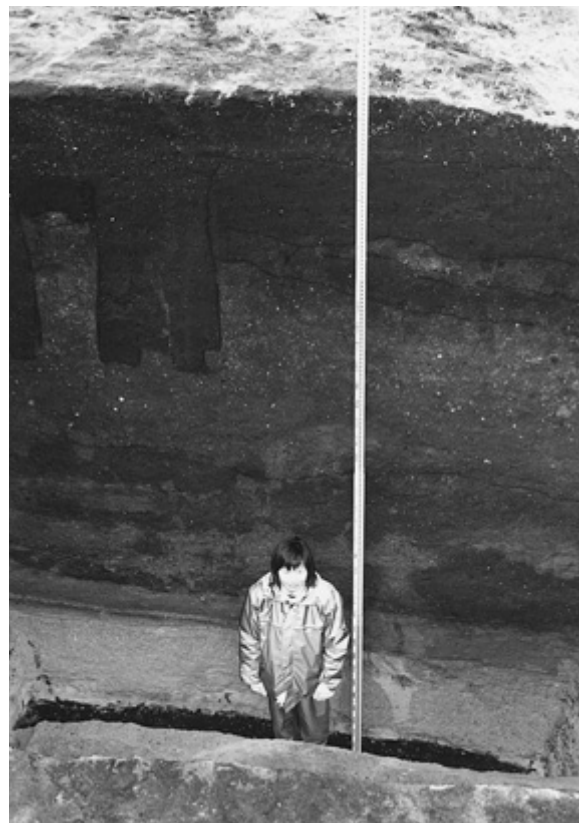
- 青森県 2002『青森県史 別編 三内丸山遺跡』青森県史編纂考古部会
- 青森県教育委員会 1997『八盃久保(2)遺跡他』青森県埋蔵文化財調査報告書第212集
- 青森県教育委員会 1998『青森県遺跡地図』
- 青森県教育委員会 2002『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
- 青森県教育委員会 2003『獅子神遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第339集
- 可児 通宏 2005『縄文土器の技法』考古学研究調査ハンドブック② 同成社
- 倉石村 1983『倉石村』上巻・下巻 倉石村史編纂委員会
- 倉石村教育委員会 1997『薬師前遺跡』青森県三戸郡倉石村埋蔵文化財調査報告書第1集
- 倉石村教育委員会 1998『館町Ⅱ遺跡』青森県三戸郡倉石村埋蔵文化財調査報告書第4集
- 五戸町教育委員会 2005『中市館跡Ⅴ・馬場遺跡・八盃久保(2)遺跡・門前平遺跡』
五戸町埋蔵文化財調査報告書第6集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集
- 谷畑美帆・鈴木孝雄 2004『考古学のための古人骨マニュアル』学生社
- 西本豊弘・松井 章編 1998『考古学と動物学』考古学と自然科学② 同成社
- 馬場 悠男 編 1998『考古学と人類学』考古学と自然科学① 同成社
- 宮本 長二郎 1996『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版
- 村越 潔 1993『円筒土器文化』雄山閣出版
- 山内先生没後25年記念論集刊行会 1996『画龍点睛』山内清男先生没後25年記念論集
- 山口 敏 1994「縄文人骨の特徴」『縄文文化の研究1 縄文人とその環境』雄山閣出版



遺跡遠景 五戸川右岸から



調査区基本層序 (W→)



調査区基本層序 (E→)

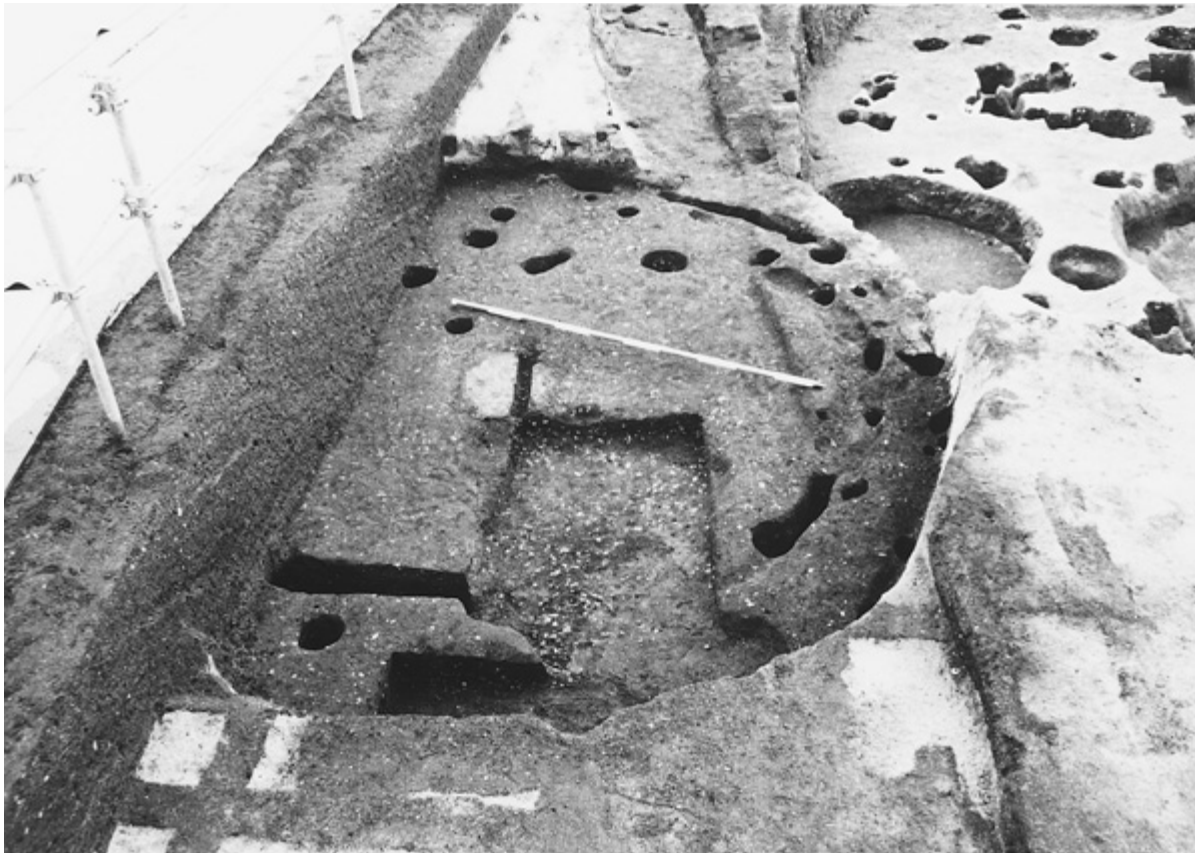
写真1 調査区遠景・基本層序



2住 完掘 (N→)



2住 完掘 (E→)



3住 完掘 (NE→)



3住 地床炉確認 (W→)

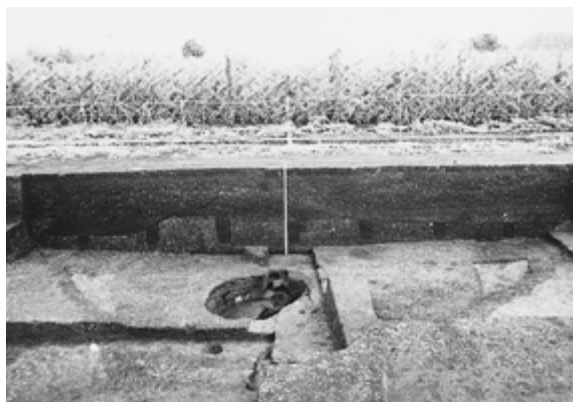


3住 完掘 (平成16年度) (S→)

写真2 第2号・第3号竪穴住居跡



4 b・4 c住 完掘 (S→)



4住 土層断面 (SE→)



4a住 完掘 (S→)

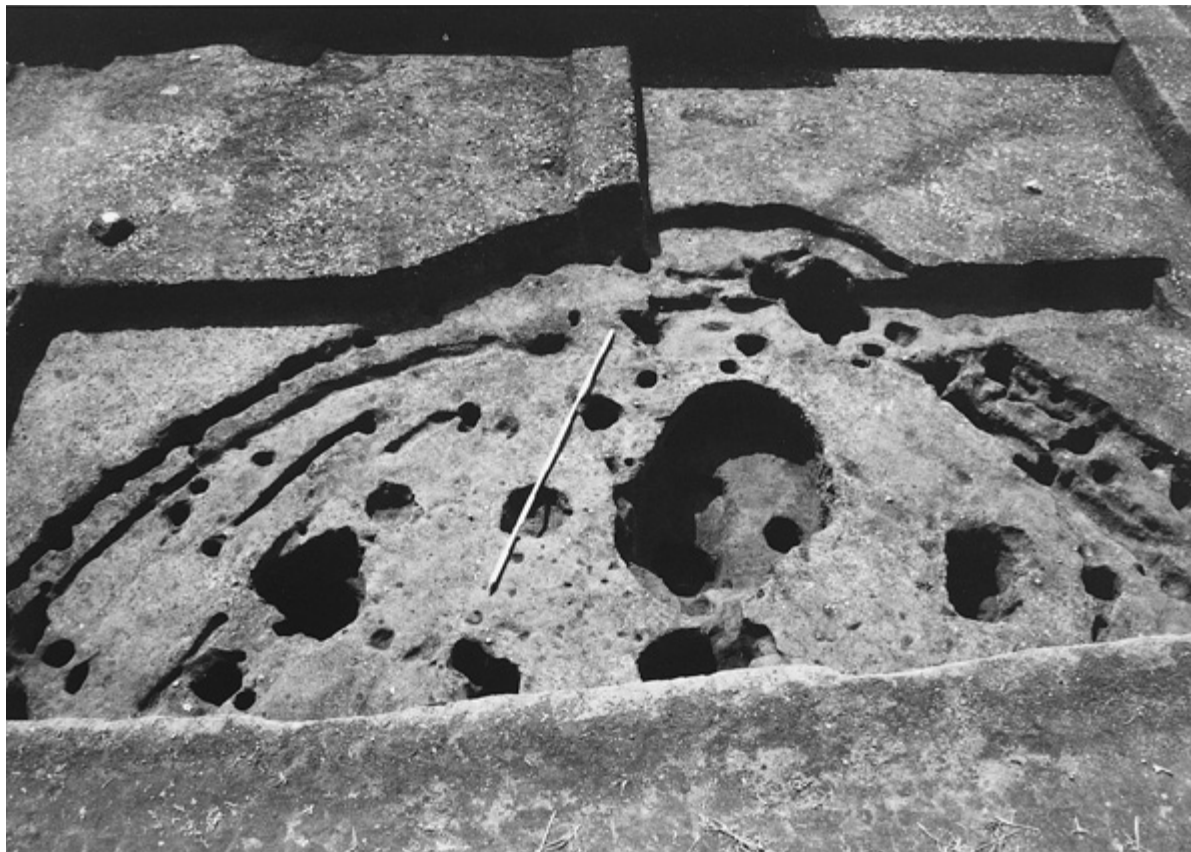


4b住 完掘 (N→)



4b住 完掘 (S→)

写真3 第4号竪穴住居跡 (1)



4住 完掘 (NW→)



4住 確認 (E→)



4住 ピット5土層断面 (SE→)



4住 ピット3土層断面 (SE→)



4住 作業状況 (W→)

写真4 第4号竪穴住居跡(2)



11住 完掘 (SW→)



11住 ピット検出状況 (W→)



11住 作業状況 (SW→)

写真5 第11号竪穴住居跡 (1)



11住 完掘 (平成16年度) (E→)



11住 完掘 (平成16年度) (NE→)



11住 完掘 (平成16年度) (SW→)

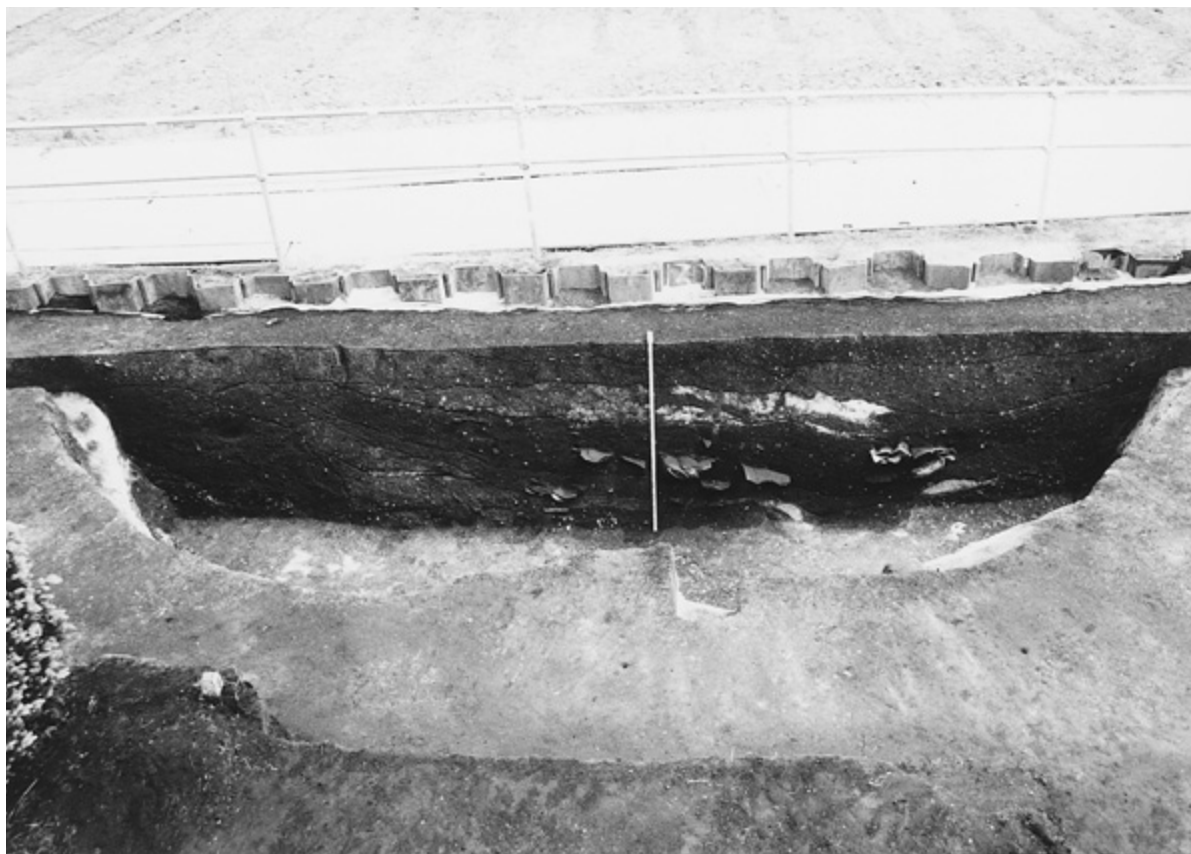


11住 土層断面 (平成16年度) (SE→)



11住 床面検出状況 (SW→)

写真6 第11号竪穴住居跡 (2)



11住 土層断面 (NW→)



11住 土層断面 (SW→)

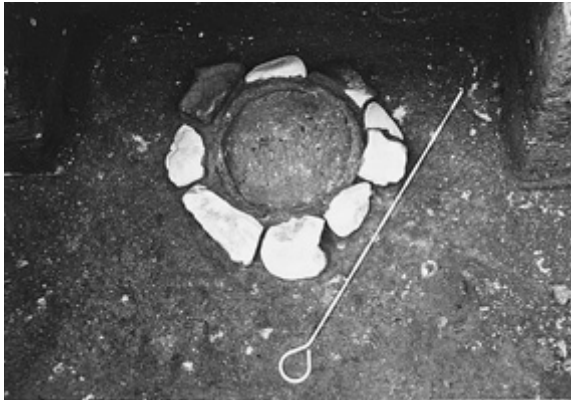


11住 土層断面 (NW→)



11住 土層断面 (SW→)

写真7 第11号竪穴住居跡 (3)



11 a 住 土器埋設炉検出状況 (SE→)



11 a 住 土器埋設炉内土層断面 (SE→)



11 a・11 b 住 土器埋設炉土層断面 (S→)



11 a 住 土器埋設炉土層断面 (SE→)



11 b 住 土器埋設炉土層断面 (SE→)



11 住 遺物出土状況 (SE→)



11 住 土器出土状況 P-74



11 住 土器出土状況 P-79

写真8 第11号竪穴住居跡 (4)



11住 土器出土状況 P-169



11住 土器出土状況 P-153



11住 土器出土状況 P-163



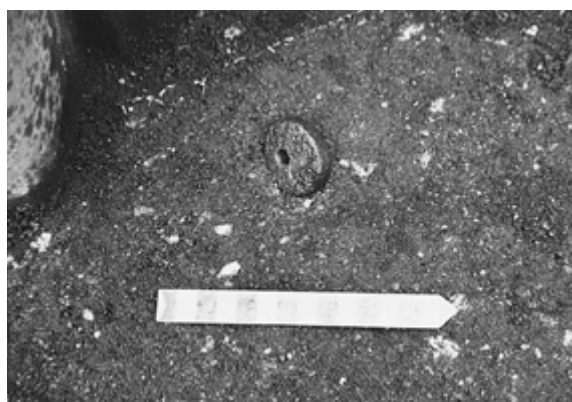
11住 土器出土状況 P-173・174



11住 円盤状土製品 P-138



11住 円盤状土製品 (C-1)



11住 円盤状土製品 (土-2)

写真9 第11号竪穴住居跡 (5)



11住 土器出土状況 P-67



11住 土器出土状況 P-110



11住 土器出土状況 P-158・159



11住 土器出土状況 P-173

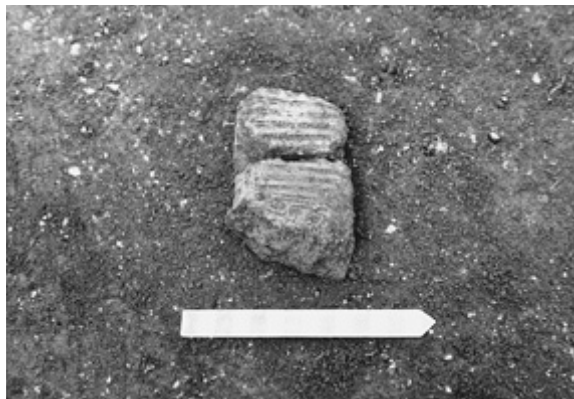


11住 遺出土状況 (E→)



11住 遺物出土状況 (E→)

写真10 第11号竪穴住居跡 (6)



11住 土偶出土状況



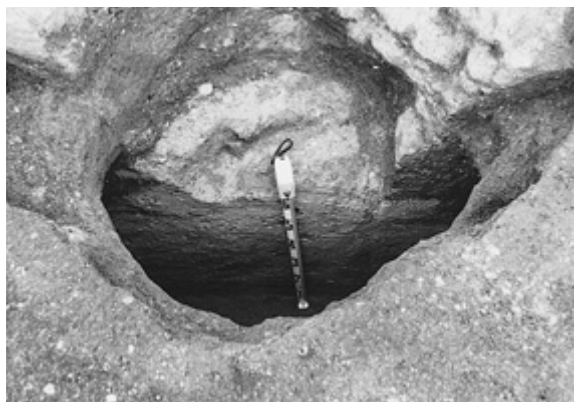
11住 遺物出土状況 P-83



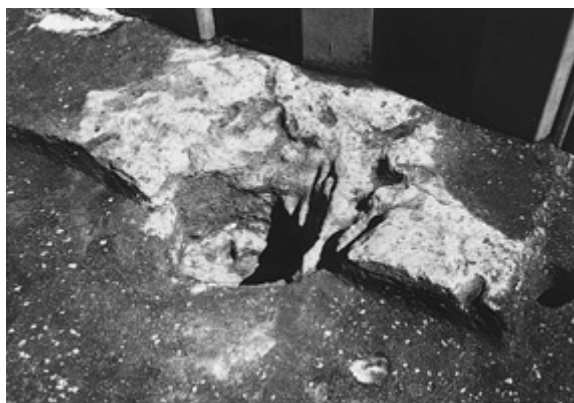
11住 ピット12完掘 (W→)



11住 ピット12土層断面 (NW→)



11住 ピット12土層断面 (NW→)

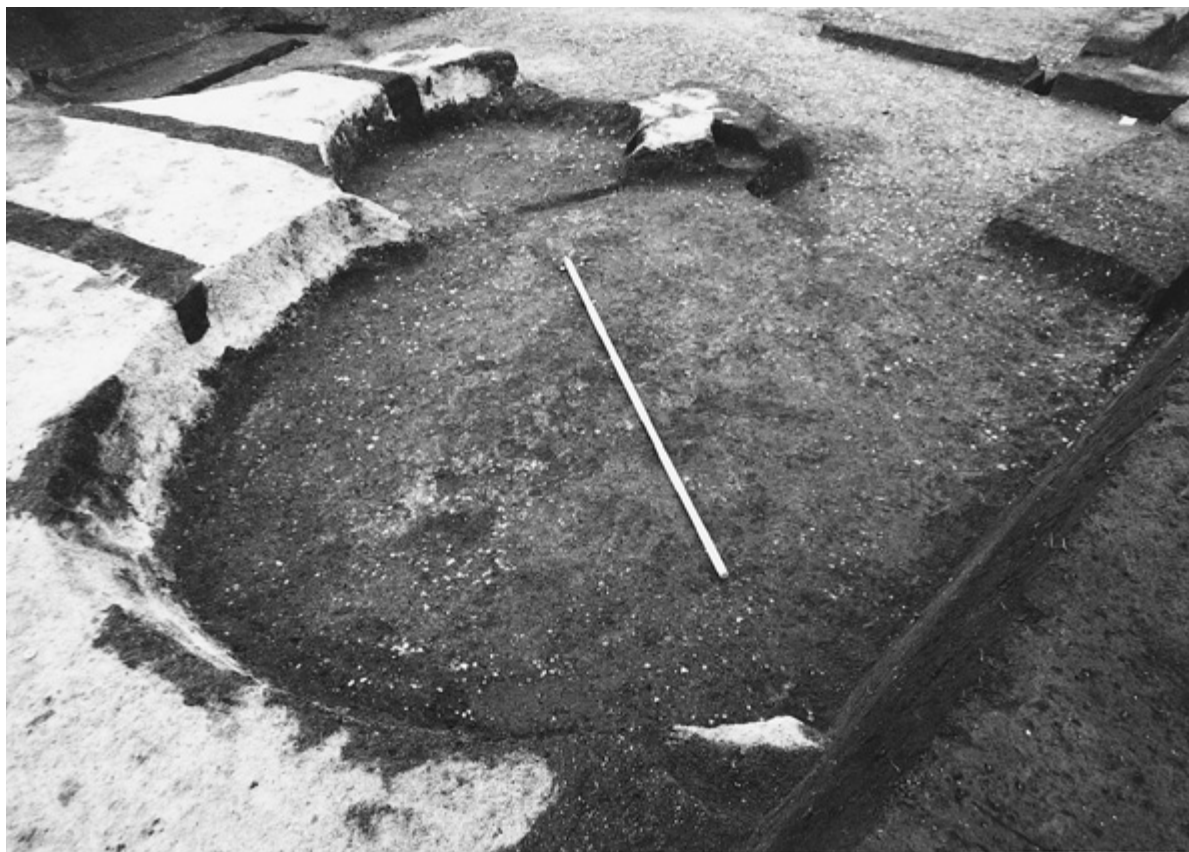


11住 ピット11白色粘土確認 (W→)



11住 ピット12土器出土状況 P-193 (SW→)

写真11 第11号竪穴住居跡 (7)



12住 完掘 (S→)



13住 土器出土状況 P-262



13住 土器出土状況 P-273



13住 遺物出土状況 (SW→)

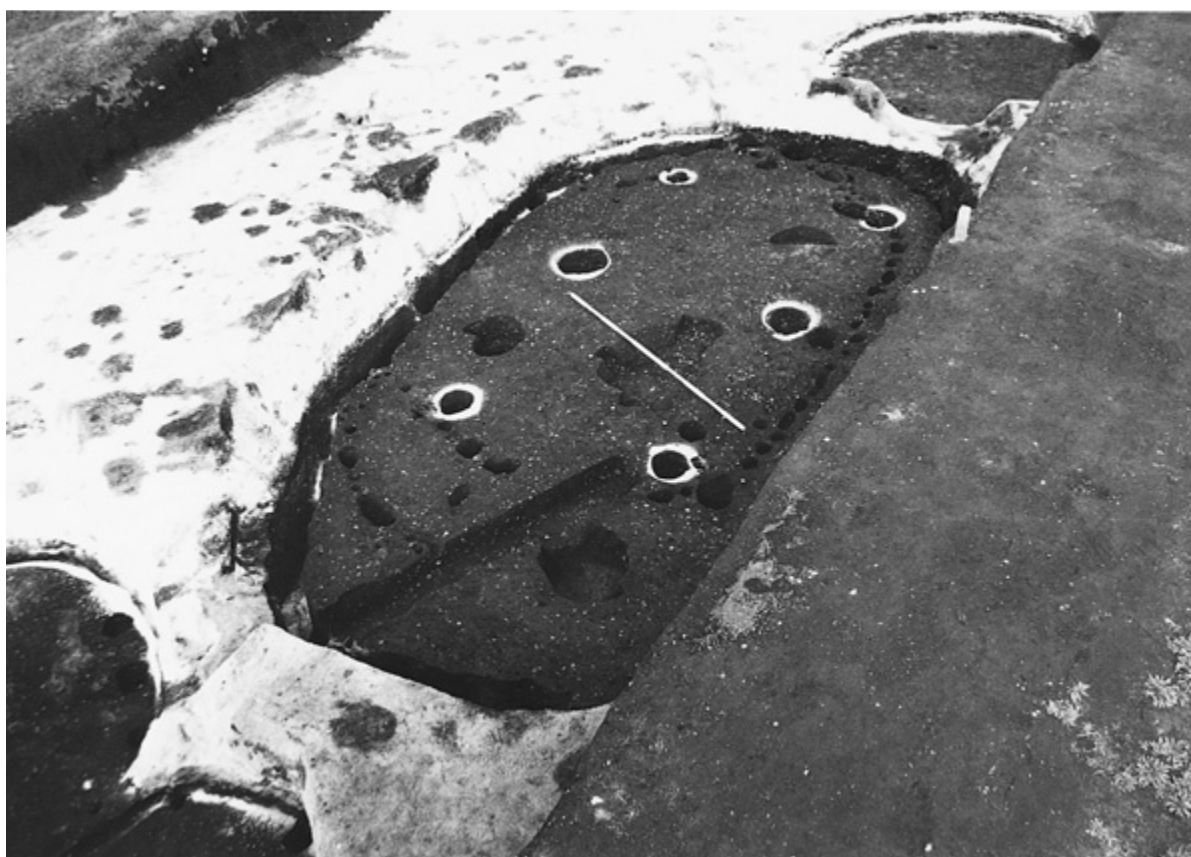
写真12 第12号・第13号竪穴住居跡



15住 完掘 (S→)



15住 土層断面 (SE→)



16住 完掘 (S→)



16住 完掘 (NE→)



16住 土層断面 (NW→)

写真13 第15号・第16号竪穴住居跡



16住 土層断面 (W→)



16住 土層断面 (N→)



16 a 住 土器埋設炉検出状況 (S E→)



16 a 住 土器埋設炉内土層断面 (S E→)



16 a 住 土器埋設炉土層断面 (S E→)



16 b 住 土器埋設炉検出状況 (N W→)



16 b 住 土器埋設炉土層断面 (N W→)



16住 遺物出土状況 (S→)

写真14 第16号竪穴住居跡



16住 土偶出土状況 (C-1)



16住 作業状況 (SW →)



16住 土器出土状況 P-1



16住 ピット検出状況 (NE →)



17住 完掘 (W →)



17住 粘土範囲 (S →)



作業状況

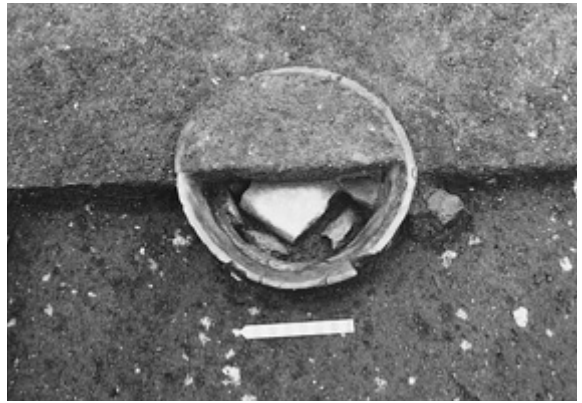
写真15 第16号・第17号竪穴住居跡



18a住 完掘 (N→)



18a住 完掘 (S→)



18a住 土器埋設炉検出状況 (N→)



18a住 土器埋設炉内遺物出土状況 (N→)



18a住 土器埋設炉土層断面 (N→)

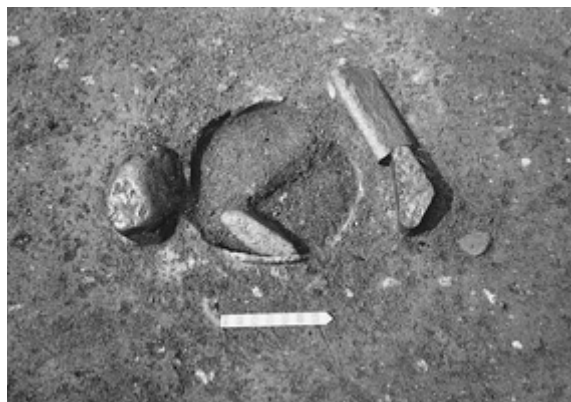
写真16 第18号 a 竪穴住居跡



18住 完掘 (E→)



18b住 完掘 (W→)



18b住 土器埋設炉検出状況 (NE→)



18b住 土器埋設炉土層断面 (NE→)



18b住 土器埋設炉内遺物出土状況 (NE→)

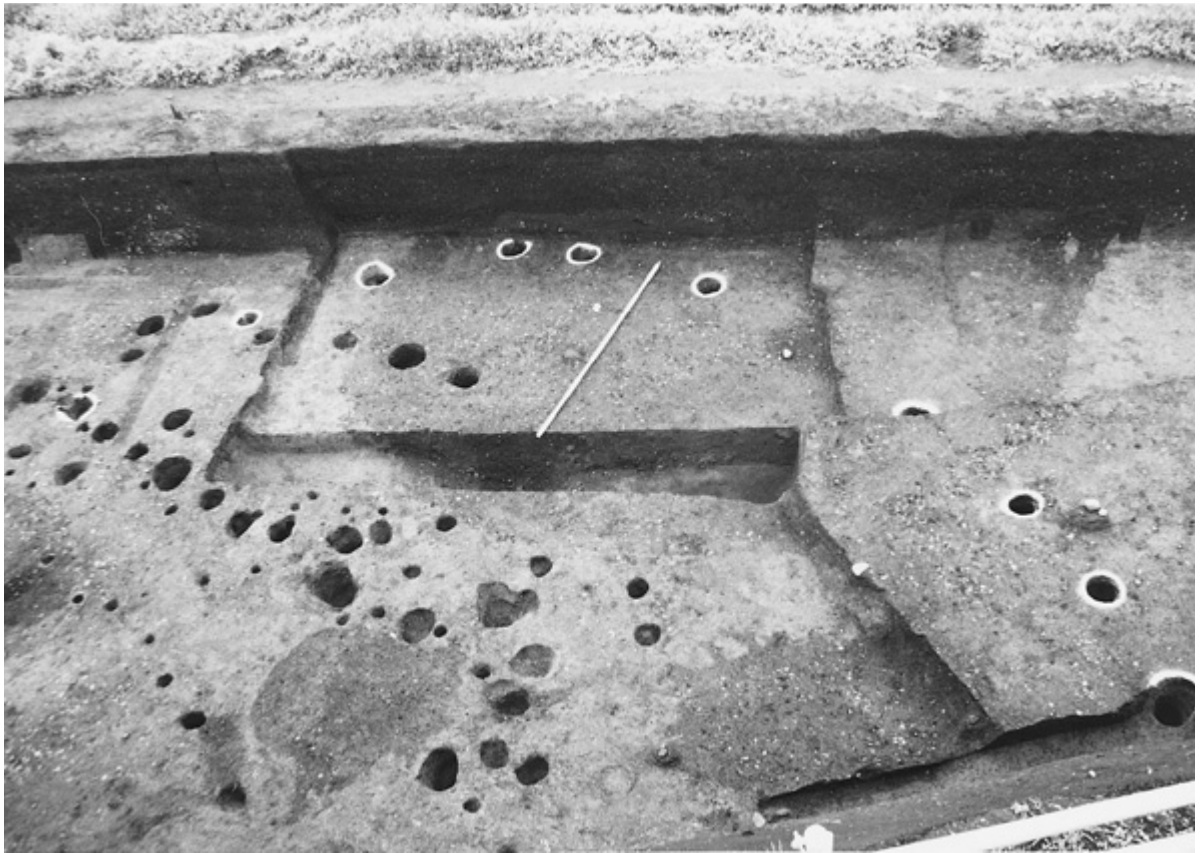
写真17 第18号b 竪穴住居跡



18c住 床下粘土検出状況 (NE→)



18c住 床下粘土(部分) (NE→)



19住 完掘 (SE→)

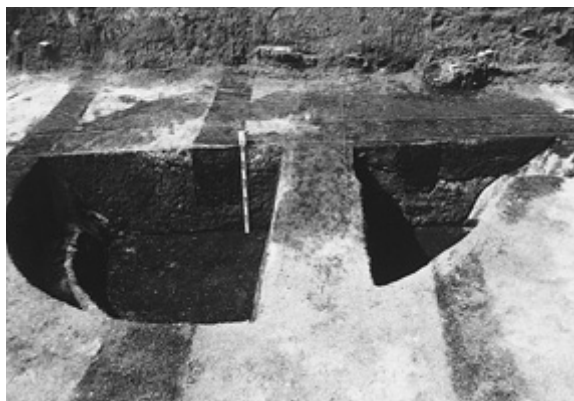


21・25・26住 完掘 (SW→)



21・25・26住 完掘 (NW→)

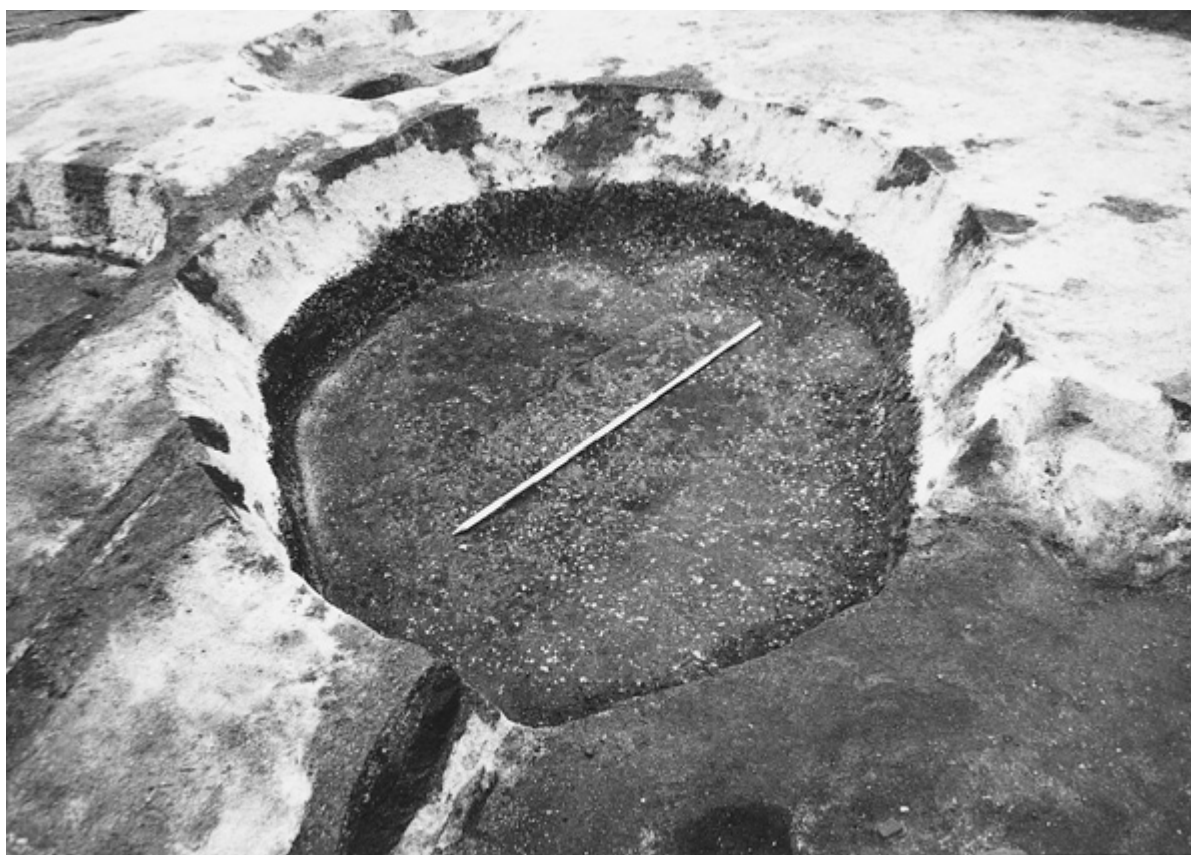
写真18 第18号c・第19号・第21号・第25号・第26号竪穴住居跡



23住 土層断面 (SE→)



23住 土層断面 (SW→)



24住 完掘 (SW→)



24住 完掘 (S→)



24住 土層断面 (W→)

写真19 第23号・第24号竪穴住居跡



24住 遺物出土状況 (S→)



24住 遺物出土状況 (NE→)



24住 遺物出土状況 (E→)



24住 遺物出土状況 (E→)

写真20 第24号竪穴住居跡



21住 土器出土状況 P-1・2



24住 土器出土状況 P-5



24住 土器出土状況 P-8



24住 土器出土状況 P-12



24住 土器出土状況 P-13



24住 土器出土状況 P-14



24住 土器出土状況 P-17



24住 土器出土状況 P-54

写真21 第24号竪穴住居跡



25住 土層断面 (SW→)



25住 作業状況 (NW→)



26住 遺物出土状況 (S→)



26住 土器出土状況 P-21 (NE→)



26住 作業状況 (E→)

写真22 第25号・第26号竪穴住居跡



27・28住 完掘 (W→)



27・28住 完掘 (E→)

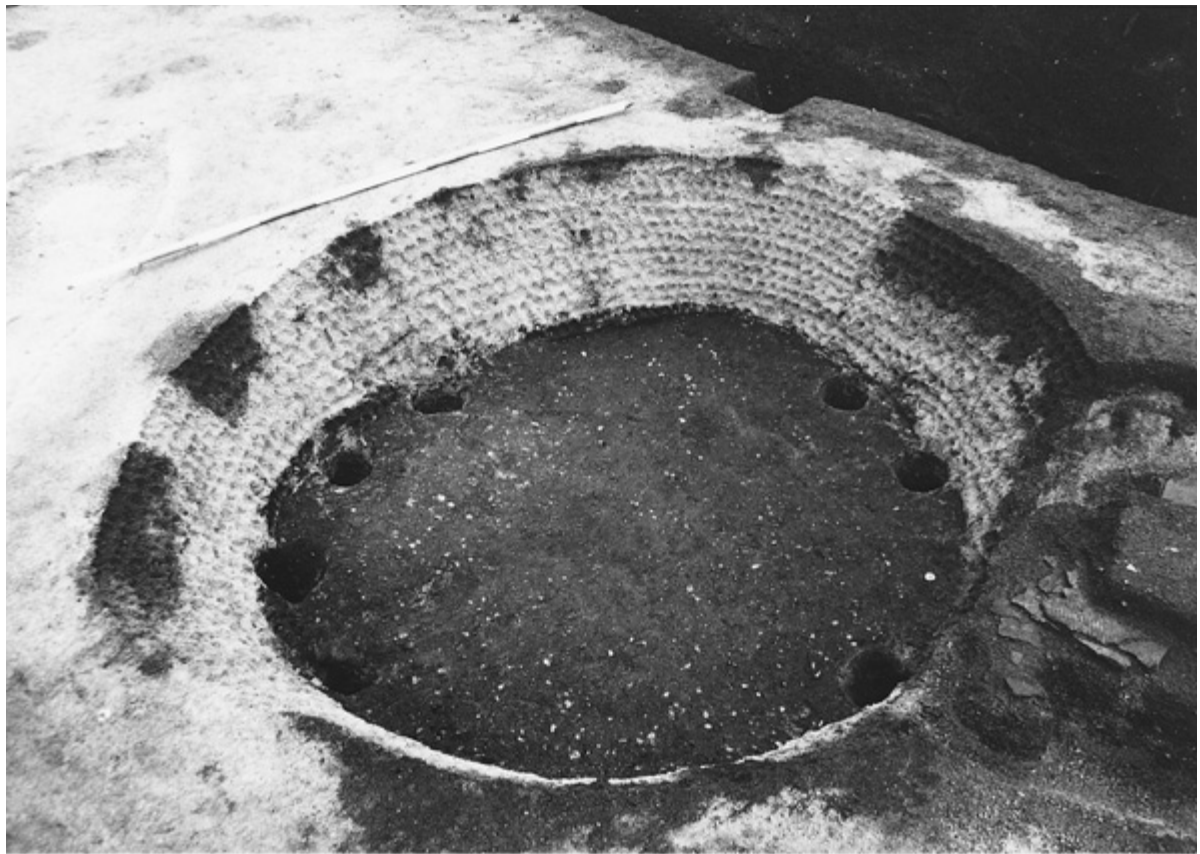


27・28住 土層断面 (SW→)



27・28住 土層断面 (SE→)

写真23 第27号・第28号竪穴住居跡



29住 完掘 (E→)



29住 土層断面 (W→)



29住 床面粘土検出状況 (W→)

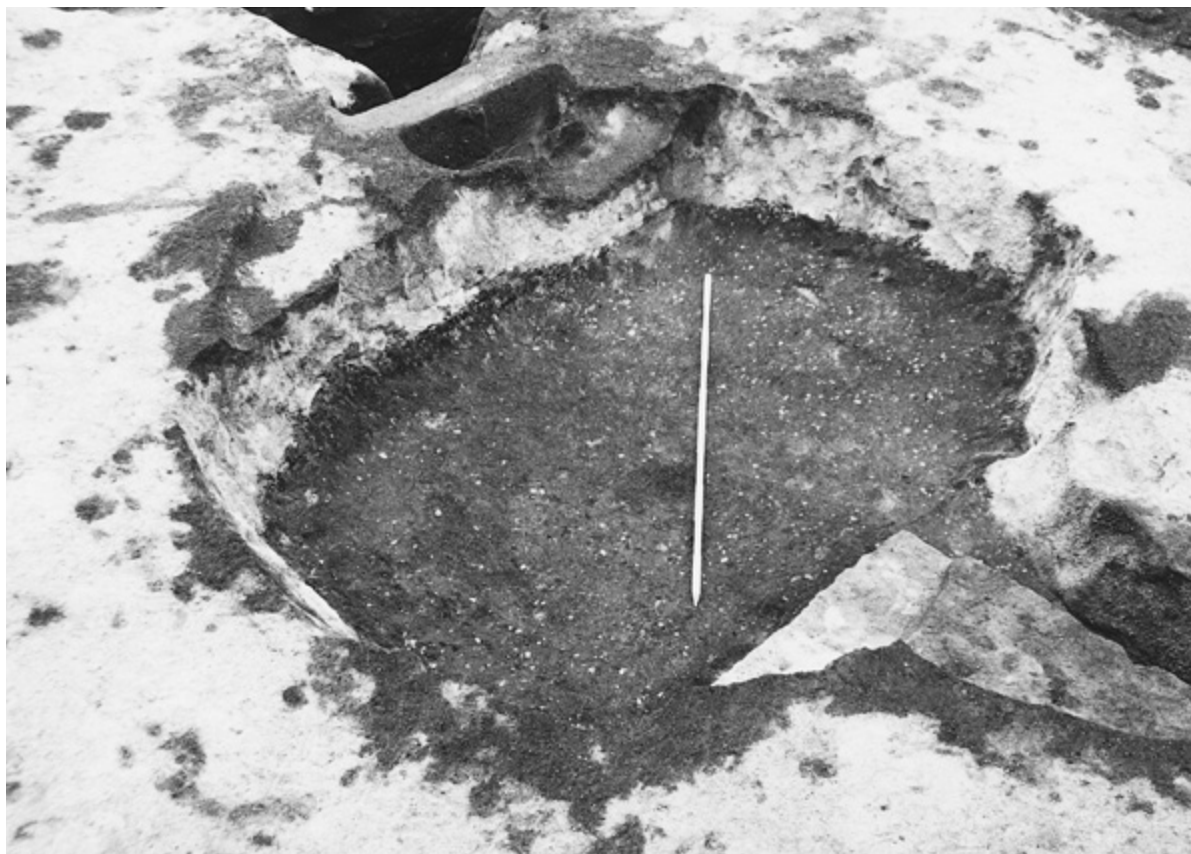


作業状況

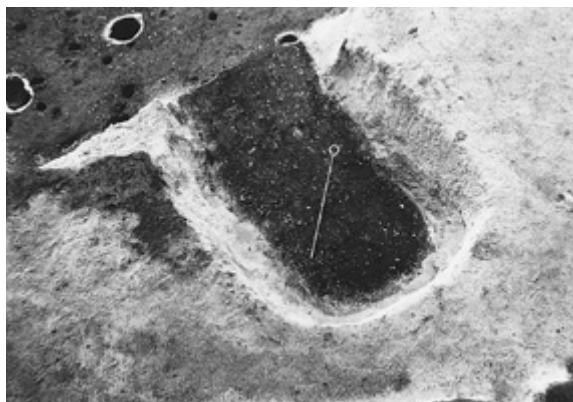


作業状況

写真24 第29号竪穴住居跡



30住 完掘 (N→)



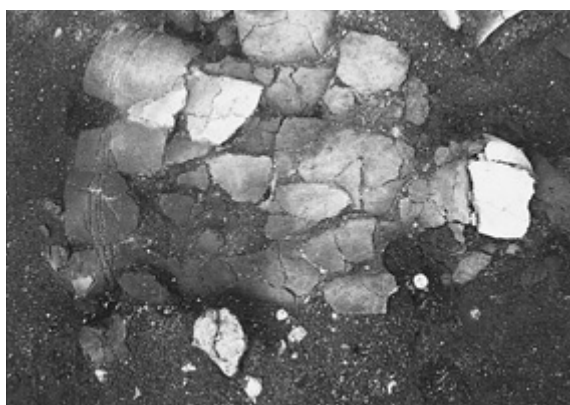
30住 出入口 (N→)



30住 土層断面 (S→)



30住 土器出土状況 P-3



30住 土器出土状況 P-4

写真25 第30号竪穴住居跡



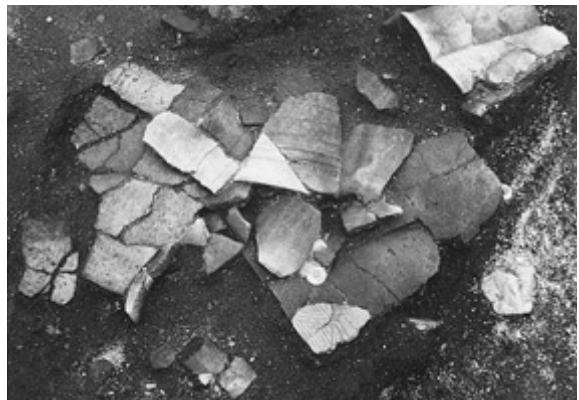
30住 土器出土状況 P-10



30住 土器出土状況 P-14



30住 土器出土状況 P-24



30住 土器出土状況 P-16・17・18



30住 土器出土状況 P-19



作業状況

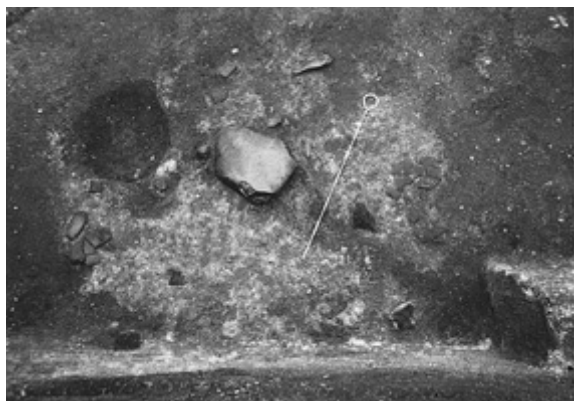


31住 完掘 (S→)



31住 土層断面 (SE→)

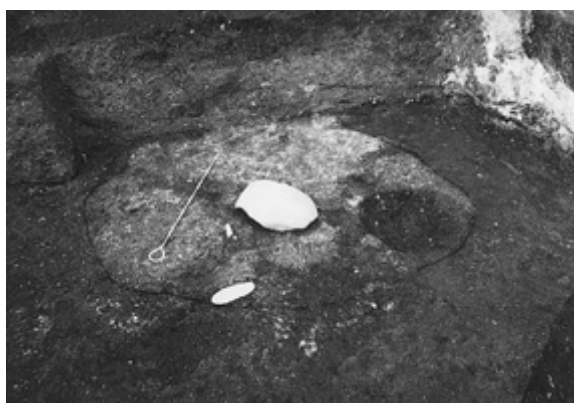
写真26 第30号・第31号竪穴住居跡



31住 床面遺物出土状況 (N→)



31住 床面灰白色粘土検出状況 (N→)



31住 床面灰白色粘土範囲 (S→)

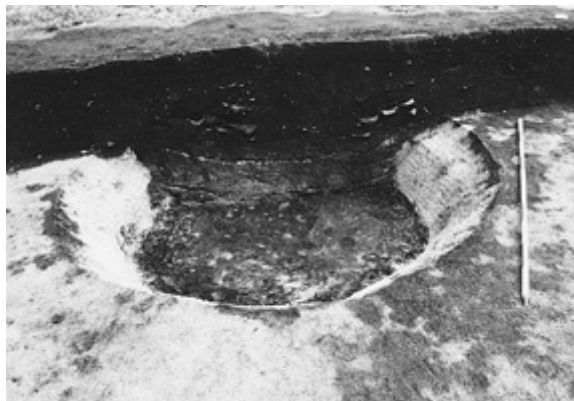


31住 人骨頭部出土状況 (NE→)



31住 人骨出土状況 (N→)

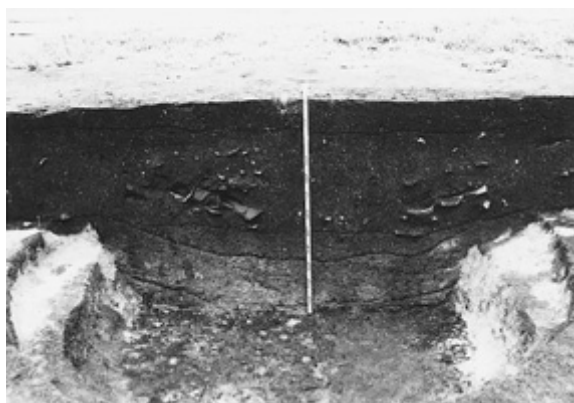
写真27 第31号竪穴住居跡



32住 完掘 (N→)



32住 完掘 (SW→)



32住 土層断面 (N→)



32住 土層断面 (W→)



32住 遺物出土状況 (N→)



32住 遺物検出作業状況 (SE→)



32住 土器出土状況 P-1



作業状況

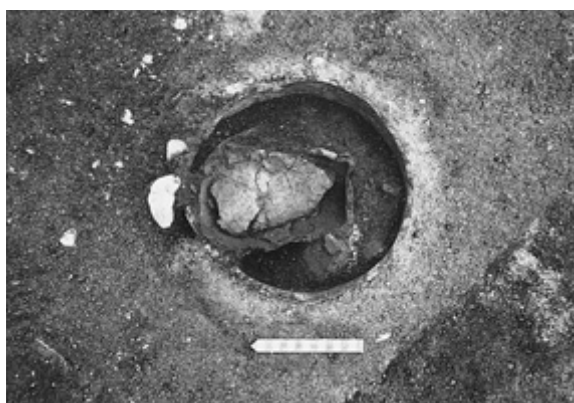
写真28 第32号竪穴住居跡



33住 完掘 (S→)



33住 地床炉検出状況 (S→)



34住 土器埋設炉検出状況 (W→)



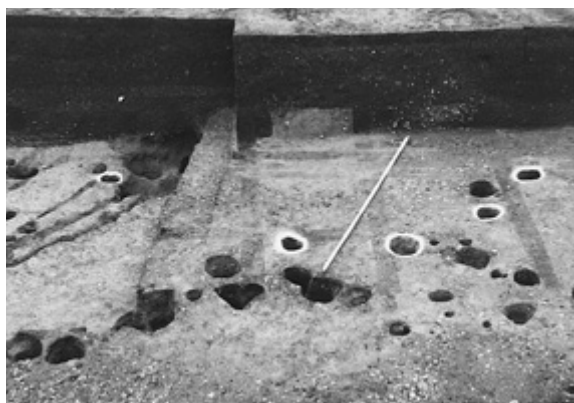
34住 土器埋設炉内土層断面 (S→)



34住 土器埋設炉土層断面 (S→)



作業状況



35住 完掘 (SE→)



作業状況

写真29 第33号・第34号・第35号竪穴住居跡



36住 完掘 (E→)



18・36住 検出状況 (SW→)



18・36住 作業状況 (SW→)



作業状況

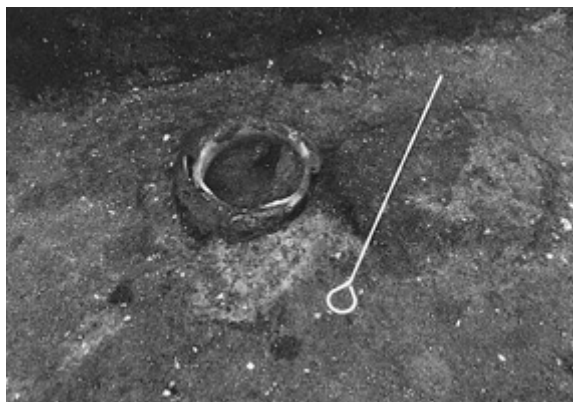


作業状況

写真30 第36号竪穴住居跡



作業状況



37住 土器埋設炉1 検出状況 (SE→)



37住 土器埋設炉1 土層断面 (SW→)



37住 土器埋設炉1・2 土層断面 (SW→)



37住 土器出土状況 P-6 (N→)

写真31 第37号竪穴住居跡

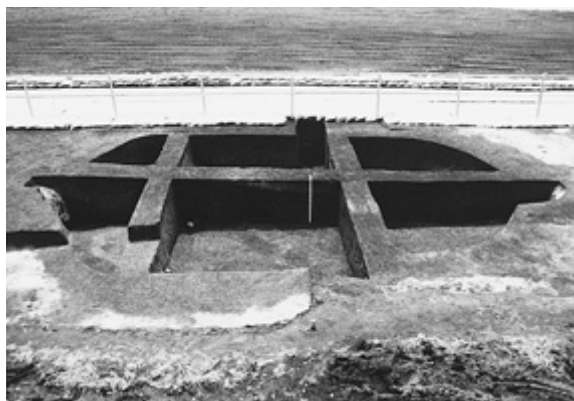


40住 完掘 (W→)



40住 完掘 (NE→)

写真32 第40号竪穴住居跡 (1)



40住 土層断面 (NW→)



40住 土層断面 (N→)



40住 土層断面 (NE→)

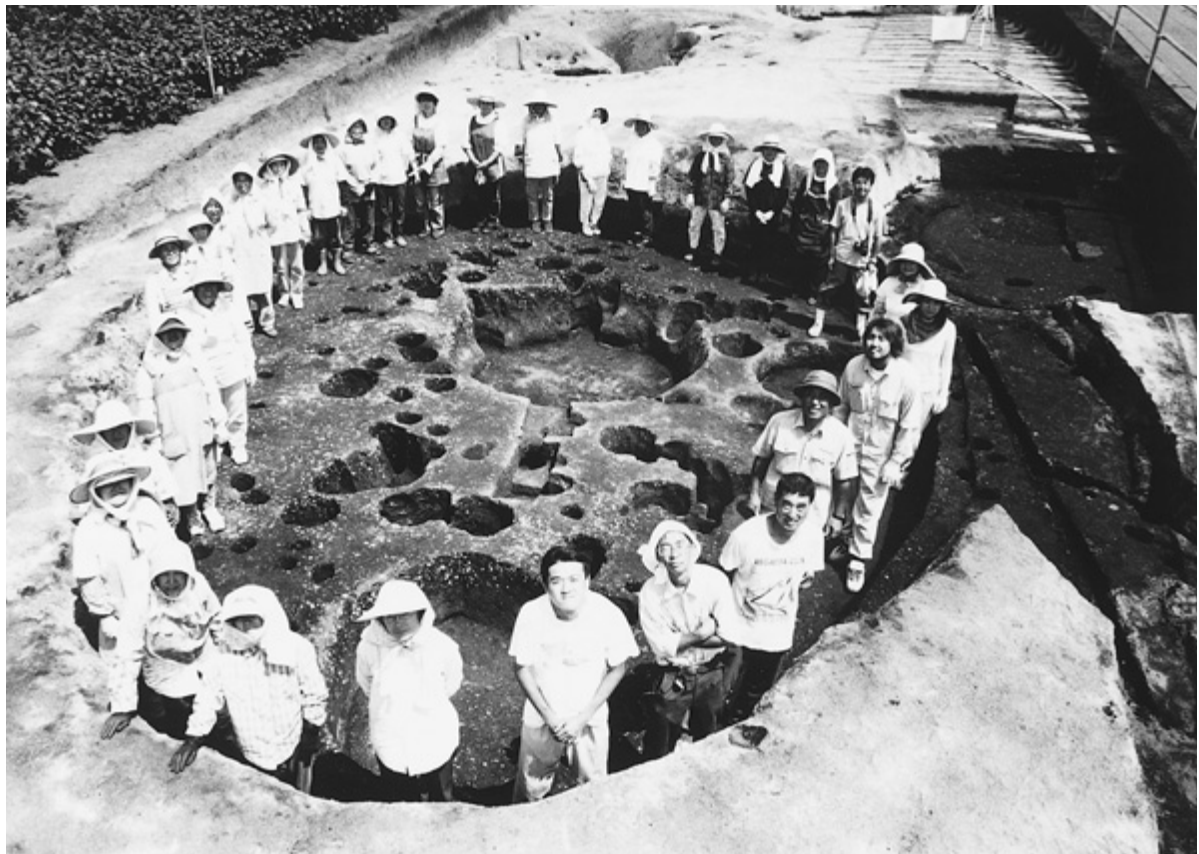


40a住 床面柱穴検出状況 (NE→)



40a住 床面柱穴検出状況 (SE→)

写真33 第40号竪穴住居跡 (2)



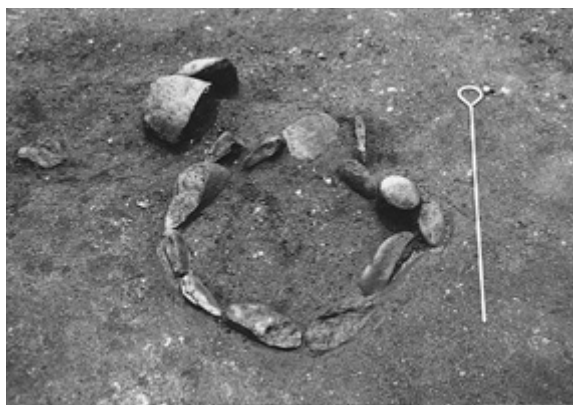
40住 完掘 (SW→)



40住 作業状況 (W→)



40住 完掘 (NW→)

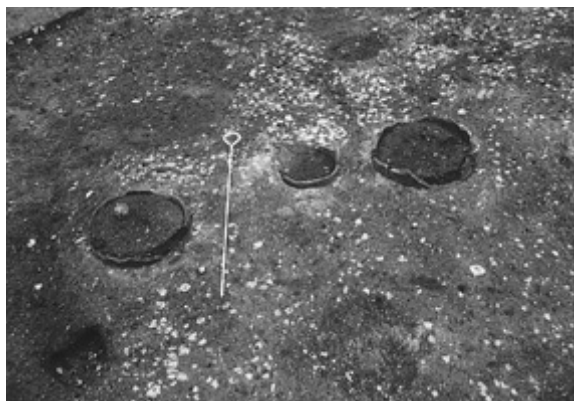


40a住 石囲炉検出状況 (N→)

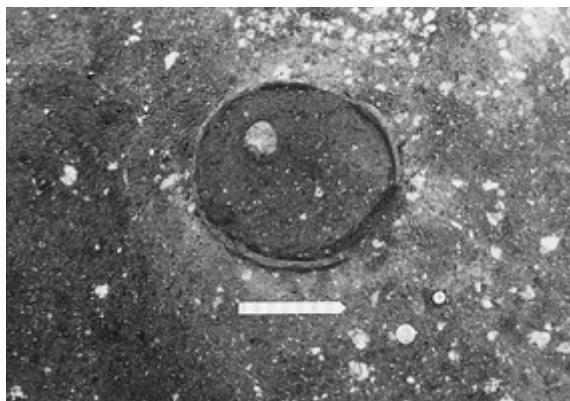


40a住 石囲炉土層断面 (NW→)

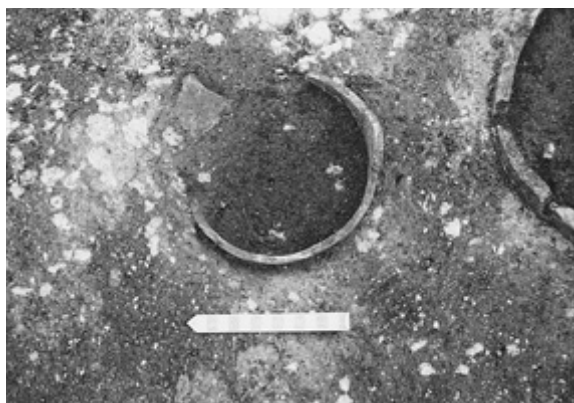
写真34 第40号竪穴住居跡 (3)



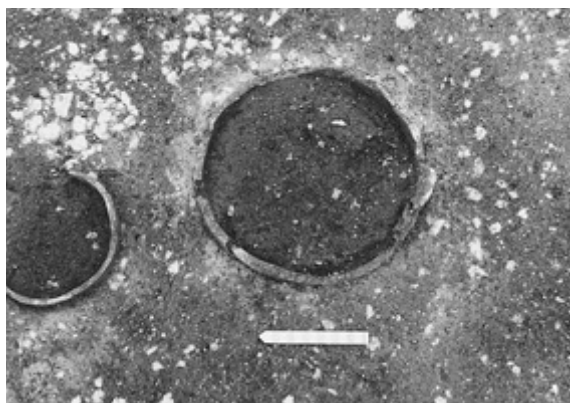
40c住 土器埋設炉2・3・4検出状況 (NW→)



40c住 土器埋設炉2 (N→)



40c住 土器埋設炉3 (N→)



40c住 土器埋設炉4 (N→)



40住 土器埋設炉検出状況 (NE→)



40c住 土器埋設炉2・3・4土層断面 (NW→)



40c住 土器埋設炉2内土層断面 (NW→)

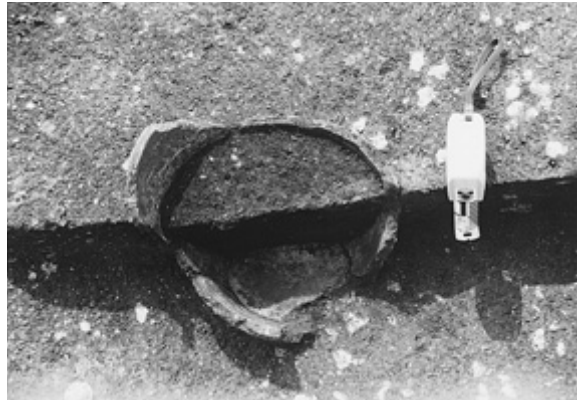


40c住 土器埋設炉2土層断面 (NW→)

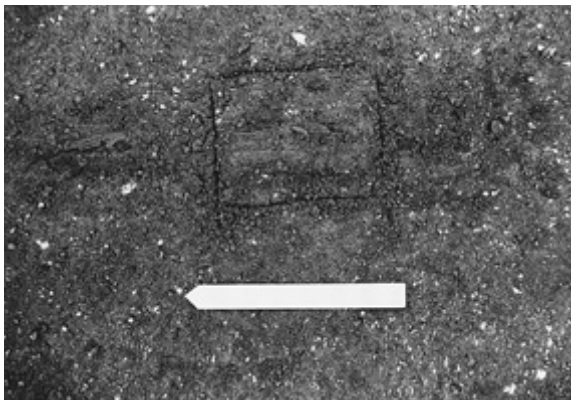
写真35 第40号竪穴住居跡(4)



40c住 土器埋設炉3・4土層断面 (NW→)



40d住 土器埋設炉5土層断面 (NW→)



40住 炭化材検出状況 (S→)



40住 土偶出土状況 (C-1) (NE→)



40住 石棒出土状況 S-84 (NW→)



隣接して奉られている石棒



調査区遠景

写真36 第40号竪穴住居跡 (5)



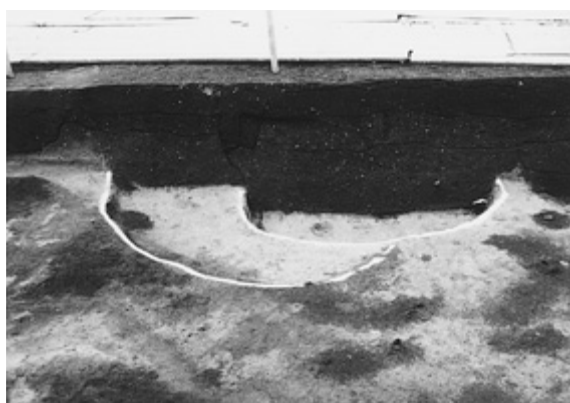
41住 完掘 (N→)



41住 土層断面 (E→)



42住 完掘 (E→)



42住 完掘 (N→)



42住 土器出土状況 P-10



遺物出土状況



作業状況

写真37 第41号・第42号竪穴住居跡



43住 完掘 (N→)



43住 完掘 (NE→)



43住 土層断面 (N→)



43住 完掘 (NE→)



43住 作業状況 (NE→)

写真38 第43号竪穴住居跡



44住 完掘 (SW→)



44住 土層断面 (SE→)



遺物検出状況



遺物検出状況

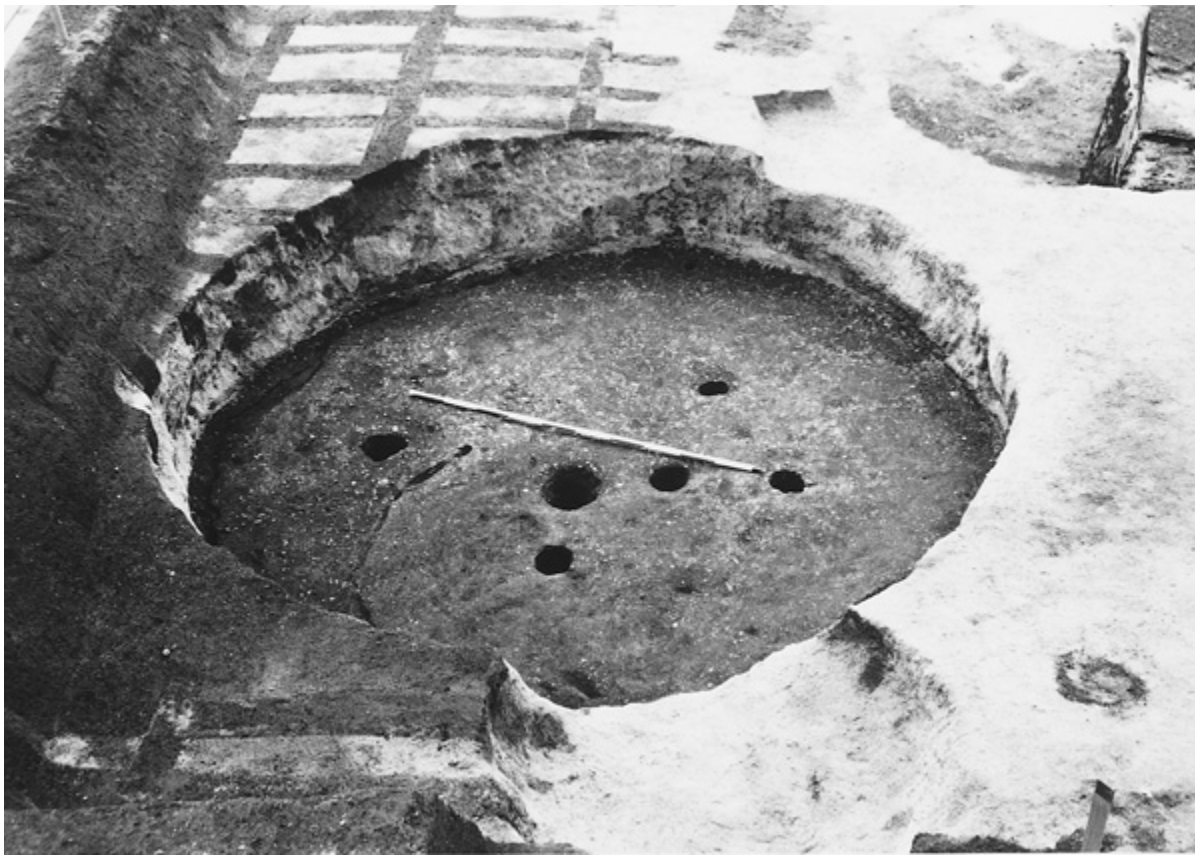
写真39 第44号竪穴住居跡



46・47住、76～78・101土 完掘 (S E→)



47住 円盤状土製品出土状況 (C-1) (S→)



48住 完掘 (E→)

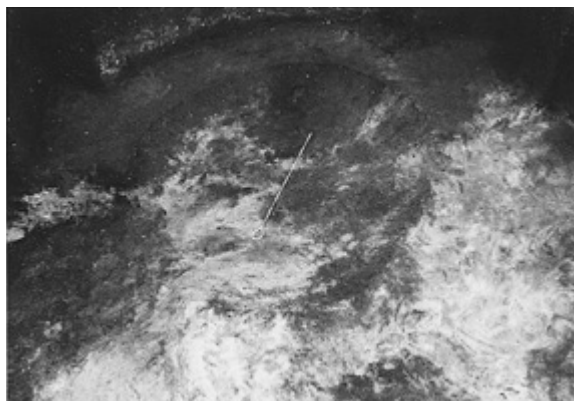


48住 作業状況 (E→)

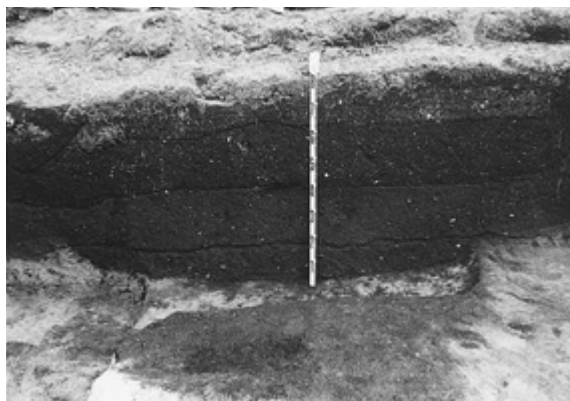


作業状況

写真40 第46号・第47号・第48号竪穴住居跡



1土 完掘 (SE→)



1土 土層断面 (SE→)



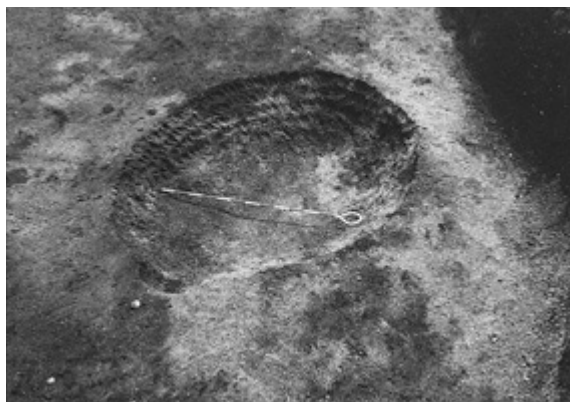
1土 土器出土状況 P-1 (W→)



9土 完掘 (S→)



10土 完掘 (S→)



12土 完掘 (W→)

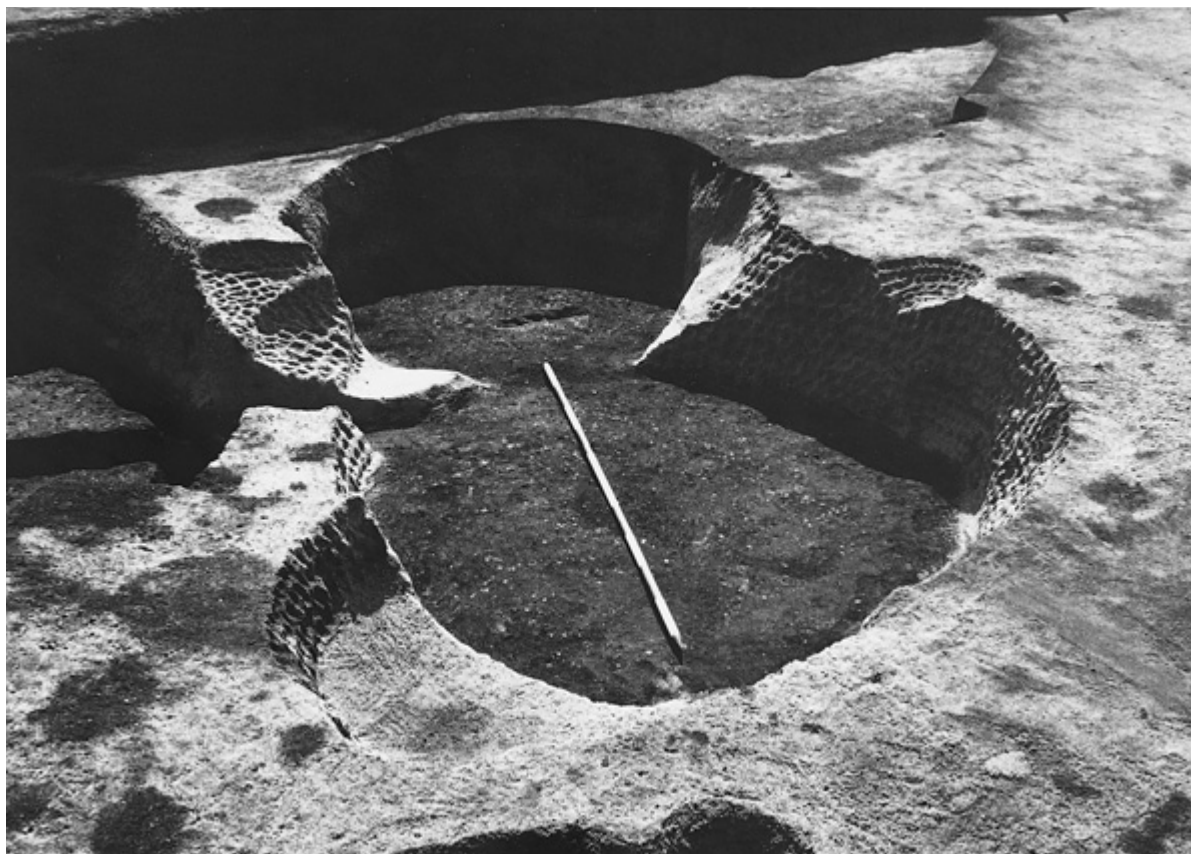


13土 完掘 (SW→)



14土 完掘 (W→)

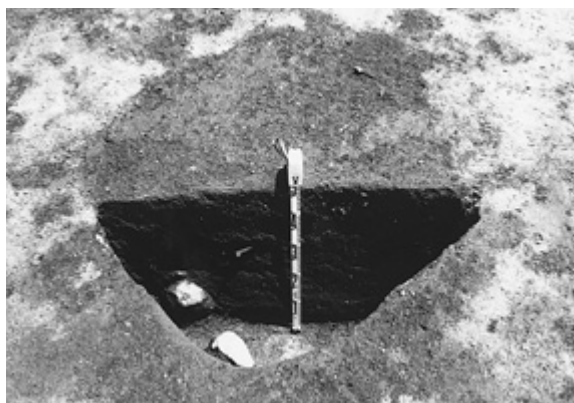
写真41 土坑 (1)



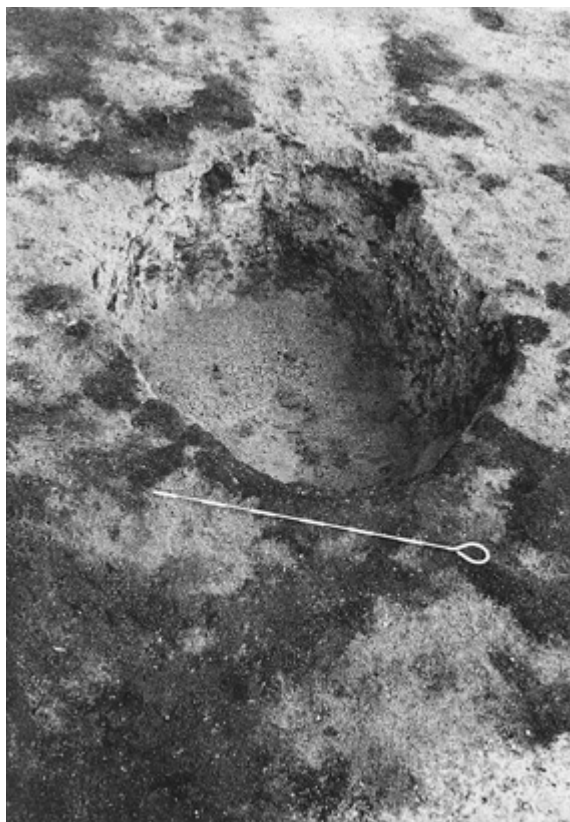
15·28·29·30土 完掘 (N→)



15土 土層断面 (S→)



17土 土層断面 (SW→)

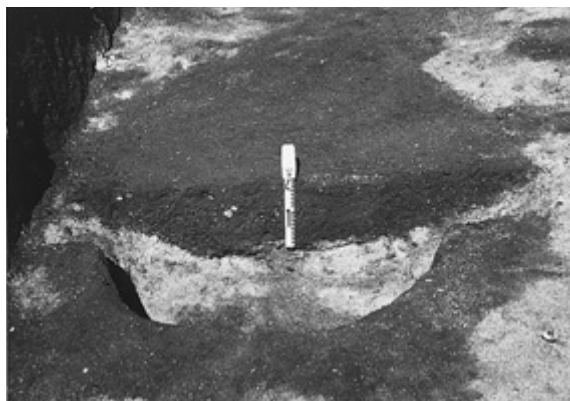


17土 完掘 (W→)

写真42 土坑 (2)



18土 完掘 (E→)



18土 土層断面 (W→)



21土 遺物出土状況 (S→)



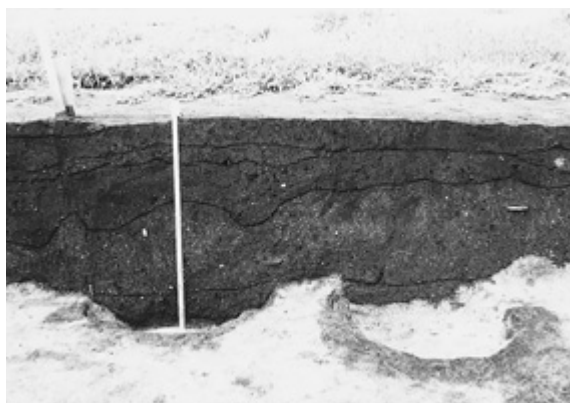
22土 完掘 (SE→)



24土 完掘 (S→)



25・26土 完掘 (NW→)



25・26土 土層断面 (NW→)

写真43 土坑 (3)



27・32～34土 完掘 (NW→)



27土 土器出土状況 P-1 (S→)



28土 完掘 (W→)



15・28・29・30土 完掘 (E→)



28土 土器出土状況 P-12 (E→)

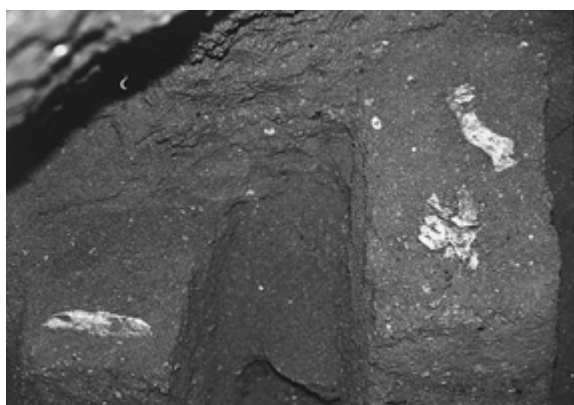
写真44 土坑 (4)



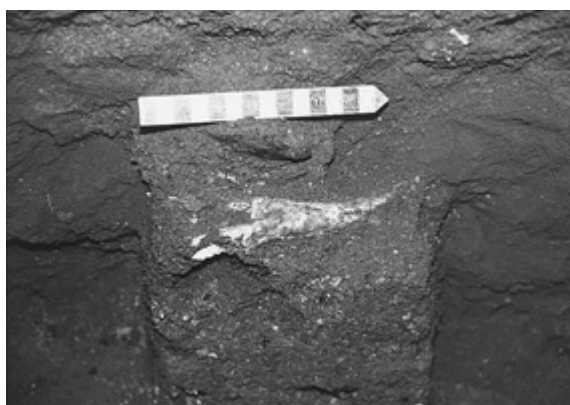
31土 完掘 (SW→)



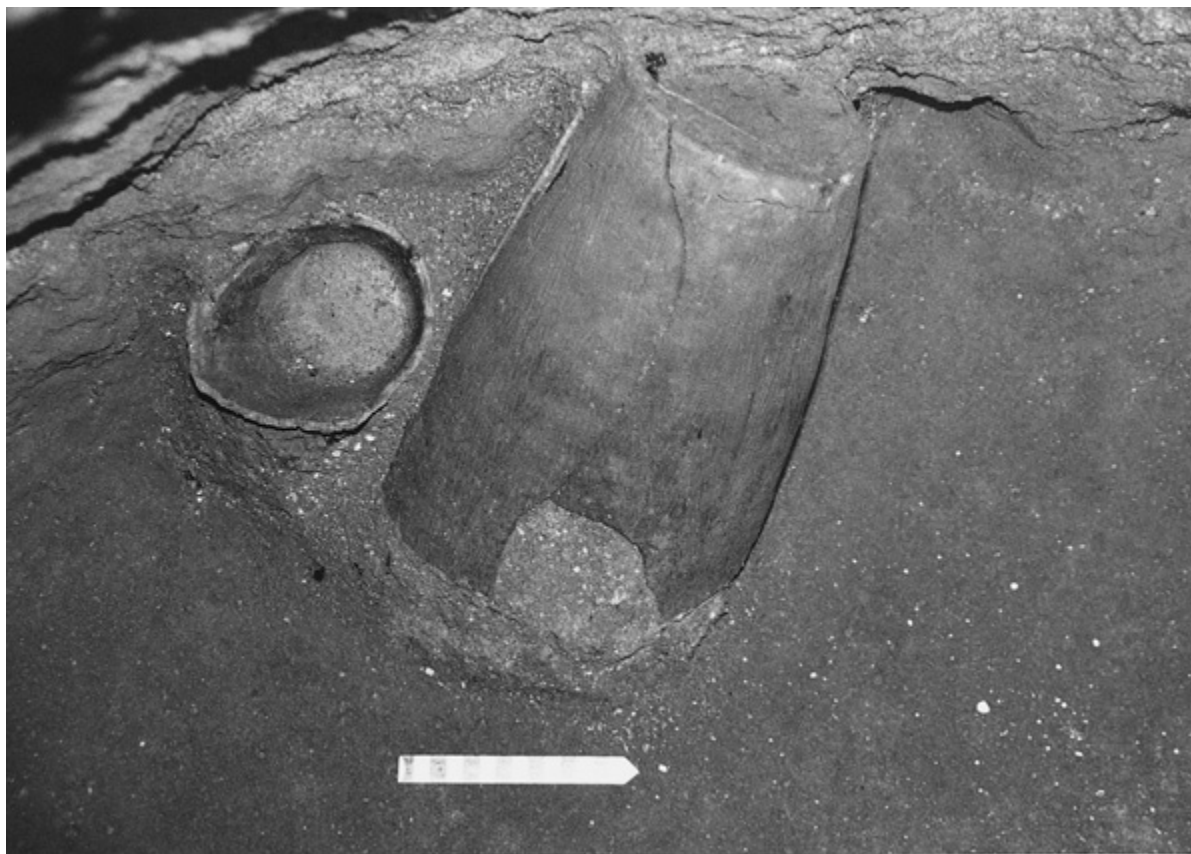
36土 完掘 (S→)



36土 骨1・2出土状況 (E→)



36土 骨3出土状況 (E→)

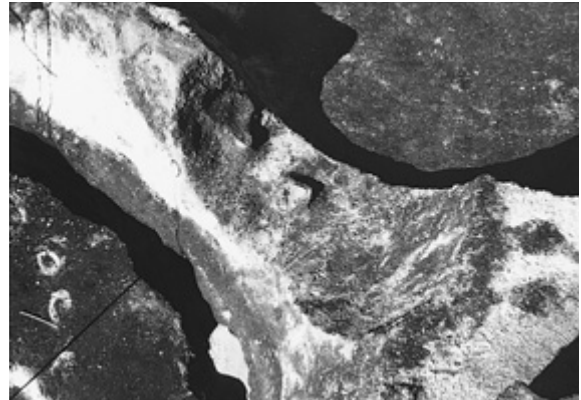


36土 土器出土状況 P-42・43 (SW→)

写真45 土坑 (5)



38土 完掘 (S E→)



38土 人骨出土状況 (S→)



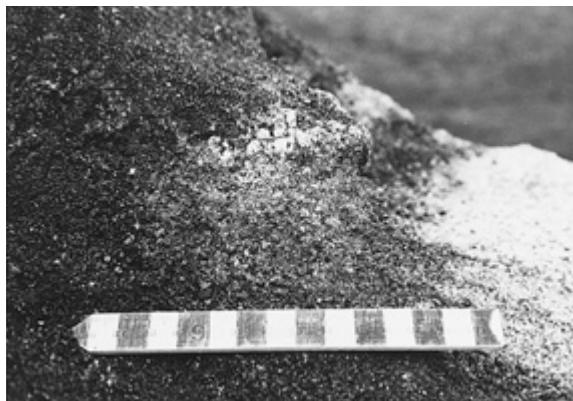
38土 人骨頭部出土状況 (S→)



38土 人骨頭部出土状況 (S E→)



38土 土器出土状況 P-10 (N→)



38土 人骨(歯)出土状況 (S→)



38土 人骨取り上げ状況 (S→)

写真46 土坑(6)



43土 完掘 (N→)



45土 土層断面 (W→)



45土 遺物出土状況 (NW→)



50土 完掘 (S→)



50土 土層断面 (NW→)

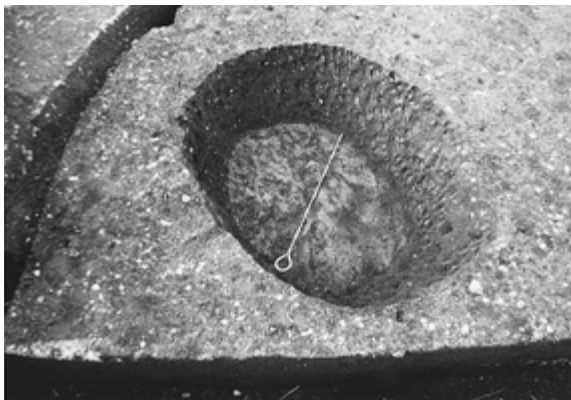
写真47 土坑 (7)



51土 完掘 (SW→)



51土 土層断面 (SW→)



52土 完掘 (S→)



53土 完掘 (SE→)



遺物出土状況



調査担当者

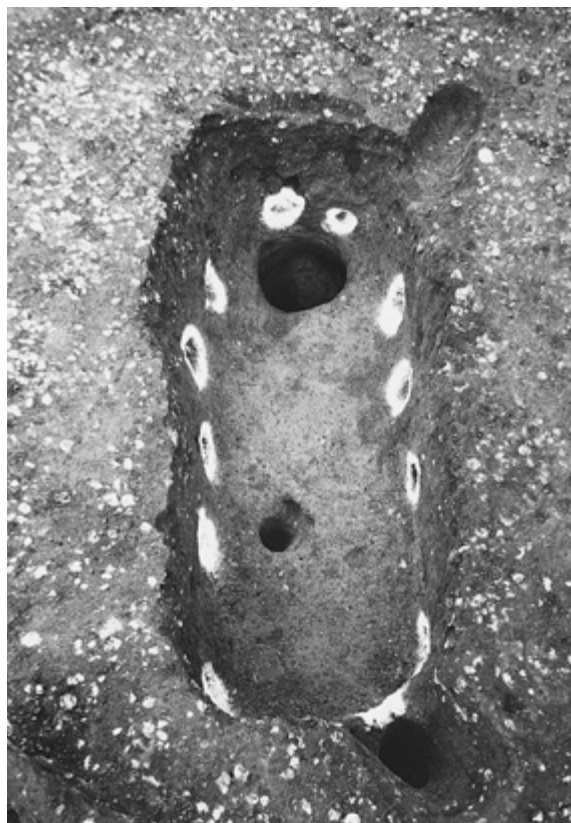


作業状況

写真48 土坑(8)



55土 完掘 (SW→)



55土 壁面ピット検出状況 (SW→)



55土 遺物出土状況 (SW→)



55土 人骨頭部出土状況 (SW→)

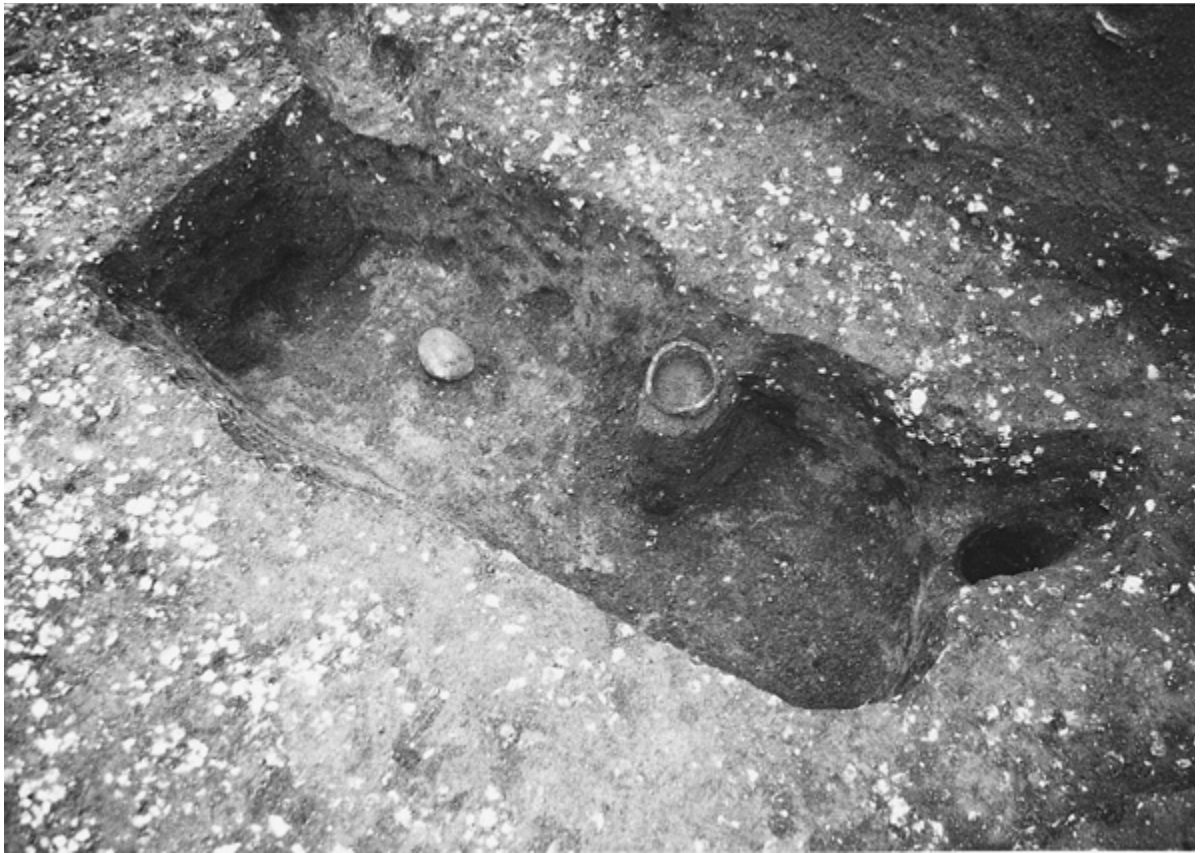
写真49 土坑(9)



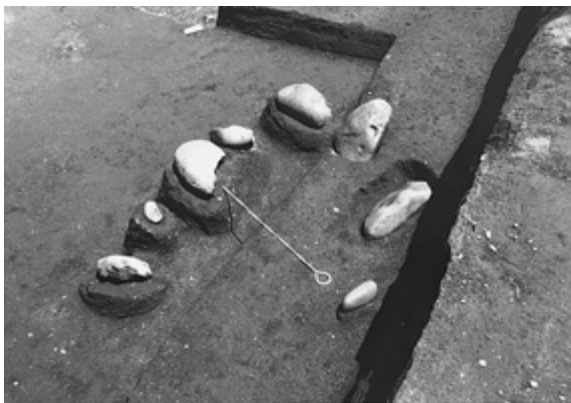
55土 底面・壁面ピット検出状況 (NW→)



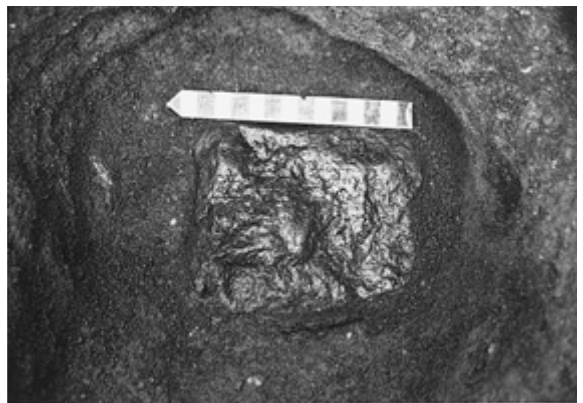
55土 土層断面 (SW→)



55土 遺物出土状況 P-1・S-1 (W→)



55土 上部配石検出状況 (SW→)

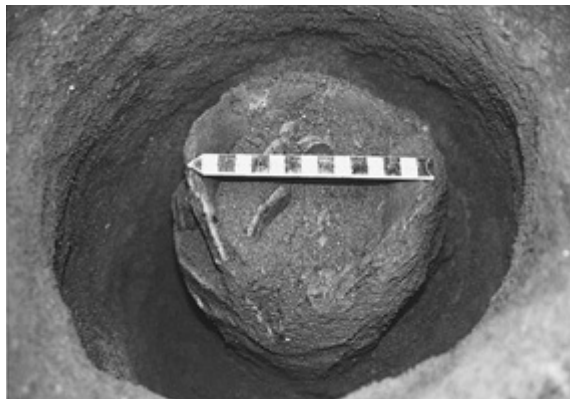


55土 底面礫出土状況 (SW→)

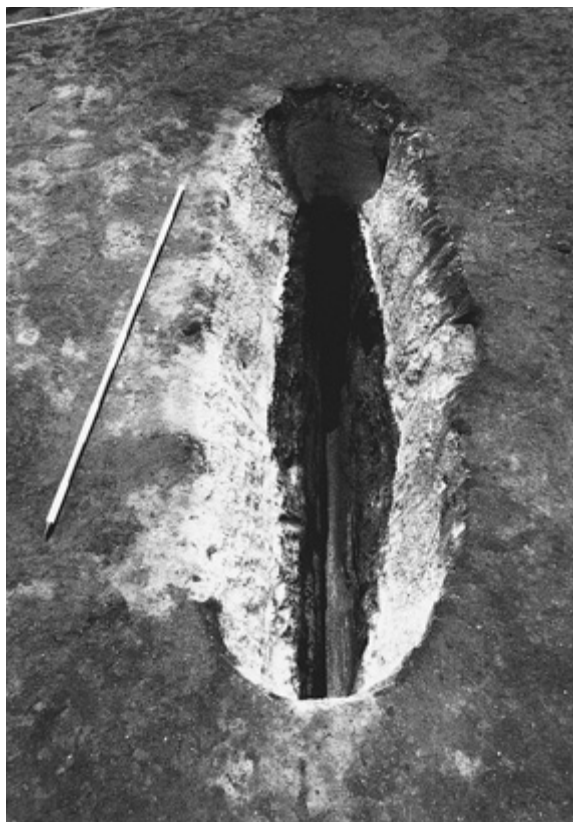
写真50 土坑 (10)



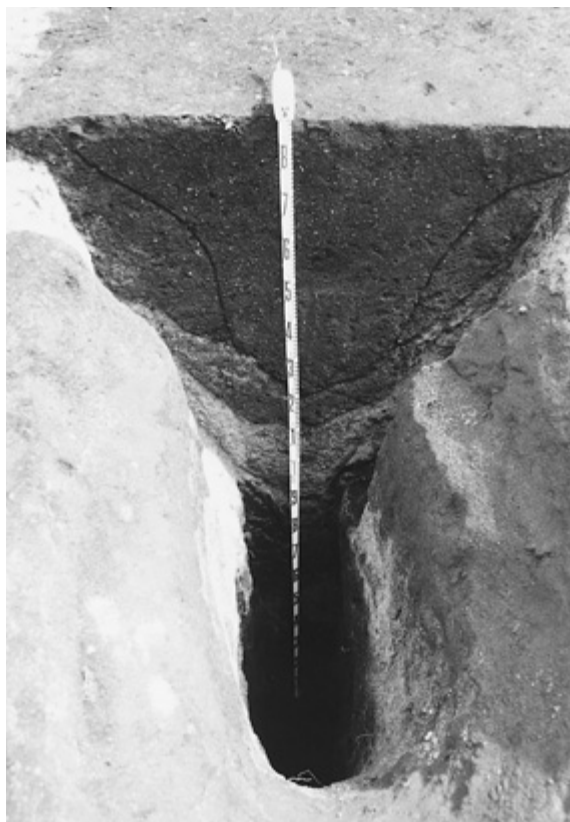
55土 人骨頭部出土状況 (SW→)



55土 ピット内遺物出土状況



60土 完掘 (N→)



60土 土層断面 (N→)



西側調査区拡張作業



作業状況

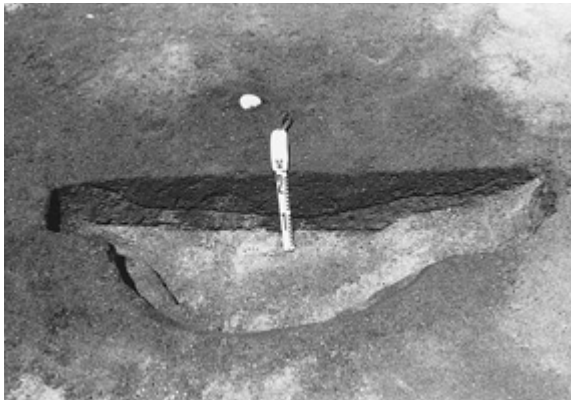
写真51 土坑 (11)



66土 完掘 (NE→)



67土 完掘 (NE→)



67土 土層断面 (SE→)



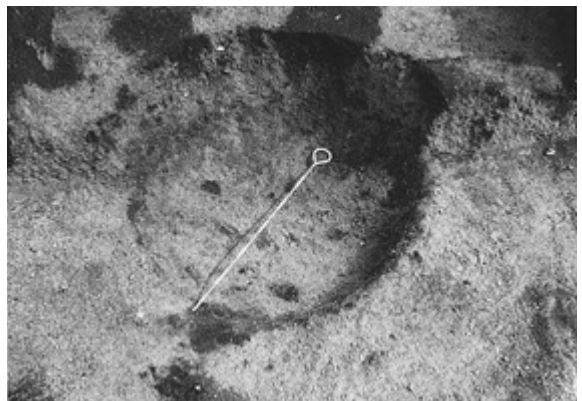
67・68土 完掘 (NE→)



68土 完掘 (NE→)



69土 完掘 (N→)



71土 完掘 (NW→)

写真52 土坑 (12)



72土 完掘 (N→)



72土 土器出土状況 (N→)



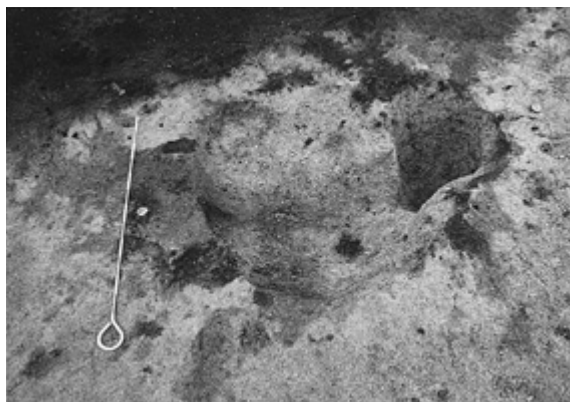
73土 完掘 (S→)



74・75土 完掘 (SW→)



77土 完掘 (N→)



79土 完掘 (S→)

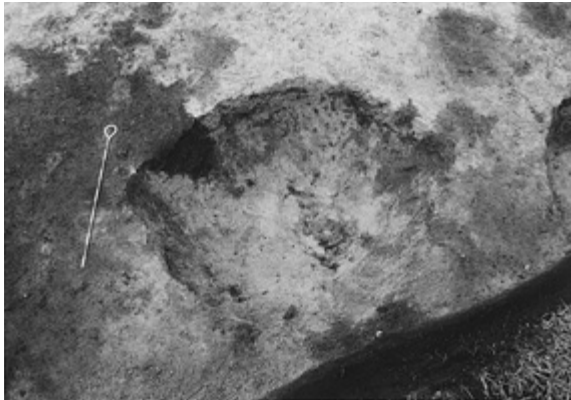


81土 完掘 (NE→)



81土 完掘 (SE→)

写真53 土坑 (13)



83土 完掘 (N→)



84土 完掘 (N→)



85土 完掘 (N→)

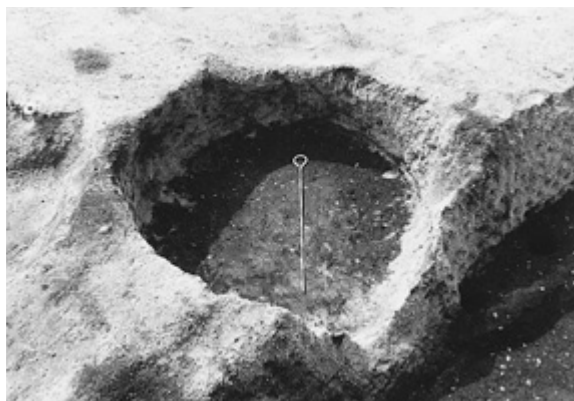


87土 完掘 (SW→)



86・87土 作業状況 (W→)

写真54 土坑 (14)



91土 完掘 (N→)



91土 土層断面 (SE→)



92土 完掘 (W→)



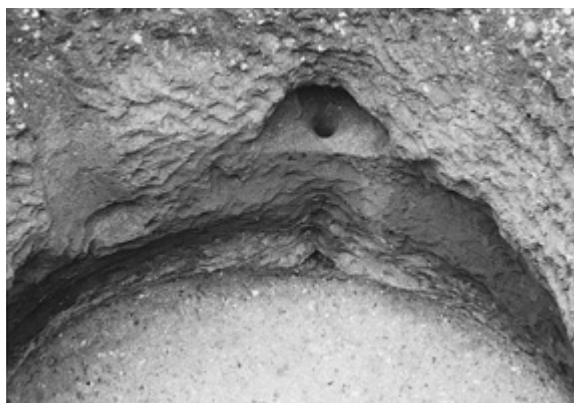
92土 土層断面 (W→)



97土 完掘 (NW→)



97土 壁際ピット下部掘込み (SW→)



97土 壁際ピット検出状況 (SW→)

写真55 土坑 (15)



97土 作業状況



98・99土 完掘 (SW→)



100土 完掘 (S→)



100土 石器出土状況 S-1 (NW→)



100土 作業状況

写真56 土坑 (16)



103土 完掘 (SW→)



105土 完掘 (S→)



106土 完掘 (N→)



107土 完掘 (N→)



109土 完掘 (N→)



110土 完掘 (S→)



作業状況

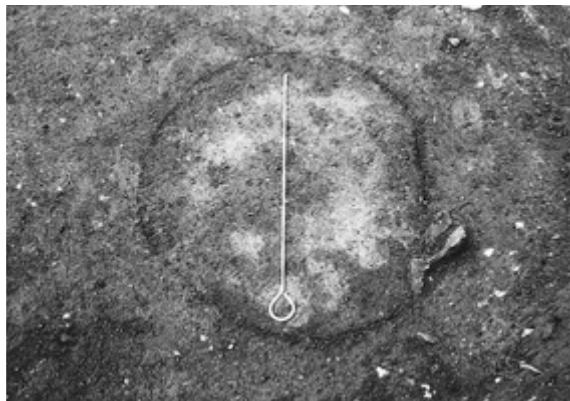


作業状況

写真57 土坑 (17)



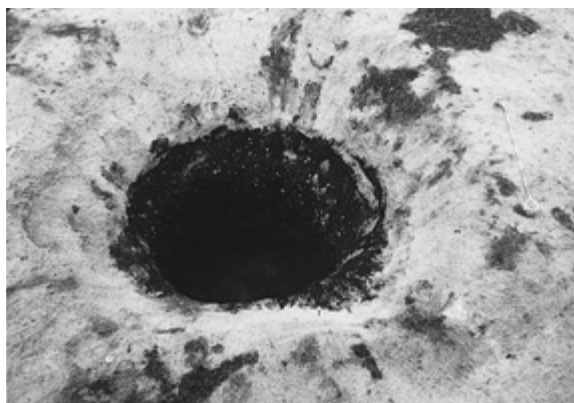
111土 完掘 (E→)



111土 焼土検出状況 (S→)



111土 遺物出土状況 (NW→)

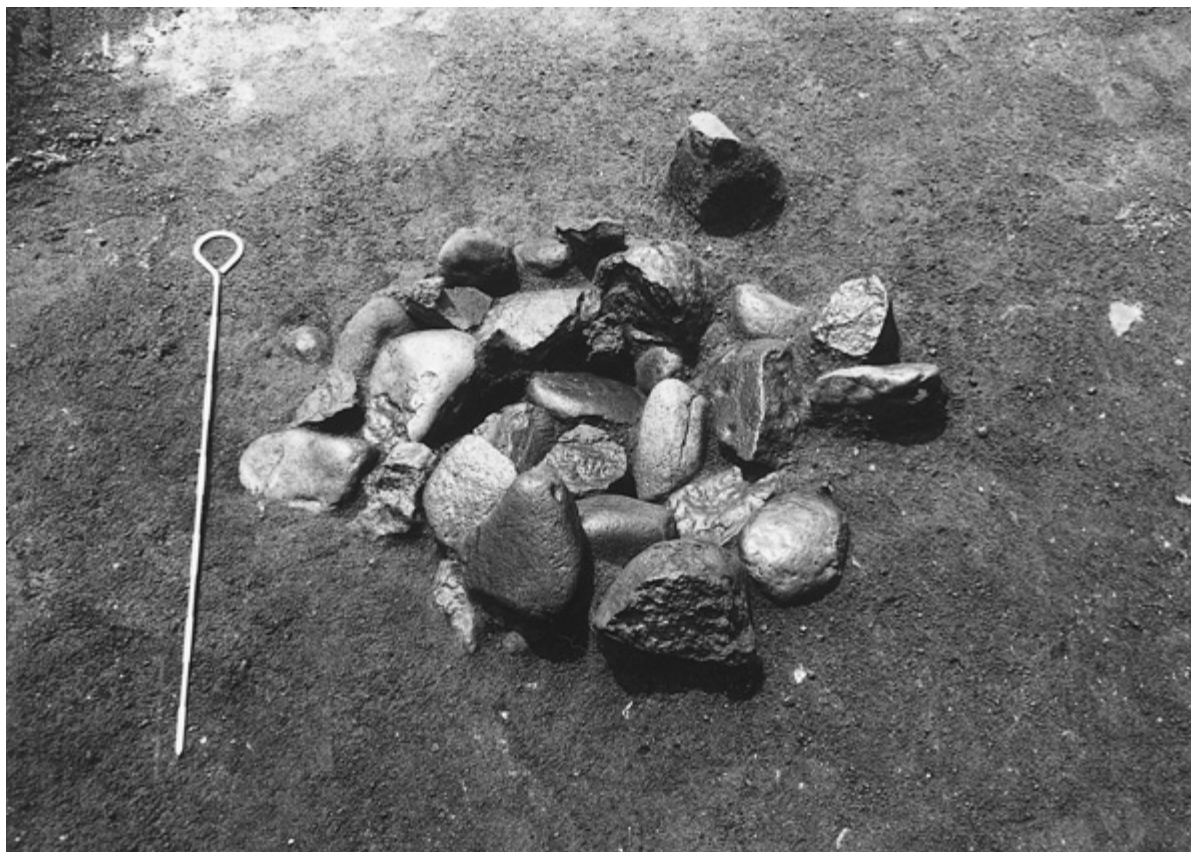


112土 完掘 (S→)



112土 土層断面 (W→)

写真58 土坑 (18)



1 集石 検出状況 (N→)



1 集石 土層断面 (S→)

写真59 集石 (1)



1 集石 掘り方完掘 (S→)



1 集石 集石出土経過 1 (S→)



1 集石 集石出土経過 2 (S→)



1 集石 集石出土経過 3 (S→)



作業状況



作業状況

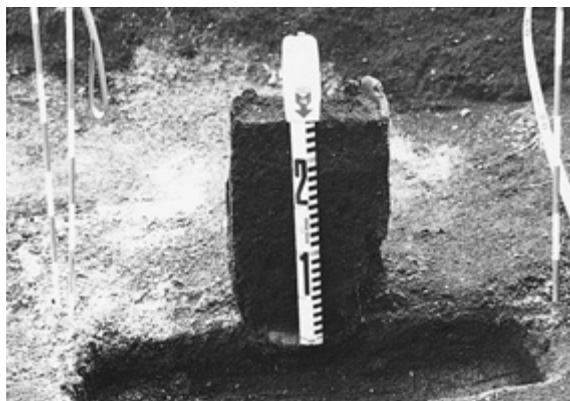


作業状況

写真60 集石 (2)



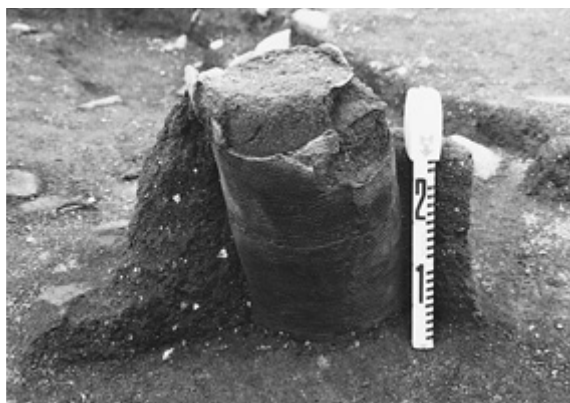
1～4埋設 検出状況 (N→)



5埋設 土器内土層断面 (N→)



6埋設 土層断面 (S→)



7埋設 土層断面 (S→)



8埋設 土層断面 (NW→)



9埋設 土層断面 (S→)

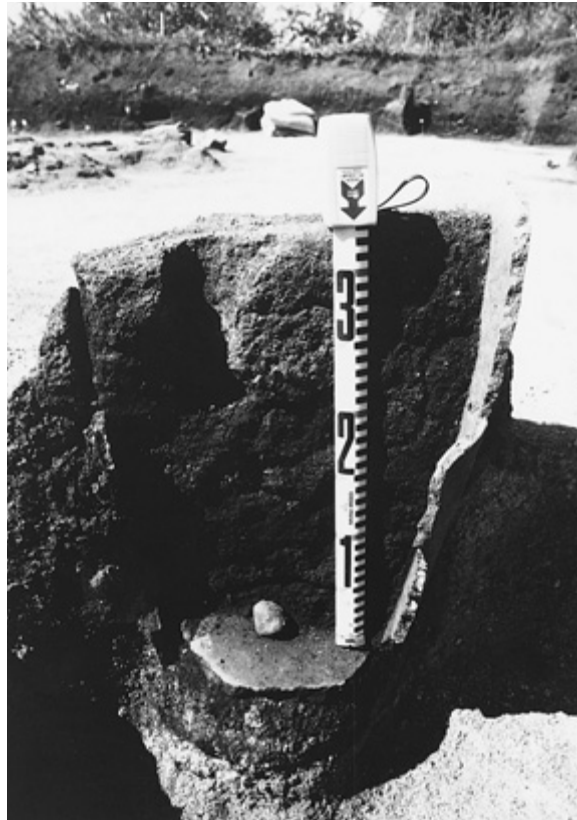


遺物検出状況

写真61 土器埋設 (1)



11埋設 土層断面 (SE→)



11埋設 土器内土層断面 (SE→)



11埋設 掘り方完掘 (SE→)



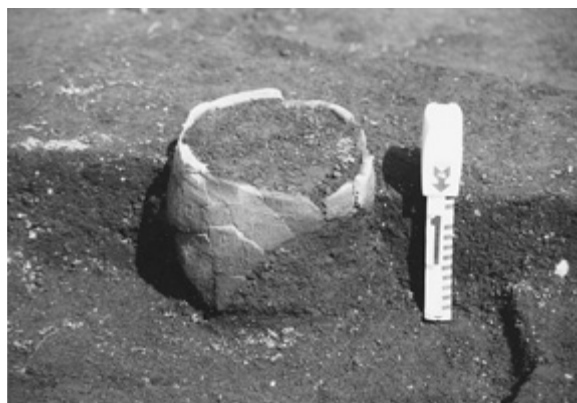
16埋設 土層断面 (SW→)



16埋設 掘り方完掘 (SW→)



20埋設 検出状況 (SE→)

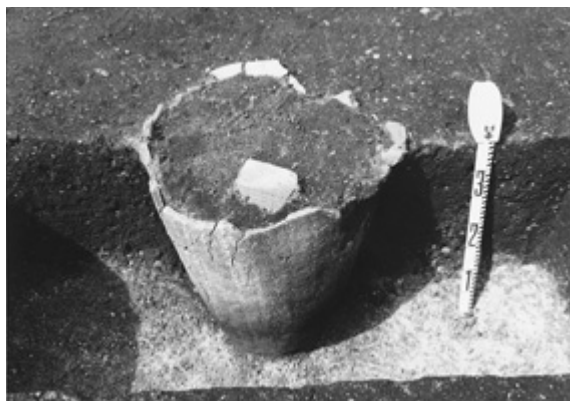


20埋設 土層断面 (S→)

写真62 土器埋設 (2)



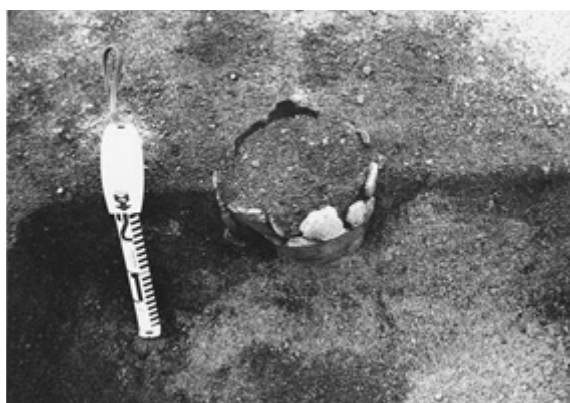
21埋設 検出状況 (S→)



21埋設 土層断面 (S→)



21埋設 土器内土層断面 (S→)



22埋設 土層断面 (S→)



22埋設 土器内土層断面 (S→)



23埋設 検出状況 (S→)

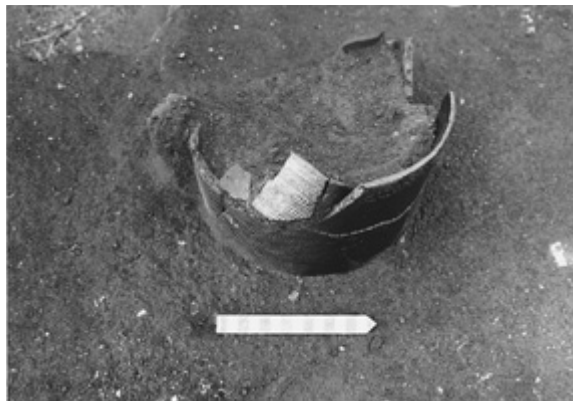


23埋設 土層断面 (S→)



23埋設 土器内土層断面 (S→)

写真63 土器埋設 (3)



24埋設 検出状況 (SE→)



24埋設 土層断面 (SE→)



24埋設 土器内土層断面 (SE→)



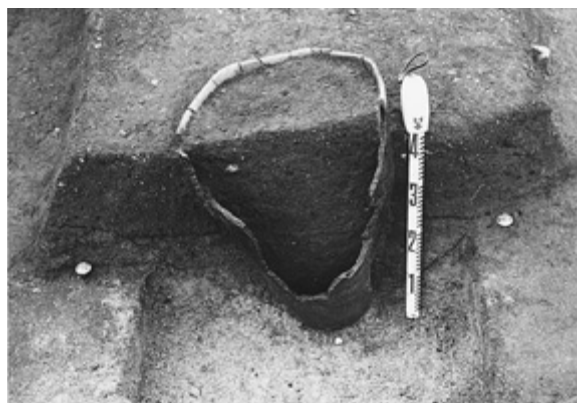
25埋設 土器内土層断面 (S→)



25埋設 検出状況 (N→)



26埋設 土層断面 (S→)

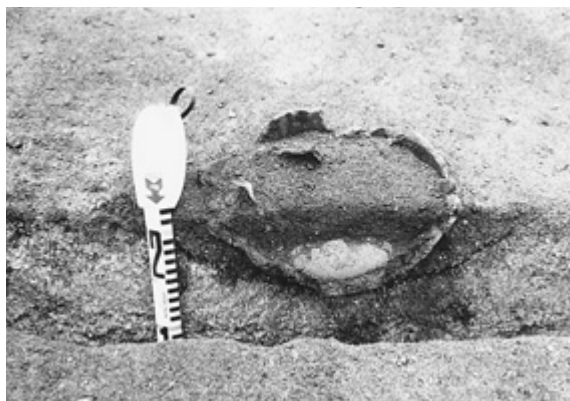


26埋設 土器内土層断面 (S→)

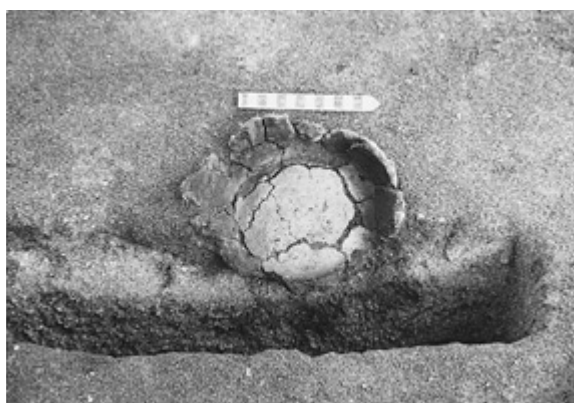
写真64 土器埋設 (4)



27埋設 検出状況 (SW→)



27埋設 土器内土層断面 (NW→)



27埋設 完掘 (NW→)



28埋設 検出状況 (S→)



28埋設 土層断面 (SE→)



29埋設 土器内土層断面 (NW→)



30埋設 検出状況 (SE→)



30埋設 掘り方土層断面 (SE→)

写真65 土器埋設 (5)



捨て場 遺物出土状況 (NE→)



捨て場 作業状況 (E→)



捨て場 遺物検出状況 (S→)



捨て場 遺物出土状況 (NW→)

写真66 捨て場 (1)



捨て場 遺物出土状況 (NE→)



捨て場 遺物検出状況 (W→)



捨て場 遺物出土状況 (E→)



捨て場 遺物検出状況 (SW→)



捨て場 遺物出土状況 (W→)

写真67 捨て場 (2)



捨て場 遺物出土状況 (W→)



捨て場 遺物検出状況 (W



→)



捨て場 遺物検出状況 (E→)

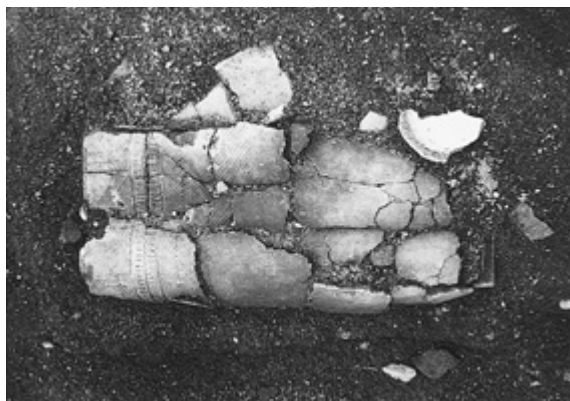


捨て場 遺物検出状況 (N→)

写真68 捨て場 (3)



捨て場 遺物検出状況 (NW→)



捨て場の土器 P-344



捨て場の土器 P-345



捨て場の土器 P-346



捨て場の土器 P-354



捨て場の土器 P-351 ~ 355

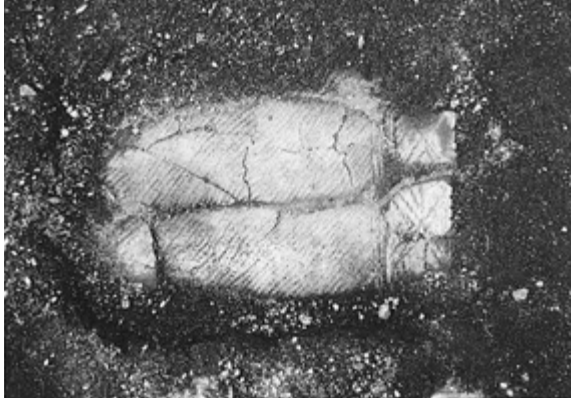


捨て場の土器 P-356



捨て場の土器 P-358

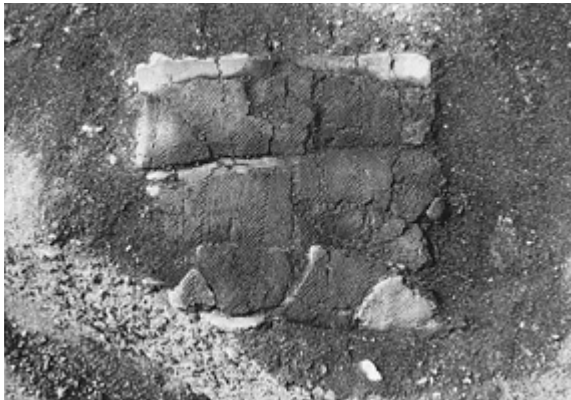
写真69 捨て場の土器 (1)



捨て場の土器 P-361



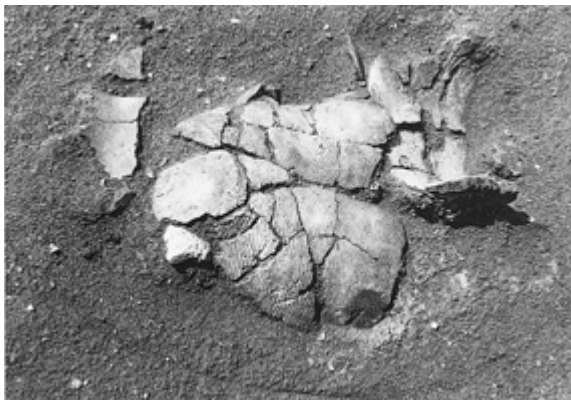
捨て場の土器 P-367



捨て場の土器 P-378



捨て場の土器 P-380



捨て場の土器 P-381



捨て場の土器 P-389



捨て場の土器 P-392



捨て場の土器 P-394

写真70 捨て場の土器 (2)



捨て場の土器 P-397



捨て場の土器 P-398



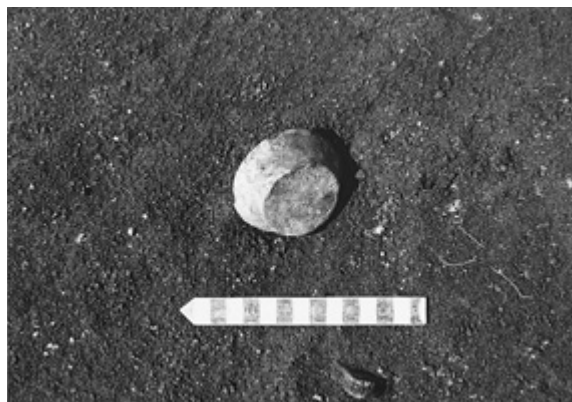
捨て場の土器 P-400



捨て場の土器 P-531



捨て場の土器 P-559



捨て場の土器 P-561



土製品出土状況 MV-91 (S→)



土偶出土状況 MR-90 (NE→)

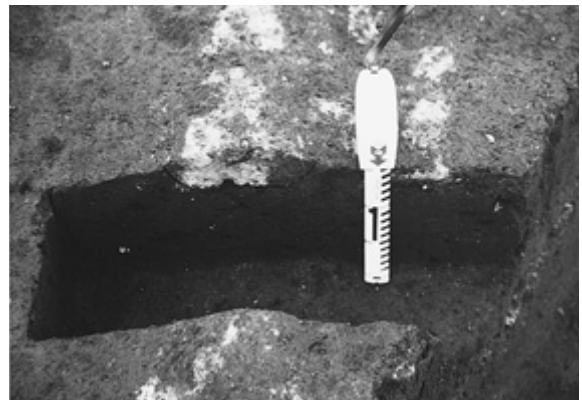
写真71 捨て場の土器 (3)・土製品・土偶・石皿



1号畠 土層断面 (NW →)



石皿出土状況 NB-92 (W →)



1号畠 確認 (SW →)



1号畠 土層断面 (NW →)



長芋耕作のトラクター



耕作状況

写真72 第1号畠跡・長芋トラクター



トレンチャーの機械



平成15年度調査状況



平成15年度調査状況



平成15年度調査状況

写真73 平成15年度調査

報告書抄録

ふりがな	にしはりたいいせき(いこうへん)							
書名	西張平遺跡(遺構編)							
副書名	夢の森・倉石地区中山間地域総合開発事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第416集							
編著者名	中嶋友文・岩田安之・工藤大							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL.017-788-5701 FAX.017-788-5702							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	2006年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
にしはりたい 西張平	あおもりけんさんのへ 青森県三戸	02442	66002	40°	141°	20030902	570	夢の森・倉石 地区中山間地 域総合整備事 業に伴う事前 調査
				28′	13′	20031023		
	3″			11″	20040420	750		
	世界測地系 (JGD2000)			20041029				
	北緯			東経	20050419			
40°	141°	20040812	800					
28′	13′							
13″	24″							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
西張平	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 39軒 土坑 87軒 土器埋設遺構 26基 ピット群 3カ所 集石遺構 1基 礫群 1カ所 畠跡 1カ所	縄文土器 石器 土製品 石製品	土坑墓 (人骨が出土している) 土偶			
要約	・発掘調査では、縄文時代前期から中期にかけての遺構(竪穴住居跡や土坑など)が多数検出された。竪穴住居跡の多くは、複数の重複がみられ、しかも拡張や建替えなども行なわれている。遺物包含層(捨て場)からは、多量の土器や石器が出土し、段ボール箱に換算して、およそ500箱にも及び、本遺跡の範囲は南北にさらに拡がるため、調査面積に対する検出遺構数と出土遺物量から、かなり大規模な集落跡と推定される。							

青森県埋蔵文化財調査報告書 第416集

西張平遺跡（遺構編）

－夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日 平成18年3月29日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15
電話 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷所 長尾印刷株式会社
〒030-0931 青森市平新田字森越17-1
電話 017-726-7121 FAX 017-726-9237
